

2017 年度 博士論文  
——本文編——

コジモ 1 世時代のフィレンツェにおける噴水彫刻

東京藝術大学大学院美術研究科  
美術専攻芸術学研究領域  
No. 1311928

友 岡 真 秀

# 目次

## 本文編

序	1
---	---

### I 総論

1 コジモ1世	7
1-1 フィレンツェ公国の誕生とコジモ1世の即位	
1-2 行政改革と領地の拡大	10
1-3 統治権の委譲と大公位の獲得	12
2 コジモ1世によるフィレンツェの水路整備	16
2-1 カステッロの整備	
2-2 北部の水脈：ムニョーネ河からの取水	21
2-3 南部の水脈：ピッティ宮殿とボーボリ庭園の整備	25
2-4 シニョリーア広場への取水	29

### II 16世紀のフィレンツェにおける噴水の制作基盤

1 コジモ1世統治以前のフィレンツェ	33
1-1 都市部における水の供給	
1-2 水場の形状と利用状況	36
2 噴水彫刻の先行作例	38
2-1 中世の大規模な噴水	
2-2 15世紀のフィレンツェにおける噴水	39
3 モントルソリの功績	42
3-1 ジェノヴァ、プリンチペ宮殿	
(1) 《トリトーンの噴水》	43
(2) 《カンデラブロ噴水》	46
3-2 メッシーナ	48
(1) 《オリオンの噴水》	
(2) 《ネプトゥヌスの噴水》	52

### III 1537-1560年

1 カステッロの庭園——トリーボロの功績	59
1-1 庭園のプログラム	
1-2 《迷宮の噴水》	65
1-3 《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》	72
2 ボーボリ庭園——《オケアヌスの噴水》の初期計画	81
2-1 トリーボロへの委嘱	
2-2 バンディネッリへの委嘱と計画案の再構成	86

### IV 1560-1574年

1 アンマンナーティの《ユノの噴水》	98
1-1 当初計画の再構成	
1-2 現存する彫像群の造形分析	103
1-3 擬人像《パルナッソスの泉》の構想背景	107
1-4 プログラムの図像解釈	114
2 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシの《ヘラクレスの12功業の噴水》の計画	118
2-1 初期計画	119
2-2 現存する彫像群の造形分析	122
2-3 初期構想を表す素描群の検討	127
(1) バンディネッリの造形との関連性	
(2) ポントルモの造形との関連性	133
2-4 「ヘラクレスとケルベロスの犬の噴水」の計画	140
3 アンマンナーティの《ネプトゥヌスの噴水》	147
3-1 委嘱の前史とアンマンナーティの初期構想	
3-2 彫像群の造形分析	155
3-3 プログラムの図像解釈	164

### V コジモ1世時代の噴水制作の意義

1 コジモ1世の文化政策と噴水制作	174
2 16世紀フィレンツェ彫刻史における噴水制作の位置づけ	178

付録論文「フランチェスコ・カミッリアーニの初期活動とバッチョ・バンディネッリ」	187
---	-----

参考文献一覧	195
--------	-----

### 資料・図版編（別冊）

関連一次史料原文一覧	1
図版一覧	9
図版	27

## 凡例

- 1 固有名詞の表記は原語発音のカタカナ表記を原則とし、必要に応じて慣用形を用いた。
- 2 『 』は書名、《 》は作品名、「 」は概念や強調、引用文等（ただし引用文内での概念や強調には『 』を用いた）、〔 〕は一次史料における筆者の補足や註を示す。
- 3 本文の脚註は、章ごとに連番形式を設けた。
- 4 脚註に示した文献は、本文編巻末の参考文献一覧に記載の各文献の見出しに対応し、必要に応じて参照先ないし引用元の箇所を示した。
- 5 本文に示した図版番号は、別冊「資料・図版編」に掲載の図版番号に対応する。
- 6 図版番号は、章ごとに連番形式を設けた。
- 7 頁内での作品比較の便宜上、既出図版を再度掲載する場合には、同一章内での初出番号を（ ）にて掲載した。章をまたいで再度掲載する場合はその限りでない。

## 序

メディチ家の傍系出身のコジモ1世は、1537年に2代目フィレンツェ公爵の地位を世襲した直後より、都市機構の再編と改善に着手し、その一環で同地における水路網の整備を推進した。その結果として都市部に新鮮な水を安定的に供給することが可能になり、この功績を顕示するために、宮殿付属の庭園や都市の広場を舞台として、彫像群や豊かな彫刻装飾を施した複数のモニュメンタルな噴水がこの時代にはじめて造られるようになった。こうした噴水はコジモ1世による委嘱で進められた公共事業として位置づけられ、その制作をめぐって同時代の彫刻家が競合する好適な機会を設けるものであった。

コジモ1世時代以降に造営された噴水は、都市の広場や宮殿付属の庭園あるいは郊外のヴィッラを舞台とする大型のモニュメントである。それゆえ造営に際しては、経費や資材、人員などの問題から計画の大幅な変更を余儀なくされるのみならず、計画が頓挫し造営に至らなかったケースも少なくない。また造営後には、都市計画や敷地の再整備等の都合で、往々にして設置場所や噴水の構成に変更が加えられるほか、解体される場合もある。したがってフィレンツェの噴水に関する先行研究は、各噴水の個別研究を主軸として進展した。そこでは造営史の解明や、現存する一次史料に基づく当初計画の再構成の試み、噴水を構成する彫刻装飾の造形分析など、多角的かつ重層的な研究が行われてきた。しかしながら、コジモ1世のもとで制作された一連の噴水を考察対象として、ひとつの噴水史を編もうとする試みは未だかつてなされていない。フィレンツェではコジモ1世時代にはじめて大型の噴水制作が可能になり、同君主は治世を通じて連続的に噴水の委嘱を行った。その結果としてこの時期に相次いで構想された新しい形式の噴水は、バロック時代以降のイタリア半島における噴水制作の興隆をうながすと同時に、それらの範例にもなった。それゆえコジモ1世時代の噴水制作は、その後イタリア各地で連綿と続く噴水の歴史のなかで、言わば「実り豊かな初動」と位置づけられるだろう。この歴史的重要性に鑑みて本論文は、これまで個別に検討されてきた一連の噴水をコジモ1世の文化政策の枠組みのなかで連動的に読み解くことで、依然として体系的な研究を欠いている噴水史の一端を形成しようとするものである。

[REDACTED]

---

<sup>1</sup> [REDACTED]



[REDACTED]

---

2 [REDACTED]  
3 [REDACTED]  
4 [REDACTED]

[REDACTED]

5 [REDACTED]  
6 [REDACTED]  
7 [REDACTED]  
8 [REDACTED]  
9 [REDACTED]  
10 [REDACTED]  
11 [REDACTED]

[illegible]

12 [REDACTED]  
13 [REDACTED]  
14 [REDACTED]  
15 [REDACTED]  
16 [REDACTED]

[REDACTED]

# I 総論

## I 総論

第 I 章は総論とし、1537 年に第 2 代フィレンツェ公爵として即位したコジモ 1 世・デ・メディチ（1519-1574 年）に焦点を当てる。第 1 節ではその統治期間を、即位、1560 年のシエナ併合に至る活動前半、1569 年のトスカーナ大公位の獲得をハイライトとする活動後期の 3 つの期間に区分し、コジモ 1 世が実現した君主国の枠組みを確認する。続いて第 2 節では、フィレンツェで大規模な噴水が造営されるようになった直接的な背景として、コジモ 1 世が同地で精力的に推し進めた水路整備事業を概観し、噴水彫刻を検討するための布石とする。

### 1 コジモ 1 世

#### 1-1 フィレンツェ公国の誕生とコジモ 1 世の即位

[REDACTED]

---

<sup>1</sup> [REDACTED]

[illegible]

2	[REDACTED]
3	[REDACTED]
4	[REDACTED]
5	[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

6

[REDACTED]

7

[REDACTED]

8

[REDACTED]

9

[REDACTED]

10

[REDACTED]

11

[REDACTED]

12

13



[Redacted text block]

## 1-2 行政改革と領地の拡大

[Redacted text block]

---

14 [Redacted]  
15 [Redacted]  
16 [Redacted]  
17 [Redacted]  
18 [Redacted]

[REDACTED]

19 [REDACTED]  
20 [REDACTED]  
21 [REDACTED]  
22 [REDACTED]  
23 [REDACTED]  
24 [REDACTED]

[REDACTED]

### 1-3 統治権の委譲と大公位の獲得

[REDACTED]

---

25 [REDACTED]  
26 [REDACTED]

\_\_\_\_\_

[REDACTED]

\_\_\_\_\_

[REDACTED]

\_\_\_\_\_

[REDACTED]

27 [REDACTED]

<sup>28</sup> [REDACTED]

29

30

[illegible]

31 [REDACTED]  
32 [REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

33

34

35

36

[REDACTED]

## 2 コジモ 1 世によるフィレンツェの水路整備

本節では、コジモ 1 世がその治世の前半において成し遂げたフィレンツェにおける治水事業を総括する。フィレンツェは、ファルテローナ山を源泉として最終的にティレニア海に注ぐ大河川アルノ河と、フィエーゾレからアルノ河へ合流するムニョーネ河が都市を潤していることに加え、大別して 3 つの丘陵に囲まれている——すなわち北西のモレッロ山、フィエーゾレとの境界に位置する北東の丘陵地帯、そしてアルチェトリを中心とした南側の丘陵地帯がそれにあたる。(fig. I.2.1)。しかし中世を通じて都市部では井戸水が人々の生活を支えており、こうした水源の利用は郊外に限られていた<sup>37</sup>。水の安定供給と水量の増加、そして新鮮な流水の確保を目指した水路網の整備は、まさしくコジモ 1 世のもとで初めて実現に至ったのである。以下では、3 つの丘陵地帯からの取水事業について、年代を追うかたちでコジモ 1 世の功績を検討する。

### 2-1 カステッロの整備

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

<sup>37</sup> 中世の取水状況については、第 2 章第 1 節にて後述する。

<sup>38</sup> [Redacted text]  
<sup>39</sup> [Redacted text]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

40 [REDACTED]

41 [REDACTED]

42 [REDACTED]



[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

43 [REDACTED]  
44 [REDACTED]  
45 [REDACTED]  
46 [REDACTED]  
47 [REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

48 [REDACTED]  
49 [REDACTED]  
50 [REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

51 [REDACTED]

52 [REDACTED]

53 [REDACTED]

[Redacted text block]

## 2-2 北部の水脈：ムニョーネ河からの取水

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

---

54

55

56

[Redacted text block]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

58

59

60

61

62

63

[REDACTED]

---

64 [REDACTED]  
65 [REDACTED]  
66 [REDACTED]  
67 [REDACTED]  
68 [REDACTED]  
69 [REDACTED]  
70 [REDACTED]

[REDACTED]

### 2-3 南部の水脈：ピッティ宮殿とボーボリ庭園の整備

先立つ項にて、都市部に水を供給するためにコジモ 1 世時代に整備された北部の水脈、すな

71

73

74



わちムニョーネ河からの取水事業について述べた。続いて本項では、これを補う目的で 1550 年以降に水源を確保し整備が進められた南部の水脈について検討する。

[REDACTED]

75 [REDACTED]  
76 [REDACTED]  
77 [REDACTED]  
78 [REDACTED]  
79 [REDACTED]  
80 [REDACTED]  
81 [REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

82 [REDACTED]

83 [REDACTED]

84 [REDACTED]

85 [REDACTED]

86 [REDACTED]

87 [REDACTED]

88 [REDACTED]

Age Group	Percentage
18-29	89%
30-39	90%
40-49	91%
50-59	92%
60-69	93%
70-79	94%
80-89	95%
90+	96%

[REDACTED]

## 2-4 シニョリーア広場への取水

前項にて、1550 年代前半に行われたアルノ河対岸<sup>オルトラルノ</sup>の取水事業、すなわち南部のジネヴラ水源とサン・レオナルド水源からボーボリ庭園およびピッティ宮殿への水路配備について、その全貌を確認した。本項では、それ以降進められた、都市中心部すなわちヴェッキオ宮殿およびシニョリーア広場への取水事業の様相を示す。

[REDACTED]

99

[REDACTED]

100

101

[REDACTED]

102

[REDACTED]

103

[REDACTED]

104

[REDACTED]

---

105 [REDACTED]

106 [REDACTED]

107 [REDACTED]

108 [REDACTED]

109 [REDACTED]

110 [REDACTED]

111 [REDACTED]

112 [REDACTED]

113 [REDACTED]

[REDACTED]

---

114

115

[REDACTED]

## Ⅱ 16世紀のフィレンツェにおける噴水の制作基盤

## II 16世紀のフィレンツェにおける噴水の制作基盤

コジモ 1 世統治下のフィレンツェで興隆した噴水を検討するにあたって、その制作基盤を明らかにする必要があるだろう。先立つ第 1 章第 2 節ではコジモ 1 世の治水事業で刷新された同地の水路網を総括したが、まず本章第 1 節では、それ以前の時期にはどのように水が利用されていたのか、その様相を明らかにする。次いで第 2 節では、コジモ 1 世時代に先立って造営ないし計画された噴水の作例を検討することで、その後の大規模な噴水造営に至る発展史を示す。そして第 3 節では、16 世紀の噴水形式とその装飾体系に変革をもたらしたフィレンツェの彫刻家ジョヴァン・アンジェロ・モントルソリの功績を考察する。

## 1 コジモ 1 世統治以前のフィレンツェ

### 1-1 都市部における水の供給

[REDACTED]

[REDACTED]

[illegible]

1 [REDACTED]  
2 [REDACTED]  
3 [REDACTED]  
4 [REDACTED]



[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

5 [REDACTED]  
6 [REDACTED]  
7 [REDACTED]  
8 [REDACTED]  
9 [REDACTED]  
10 [REDACTED]  
11 [REDACTED]  
12 [REDACTED]

[REDACTED]

13 [REDACTED]  
14 [REDACTED]  
15 [REDACTED]  
16 [REDACTED]  
17 [REDACTED]  
18 [REDACTED]  
19 [REDACTED]  
20 [REDACTED]

1-2 水場の形状と利用状況

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

21 [Redacted footnote text]

22 [Redacted footnote text]

23 [Redacted footnote text]

24 [Redacted footnote text]

25 [Redacted footnote text]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

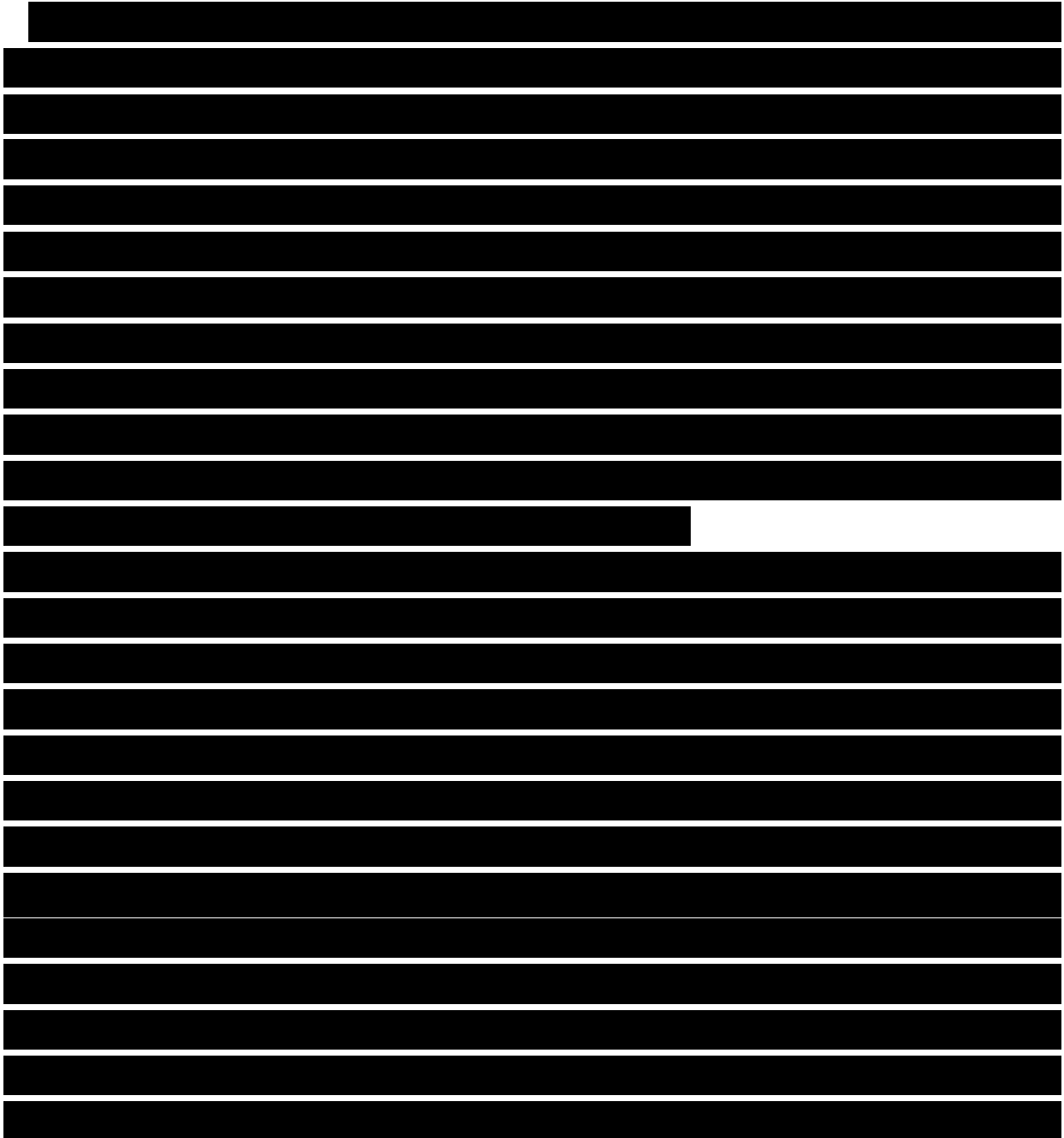
---

26 [REDACTED]  
27 [REDACTED]  
28 [REDACTED]  
29 [REDACTED]

## 2 噴水彫刻の先行作例

本節では、16 世紀以降に大規模な噴水が造営される以前に制作されていた大規模な噴水の作例を確認し、次いで 15 世紀を通じてフィレンツェでつくられるようになった噴水を総括する。

### 2-1 中世の大規模な噴水



---

30 [Redacted]  
31 [Redacted]  
32 [Redacted]

[Redacted text block]

## 2-2 15 世紀のフィレンツェにおける噴水

[Redacted text block]

---

33

34

[REDACTED]

35

36

[REDACTED]

---

37

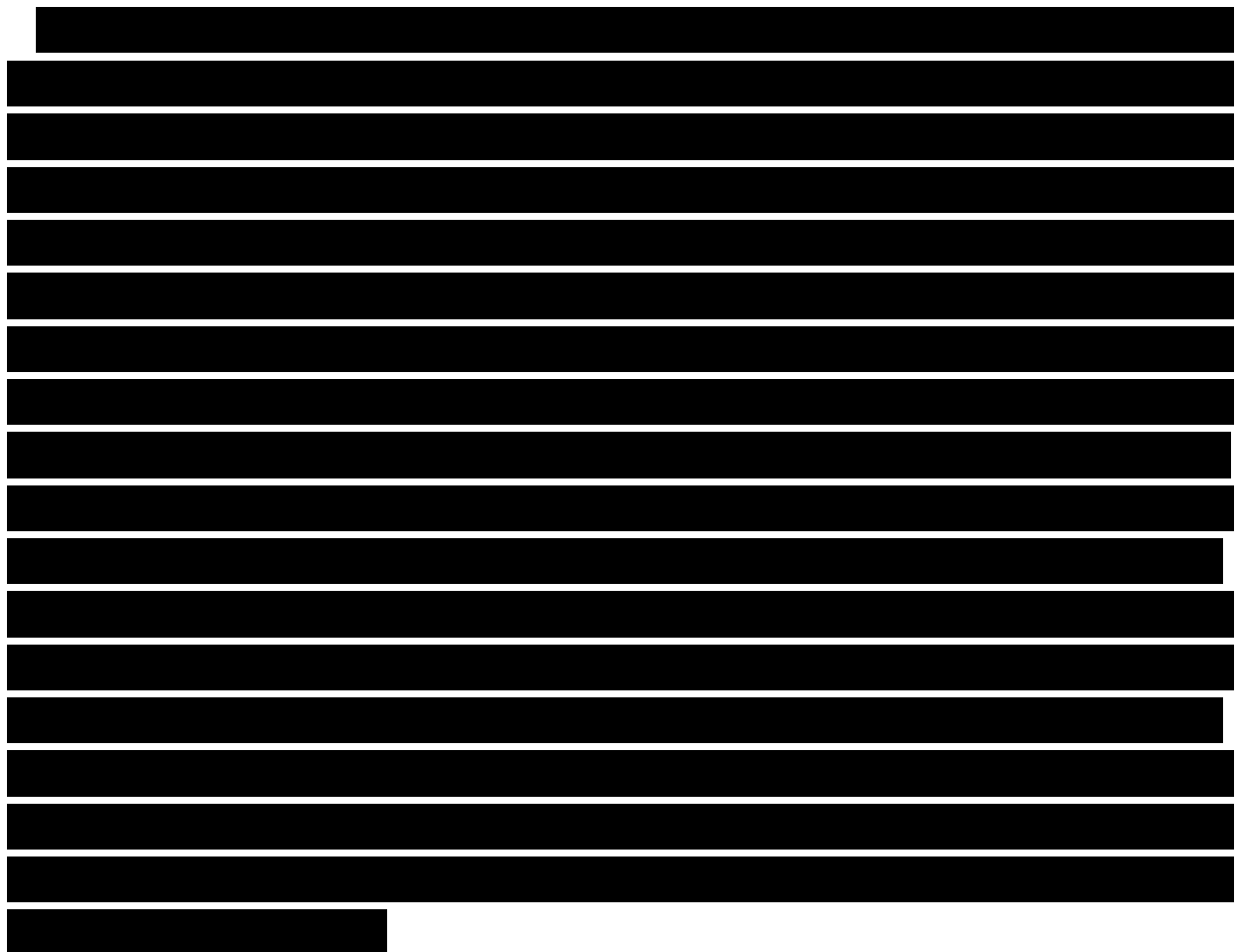
[REDACTED]



### 3 モントルソリの功績

16世紀イタリアで興隆した噴水制作において、フィレンツェの彫刻家ジョヴァン・アンジェロ・モントルソリ（1499-1563年）の果たした役割は極めて大きい。すなわち結論を急ぐならば、モントルソリによって新しい噴水の形式が確立され、それがその後のフィレンツェをはじめとする各地での噴水制作に応用されることになったのである。本節では噴水制作においてモントルソリが果たした功績に着目し、この彫刻家がジェノヴァとメッシーナにそれぞれ2基ずつ手がけた噴水を対象として、それらにみられる新しい創意を検討する。

#### 3-1 ジェノヴァ、プリンチペ宮殿



38

[Redacted footnote text]

39

[Redacted footnote text]

40

[Redacted footnote text]

### 3-1(1) 《トリトーンの噴水》

[Redacted text block]

[Redacted text block]

---

41 [Redacted text block]

42 [Redacted text block]

43 [Redacted text block]

44 [Redacted text block]

45 [Redacted text block]

46 [Redacted text block]

\_\_\_\_\_

[illegible]

47 [REDACTED]  
48 [REDACTED]  
49 [REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

50 [REDACTED]  
51 [REDACTED]

[REDACTED]

### 3-1(2) 《カンデラブロ噴水》

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

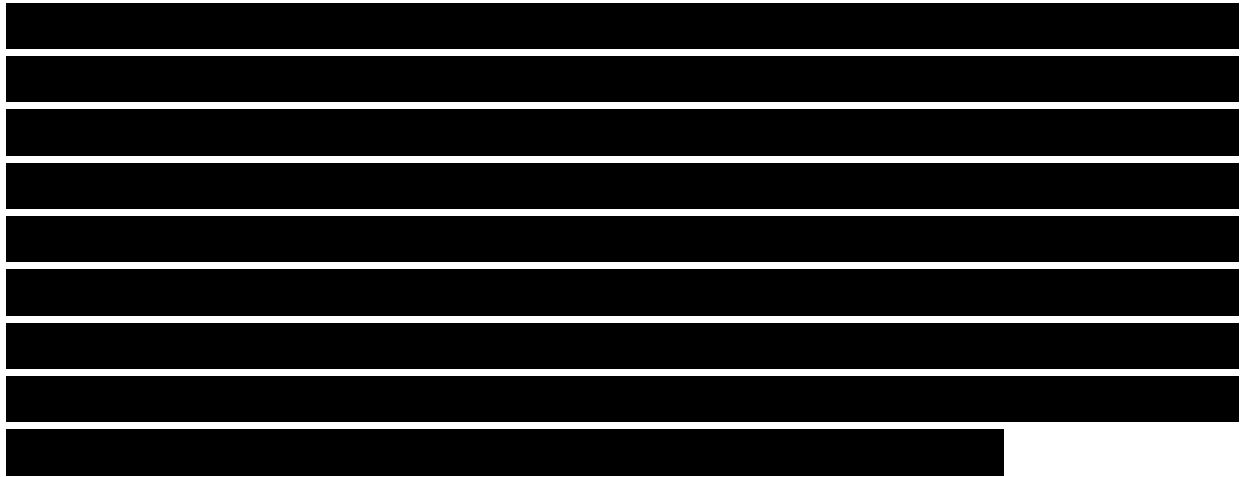
[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]



### 3-2 メッシーナ

モントルソリは 1547 年 6 月までにジェノヴァを発ち、ローマへ向かった<sup>54</sup>。時期を同じくして同地ではメッシーナの使者が噴水制作のために力量のある彫刻家を探しており、モントルソリが選出されたのである。こうして 1557 年までの 10 年間、この彫刻家はシチリア島の北東端、イオニア海とティレニア海が交わる海峡に面する町メッシーナに滞在し、2 基の噴水を造営した。サンタ・マリア・ラ・ヌオーヴァ大聖堂広場の 1 基は、メッシーナの守護神オリオンに捧げられた《オリオンの噴水》であり (fig. II.3.24)、別の 1 基はもともと南側の港に置かれていたが現在はイタリア統一広場に移設されている《ネプトゥヌスの噴水》である (fig. II.3.55)。いずれも都市の広場に造営され、設置場所の面でも規模の面でもメッシーナの記念碑的な存在として位置づけられる。それゆえそれらのモニュメンタルな造形は、同時代以降に各地で噴水が造営されるにあたり、常に参照され続けた。本節ではこれら 2 基の噴水について概観し、それらがその後のフィレンツェで興隆する噴水制作にとっていかなる点で範例となったのかを考察する。

#### 3-2(1) 《オリオンの噴水》



<sup>54</sup> 1547 年 6 月 17 日付の書簡の存在から、このときにはすでにローマにいたことが確認されている。Laschke 1993, p. 63.

<sup>55</sup>



[REDACTED]

56

57

58

59

60

61



[REDACTED]

---

62

[REDACTED]

63

[REDACTED]

64

[REDACTED]

65

[REDACTED]

66

[REDACTED]

[REDACTED]

67

68

69

70

[REDACTED]

[REDACTED]

### 3-2(2) 《ネプトゥヌスの噴水》

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

73

[REDACTED]

74

75

[REDACTED]

[REDACTED]

---

76 [REDACTED]  
77 [REDACTED]  
78 [REDACTED]  
79 [REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

80 [REDACTED]  
81 [REDACTED]  
82 [REDACTED]  
83 [REDACTED]  
84 [REDACTED]

[REDACTED]

---

85

86



### Ⅲ 1537-1560 年

### III 1537-1560 年

#### 1 カステッロの庭園——トリーボロの初期構想

コジモ1世は、2代目のフィレンツェ公爵に登位した翌年の1538年より、フィレンツェ郊外のカステッロに建つ別邸の改修と付属する敷地の整備に乗り出した。庭園装飾はフィレンツェの彫刻家ニッコロ・ディ・ラファエッロ・デ・ペリーコリ、通称トリーボロ（1500-1550年）によって、複数の彫刻装飾と水の戯れによって豊かに彩られた庭園が構想され、その指揮下で制作が進められた。構想の実現のために、北西のモレツロ山の麓と北側のヴァルチェンニをそれぞれ水源とする取水事業については、第I章第2節第1項で総括したとおりである。1550年に彼が死去した後は、その娘婿ダヴィド・フォルティーニ（生年不明-1590年）とジョルジョ・ヴァザーリが造園を引き継ぎ、トリーボロの構想に基づきつつ部分的に改変を加えてこれを仕上げた。庭園は大公フェルディナンド1世時代に再び手を加えられたが、16世紀末に描かれたジュスト・ウーテンスによるルネット画からは、敷地には複数の養魚池によって豊かな水が確保されていることに加え、中央の区画には「迷宮」と称された円形の樹木に囲まれた《迷宮の噴水》<sup>1</sup>と、これを上回る規模の《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》<sup>2</sup>が設けられ、周囲の壁にはグロッタやニッチ装飾が施されていることが確認される（figs. III.1.1-2）。本節では、トリーボロのもとで完成することはなかったものの、この彫刻家が構想し、制作に着手していたことが確認されているこれら2基の噴水を対象として、考察を進める。

#### 1-1 庭園のプログラム



<sup>1</sup> [Redacted footnote text]

<sup>2</sup> [Redacted footnote text]

[REDACTED]

---

3 [REDACTED]

4 [REDACTED]

5 [REDACTED]

6 [REDACTED]

[REDACTED]

7

8

9

10

11

[REDACTED]

12

13

14

[REDACTED]

---

15

16

[REDACTED]

17

18

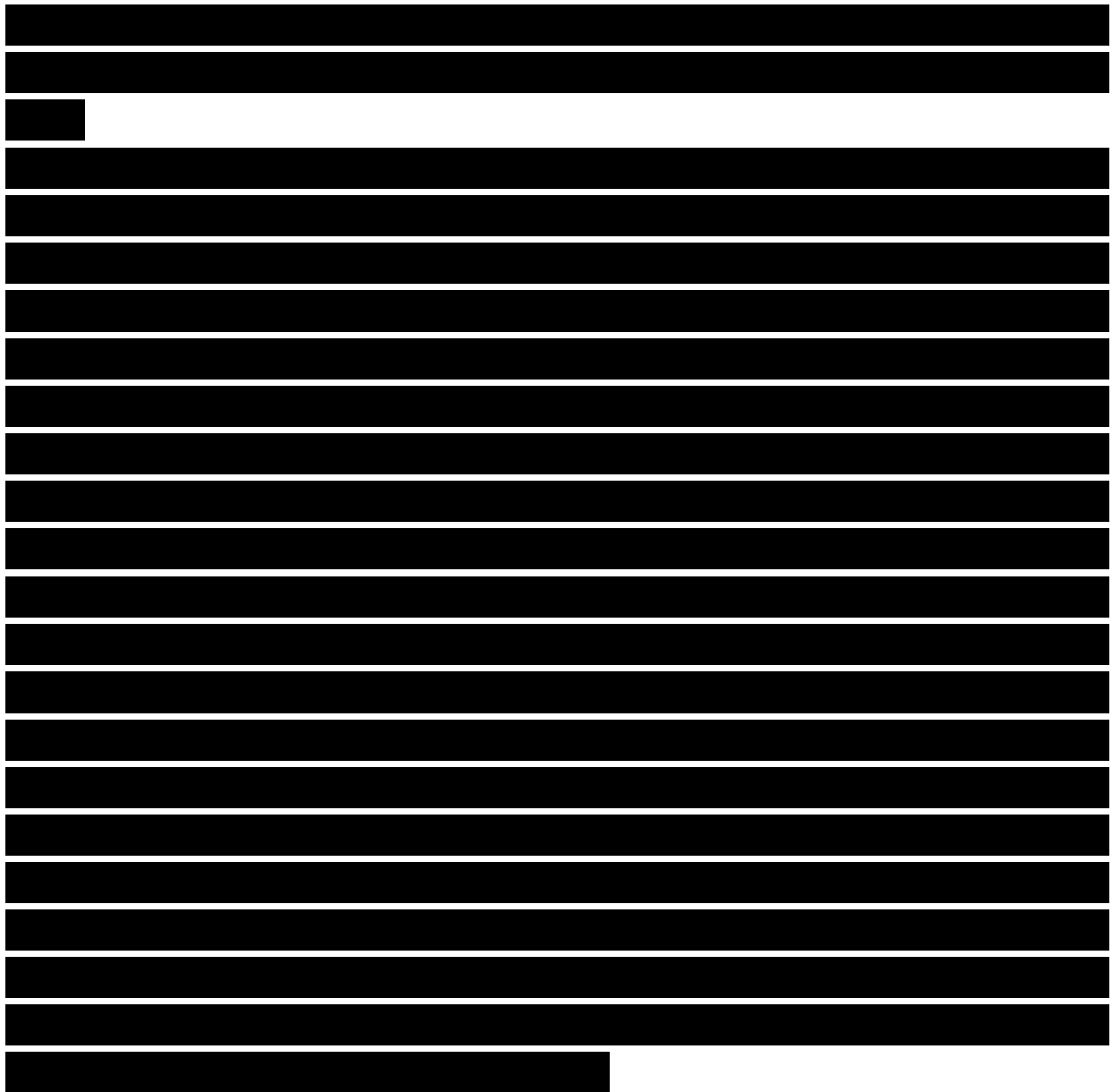
19

[REDACTED]

[REDACTED]

---

20 [REDACTED]  
21 [REDACTED]  
22 [REDACTED]  
23 [REDACTED]  
24 [REDACTED]



## 1-2 《迷宮の噴水》

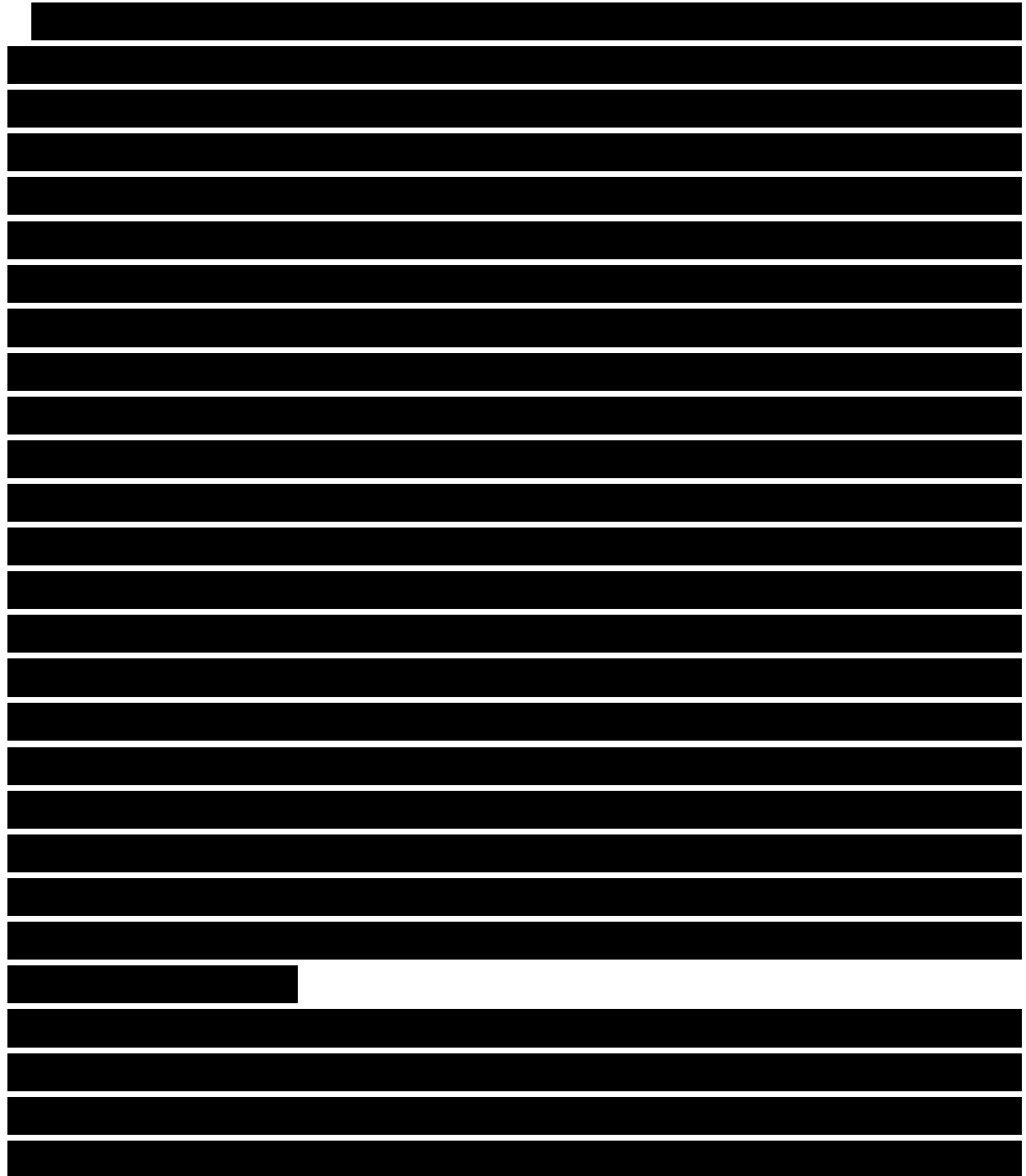
前項では、カステッロの庭園造営において指揮をとったトリーボロが本来的に目指していた庭園構想について総括した。すなわち庭園では、高台から邸館へと至る水の流れと各要所を飾る彫像群を介して、フィレンツェを潤す水に関する実際の地誌的環境が再現的に表された。これは実際に実現された水路網の整備を視覚化するものであると同時に、同地を統治するコジモ

---

25  
26  
27  
28  
29  
30



1 世の功績に重ね合わされていた。庭園の中央には円形の「迷宮の森」が造られ、そこには《フィオレンツァ》の像を頂点に据える噴水 (fig. III.1.17) が置かれた。したがってこれがフィレンツェの表象であることは明白であり、この都市が文字通りトスカーナの中心に君臨していることが視覚的に明示されている。しかしながらこの「迷宮の森」を、山や河を表す他の擬人像と同じように、フィレンツェの表象として読み解くだけでは不足であろう。本項では、中心に造営された《迷宮の噴水》の考察を通じて、コジモ 1 世による同時代の政治的文脈から新たに解釈を加えたい。



31 [redacted]  
32 [redacted]

[REDACTED]

---

33 [REDACTED]  
34 [REDACTED]  
35 [REDACTED]  
36 [REDACTED]  
37 [REDACTED]  
38 [REDACTED]  
39 [REDACTED]

[REDACTED]

---

40 [REDACTED]  
41 [REDACTED]  
42 [REDACTED]  
43 [REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

44 [REDACTED]  
45 [REDACTED]  
46 [REDACTED]  
47 [REDACTED]  
48 [REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

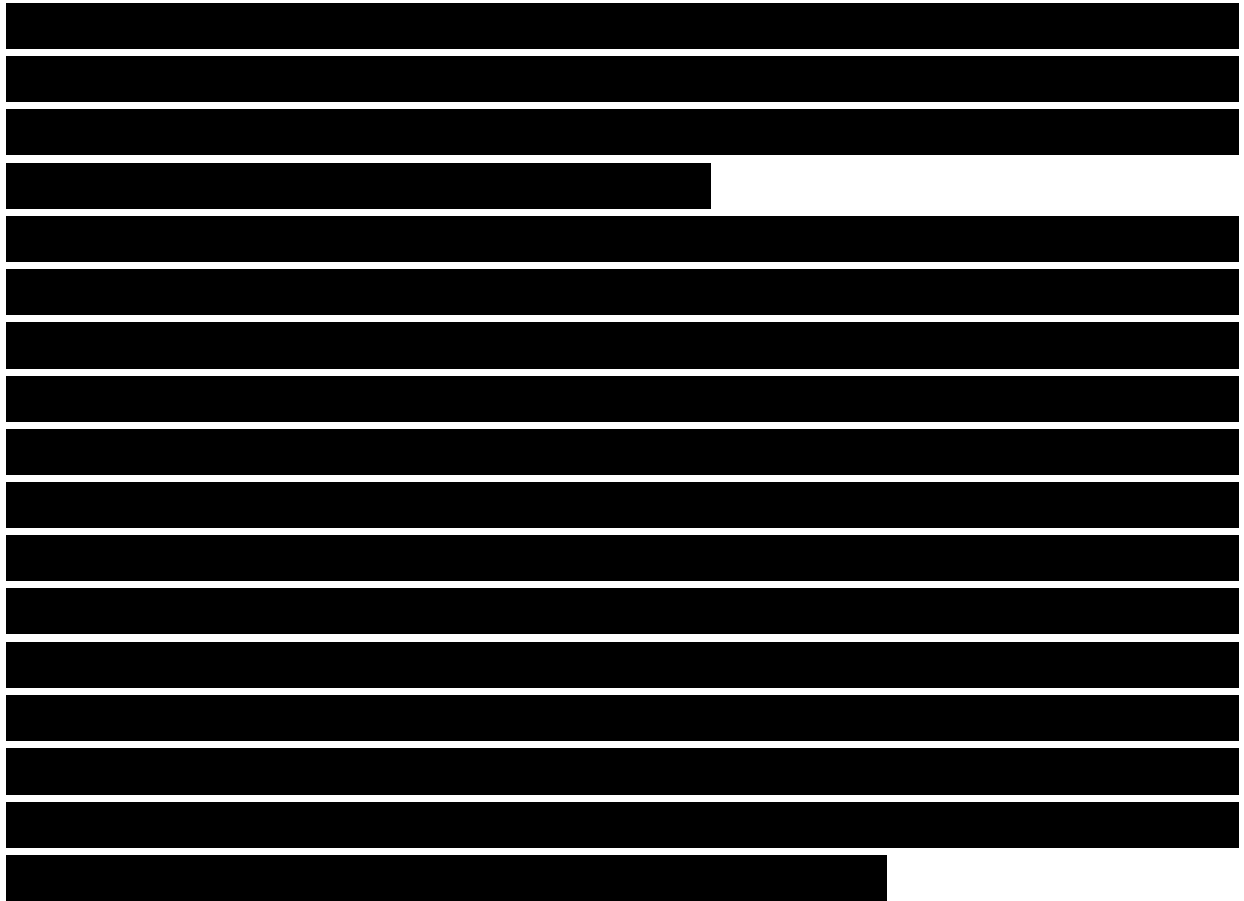
---

49 [REDACTED]  
50 [REDACTED]  
51 [REDACTED]  
52 [REDACTED]

[REDACTED]

53  
54  
55  
56

[REDACTED]



### 1-3 《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》

ここまでの考察により、庭園のプログラムは《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》(fig. III.1.49) でクライマックスを迎え、ここにおいてフィレンツェを統治するコジモ 1 世の存在が高らかに称揚されていることは明らかである。ただし、庭園の核となるこの噴水の頂点を飾る彫像として《ヘラクレスとアンタイオス》が選択された動機については、先行研究においてこれまで論及されてこなかった。コジモ 1 世は 1530 年代初頭以降、自らの象徴としてヘラクレス図像を継続的に用いたことが知られ、さらにその治世を俯瞰すれば、彼が政治および軍事面で達成した自身の功績に応じて複数のヘラクレス図像を巧みに使い分けていたことがわかる。以下では、当該の大噴水を、これに先立ってミケランジェロが計画していた同主題の彫像計画と関連づけて考察することで、「ヘラクレスとアンタイオス」をカステッロの大噴水の主題に導入したコジモ 1 世の意図を読み解きたい。



[REDACTED]

58  
59  
60  
61  
62

[REDACTED]



[REDACTED]

63  
64  
65  
66  
67  
68  
69

[REDACTED]

[REDACTED]

70

71

72

73

74

[REDACTED]

---

75

76

77

78

[REDACTED]

79  
80

[REDACTED]

[REDACTED]



[REDACTED]

---

84

85

## 2 ボーボリ庭園——《オケアヌスの噴水》の初期計画

1549 年、公妃エレオノーラは別邸として利用する目的で、アルノ河の南に位置するピッティ宮殿とその南側に付属する敷地を購入した<sup>86</sup>。後年のボンシニョーリによる地図では、これ以降ボーボリ庭園の中心区画として形成されることになるこの敷地が、ベルヴェデーレ要塞と土塁に囲まれている様子を確認することが出来る (figs. III.2.1-2)。また、南西のロマーナ門に向かって鋭角の三角形に広がる敷地は、17 世紀に拡張された区画である。すなわち同宮殿がメディチ家の所有となった際、敷地の南側の境界は、現在の衣装博物館の南端と、宮殿から現在の《ネプトゥヌスの噴水》を配する池へ至る垂直軸の南端を結んで対角線状に伸ばされた土塁によって囲まれていた。公爵夫妻は購入直後に、この敷地の整備をトリーボロに任せ、同時に噴水の造営を委嘱していたとみられる。しかしこの噴水計画は、1550 年にトリーボロが死去したことで頓挫した。その後バンディネッリに委嘱されたものの、計画の完遂を待たずして同様に彫刻家の死を迎えることになる。最終的に、1567 年に改めてジャンボローニャに委嘱され、1574 年には宮殿の背後に位置する半円形の平地（現アンフィテアトロ）の中央に、《オケアヌスの噴水》として完成をみた (figs. III.2.3, 8)。17 世紀初頭より、ゲラルド・メキーニとジュリオ・パリージによって庭園がロマーナ門付近まで拡張され、その南端に楕円形の養魚池が設けられると、同噴水はこの池の中央に造営された「<sup>イゾロット</sup>小島」に移設され、現在に至る (fig. III.2.4)。本節では、本来的にボーボリ庭園の造営の第一段階において中心的なモニュメントとして企図されていたとみられるこの噴水計画を取り上げ、コジモ 1 世が委嘱に直接関わった初期計画、すなわちトリーボロ次いでバンディネッリによる構想を考察することで、この噴水がボーボリ庭園において本来的に担っていた意味合いを解釈する。

### 2-1 トリーボロへの委嘱



<sup>86</sup> ピッティ宮殿の購入年については、ラピーニの記述に基づいて 1550 年 2 月 3 日とされてきたが、1549 年の春にはエレオノーラの会計で仮契約がなされている (Lapini 1900, p. 162; Capecchi 2001)。同宮殿の形成は、1341 年にチョーネ・ディ・ボナコルソ・ピッティが大元となる不動産を購入したことに始まるが、メディチ家の所有に至るまでの同宮殿の所有権と敷地拡張の変遷については、Morandini 1965; Facchinetti Bottai 1979; Capecchi 1993, pp. 21-22; Rinaldi 1991; Capecchi 2003b を参照。

<sup>87</sup>



[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

88  
89  
90

[REDACTED]

91  
92

93

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

94 [REDACTED]

95 [REDACTED]

96 [REDACTED]

97 [REDACTED]

98 [REDACTED]

[REDACTED]

---

99

100

101

102

103

104

105

106

[REDACTED]

107

108

109

[Redacted text block]

## 2-2 バンディネッリへの委嘱と計画案の再構成

[Redacted text block]

[Redacted text block]

---

110 [Redacted text]  
111 [Redacted text]  
112 [Redacted text]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

113

114

115

116



[REDACTED]

[REDACTED]

---

119

[REDACTED]

120

[REDACTED]

121

[REDACTED]

122

[REDACTED]



[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[illegible]

126	[REDACTED]
127	[REDACTED]
128	[REDACTED]
129	[REDACTED]
130	[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

132

133

[REDACTED]

---

134

135

136

## **IV 1560-1574 年**



## IV 1560-1574 年

### 1 バルトロメオ・アンマンナーティの《ユノの噴水》

コジモ 1 世は、ナポリ副王の娘エレオノーラとの結婚祝祭を経た翌 1540 年、従来のメディチ家の邸宅から、シニョリーア広場に面する現在のヴェッキオ宮殿へと居を移した。この建物は 13 世紀末より共和国政府の政庁舎として整備されていたが、コジモ 1 世の転居に伴って、約 30 年をかけて君主の私邸へと様変わりする。改築事業はフィレンツェの建築家で彫刻家のバッティスタ・デル・タッソ（1550 -1555 年）が指揮を執って着手されたが、1555 年にヴァザーリが総監督を引き継いでからは室内装飾に主眼が置かれ、現存する大規模な壁画を中心として事業が進められた。

本節で取り上げる大理石群像《ユノの噴水》は、同宮殿 2 階に位置する大広間<sup>サーラ・グランデ</sup>（現在の五百人大広間）の南壁のために、コジモ 1 世によってバルトロメオ・アンマンナーティ（1511-92 年）に委嘱されたものである（figs. IV.1.1-2）。最終的に本作品が同大広間に実装されることはなかったが、実現していれば、公共の広間に水を持ち込む点で同時期のイタリアでは唯一の作例となったはずである<sup>1</sup>。噴水を構成する 8 点の彫刻——すなわち《ユノ》と 2 羽の《孔雀》、《大地／ケレース》、《フローラ／フィレンツェ》、《賢明》、《アルノ河》、《パルナッソスの泉》——が同時期に制作され、現在はフィレンツェのバルジェッロ国立美術館において、欠損していた円環の構造を新たに補って復元展示されている。以下では、アンマンナーティによる当初計画を確認したのち、これまで十分になされてこなかった現存する彫像群の造形分析を行う。その上で、とくに「パルナッソスの泉」とみなされている女性横臥像の図像の特殊性に着目し、この像を糸口として、研究史においてはこれまで示唆されるにとどまっていた図像助言者コジモ・バルトリの介在を史料の上で裏付け、この噴水の図像プログラムに再解釈を加える。

#### 1-1 当初計画の再構成



<sup>1</sup> 公共の室内に水を持ち込む文化はアラブ・イスラム世界において典型的な手法であり、同時代にはカルロス 1 世統治下のスペインにて導入されていた。Ferretti 2016, p. 112.

<sup>2</sup>

[REDACTED]

[REDACTED]

3 [REDACTED]

4 [REDACTED]

5 [REDACTED]

6 [REDACTED]

7 [REDACTED]

8 [REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

9 [REDACTED]

10 [REDACTED]

11 [REDACTED]

12 [REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

13 [REDACTED]  
14 [REDACTED]  
15 [REDACTED]  
16 [REDACTED]

[REDACTED]

17  
18  
19  
20  
21  
22  
23

[REDACTED]

[Redacted text block]

## 1-2 現存する彫像群の造形分析

[Redacted text block]

---

24	[Redacted]
25	[Redacted]
26	[Redacted]
27	[Redacted]
28	[Redacted]
29	[Redacted]
30	[Redacted]

[REDACTED]

---

31 [REDACTED]  
32 [REDACTED]  
33 [REDACTED]  
34 [REDACTED]  
35 [REDACTED]  
36 [REDACTED]  
37 [REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

38 [REDACTED]  
39 [REDACTED]  
40 [REDACTED]  
41 [REDACTED]



[REDACTED]

---

42 [REDACTED]  
43 [REDACTED]  
44 [REDACTED]  
45 [REDACTED]  
46 [REDACTED]  
47 [REDACTED]  
48 [REDACTED]



### 1-3 擬人像《パルナッソスの泉》の構想背景

ここまで《ユノの噴水》を構成する各人物像について、造形分析を軸として考察を加えてきたが、本項では噴水の図像プログラムを読み解く糸口として、善政による恩恵の象徴としての水の寓意像として《ユノの噴水》に組み込まれている2体の横臥像のうち、とくに女性擬人像《パルナッソスの泉》に着目する (fig. IV.1.41)。女性裸体像《パルナッソスの泉》は、ペルセウスがメドゥーサの首を斬り落とした時、その血から生まれたペガソスが蹄の一蹴りでムーサイの住まうパルナッソス山に泉をもたらしたとする神話主題に基づくものである。しかし本図像が《ユノの噴水》に挿入された経緯については十分に検討されていない。したがって以下では、同時代のフィレンツェにおける彫刻制作の状況を明らかにすることで、本図像の構想において図像助言者コジモ・バルトリ (1503-1572 年) が介在していた可能性を実証的に考察する。

同女性像は岩場に腰掛けて折り曲げた右脚で水瓶を支え、左脚を手前に投げ打って円弧にもたれかかっている。露になった胸元から背にかけて這うツタは、詩人やムーサイの冠に用いられる植物であり、右手に握る月桂冠と共にパルナッソス山を想起させる (fig. IV.1.42)<sup>50</sup>。それゆえハイkampは本彫像を、《アルノ河》と併せて「ムーサイの住まうフィレンツェの表象」と推察した<sup>51</sup>。この見解は、本節第1項で抄訳引用したところの、『フィレンツェ』はそれ自体

<sup>49</sup>

<sup>50</sup> Heikamp 1978, p. 126.

<sup>51</sup> Heikamp 1978, p. 127.

詩情に富み、『アルノ河』はこの都市に豊饒をもたらします。」というタナイの記述にも合致する<sup>52</sup>。

マンテーニャやラファエッロの著名な絵画作例を通じて、君主の宮廷や支配都市における学芸の隆盛を称揚する図像としての「パルナッソス」は、既に確立した伝統となっていた (figs. IV.1.43-44)。しかし《ユノの噴水》に前後する時期の同主題に取材した数少ない作例では、いずれも単独あるいはムーサイを伴うペガソスの姿で表わしており、女性寓意像とペガソスのみで表わす図像は見当たらない<sup>53</sup>。《ユノの噴水》においては、『アルノ河』と共にコジモ 1 世の支配領域を示す像として、本彫像を 1557 年にコジモ 1 世の支配下に入ったシエナを流れるアルビア河の擬人像とする見解も提示されているが<sup>54</sup>、この同一視は他に類例を見出し得ない。

アンマンナーティによって前例のない《パルナッソスの泉》が生み出された背景は、同時期のフィレンツェにおいて別の庭園装飾のために制作された女性寓意像との図像上の関連性をひもとくことによって、詳らかにすることが出来るだろう。以下ではまず、両作品の比較検討を行う。

《ユノの噴水》とほぼ同時期にフィレンツェの彫刻家フランチェスコ・カミッリアーニ (1530-1576 年) は、同地の庭園装飾として、ペガソスを伴う裸体のムーサの横臥像を手がけた (fig. IV.1.45)。本作品は、アンマンナーティの《パルナッソスの泉》と類似する図像を示す唯一の作例として度々指摘されてきたものである<sup>55</sup>。

1551 年、エレオノーラの弟ルイス・デ・トレドはフィレンツェのサンティッシマ・アンヌンツィアータ聖堂付属の庭園の背後に隣接するサン・ドメニコ・デル・マッリオ女子修道院の裏庭の土地を取得し、庭園としての整備に着手した (fig. IV.1.46) <sup>56</sup>。ヴァザーリは『美術家列伝』第 2 版 (1568 年) で、カミッリアーニがこの庭園のために 15 年を費やして噴水を含む諸彫像の制作に従事したことに言及している<sup>57</sup>。この時に作られた庭園装飾の一部は 1570 年 8 月にスペイン国王が所有するマドリッド郊外アランフェスの庭園に<sup>58</sup>、次いで 1573 年には残りの彫刻群がシチリア島パレルモ市に<sup>59</sup>それぞれ売却された。前者は 1634 年以降散逸したが<sup>60</sup>、後者は

<sup>52</sup> タナイ・デ・メディチの書簡の全文は、本節第 1 項；本論文別冊 Appendix XI を参照。

<sup>53</sup> 「パルナッソス」の神話主題に依拠した同時代の作例として、モントルソリ《オリオンの噴水》の水盤装飾「カスターアの泉」(1547-1551 年、メッシーナ、大聖堂広場)、《ペガソスの噴水》(1560 年代、ティヴォリ、ヴィッラ・デステ)、《ペガソスの噴水》(1560 年代後半パニャイア、ヴィッラ・ランテ)、《パルナッソス山》(1570 年代後半、ローマ、ヴィッラ・メディチ) がある。

<sup>54</sup> Van Veen 2006, p. 16; Zikos 2011, p. 172.

<sup>55</sup> カミッリアーニの彫像を用いたパレルモの《プレトリアの噴水》に関する体系的な基本文献は、Pedone 1986 である。また近年のまとまった調査報告として、Demma-Favaea 2006 がある。

<sup>56</sup> 1551 年 12 月付、ピエル・フランチェスコ・リッチョからクリスティアーノ・バーニ宛ての書簡 (Archivio di Stato di Firenze, *Mediceo del Principato*, f. 406, c. 617; Zangheri 1999, p. 19, n. 8 より該当箇所引用) には、ルイスが早くも庭園の整備を開始している旨が記されている。

<sup>57</sup> Vasari 1568, vol. 8, pp. 50-51. カミッリアーニが制作した彫像群については、本論文別冊に付録の拙稿も参照されたい。

<sup>58</sup> 庭園彫刻は 1570 年よりルイスの弟で前シチリア副王ガルシア・デ・トレドの主導で市内に噴水を導入する計画を進めていたパレルモ市の評議会において、同年 8 月 7 日、当該の庭園彫刻の一部をスペインへ移送する決議がなされた。議決内容を示す議事録は以下を参照。Archivio Storico Comunale di Palermo, *Consigli Civici*, anni 1560-72, n. 68, c. 260.

<sup>59</sup> パレルモ市への売却に関しては、以下の 3 点の一次史料に基づく。まず 1572 年 8 月 26 日付、パレルモ市の評議会議事録 (Archivio Storico Comunale di Palermo, *Consigli Civici*, anni 1560-1672, n. 68, c. 320) には、ルイスの庭園の噴

パレルモに赴いたカミッリアーニの息子カミッロ（生年不明-1603 年）の指揮の下、現地に工房を構えていたヴィンチェンツォ・ガジーニ（1527-1595 年）が階段と欄干を含む建築体を設営し、また部分的に彫像を補って、1581 年頃にはプレトリア広場にほぼ現在の姿で移設された（fig. IV.1.47）<sup>61</sup>。ヴァザーリは先の記述でルイスの庭園装飾を全てカミッリアーニに帰しており、中でも「アルノ河とムニョーネ河を表わす等身大よりも大きな 2 体」に言及している。その後パレルモに移設された作品群を伝える 1574 年のリストには、この 2 体と共に「一部破損したパルナッソスの彫像、1 体」が記されており、これらの横臥像 3 体がフィレンツェで制作されたことは確実である<sup>62</sup>。また《パルナッソス》には「1566」の年記があるため、アンマンナーティの《ユノの噴水》とほぼ同時期に進められた計画の一部とみてよい。

カミッリアーニの《パルナッソス》は、女性横臥裸体像とペガソスの組み合わせで構成される点で、アンマンナーティによる擬人像と共通する（fig. IV.1.45）。ただし古代の伝統的な河神像に範をとっており、造形様式の点では異なる系譜に位置づけられるだろう。またカミッリアーニの作品では、足元の笛、左肘の下に積まれた 2 冊の書物、仮面というアトリビュートを伴っており、泉の擬人像というよりは寧ろパルナッソス山にてアポロンのもとで学芸を司るムーサイを示唆する。しかし両者は如何なる経緯で、同時期に同じフィレンツェでこの前例のない図像を共有するに至ったのだろうか。以下では、両者の制作に先立ってフィレンツェで計画された別の庭園に着目することで、図像構想の背景にコジモ・バルトリの介在を想定しうることを指摘する。

フィレンツェのルイス・デ・トレドの庭園計画が着手される直前の時期、この敷地から通りを 2 本隔てたサン・ガッロ通りに面するコルトーナの司教ジョヴァン・バッティスタ・シモーネ・リカーゾリの私有地に、庭園を整備する計画が進められていた（fig. IV.1.3.6）。構想を担当したのはコジモ・バルトリであり、噴水の制作をカミッリアーニが請け負った。両者はこの計画に従事することで親交を深めたとみられる<sup>63</sup>。この敷地はリカーゾリが 1538 年に叔父のジュ

---

水を購入する決議がなされた旨が記されている。次いで 1573 年（史料上は 1572 年の表記）1 月 8 日付、ルイス・デ・トレドの代理団とパレルモ市の評議会代表団との間で交わされた契約書（Archivio di Stato di Palermo, *Real Segreteria*, n. 1）にて、ルイスの庭園の噴水を二万スクードで売却することが決定された。翌 1574 年 5 月 26 日付、公証人の記録（Archivio di Stato di Palermo, Notaio Carasi Antonino, 1573-74, vol. 6295, fols. 1067-1069）には、フィレンツェからパレルモへ移送された 644 ピースの庭園装飾が一覧として示されている。

<sup>60</sup> スペインに移送された作品群の散逸の変遷については、Jonietz 2011, p. 312 を参照。

<sup>61</sup> プレトリア広場に移設後の噴水の詳細については割愛するが、概要としては直径 20 メートルに及ぶ円形の噴水であり、内部に作られた同心円の溜め池に浮き島を設け、その中心の楕円に 3 つの水盤からなるカンデラブロ型の噴水を据えるものである。浮き島には 4 方向に階段が設けられ、その各欄干の両端に古代神話に依拠する神々の立像が立ち並ぶ。外周の 4 方角に位置する楕円形の水盤には、トリトンとネレイスを伴う河川の横臥擬人像を配す。彫像群のうち横臥像《パビレート河》と《アルノ河》の脇像をなすネレイス 1 体には、1571 年頃以降ナポリで活動したフィレンツェ出身の彫刻家ミケランジェロ・ナケリーノの署名が確認される。

<sup>62</sup> 1574 年 5 月 26 日付、公証人の記録（Archivio di Stato di Palermo, Notaio Carasi Antonino, 1573-1574, vol. 6295, fols. 1067-1069: fol. 1068）に記された“una figura chamata parnaso chi ha uno ditto rotto - no. 1”は、カミッリアーニの女性裸体像《パルナッソス》を示す。

<sup>63</sup> 1550 年 4 月 5 日付、バルトリ（在フィレンツェ）からヴァザーリ（在ローマ）宛の書簡（Vasari-Frey 1982, vol. 1, no. CXXXVII, pp. 281-83）においてバルトリは「私の非常に親しい友人であるフランチェスコ・ディ・ジョヴァン・デッラ・カミッラ」として、カミッリアーニをローマのサン・ピエトロ・イン・モンテ・オレオ聖堂内デル・モンテ家礼拝堂の制作に当たらせるようヴァザーリに推薦している。

リアーノ・ディ・ラニエーリから譲渡された旧サン・ミニアート・アル・チェッポ修道院に付属しており、バルトリは建築家としてこの建物の改修に携わる他、庭園のデザインを提供した<sup>64</sup>。1550年代初頭にリカーゾリの意向で計画が頓挫し、1555年3月には同地が売却されたため、構想の大半は実現しなかった<sup>65</sup>。しかしここでは、『ラジョナメンティ・アカデーミチ』第1講での同庭園をめぐる対話の中で、バルトリがここに計画していたと言及する「人工のパルナッソス山」の構想に着目したい。該当箇所は以下の通りである<sup>66</sup>。

その〔ムニョーネ河から引かれた水路の〕利便性にあずかり、私はこの葡萄畑の通路の中段に、先の水路が入ってゆく楕円形の貯水槽を造らせようと思いました。またその貯水槽を掘り起した土を使って、山を造らせることにしました。この山には、陽光と乾燥を好む別の種類の草を植えて、山頂部に「カスタリアの泉」すなわち「パルナッソス山」を示唆するように、沢山の月桂樹を植えるつもりでした。

この一節からは、アンマンナーティ及びカミッリアーニによる各作品に先立って、両者に共通する「パルナッソス」の主題をバルトリが取り上げていたことがわかる。そして頓挫したりリカーゾリの庭園計画と入れ替わるようにして、1551年には近隣の敷地にルイスの庭園を整備する計画が持ち上がり、いずれの庭園装飾の制作にもカミッリアーニが登用された。それゆえりリカーゾリの庭園のためのバルトリによる構想がルイスの庭園計画に転用された可能性は高い<sup>67</sup>。同書第1講からは、バルトリがリカーゾリの庭園のために《ネプトゥヌスの噴水》と《ウェヌスの噴水》を構想し、カミッリアーニに制作が委ねられたことが読み取れる<sup>68</sup>。双方の泉の着工状況は不明瞭だが、《ネプトゥヌスの噴水》は記述内容の豊富さゆえに、リカーゾリの庭園において話者が作品を目にしていた——つまり一定程度まで仕上げられていた——と推測される。一方、後年のボンシニョーリによる地図には、ルイスの庭園に大小2つの噴水が描かれている（fig. IV.1.48）。このうち大きいものは、描かれた彫像が片手に長い矛のようなものを握っているため《ネプトゥヌスの噴水》と見られる。小さな泉については、現存の史料からその構想を推察することは難しい。

それではパレルモに移設された《パルナッソス》を含む3体の横臥像は、いつ制作され、ルイスの庭園においてどのように展示されていたのだろうか。まずヴァザーリが言及した《アルノ河》と《ムニョーネ河》は、《ネプトゥヌスの噴水》に組み込まれていた可能性が高い<sup>69</sup>。《アルノ河》には「1555」の年記があり、これはリカーゾリの庭園の敷地が売却された年と一致し

<sup>64</sup> Bartoli 1567, ragionamento 1, fol. 1v; Jonietz 2011, p. 302.

<sup>65</sup> Poli-Piccini-Brunetti 1973, pp. 52-70; Jonietz 2011, pp. 302-303. リカーゾリの庭園については、第1章第2節第2項も参照。

<sup>66</sup> Bartoli 1567, ragionamento 1, fol. 20v より執筆者抄訳。

<sup>67</sup> Jonietz 2011, pp. 315-16. 第1章第2節第2項を参照。

<sup>68</sup> Bartoli 1567, ragionamento 1, fols. 1r, 18r. 《ネプトゥヌスの噴水》については Jonietz 2011, pp. 303-304 を参照。関連して、ネプトゥヌスとウェヌスの主題選択については、Fukada 2012 を参照。

<sup>69</sup> Jonietz 2011, p. 311. ヴァザーリ『美術家列伝』での該当箇所は Vasari 1568, vol. 8, pp. 50-51.

ている (fig. IV.1.49)。したがって本来いずれの庭園のために着手されたかは不明であるが、カミッリアーニが既にリカーゾリの庭園のために着手あるいは少なくとも構想していた《アルノ河》をルイスの庭園に転用したことが推察されよう。一方「1566」の年記のある《パルナッソス》(fig. IV.1.45)は、ルイスの庭園のために制作されたとみられる。その際、リカーゾリの庭園のためにバルトリによって発案された「人工のパルナッソス山」の構想が引き継がれ、カミッリアーニが造形化するに至った文脈が推察されるのである。尚ジョニエツは、確証を欠く示唆に留めてはいるが、先のボンシニョーリの地図に描かれる小さな噴水を《パルナッソス》を配する「カスタリアの噴水」とみている<sup>70</sup>。

しかしここでカミッリアーニによる《パルナッソス》(fig. IV.1.45)を《アルノ河》(fig. IV.1.49)との関係において考察することで、それがバルトリの構想に基づくものであることが一層強く示唆される。カミッリアーニの両横臥像は、脚を互いに反対の方向へ伸ばし、共に片腕で上半身を支え、その肩の方へと頭部を回して遠方を見遣る姿勢をとる点で、一対をなす造形を呈している。《アルノ河》は高く立てた左膝頭の位置に左腕を伸ばして笏を握る一方、控えめに脚を曲げる《パルナッソス》はその膝に立てた笛を右手で支える。両像の伸ばされた腕はほぼ同じ高さに揃えられており、造形は呼応している。事実、プレトーリア広場に再配置された現況を見ると、階段を軸として線対称をなす場所にこの2体が配されており、移設の段階で対の構想が理解されていたことが示唆されよう。つまりルイスの庭園において《パルナッソス》は、既に制作されていた《アルノ河》と一対をなす像として構想された可能性が考えられるのである。

アンマンナーティの《ユノの噴水》に立ち戻ると、円弧にもたれて向き合う2体の横臥像《パルナッソスの泉》と《アルノ河》は、明確な対の構想を示している (fig. IV.1.50)。この構想は、とりわけミケランジェロがフィレンツェのサン・ロレンツォ聖堂新聖具室のメディチ家の公爵墓碑において「時」の擬人像を2体1組の男女の横臥像で表わしたことで、16世紀中葉には彫像配置の一形式として確立していた。アンマンナーティの両像がこの先例に依拠していることは、前項で言及したように、ミケランジェロによる《黄昏》と《曙》の両像と親近性を示していることによっても明白である (fig. IV.1.51)<sup>71</sup>。特に《曙》が身体を支えるための底辺をつくるように片脚を伸ばし、上側の脚を曲げる姿勢は《パルナッソスの泉》に引き継がれている他、乳房の下に巻き付けられた帯状の布までも共通している。《アルノ河》は《黄昏》に比して坐像に近い姿ではあるが、奥の脚を手前に投げ出すようにして組み、片腕を脚に触れることで上半身を捻る姿勢には、《黄昏》に対する強い参照の態度が表れている。《ユノの噴水》においてアンマンナーティは、自らが敬意を表する彫刻家の用いた対をなす男女の横臥像という造形言語を左右反転した姿で実現しているのである。

《アルノ河》と《パルナッソスの泉》を一対とする構想が時期を同じくして同じフィレンツェで制作された状況を考慮することで、それがいずれもバルトリの図像構想に端を発するもの

<sup>70</sup> Jonietz 2011, p. 317.

<sup>71</sup> 本節第2項を参照。

であった可能性を想定しうる。すなわちバルトリは、政治的な表象である泉に「豊穡」と「学芸」を象徴するこれら2体の寓意像を対の構想として組み込むことで、コジモ1世の善政を示すプログラムを成立させたと考えうるのである。

以上の考察を経て、アンマンナーティとカミッリアーニが「パルナッソス」に関連する特殊な図像を共有するに至った着想源を、これに先立つリカーゾリの庭園のための「人工のパルナッソス山」というバルトリの構想に求めることで、これら一連の計画にバルトリの介在が強く示唆されることが確認された。その上で、バルトリが如何なる目的で「パルナッソス」の図像を発案し、《ユノの噴水》に挿入したのかを検討する必要があるだろう。

本項の前半で引用したバルトリの言及に見える通り、「人工のパルナッソス山」は、リカーゾリの庭園に水を供給する治水事業に伴って計画された。この庭園計画とほぼ並行して捨て子養育院の院長ルカ・アラマンニの尽力で水車小屋が建てられ、ムニョーネ河の水を市内に引く水路整備がなされたのである<sup>72</sup>。「この修道院に少なからず利をもたらした」とバルトリが伝えるように、同庭園を含む敷地一帯もこれによって潤い、前述の噴水の計画もこの事業の恩恵にあずかった。「カスタリアの泉、すなわちパルナッソス山」を庭園に持ち込む構想をたてた際、バルトリは土地に恵みを与える水路整備という同時期の情勢をこの神話主題に重ね合わせたのだろう。

水路整備と「パルナッソス」の主題選択の関連性という観点から《ユノの噴水》が委嘱された状況に鑑みると、そこには共通項を見出しうる。本論文第1章第2節第3項で言及したように、1550年にコジモ1世は公妃と共にピッティ宮殿とその背後の土地を購入し、ボーボリ庭園の造営を進めた<sup>73</sup>。同事業に際してはフィレンツェ南端ジエラモンテのジネヴラ水源から水を引いて養魚池や貯水槽を完備し、1554年以降は用水路を整備している<sup>74</sup>。これに伴ってコジモ1世は1555年までにヴェッキオ宮殿の周辺に3つの泉ないし噴水の建設を企図した。すなわち、同宮殿の中庭に設置するためヴェロッキオによるブロンズ像《プットー》を乗せた噴水円盤、シニョリーア広場のための《ネプトゥヌスの噴水》<sup>75</sup>、そして当該の《ユノの噴水》である<sup>76</sup>。これら全ての作品に同用水路を通じて君主の宮殿から水が提供され、コジモ1世と公妃エレオノーラによる「水の恩恵」が顕示されたのである。

バルトリの発案が《ユノの噴水》に転用されたと見なすこの文脈において、いずれの計画においてもその直前に当該地へと水を供給する事業が行われていることを踏まえると、《パルナッソスの泉》を、コジモ1世の水路整備という具体的な功績と結びつけることが可能になるだろう。加えて事業に関わる公妃の経済的な助力を考慮すると、泉の頂点に君臨するユノ、すなわちエレオノーラの力を得てコジモ1世の統治領域に恵みがもたらされるという同時代の具体的

<sup>72</sup> Bartoli 1567, ragionamento 1, fol. 20rv. この地域の水路整備については、第1章第2節第2項を参照。

<sup>73</sup> Rinaldi 1991; Baldini-Ferretti 2001; Ferretti 2006; Ferretti 2011b.

<sup>74</sup> Allegri-Cecchi 1980, pp. 221-222; Edelstein 2004; Ferretti 2016, p. 109.

<sup>75</sup> 《ネプトゥヌスの噴水》については第IV章第3節を参照。

<sup>76</sup> Heikamp 1978, p. 124. この時期のコジモ1世によるヴェッキオ宮殿およびシニョリーア広場における噴水計画については、第1章第2節第4項を参照。

な様相を「水の生成」の図像プログラムに読み取ることが出来る。

一方で、「フィレンツェはそれ自体詩情に富む」というタナイの記述<sup>77</sup>を看過すべきではないだろう。この一節は「パルナッソス」の神話主題の伝統的な意味解釈に即しており、パルナッソス山のムーサイが司る学芸の繁栄の寓意であることに異論の余地はない。すなわちこの女性擬人像は、《アルノ河》との対構想で提示されることにより、公爵夫妻のもとでフィレンツェに学芸が興隆したことを顕示する存在とみなしうるだろう。それは、噴水が本来設置される予定であったヴェッキオ宮殿大広間南壁においては、歴代のメディチの肖像彫刻群が一堂に会する北壁の謁見壇と対面することで、メディチ家のパトロネージのもとに発展してきたフィレンツェの学芸がコジモ1世の統治下において再興し、なおかつそれが一族の正統的な伝統を引き継ぐものであることを視覚的に明示するものとなったはずである。実際、コジモ1世は内政改革と並行して学芸振興にも積極的であり、その推進と君主による公認の手続きを通じて、公国内における自身の権力の強化に繋げていた。その最たる例がピサ大学の改革とアカデミア・フィオレンティーナの認可である。

登位からわずか5年のうちにコジモ1世は、財政難によって閉鎖されていたピサ大学を再開させ、これをフィレンツェ公国における学問、とりわけ法学分野の中心地として積極的な支援を進めた<sup>78</sup>。一方のフィレンツェでは、1540年に文学者を中心とした知識人サークルであるアカデミア・デッリ・ウーミディが誕生していた。これは詩の執筆を活動の主軸にする人文主義者の集まりであったが、約1年のうちにコジモ政権の政府高官や高位聖職者らを新入会員として迎え入れ、翌1541年にはアカデミア・フィオレンティーナとして新たに発足する。同アカデミアでは、フィレンツェ語の洗練、文学作品に依拠した公開講演の実施を活動の主軸に据え<sup>79</sup>、そのほか喜劇の上演や死亡した会員のための追悼演説などが行われた。公国の要職に就く者たちが運営に携わるアカデミアは、学者の私的な集まりではなく実質的には公的な組織として形成されていたとみられ、その後改革を重ねるごとに公国の介入が増えた<sup>80</sup>。

1553年にはコジモ政権によって改革が主導されたことで、ここにおいて同アカデミアがコジモ1世のコントロール下に置かれたことがわかる<sup>81</sup>。したがって君主の認可のもとに形成されたこのアカデミアは、宮廷芸術家と異なり、コジモ1世の宮廷に雇用されることがなかった文学者や知識人を公的に権威付けるものであった点で、「宮廷文化の形成を示すもの」と解されている<sup>82</sup>。すなわちこのシステムは君主による一種の文化統制の役目を果たすものであったと同

<sup>77</sup> タナイ・デ・メディチの書簡の全文は、本節第1項および本論文別冊 Appendix XI を参照。

<sup>78</sup> ピサ大学は1348年にフィレンツェ共和国政府によって創設されたが、15世紀、16世紀前半を通じて主として財政難に起因して複数回に渡る閉鎖を経験していた。16世紀にはメディチ家出身の教皇のもとで財政的援助を受けていたが、1527年のローマ劫掠以降は再び閉鎖に追い込まれていた。コジモ1世は1543年11月1日に同大学を再開させ、新規約の制定をはじめ、有能な学者の招致、学生寮の整備を進めることで、これを公国の学問的中心地として機能させた。Carranza 1980; 北田 2003, pp. 87-92.

<sup>79</sup> とくにアカデミア会員による講演については、Bryce 1995 を参照。

<sup>80</sup> アカデミア発足後の諸改革については、北田 2003, 134 頁以降を参照。

<sup>81</sup> すでに初期の段階からコジモ政権によるアカデミアへの介入は明らかであったが、1553年の改革において初めて、改革内容の決定者は「公爵殿下と公爵殿下に代わる代理人、および顧問たち」とされた。北田 2003, 156 頁を参照。

<sup>82</sup> 北田 2003, 164 頁。



時に、学芸の庇護者としてのコジモ 1 世をアピールすることに直結していたと言える。知識人のサークルに対するパトロネージ活動は、コジモ・イル・ヴェッキオが行った人文主義者たちによる人文学研究の庇護やプラトン・アカデミーの牽引、ロレンツォ・イル・マニフィコによる人文主義者への公私にわたる援助やプラトン研究の発展、イタリア俗語の復権、活発な詩作活動など、黄金期を築いた先代のメディチが行っていた学芸保護に倣ったものである。したがって《ユノの噴水》の解釈に立ち戻れば、そこに表された擬人像《パルナッソスの泉》は、コジモ 1 世によるアカデミアの創設と、その学芸パトロネージの伝統的正当性を示す存在として挿入されたものと考えられる。つまりこの特殊な図像は、同噴水が計画される直前の時期までにアカデミア・フィオレンティーナが君主によって公的な組織として権威付けられたことを示す存在として、またそれが歴代メディチによる同様のパトロネージ活動を継承するものであることを顕示する存在として挿入されたものと考えられる。また、アカデミア・フィオレンティーナが制定したインプレーザは「ライオンの皮をまとうアルノ河の擬人像」である (fig. IV.1.52)。《ユノの噴水》においては、コジモ 1 世のもとで繁栄する学芸を表す《パルナッソスの泉》と一対をなす擬人像としてライオンを伴う《アルノ河》が配されており、このことによっても、《ユノの噴水》が同アカデミアの存在と結び付けられるものであるとする文脈が補強されるだろう。

#### 1-4 プログラムの図像解釈

《ユノの噴水》(fig. IV.1.53) の図像プログラムが構想された背景として、研究史ではコジモ・バルトリの関与が指摘されてきた<sup>83</sup>。バルトリは大学で学位を取得した形跡はないものの、文豪アンデレア・ダッツィら同時代の識者に学び、ラテン語、文学、歴史、数学、音楽など多岐に渡る分野に精通した人文主義者として知られる<sup>84</sup>。1541 年に正式に発足したアカデミア・フィオレンティーナの創設メンバーに数えられ、1548 年には第 16 代会長<sup>コンソロ</sup>にも就任した<sup>85</sup>。ヴェッキオ宮殿の改築事業では、1550 年代後半に「四大元素の区画」および「レオ十世の区画」の壁画装飾のための図像をヴァザーリに提供したが<sup>86</sup>、1560 年よりジョヴァンニ・デ・メディチ

<sup>83</sup> Davis 1975, p. 264; Heikamp 1978, p. 122; DeAngelis 2005, pp. 154-155.

<sup>84</sup> コジモ・バルトリ研究の基本となっているのは Bryce 1983 である。近年の研究としては、2009 年にフィレンツェで開催された国際シンポジウムの報告書 Fiore-Lamberini 2011 が挙げられる。

<sup>85</sup> 1540 年 11 月 1 日にアカデミア・デッリ・ウーミディの初会合がなされ、創立メンバーは文学者ラスカを中心とする 11 人であった。同 11 月 14 日には 4 人の新会員が加わり、同 12 月 25 日にバルトリとピエルフランチェスコ・ジャンブラーリが入会した。その後も会員数を増やし、1541 年 3 月 25 日、86 名をもってアカデミア・フィオレンティーナとして正式に発足した。アカデミア・フィオレンティーナについては、北田 2003, 74-160 頁を参照。

<sup>86</sup> バルトリがヴェッキオ宮殿の「四大元素の区画」及び「レオ 10 世の区画」の壁画構想に携わったことを示す史料として、フライは 5 通をバルトリからヴァザーリ宛の書簡と同定した。これらの書簡は各区画の総ての室内装飾を網羅するものではなく、内 2 通は前者の区画に属する「四大元素の間」及び「オプスの間」についてのみ示すものである。残る 3 通は後者の区画に関するもので、「ロレンツォ・イル・マニフィコの間」の人物像について、「コジモ・イル・ヴェッキオの間」「ジョヴァンニ・デッレ・バンデ・ネーレの間」「コジモ 1 世の間」の 3 室について、そして「レオ 10 世の間」「クレメンツ 7 世の間」について、歴史画と寓意像の詳細な説明を加えている。Vasari-Frey

に仕えた後、1562年から歿年までの10年間はコジモ1世によって外交官としてヴェネツィアに派遣された。それゆえ同宮殿の室内装飾のための図像構想は、この時点でバルトリに代わってヴィンチェンツォ・ボルギーニ（1515-1580年）に引き継がれ、主として1565年の結婚祝祭に向けて準備が進められた。つまり1561年までに成立していたと推察される《ユノの噴水》の構想は、バルトリが同宮殿のための図像助言者を務めた時期に相当しているのである。

しかしながら《ユノの噴水》とバルトリの繋がりについて、先行研究ではデイヴィスが次の点に初めて触れて以来、具体的な議論がなされてこなかった。デイヴィスは、フィレンツェでバルトリが図像助言者として携わった諸プロジェクトを列挙する中で《ユノの噴水》への関与にも言及し、バルトリの著作『ラジョナメンティ・アカデーミチ』で説明される「フィレンツェ」の擬人像と《ユノの噴水》の同主題の女性像（fig. IV.1.54）が呼応関係を示している点を指摘している<sup>87</sup>。本書は、バルトリが1542年から1548年にかけてアカデミア・フィオレンティーナで行ったダンテの『神曲』に関する5つの講義をもとに再編集されたものであり<sup>88</sup>、各講はバルトリを含む3人の話者による対話形式で展開される。1567年にヴェネツィアで出版されたが、これらの話者および登場人物の生歿年に基づく検討から、執筆年代は1551年6月から1552年10月と推察されている<sup>89</sup>。本書第2講でバルトリは、「フィレンツェ」の擬人像について次のように述べている。

ここでフローラは、お分かりのとおり「フィレンツェ」として意図されています。この女性像の腕はこの都市の強さを示すために武装されるのです。そのように表すことで、その右腕によって肉体の強さが、そして左腕によって魂の強さがそれぞれ示されるのです。私はこの国の人々が、肉体の雄々しさと魂の勇猛さを備え持っていることを表そうとしたわけです<sup>90</sup>。

本節第2項にて言及したように、アンマンナーティの《フィレンツェ》は、確かに右腕は硬質な鎧に覆われている。しかし花を抱く左腕には衣の襷が垣間見えるため武装しておらず、上記の言及と一致しない（figs. IV.1.55-56）。バルトリは同書第1講でアンマンナーティがフィレンツェ及びローマで手がけた作品群を挙げてその力量を高く評価しており、この頃には既に親交を深めていたことが窺えるため、同書の出版以前にこの図像が提供された可能性は考えられよう<sup>91</sup>。しかし《ユノの噴水》を構成する他の擬人像については同書の中に該当するものを見出せず、デイヴィス以降の先行研究でも新たな実証的根拠は示されていない。

1982, nos. CCXX (pp. 410-412), CCXXI (pp. 413-415), CCXXXII (pp. 437-438), CCXXXIV (pp. 439-442), CCXXXVI (pp. 447-451). 同書簡については、松本 1994, pp. 28-30 も参照。

<sup>87</sup> Davis 1975.

<sup>88</sup> 5つの講義は、1542年1月8日、1542年12月17日、1544年1月25日-3月9日、1547年7月10日、1548年3月12日-5月13日に行われた。

<sup>89</sup> Bryce 1983, pp. 253-54; Davis 1975, p. 266.

<sup>90</sup> Bartoli 1567, ragionamento 2, fol. 23v.

<sup>91</sup> Bartoli 1567, ragionamento 1, p. 19v.

これに対して本節3項の考察では、フィレンツェにおいて時期を同じくしてアンマンナーティとカミッリアーニが「パルナッソス」に関連する特殊な図像を共有するに至った制作状況を明らかにすることで、両者がバルトリの構想に基づくものであることが強く示唆された。この考察を補強するものとして本項では、バルトリと《ユノの噴水》を結びつける新たな文献的根拠を提示する。バルトリはレオン・バッティスタ・アルベルティが1485年にラテン語で著した『建築論』のイタリア俗語版を、1550年に公国印刷所トレンティーノから出版した<sup>92</sup>。10書から成るこの書物のなかで「修復」に関する内容に当てられた第10書では、第3章で「水の一般的性質」が述べられている。ここにおいてプルタルコス以来の古代人による水についての見解が示されており、次の一節に《ユノの噴水》の図像プログラムと重なる内容を読み取ることが出来るのである<sup>93</sup>。

常に流れる水は、水瓶に貯められたものをこぼすようにではなく、水が生じるところで、大気から、それもあらゆる大気からではなく、まさしく蒸気になりうる大気から、絶え間なく生まれているという。また大地、とりわけ山はたくさんの気孔の開いたスポンジのようなものであり、こうした気孔を通じて吸いとられた大気は寒さによってさらに凝結し、一つにまとまる。そうして他の様々な証拠からわかるように、最大級の山々から最大の河が生み出されるものと考えられている。

この言及は、本節第1項で抄訳引用した書簡のなかでタナイ・デ・メディチが記した《ユノの噴水》の図像解釈、すなわち大気を吸い込んだ大地から水が湧き上がるとみなす記述と合致している。それゆえ、バルトリは自らが俗語翻訳したこの記述に想を得て噴水を構想したという推測が成り立つのである。そして後年にアンマンナーティからの直接の見聞に基づいてタナイが記した書簡の内容は、バルトリが構想した《ユノの噴水》の図像プログラムを反映したものであることが示唆されるのである。

生活に欠くことの出来ない水の恩恵を明示する噴水は土地の支配者による「善政」の象徴となり、宮殿の近く、とりわけそれが面する広場に繰り返し建設されてきた。《ユノの噴水》においては、コジモ1世およびフィレンツェを示す寓意像が組み込まれていることから、政治的舞台である宮殿の大広間において、コジモ1世の善政を十分に印象づけ得るものであっただろう。一方リチエルソンを初めとする先行研究では、《ユノ》に公妃エレオノーラの投影を読み取っている<sup>94</sup>。これはパオロ・ジョーヴィオの『戦いと愛のインブレーザについての対話』の中で、

<sup>92</sup> Bartoli 1550 を指す。アルベルティの原典は、Alberti 1485。

<sup>93</sup> Bartoli 1550, p. 355 より執筆者抄訳。本論文別冊 Appendix XII。尚、翻訳に際しては Alberti 1485 [邦訳：p. 307; 英訳：p. 214] も参照した。

<sup>94</sup> Richelson 1978, pp. 104-105。《ユノ》にエレオノーラを重ね合わせる主要な見解として、キャンベルは、バンディネリが手がけた北側の謁見壇において歴代メディチの肖像彫刻によって一族の男性系統が示される一方、その対面である南側に予定された《ユノの噴水》では女性系統が表されるとみなした (Campbell 1983, pp. 820 ff.)。ルソーは、エレオノーラが水瓶座であった可能性に基づいてユノと関連づけた (Rousseau 1983, p. 379)。上記2者及びエデルシュタインは、ヴェッキオ宮殿内の「ユノのテラス」に置かれたユノの彫像にエレオノーラが投影されていたと推察している (Edelstein

ユノのアトリビュートである孔雀の多産性によって両者が結びつけられていることに依拠している<sup>95</sup>。更にこの文脈を補強しうる点として、フィレンツェ公国にとっての公妃による経済的な助力を看過することは出来ない。エレオノーラの結婚に際してトレド家は公国に3万スクーディの持参金をもたらした<sup>96</sup>、公妃はその後二十年の内に複数の不動産を購入した。ピサを中心とする複数の地域（1546年）、フィレンツェのピッティ宮殿およびその背後の敷地（1550年）、そしてシエナおよびグロッセートを含む土地（1558年）がそれにあたる。更に所有地において治水灌漑、漁業および小麦生産といった事業を展開して計画的に商業利用することで、継続的に利を得ることを可能にした<sup>97</sup>。エレオノーラによるこうした経済的貢献に鑑みるならば、大気すなわちユノの力を借りて土地に恵みがもたらされるというタナイの解釈は、極めて同時代的な意味合いをもって立ち現れるのである。

---

2004)。

<sup>95</sup> ジョーヴィオの記述は次の通りである。「入念な細工によって印象づけることの出来るメダルの裏面には、フィレンツェ公妃殿下のための別の画、すなわち正面観の孔雀を施しました。この孔雀は翼を高く持ち上げて、雛を左右に三羽ずつ育てており、この鳥の性質を示唆する『節度ある多産 [CVM PVDORE LAETA FOECVNDITAS]』のモットーを伴っています。それゆえ異教の考えに基づき、天の女神ユノに捧げられるものです。(筆者抄訳)」Giovio 1556, p. 94.

<sup>96</sup> Edelstein 2008, p. 745. 持参金として取り決められた5万スクーディのうち、ドン・ペドロ・デ・トレドが3万スクーディを、残りの2万スクーディをコジモ1世が負担した。

<sup>97</sup> 公妃の経済的助力については、太田 2012, pp. 241-242 を参照。

## 2 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシの《ヘラクレスの12功業の噴水》の計画

フィレンツェには大理石のヘラクレス群像7体——すなわちヴェッキオ宮殿2階の五百人大広間に置かれる6体<sup>98</sup>と、同市の南端に建つメディチ家の別邸、ポッジョ・インペリアーレの通用門右手に配されている別の1体<sup>99</sup>——が現存しており、フィレンツェの彫刻家ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ(1525-1587年)による大規模な噴水の計画と関連づけられている(figs. IV.2.1-7)。デ・ロッシは、遅くとも1536年までにはバッチョ・バンディネッリ(1493-1560年)のもとで学んでいた<sup>100</sup>。活動の前半は、バンディネッリがローマに構えていた工房を拠点として、師の片腕として制作に従事するほか、単独注文も請け負っていた<sup>101</sup>。1560年に師が歿すると、その年末にフィレンツェへ帰還し、同地の公爵コジモ1世より「ヘラクレスの12功業の噴水」を委嘱されたとみられる。結果としてこの噴水は完成をみなかったが、実現していれば当時のヨーロッパで最大規模の作品になり得たことに異論の余地はない。

この計画を伝える史料として、ニューヨークのクーパー・ヒューイット美術館には、「ヘラクレスの功業」を題材にした噴水を表す素描が所蔵されている(fig. IV.2.8)。同素描は、現存する彫像群が本来的に大規模な噴水として構想されていたことを伝える唯一の史料として重要な意味をもつものである。先行研究においてデトレフ・ハイカンプは、本素描に関連して、ルーヴル美術館素描版画室に所蔵される「ヘラクレスの物語」を表す別の素描を提示し(fig. IV.2.9)、これが噴水の下部に設けられた水槽の縁を飾る浮彫場面のための構想と考えられることから、いずれの素描もデ・ロッシに帰属した<sup>102</sup>。その後ヒルデガルト・ウッツによる図像解釈をもって、この噴水の構想はフィレンツェ公爵コジモ1世に捧げられたものとみなされている<sup>103</sup>。しかしながら、一次史料の不足や、作品自体が未完成であることに起因して、この噴水の委嘱の状況や、設置予定場所、最終的な仕様に関する一切の情報は明らかになっていない。それゆえ、実現していればコジモ1世の統治下において最大規模を誇るモニュメントとなっていたと考えられながらも、先行研究ではウッツの論考以来、この噴水の構想をめぐる議論が十分になされ

<sup>98</sup> 《ヘラクレスとアンタイオス》《ヘラクレスとケンタウロス》《ヘラクレスとカクス》《ヘラクレスとディオメデス王》《ヘラクレスとエリュメントスの猪》《ヘラクレスとアマゾン王ヒッポリュテ》を指す。

<sup>99</sup> 《天球を支えるヘラクレス》を指す。

<sup>100</sup> ヴィンチェンツォ・デ・ロッシがバッチョ・バンディネッリ工房に入った時期について、1534年とする説(Utz 1966a, p. 33)が提示されているが、本稿ではこれを踏まえたシャラートの見解(Schallert 1998, pp. 14-15)に従った。デ・ロッシの修業時代を巡る概要は、拙稿(友岡 2014b, pp. 115-116, n. 2)を参照。

<sup>101</sup> ローマにてデ・ロッシが単独で仕上げた作品としては、《十歳の少年としてのキリストを伴う聖ヨセフ》(ローマ、パンテオン内聖ヨセフ礼拝堂)がある。デ・ロッシがローマで手がけた他の作品群について、同時代の史料では1584年にフィレンツェで出版されたラファエッロ・ボルギーニの『イル・リポーゾ』において、一定の記述が残されている(Borghini-r 1584, pp. 486-489)。デ・ロッシの活動前半期についてはSchallert 1998を参照。

<sup>102</sup> 1964年にハイカンプがクーパー・ヒューイット美術館所蔵の噴水の構想を表す素描に加え、ルーヴル美術館版画素描室所蔵のデ・ロッシの短信が付された物語場面を表す素描を、本彫像連作に関連するものとしてデ・ロッシに帰属して提示した(Heikamp 1964)。クーパー・ヒューイット美術館所蔵の素描については、2014年にボストンで開催された彫刻家の素描展に出展された折にも、その作者同定に関する見解は覆されていない(Exh.cat. Boston 2014, cat. 39, pp. 222-224)。

<sup>103</sup> ハイカンプが噴水の構想を示す素描を提示したことを受け、1971年にはウッツ(Utz 1971)がこれをデ・ロッシによる実現しなかった「ヘラクレスの12功業の噴水」の計画であることを図像学的な分析を通じて示し、現在まで通説となっている。

ているとは言い難い。本節では、現存する素描群を詳細に検討することで、初期構想におけるモチーフの着想源を新たに指摘し、この噴水計画を歴史的文脈に位置づけることを目的とする。さらに、研究史において看過されてきた現存のヘラクレス群像に対して、造形分析を行うことで、言わばバンディネッリの一番弟子として名を連ねながらも未だ不明瞭なデ・ロッシの円熟期の造形様式を輪郭づけようとするものである。

## 2-1 初期計画

本項では、当該の噴水制作に関連するものとして現存している3点の大型の素描を主要な考察対象とし、初期計画の様相を明らかにする。フィレンツェに現存するデ・ロッシによるヘラクレスの彫像群7体について、その委嘱の経緯を伝える最も早い史料は1568年の『美術家列伝』第2版におけるジョルジョ・ヴァザーリの記述である<sup>104</sup>。ヴァザーリによれば、1560年末にフィレンツェ公爵コジモ1世がローマに滞在していた折、デ・ロッシが《テセウスとヘレネ》の群像 (fig. IV.2.10) を見せ、それが評価されたためこの彫刻家はフィレンツェへ帰還し、公爵よりヘラクレス連作の委嘱に与ったようである<sup>105</sup>。デ・ロッシは、1561年のうちには連作の構想に着手したものと考えられる<sup>106</sup>。その後の制作の経過は、次の4点の一次史料によって断片的に裏付けられる。すなわち、1560年代初頭よりヴェッキオ宮殿の改築事業に携わっていた人文主義者ヴィンチェンツォ・ボルギーニがコジモ1世に宛てた1563年の書簡<sup>107</sup>、前述の1568年のヴァザーリの記述<sup>108</sup>、翌1569年になされたデ・ロッシへの支払い記録<sup>109</sup>、1584年に刊行されたラファエッロ・ボルギーニの『イル・リポーゾ』における記述<sup>110</sup>である。これらの情報を総合すると、デ・ロッシは1563年までに4体に着手し、そのうち《ヘラクレスとカクス》(fig. IV.2.1) と《ヘラクレスとケンタウロス》(fig. IV.2.2) の2体を1568年までに完成させた。さらに現存する7体のうち、先の完成作2体を除く5体 (figs. IV.2.3-7) を1584年までに仕上げていたが、現存しない別の5体はこの時点で粗彫りの状態にあったことがわかる。すなわちラファエッロ・ボルギーニの記述にある通り、デ・ロッシが「ヘラクレスの十二功業」の連作を目

<sup>104</sup> Vasari 1568, vol. 6, pp. 247-248. 同列伝におけるデ・ロッシについての記述全体の翻訳は、拙稿 (友岡 2014b) を参照。

<sup>105</sup> 《テセウスとヘレネ》は現在、フィレンツェのピッティ宮殿ボーボリ庭園内のグロッタ・グランデに置かれている。この群像はコジモ1世の目に入れる目的で、1558年から1560年の間にデ・ロッシによって自発的に制作された。本作品については、Schallert 1998, pp. 201-223; Galleni 1991 を参照。

<sup>106</sup> ウッツは、デ・ロッシが1560年末にフィレンツェに帰還した後、1561年から1563年春にかけてフィレンツェの大聖堂内陣席の制作に携わっていたものの、これと並行して1561年にはヘラクレス連作の委嘱を受け、同年中に構想のための素描に着手していたとみている (Utz 1971, pp. 347, 352)。

<sup>107</sup> ヴィンチェンツォ・ボルギーニからコジモ1世に宛てた書簡では、フィレンツェの大聖堂造営局にデ・ロッシによる彫像四体が置かれている旨が記されている。彫像の具体的な主題は不明だが、制作途上のヘラクレス連作を指すものとみられている。Ceppi-Confuorto 1980, p. 344.

<sup>108</sup> 註104を参照。

<sup>109</sup> 1569年、彫像2体に対する支払いがデ・ロッシになされた (Vasari-Frey 1940, p. 180, nos. 14, 15)。これらはヴァザーリの記述に登場する2体と推察される。

<sup>110</sup> Borghini-r 1584, pp. 595-598.

指していたことは確実視されるものの、これが完成をみることはなかったのである。

次に、考察対象とする3点の大型素描について、その概要と推察される制作年代を示す。まず、先に挙げたクーパー・ヒューイト美術館所蔵の噴水の素描 (fig. IV.2.8) について、その制作年代を裏付ける史料は見当たらない。先行研究では、ハイキャンプとウッツはいずれも制作年代への具体的な言及を避けながらも、これをデ・ロッシによる構想素描とみなしている。中段の円形水盤の縁には、コジモ1世の象徴として常用されていた山羊座を示すカプリコルノにプットーが跨がる彫刻装飾が施されているほか (fig. IV.2.11)、最頂部のヘラクレスが支える天球には、黄道を表す帯の中央に同じく山羊座のモチーフが表されている (fig. IV.2.12)。さらにコジモ1世は、フィレンツェ共和国の象徴として伝統的に用いられてきたヘラクレス図像<sup>111</sup>を、自身の象徴として1530年代初頭から用いており、ここにおいて「ヘラクレスの功業」とフィレンツェ公爵としての自身の功績を重ねあわせる意図があったと考えられる。したがってこの噴水がコジモ1世を記念するものであることは確実であり、本素描はその治世の間に描かれたものとみてよいだろう。

また、ここに描かれたヘラクレスの立像6体のうち、下段と最頂部に表された4体は現存する大理石の彫像と同じ主題を示すものだが、その形態はいずれも完成作とは異なっている (figs. IV.2.1-3, 7, 8) <sup>112</sup>。それゆえ本素描は、彫像が仕上げられるより以前に描かれたものと見るべきだろう。さらに、下部の水槽の側面に設けられた長方形の区画については、正面のそれには複数の人物から成る物語場面が、その右手に隣接する面には単独の人物像が、それぞれ至極簡素な筆致で描かれているばかりで<sup>113</sup>、左側の面に至っては空白のままに残されている (fig. IV.2.13)。したがって本素描は後年の作ではなく、構想の初期ないし少なくともその途上を示すものとするのが妥当である。1560年末にデ・ロッシがフィレンツェに帰還してまもなくヘラクレス連作が委嘱され、1563年には彫像制作がすでに始められていることに鑑みれば、本素描の制作年代は1561年から1562年頃と推察し得る。

一方、ルーヴル美術館所蔵の《ヘラクレスの物語習作》(fig. IV.2.9) は、噴水の水槽の欄干

<sup>111</sup> フィレンツェでは早くも13世紀後半、共和国の官印にヘラクレスの単身像が美徳の範例として用いられていた。その後、メディチ家が同地を支配するようになると、とくにロレンツォ・イル・マニフィコによってヘラクレス図像が好まれ、ポッライウオーロによるヘラクレスの小型ブロンズ像 (註150を参照)、さらにヘラクレスの功業を表す絵画3点 (内2点が現存) がロレンツォの広間に置かれていたことがわかっている。1498年には、アンヌス・ダ・ヴィテルボによってヘラクレスがフィレンツェの創建者として解釈され、共和国の象徴として積極的に用いられるようになった。フィレンツェにおけるヘラクレス図像については Ettliger 1971; Exh. cat. Firenze 2013 を参照。

<sup>112</sup> 対カクス、対ケンタウロス、対アンタイオスを表す各ヘラクレス像、そして天球を支えるヘラクレス像を指す。

<sup>113</sup> デ・ロッシによる当該の素描では、下部の水槽の正面区画に描かれているのは、おそらく「犠牲の仔羊」の場面だろう。中央に仔羊の立つ台座が置かれ、その向かって左で腕を振り上げる2人の人物は、コジモ1世の父ジョヴァンニ・デッレ・バンデ・ネーレの墓碑の台座を飾る物語場面のためにバンディネリが構想した、戦闘場面を描いた素描 (オックスフォード、クライスト・チャーチ絵画館所蔵) において、中央右側で背を合わせて剣を構える2人の兵士と酷似している。さらに、デ・ロッシの素描において、向かって右側の区画には単独の人物像が描かれているが、これはバンディネリの同素描において中央左側で両腕を対角線状に開いて襲いかかる兵士の姿、あるいは同じくバンディネリが1520年代前半に制作した模刻《ラオコーン》(フィレンツェ、ウフィツィ美術館所蔵) を彷彿とさせる。この類似性の指摘はこれまでになされていないが、本稿では指摘にとどめ、デ・ロッシの素描におけるバンディネリからの引用については稿を改めて検討したい。ここに挙げたバンディネリの素描については、Exh. cat. Cambridge 1988, cat. 43, pp. 75-76 を参照。バンディネリの《ラオコーン》については、Capecchi 2014 を参照。

部分に嵌め込まれるブロンズ浮彫のための素描とみられる。すなわち本素描の裏面には、デ・ロッシの署名とともに、1560年代初頭よりヴェッキオ宮殿改築事業における図像助言者の立場にあった捨て子養育院院長ヴィンチェンツォ・ボルギーニに宛てた短信が残されていることがわかっている<sup>114</sup>。そこには、本素描が「ヘラクレスの群像下部のブロンズ製の物語画のため」の下絵であることと併せ、これについてボルギーニに助言を仰ぐ内容が記されているのである。この文面においてコジモ1世を表す「閣下」という言葉に「Altezza Serenissima」という大公の尊称が用いられているため、本素描は彼がトスカーナ大公に就任した1569年以降に描かれたものと考えられている<sup>115</sup>。

前述の通り、1568年のヴァザーリの記述および1569年の支払い記録のいずれにおいても、彫像群についてのみ言及されており、本素描以前に、噴水のための物語画の制作に関する情報は現存する史料の上では提供されていない。また本素描の中央最前景には、一段低く掘られた楕円形の空間が「冥府」の舞台を形づくっており、ケルベロスを手なずけて棍棒を担いで歩を進めるヘラクレスの後ろ姿が描かれている (fig. IV.2.14)。この印象的な所作は、サン・ロレンツォ聖堂の主祭壇に最も近い南側廊の壁面にブロンズイーノが1569年に仕上げた《聖ラウレンティウスの殉教》を表す壁画において、最前景左に描かれる背面観の男性像を彷彿とさせる (fig. IV.2.15)。ブロンズイーノによる同壁画の習作では、壁画に表された腰布は未だ描かれておらず、それゆえデ・ロッシによるヘラクレスの裸体の背面観とよく似ていることがより明らかになる (fig. IV.2.16)<sup>116</sup>。とりわけ、球体に近い臀部の膨らみや、臀部と太腿の厚みとの比率、また下に降ろした腕に見える細かな筋肉の動きといった具体的な細部に、両者の類似をみとめることが出来るのである。したがってデ・ロッシによる本素描を1569年以降のものとする見解は、描写の面からも妥当なものと考えられる。

先行研究においてデ・ロッシに帰属されている上述の2点の素描に加え、「ヘラクレスとケルベロスの犬の噴水」を描いた素描の存在が指摘されている (fig. IV.2.17)。この素描は1982年にクリスティーズのオークションにおいてデ・ロッシに帰属されるかたちで出品されたが、その後の所在はわかっていない。先の《ヘラクレスの12功業の噴水》の素描とほぼ同じ大きさの紙葉には、ケルベロスの犬を捕らえるヘラクレス像を頂点に配したカンデラブロ型の噴水が表されている。研究史においては、1997年にハイカンブがこの素描について言及しているのみであり、これまで具体的な考察がなされていない。筆者はこれを、本節で考察対象としている噴水計画と関連してデ・ロッシが制作した代替案であると考え。この仮説については、本節第4項にて、本素描の造形分析を通じて考察したい。

<sup>114</sup> ヴィンチェンツォ・ボルギーニ (1515-1580年) は当時、コジモ1世のもとで図像助言者の立場にあった。現在素描には裏打ちされているため確認することが出来ないが、ハイカンブによってデ・ロッシからボルギーニに宛てた短信の全文が明らかにされている (Heikamp 1964, pp. 38-39)。

<sup>115</sup> Heikamp 1964.

<sup>116</sup> パリ、ルーヴル美術館素描版画室 inv. 10900F を指す。本素描については Exh. cat. New York 2010, cat. 59, pp. 214-215 を参照。



## 2-2 現存する彫像群の造形分析

初期構想を表す素描群の考察に移るに先立ち、まず現存する彫像群の造形を考察する必要があるだろう。ヴァザーリは『美術家列伝』第2版(1568年)にて、デ・ロッシが制作した彫像として《ヘラクレスとカクス》《ヘラクレスとケンタウロス》の2体(figs. IV.2.18-19)を挙げている。さらにボルギーニは1584年に出版された『イル・リポーゾ』のなかで、現存する7体の完成を伝えている。したがってヴァザーリが伝える2体を除く5体は、1568年から1584年の間に制作されたことになる。しかしデ・ロッシは1563年3月には工房を構えており、1587年に死去する彼の晩年にあたるため、こうした巨像が部分的に工房作であることは十分に考えられる。

7体の制作者の帰属の問題について、ハイカンブは現存するヘラクレス連作のうち《ヘラクレスとカクス》《ヘラクレスとケンタウロス》《ヘラクレスとアンタイオス》の3体(figs. IV.2.18-20)をデ・ロッシの手に帰した<sup>117</sup>。すなわちこの3体では「正面観が考慮されており、この特質がバンディネッリ的な伝統に合致する<sup>118</sup>」として、バンディネッリのもとで修行を積んだデ・ロッシの造形を示す根拠としている。一方、《ヘラクレスとアマゾン女王ヒッポリュテ》《ヘラクレスとディオメデス王》《ヘラクレスとエリュメントスの猪》(figs. IV.2.21-23)については、先の3体には見られない強いひねりの形態が意識されているとして、デ・ロッシの様式的特徴と区別されている。これら3体は、《ヘラクレスの噴水の構想》の素描にも描かれておらず、その造形の決定にデ・ロッシがどの程度関与したのかは不明である。

ハイカンブによる様式分類のとおり、《ヘラクレスとアマゾン女王ヒッポリュテ》《ヘラクレスとディオメデス王》《ヘラクレスとエリュメントスの猪》(figs. IV.2.21-23)は、真作とみなされた上述の3体に比して寸胴であり、組み合う2体の距離が近く、群像としての密な一体感が重視されているのを見てとることが出来る。つまり《ヘラクレスとディオメデス王》(fig. IV.2.23)は《ヘラクレスとアンタイオス》(fig. IV.2.20)と同様に敵を抱えるタイプの像であるが、後者ではアンタイオスがヘラクレスから離れようとする動きを見せていたのに対して、前者では逆にディオメデス王がヘラクレスに絡み付くことによって抵抗を示している。また《ヘラクレスとアマゾン女王ヒッポリュテ》(fig. IV.2.21)は《ヘラクレスとカクス》(fig. IV.2.18)や《ヘラクレスとケンタウロス》(fig. IV.2.19)と同様に上方から敵に襲いかかるタイプの像だが、カクスあるいはケンタウロスが片腕を上げてヘラクレスの攻撃を避けているのに対し、アマゾン女王は同様に片手を振りかざしながらも、反対の手を手前に出すことで、依然として応戦の手を休めず、迎え撃つ意思をみせている。加えてヘラクレスの頭部表現についても、《ヘラクレスとカクス》《ヘラクレスとケンタウロス》《ヘラクレスとアンタイオス》の3体では、顔が体軀に対して小さく作られ、丸みのある輪郭を見せているのに対して、別の3体では広めの額と面長の輪郭に差異を見出すことが出来る(figs. IV.2.25-28)。

<sup>117</sup> Heikamp 1964.

<sup>118</sup> Heikamp 1964, p. 39

一方、ポッジョ・インペリアーレに移された《天球を支えるヘラクレス》(fig. IV.2.24) については、1572 年にフランチェスコ 1 世の書斎のために作られた小型のブロンズ像《ウルカヌス》(fig. IV.2.29) との様式的類似性が指摘されている<sup>119</sup>。ここでもやはり、ずんぐりとした肉体表現や顔貌表現は、後者の 3 体に通じるものと言える。《ヘラクレスとアマゾン女王ヒッポリュテ》は《ヘラクレスとカクス》や《ヘラクレスとケンタウロス》《天球を支えるヘラクレス》の 4 体 (figs. IV.2.21-24) では、デ・ロッシが 1560 年代後半に《バッコス》や《死せるアドニス》(figs. IV.2.38-39) において到達していた複数の相反するひねりを共存させた様式的特徴が見出せず、むしろそれ以前の単調なひねりを加えた形態に回帰していると言わざるを得ない。《バッコス》と《アドニス》の造形については後述するが、本項では以上の観察を根拠としてハイカンプに倣い、《ヘラクレスとカクス》《ヘラクレスとケンタウロス》《ヘラクレスとアンタイオス》の 3 体 (figs. IV.2.18-20) をデ・ロッシに帰属し、考察を進めるものとする。

これら 3 体の造形を考察するにあたり、まず基準となるデ・ロッシの作品を確認する。《テセウスとヘレネ》(figs. IV.2.30-31) は、デ・ロッシにヘラクレスの連作が委嘱される契機となった作品である<sup>120</sup>。1558 年以降 1560 年 2 月までにローマで制作された<sup>121</sup>。この直後に同地を訪れたコジモ 1 世はこれを高く評価し、同群像は 1560 年から 1561 年にはフィレンツェのピッティ宮殿に運ばれた<sup>122</sup>。この群像においてデ・ロッシは、人物像に感情を付与し、ヘレネを捉えようとするテセウスと彼から離れようとするヘレネの相反する仕草を群像として巧みにまとめあげている。本作品は、テセウスが盟友でラピタイ族のペイリトオスとともに、互いの後妻としてゼウスの娘を略奪する約束を交わし、テセウスが美女として知られたヘレネを攫う場面を表している。腰掛けるテセウスは左脚にヘレネを載せ、上半身を彼女の方へ大きくひねってその身を抱きかかえている。脚部はそれと反対の方向へ投げ出されているためテセウスの上半身には強いひねりが生まれているが、左方へ向けた頭部から右肩へ繋がる輪郭線が正面観において右方へ伸ばす左脚の膝下と呼応して、彫像に向かって左手前から右奥へ向かう斜め方向の大きな動きを生み出す。ヘレネはこの動きのなかに取り込まれるように、向かって右後方へと身をよじりながらテセウスから逃れようとしている。テセウスの足元にはアテネ王の象徴と解される雌豚が彼のアトリビュートである剣とともに、腹を露わにして仰向けになっており<sup>123</sup>、その上に配された両者は坐像としては不安定である。しかしながら両像は上述の右奥へ向かう旋回運動を共有することで、相反する動きを採りながらも群像としての一体感を獲得していると言える。テセウスの上半身には、ヴァチカンの《ピエタ》に認められるミケランジェロの銘

<sup>119</sup> Utz 1971.

<sup>120</sup> 《テセウスとヘレネ》については Schallert 1998, pp. 201-223 を参照。

<sup>121</sup> 1558 年 5 月 7 日付、デ・ロッシ (在ローマ) からバンディネリ (在フィレンツェ) 宛の書簡 (Biblioteca Nazionale Centrale di Firenze, mss. Palatini, Bandinelli 2, viii, c. 50 recto; Utz 1971, p. 362, doc. 2) において、この群像とみられる作品をコジモ 1 世への献呈作品として準備している旨が記されている。1560 年 2 月 24 日、デ・ロッシはコジモ 1 世に対して本作品の視察を申し込んでいる。Utz 1971, p. 344.

<sup>122</sup> このとき同群像は宮殿内に置かれたとみられるが、1587 年には現在の設置場所である同宮殿付属ボーボリ庭園のグロッタ・グランデに移設された。

<sup>123</sup> 雌豚は「トロイア」と称されることからアテネ王の象徴とみなされているが、トロイア戦争との関連性から、テセウスをパリスとみなす見解も混在している。

文と同様に、デ・ロッシの制作を示す銘文を刻む帯が架けられており、同郷の巨匠に対する強い参照態度は明らかである (fig. IV.2.32)。ミケランジェロ作品との関連性については、コントラポストをベースとしながらひねりの動作を加えるテセウスに、《モーセ》や《ヌムール公ジュリアーノ》 (figs. IV.2.33-34) に由来する形態を見出せるほか、ヘレネにおいては、向かって右方へ身体をよじらせながらも両腕を反対方向へ回すことで2つの逆回転を取り入れている点で、ミケランジェロの《曙》や《ダヴィデ=アポロン》、さらに《勝利》にみられる複数のひねりを同居させた <sup>フィグーラ・セルペンティナータ</sup> 蛇 状 形 態 を認めることが出来る (figs. IV.2.35-37)。

一方、フィレンツェに帰国後の作品として、《バッコス》と《死せるアドニス》が挙げられる (figs. IV.2.38-39)。この2体については、ボルギーニとバルディヌッチの記述を根拠として、イザベッラ・メディチがヴィラ・バロンチェッリに置くために購入した作品とみなされている<sup>124</sup>。コジモ1世がこのヴィッラを娘イザベッラに与えたのは1565年10月1日であり、したがってこれが上記2体の制作年代の上限を示す。ウッツは、とりわけ《バッコス》が二重のひねりを備えた複雑な動性を示す点を指摘した (fig. IV.2.38)。すなわち、身体を後方へ引くことで左脚にかかるはずの重心が、一歩踏み出した右脚に移動しており、さらに、右にひねった頭部は同時に正面へと向けられている。この奇妙なバランスを保った造形は、類似する姿勢をとるミケランジェロによる彫像群においては保たれているコントラポストを覆すかのような新たな柔軟性を備えるものである。この特徴は、同様に細く滑らかな肢体をみせる《死せるアドニス》にもあてはまる (fig. IV.2.39)。アドニスは左腕で頭を抱えるように支え、左上半身を完全に起こしている。それゆえ本来ならば右の腰に重心が置かれるはずであるが、彼は猪の頭に掛けるように立てた右脚を左脚に交差させており、重心は左腰へと移動している。さらに、垂れ下がった頭部は、依然として起きあがる意思を見せるように僅かにもたげられている。こうした相反する動作をひとつの所作に組み込む造形は、デ・ロッシが1560年代後半において、おそらくはミケランジェロの造形から展開する形で到達した個人様式であったと考えられる。以下では、ここまで言及した基準作を比較対象として、デ・ロッシのヘラクレス群像を検討する。

《ヘラクレスとカクス》《ヘラクレスとケンタウロス》《ヘラクレスとアンタイオス》の3体では、襲いかかる者と身をかかわす者が相反する動作を採りながらも群像としてひとつの大きな流れあるいは旋回運動としてまとめあげられている (figs. IV.2.18-20)。この基本的な様式的特徴に加え、いずれの人物像も感情が表出した劇的な表情をみせる点は、デ・ロッシがすでに《テセウスとヘレネ》 (figs. IV.2.30-31) において到達していた特質と共通するものと言える。これらのうち《ヘラクレスとカクス》は、他の2体に比してやや正面性が強い群像である (fig. IV.2.18)。しかしまさにその正面観において、ヘラクレスが脚を開いて棍棒を振り上げる仕草を採ることにより作り出される対角線の動きは、その足元で仰向けに倒れ込むカクスへと滑らかに接続し、左上奥から右下奥へ向かって弓なりの動線を描く群像として構成されていることがわかる。ウッツはこの群像と上述の《バッコス》や《死せるアドニス》との様式的類似性を指摘しているが、

<sup>124</sup> Utz 1971, p. 344.

《ヘラクレスとカクス》の各人物像自体には、これら2体に認められる複雑なひねりの要素はまだ見出せない。したがって筆者の見解では、《ヘラクレスとカクス》は《テセウスとヘレネ》により近い時期、すなわちヘラクレス連作が委嘱された直後の時期に編年しうるものと考えられる。ウッツが主張するこの彫像の動性は、むしろヘラクレスの右側面観が見せる緩やかなS字曲線に由来するものだろう (fig. IV.2.40)。これはミケランジェロがすでに1510年代に手がけていた《瀕死の奴隷》の滑らかな伸運動に共通するように思われる (fig. IV.2.41)。また現在デ・ロッシのヘラクレス連作と共に大広間に安置されるミケランジェロの《勝利》においても側面観における曲線運動は顕著であり、前方へ突き出す細身の引き締まった長い太ももの表現に類似性を認めることが出来る (fig. IV.2.42)。

一方、《ヘラクレスとケンタウロス》(fig. IV.2.19)には、《バッコス》と《死せるアドニス》にみられるような重心の移動を伴う複数のひねりの動作が看取される (figs. IV.2.38-39)。すなわちヘラクレスにおいて、向かって左後方へと上半身をひねって棍棒を振りかざすため本来右脚にかかるはずの重心が、ケンタウロスをまたいで一歩踏み出した左脚へと移動している。さらにケンタウロスの左腕を後方へ強く引きながら、頭部は前方へ突き出している。このきわめて複雑な二重のひねりをもつ姿勢は、《バッコス》(fig. IV.2.38)と共通するものだろう。したがって本彫像は、後年の《バッコス》に近い時期に制作されたものと考えられる<sup>125</sup>。

ここにみられるヘラクレスの形態には、ミケランジェロによる《ヘラクレスとカクス》とみられる粘土モデルとの類似性も認めることが出来るだろう (fig. IV.2.43)<sup>126</sup>。すなわち両者は、身体を折り曲げる人物を別の人物が上から押さえ込む点で共通の様式的特徴を示すものである。この粘土モデルでは上になる人物像が正面にひねり回した左腕を敵に向かって垂直に振り降ろす様子が、腕の動きと連動する視線と相まって、射抜くような闘争心を露にしている。デ・ロッシでは、ミケランジェロのように2体の人物が絡み合いながら渾然一体となる構図とは異なるが、2体の人物ともに上半身を翻すようにひねりあげて対峙する独特の造形はミケランジェロの形態との強い繋がりを感じさせる。ミケランジェロでは敗者に対する勝者を明示した上で、強い垂直方向の動きの中で両者に群像としての一体性を作り出していたのに対して、デ・ロッシでは打ち負かされるケンタウロスがヘラクレスを仰ぎ見て視線を交わすことで、そこに精神的な対峙をもって張りつめる一瞬の緊張感を作り出しているのである。

《ヘラクレスとアンタイオス》(fig. IV.2.20)は、第Ⅲ章にて論及したように、ヘラクレス連作がデ・ロッシに委嘱されたのと時期を同じくして、アンマンナーティがカステッロの庭園の大噴水のためにブロンズで同主題の彫像を仕上げていた (fig. IV.2.44)<sup>127</sup>。デ・ロッシの彫像がアンマンナーティのブロンズ像を反映するものであることは、一見して明らかである。後者は、アントニオ・ポッライウオーロによる小型のブロンズ像と形態上の親近性がきわめて高い

<sup>125</sup> ウッツは本彫像を、《ヘラクレスとカクス》とともに連作の初期に編年しているが、本文で論及したように、両群像は異なる様式を示している。

<sup>126</sup> ミケランジェロによってこの粘土モデルが制作された背景については、第Ⅲ章第1節第3項を参照。

<sup>127</sup> カステッロのメディチ家別邸付庭園の《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》については、第Ⅲ章第1節第3項を参照。

(fig. IV.2.45)。ポッライウオーロのブロンズ像はロレンツォ・イル・マニフィコの委嘱とされ、1492年のメディチ家の所蔵品目録に初めて記されてから、1587年にはカシーノ・ディ・サン・マルコの目録に、17世紀にはガルドローバの目録に、18世紀および19世紀にはウフィツィのギャラリーにその存在が確認されており、当初より継続して同家の所有であることが確かな作品である<sup>128</sup>。ルネサンス期におけるこの図像は、例えばピッティ宮殿所蔵の古代作品 (fig. IV.2.46)<sup>129</sup>を直接の手本として、ヘラクレスがアンタイオスを背後から抱え込む造形が主流であり、アンティーコなどがこの形式を踏襲している (fig. IV.2.47)。しかしポッライウオーロはフィレンツェの大聖堂のポルタ・デッラ・マンドルラの装飾において作られた、両者が向き合う姿勢に回帰した (fig. IV.2.48)。先行作例としては、レオナルド・ベズッツォの写本挿絵が挙げられるが (fig. IV.2.49)、後年の範例となったのはブロンズ像であったと思われる。すなわち1560年3月までに仕上げられたアンマンナーティによる同主題の大型のブロンズ像にとって、ポッライウオーロの造形が直接の源泉となっていることは明らかである。アンタイオスの脚が完全に地上から離れ、片足を大きく後ろへ投げ出し、片手でヘラクレスの頭部を押さえつける造形は、そのシルエットにおいてほぼ一致している。

後述するが、デ・ロッシは噴水の構想を表す素描では、ポッライウオーロ、そしてアンマンナーティによる各彫像との類似性の高い「ヘラクレスとアンタイオス」の群像を描いている (fig. IV.2.50)。しかし実際に制作された大理石像では、アンタイオスの左手は虚空をつかむかのように上方へ伸ばされ、先行作例に見られるような両腕が織りなす鋭角の形態からは離れている (fig. IV.2.51)。この完成作品の仕草は、同じくポッライウオーロがフィレンツェ近郊のヴィッラに描いた《踊る裸体人物像》の造形を彷彿とさせよう (fig. IV.2.52)。おそらく異教主題に根ざすと思われるこの壁画において、とくに左端で背を反らすように跳躍する人物は、ダンスの軽やかさよりもむしろ、上方へ向かってひねり上げられるような力強さを秘めている点で、大地の力を失ってもがき苦しむアンタイオスの造形に転用しうるものと考えられる。加えて顔貌表現においても、口を半開きにして上空を仰ぎ見る視線に類似性がみとめられる点はきわめて示唆的である。

ここまでの考察から、デ・ロッシは1560年にヘラクレス連作を委嘱された時点で、主題となる物語に依拠した人物像の感情を身体運動や顔貌に表出させ、それを群像として大きな流れのなかにまとめあげる力量を備えていたことがわかる。それはほとんどバロック様式を予告するような、複雑に絡み合うドラマティックな群像であり、ここにおいてデ・ロッシの個人様式が確立していることが看取される。しかしながらデ・ロッシは、委嘱を受けた1560年末までにはすでに《テセウスとヘレネ》(figs. IV.2.30-31)においてこうした形態に繋がる様式に到達

<sup>128</sup> 本作品および関連するポッライウオーロのヘラクレスを主題とする作品については、第三章第1節第3項を参照。

<sup>129</sup> ピッティ宮殿所蔵の古代彫像《ヘラクレスとアンタイオス》については、1509年にユリウス2世がこれをヴァティカンに運ばせたことが記録上の初見である。アンティーコは少なくとも1497年にはローマにあり、そこで本像を目にした可能性が高い。ただし1530年のヘームスケルクの素描では、当時は両像ともに両脚と両腕を欠損し、アンタイオスについては頭部も欠いている状態であった。コジモ1世は1560年に教皇ピウス4世から本群像を譲り受け、現在の姿に修復された。Exh.cat. Tokyo 1993, pp. 140-141.

していたにもかかわらず、初期構想においては完成作品とはまったく異なる彫像を描いている。以下では、その初期構想を表した大型の素描群を考察対象として、デ・ロッシの造形上の着想源を明らかにしたい。

## 2-3 初期構想を表す素描群の検討

### 2-3(1) バンディネッリの造形との関連性

デ・ロッシによる未完成の噴水計画を考察する上で、上述した現存する素描群は、本来的な構想の一端を伝える一次史料であると同時に、彫刻家がいかなる着想源を有しており、自身の造形を通じてどのようなアピールを志していたのかを読み取るために極めて重要である。上述の通り、「ヘラクレスの 12 功業の噴水」の計画に関連する大型の素描は、3 点を挙げることができる。すなわち、噴水の全体像を表した、クーパー・ヒューイット美術館（ニューヨーク）所蔵の《ヘラクレスの 12 功業の噴水の構想》(fig. IV.2.53)、噴水下部の浮彫装飾パネルの構想を伝える、ルーヴル美術館（パリ）所蔵の《ヘラクレスの物語》(fig. IV.2.54)、そしてハイキャンプによってその存在が伝えられた、《ヘラクレスとケルベロスの噴水》を描いた素描 (fig. IV.2.17) である。ここではまず、これらのうちデ・ロッシに帰属される《ヘラクレスの 12 功業の噴水》に関連する前者 2 点の素描に焦点を当て、いずれの素描にもバンディネッリの造形が着想源として用いられていることを具体的な造形の比較を通じて示したい。デ・ロッシがバンディネッリの歿年までその片腕として制作を補佐していた事実に鑑みれば、自身が単独で請け負った作品に師の造形が反映されていることは至極当然のことである。それゆえ先行研究では、両者の密接な関係をめぐる具体的な考察は未だ十分になされてはいない。この点を踏まえて以下では、デ・ロッシによる噴水の素描における引用元としてのバンディネッリの素描を新たに提示する。さらに、初期構想の段階でもより早い時期に描かれたと推察されるニューヨークの素描と、より遅い時期のものとみられるパリの素描では、師の造形に対する参照の態度が異なることに注目し、噴水の構想過程を通じてデ・ロッシがバンディネッリの造形を参照した意図を再解釈する。

ニューヨークの素描には、方形の低い台座に立つ八角形の水槽と一つの円形水盤で構成されるカンデラブロ型の噴水が表されている (fig. IV.2.53)。ヘラクレス像は正面から見える 6 体が描かれているが、水槽の 8 辺の縁と、水盤上部におそらく 3 つ予定されている持送りの上、そして最頂部に各 1 体ずつ、すなわち全 12 体が配される計画であることが読み取れる。これらの立像に加え、上述の通り、水盤の縁に描かれた幼児ヘラクレス像と、カプリコロノ<sup>130</sup>に跨がるプットーが描き込まれていることから (fig. IV.2.11)、先に示したように、これが「ヘラクレス

<sup>130</sup> コジモ 1 世が常用していたシンボルについては Richelson 1978 を参照。

の12功業」を主題としてコジモ1世に捧げられた噴水を表していることは確実視される<sup>131</sup>。

本素描に描かれたモチーフのうち、ここではまずバンディネッリに由来する描写のなかでも、その直接的な形態の借用が認められるモチーフを特定することに焦点を絞って論を進める。まず円形水盤の上部、左側のS字持送りの上に描かれる「ケルベロスを狩るヘラクレス」は、一歩踏み出して右手で怪物を押さえつけながら、振り返り様に、怪物に掛けた手綱を掴んだ左手を右上方へ掲げている (fig. IV.2.55)。この特徴的な仕草は、バンディネッリによる「戦闘場面の裸体人物群像」の素描で、闘う裸体男性のうち中央に描かれた人物の姿に、一致する形態を見出すことが出来る (fig. IV.2.56)。この素描は、1512年頃にバンディネッリが手がけた《レダと白鳥》の板絵 (fig. IV.2.57) の後景右手に描かれた戦闘場面と一致し、その準備素描とみられている<sup>132</sup>。一方、バンディネッリは後年に、同じ形態を《ノアの酩酊》の浮彫で、父親から布を剥ぎ取る息子ハムのポーズに転用した (fig. IV.2.58)<sup>133</sup>。しかしハムの頭部や体軀では捻りの動作が強められており、デ・ロッシの描いたヘラクレス像は寧ろ、より早い時期の《レダと白鳥》に登場する裸体男性像に近い。バンディネッリの素描には、彫刻制作のための人物習作にみられる解剖学的な描写に対する高い能力がみとめられるため、これが後年の浮彫制作のための準備素描である可能性も指摘されている。またデ・ロッシが「ヘラクレスの12功業の噴水」を構想した当時、バンディネッリの板絵はサルヴィアーティ家の所有であり、フィレンツェの同家のヴィッラに所蔵されていた<sup>134</sup>。したがってデ・ロッシがこの完成作品を目にした可能性は少なくないが、それ以上に、バンディネッリの本素描が工房にて長期にわたって共有されていたことは十分に想定される。

次に、デ・ロッシによる噴水の構想において、八角形の水槽の各面に描かれた物語場面の装飾に目を移したい。そこには、水槽の各側面に長方形の区画が設けられており、そのうち2つに粗略なスケッチがなされている (fig. IV.2.59)。また上述の通り《ヘラクレスの物語》を表したパリの素描は、この区画を飾るブロンズ・レリーフのための下絵として用意されたものであることがわかっている (fig. IV.2.54)。以下では、このいずれの描写においても、バンディネッリによる戦闘場面を表した一葉の素描からの人物像の借用を見出しうる点を新たに指摘する。

1540年、コジモ1世は教皇軍の傭兵隊長として活躍して1526年に戦死した父ジョヴァンニ・デッレ・バンデ・ネーレ<sup>135</sup>の記念墓碑を、バンディネッリに正式に委嘱した (fig. IV.2.60)<sup>136</sup>。

<sup>131</sup> ヒルデガルド・ウッツ (Utz 1971) による《ヘラクレスの12功業の噴水》についての図像解釈が現在まで通説となっている。註103を参照。

<sup>132</sup> バンディネッリの本素描は、先行研究においてロッソ・フィオレンティーノ、ポントルモ、フランチェスコ・グラナッチに帰属されてきたが、1961年に《レダと白鳥》の板絵の後景に描かれた戦闘場面との一致が指摘され、バンディネッリ作品として同定された。Exh.cat. Firenze 2014a, pp. 270-271, cat. 4を参照。

<sup>133</sup> バンディネッリ《ノアの酩酊》(フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 inv. 311 Sculpture) は、1530年頃に制作された。本作品については、Exh.cat. Firenze 2014a, pp. 278-281, cat. 7を参照。

<sup>134</sup> 16世紀の所蔵先を示す史料を欠いているが、17世紀にはフィレンツェ近郊ポンテ・アッラ・バディアに建つサルヴィアーティ家のヴィッラに所蔵されていたことから、それ以前に本作品はすでに同家の所有であったと推察されている (Exh.cat. Firenze 2014a, pp. 264-267, cat. 2)。1699年から1703年の間には、ローマのルンガー通り沿いの同家の宮殿に移された (Béguin-Costamagna 2003)。

<sup>135</sup> ジョヴァンニ・デ・メディチ (1498-1526年)、通称ジョヴァンニ・デッレ・バンデ・ネーレ (黒隊長ジョヴァンニ)。コジモ1世の父で、傭兵隊長として知られた。1526年11月、マントヴァの戦いで死去し、同地のサン・ドメ

この契約では、ジョヴァンニの彫像および台座の浮彫装飾 2 点を 2 年以内に仕上げる旨が取り決められた。1543 年にはサン・ロレンツォ聖堂内ネローニ家礼拝堂がコジモ 1 世に譲渡されたことで設置場所は確保されたが<sup>137</sup>、最終的には完成をみないまま 1560 年の彫刻家の死を迎えることになった<sup>138</sup>。しかし 1542 年にはジョヴァンニの彫像がほぼ仕上げられており<sup>139</sup>、また 1554 年のバンディネッリから公爵に宛てた書簡からは、この時点で「大勢の戦闘場面 1 つ」を除いて完成していたことがわかる<sup>140</sup>。バンディネッリはこの記念墓碑に着手した当初、台座の各面に、ジョヴァンニに関連する物語場面を表す浮彫で装飾する構想を立てていた<sup>141</sup>。しかしバンディネッリ歿後に残された台座は、各短辺の 2 面にメディチ家の紋章、そして正面に「ジョヴァンニ・デッレ・バンデ・ネーレの前に連れ出された捕虜たち」を表す浮彫装飾が施されたのみであった。1554 年時点で制作が予定されていたが、最終的に実現されなかった「大勢の戦闘場面」は、ウフィツィ美術館（フィレンツェ）とクライスト・チャーチ絵画館（オックスフォード）に現存する 2 点の素描と関連づけられている<sup>142</sup>。このうち後者の素描（fig. IV.2.61）には、奥で騎兵たちが、手前では歩兵たちが、互いに格闘している様子が描かれており、紙葉一面に裸体の男性群像が絡み合うようにひしめいている<sup>143</sup>。

ここでデ・ロッシのニューヨークの素描に立ち戻ると、水槽の側面に表された二つの区画装飾のうち、正面の区画には、中央に置かれた高い台座に四足獣が乗せられ、その周囲ではこれに注目するように複数の人物が集まっている様子が描かれている（fig. IV.2.62）。主要な人物の輪郭をкаろうじて把握出来る程度ではあるものの、中央の台座に向かって左隣に描かれた、腕

---

ニコ聖堂に埋葬された。ジョヴァンニの遺体は、コジモ 3 世統治下の 1685 年にフィレンツェへ運ばれ、サン・ロレンツォ聖堂に改めて埋葬された。

<sup>136</sup> コジモ 1 世はすでに 1538 年末にジョヴァンニの記念墓碑を所望していた（Waldman 2004, doc. 292, p. 173）。ヴァザーリの記述によれば、当初この記念碑の制作はトリポリに委嘱されており、彼はすでにカラーラへ採石に向かっていたが、ローマからフィレンツェに戻ったバンディネッリがコジモ 1 世に取り入ったため最終的にバンディネッリに委嘱が変更された。さらに制作には、公爵を通じてミケランジェロがフィレンツェで所有していた大理石が用いられた旨が語られているが、これを裏付ける史料はない（Vasari 1568, vol. 5, p. 259 [邦訳：『美術家列伝』第 4 巻、397-398 頁]）。1540 年 1 月 3 日付の公爵宛ての書簡からは、バンディネッリはローマにてこの墓碑の雛型を制作し、公爵に提示したことがわかる（Waldman 2004, doc. 308, pp. 185-186）。バンディネッリへの正式な契約は、1540 年 5 月 26 日付でなされた（Waldman 2004, doc. 319, pp. 192-193）。

<sup>137</sup> 1543 年 1 月 26 日付、宮廷秘書アレッサンドロ・マルツィ＝メディチからバンディネッリ宛の書簡、および同年 2 月 14 日付、宮廷執事ピエルフランチェスコ・リッチョからコジモ 1 世宛の書簡が現存する（Waldman 2004, docs. 408, 411, pp. 248-250）。さらに制作途上の大理石が同年のうちに、同聖堂内に運び込まれている（Waldman 2004, doc. 409, p. 249）。

<sup>138</sup> バンディネッリの歿後、ジョヴァンニ像は 1592 年にコジモ 2 世の洗礼式が行われた際にヴェッキオ宮殿へ移設され、一方の台座は、1620 年にサン・ロレンツォ聖堂前の広場の一角に移された。1850 年になり、広場に置かれた台座は噴水としての機能を与えられ、これに伴って上部にジョヴァンニ像が配され、現在の姿となった。

<sup>139</sup> 1542 年 9 月から 11 月頃に記されたバンディネッリから恐らくコジモ 1 世の秘書フランチェスコ・カンパーナに宛てた書簡の草稿が現存する（Waldman 2004, doc. 393, pp. 239-242）。

<sup>140</sup> 1554 年 10 月 12 日付、バンディネッリからコジモ 1 世に宛てた書簡の草稿が現存する（Waldman 2004, doc. 1032, pp. 566-567）。

<sup>141</sup> 1540 年 1 月 2 日付、バンディネッリからコジモ 1 世に宛てた書簡を参照（Waldman 2004, doc. 308, pp. 185-186）。

<sup>142</sup> フィレンツェの本素描（ウフィツィ美術館素描版画室 inv. 531F recto）についてワードは、何らかの別の素描の断片、あるいは、より完成度の高いクライスト・チャーチ所蔵の素描の右上部を拡大して描いたものとみなしている。Exh.cat. Firenze 2014a, cat. 5, pp. 426-427 を参照。

<sup>143</sup> オックスフォードの本素描については、Ward 1982, no. 287, p. 345; Ward 1988, cat. 43, pp. 75-76 を参照。ワードはベルリンに所蔵される別の素描（ベルリン、ダーレム美術館版画素描室 inv. 15623）との関連を指摘している（Ward 1982, no. 4, pp. 188-189）。



を振りかざして立つ2人の人物については、比較的明瞭にその形態が示されている。向かって左の人物は正面観で捉えられており、左腕を身体の前に差し出してその肩越しに中央の仔羊に頭部を向けている。両脚を開いて右手を高くかざすその大きな身振りによって、場面には印象的な斜めの動きが与えられ、中央の仔羊の台座の存在感を強める効果を生み出している。一方、この人物と背を付け合うようにして立つもう一人の人物は、右腕を頭部の下で水平に伸ばしている。上半身に強い捻りが加えられているため、その胸部の輪郭が大きく膨らんでいることが見てとれる。

デ・ロッシが描いたこの2人の人物は、先のバンディネッリによる戦闘場面の素描(fig. IV.2.61)のなかに見出すことが出来る。すなわち、画面中央で片腕を付いて倒れる人物の背後、向かって右側に登場する2人の姿と酷似しているのである。このうち、とくに向かって左の正面観の人物像の形態の類似は顕著である。もう一方の人物像は、デ・ロッシの素描では正面観とみられるが、バンディネッリの素描では斜め背面観で捉えられており、右肩が露になっている。しかし両者の輪郭を比較すると、デ・ロッシの人物像が、バンディネッリによるこの2体と基本的な形態を共有していることは明らかだろう。

次に、ニューヨークの素描に描かれた水槽の浮彫装飾のうち、向かって右側の区画に目を向けたい。そこには、両肘を軽く曲げて、右腕は上に、左腕は下へそれぞれ動かす人物の姿が単身で表されている(fig. IV.2.63)。下半身の形態は明瞭ではないものの、右脇腹から左脚へかけて引かれた輪郭線が筋肉の動きを簡易的に示しており、半身を捻りながら伸び上がる姿勢であることが窺える。方形の区画を斜めに横切るこの人物像の特徴的な形態もまた、上述のバンデ・ネーレ墓碑の台座のためのバンディネッリによる戦闘場面の素描に、これと類似する人物像を見出すことが出来る(fig. IV.2.61)。すなわち、中央左寄りで、跪いて仰け反る人物に剣を振り下ろそうとする裸体の兵士の姿とほぼ一致している。バンディネッリは、古代彫刻《ラオコーン》に関連するとみられる一連の素描において、これと同様もしくは相似形をなす裸体の人物像を度々描いているが(figs. IV.2.64-65)<sup>144</sup>、デ・ロッシの描写では、それらに看取される胴部の伸びやかさが減じられている。上下に圧縮されたようなその描写はむしろ、先の戦闘場面に登場する兵士の前屈みの動作により近いものと言える。すでに噴水の水槽の正面区画において、バンデ・ネーレ墓碑のための同素描を着想源にしていることに鑑みれば、隣の区画にも同じ素描から別の人物像を借用することは十分に考えられる。

次に、ルーヴル美術館に所蔵される「ヘラクレスの物語」を表す素描(fig. IV.2.54)に目を移し、バンディネッリの造形との関連性について考察を進める。先の《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》の素描ではバンディネッリの造形が直接的に借用されていたのに対して、本素描ではデ・ロッシが異なる態度をもって師の造形を参照している点に注目したい。

<sup>144</sup> 1520年、ビッビエーナ枢機卿(ベルナルド・ドヴィツィ・ダ・ビッビエーナ)はフランス国王フランソワ1世へ贈呈する目的で、1506年にローマで発見された古代彫刻《ラオコーン》と同寸の大理石像の制作をバンディネッリに委嘱した。関連する現存素描のうち、とくにワードが2014年に初めて紹介した2点の素描(ニューヨーク、トビー・コレクションおよびフィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室 inv. 6896 F recto; Ward 2014, pp. 341, 344, figs. 8, 14)において、いずれも紙葉の左側に描かれる裸体の人物像は、当該のポーズのヴァリエントを示している。

本素描には、3つの場面が同居している。前景には「ヘラクレスの冥府降下」、左奥には「ユピテルへの奉獻」の場面がそれぞれ描かれているが、ここでは右奥描かれた「エジプト王の前での供犠」の場面を取り上げる。テーブルの前に腰掛けたエジプト王とその周囲を取り囲む臣下たちの前で、複数の裸体の人物によって供犠が行われている。このうち、同場面の左端で、背面観の人物を押さえ込むようにして一撃を振り下ろそうとする裸体の男性像を取り上げたい (fig. IV.2.66)。片脚を踏み出して体軀を捻る下半身の動作は、先に言及したヘラクレス像および男性裸体像と類似している (figs. IV.2.55-57)。一方、その上半身は、右後方へ捻って右手を頭部へ回し、対峙する別の人物の方へと左腕を伸ばして掴みかかっている。この身振りは、上述のバンディネッリによる《レダと白鳥》の板絵で、前景に大きく描かれるレダの仕草を彷彿とさせる (fig. IV.2.67)。レダは腰掛けており、デ・ロッシの人物像とは左右が逆ではあるものの、両者がその基本的な造形を共有していることは明らかである。

完成作のレダには、指先の繊細な動きに顕著であるように、女性に特有のしなやかさが付与されているが、その習作素描に目を移すと、その腕はより直線的で力強い動作であり、また胴部の捻りも強い (fig. IV.2.68)。上述したように、本素描に先立つ「ヘラクレスの12功業の噴水の構想」の素描においてデ・ロッシがこの板絵の後景に描かれた裸体男性像を借用していることに鑑みれば、噴水の構想を継続するなかで、同じ作品を着想源として用いていたことは十分に考えられる。しかし完成作に表された造形よりも、その準備習作に近い形態を反映していることから、先の男性像の場合と同様に、デ・ロッシは板絵自体ではなく、バンディネッリ工房にてその習作を直接的な手本として用いていたことが強く示唆される。

一方でバンディネッリの造形に特徴的なモチーフもまた、デ・ロッシの「ヘラクレスの物語」の素描に見出すことが出来る。すなわち前景に描かれた冥府には、背面観のヘラクレスが歩みを進める先に3体の骸骨が描かれている (fig. IV.2.69)。そのうち2体は棺の蓋を押し上げて頭部を覗かせ、叫ぶかのように口を開いている。残る1体は腰を下ろし、右手を顔の前にかざしているが、その姿は、その右奥に描かれる供犠の場面で王の前に腰掛けて頬杖をつく人物と相似形を成すようである。生きて動き回るこれらの骸骨の描写は、バンディネッリによる同様の表現を彷彿とさせる。現存するバンディネッリの素描では、骸骨が複数の人物像と等しく身振り豊かに描かれているのである (fig. IV.2.70)<sup>145</sup>。

ここまでに取り上げた「ヘラクレスの物語」を表す素描 (fig. IV.2.54) では、「噴水の構想」の素描 (fig. IV.2.53) に認められたようなバンディネッリの表現からの直接的な借用は見当たらない。デ・ロッシは、ここで取り上げた3つの細部描写について、手本をバンディネッリに求めながらも、それを自らの造形言語に変換していることが看取されるのである。すなわち犠牲の場面の男性像では、バンディネッリの女性像レダの姿を反転して用い、その劇的な身振りを、凄惨な格闘場面の男性像へと転用している。また冥府の場面に描かれた骸骨の描写については、師が残したグロテスクな骸骨という独特のモチーフを取り込み、自ら新しく同様の表

<sup>145</sup> fig. IV.2.3.25 については、Exh.cat. Firenze 2014a, cats. 79, 80, pp. 532-535 を参照。

現をつくり出している。すなわち本素描では、バンディネッリの造形を意識的に取り込み、それらを踏まえている事実を明示しながらも、直接的に形態を借用するのではなく、自身の造形言語に翻訳して間接的に用いているとみなすことが出来るのである。

ここまで考察した「ヘラクレスの12功業の噴水」に関連するデ・ロッシによる2点の素描のいずれにおいても、描かれた複数の人物像の形態にバンディネッリの先例が強く反映されていたが、その参照の態度は明らかに異なっていることが確認された。すなわち、《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》の素描（fig. IV.2.53）では、バンディネッリの素描に見出された特徴的な身振りの人物像を単独で抜き出し、ほとんど模写をする形で形態を借用している一方、《ヘラクレスの物語》の素描（fig. IV.2.54）では、そうした直接的な転用を意識的に避けながらも、自らの表現が師の造形に基づくものであることを知らしめている。

バンディネッリの造形への参照態度の違いは、両素描の性質が異なることに由来するものと考えられる。ニューヨークの素描では、描かれたヘラクレス像6体のうち4体<sup>146</sup>は現存する大理石の完成作と同じ主題でありながら異なる形態で表されている。それゆえ本素描は構想の初期段階、すなわち本節の前半で示した通り、1561年から1562年頃につくられたものと考えられる。一方ルーヴルの素描は、裏面に残された短信に記されたコジモ1世の尊称を根拠として、1569年以降に編年されている<sup>147</sup>。つまり、初期構想の段階で描かれた前者の素描にはバンディネッリの造形が直接的に参照され、一方、すでに大理石での彫像制作が進められていた時期に物語場面に関して助言を求める段階で描かれた後者の素描では、明白な引用が避けられていることがわかる。

おそらくデ・ロッシは、委嘱を受けた直後に、噴水の全体像をコジモ1世に伝えることを目的として前者の素描を仕上げたのだろう。噴水の建築的構造が的確に捉えられ、各彫像および装飾の位置関係が明瞭に示されながらも、描かれたヘラクレス像が完成作と一致しない点は、これが最終的な計画案ではなく、おそらく委嘱に際して注文主に提示されたデザインとみなすことで理解される。それゆえデ・ロッシは、師が残した既存の造形をこの素描に当てはめるかたちで用いたものと考えられる。一方、年代の下るルーヴルの素描では、すでにその時点でデ・ロッシはよりオリジナルな表現を追求していたのだろう。

しかしながら両素描において、直接的にせよ間接的にせよデ・ロッシがバンディネッリの造形を積極的に用いたことは、強い絆で結ばれた師弟関係に由来する制作態度と解釈するだけでは不足である。メディチ家の宮廷彫刻家として第一人者の地位を築いていたバンディネッリが歿した1560年以降のフィレンツェでは、その後継者の地位をめぐって、次世代の彫刻家による熾烈な競争が始まっていた。この状況下で同地に帰還したデ・ロッシは、メディチ家から公的な委嘱を取り付けるに際して、自らがバンディネッリの系譜を引き継ぐ正統的な存在であることをコジモ1世に明示する必要があったはずである。とりわけ《ヘラクレスの12功業の噴水の

<sup>146</sup> 噴水の水槽の縁に立つ、対カクス、対ケンタウロス、対アンタイオスを表す各ヘラクレス像と、最頂部の天球を支えるヘラクレス像がそれに当たる。

<sup>147</sup> Heikamp 1964.

構想》の素描において、《ジョヴァンニ・デッレ・バンデネーレ墓碑》の台座装飾ための実現しなかった戦闘場面を持ち込んでいる点は、実に示唆的である (fig. IV.2.61)。バンディネッリの死によってこの墓碑計画は頓挫したが、墓碑の台座の各面を傭兵隊長としてのジョヴァンニの功績を讃える浮彫で装飾するという当初計画を、デ・ロッシはこれを上回る規模の噴水の計画に転用し、造形の上でバンディネッリの意思を引き継ごうとしていたのではないだろうか。そこには、コジモ 1 世が軍事に優れた父ジョヴァンニの気質を継いでいるがゆえにフィレンツェ公国の領土拡張を実現したことを示す意図があったと推察することが出来るだろう<sup>148</sup>。それは同時に、マントヴァに埋葬されていた父の遺体を引き取り、フィレンツェでその功績を記念しようと努めたコジモ 1 世の希望<sup>149</sup>に合致するものでもあったはずである。それゆえ、デ・ロッシによるバンディネッリの造形の利用は、師に対する敬意のみならず、むしろ師の亡き後のフィレンツェで自身が活躍するための戦略的な選択でもあったことが強く示唆されるのである。

### 2-3(2) ポントルモの造形との関連性

ニューヨークの素描では、噴水のプロポーションや構造体の形態は少なからず明瞭に提示されているものの、正面観のみが表され、見ることの出来ない両側面から背面にかけて配すべき彫像や付随する彫刻装飾、そして下部の水槽のための区画装飾に関する情報を欠いていた (fig. IV.2.59)。つまりここでは、詳細な図像プログラムや各彫像の形態を度外視してそのモニュメンタルな全体像を捉えた、初期構想の段階にあると推察出来る。それゆえデ・ロッシは、未だ確定しない彫像や物語場面を表す区画の描写を表すにあたって、当時目にするものの出来た既存の作例を参考にしたのではないだろうか。本項 (1) では、デ・ロッシの師であるバンディネッリからの造形上の借用について言及したが、以下では本素描に描かれた 3 体の人物像を取り上げ、その着想源を同時代にコジモ 1 世のもとで活動していた画家ポントルモとの関連において新たに指摘したい。

まず、噴水の下部に見える八角形の水槽の縁に配される群像について検討する。素描には左から、カクス、ケンタウロス、アンタイオスとそれぞれ闘うヘラクレスの群像が表されている (fig. IV.2.53)。上述の通り、これら 3 体の形態は、彫像として実現された完成作とは異なる (figs. IV.2.18-20)。素描に表された人物像のうち、「ヘラクレスとアンタイオス」 (fig. IV.2.71) については、15 世紀後半のポッライウオーロによる同主題の小型ブロンズ像 (fig. IV.2.72)、さらに

<sup>148</sup> コジモ 1 世は 1540 年代からシエナ共和国の征服を目論んでおり、1552 年 7 月に同地で勃発した反皇帝派の反乱を契機として、神聖ローマ皇帝軍およびスペイン軍と連携して軍事介入に乗り出した。1557 年にコジモ 1 世は神聖ローマ皇帝カール 5 世の封土としてシエナの地を授かり、その後シエナ共和国から逃亡した者が南のモンタルチーノに樹立していた共和国をも攻略したことで、1559 年に悲願であったシエナ併合を達成している。「ヘラクレスの 12 功業の噴水」は、この直後に委嘱されたとみられることから、「ヘラクレスの 12 功業」の主題を借りて、コジモ 1 世の最後かつ最大の領土拡大事業とそれを成し遂げた公爵の軍事的手腕を記念するために委嘱されたという文脈が示唆される。

<sup>149</sup> 後年の遺体の移送については註 135 を参照。

本作品の様式を継承してアンマンナーティが1560年に制作した大型ブロンズ像 (fig. IV.2.73) との関連性が明白である<sup>150</sup>。一方、残る2体については、これまでその典拠が指摘されたことはない。これに対して筆者は、ポントルモがフィレンツェのサン・ロレンツォ聖堂の内陣壁画を装飾するために残した習作群に、これらと非常に類似する人物像を新たに見出した。

早くも1525年には、当時の教皇クレメンス7世が、ヴァティカン宮殿のシスティーナ礼拝堂天井画に匹敵するような作品を切望しており、この意思を引き継いだコジモ1世によって、メディチ家が代々改修を続けてきたフィレンツェのサン・ロレンツォ聖堂の内陣を壁画で飾る計画がポントルモに託された<sup>151</sup>。彼は1546年頃からこれに着手したが<sup>152</sup>、完成を目前にして歿したため、ブロンズイーノが事業を引き継いで仕上げ、1558年7月23日に除幕された。しかし1742年に内陣を改修する必要性を免れなくなった際、壁画は取り壊された。当時の装飾プログラムについては、1598年に同聖堂で行われたフェリペ2世の葬儀の様子を伝える版画に一部描かれた壁画 (fig. IV.2.74) と、現存する真筆の素描群を根拠として、その配置と図像構成が推定されている<sup>153</sup>。すなわち内陣の3面はそれぞれ上下二段に区分され、創世記を主軸として、裸体の人物がひしめき合う物語場面が展開されていたとみられる<sup>154</sup>。

この壁画の上段右壁の中央に予定された「イサクの犠牲」を表す習作素描には、アブラハムがイサクに跨がって今まさに刃物を突き立てようとするところに、神の使いの天使が現れてその手を遮る場面が描かれている (fig. IV.2.75)<sup>155</sup>。このアブラハムの身振りは、デ・ロッシが噴水の素描に描いたケンタウロスと闘うヘラクレスの描写と極めてよく似ている (fig. IV.2.76)。打ちのめされる人物の描写は異なるものの、デ・ロッシの素描には、アブラハムが右脚を直角に曲げてのしかかり、左手でイサクを押さえつけながら右腕を後方へと突き上げるその独特の柔軟性を備えた動きが反映されていると言えよう。頭上に現れた天使を仰ぎ見る仕草を正面観で捉えたアブラハムに対して、デ・ロッシのヘラクレスでは頭部から膝にかけての円弧が強調されている。デ・ロッシがポントルモの当該素描を直接目にし得た事実を史料の上で裏付けることは難しいが、模倣するにあたって少なくとも除幕された壁画を実見していた状況は十分に想定し得る。デ・ロッシは、バンディネッリが1545年以降その制作に従事していたフィレンツ

<sup>150</sup> ポッライウオーロによる小型のブロンズ像 (フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館所蔵) は、ロレンツォ・イル・マニフィコの委嘱とされ、当初よりメディチ家の所有であることが確かな作品である。本作品については Exh.cat. Firenze 2001, pp. 58-63 を参照。一方アンマンナーティは、トリーボロが整備したカステッロのメディチ家別邸の大噴水の最頂部を飾る同主題のブロンズ群像を1560年3月までに制作したが、これは先のポッライウオーロの作品に形態の源泉を求め得る (第三章第1節第3項を参照)。本作品については Exh.cat. Firenze 2011, cat. 8, pp. 382-387 を参照。ルネサンス期のフィレンツェにおける「ヘラクレスとアンタイオス」図像の変遷については、Ettlinger 1971, pp. 119-142 を参照。

<sup>151</sup> Vasari 1568, vol. 6, pp. 331 ff. 本壁画については、Clapp 1916, pp. 73-88; Cox-Rearick 1964, pp. 318-342; Costamagna 1994, pp. 252-266; Firpo 1997; Pilliod 2001; Damianaki 2009 を参照。

<sup>152</sup> ポントルモへの壁画の委嘱の年代は、1545年ないし1546年とみられる。制作年代についての議論は Cox-Rearick 1964, P. 319; Damianaki 2009, pp. 77-80 を参照。

<sup>153</sup> とくに Costamagna 1994, pp. 252-266 を参照。

<sup>154</sup> 壁画の構成については、とくに Cox-Rearick 1964; Costamagna 1994 を参照。

<sup>155</sup> ベルガモ、アカデミア・カッラーラ、inv. 2357. コックス・リーリックは本素描の特徴として、複数の人物が連結して垂直に伸び上がる点を端的に指摘している (Cox-Rearick 1964, cat. 366, pp. 336-337)。デ・ロッシの素描にみられる柔軟性は、このポントルモの造形と共通していると言える。

エの大聖堂内陣装飾を手伝うため、ローマから度々フィレンツェを訪れていた<sup>156</sup>。フィレンツェにおいて時期を同じくしてメディチ家のパトロネージのもとで二つの聖堂の内陣制作が進められていた状況に鑑みれば、デ・ロッシにとってポントルモの制作が大きな関心事であったことは想像に難くない。ヴァザーリによればポントルモはサン・ロレンツォ聖堂の内陣装飾の制作を公開していなかったが<sup>157</sup>、少なくとも1560年末にフィレンツェに帰還した際には、当然ながらデ・ロッシはその約1年半前に除幕されていたポントルモの壁画を実際に目にしていたと考えられる。尚、本項で取り上げる同壁画のための素描は、原寸大下絵として図案を拡大するためのグリッドないし寸法を示す目盛りが施されているため、最終的な構想を伝えるものと考えられる。したがって、これらの素描群は失われた壁画に描かれていた形態と基本的に一致するものとみなし、論を進める。

一方、同壁画において上段左壁に描かれたとされる「カインとアベル」のための準備素描において、仁王立ちでアベルを打ち殺そうとするカインは、右上方へ持ち上げた両手で棍棒を振りかざし、肩越しにアベルを見据えている (fig. IV.2.77)<sup>158</sup>。このカインの身振りは、デ・ロッシが描いたカクスを倒すヘラクレスと、その基本的な形態を共有しているとみてよい (fig. IV.2.78)。ただしデ・ロッシのヘラクレスは両脚を前後に開いて上半身をより強く捻っており、ポントルモによるカインのポーズにも勝る柔軟性を備えている。この特質は、ポントルモが同内陣壁画の正面壁に描いた「栄光のキリスト」に登場する人物像に近い<sup>159</sup>。キリストの両脇には浮遊する裸体の男性像が描かれ、いずれもカインの形態のヴァリエーションと考えられる。この2体のうち、とりわけキリストの左下に描かれる人物 (本論文に掲載の部分図では右上の人物) の非現実的なまでの柔軟で曲線的な輪郭は、デ・ロッシの描写に強く反映されている (fig. IV.2.79)。

次に、噴水の水槽側面を飾るブロンズ・レリーフのための下絵《ヘラクレスの物語》に目を移したい。本素描には、中央手前に「ヘラクレスの冥府降下」、右奥に「エジプト王の前での廷臣殺害」、左奥に「ユピテルへの奉獻」の3場面が表されている (fig. IV.2.3.2)。本項では、描かれた幾つかの特徴的な人物像において、やはりポントルモの素描からの借用がみられる点を新たに指摘したい。最前景に表された冥府には、ヘラクレスの両脇に、複数の骸骨と共に裸体の女性が2体ずつ横たわっている。このうち左側には、奥で上半身を起こして仰向けにしなだれる人物、その手前にはこちらに背を向けて左方を見遣る半横臥の人物が描かれる (fig. IV.2.80)。まず前者について、ウフィツィ美術館素描版画室所蔵のポントルモによる《ピエタ

<sup>156</sup> 同大聖堂内陣装飾の制作におけるデ・ロッシの関与については、Schallert 1998, pp. 136-145 を参照。1556年にはデ・ロッシが内陣席のための浮彫装飾をテラコッタで仕上げており、フィレンツェに居たことが確実視される (Vastro 1998, p. 113)。なおバンディネッリがこの制作のためにデ・ロッシをローマから招集したことについては Vasari 1568, vol. 5, p. 269 を参照。バンディネッリ死後の同制作への関与期間については註 106 も参照。

<sup>157</sup> Vasari 1568, vol. 5, p. 331.

<sup>158</sup> フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室、inv. 6739F recto. 本素描については Cox-Rearick 1964, cat. 350, pp. 327-328 を参照。

<sup>159</sup> フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室 inv. 6609F. 本素描については Cox-Rearick 1964, cat. 359, pp. 331-334 を参照。

の習作》<sup>160</sup>との比較において検討する。

コックス・リーリックは「死せるキリスト」を表す 11 点の素描をアイルランド国立美術館の《ピエタ》を描いたプレデッラ<sup>161</sup>のための習作として提示しており<sup>162</sup>、それらはいずれも力なく投げ出されるキリストの腕や頭部に修正を加えながら最終的な形態へ至る構想の過程を示している。これらの習作のうち、ウフィツィ美術館素描版画室所蔵の一葉は最も遅い段階の構想を示すものとされる (fig. IV.2.81) <sup>163</sup>。画面には複数の再検討の痕跡がみられるが、中央にひと際明瞭に描かれた裸体のキリストは、上半身を背後から支えられ (右腋に聖母の右手が描かれている) 半横臥像として表されている。両手には習作が重ねられており、未だ腕の角度は定まっていない。しかしデ・ロッシの女性像に目を移すと、両腕の位置や、右肩にしなだれる頭部といった全体の構成において、ポントルモの当該の素描と極めて似通っていることが看取される。

両者の類似性を示すにあたって注目すべきは、ポントルモの素描において未だ不明瞭に残された細部が、デ・ロッシの素描においても同様にその「不明瞭さ」を残している点である。すなわちデ・ロッシの女性像では、右の手首から先の同じ部分が、冥府の縁で不自然にトリミングされている。一方ポントルモのキリスト像でも、重ねて描いた右腕のうち外側の手はトリミングされ、内側のそれはラフスケッチの段階にある。加えて余白に繰り返された同じ右手の習作も、依然として途中経過を示している。また、ポントルモはキリストの右腋に彼を支える聖母の手の存在を描き込んでいるが、デ・ロッシの女性像では巧妙にも同じ位置に突き出した岩がこれに代わっているのである。

続いて、当該の女性像の手前で背を向けて半横臥の姿勢をとる別の人物像について検討する (fig. IV.2.80)。この女性像の緩やかな弧をなす背面の描写については、まず前述のサン・ロレンツォ聖堂内陣のためのポントルモの素描の中に、これと類似する形態を見出し得る。例えば《大洪水の場面のための習作》で中央左寄りに描かれた背面観の人物の、およそ直角に曲げられた上半身のポーズは、左右を反転すればデ・ロッシの女性像と非常に近い (fig. IV.2.82) <sup>164</sup>。また、単体の裸体像を描いた同壁画のための習作<sup>165</sup>や、《魂の昇天または死者の復活のための習

<sup>160</sup> フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室 inv. 6689F recto. 尚、バンディネッリが本素描を参照していた可能性については、本項 (1) を参照。

<sup>161</sup> 本板絵は 19 世紀後半にはアンドレア・デル・サルトに帰属されていたが、ジュリア・シニバルディ以降、ポントルモの作品として認められている (Sinibaldi 1925)。本来的には《ピエタ》を中心として左右にそれぞれ 4 聖人を配する 3 つのパネルで構成されていたが、左右パネルに描かれた全 8 体の聖人像は現在、総て 1 体ずつに分断されている。プレデッラを構成していたとみられるが、これが付属していた作品については、アンドレア・デル・サルトがサン・ガッロ聖堂の祭壇画として 1512 年に制作した《受胎告知》、あるいは 1518 年にポントルモが仕上げたヴィスドーミニ祭壇画の《聖母子と諸聖人》とみなす説があり、見解の一致をみていない。本プレデッラについては Cox-Rearick 1964, pp. 137-145 を参照。

<sup>162</sup> Cox-Rearick 1964, cat. 62, pp. 140-141.

<sup>163</sup> Cox-Rearick 1964, cat. 67, pp. 142-143.

<sup>164</sup> フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室 inv. 6752F recto. 本素描については Cox-Rearick 1964, cat. 373, pp. 339-340 を参照。

<sup>165</sup> フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室、inv. 6560F. 本素描については Cox-Rearick 1964, cat. 381, p. 343 を参照。

作》<sup>166</sup>にも、こうした背面観の人物像を正面から捉えたヴァリエーションと見なし得る半横臥の人物像を見出すことが出来る<sup>167</sup>。しかしポントルモは、同内陣壁画の制作よりはるか以前に、同様の人物像を考案していたようである。すなわち 1510 年代半ばから後半に描かれたとされる《3 体の裸体習作》の上部に背面観で描かれる裸体人物像において、この印象的な曲線を描く形態が、早くも明瞭な輪郭線をもって達成されているのである (fig. IV.2.83) <sup>168</sup>。

一方デ・ロッシが描く横臥像のうち、右側で折り重なるように倒れている 2 体についても、ポントルモのサン・ロレンツォ聖堂内陣壁画を伝える人物習作の内に、比較し得る人物像が見出される。デ・ロッシは、片膝を立てて仰向けに倒れる女性と下半身を折り曲げてうつ伏せる女性を組み合わせで描いた (fig. IV.2.84)。ポントルモに基づく素描にも同様に重なりあう男女のペアが描かれており、両素描の類似性は明らかである (fig. IV.2.85) <sup>169</sup>。とくにうつ伏せの人物については、片足を折り曲げて両腕をそれぞれ上下に動かしている点で、形態の明白な借用が窺える。仰向けの人物については、腕を上げて背を反らして頭部を左へ傾ける基本的な仕草において、別の素描模写に見える人物像とも一定の類似性を見出せるだろう (fig. IV.2.86) <sup>170</sup>。

ここでポントルモが、ミケランジェロの造形に顕著な捻りの動作とそれを強調するように引き延ばされた人体表現<sup>171</sup>を継承し、展開していることは疑いない。同世代の芸術家もまた同様にミケランジェロの造形を学んでいたことに鑑みれば、そこから派生した同種の人物表現はコジモ 1 世支配下のフィレンツェにおいて散見される。なかでも、脱力して地に横たわる、もしくは死せる人物の表現は、ブロンズイーノによるヴェッキオ宮殿内エレオノーラの礼拝堂を飾るフレスコ壁画《青銅の蛇》(fig. IV.2.87) や、サンティッシマ・アンヌンツィアータ聖堂内グアダーニ礼拝堂を飾る板絵《キリストの復活》(fig. IV.2.88) にも見出せる。しかし、そこに描かれる人体は依然として均整を保っており、ポントルモの描写にみられるような滑らかに絡み合う造形とは異なるものである。デ・ロッシが描く裸体の人物像は、同時期のフィレンツェで見られたミケランジェロに倣った表現をさらに押し進めた、まさしくポントルモに特徴的な人物表現を反映していると言えるだろう。

また本項の冒頭で、当該の「ヘラクレスの物語」を表す素描の前景に登場するヘラクレス像が、1569 年にブロンズイーノがサン・ロレンツォ聖堂に描いた壁画、ひいてはその習作素描を

<sup>166</sup> フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室、inv. 6754F recto. 本素描については Cox-Rearick 1964, cat. 375, p. 340 を参照。

<sup>167</sup> これらに加え、フィレンツェ近郊のポッジョ・ア・カイアーノに建つメディチ家のヴィッラにポントルモが描いた《ヴェルトゥムノとポモナ》のフレスコ画においても、右側に描かれた「豊穡」の擬人像や「女神ポモナ」に、類似する形態が持ち込まれている。本壁画については、Medri 1995 を参照。

<sup>168</sup> フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室 inv. 6543F verso. 本素描については、Cox-Rearick 1964, cat. 78, p. 147 を参照。

<sup>169</sup> パリ、ルーヴル美術館 inv. 1026. 本素描はポントルモに基づいてアレッサンドロ・アッローリが描いたものと目されている (Costamagna 1994, p. 262)。

<sup>170</sup> タキシード・パーク、ロバート・サイモン・コレクション。本素描もまたアレッサンドロ・アッローリへの帰属が提示されている (Costamagna 1994, p. 262)。

<sup>171</sup> ミケランジェロが 1520 年代以降、ローマへ永住する 1534 年にかけて断続的に制作したサン・ロレンツォ聖堂新聖具室のメディチ家墓碑のために制作した彫像群は、本稿で言及した新しい様式の先駆けであり、同時代の諸芸術家によって多く学ばれ、範例となっていた。



踏まえている可能性に言及した。ブロンズイーノはポントルモの弟子の一人であり、サン・ロレンツォ聖堂での制作に関しては、前述の通り、1557年に師が歿した後に未完成に残された内陣壁画を仕上げている。ここでデ・ロッシが本素描を描くにあたってブロンズイーノによる同聖堂の壁画《聖ラウレンティウスの殉教》のための素描 (fig. IV.2.16) を参照していたと考えれば、ブロンズイーノを介してデ・ロッシがポントルモの素描を目にする環境にあったという文脈を想定することは的外れではないだろう。

以上の観察から、デ・ロッシがこの噴水の構想を練るにあたって、彫像においても浮彫パネルにおいても、ポントルモの形態のレパートリーを意図的に参照し、大幅な借用を行ったことは殆ど確実視することが出来る<sup>172</sup>。それでは、デ・ロッシがそのような選択を行った意図と歴史的背景はいかなるものであったのだろうか。

第Ⅱ章第1節にて総括したように、従来フィレンツェの都市部では井戸や貯水槽による貯め水の利用に限られていたため、公共の噴水を建設することは出来なかった<sup>173</sup>。しかしコジモ1世は登位するとすぐに郊外の水源から市内に水を引き入れる事業を展開し<sup>174</sup>、結果としてその功績が大型の噴水のかたちで示されることになったのである<sup>175</sup>。コジモ1世による治水事業のなかでも最も大きな効果をもたらしたのが南部の水源からの取水であり、この水路網の整備がヴェッキオ宮殿内に4基、そしてシニョリーア広場に1基の噴水を造営するというコジモ1世の野心と結びついていたことは第Ⅰ章第2節にて確認したとおりである。次節にて詳述するが、シニョリーア広場の噴水は1558年までにはコジモ1世によってバンディネッリに委ねられていたとみられ、《ネプトゥヌスの噴水》として仕上げられる予定であった。しかしベンヴェヌート・チェッリーニによるコジモ1世への度重なる嘆願と、1560年2月にバンディネッリが死去したことを受け、この噴水制作権は諸彫刻家による設計競技によって決定されることになったのである。最終的にはアンマンナーティがこの噴水制作を請け負うことになったが、そこには、都市における政治色の強い噴水をテーマとして、彫刻家たちに野心的な自己アピールが促される状況があったことが窺える。同時にその制作動機は、公爵と公妃に寵愛されたバンディネッリが1560年に歿したことで、その後継者の地位を狙う熾烈な競合意識と結びついたのである。この好機に、当然ながらデ・ロッシも師の後継者としての活躍を目指し、バンディネッリが歿した約2週間後からコジモ1世に宛てて少なくとも3通の推薦書および嘆願書を立て続けに送っている。そこからは、彼が上述の《テセウスとヘレネ》(fig. IV.2.10) を切り札としてフィレンツェへ帰還し、コジモ1世の庇護を得て、バンディネッリが着手していた大聖堂の内陣席装

<sup>172</sup> 彫刻家デ・ロッシが画家ポントルモの作品に依拠している点について、ポントルモが当時メディチ家の宮廷において主要な美術家の一人であったこと、そして当該の内陣装飾がメディチ家のパトロネージの中でもその威信を示す最も重要な委嘱の一つに数えられるものであったことに鑑みれば、分野を超えての参照は十分に想定される。加えて、本稿では割愛したが、バンディネッリの素描および彫刻作品には、しばしばポントルモから形態を借用していた痕跡がみとめられる。したがって、師であるバンディネッリのポントルモへの関心を、ここにおいてデ・ロッシが継承していることは想像に難くない。

<sup>173</sup> 第Ⅱ章第1節を参照。

<sup>174</sup> コジモ1世の治水事業については、第Ⅰ章第2節を参照。

<sup>175</sup> フィレンツェの噴水に関しては、コジモ1世が初めてその建設を発案し、導入に尽力した。Artusi 2005, p. 11.

飾およびシニョリーア広場のための《ネプトゥヌスの噴水》の制作委嘱を得ることを切望していたことが読み取れる<sup>176</sup>。しかし、彼が《ネプトゥヌスの噴水》の構想をした記録はなく、同年末にフィレンツェに帰還した際、公爵より別途「ヘラクレスの12功業の噴水」の計画を提示されたものと考えられる。

以上の状況からは、1560年の時点で、《ネプトゥヌスの噴水》はフィレンツェの中心地であるシニョリーア広場においてコジモ1世の治水事業における功績を視覚的に提示することを目的とした、極めて政治色の強い計画であったことがわかる。それは同時に、彫刻家達にとってはメディチ家に重用された宮廷彫刻家であったバンディネッリの歿後にその後継者としての地位を手に入れ得る絶好の機会をも用意した。この直後に浮上した「ヘラクレスの12功業の噴水」の計画は、《ネプトゥヌスの噴水》を上回る規模と目される。設置予定場所を特定することは難しいが、1550年代の治水事業に鑑みれば、南部の水源からボーボリ庭園を介して市内に供給された水を利用し、それを讃える存在として都市部のために企図されたものと解することが出来るだろう<sup>177</sup>。それゆえ、《ネプトゥヌスの噴水》の制作権をめぐって彫刻家同士の熾烈な競合がなされた状況を踏まえるならば、「ヘラクレスの12功業の噴水」の計画がデ・ロッシに委ねられた際にも、彫刻家には先の噴水と同等もしくはそれを上回るアピール性が求められたことは十分想定し得る。

デ・ロッシはローマのバンディネッリ工房で修行を積み<sup>178</sup>、おそらく1540年代半ばに単独で制作を請け負うようになった後、1560年にコジモ1世と共にフィレンツェへ行くまで、ローマを活動の拠点としていた<sup>179</sup>。したがってデ・ロッシが、師であるバンディネッリのみならず、1534年以降ローマに永住していたミケランジェロの表現に学んでいたことは容易に想定される。1541年には同地のシステーナ礼拝堂にてミケランジェロによる祭壇壁画《最後の審判》(fig. IV.2.89)が除幕されており、とくに裸体の人物群像を構想するにあたっては、極めて大きな影響力をもっていたからである。

しかしながら、バンディネッリが歿した1560年2月以降、その後継者の地位をめぐってフィレンツェの彫刻家の間でなされた上述の攻防に鑑みれば、デ・ロッシが噴水の構想の着想源をミケランジェロではなく、ポントルモに求めた理由が解されるのではないだろうか。つまり、

<sup>176</sup> 1560年2月23日付、ジュリアーノ・チェザリーノ(在ローマ)からコジモ1世(在フィレンツェ)宛の書簡(Archivio di Stato di Firenze, *Mediceo*, fil. 483A, c. 625)；1560年2月24日付、デ・ロッシ(在ローマ)からコジモ1世(在フィレンツェ)宛の書簡(Gaye 1839-1840, vol. 3, no. XXVIII, p. 24)；1560年3月2日付、ジローラモ・モレッリ(在フィレンツェ)からコジモ1世(在地不明)宛の書簡(Archivio di Stato di Firenze, *Mediceo*, fil. 483A, c. 748)。とくにデ・ロッシの直筆の書簡では、同じくバンディネッリの流れを引き継ぐアンマンナーティとフランチェスコ・モスカがライバル視されている。

<sup>177</sup> シチリア島のメッシーナに彫刻家モントルソリが制作した《オリオンの噴水》と《ネプトゥヌスの噴水》を筆頭に、16世紀後半のイタリアでは各地で大規模な噴水が盛んに造営されるようになった。「ヘラクレスの12功業の噴水」を含め、フィレンツェで計画が進められた複数の噴水も、当然ながらこの文脈に位置づけられるものである。このうちアンマンナーティの《ユノの噴水》については、拙稿(友岡 2014a)を参照。

<sup>178</sup> バンディネッリ工房への入門時期についてはウッツが1534年とする見解を示しているが(Utz 1966a)、シャラートは1536年以降弟子入りしたとみている(Schallert 1998, pp. 27-69)。先行研究の概要に関しては友岡 2014b, p. 115, n. 2を参照。

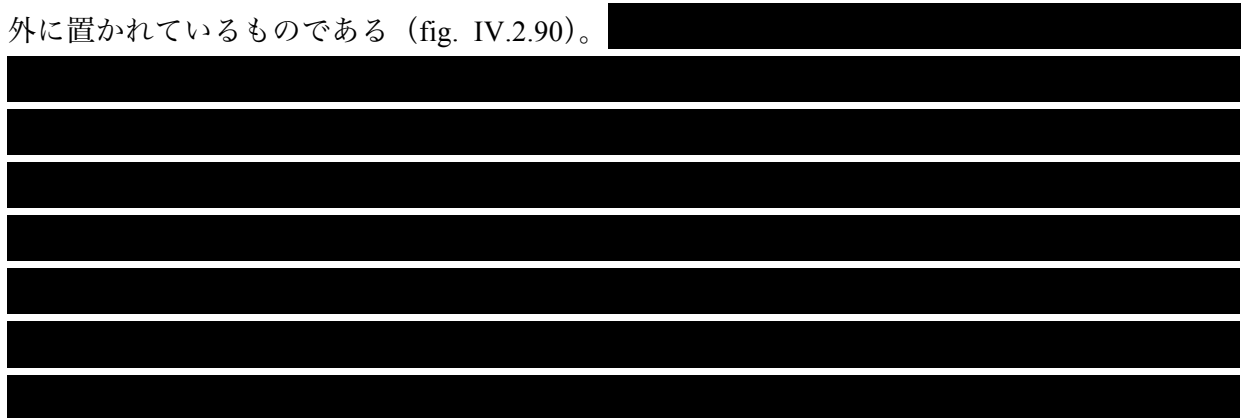
<sup>179</sup> フィレンツェに移るまでのデ・ロッシのローマでの制作の概要については、友岡 2014b, p. 116, nn. 3-6にまとめた。

1560 年末にデ・ロッシがフィレンツェに到着した時、メディチ家のパトロネージのもとで実現された最新の表現として手本になり得たのが、1558 年に除幕されたばかりであったポントルモによるサン・ロレンツォ聖堂の内陣装飾だったと考えられるのである。確かに本節で取り上げた 2 点の構想素描では、本項 (1) で考察したように、メディチ家に受け入れられてきたバンディネッリが描いた過去の素描群からも多くの人物像が借用されていることが観察された。しかしこうした直接的な引用に加え、デ・ロッシは、メディチ家が代々改修を重ねてきたサン・ロレンツォ聖堂の内陣に実現された最新の造形イデオムこそ、同家による委嘱に際して参照すべき対象と考え、自らの彫刻制作へ積極的に取り入れたと解釈し得るのではないだろうか。

ここで今一度、噴水の構想を示す素描が構想の初期段階のものであったことを思い返したい。すなわちデ・ロッシは、前例のない規模を誇るこのモニュメンタルな噴水の委嘱に際して、自身がコジモ 1 世の治世下で制作された作品群を踏まえており、この噴水がその系譜に位置づけられるものであることを視覚的に示す必要があったものと推察し得る。実際に制作された現存のヘラクレスの彫像群が素描と異なっている点は、本項の冒頭で言及したように、この素描が細部の図像プログラムを決定する以前の段階に描かれたものであると見なすことで説明されるだろう。そこには「ヘラクレスの 12 功業の噴水」の構想が同家の正統的なパトロネージの延長線上にあることを明示するという意図があったと考えられるのである。

## 2-4 「ヘラクレスとケルベロスの犬の噴水」の計画面

ヴィンチェンツォ・デ・ロッシによる《ヘラクレスの 12 功業の噴水》の造営計画に関連して、もう 1 点の大型素描にも論及しておく必要があるだろう。この素描は、1982 年末にクリスティーズのオークションにおいてその存在が明らかになったものであり、その後 1997 年にデトレフ・ハイkamp が論文のなかで改めて言及したが<sup>180</sup>、現在まで所在が不明であり、議論の対象外に置かれているものである (fig. IV.2.90)。



<sup>180</sup> Heikamp 1997, p. 356, fig. 17.

<sup>181</sup> [Redacted]

<sup>182</sup> [Redacted]

[REDACTED]

[REDACTED]

183	[REDACTED]
184	[REDACTED]
185	[REDACTED]

[REDACTED]

---

186

187

188

189

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

191  
192  
193

[REDACTED]



[REDACTED]

[REDACTED]

### 3 アンマンナーティの《ネプトゥヌスの噴水》

フィレンツェの中心に位置するシニョリーア広場には、その東側に面して建つヴェッキオ宮殿（旧政庁舎）の正面の一角に、同地の彫刻家バルトロメオ・アンマンナーティ（1511-1592年）が手がけた《ネプトゥヌスの噴水》が設置されている（figs. IV.3.1-2）。大理石のネプトゥヌスの巨像が4頭の海馬が率いる貝殻に立ち、その周囲を取り囲む欄干は河神とサテュロスのブロンズ彫像群で飾られている。この噴水は、1575年になってようやく現在みられる総体として除幕されたが、噴水の実質的な制作期間は2期に区分される。すなわちアンマンナーティは1560年から制作に着手し、コジモ1世の嫡子フランチェスコ1世とジョヴァンナ・ダウストリアとの結婚祝祭のため、1565年にストウッコ製の人物像を用いて一時的に仮設の噴水として仕上げた。その後1572年から1575年にかけて、先立つ結婚祝祭までに未完成であった大理石およびブロンズの彫刻装飾を仕上げるための最終的な施工が行われたのである。しかしながらこの噴水制作の計画が持ち上がったのは少なくとも1550年頃に遡る。そして最終的に1560年にアンマンナーティに正式に委嘱されるまでの期間には、その制作権をめぐる同時代の彫刻家のあいだで激しい火花が散らされた。

この噴水については、完成作品に対して同時代以降に低い評価が与えられたことも手伝い、先行研究においては、作品以上に、制作にまつわる社会的文脈の方により大きな関心が寄せられていることは否めない。この状況を踏まえて本節では、1550年代以降に展開された上述の各フェーズで《ネプトゥヌスの噴水》に関連して制作された諸構想ならびに現存する同噴水に対して、詳細な造形分析を加える。その上で、完成作品の造形が構想段階から大幅に変更されている点に着目し、同時代におけるコジモ1世の動向との関連性のなかでその変更の意図を読み解きたい。

#### 3-1 委嘱の前史とアンマンナーティの初期構想



[REDACTED]

196

197

198

199

200

201

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

202 [REDACTED]  
203 [REDACTED]  
204 [REDACTED]  
205 [REDACTED]  
206 [REDACTED]  
207 [REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

208

209

210

211

212

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

213 [REDACTED]

214 [REDACTED]

215 [REDACTED]

216 [REDACTED]

217 [REDACTED]

[REDACTED]

218

219

[REDACTED]

---

220

[REDACTED]

221

[REDACTED]

222

[REDACTED]



[REDACTED]

223  
224  
225

[REDACTED]

### 3-2 彫像群の造形分析

前節では 1560 年秋までに行われた競作を通じてアンマンナーティに《ネプトゥヌスの噴水》の制作が委嘱されるまでの時期を総括し、このときまでにつくられていた初期構想を検討した。本節では 1560 年以降のアンマンナーティが実際に大理石およびブロンズにて制作にあたった期間に焦点を当てる。本項の冒頭で言及したように、この実制作期間は 1565 年のフランチェスコ 1 世とジョヴァンナ・ダウストリアとの結婚祝祭を境として、実質的に 2 期に区分される。以下ではまず 1565 年の状況を同時代の記述によって確認したのち、その後完成された現存の彫像群の造形を分析する。

[Redacted text block]

[Redacted text block]

---

226 [Redacted footnote text]

227 [Redacted footnote text]

228 [Redacted footnote text]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

231

232

[REDACTED]

---

233  
234  
235

[REDACTED]

[REDACTED]

---

236

[REDACTED]

237

[REDACTED]

238

[REDACTED]

[REDACTED]

---

239

[REDACTED]

240

241

242

[REDACTED]



[REDACTED]

---

243

244

245

246

247

248

[REDACTED]

---

249

250

251

252



### 3-3 プログラムの図像解釈

ここまで、1560 年までの競作のための初期構想、1565 年の結婚祝祭のためのストウッコ装飾を含む仮設装置、そして 1575 年までになされた大理石とブロンズによる最終仕上げの造形を順に検討してきた。そこからは、まず祝祭時に初期構想からの大幅な変更がなされ、その後ストウッコ装飾を解体後にも再び改変がなされたことが確認された。こうした変更は、当然ながら用いる素材にまつわる問題や、時間的制約、作業人員などに起因するものでもあっただろう。しかしながら、同時代のコジモ 1 世の動向と照らし合わせて検討することで、それが公爵の意向を反映した意図的なものであったことが推察される。以下では、フィレンツェの都市部に初めて造営された大規模な噴水であり、またそれが公爵の邸館へと改築されたかつての政庁舎の正面というきわめて政治色の強い場であるがゆえに、公爵ひいては公国の威信をダイレクトに発信する役割を担っていた《ネプトゥヌスの噴水》について、初期構想から完成に至る約 15 年のあいだに構想および造形に改変が加えられた点に着目して、当時のコジモ政権の動向との符号関係を指摘することでこれを読み解きたい。

253

254



[REDACTED]

255  
256  
257  
258  
259  
260

[REDACTED]

[REDACTED]

---

261

262

263

[REDACTED]

---

264

[REDACTED]

265

266

267

268

269

[REDACTED]

[REDACTED]

---

270 [REDACTED]  
271 [REDACTED]  
272 [REDACTED]

[illegible]



[REDACTED]

273

274

[REDACTED]

[REDACTED]

---

275

276

277

278

279

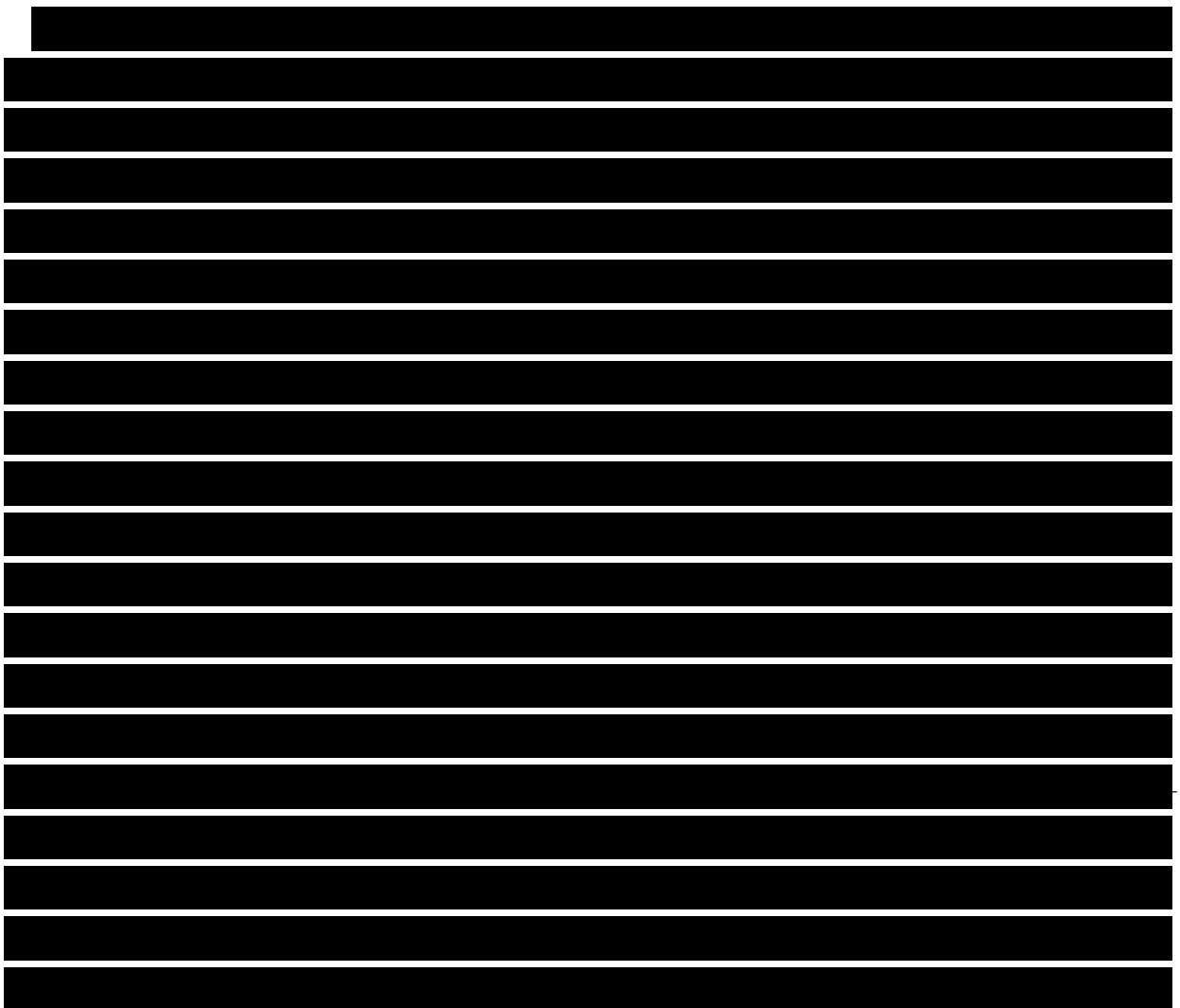
[REDACTED]

## V コジモ 1 世時代の噴水制作の意義

## V コジモ 1 世時代の噴水制作の意義

前章までにコジモ 1 世による委嘱で計画された 7 基の噴水を取り上げ、各噴水について先行研究において看過されてきたトピックを設定して検討した。その結果、各噴水を君主およびその善政の象徴とみなす従来の大枠的な解釈に対して、コジモ 1 世の治世を通じて連続的に造営された噴水の各図像プログラムは、同君主が実現した具体的な功績とそれぞれ結びつけられるものであることが確認された。一方でこうした大型の噴水制作は、フィレンツェではこの時代に初めて興隆し、それゆえ同地で活動した彫刻家に新たなフィールドを準備するものになったと言える。本章ではコジモ 1 世時代の噴水制作の意義について、君主による文化政策、そして 16 世紀のフィレンツェ彫刻史という 2 つの文脈から考察を加え、本論文の締めくくりとしたい。

### 1 コジモ 1 世の文化政策と噴水制作



[illegible]

[REDACTED]

[REDACTED]

[illegible]

2 [REDACTED]

3 [REDACTED]



## 2 16世紀フィレンツェ彫刻史における噴水制作の位置づけ

[REDACTED]

---

4

[REDACTED]

5

[REDACTED]

6

[REDACTED]

[REDACTED]

7

8

9

10

11

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

12 [REDACTED]

13 [REDACTED]

14 [REDACTED]

15 [REDACTED]

16 [REDACTED]

17 [REDACTED]

[REDACTED]

---

18

[REDACTED]

19

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

---

21

22

23

24

\_\_\_\_\_

[REDACTED]

\_\_\_\_\_

[REDACTED]

25 [REDACTED]

26

## 付録論文



## 付録論文

### フランチェスコ・カミッリアーニの初期活動とバッチョ・バンディネッリ

#### 1 フランチェスコ・カミッリアーニの初期活動——先行研究と問題の所在

ジョルジョ・ヴァザーリは『美術家列伝』第2版のなかで「アカデミア・デル・ディゼーニョ会員」について割いた章において、フィレンツェの彫刻家バッチョ・バンディネッリの門弟として複数の彫刻家を挙げており、本稿で取り上げるフランチェスコ・カミッリアーニ（1530 以前-1586 年<sup>1</sup>）もその一人に数えられている<sup>2</sup>。カミッリアーニは彫刻家であったジョヴァンニ・ディ・ニコロ・アルベンジ・グッチ、通称ジョヴァンニ・デッラ・カミッラ<sup>3</sup>とその前妻ナンニーナのもとにフィレンツェで生まれ、おそらく父を最初の師として彫刻分野に足を踏み入れたのだろう<sup>4</sup>。その後ヴァザーリの伝える通り、バンディネッリの工房にて修業を積んだと目される<sup>5</sup>。

ヴァザーリが言及したカミッリアーニによる唯一の作品群は、コジモ1世の公妃エレオノーラの弟にあたるルイス・デ・トレドがフィレンツェに所有した庭園のために手がけた噴水である<sup>6</sup>。同庭園装飾のための彫刻群は1570年以降順次売却され、その大半は現在シチリア島パレルモ市内のプレトリア広場において補作を加えて新たに再構成された形で残されている（fig. 1）<sup>7</sup>。ヴァザーリはフィレンツェのルイスの庭園につくられた噴水のための彫刻群をすべてカミッリアーニの手に帰しており、この制作に15年が費やされたと言及している<sup>8</sup>。ルイスがサンティッシマ・アンヌンツィアータ聖堂付属の庭園の背後に隣接するサン・ドメニコ・デル・マッリオ女子修道院の裏庭の土地を取得し、庭園としての整備に着手したのは1551年とみられる<sup>9</sup>。それゆえヴァザーリの『美術家列伝』第2版が1568年に出版されたことに鑑みれば、庭園計画が企図されるのと時を同じくしてカミッリアーニに彫刻制作が委嘱されたと考えられる。ルイスの庭園計画については、ヴァザーリの記述やパレルモへ移送された同庭園の彫刻群を

<sup>1</sup> AKL, vol. 15, p. 678.

<sup>2</sup> Vasari 1568, vol. 8, pp. 50-51.

<sup>3</sup> カミッリアーニの父ジョヴァンニ・デッラ・カミッラ（生年不明-1566年）に帰属される作品は確認されていない。ただしミラネージによれば、16世紀中葉にフィレンツェ大聖堂造営局で制作に従事していたとみられる。Vasari 1550/1568 a, vol. 7, p. 628.

<sup>4</sup> Pedone 1986, p. 41.

<sup>5</sup> ペドネはカミッリアーニの修業時代について、ほぼ同年代の彫刻家ピエリーノ・ダ・ヴィンチ（1530頃-1553年）が12歳でバンディネッリの門弟となるも、その後ニコロ・トリポロ（1500-1550年）の工房へと移った経緯を踏まえ、カミッリアーニもまたピエリーノと同様に最終的にはトリポロのもとで修業を積んだ可能性を指摘している。Pedone 1986, pp. 41-42.

<sup>6</sup> ルイス・デ・トレドは1551年にフィレンツェのサンティッシマ・アンヌンツィアータ聖堂付属の庭園の背後に隣接するサン・ドメニコ・女子修道院の裏庭の土地を取得し、遅くとも同年12月までにはこれを庭園として整備する計画に着手した。Archivio di Stato di Firenze, *Mediceo del Principato*, f. 406, c. 617; Zangheri 1999, p. 19, n. 8.

<sup>7</sup> ルイスのフィレンツェの庭園装飾のうち、一部は1570年8月にマドリッド郊外アランフェスにスペイン国王が所有する庭園に、残りの彫刻群は1573年にパレルモ市にそれぞれ売却された。前者の移送の決議についてはパレルモ市の評議会議事録（Archivio Storico del Comune di Palermo, *Consigli Civici*, anni 1560-72, n. 68, c. 260）を参照。後者の売却については複数の関連する史料のうち、ここでは1574年5月26日付の公証人の記録（Archivio di Stato di Palermo, *Notaio Carasi Antonino*, 1573-74, vol. 6295, fols., 1067-69）がフィレンツェから移送された彫刻群644ピースの一覧を示している。スペインに渡った作品群については1634年以降散逸している。Jonietz 2011, p. 312.

<sup>8</sup> Vasari 1568, vol. 8, pp. 50-51. ヴァザーリが遅くとも1567年までに執筆したとみて逆算すると、1551年にルイスが敷地を取得した直後からカミッリアーニは庭園装飾の制作に従事していたと推察される。

<sup>9</sup> 1551年12月付、ピエル・フランチェスコ・リッチョからクリスティアーノ・パーニ宛ての書簡（Archivio di Stato di Firenze, *Mediceo del Principato*, f. 406, c. 617; Zangheri 1999, p. 19, n. 8）には、既にルイスが庭園の整備を開始している旨が記されている。

示す作品リスト<sup>10</sup>から断片的に推察されるに留まり、庭園での彫像群の配置や噴水の図像構想については明らかになっていない。

ルイスの庭園計画に従事していたとみられる時期に、カミッリアーニはフィレンツェ公国すなわちコジモ1世を当主とするメディチ家のために作品を提供している。1561年にはシエナのサンタ・バルバラ要塞のために同家の紋章——2体の裸体の青年像がこれを支える——を制作したほか、1565年に開催されたフランチェスコ1世とジョヴァンナ・ダウストリアとの結婚祝祭に際しては、ボルゴ・オニッサンティのための彫像および大聖堂扉口のためのレリーフを手がけたとみられる<sup>11</sup>。ヴァザーリは1563年にコジモ1世の認可のもと、公的制度としての素描アカデミー（アカデミア・デル・ディゼーニョ）を創設したが、カミッリアーニもこの会員に登録され、1564年10月より半年間に渡って会長<sup>コンソロ</sup>をも務めている<sup>12</sup>。また帰属作品として、1567年の制作とされるフィレンツェのサンティッシマ・アンヌンツィアータ聖堂内サン・ルカ礼拝堂の祭壇左側ニッチに配される《預言者メルキゼデク》が現存しているが<sup>13</sup>、いずれの作品についても関連史料の不足を主たる要因として、カミッリアーニの造形様式が十分に検討されているとは言い難い。

しかしカミッリアーニはメディチ家および公妃エレオノーラのトレド家の委嘱に従事し、またアカデミアにおいて同時代のフィレンツェ彫刻を牽引していた芸術家たちと並んで公職を得ていたことから、1550年代および1560年代のフィレンツェ公国において彫刻家として一定の地位を築いていたと考えられる。実際、コジモ1世治下の文化政策においてアカデミア・フィオレンティーナを牽引した同時代の人文主義者で、ヴェッキオ宮殿改築事業を筆頭に図像助言者としても活躍したコジモ・バルトリ〔1503-72年〕は、アカデミアでの自身の講演を再編集した『ラジョナメンティ・アカデーミチ』<sup>14</sup>のなかで、カミッリアーニがルイスの庭園に先立つ時期にその近隣にコルトーナの司教バットISTA・シモーネ・リカーゾリが所有した別の庭園のための計画にバルトリと共同に従事していたことに言及しており、その存在を高く評価している<sup>15</sup>。このリカーゾリの庭園装飾については現存作品が確認されていないために先行研究で見落とされてきたが、近年ジョニエツの指摘によってその重要性が再認識された<sup>16</sup>。同庭園計画については第2節で検討する。またバルトリの同講の後半では、ミケランジェロの功績をもって開眼したフィレンツェの若手の芸術家として、バルトロメオ・アンマンナーティ〔1511-92年〕を筆頭に、カミッリアーニの息子であるサンティ・デッラ・カミッラに至るまでの彫刻家が列举される<sup>17</sup>。さらに在ローマのヴァザーリに宛てた1550年の書簡では、同地のサン・ピエトロ・イン・モンテ・リオ聖堂内デル・モンテ家礼拝堂の制作にカミッリアーニを推薦しており、このことはフィレンツェ公国の文化政策に尽力

<sup>10</sup> 註7を参照。

<sup>11</sup> Mellini 1556, p. K 3.

<sup>12</sup> アカデミア・デル・ディゼーニョのコンソロは任期半年の3人が務めた。カミッリアーニとともにコンソロに着任したのはバルトロメオ・アンマンナーティとバットISTA・ダ・シエナである。同アカデミーについては、森 1999, pp. 8-25 を参照。

<sup>13</sup> Tonini 1876, p. 240.

<sup>14</sup> バルトリが1542年から1548年にかけてアカデミア・フィオレンティーナで行ったダンテに関する5つの講演を再編集しており、各講はバルトリを含む3人の話者による対話形式で展開される。1567年にヴェネツィアで出版されたが、執筆年代は1551年6月から1552年10月と推察されている。Bryce 1983, pp. 253-54; Davis 1975, p. 266.

<sup>15</sup> Bartoli 1567, ragionamento 1; Bryce 1983, p. 269.

<sup>16</sup> Jonietz 2011, pp. 302-07.

<sup>17</sup> Bartoli 1567, ragionamento 1, pp. 19r-20r.

していたバルトリによって、カミッリアーニがすでにこの時期には彫刻家として認められていたことを示している<sup>18</sup>。

カミッリアーニに対する同時代の評価とは対照的に、フィレンツェの彫刻史においてその活動は看過されてきた。先行研究において考察対象とされるのは主としてパレルモに移設されたルイスの庭園のための彫刻作品群であり、カミッリアーニに関する調査は依然としてペドーネによる同作品についての体系的な個別研究に拠るところが大きい<sup>19</sup>。しかしながら、ルイスの庭園計画に先立つカミッリアーニの初期活動および彼の造形様式を特徴付けていると考えられるバンディネッリとの関係性については、これまで十分に検討されてこなかった。確かにバンディネッリは自著と目される『備忘録』で自身の門弟について語る際、カミッリアーニの名を挙げていないが<sup>20</sup>、カミッリアーニの造形がバンディネッリに由来するものであることは十分に観察されよう。したがって本稿では、これまで注目されてこなかったカミッリアーニの初期活動について、とくにフィレンツェのふたつの庭園計画に焦点をあて、師とされるバンディネッリとの関係性を具体的に考察することを目的とする。

## 2 リカーゾリの庭園のための《ネプトゥヌス》

バルトリの『ラジوناメンティ・アカデーミチ』第1講によれば、コルトーナの司教バッティスタ・シモーネ・リカーゾリの私有地に庭園を整備する計画にバルトリが携わり、庭園装飾のための彫刻制作をカミッリアーニが請け負った。この土地は1538年にリカーゾリが叔父から譲渡されたフィレンツェのサン・ガッロ通りに面する旧サン・ミニアート・アル・チェッポ修道院に付属する敷地であったが、庭園計画は1550年初頭に頓挫し、1555年には土地が売却されている<sup>21</sup>。そこでは《ウェヌスの噴水》と《ネプトゥヌスの噴水》とされるふたつの噴水が実現される予定であった<sup>22</sup>。バルトリの記述において、前者については構想段階と目されるウェヌス像と副次的な彫刻がごく概略的に示されるに留まり、彫刻の制作はなされていないとみられる<sup>23</sup>。一方の《ネプトゥヌスの噴水》については、断片的ではあるが同書の複数箇所で言及されており、噴水の総体として完成していたとは考えにくいものの、少なくともネプトゥヌス像は大部分が仕上げられていたと推察しうる。同庭園におけるネプトゥヌス像の存在は、同書の冒頭でバルトリが「彫刻家フランチェスコにすでに作らせたネプトゥヌスの彫像をヴィンチェンツォ〔・マルテッリ〕氏をご覧になりたいとのことでしたので、我々はコルトーナの司教の庭園に行くことにいたしました。」<sup>24</sup>と述べていることによって確認される。ただしこの像のその後の変遷について、フランチェスコ・ボッキが1591年に出版したフィレンツェ市内のガイドブックには、カッライア橋のた

<sup>18</sup> 1550年4月5日付、バルトリ（在フィレンツェ）からヴァザーリ（在ローマ）宛の書簡を指す。Vasari-Frey 1982, vol. 1, pp. 281-83, no. CXXXVII.

<sup>19</sup> カミッリアーニに関する主要文献は下記の通りである。Venturi 1901-1940, vol. 10, parte 2, pp. 530-45; DBI, vol. 17, pp. 217-18; Pedone 1986; AKL, vol. 15, p. 678.

<sup>20</sup> Barocchi 1971-1977, vol. 2, pp. 1359-1411 (Baccio Bandinelli, “Memoriale”).

<sup>21</sup> Bartoli 1567, ragionamento 1, p. 1v; Jonietz 2011, p. 302.

<sup>22</sup> Bartoli 1567, ragionamento 1, pp. 17r-21v.

<sup>23</sup> ウェヌス像の限定的な記述については以下に見られる。Bartoli 1567, ragionamento 1, p. 18r.

<sup>24</sup> Bartoli 1567, ragionamento 1, p. 1r: <.... noi andavamo insino al giardino del Vescovo di Cortona, perche M. Vincenzio voleva vedere quella Statua del Netunno, che io feci gia fare a Francesco Scultore.>; Jonietz 2011, p. 305.

もとのリカーゾリ邸の中庭に置かれていた彫刻群についての一連の記述のなかに「フランチェスコ・カミッリアーニによるネプトゥヌスの優れた石像」の存在が記されているが、彫像を特徴付ける記述の不足ゆえに、これとバルトリが言及する《ネプトゥヌス》とを同一視することは現段階では難しく、またこれが現存していることも確認されていない<sup>25</sup>。

バルトリの記述から、《ネプトゥヌスの噴水》は庭園の入り口から見渡せる軸線上に、ヘルメ柱が支えるアーチを伴う後陣状の空間に囲われて植物棚とともに配される予定であったことがわかる<sup>26</sup>。噴水から溢れる水を受ける楕円形の大きな水盤〔tazza〕では、海の怪物たちが別の水盤〔pilo〕を肩で支えており、ネプトゥヌスを含む彫像群はその上に配された<sup>27</sup>。すなわちこの噴水は大小ふたつの水盤で構成され、上から下へと水が流れ落ちるよう構想されていたことがわかる。ネプトゥヌス像について、バルトリは次のように述べている<sup>28</sup>。

アーチの内側には、ネプトゥヌスを入り口に向かって、海の湾もしくは岸边に辿り着いたかのよう  
に配することを思い描いておりました。ネプトゥヌスはトリトンたちと海のニンフたちを引き  
連れ、二頭の海馬が引く車に乗ってやって来ます。トリトンやニンフは皆、異なる仕方で水盤  
〔pilo〕に水を溢れ出させるのです。

さらに、別の箇所では次のように語られる<sup>29</sup>。

〔二頭の海の怪物の〕尾に変容した両脚は、水盤〔Pilo〕から溢れ出した水を受ける水盤〔Tazza〕  
の底で戯れていました。この水盤〔Pilo〕の縁の上に海馬たちが前脚をかけ、ネプトゥヌスがま  
さしく辿り着いたのであります。この場所へとネプトゥヌスに先導された海馬たちは、力を尽く  
して〔ネプトゥヌスを〕運ぶかのように、荒々しく口や鼻から水盤〔Pilo〕に水を噴き出すので  
した。

バルトリが言及するカミッリアーニの《ネプトゥヌス》についてジョニエツは、レオナルド・ダ・ヴィンチの素描を通じて 16 世紀には良く知られていた古代ローマの詩人スタティウスによる記述に関連

<sup>25</sup> BOCCHI-CINELLI CALVOLI 1677, p. 103; JONIEZ 2011, pp. 305-306.

<sup>26</sup> BARTOLI 1567, ragionamento 1, p. 4v: <.....oltre alla veduta delle stanze, si vedeva ancora la Fontana del Nettuno, & tutta la spalliera de gli aranci, che sapete quanto è bella, per essere alta piu di dodici baccia & lunga pure assai>; *ibid.*, 18r: <.....correva lo occhio infino alla Fontana del Nettuno, laquale come vi mostrerò dipoi haveva ad essere infra questa finestra & la spalliera de Melangoli, che voi cola vedete>.

<sup>27</sup> BARTOLI 1567, ragionamento 1, pp. 18v-19r: <.....& su questo lastrico moveva per ricetta del Pilo una lunga et larga Tazza, ma nò piu alta che un terzo di braccio, et come colà la potete vedete quasi che fornita, la facevo Ovata; nel mezo della quale si posava il Pilo; et di qua et di là vi andavano quei duoi monstri marini che voi vedete che con la stiena, & con le spalle loro faccendo forza mostravan di reggere le teste del Pilo;.....>

<sup>28</sup> BARTOLI 1567, ragionamento 1, p. 18v: <.....dentro al quale Arco io fingevo che arrivasse come ad una Porta un Golfo di Mare, & come a Proda vi venisse con la sua Nicchia tirata da duoi Cavagli Marini il Nettuno accompagnato da Tritoni & da Nimfe Marine, che tutti diversamente versassero acqua in questo Pilo, che qui vedete finito>.

<sup>29</sup> BARTOLI 1567, ragionamento 1, p. 19r: <.....le Gambe amendue dequali convertitesi in code, scherzavano giu per la Tazza, che riceveva la acqua che traboccava del Pilo; Sopra le sponde del qual Pilo arrivava apunto con le zampe dinanzi de suoi Cavalli Marini il Nettuno; I quali come affaticati per il viaggio, guidati da lui in questo luogo sbuffavano per la bocca & per le Nare del Naso quasi che Stizzosamente acqua nel Pilo.....>

する主題とみなした<sup>30</sup>。ウィンザー城王立図書館所蔵のレオナルドの素描では、右腕を高く持ち上げて三叉の戈を振りかざし、水面に視線を定めて波を鎮めるネプトゥヌス（「クオス・エゴ」）が表わされている（fig. 2）。左腕を体の手前から背後へ回して体をひねるネプトゥヌスの躍動的な動作と呼応するように、彼を引き連れる四頭の海馬は頭部を高くもたげて仰け反ったり、前脚を忙しく掻いたりしており、苦難を今まさに制する者としてのネプトゥヌスの荒々しくも力強い姿を印象づける。しかしながら、先に引用したバルトリの描写からは、カミッリアーニの《ネプトゥヌス》としてレオナルドの素描が表わす波を鎮めるネプトゥヌスと同様のタイプを想定することは難しい。バルトリの構想においてネプトゥヌスを乗せて運ぶ海馬たちは、先の引用に登場したトリトンやニンフとともに、水を噴出させる役割を担っていたのだろう。確かにこうした海馬の「荒々しく口や鼻から水盤に水を噴き出す」様子は、レオナルドの素描に見える海馬の獐猛な動きを思わせる。しかしバルトリが言及するカミッリアーニの《ネプトゥヌス》は、二頭の海馬が引く凱旋車に乗って岸に辿り着いた様子を示すものであり、それは「クオス・エゴ」を主題とするレオナルドの素描とは明らかに異なるタイプの造形であろう。

ここにおいてバルトリの言及から想定しうるカミッリアーニの《ネプトゥヌス》の造形としては、師とされるバンディネッリが描いた素描に近いものであった可能性が示唆されるのではないだろうか（fig. 3）。バンディネッリは1552年に、フィレンツェのシニョリーア広場のための噴水の計画を請け負った。最終的にはその歿後にアンマンナーティが同計画を実現するに至ったが、ヴァザーリによれば、これは「公妃を通じて巨人像を制作する許可を得た」ものであり、「水を取り巻く大きな噴水で、その中央には海馬たちに引かれた車に乗ったネプトゥヌスがいる」ものとして構想された<sup>31</sup>。ルーヴル美術館に所蔵されるバンディネッリの素描は、もとはヴァザーリのコレクションに入っていたもので、この噴水の委嘱に伴って1554年から1560年頃に制作されたとみられる（fig. 3）<sup>32</sup>。右脚に重心をかけて左方を見据える姿勢には、設置予定地の同広場にすでに配されていたミケランジェロの《ダヴィデ》に対する積極的な参照が見てとれる（fig. 12）。バンディネッリは同計画に先立つ1528年に、ジェノヴァ共和国の市庁舎のために委嘱されたブロンズ像《ネプトゥヌスとしてのアンドレア・ドーリア》を手がけるにあたって、早くもこのタイプの造形を実現している（fig. 4）<sup>33</sup>。計画の変更によって大理石像としてカララ大聖堂に隣接する噴水として設置されたのは1563年だが、1538年頃——リカーゾリが庭園のための敷地を入手した同年——には仕上げられていたと目される<sup>34</sup>。腰布を纏い、二頭の海馬の頭部に両脚を乗せて立つ本像に比して、ルーヴル美術館の素描に見えるネプトゥヌスは平板な台座に立ち、その足元で這う二頭の海の怪物に噛み付くトリトンのうねりながら伸びる尾を力強く握っている。

<sup>30</sup> JONIEZ 2011, p. 304. ジョニエツはレオナルドの素描をスタティウスの記述（著作および該当箇所の記載なし）と結びつけているが、先行研究ではウェルギリウスの『アエネイス』の冒頭で、トロイア掠奪後にトロイア人が海路で落ちのびる場面において（1:125-143）、ユノが風の神をして起こさせた嵐に対してネプトゥヌスがこれを鎮める際にネプトゥヌスが風に対して発しかけた脅し文句「クオス・エゴ（お前たちを私は）」（1:135）に典拠が求められている。レオナルドの素描については以下を参照。VASARI 1568\_De Agostini, vol. 3, p. 394; GOULD 1952, pp. 289-95; FUKADA 2012, p. 20.

<sup>31</sup> VASARI 1568\_De Agostini, vol. 6, p. 76.

<sup>32</sup> HEIKAMP 2011, pp. 214-215; VIATTE-BORMAND-DELIEUVIN 2011, cat. 74, pp. 190-193.

<sup>33</sup> ジェノヴァ共和国の軍人アンドレア・ドーリアは1528年に神聖ローマ帝国の海軍総督に着任し、これを受けて同年10月7日には「祖国の父」とされ、これを記念するブロンズ像がバンディネッリに委嘱された。現存の状態では欠損しているが、両手には三叉の戈と小さな海馬を握っていたと推察される。HEIKAMP 2011, p. 212.

<sup>34</sup> HEIKAMP 2011, pp. 212-214.

レオナルドの「クオス・エゴ」のネプトゥヌスを描いた素描は、海上のネプトゥヌスを表わすにあたって着想源になり得たが、16世紀のモニュメンタルな野外彫刻においてレオナルドの造形は適用されなかった<sup>35</sup>。モントルソリがメッシーナに制作した噴水（1557年）においても、バンディネッリの歿後にアンマンナーティが手がけたシニョリーア広場の噴水においても、ネプトゥヌス像は前述のバンディネッリの造形を継承するかたちで、コントラポストの姿勢で悠然と構える立像として実現された。カミッリアーニがリカーゾリの庭園に《ネプトゥヌスの噴水》を手がけた際、彫刻分野においてバンディネッリのネプトゥヌスの造形が最大の範であったことに鑑みれば、カミッリアーニの《ネプトゥヌス》に対するバルトリの解説は先のルーヴル美術館所蔵の素描に見られるような立像を示していることが強く示唆されるのである。

またリカーゾリの庭園計画が頓挫した直後に、カミッリアーニは後述するルイス・デ・トレドのフィレンツェの庭園装飾に携わることになるが、この時期のルイスの庭園を描いたボンシニョーリの地図には、《ネプトゥヌスの噴水》と目される噴水が示されていることがわかる（fig. 5）。すなわちリカーゾリの庭園のために制作されていた《ネプトゥヌスの噴水》が、通りを二本隔てた近隣に位置するルイスの私有地において新たに開始された庭園装飾に転用されたとみられる<sup>36</sup>。ここには庭園を南北に貫く通路の中程に大小ふたつの噴水が描き込まれているが、このうち大きな噴水において円形の水盤の中央に据えた台座に配されているのは、やはり立像である。この立像は三叉の戈を思わせる長い棒状のものを手にしているため、ネプトゥヌス像とみてよいだろう。

以上の考察から、バルトリが『ラジヨナメンティ・アカデーミチ』第1講で語るネプトゥヌス像の描写は、レオナルドが描いた「クオス・エゴ」のそれとは異なり、16世紀の彫刻分野で確実な範例となっていたバンディネッリの穏やかな立像形式を引き継ぐ造形であった可能性が導かれた。カミッリアーニは、1530年以前と目される生年に鑑みて恐らく初の単独制作であった《ネプトゥヌス》を、師の先例を強く参照するかたちで作品を構想したと考えられるのである。

### 3 ルイス・デ・トレドのフィレンツェの庭園のための彫刻群

次に、ヴァザーリがカミッリアーニの作品群として言及した、ルイス・デ・トレドのフィレンツェの庭園のために制作された噴水を対象とし、そこにおいてカミッリアーニがバンディネッリをいかに参照しているかを検討したい。カミッリアーニの彫像群は、パレルモのプレトリーア広場に移設後、直径20メートルに及ぶ円形の噴水として設営された（fig. 1）。内側の同心円状の溜め池に浮き島を設け、中心の楕円に三つの水盤からなるカンデラブロ型の噴水を設けている。浮き島には四方向に階段を設け、そこに付された各欄干の両端にはそれぞれ古代神話に依拠する神々の立像が立ち並ぶ。2体が欠損しており、現存する14体のうち1体は大戦後のコピーであることが確実視される<sup>37</sup>。更に外周の四方向には楕円形

<sup>35</sup> HEIKAMP 2011, p. 218.

<sup>36</sup> JONIEZ 2011, p. 311.

<sup>37</sup> PEDONE 1986, p. 61.

の水盤とともに河川の横臥擬人像を配し、各像は両脇にトリトンとネレイスを従えている。

フィレンツェから彫刻群をパレルモへ移送する際に記された 1574 年の公証人の記録には、移送される「大理石群 644 点」がリストアップされている（記された総計には 4 点の誤差がみられる）<sup>38</sup>。そこには彫像群 40 体、動物の頭部像 19 点、その他部分的な建築体を含む副次的な装飾群 589 点の三群に分けて、主題ないし名称と保存状態、個数が列挙されている。まず彫像群は、現在噴水の外周に配される横臥像のうち《アルノ河》《ムニョーネ河》《パルナッソス》の 3 体が明記される。《パピレート河》とみなされる禿頭の男性横臥像については、補作に携わったとみられる彫刻家ミケランジェロ・ナケリーノの署名があるため、パレルモで新たに制作されたと考えてよい。残る彫像群のうち、トリトン、海の怪物、中央の水盤のための装飾彫刻、ヘルメ柱などを除く少なくとも 15 体が古代神話の神々の像と認められる。しかしこの中には、移送途中で失われたとみられる作品や現存の彫像と名称が一致しないものも含まれる。次に、動物の頭部像は、現況の噴水の中央に設けられた同心円の浮き島の外周の四区画——4 つの階段によって四分分割された外周壁——に 6 体ずつ、計 24 体がそれぞれ小さな半円形のニッチから顔をのぞかせるかたちで配されているものを指す。移送時のリストに記載された 19 体を除き、残る 5 体は移設後に補作された。

神々の像は着衣像と裸体像が混在しているが、各像はいずれもコントラポストの姿勢をとり、とりわけ上半身を左右いずれかの方向へわずかに捻ると同時に、大半の像は上半身の回転と反対の方へ顔を傾けている（figs. 6-7）。そこにみられる、しなやかさを持ちながらも図式化されたような人体表現は、バンディネッリがフィレンツェ大聖堂の主祭壇のために手がけた《アダムとエヴァ》の裸体像を彷彿とさせる（fig. 8）。本作品では、彫像に隙間を多く取り入れることで体躯がしなやかさを帯びており、それによって視覚的に強調されるコントラポストの S 字曲線が、不均衡な接続を否めない人体表現をまとめあげる効果を発揮している。カミッリアーニによる神々の像においても、《ウェヌス》《ケレース》《バッコス》《ガニュメデス》を除いて、神々の両腕は多かれ少なかれ体躯から離されて隙間を作っており、捻りを加えた上半身のゆるやかな曲線が印象づけられているのである（figs. 6-7）。石材を大胆に削り落として彫像に隙間をつくる手法は、バンディネッリの造形の特徴に数えられるだろう。1554 年に着手されたサンティッシマ・アンヌンツィアータ聖堂のための《ピエタ》においても同様に、バンディネッリは人物の重なりを避け、キリストの身体の周りに意図的に空間を作ることでその存在を際立たせているのである（fig. 9）。バンディネッリが《アダムとエヴァ》を設置した 1552 年は、カミッリアーニがルイスの庭園計画に着手したとみられる時期に重なる。すなわちカミッリアーニは、師の最新の造形を手本とし、僅かに変化をつけながらこれを繰り返し用いることで神々の像を仕上げたと考えられる。

こうした人体の本来的な均衡とは無関係に生み出される緩やかな曲線の表現が多分に取り入れられている一方で、幾分のぎこちなさを保持し続けているカミッリアーニの造形に深く根を張っているのは、すでにシニョリーア広場に設置されていたバンディネッリの《ヘラクレスとカクス》の様式であろう（fig. 10）。とりわけトリトンやネレイスに顕著であるが、筋肉の弛緩を許さないかのように硬直した面的な肉

<sup>38</sup> 註 7 を参照。

体表現は、明らかにバンディネッリのヘラクレス像に範をとっている (fig. 11)。支脚に添えて降ろした腕と反対の腕を曲げ、体軀を軽くひねって肩越しに視線を投げ掛ける姿勢は、バンディネッリにとっても偉大な先行作品であったミケランジェロの《ダヴィデ》を反映している (fig. 12)。しかしながらカミッリアーニは、内的な緊張をはらみながらもコントラポストの姿勢による弛緩の造形をとる《ダヴィデ》とは異なり、遊脚を設けず、一步前へ踏み出す姿勢をもって両脚で像に重心をとらせている (fig. 11)。つまりカミッリアーニにとって、師であるバンディネッリの代表作たる《ヘラクレスとカクス》は絶対的な指標となっていたのであり、コントラポストの姿勢をとる前述の神々の像においてさえも散見される、構造的であろうとするがゆえの単調さは、バンディネッリのヘラクレス像に由来する造形であると考えることが出来よう。

また神々の像のうち、《アポロン》には前述のバンディネッリの《ネプトゥヌス》の素描との類縁性がみとめられる (figs. 3, 6)。《ネプトゥヌス》に見られる頭部の強い左回転は《アポロン》においては弱められているものの、両者は左肩を手前に迫り出させ、対する右肩を後方へ大きく引き下げて上半身をひねり、腕を軽く曲げて持物を握る仕草をとる点で共通する。主題は異なるが、人体を貫く S 字曲線の強調と上半身に顕著な筋肉の緊張は、カミッリアーニが師であるバンディネッリの造形様式に忠実であったことを物語っている。

カミッリアーニがバンディネッリを直接的な手本としていたことは、前述の動物の頭部像において決定的である。すなわちこれらのうち 4 点が、バンディネッリの《ヘラクレスとカクス》が立つ岩場のモチーフの四隅に付されたライオン、イノシシ、オオカミ、イヌの各頭部像を忠実に模倣した作品であり、先の移設作品を示すリストに記載されていると同時に、現況の 24 体のうちに確認されるのである (figs. 13-16)。いずれも、口の開き方や耳の形、毛並みや筋肉の動きなど細部に至るまでバンディネッリ作品と酷似している。これら以外の頭部像は、実在の動物と空想の怪物が混在しているが、いずれも 4 点の模倣作品から展開していることは明らかである。

#### 4 トレド家によるパトロネージ

バンディネッリはメディチ家と極めて密接な関係性を保った芸術家であり、とりわけトレド家からコジモ 1 世の公妃となったエレオノーラがバンディネッリを寵愛していたことは、第 2 節で扱ったシニョリア広場のための《ネプトゥヌスの噴水》をめぐる一連の証言に如実に表れている。先に引用した通り、ヴァザーリはこの作品の制作について、「(バンディネッリは) 公妃を通じて巨人像を制作する許可を得た」<sup>39</sup>と伝えている。またすでにバンディネッリに委嘱されていたこの噴水の制作に対してコジモ 1 世に競作を申し出たベンヴェヌート・チェッリーニも、エレオノーラがバンディネッリを寵愛していた事実を自伝のなかで次のように伝えている<sup>40</sup>。

<sup>39</sup> 註 20 を参照。

<sup>40</sup> CELLINI\_vita\_gp, p. 413 (第 99 節) より部分抜粋。



ちょうどこの頃〔1559年〕、海神ネプトゥヌス制作用の巨大な大理石が運ばれてきた。(中略) 公爵夫人が個人的なご愛顧のゆえに騎士・バンディネッロのために確保されたことは重々承知していた。

チェッリーニはこの他にも同自伝のなかで複数回に渡って、公妃によるバンディネッリの最良が自身の委嘱の取り付けに支障となっていたことを述べている。これがバンディネッリに対してチェッリーニが抱いていた激しい敵対心ゆえの吐露であることを考慮しても尚、フィレンツェ公国にとってバンディネッリが最も信頼の厚い彫刻家であったことは、1540年以降およそ30年をかけて進められたヴェッキオ宮殿の改築事業において、二階の大広間の北側壁面に設けられた謁見壇およびそこに配する歴代メディチの大理石肖像彫刻群の制作がバンディネッリに委ねられたことに表れている。

ここに見られる公妃エレオノーラによるバンディネッリの寵愛は、バンディネッリの様式を忠実に継承したカミッリアーニにも好機を与えたのではないだろうか。ペドローネは、カミッリアーニがエレオノーラの弟であるルイスの庭園計画に従事し得た背景として、バンディネッリがトレド家、とりわけ公妃エレオノーラに対する恩義ゆえに、門弟のカミッリアーニをルイスに紹介した可能性を提示している<sup>41</sup>。彫刻家としてのキャリアが未完成のうちに頓挫したりカーゾリの庭園のための制作に限られていたと思われるカミッリアーニが、公妃の出身であるトレド家から大規模な噴水の委嘱を取りつけ得たことは、バンディネッリに対するトレド家の信頼を裏付けるものであろう。それは同時に、第2、3節で考察したようにカミッリアーニがバンディネッリを強く参照する彫刻家であったことが、委嘱者であるトレド家にとって好都合であったとも考えられる。実際、ルイスの庭園のための彫刻群では、バンディネッリとの造形様式の親近性のみならず、モチーフレベルでの複製も見受けられることが確認された。すなわちルイスの庭園において、トレド家の側からバンディネッリの既存の作品に近い作品が希求されていた可能性が推察されるのである。

公妃エレオノーラは弟のルイスに対して非常に協力的であり、ルイスのフィレンツェ滞在の折には継続的に経済的支援を行っていた<sup>42</sup>。すなわちルイスの同地での活動には、エレオノーラの意向が少なからず反映されていることが窺えるだろう。それゆえルイスがフィレンツェに庭園を整備する計画を立てた際、エレオノーラに助言を仰いだことは想像に難くない。すなわちバンディネッリを寵愛していたエレオノーラの意向を反映するかたちで、ルイスの庭園を「バンディネッリ的な」作品で充填することが目指され、師の様式を継承したカミッリアーニがトレド家の需要に合致したと捉える文脈を想定することが出来るのである。

<sup>41</sup> PEDONE 1986, p. 41.

<sup>42</sup> 1552年から1554年にかけて、ルイスはカステッロやペトラリアで生産された小麦やワイン、その他の穀物などをエレオノーラから受け取っていることに加え、1562年12月17日付のエレオノーラの遺言状には、ルイスに対して500スクーディの相続が約束されている。Archivio di Stato di Firenze, *Ricordi e Lettere della Ill.ma S.a Duch.a 1552-1554*, c. 7r; Archivio di Stato di Firenze, *ibid.*, c. 57v; Archivio di Stato di Firenze, *Testamento di Eleonora di Toledo del 17. 12. 1562*, c. 237r; ORFANELLO 1997, p. 66.

## 文献一覧

\* 一次史料、古典文学、研究文献はアルファベット順に、展覧会カタログは開催年順に表記した。欧文献の原本と翻訳書はそれぞれ一覧に含め、本文中ではそのうち使用した文献の略記見出しと該当箇所を掲載した。

### 一次史料（芸術家に関する史料）

- Ammannati 1970**: Bartolomeo Ammannati, ed. by Mazzino Fossi, *La Città: appunti per un Trattato*, Roma, 1970.
- Androuet Du Cerceau 1576**: Jacques Androuet Du Cerceau, *Le Premier volume des plus excellents bastiments de France... auquel sont designez les plans de quinze bastiments et de leur contenu ensemble les elevations et singularitez d'un chascun, par Jacques Androuet Du Cerceau, architecteur*, Paris, 1576.
- Aretino lettere**: Pietro Aretino, ed. by Ettore Comesasca, Fidenzio Pertile, and Carlo Cordié, *Lettere sull'arte di Pietro Aretino*, 4 vols., Milano, 1957-1960.
- Baldinucci 1845-1847**: Filippo Baldinucci, ed. by Ferdinando Ranalli, *Notizie dei professori del disegno da Cimabue in qua: opera... distinta in secoli e decennali*, 5 vols., Firenze, 1845-1847.
- Barocchi 1971-1977**: Paola Barocchi, ed., *Scritti d'arte del Cinquecento*, 3 vols., Milano, 1971-1977.
- Bartoli 1550**: Cosimo Bartoli, *L'architettura di Leonbatista Alberti: tradotta in lingua fiorentina da Cosimo Bartoli gentil'huomo e accademico fiorentino*, Firenze, 1550.
- Bartoli 1567**: Cosimo Bartoli, *Ragionamenti accademici di Cosimo Bartoli: gentil' huomo et accademico fiorentino, sopra alcuni hvoghi difficili di Dante*, Venezia, 1567.
- Belon 1589**: Pierre Belon, *De neglecta Stirpium Cultura, atque earum cognitione Libellus. Edocens qua ratione Silvestres arbores cicurari et mitescere queant*, Antwerp, 1589.
- Bocchi—Cinelli Calvoli 1677**: Francesco Bocchi and Giovanni Cinelli Calvoli, *Le bellezze della città di Firenze dove a pieno di pittura, di scultura, di sacri templi, di palazzi, i più notabili artifizi, e più preziosi si contengono scritte già da M. Francesco Bocchi ed ora da M. Giovanni Cinelli ampliate, ed accrescuite*, Firenze, 1677.
- Borghini-r 1584**: Raffaello Borghini, *Il Riposo, in cui della pittura, e della scultura si favella, de' più illustri pittori, e scultori, e delle più famose opere loro si fa mentione, e le cose principali appartenenti a dette arti s'insegnano*, Firenze, 1584. [英訳: Raffaello Borghini ed. and trans. by Lloyd H. Ellis Jr., *Il Riposo*, Toronto, 2008]
- Borghini-r 1967**: Raffaello Borghini ed. by Mario Rosci, *Il Riposo: saggio bibliografico e indice analitico*, Milano, 1967.
- Borghini-v 1909**: Vincenzo Borghini, ed. by Antonio Lorenzoni, *I ricordi di Don Vincenzo Borghini, (Frammenti inediti di Vita Fiorentina, 4)*, Firenze, 1909.
- Borghini-v 1912**: Vincenzo Borghini, ed. by Antonio Lorenzoni, *Carteggio artistico inedito di D. Vincenzo Borghini*, Firenze, 1912.
- Borghini-v 1971**: Vincenzo Borghini, ed. by John Robert Woodhouse, *Scritti inediti o rari sulla lingua*, Bologna, 1971.
- Borghini-v 1974**: Vincenzo Borghini, ed. by John Robert Woodhouse, *Storia della nobiltà fiorentina: discorsi inediti o rari*, Pisa, 1974.
- Borghini-v 1993**: Vincenzo Borghini, ed. by Daniela Francalanci and Franca Pellegrini, *Carteggio 1541-1580: censimento*, Firenze, 1993.
- Borghini-v 1995**: Vincenzo Borghini, ed. by Gino Belloni, *Lettera intorno a' manoscritti antichi*, Roma, 1995.
- Borghini-v 1998**: Vincenzo Borghini, ed. by Gino Belloni, *Vincenzo Borghini dall'erudizione alla filologia: una raccolta di testi*, Pescara, 1998.
- Borghini-v 2001**: Vincenzo Borghini, ed. by Daniela Francalanci, Franca Pellegrini, and Eliana Carrara, *Il carteggio di Vincenzo Borghini*, vol. 1: 1541-1552, Firenze, 2001.
- Bottari—Ticozzi 1979-1980**: Giovanni Gaetano Bottari and Stefano Ticozzi, eds., *Raccolta di lettere sulla pittura, scultura ed architettura*, Bologna, 1979-1980.
- Buonarroti carteggio**: Michelangelo Buonarroti, ed. by Giovanni Poggi and Paola Barocchi, *Il carteggio di Michelangelo*, 5 vols., Firenze, 1965-1983.
- Campori 1873**: Giuseppe Campori, *Memorie biografiche degli scultori, architetti, pittori ec. nativi di Carrara e di altri luoghi della provincia di Massa, con cenni relativi agli artisti italiani ed esteri che in essa dimorarono ed operarono e un saggio bibliografico per cura di G. Campori*, Modena, 1873.
- Cellini vita**: Benvenuto Cellini, ed. by Francesco Tassi, *Vita di Benvenuto Cellini scritta da lui medesimo tratta dall'autografo*, Firenze, 1831. [邦訳: ベンヴェヌート・チェッリーニ『チェッリーニ: わが生涯』大空幸子訳、新評論、1983年]
- Coppi—Marucelli 2000**: Enrico Coppi and Paolo Marucelli, eds., *Cronaca fiorentina 1537-1555 (Documenti di storia italiana, 2)*, Firenze, 2000.
- Danti 1583**: Ignazio Danti, *Le due regole della prospettiva pratica*, Roma, 1583 (Alburch, 1987).
- Dati 1735**: Gregorio Dati, ed. by Giuseppe Bianchini, *Istoria di Firenze di Goro Dati, dall'anno 1380 all'anno 1405, con annotazioni da Giuseppe Bianchini*, Firenze, 1735.
- De Vieri 1586**: M. Francesco de' Vieri, *Discorsi di M. Francesco de' Vieri detto il Verino secondo...delle maravigliose opere di Pratinolo e d'Amore ed un ragionamento dell'arti*, Firenze, 1586.
- Del Migliore 1684**: Ferdinando Leopoldo Del Migliore, *Firenze: città nobilissima*, Firenze, 1684.
- Dominici 1742-1744**: Bernardo de Dominici, *Vite de' pittori, scultori, ed architetti napoletani non mai date alla luce da autore alcuno*, 3 vols., Napoli, 1742-1744.
- Enriques Agnoletti 1940**: A. M. Enriques Agnoletti, ed., *Statuto dell'Arte della lana (1317-1319)*, Firenze, 1940.
- Erizzo 1559**: Sebastiano Erizzo, *Discorso sopra le medaglie antiche*, Venezia, 1559.
- Fanti Ferrarese 1527**: Sigismondo Fanti Ferrarese, *Triumpho di fortuna*, Venezia, 1527.
- Fonticulano 1582**: Girolamo Pico Fonticulano, ed. by Mario Centofani, *Breve descrittione di sette città illustri d'Italia*, L'Aquila, 1582 (Textus, 1996).
- Furttenbach 1627**: Joseph Furttenbach, *Newes Itinerarium Italiae: In welchem der Reisende nicht allein gründtlichen Bericht, durch die*

- herrlichste namhaffte örtler Italiae sein Reiß wol zubestellen: sonder es wirdt jhme auch gantz eygentlich beschrieben, was allda... an Sitten vnd Gewonheiten, im Geistlichen vnd Politischen: an Mechanischen Wercken, zu Land vnd zu Wasser, vnd also an Gebäwen in Stätten... denckwürdig zu sehen, Ulm, 1627 (Hildesheim, 1971).
- Gaye 1839-1840:** Johannes Wilhelm Gaye, ed., *Carteggio inedito d'artisti dei secoli XIV, XV, XVI*, 3 vols., Firenze, 1839-1840.
- Giani-Garbi 1721:** Arcangelo Giani and Luigi Maria Garbi, *Annalium Sacri Ordinis Fratrum Servorum B. Mariae Virginis*, Lucca, 1721.
- Giovio 1556:** Paolo Giovio, *Ragionamento sopra i motti, & disegni d'arme, & d'amore, che comunemente chiamano imprese*, Venezia, 1556.
- Giraldi 1548:** Lilio Gregorio Giraldi, *De Deis Gentium*, Basel, 1548 (New York and London, 1976).
- Guardabassi 1872:** Mariano Guardabassi, "Documenti intorno alla statua di Giulio III gettata da Vincenzo Danti", *Giornale di erudizione artistica*, vol. 1, 1872, pp. 16-24.
- Lapini 1900:** Agostino Lapini, ed. by Giuseppe Odoardo Corazzini, *Dialogo fiorentino di (...) dal 252 al 1596*, Firenze, 1900.
- Lomazzo 1584:** Giovanni Paolo Lomazzo, *Trattato dell'arte de la pittura*, Milano, 1584.
- Mantova Benavides 1551:** Marco Mantova Benavides, *Enchiridion rerum singularium*, Venezia, 1551.
- Martelli 1546:** Niccolò Martelli, *Il primo libro delle lettere*, Firenze, 1546.
- Mellini 1556:** Domenico Mellini, *Descrizione Dell' Entrata Della serenissima Reina Giovanna d'Austria Et dell'Apparato, fatto in Firenze nella venuta, & per le felicissime nozze di S. Altezza Et dell'Illustrissimo, & Exellentiss. Don Francesco De Medici, Principe di Fiorenza, & di Siena*, Firenze 1556.
- Micheli 1748:** Pier Antonio Micheli, *Catalogus plantarum Horti Caesarei Florentini opus postumum iussu Societatis botanicae editum, continuatum, et ipsius horti historia locupletatum ab Io. Targionio Tozzetto*, Firenze, 1748.
- Pascoli 1730:** Lione Pascoli, *Le vite de' pittori, scultori ed architetti perugini*, Roma, 1730.
- Ripa 1611:** Cesare Ripa, ed. by Stephen Orgel, *Iconologia*, Padova, 1611 (New York, 1976).
- Rosello 1552:** Lucio Paolo Rosello, *Il ritratto del vero governo del prencipe dal essemplio vivo dall'essemplio vivo del gran Cosimo de' Medici*, Venezia, 1552.
- Tonini 1876:** Pellegrino Tonini, *Il santuario della Santissima Annunziata di Firenze*, Firenze, 1876.
- Trkulja 1991:** Silvia Meloni Trkulja, ed., *I fiorentini nel 1562: descriptione delle bocche della città et stato di Fiorenza fatta l'anno 1562*, Firenze, 1991.
- Varchi 1573:** Benedetto Varchi, *Sonetti spirituali di M. Benedetto Varchi, con alcune risposte e proposte di diversi eccellentissimi ingegni; nuovamente stampati*, Firenze, 1573.
- Varchi 1590:** Benedetto Varchi, *Lezioni nell'Accademia Fiorentina*, Firenze, 1590.
- Varchi 1838:** Benedetto Varchi, ed. by Lelio Arbib, *Storia Fiorentina di Benedetto Varchi*, 3 vols., Firenze, 1838.
- Varchi 1841:** Benedetto Varchi, ed. by Giuseppe Aiazzi and Lelio Arbib, *Lezioni sul Dante e prose varie*, Firenze, 1841.
- Vasari 1550/1568 a:** Vasari, ed. by Gaetano Milanese, *Le vite de' più eccellenti pittori, scultori e architettori italiani*, 9 vols., Firenze, 1878-1885.
- Vasari 1550/1568 b:** Giorgio Vasari, ed. by Rosanna Bettarini and Paola Barocchi, *Le vite de' più eccellenti pittori scultori e architettori: nelle redazioni del 1550 e 1568*, 11 vols., Firenze, 1966-1997.
- Vasari 1568:** Giorgio Vasari, ed. by Paola Della Pergola, Luigi Grassi, Giovanni Previtali, and Aldo Rossi, *Le vite de' più eccellenti pittori e architettori*, eds., 9 vols., Firenze, 1967. [抄訳: ジョルジョ・ヴァザーリ『ヴァザーリの芸術論:『芸術家列伝』における技法論と美学』辻茂、高階秀爾、佐々木英也、若桑みどり、生田圓詠、ヴァザーリ研究会、1980年; ジョルジョ・ヴァザーリ『ルネサンス画人伝』平川祐弘ほか訳、白水社、1982年; ジョルジョ・ヴァザーリ『ルネサンス彫刻家建築家列伝』上田恒夫ほか訳、白水社、1989年; ジョルジョ・ヴァザーリ『ルネサンス画人伝』上田恒夫ほか訳、白水社、2009年; ジョルジョ・ヴァザーリ『ルネサンス彫刻家建築家列伝』上田恒夫ほか訳、白水社、2009年; ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』森田義之他監訳、1, 3-5巻、中央公論美術出版社、2014-2017年]
- Vasari 1823:** Giorgio Vasari, *Ragionamenti del Signor Giorgio Vasari sopra le invenzioni da lui dipinte in Firenze nel Palazzo Vecchio con D. Francesco Medici, allora Principe di Firenze*, Pisa, 1823.
- Vasari 1907:** Giorgio Vasari, ed. by Louisa S. Maclellan and G. Balwin Brown, *Vasari on Technique, Being the Introduction to the Three Arts of Design, Architecture, Sculpture and Painting, Prefixed to the Lives of the Most Excellent Painters, Sculptors and Architects*, London, 1907.
- Vasari-Frey 1940:** Herman-Walther Frey, *Neue Briefe von Giorgio Vasari*, München, 1940.
- Vasari 1981:** Giorgio Vasari, ed. by Gaetano Milanese and Paola Barocchi, *Le opere di Giorgio Vasari con nuove annotazioni e commenti*, 9 vols., Firenze, 1981.
- Vasari-Frey 1982:** Giorgio Vasari, ed. by Karl Frey and Herman-Walther Frey, *Der Literarische Nachlass Giorgio Vasaris*, 3 vols., Hildesheim, 1982.
- Vico 1650:** Enea Vico, *Ex gemmis et cameis antiquorum aliquot monumenta ... incisa perillustri et excellentissimo domino D. Dominico Panarolo Rom[an]o in patrio lyc[a]eo medicin[ae] professori Io. Dominicus de Rubeis D.D.*, Roma, ca. 1650.
- Villani istorie:** Giovanni Villani, *Istorie fiorentine (Classici italiani)*, 8 vols., Milano, 1802-1803.

## 古典文学

- Alberti 1485:** Leon Battista Alberti, *De re aedificatoria*, Firenze, 1485. [伊訳: Leon Battista Alberti, ed. by Giovanni Orlandi and Paolo Portoghesi, *L'architettura (De Re Aedificatoria)*, 2 vols., Milano, 1966. 邦訳: アルベルティ『建築論』相川浩訳、中央公論美術出版、1982年. 英訳: Leon Battista Alberti, trans. into Italian by Cosimo Bartoli, trans. into English by James Leoni, ed. by Joseph Rykwert, *Ten Books on Architecture*, London, 1995]
- Alciati 1535:** Andreae Alciati, *Emblematum libellus*, Parisiis, 1535 [アンドレア・アルチャーティ『エンブレム集』伊藤博明訳、ありな書房、2000年].

- Apollodorus *bibliotheca***: Grammaticus Apollodorus, *Bibliotheca: The Library*, trans. by James George Frazer, 2 vols., Cambridge, 1921. [邦訳: アポロドーロス『ギリシア神話』高津春繁訳、岩波文庫、1953年(1993年、第55刷)]
- Cartari 1571**: Vincenzo Cartari, *Le imagini...degli Dei*, Venezia, 1571 (New York and London, 1976). [邦訳: ヴィンチェンツォ・カルタリー『西欧古代神話図像大鑑——全訳「古人たちの神々の姿について」』大橋喜之訳、八坂書房、2012年]
- Conti–Tritonio 1616**: Natale Conti and Marco Antonio Tritonio, *Mythologiae sive explicationis fabularum libri decem... Accessit G. Linocerii Musarum mythologia...*, Padova, 1616 (*Philosophy of Images*, vol. 13, New York and London, 1979).
- Ovidius *metamorphoses***: Publius Ovidius Naso, *Metamorphoses*, trans. by Frank Justus Miller, London, 1977. [邦訳: オウィディウス『変身物語』中村善也訳、上下巻、岩波文庫、1984年(2010年、第21刷)]
- Plinius Secundus**: Gaio Plinio Scondo, ed. and trans. by Antonio Corso, Rossana Mugellesi, and Gianpiero Rosati, Torino, 1988. [英訳: Gaius Plinius Secundus, ed. and trans. by Harris Rackham, *Historia naturalis: Natural History*, 10 vols., London, 1958-1962. 邦訳: プリニウス『プリニウスの博物誌』中野定雄、中野里美、中野美代共訳、全3巻、雄山閣出版株式会社、1986年]
- Plutarchus *vitae***: Lucius Mestrius Plutarchus, *Vitae parallelae*, ed. by Claes Lindskog and Konrat Ziegler, 3 vols., Leipzig, 1915-1959. [邦訳: プルタルコス『プルタルコス英雄伝』村川堅太郎訳、上中下巻、ちくま文庫、1987年]
- Virgil 1974**: Virgil, trans. by H. Rushton Fairclough, *Eclogues. Georgics. Aeneid*, 6 vols., Cambridge and London, 1974. [邦訳: ウェルギリウス『アエネーイス』岡道男、高橋宏幸訳、京都大学出版会、2001年]
- Vitruvius *architectura***: Marcus Vitruvius Pollio, *De architectura libri decem*, Florentiae, 1522. [ウィトルウィウス『ウィトルーウィウス建築書』森田慶一訳、東海大学出版、1969年]

## 研究文献

- Acidini Luchinat 1980**: Cristina Acidini Luchinat, “Invenzioni borghiniane per gli apparati nell’età di Cosimo I”, in *Tarassi 1980*, pp. 159-167.
- Acidini Luchinat 1987**: Cristina Acidini Luchinat, ed., *Firenze in villa*, Firenze, 1987.
- Acidini Luchinat 1989**: Cristina Acidini Luchinat, “La grotta degli animali nel giardino di Castello: iconologia e materiali degrado e restauro”, in *Vezzosi 1989-1990*, vol.1, pp. 44-45.
- Acidini Luchinat 1991**: Cristina Acidini Luchinat, “La fontana del Nettuno, viaggi e metamorfosi”, in *Acidini Luchinat–Zorzi 1991*, vol. 1, pp. 31-45.
- Acidini Luchinat–Galletti 1992**: Cristina Acidini Luchinat and Giorgio Galletti, *Le ville e i giardini di Castello e Petraia a Firenze*, Ospedaletto FI, 1992.
- Acidini Luchinat 1997**: Cristina Acidini Luchinat, ed., *Tesori dalle collezioni medicee*, Firenze, 1997.
- Acidini Luchinat–Pirazzoli 2011**: Cristina Acidini Luchinat and Giacomo Pirazzoli, eds., *Ammannati e Vasari per la città dei Medici*, Firenze, 2011.
- Acidini Luchinat–Zorzi 1991**: Cristina Acidini Luchinat and Elvira Garbero Zorzi, eds., *Boboli 90 (atti del convegno internazionale di studi per la salvaguardia e la valorizzazione del giardino)*, 2 vols., Firenze, 1991.
- Ackerman 1951**: James S. Ackerman, “The Belvedere as a Classical Villa”, *Journal of the Warburg and Courtauld Institutes*, vol. 14, no. 1/2, 1951, pp. 70-91.
- Adelson 1980**: Candace Adelson, *Le arti del principato mediceo*, Firenze, 1980.
- AKL**: Andreas Beyer, Bénédicte Savoy and Wolf Tegethoff, eds., *Allgemeines Künstlerlexikon: Die Bildenden Künstler aller Zeiten und Völker*, 99 vols. (2017年現在), München and Leipzig, 1969-.
- Allegri–Cecchi 1980**: Ettore Allegri and Alessandro Cecchi, *Palazzo Vecchio e i Medici*, Firenze, 1980.
- Ames-Lewis–Joannides 2003**: Francis Ames-Lewis and Paul Joannides, eds., *Reactions to the Master: Michelangelo’s Effect on Art and Artists in the Sixteenth Century*, Aldershot, 2003.
- Andreani–Cannistrà 2010**: Laura Andreani and Alessandra Cannistrà, *L’opera del Duomo, Orvieto: le cattedrali, segni delle radici cristiane in Europa: il ciclo scultoreo degli Apostoli e dell’Annunciazione nel Duomo di Orvieto (Atti del II convegno)*, Orvieto, 2010.
- Arbòs 2009**: Joan Mut Arbòs, “Contributi per l’interpretazione del ciclo pittorico della cappella Grimani a San Francesco della Vigna”, *Venezia cinquecento*, vol. 19, no. 37, 2009, pp. 137-202.
- Arcangeli–Peyronel 2008**: Letizia Arcangeli and Susanna Peyronel, eds., *Donne di potere nel rinascimento*, Roma, 2008.
- Aricò 2013**: Nicola Aricò, *Architettura del tardo rinascimento in Sicilia: Giovannangelo Montorsoli a Messina (1547-57)*, Firenze, 2013.
- Artusi 2005**: Luciano Artusi, *Tante le acque che scorrevano a Firenze: itinerario fra giochi d’acqua delle decorative fontane fiorentine*, Firenze, 2005.
- Aschoff 1967**: Wiebke Aschoff, *Studien zu Niccolò Tribolo*, Frankfurt, PhD. diss., Johann Wolfgang Goethe Univ., 1967.
- Avalle–Berschin–Campanile 2003**: D’Arco Silvio Avalle, Walter Berschin, and Enrico Campanile, et. al., eds., *Lo spazio letterario del Medioevo*, 3, *Le culture circostanti II, La cultura arabo-islamica*, Roma and Salerno, 2003.
- Avery-c 1970**: Charles Avery, *Florentine Renaissance Sculpture*, London, 1970.
- Avery-c 1987**: Charles Avery, *Giambologna. The Complete Sculpture*, Oxford, 1987.
- Avery-c 2001**: Charles Avery, *Studies in Italian Sculpture*, London, 2001.
- Avery-v 2008**: Victoria Avery, “Virtue, Valor, Victory. The Making and Meaning of Bronze Equestrian Monuments (ca. 1440- ca. 1640)”, in *Poeschke–Weigel–Kusch–Arnhold 2008*, pp. 199-233.
- Badia 1881**: Jodoco del Badia, *Egnazio Danti cosmografo e matematico e le sue opere in Firenze*, Firenze, 1881.
- Baldini 1979**: Laura Baldini, “Le mille stanze del Re. Firenze, Palazzo Pitti: grotticina di Madama”, *Bollettino d’arte*, ser. 6, vol. 64, no. 1, 1979, pp. 92-97.
- Baldini–Ferretti 2001**: Laura Baldini and Emanuela Ferretti, “Le due regge”, in *Acidini Luchinat–Pirazzoli 2011*, pp. 85-101.
- Barasch–Sandler 1981**: Moshe Barasch and Lucy Freeman Sandler, eds., *Art, the Ape of Nature: Studies in Honor of H. W. Janson*, New

- York, 1981.
- Bargellini 1968:** Piero Bargellini, *Scoperta di Palazzo Vecchio*, Firenze, 1968.
- Barkan 1999:** Leonard Barkan, *Unearthing the Past: Archaeology and Aesthetics in the Marking of Renaissance Culture*, New Haven, 1999.
- Barocchi 1970:** Paola Barocchi, “Una “Selva di Notizie” di Vincenzo Borghini”, in *Mattioli 1970*, pp. 87-172.
- Barocchi 1982:** Paola Barocchi, *Michelangelo: Tondo Pitti, Apollo-David, Bruto, (Lo specchio del Bargello, vol. 10)*, Firenze, 1982.
- Barzellotti 1880:** Luigi Barzellotti, *I beni dell'arte della Lana*, Firenze, 1880.
- Barzman 2000:** Karen-Edis Barzman, *The Florentine Academy and the Early Modern State: The Discipline of Disegno*, Cambridge, 2000.
- Battisti 1965:** Eugenio Battisti, “Disegni inediti del Montorsoli”, *Arte Lombarda: studi in onore di Giusta Nicco Fasola*, vol. 10, no. 9, 1965, pp. 143-148.
- Béguin–Costamagna 2003:** Sylvie Béguin and Philippe Costamagna, “Nouvelles considérations sur Baccio Bandinelli peintre: la redécouverte de la “Léda et le cygne””, *Les cahiers d'histoire de l'art*, vol. 1, 2003, pp. 7-18.
- Belgrano–Merli 1874:** Luigi Tommaso Belgrano and Antonio Merli, *Il palazzo del principe d'Oria a Fassolo in Genova*, Genova, 1874.
- Belli 2005:** Gianluca Belli, “Un monumento per Cosimo I de' Medici: la Colonna della Giustizia a Firenze”, *Annali di architettura*, vol. 16, 2005, pp. 57-78.
- Belli barsali 1977:** Isa Belli Barsali, *Baldassare Peruzzi e le ville senesi del cinquecento*, S. Quirico d'Orcia, 1977.
- Belloni 2000:** Gino Belloni, “Agosto-Settembre 1580: libri per San Lorenzo dalla biblioteca del Borghini”, in *Velli 2000*, vol. 1, Milano, 2000, pp. 479-510.
- Benson 2004:** Pamela J. Benson, “Eleonora di Toledo among the Famous Women: Iconographic innovation after the conquest of Siena”, in *EISENBICHLER 2004*, pp. 136-156.
- Berti 1993:** Luciano Berti, *Pontormo e il suo tempo*, Milano, 1993.
- Bertoli–Drusi 2005:** Gustavo Bertoli and Riccardo Drusi, eds., *Fra lo spedale e il principe: Vincenzio Borghini: filologia e invenzione nella Firenze di Cosimo I (atti del convegno)*, Padova, 2005.
- Bizzarri 1989:** Giulio Bizzarri, Marco Guidi, and Aurora Lucarelli, *Il Nettuno del Giambologna: storia e restauro*, Milano, 1989.
- BNE 1991-2009:** Ministerio de Cultura, Spanien and Biblioteca Nacional de España, eds., *Dibujos de arquitectura y ornamentación de la Biblioteca Nacional*, 2 vols., Madrid, 1991-2009.
- Bober–Rubinstein 2010:** Phyllis Pray Bober and Ruth Rubinstein, *Renaissance Artists & Antique Sculpture: A Handbook of Sources*, London, 2010 (2<sup>nd</sup> ed.).
- Bode 1907-1912:** Wilhelm Bode, *The Italian Bronze statuettes of the Renaissance*, 3 vols., London and Berlin, 1907-1912.
- Bodon 1997:** Giulio Bodon, *Enea Vico fra memoria e miraggio della Classicità*, Roma, 1997.
- Borsi 1974:** Franco Borsi, *Firenze del cinquecento*, Roma, 1974.
- Bottari 1928:** Stefano Bottari, “Giovanni Angiolo Montorsoli a Messina”, *L'Arte*, vol. 31, no. 5, 1928, pp. 234-244.
- Boucher 1991:** Bruce Boucher, *The Sculpture of Jacopo Sansovino*, 2 vols., New Haven and London, 1991.
- Bredenkamp 1988:** Horst Bredenkamp, *Sandro Botticelli Primavera: Florenz als Garten der Venus*, Frankfurt am Main, 1988. [邦訳：ホルスト・ブレデカンブ『ボッティチェリ《プリマヴェーラ》——ヴィーナスの園としてのフィレンツェ』中江明彬訳、三元社、2002年]
- Brucker 1983:** Gene A. Brucker, *Renaissance Florence*, Berkeley, 1983. [邦訳：ジーン・A・ブラッカー『ルネサンス都市フィレンツェ』森田義之、松本典昭共訳、岩波書店、2011年]
- Brundin 2009:** Abigail Brundin, ed. *Forms of Faith in Sixteenth-Century Italy: Culture and Religion*, Aldershot, 2009.
- Bruschi 1969:** Arnaldo Bruschi, *Bramante architetto*, Bari, 1969.
- Bruscoli 1900:** Gaetano Bruscoli, *Lo Spedale di Santa Maria degli' Innocenti di Firenze dalla sua fondazione ai giorni nostri*, Firenze, 1900.
- Bruscoli 1911:** Gaetano Bruscoli, *L'Archivio del Regio Spedale di S. Maria degli' Innocenti di Firenze*, Firenze, 1911.
- Brush 1913:** Edward Hale Brush, “Fountain and Garden Sculpture”, *Fine Arts Journal*, vol. 29, no. 3, 1913, pp. 557-559.
- Bryce 1983:** Judith Bryce, *Cosimo Bartoli (1503-1572): The Career of a Florentine Polymath*, Geneva, 1983.
- Bryce 1995:** Judith Bryce, “The Oral World of the Early Accademia Fiorentina”, *Renaissance Studies*, vol. 9, no. 1, 1995, pp. 77-103.
- Burke 1987:** Peter Burke, *The Italian Renaissance: Culture and Society in Italy*, Princeton, 1987. [邦訳：ピーター・バーグ『イタリア・ルネサンスの文化と社会』森田義之、柴野均共訳、岩波書店、2000年]
- Bury 1982:** John Bernhard Bury, “Some Early Literary References to Italian Gardens”, *Journal of Garden History*, vol. 2, no. 1, 1982, pp. 17-24.
- Bush 1976:** Virginia L. Bush, *The Colossal Sculpture of the Cinquecento*, New York, 1976 (Ph. D. diss., Columbia Univ., 1967).
- Bush 1980:** Virginia L. Bush, ““Hercules and Cacus” and Florentine Traditions”, *Memoirs of the American Academy in Rome*, vol. 35, 1980, pp. 163-206.
- Bustamante–Marías 1991:** García Bustamante and Fernando Marías, “Album de Fra Giovanni Vincenzo Casale”, in *BNE 1991-2009*, vol. 1, Siglos XVI y XVII, 1991, pp. 212-280.
- Butturini 1906:** Mattia Butturini, *Pietro da Salò ed il “Gobbo di Rialto”*, Salò, 1906.
- Caglioti 2000:** Francesco Caglioti, *Donatello e i Medici*, 2 vols., Firenze, 2000.
- Caldwell 2004:** Dorigen Caldwell, *The Sixteenth-Century Italian Impresa in Theory and Practice*, New York, 2004.
- Calonaci 2014:** Stefano Calonaci, “Cosimo I e la corte: percorsi storiografici e alcune riflessioni”, *Annali di storia di Firenze*, vol. 9, 2014, pp. 57-76.
- Campbell 1977:** Malcolm Campbell, *Palazzo Pitti. Pietro da Cortona at the Pitti Palace: A Study of the Planetary Rooms and Related Projects*, Princeton, 1977.
- Campbell 1983:** Malcolm Campbell, “Observations on the Salone dei Cinquecento in the Time of Duke Cosimo I de' Medici, 1540-1574”, in *GARFAGNINI 1983*, vol. 3, pp. 819-830.
- Campbell 1991:** Malcolm Campbell, “Giambologna's Oceanus Fountain: Identifications and Interpretations”, in *Acidini Luchinat–Zorzi 1991*, vol. 1, pp. 89-106.
- Campbell 1996:** Malcolm Campbell, “Hard Times in Baroque Florence: The Boboli Garden and the Grand Ducal Public Works Administration”, in *Hunt 1996*, pp. 160-201.
- Campbell–Corti 1978:** Malcolm Campbell and Gino Corti, “Ammannati's Neptune Fountain in Florence and the Spanish Armada”, *History*

- of Art, vol. 2, 1978, pp. 87-93.
- Campbell–Milner 2004:** Stephen J. Campbell and Stephen J. Milner, eds., *Artistic Exchange and Cultural Translation in the Italian Renaissance City*, Cambridge, 2004.
- Campori 1873:** Giuseppe Campori, *Memorie biografiche degli scultori, architetti, pittori, ec. nativi di Carrara*, Modena, 1873.
- Cantini 1805:** Lorenzo Cantini, *Vita di Cosimo de' Medici primo gran-duca di Toscana*, Firenze, 1805.
- Capecchi 1993:** Gabriele Capecchi, *Il giardino di Boboli: un anfiteatro per la gioia dei granduchi*, Firenze, 1993.
- Capecchi 2001:** Gabriele Capecchi, "Il progetto del Tribolo e la formazione dell'Orto dei Pitti nel cinquecento", in *Pieri 2001*, pp. 137-149.
- Capecchi 2003a:** Gabriele Capecchi, "Architetti, manodopera e committenza nella formazione del giardino", in *Medri 2003a*, pp. 22-25.
- Capecchi 2003b:** Gabriele Capecchi, "Lo sviluppo del giardino fino agli interventi medicei", in *Medri 2003a*, pp. 26-29.
- Capecchi 2003c:** Gabriele Capecchi, "Il complesso architettonico delle "ghiacciaie" medicee", in *Medri 2003a*, pp. 40-42.
- Capecchi 2003d:** Gabriele Capecchi, "L'amministrazione del giardino durante la Reggenza lorenese (1737-1765)", in *Medri 2003a*, pp. 44-47.
- Capecchi 2003e:** Gabriele Capecchi, "Il giardino durante l'occupazione napoleonica", in *Medri 2003a*, pp. 60-61.
- Capecchi 2003f:** Gabriele Capecchi, "Teoria, artificio e pratica nell'arte del "fontaniere"", in *Medri 2003a*, pp. 262-265.
- Capecchi 2003g:** Gabriele Capecchi, "Il vivaio dell'Isola", in *Medri 2003a*, pp. 270-277.
- Capecchi 2003h:** Gabriele Capecchi, "Le vicende architettoniche della Fontana di Nettuno", in *Medri 2003a*, pp. 278-283.
- Capecchi 2014:** Gabriella Capecchi, "Superare l'antico: il Laocoonte 'perfetto'", in *Exh.cat. Firenze 2014a*, pp. 128-155.
- Capecchi–Pegazzano–Faralli 2013:** Gabriella Capecchi, Donatella Pegazzano, and Sara Faralli, *Visitare Boboli all'epoca dei lumi: il giardino e le sculture nelle incisioni delle statue di Firenze*, Firenze, 2013.
- Carranza 1980:** Nicola Carranza, "Lo Studio di Pisa nel principato mediceo", in *Tarassi 1980*, pp. 65-72.
- Carrara 1999:** Eliana Carrara, "Il discepolato di Vincenzo Borghini presso Piero Vettori", *Annali della Scuola Normale Superiore di Pisa*, serie 4, vol. 4, no. 2, 1999, pp. 519-537.
- Carrara 2001:** Eliana Carrara, "Borghini e le stampe: alcune incisioni citate in opere di Vasari e della sua cerchia", *Ricerche di Storia dell'arte*, vol. 73, 2001, pp. 57-64.
- Carrara 2005a:** Eliana Carrara, "Doni, Vasari, Borghini e la tecnica del mosaico", in *Bertoli–Drusi 2005*, pp. 79-93.
- Carrara 2005b:** Eliana Carrara, "Vincenzo Borghini disegnatore dall'antico", *Pegasus*, no. 7, 2005, pp. 81-96.
- Carrara 2006:** Eliana Carrara, "Tra fonti immagini: la polemica sul Battistero Fiorentino negli scritti di Don Vincenzo Borghini", in *Rozzo–Gabriele 2006*, pp. 193-211.
- Carrara 2007:** Eliana Carrara, "Il ciclo pittorico vasariano nel Salone dei cinquecento e il carteggio Mei-Borghini", in *Carrara–Ginzburg 2007*, pp. 317-396.
- Carrara 2008a:** Eliana Carrara, "La nascita dell'Accademia del Disegno di Firenze: il ruolo di Borghini, Torelli e Vasari", in *Deramaix 2008*, pp. 129-162.
- Carrara 2008b:** Francesca Carrara, "L'intrigante vicenda fiorentina di Don Luigi di Toledo", *Opvs incertvm*, vol. 4, 2008, pp. 124-127.
- Carrara 2009:** Eliana Carrara, "Due lettere inedite di Vincenzo Borghini a Giorgio Vasari e una segnalazione bibliografica", *Annali di Critica d'Arte*, no. 5, 2009, pp. 423-432.
- Carrara 2011:** Eliana Carrara, "Plinio e l'arte degli antichi e dei moderni: ricezione e fortuna dei libri XXXIV-XXXVI della Naturalis Historia nella Firenze del XVI secolo (dall'anonimo magliabechiano Vasari)", *Archives internationales d'histoire des sciences*, vol. 61, no. 166-167, 2011, pp. 367-381.
- Carrara–Ginzburg 2007:** Eliana Carrara and Silvia Ginzburg, eds., *Testi, immagini e filologia nel XVI secolo (atti delle giornate di studio, Scuola Normale Superiore)*, Pisa, 2007.
- Casalini 1964:** Eugenio M. Casalini, "Due opere del Giambologna all'Annunziata di Firenze", *Studi storici dell'ordine dei Servi di Maria*, vol. 14, 1964, pp. 261-276.
- Casare–D'Achille 2004:** Vittorio Casale and Paolo D'Achille, eds., *Storia della lingua e storia dell'arte in Italia: dissimmetrie e intersezioni (atti del III convegno ASLI, Associazione per la Storia della Lingua Italiana)*, Firenze, 2004.
- Casprini–Turchi 2008:** Massimo Casprini and Michele Turchi, "Per una carta del paesaggio medievale", in *Pirillo 2008*, pp. 95-123.
- Cecchi 1998:** Alessandro Cecchi, "Il maggiordomo ducale Pierfrancesco Riccio e gli artisti della corte medicea", *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 42, no. 1, 1998, pp. 115-143.
- Cecchi 2011:** Alessandro Cecchi, "Giorgio e Bartolomeo: un'amicizia lunga una vita al servizio del duca", in *Acidini Luchinat–Pirazzoli 2011*, pp. 29-33.
- Cepi–Confuorto 1980:** Claudia Bartram Cepi and Nicoletta Confuorto, *Palazzo Vecchio: committenza e collezionismo medicei*, Firenze, 1980.
- Chambers 1995:** David Sanderson Chambers, ed., *Italian Academies of the Sixteenth Century*, London, 1995.
- Chastel 1964:** André Chastel, *Arte e umanesimo a Firenze al tempo di Lorenzo il Magnifico: studi sul Rinascimento e sull'umanesimo platonico*, Torino, 1964 (Ibid., *Art et humanisme à Florence au temps de Laurent le Magnifique: études sur la Renaissance et l'humanisme platonicien*, Paris, 1959).
- Chastel 1984:** André Chastel, *Le sac de Rome, 1527, Du premier maniérisme à la Contre-Réforme*, Paris, 1984. [邦訳: アンドレ・シャステル『ローマ劫掠——聖都の悲劇』、越川倫明・岩井瑞枝・中西麻澄・近藤真彰・小林亜起子共訳、筑摩書房、2006年]
- Châtlet–Lange–Franciscond 1968:** Liliane Châtlet-Lange and Renate Franciscond, "The Grotto of the Unicorn and the Garden of the Villa di Castello", *The Art Bulletin*, vol. 50, no. 1, 1968, pp. 51-58.
- Cherubini 2005:** Alessandro Cherubini, "Bartolomeo Ammannati 'ad hominum utilitatem'", *Artista*, 2005, pp. 100-185.
- Cherubini 2011a:** Alessandro Cherubini, "Su Bartolomeo Ammannati, scultore fiorentino e architetto", in *Exh.cat. Firenze 2011*, pp. 46-93.
- Cherubini 2011b:** Alessandro Cherubini, "Il mare in piazza: la fontana di Nettuno di Bartolomeo Ammannati", *Art e dossier*, vol. 26, no. 279, 2011, pp. 64-69.
- Cherubini 2011c:** Alessandro Cherubini, "Bartolomeo Ammannati e Giorgio Vasari nelle collezioni dei musei fiorentini", in *Acidini Luchinat–Pirazzoli 2011*, pp. 151-161.
- Chiarini–Spinosa–Rosci 1982:** Marco Chiarini, Nicola Spinosa, Marco Rosci, et. al., *Storia dell'arte italiana, parte terza: situazioni momenti indagini*, vol. 4: forme e modelli, Torino, 1982.

- Chiecchi 2005:** Giuseppe Chiecchi, "Borghini e la rassettatura del Decameron", in *Bertoli–Drusi 2005*, pp. 159-176.
- Chiummo 2016:** Carla Chiummo, "Bronzino e l'Accademia Fiorentina", in *Everson–Reidy–Sampson 2016*, pp. 258-276.
- Chiummo–Geremicca–Tosini 2017:** Carla Chiummo, Antonio Geremicca, and Patrizia Tosini, eds., *Intrecci virtuosi: Letterati, artisti e accademie tra Cinque e Seicento*, Roma, 2017.
- Ciardi–Russo 1992:** Roberto Paolo Ciardi and Severina Russo, eds., *Le vie del marmo. Aspetti della produzione e della diffusione dei manufatti marmorei tra '400 a '500*, Firenze, 1992.
- Cieri Via–Guidi 2003:** Claudia Cieri Via and Irene Guidi, "Un "Parnaso musicale" per una casa di artista a Firenze", *Artibus et historiae*, vol. 24, no. 47, 2003, pp. 137-154.
- Cinti–Ferrara 1997:** Daniela Cinti and Guido Ferrara, eds., *Giardini & giardini: il verde storico nel centro di Firenze*, Milano, 1997.
- Cipriani 1980:** Giovanni Cipriani, *Il mito etrusco nel Rinascimento fiorentino*, Firenze, 1980.
- Ciseri 1990:** Ilaria Ciseri, *L'ingresso trionfale di Leone X in Firenze nel 1515*, Firenze, 1990.
- Clapp 1916:** Frederick Mortimer Clapp, *Jacopo Carucci da Pontormo: His Life and Work*, New Haven, 1916.
- Cochrane 1973:** Eric W. Cochrane, *Florence in the Forgotten Centuries, 1527-1800: A History of Florence and the Florentines in the Age of the Grand Dukes*, Chicago, 1973.
- Cocke 1972:** Richard Cocke, "Veronese and Daniele Barbaro: The Decoration of Villa Maser", *Journal of the Warburg and Courtauld Institutes*, vol. 35, 1972, pp. 226-246.
- Cole 2002:** Michael Wayne Cole, *Cellini and the Principles of Sculpture*, Cambridge, 2002.
- Cole 2011:** Michael Wayne Cole, *Ambitious Form. Giambologna, Ammannati, and Danti in Florence*, Princeton, 2011.
- Collareta 1999:** Marco Collareta, "Vincenzo Borghini su Donatello e Michelangelo", *Fontes*, anno 2, no. 3/4, 1999, pp. 117-120.
- Conforti 1984:** Claudia Conforti, "L'invenzione delle allegorie territoriali e dinastiche del giardino del castello a Firenze", in *Jette 1984*, pp. 190-197.
- Conforti 1987:** Claudia Conforti, "La grotta 'degli animali' o 'del diluvio' nel giardino di Villa Medici a Castello", *Quaderni di Palazzo Te*, vol. 4, no. 6, 1987, pp. 71-80.
- Conforti 1991:** Claudia Conforti, "L'isola nel giardino: genealogie, modelli, archetipi", in *Acidini Luchinat–Zorzi 1991*, vol. 2, pp. 493-502.
- Conforti 1992:** Claudia Conforti, "Acque, condotti, fontane e fronde: le provvisioni per la dilizia nella Villa medicea di Castello", in *Jones 1992*, pp. 76-89.
- Conti-a 1989:** Alessandro Conti, "Niccolò Tribolo nel giardino di castello", *Antichità viva*, vol. 28, no. 5/6, 1989, pp. 51-61.
- Conti-c 1893:** Cosimo Conti, *La Prima Reggia di Cosimo I de' Medici nel Palazzo già della Signoria di Firenze*, Firenze, 1893.
- Corrias 1994:** Paola Corrias, "Don Vincenzo Borghini e l'iconologia del potere alla corte di Cosimo I e di Francesco I de' Medici", *Storia dell'arte*, vol. 81, 1994, pp. 169-181.
- Corsi–Ragionieri 2004:** Stefano Corsi and Pina Ragionieri, ed., *Speculum Romanae Magnificentiae, Roma nell'incisione del Cinquecento*, Firenze, 2004.
- Costamagna 1994:** Philippe Costamagna, *Pontormo*, Milano, 1994.
- Costamagna 1996:** Philippe Costamagna, *Pontormo*, Firenze, 1996.
- Costantini 1984:** Massimo Costantini, *L'acqua di Venezia: l'approvvigionamento idrico della Serenissima*, Venezia, 1984.
- Cox-Rearick 1964:** Janet Cox-Rearick, *The Drawings of Pontormo*, 2 vols., Cambridge, 1964.
- Cox-Rearick 1984:** Janet Cox-Rearick, *Dynasty and Destiny in Medici Art: Pontormo, Leo X. and the Two Cosimos*, Princeton, 1984.
- Cox-Rearick 1993:** Janet Cox-Rearick, *Bronzino's Chapel of Eleonora in the Palazzo Vecchio*, Berkeley, 1993.
- Cox-Rearick 1996:** Janet Cox-Rearick, "A Question of Patronage", *The Art Bulletin*, vol. 78, no. 3, 1996, pp. 572-574.
- Cox-Rearick 2004:** Janet Cox-Rearick, "La Ill.ma Sig.ra Duchessa felice memoria: The Posthumous Eleonora di Toledo", in *EISENBICHLER 2004*, pp. 225-266.
- Cox-Rearick 2005:** Janet Cox-Rearick, "Friendly Rivals: Bronzino and Salviati at the Medici Court, 1543-48", *Master Drawings*, vol. 43, no. 3, 2005, pp. 292-315.
- Cox-Rearick–Bulgarella 2004:** Janet Cox-Rearick and Mary Westerman Bulgarella, "Public and Private Portraits of Cosimo de' Medici and Eleonora di Toledo: Bronzino's Paintings of his Ducal Patrons in Ottawa and Turin", *Artibus et historiae*, vol. 25, no. 49, 2004, pp. 101-159.
- Cresti 1982:** Carlo Cresti, *Le fontane di Firenze*, Firenze, 1982.
- Cropper 1997:** Elizabeth Cropper, *Pontormo: Portrait of a Halberdier*, Los Angeles, 1997.
- Crum 1989:** Roger J. Crum, "'Cosmos, the World of Cosimo'. The Iconography of the Uffizi Façade", *The Art Bulletin*, vol. 71, no. 2, 1989, pp. 237-253.
- Cupperi–Extermann–Ioele 2012:** Walter Cupperi, Grégoire Extermann, and Giovanna Ioele, eds., *Scultura a Roma nella seconda metà del cinquecento: protagonisti e problemi*, San Casciano, 2012.
- D'Alessandro 1983:** Alessandro D'Alessandro, "Vincenzo Borghini e gli "aramei": mito e storia nel principato mediceo", in *Garfagnini 1983*, vol. 1, pp. 133-156.
- Damianaki 2009:** Chrysa Damianaki, "Pontormo's Lost Frescoes in San Lorenzo, Florence: A Reappraisal of Their Religious Content", in *Brundin 2009*, pp. 77-118.
- Davis 1975:** Charles Davis, "Cosimo Bartoli and the Portal of Sant'Apollonia by Michelangelo", *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 19, no. 2, 1975, pp. 261-276.
- Davis 1976a:** Charles Davis, "'Colossum facere ausus est', l'apoteosi d'Ercole e il colosso padovano dell'Ammannati", *Psicon*, no. 6, anno 3, 1976, pp. 32-47.
- Davis 1976b:** Charles Davis, "Ammannati, Michelangelo, and the Tomb of Francesco del Nero", *The Burlington Magazine*, vol. 118, no. 880, 1976, pp. 472, 474-481, 483-484.
- Davis 1976c:** Charles Davis, "Benvenuto Cellini and the Scuola Fiorentina", *Bulletin of North Carolina Museum of Art*, vol. 13, no. 4, 1976, pp. 1-70.
- Davis 1977:** Charles Davis, "The Tomb of Mario Nari for the Ss. Annunziata in Florence", *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 21, no. 1, 1977, pp. 69-94.
- Davis 1985:** Charles Davis, "Working for Vasari: Vincenzo Danti in Palazzo Vecchio", in *Garfagnini 1985*, pp. 205-271.
- Davis 2010:** Charles Davis, ed., *Two Letters of Bartolomeo Ammannati: Invention and Programme*, part. 1, *Fontes* 46 (on line), 2010.

- DBI:** Alberto M. Ghisalberti, ed., *Dizionario Biografico degli Italiani*, 88 vols. (2017 年現在), Roma, 1960-.
- DeAngelis 1997:** Adrienne Catherine DeAngelis, “*La Virtù Fa Sempre Vivo*”: *Danese Cattaneo and the Monument to Giano Fregoso in Sant’Anastasia, Verona*, 1997, PhD. diss., Univ. of New Jersey, 1997.
- DeAngelis 2005:** Adrienne Catherine DeAngelis, “The Apollo Wellhead of Danese Cattaneo: A Source for Ammannati’s Juno Fountain in Florence”, *Artibus et Historiae*, vol. 26, no. 51, 2005, pp. 151-157.
- Del Bravo 1978:** Carlo Del Bravo, “Quella quiete, e quella libertà”, *Annali della Scuola Normale Superiore di Pisa, Classe di Lettere e Filosofia*, vol. 8, no. 4, 1978, pp. 1455-1490. [邦訳: カルロ・デル・ブラーボ「トリローボ——静寂と自由の境地——」甲斐教行訳『五浦論叢』第11号、2004年、47-81頁]
- Del Bravo 2011:** Carlo Del Bravo, “Nuovamente pensar al Tribolo”, *Artista*, 2011, pp. 6-33.
- Demma-Favara 2006:** Maria Pia Demma and Giuseppina Favara, *La Fontana Pretoria in Palermo: Hic fons, cui similis nullus in orbe patet*, Palermo, 2006.
- Deramaix 2008:** Marc Deramaix, *Les académies dans l’Europe humaniste, idéaux et pratiques*, Genève, 2008.
- De Tolnay corpus:** Chales De Tolnay, *Corpus dei disegni di Michelangelo*, 4 vols., Novara, 1975-80 [邦訳: 佐々木英也編『ミケランジェロ素描全集』全4巻、講談社、1975-80年].
- De Tolnay Michelangelo:** Charles De Tolnay, *Michelangelo*, 5 vols., Princeton, 1947-1971.
- Dezzi Bardeschi 1969:** Marco Dezzì Bardeschi, “Una fonte dell’Ammannati per Cosimo I”, *Bollettino ingegneri*, vol. 17, no. 5, 1969, pp. 18-24.
- Dezzi Bardeschi 2003:** Marco Dezzì Bardeschi, “L’apparire e l’essere: gli apparati del 1565 per le nozze di Francesco de’ Medici con Maria Giovanna d’Austria a Palazzo Vecchio a Firenze”, in *Dezzi Bardeschi—Guarisco 2003*, pp. 167-173.
- Dezzi Bardeschi—Guarisco 2003:** Marco Dezzì Bardeschi and Gabriella Guarisco, eds., *Oltre l’architettura*, Firenze, 2003.
- Diaz 1976:** Furio Diaz, *Il Granducato di Toscana: i Medici*, Torino, 1976.
- Di Stefano 2001:** Elisabetta Di Stefano, “Pomponio Gaurico e l’estetica della scultura”, in *Russo 2001*, pp. 9-22.
- Drusi 2002:** Riccardo Drusi, *Vincenzo Borghini: filologia e invenzione nella Firenze di Cosimo I*, Firenze, 2002.
- Drusi 2005:** Riccardo Drusi, “Borghini e i testi volgari antichi”, in *Bertoli—Drusi 2005*, pp. 125-147.
- Drusi 2007:** Riccardo Drusi, “Ancora su Borghini e i testi volgari antichi”, in *Carrara—Ginzburg 2007*, pp. 421-453.
- Echinger-Maurach 2008:** Claudia Echinger-Maurach, “Michelangelos und Daniele da Volterras Reiterdenkmal für König Heinrich II. von Frankreich”, in *Poeschke—Weigel—Kusch—Arnhold 2008*, pp. 235-267.
- Edelstein 2001a:** Bruce L. Edelstein, “L’uscio di una porta e sei apostoli in cerca d’autore: ipotesi su due committenze al Tribolo per la Cappella di Eleonora”, in *Pieri 2001*, pp. 37-50.
- Edelstein 2001b:** Bruce L. Edelstein, “Bronzino in the Service of Eleonora di Toledo and Cosimo I de’ Medici: Conjugal Patronage and the Painter-Courtier”, in *Reiss 2001*, pp. 225-261.
- Edelstein 2004a:** Bruce L. Edelstein, ““Acqua viva e corrente”: Private Display and Public Distribution of Fresh Water at the Neapolitan Villa of Poggioreale as a Hydraulic Model for Sixteenth-century Medici Gardens”, in *Campbell—Milner 2004*, pp. 187-220.
- Edelstein 2004b:** Bruce L. Edelstein, “Nobildonne napoletane e commitanza. Eleonora d’Aragona ed Eleonora di Toledo a confronto”, *Quaderni storici*, n.s., vol. 35, no. 104, 2004, pp. 295-329.
- Edelstein 2004c:** Bruce L. Edelstein, “La fecundissima Signora Duchessa: The Courtly Persona of Eleonora di Toledo and the Iconography of Abundance”, in *Eisenbichler 2004*, pp. 71-97.
- Edelstein 2008:** Bruce Edelstein, “Eleonora di Toledo e la gestione dei beni familiari: una strategia economica?”, in *Arcangeli—Peyronel 2008*, pp. 743-764.
- Edwards 2007:** Karen Victoria Edwards, *Rethinking the Reinstallation of the Studiolo of Francesco I de’ Medici in the Palazzo Vecchio*, Cleveland, 2007.
- Eisenbichler 2001:** Konrad Eisenbichler, ed., *The Cultural Politics of Duke Cosimo I de’ Medici*, Hampshire, 2001.
- Eisenbichler 2004:** Konrad Eisenbichler, ed., *The Cultural World of Eleonora di Toledo. Duchess of Florence and Siena*, Aldershot, 2004.
- Else 2003:** Felicia M. Else, *Water and Stone. Ammannati’s Neptune Fountain as Public Ornament*, 2003, PhD. diss., Washington Univ, 2003.
- Else 2005:** Felicia M. Else, ““La Maggior Porcheria Del Mondo’. Documents for Ammannati’s Neptune Fountain”, *The Burlington Magazine*, vol. 147, no. 1228, 2005, pp. 487-491.
- Ettlinger 1972:** Leopold David Ettlinger, “Hercules Florentinus”, *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 16, no. 2, 1972, pp. 119-142.
- Even 1991:** Yeal Even, “The Loggia dei Lanzi. A Showcase of Female Subjugation”, *Woman’s Art Journal*, vol. 12, no. 1, 1991, pp. 10-14.
- Everson—Reidy—Sampson 2016:** Jane E. Everson, Denis V. Reidy, and Lisa Sampson, eds., *The Italian Academies 1525-1700: Networks of Culture, Innovation and Dissent*, Cambridge, 2016.
- Facchinetti Bottai 1979:** Fiorella Facchinetti Bottai, “Bartolomeo Ammannati. Una reggia per il granducato di Toscana”, *Antichità viva*, vol. 18, no. 5/6, 1979, pp. 32-47.
- Faini 2010:** Enrico Faini, *Firenze nell’età romanica (1000-1211): l’espansione urbana, lo sviluppo istituzionale, il rapporto con il territorio* (*Biblioteca storica Toscana*, 1), Firenze, 2010.
- Falsitta 2009:** Loretta Cammarella Falsitta and Alessandro Falsitta, *Cellini, Bandinelli, Ammannati: la fontana del Nettuno in piazza della Signoria a Firenze*, Milano, 2009.
- Faraglia 1893:** Nunzio Federigo Faraglia, “Il Largo di Palazzo”, *Napoli nobilissima*, vol. 2, fasc. 3, 1893, pp. 33-35.
- Ferretti 2006:** Emanuela Ferretti, “Palazzo Pitti 1550-1560. Precisazioni e nuove acquisizioni sui lavori di Eleonora di Toledo”, *Opvs incertvm*, vol. 1, no. 1, 2006, pp. 45-56.
- Ferretti 2011a:** Emanuela Ferretti, “Bartolomeo Ammannati, la Fontana di Sala Grande e le trasformazioni del Salone dei cinquecento da Cosimo I a Ferdinando I”, in *Exh.cat. Firenze 2011*, pp. 136-155.
- Ferretti 2011b:** Emanuela Ferretti, “Dalle sorgenti alle fontane: Cosimo I e l’acquedotto di Firenze”, in *Exh.cat. Firenze 2011*, pp. 262-275.
- Ferretti 2016:** Emanuela Ferretti, *Acquedotti e fontane del Rinascimento in Toscana: acqua, architettura e città al tempo di Cosimo I dei Medici*, Firenze, 2016.
- Ferri—Gambaro 2011:** Marco Ferri and Clara Gambaro, “Don Pedro de Toledo: “Vedonsi in uno scudo le sue armi, come nel disegno qui posto””, *Medicea*, no. 9, 2011, pp. 86-87.



- Ffolliott 1984:** Sheila Ffolliott, *Civic Sculpture in the Renaissance: Montorsoli's Fountains at Messina*, Ann Arbor, 1984 (PhD. Diss., Univ. of Pennsylvania, 1979).
- Fidanza 1996:** Giovan Battista Fidanza, *Vincenzo Danti 1530-1576*, (Pocket Library of "Studies" in Art, vol. 30), Perugia, 1996.
- Filangieri 1897:** Antonio Filangieri di Candida, *Due bronzi di Giovan Bologna nel Museo Nazionale di Napoli*, Napoli, 1897.
- Filson 2011:** Lily Filson, *The Lost Grottoes of Late Sixteenth-Century Pratolino*, (M. D. thesis, Syracuse Univ., 2011).
- Fiocco 1954:** Giuseppe Fiocco, "La casa di Palla Strozzi", *Atti della Accademia Nazionale dei Lincei, Classe di Scienze Morali, Storiche e Filologiche*, CCCLII, ser. 8, vol. 5, fasc. 7, 1954, pp. 362-382.
- Fiore-Lamberini 2011:** Francesco Paolo Fiore and Daniela Lamberini, eds., *Cosimo Bartoli (1503-1572) (atti del convegno internazionale)*, Firenze, 2011.
- Fioretti 1860:** Stefano Fioretti, *Illustrazione storico-artistica della Gran Sala del Consiglio detta dei cinquecento in Palazzo Vecchio*, Firenze, 1860.
- Firpo 1997:** Massimo Firpo, *Gli affreschi di Pontormo a San Lorenzo: eresia, politica e cultura nella Firenze di Cosimo I*, Torino, 1997.
- Forster 1971:** Kurt W. Forster, "Metaphors of Rule: Political Ideology and History in the Portraits of Cosimo I de' Medici", *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 15, no. 1, 1971, pp. 65-104.
- Fossi 1967:** Mazzino Fossi, *Bartolomeo Ammannati, architetto*, Napoli, 1967.
- Fragnito 1986:** Gigliola Fragnito, "Un pratese alla corte di Cosimo I. Riflessioni e materiali per un profilo di Pierfrancesco Riccio", *Archivio storico pratese*, vol. 62, 1986, pp. 31-83.
- Frangenberg 1995:** Thomas Frangenberg, "The Art of Talking about Sculpture: Vasari, Borghini and Bocchi", *Journal of the Warburg and Courtauld Institutes*, vol. 58, 1995, pp. 115-131.
- Frangenberg 2002:** Thomas Frangenberg, "Bartoli, Giambullari and the Prefaces to Vasari's 'Lives' (1550)", *Journal of the Warburg and Courtauld Institutes*, vol. 65, 2002, pp. 244-258.
- Franceschetti 1988:** Antonio Franceschetti, ed., *Letteratura italiana e arti figurative (atti del XII convegno dell'Associazione internazionale per gli studi di lingua e letteratura italiana)*, 3 vols., Firenze, 1988.
- Frediani 1837:** Carlo Frediani, *Per le nozze Borghini e Monzoni versi di P. P. e ragionamento storico di Carlo Frediani su le diverse gite fatte a Carrara da Michelangelo Buonarroti*, Massa, 1837.
- Freedman 1995:** Luba Freedman, "Neptune in Classical and Renaissance Visual Art", *International Journal of the Classical Tradition*, vol. 2, no. 2, 1995, pp. 219-237.
- Freiberg 1991:** Jack Freiberg, "Paul V, Alexander VII, and a Fountain by Nicolò Cordier Rediscovered", *The Burlington Magazine*, vol. 133, no. 1065, 1991, pp. 833-843.
- Frommel 2003:** Christoph Luitpold Frommel, *Architettura alla corte papale nel Rinascimento*, Milano, 2003.
- Frommel-Ricci-Tuttle 2003:** Christoph Luitpold Frommel, Maurizio Ricci, and Richard James Tuttle, eds., *Vignola e i Farnese (Atti del convegno internazionale)*, Milano, 2003.
- Fubini Leuzzi 2002:** Maria Fubini Leuzzi, "Le ricevute di Francesco de' Medici a Vincenzo Borghini: la contabilità separate dello spedalingo degli Innocenti", *Archivio Storico Italiano*, vol. 160, no. 592, disp. 2, 2002, pp. 353-367.
- Fubini Leuzzi 2005:** Maria Fubini Leuzzi, "Vincenzo Borghini spedalingo degli Innocenti: la nomina, il governo, la bancarotta", in *Bertoli-Drusi 2005*, pp. 37-64.
- Fubini Leuzzi 2007:** Maria Fubini Leuzzi, "Erudizione, ideologia e politica nel Trattato della Chiesa e Vescovi fiorentini di Vincenzo Borghini", in *Carrara-Ginzburg 2007*, pp. 455-469.
- Fukada 2012:** Maria Fukada, "Neptune in Villa Madama as the Allegory of Good Ruler", *Aspects of Problems in Western Art History*, vol. 10, 2012, pp. 19-26.
- Galleni 1991:** Rodolfo Galleni, "Per una ipotesi interpretativa del gruppo scultoreo di Vincenzo de' Rossi nella Grotta Grande di Boboli", in *Acidini Luchinat-Zorzi 1991*, pp. 47-56.
- Gáldy 2009:** Andrea Gáldy, *Cosimo I de' Medici as Collector. Antiquities and Archaeology in Sixteenth-Century Florence*, Newcastle, 2009.
- Gáldy 2010:** Andrea Gáldy, "Jealous Antiquarians: Competition among the Archeologists at the Court of Cosimo I de' Medici", *Medicea*, no. 7, 2010, pp. 20-27.
- Gamberini 2016:** Diletta Gamberini, "Benvenuto Cellini, o del sapere 'pur troppo dire il fatto suo' a Cosimo de' Medici", *Annali d'Italianistica*, vol. 34 (special volume: "Speaking Truth to Power from Medieval to Modern Italy"), 2016, pp. 199-218.
- Gamberini 2017:** Diletta Gamberini, "Cellini, Borghini e la disputa sulle esequie di Michelangelo, fra questioni di 'paragone' e di committenza", in *Chiummo-Geremicca-Tosini 2017*, pp. 39-49.
- Garfagnini 1983:** Gian Carlo Garfagnini, ed., *Firenze e la Toscana dei Medici nell'Europa del '500 (atti del convegno internazionale di studio tenutosi a Firenze dal 9 al 14 giugno 1980 nell'ambito della XVI Esposizione europea di arte, scienza e cultura)*, 3 vols., Firenze, 1983.
- Garfagnini 1985:** Gian Carlo Garfagnini, ed., *Giorgio Vasari: tra decorazione ambientale e storiografia artistica (atti del convegno di studi)*, Firenze, 1985.
- Garzelli-Giannotti-Spera-Villarini 2010:** Beatrice Garzelli, Alessandra Giannotti, Lucinda Spera, and Andrea Villarini, eds., *Idee di spazio*, Perugia, 2010.
- Gavitt 2001:** Philip Gavitt, "The Experimental Culture: The Art of the Economy and the Economy of Art under Cosimo I and Francesco I", in *Eisenbichler 2001*, pp. 205-222.
- Gere 1965:** John A. Gere, "The Decoration of the Villa Giulia", *The Burlington Magazine*, vol. 107, no. 745, 1965, pp. 198-206.
- Giannotti 2007:** Alessandra Giannotti, *Il teatro di natura: Niccolò Tribolo e le origini di un genere*, Firenze, 2007.
- Giannotti 2010:** Alessandra Giannotti, "Niccolò Tribolo e l'invenzione della fontana ad isola negli spazi del giardino", in *Garzelli-Giannotti-Spera-Villarini 2010*, pp. 101-112.
- Giannotti 2012:** Alessandra Giannotti, "Tribolo giovane e le figure 'meravigliose' di San Petronio", *Nuovi studi. Rivista di arte antica e moderna*, vol. 18, anno 17, 2012, pp. 167-184.
- Gibbons 1995:** Mary Weitzel Gibbons, *Giambologna: Narrator of the Catholic Reformation*, (California Studies in the History of Art, vol. 33), Berkeley, 1995.
- Gibbons-Corti 1978:** Mary Weitzel Gibbons and Gino Corti, "Documents Concerning Giambologna's Equestrian Monument of Cosimo I, a Bronze Crucifix and the Marble Centaur", *The Burlington Magazine*, vol. 120, no. 905, 1978, pp. 508-510.

- Ginori Conti 1936:** Piero Ginori Conti, ed., *L'apparato per le nozze di Francesco de' Medici e di Giovanna d'Austria nelle narrazioni del tempo e da lettere inedite di Vincenzo Borghini e di Giorgio Vasari, illustrato con disegni originali*, Firenze, 1936.
- Ginzburg 2007:** Silvia Ginzburg, "Filologia e storia dell'arte: il ruolo di Vincenzo Borghini nella genesi della Torrentiniana", in *Carrara-Ginzburg 2007*, pp. 147-203.
- Giorgieri 1992:** Pietro Giorgieri, *Carrara*, Roma, 1992.
- Gorse 1980:** George L. Gorse, *The Villa Doria in Fassolo, Genoa*, 1980, PhD. diss., Brown Univ., 1980.
- Gorse 1985:** George L. Gorse, "The Villa of Andrea Doria in Genoa: Architecture, Gardens, and Suburban Setting", *Journal of the Society of Architectural Historians*, vol. 44, no. 1, 1985, pp. 18-36.
- Gould 1952:** Cecil Gould, "Leonardo's 'Neptune' Drawing", *The Burlington Magazine*, vol. 94, no. 595, 1952, pp. 289-294.
- Gramberg 1936:** Werner Gramberg, *Giovanni Bologna: eine Untersuchung über die Werke seiner Wanderjahre (bis 1567)*, Libau, 1936.
- Gramberg 1955:** Werner Gramberg, "Zur Aufstellung des Skulpturenschmuckes in der Neuen Sakristei von S. Lorenzo: ein wenig beachtetes Planstadium in der Entstehungsgeschichte der Medicikapelle", *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 7, no. 2, 1955, pp. 151-160.
- Gurrieri 1980:** Francesco Gurrieri, *La grotta del Buontalenti nel giardino di Boboli*, Firenze, 1980.
- Hale 1977:** John R. Hale, *Florence and the Medici: The Pattern of Control*, London, 1977.
- Hegener 2008:** Nicole Hegener, *Divi Iacobi Eqves: Selbstdarstellung im Werk des Florentiner Bildhauers Baccio Bandinelli*, München, 2008.
- Heikamp 1964:** Detlef Heikamp, "Appunti: Vincenzo de' Rossi disegnatore", *Paragone*, vol. 15, no. 169, 1964, pp. 38-42.
- Heikamp 1973:** Detlef Heikamp, "Ammannati's Fountain", *The Burlington Magazine*, vol. 115, no. 838, 1973, pp. 40, 42-43.
- Heikamp 1978:** Detlef Heikamp, "Bartolomeo Ammannati's Marble Fountain for the Sala Grande of Palazzo Vecchio in Florence", in *MacDougall-Miller 1978*, pp. 115-173.
- Heikamp 1980:** Detlef Heikamp, "Scultura e politica: le statue della Sala Grande di Palazzo Vecchio", in *Adelson 1980*, pp. 201-254.
- Heikamp 1990:** Detlef Heikamp, "Die Laokoongruppe des Vincenzo De' Rossi", *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 34, no. 3, 1990, pp. 342-378.
- Heikamp 1997:** Detlef Heikamp, "Sulla scultura fiorentina fra Maniera e Controriforma", in *Exh.cat. Firenze 1997b*, pp. 346-369.
- Heikamp 2001:** Detlef Heikamp, "Zum Herkules und Kakus von Baccio Bandinelli", in *Torella-Cicuzza-Gnoli 2001*, vol. 2, pp. 983-1006.
- Heikamp 2011:** Detlef Heikamp, "La Fontana di Nettuno: la sua storia nel contesto urbano", in *Exh.cat. Firenze 2011a*, pp. 182-261.
- Henry-Schmitt 1990:** John Henry and Charles B. Schmitt, eds., *New Perspectives on Renaissance Thought. Essays in the History of Science, Education and Philosophy*, London, 1990.
- Hittorff-Zanth 1835:** Jacques Ignace Hittorff and Ludwig Zanth, eds., *Architecture moderne de la Sicile, ou Recueil des plus beaux monumens religieux, et des édifices publics et particuliers les plus remarquables de la Sicile*, Paris, 1835.
- Hoffmann 2000:** Albrecht Hoffmann, ed., *Die Wasserversorgung in der Renaissancezeit (Geschicht der Wasserversorgung, vol. 5)*, Mainz, 2000.
- Holderbaum 1957a:** James Holderbaum, "Notes on Tribolo-I: A Documented Bronze by Tribolo", *The Burlington Magazine*, vol. 99, no. 655, 1957, pp. 336-340, 343.
- Holderbaum 1957b:** James Holderbaum, "Notes on Tribolo-II: A Marble Aesculapius by Tribolo", *The Burlington Magazine*, vol. 99, no. 656, 1957, pp. 368-373.
- Holderbaum 1983:** James Holderbaum, *The Sculptor Giovanni Bologna*, New York and London, 1983 (PhD. diss., Harvard Univ., 1959).
- Humphris 2003:** Cyril Humphris, "Bartolomeo Ammanati and Danese Cattaneo", *The Burlington Magazine*, vol. 145, no. 1200 (Centenary Issue), 2003, p. 220.
- Hunt 1996:** John Dixon Hunt, ed., *The Italian Garden: Art, Design and Culture*, Cambridge, 1996.
- Ircani Menichini 2013:** Paola Ircani Menichini, ed., *L'"infinito amore" alle arti e agli artisti: la cappella dei pittori e il p. Montorsoli nel 450° anniversario della morte (1563-2013)*, Firenze, 2013.
- Jette 1984:** Abel Jette, *Il giardino come labirinto della storia (atti del convegno internazionale)*, Palermo, 1984.
- Joannides 2003:** Paul Joannides, "Two Drawings Related to Michelangelo's 'Hercules and Antaeus'", *Master Drawings*, vol. 41, no. 2, 2003, pp. 105-118.
- Jones 1992:** Dalu Jones, ed., *Teatro delle acque*, Roma, 1992.
- Jonietz 2011:** Fabian Jonietz, "The Semantics of Recycling: Cosimo Bartoli's Invenzioni for Giovan Battista Ricasoli", in *Fiore-Lamberini 2011*, pp. 297-325.
- Karwacka Codini 1996:** Ewa Karwacka Codini, "Il giardino del Palazzo Portinari-Salviati a Firenze: uno spazio fatto di natura, di artificio e di rievocazione del mondo classico", *Annali della Scuola Normale Superiore di Pisa, Classe di Lettere e Filosofia. Quaderni*, ser. 4, no. 1/2, 1996, pp. 227-234.
- Karwacka Codini-Sbrilli 1993:** Ewa Karwacka Codini and Milletta Sbrilli, eds., *Piante e disegni dell'Archivio Salviati (Pubblicazioni della Classe di Lettere e filosofia: tesi e materiali, Scuola Normale Superiore Pisa)*, Pisa, 1993.
- Karwacka Codini-Sbrilli 1996:** Ewa Karwacka Codini and Milletta Sbrilli, *Il quaderno della fabbrica della cappella di Sant'Antonino in San Marco a Firenze: manoscritto sulla costruzione di un'opera del Giambologna, (Quaderni dell'archivio Salviati, vol. 2)*, Pisa, 1996.
- Keutner 1955:** Herbert Keutner, "Die Tabernakelstatuetten der Certosa zu Florenz", *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 7, no. 2, 1955, pp. 139-144.
- Keutner 1958:** Herbert Keutner, "The Palazzo Pitti 'Venus' and Other Works by Vincenzo Danti", *The Burlington Magazine*, vol. 100, no. 669, 1958, pp. 427-431.
- Keutner 1965:** Herbert Keutner, "Niccolò Tribolo und Antonio Lorenzi: der Äskulapbrunnen im Heilkräutergarten der Villa Castello bei Florenz", in *Martin-Soefner 1965*, pp. 235-244.
- Keutner 1984:** Herbert Keutner, "Un modello del Bandinelli per il Nettuno della fontana della Piazza della Signoria a Firenze", in *Scritti di storia dell'arte in onore di Roberto Salvini*, Firenze, 1984, pp. 417-426.
- Keutner 1987:** Herbert Keutner, "La statua del Giambologna", in *Acidini Luchinat 1987*, pp. 43-54.
- Kiene 1999:** Michael Kiene, "Das Berufsbild des Architekten im 16. Jahrhundert. Bartolomeo Ammannati als letzter Dombaumeister und als Hofarchitekt in Florenz", *Marburger Jahrbuch für Kunstwissenschaft*, vol. 26, 1999, pp. 157-187.
- Kinney 1976:** Peter Kinney, *The Early Sculpture of Bartolomeo Ammannati*, New York and London, 1976, (PhD. diss., New York Univ.,

- 1974).
- Kirkham 2001:** Victoria Kirkham, "Cosimo and Eleonora in Shepherdland: A Lost Eclogue by Laura Battiferra degli Ammannati", in *Eisenbichler 2001*, pp. 149-175.
- Kirwin 1971:** William Chandler Kirwin, "Vasari's Tondo of 'Cosimo I with his Architects Engineers and Sculptors' in the Palazzo Vecchio: Typology and Re-identification of Portraits", *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 15, no. 1, 1971, pp. 105-122.
- Klapisch-Zuber–Cherubini 1973:** Christiane Klapisch-Zuber and Bruno Cherubini, *Carrara e i maestri del marmo [1300-1600]*, Massa, 1973.
- Kliemann–Rohlmann 2004:** Julian Kliemann and Michael Rohlmann, *Italian Frescoes: High Renaissance and Mannerism 1510-1600*, New York and London, 2004.
- Kolb–Lewis 1997:** Carolyn Kolb and Douglas Lewis, "The Sculptures on the Nymphaeum Hemicycle of the Villa Barbaro at Meser", *Artibus et Historiae*, vol. 18, no. 35, 1997, pp. 15-33, 35-40.
- Konody 1901:** Paul George Konody, "Garden Sculpture, with Special Reference to the Fountain", *The Artist: An Illustrated Monthly Record of Arts, Crafts and Industries (American Edition)*, vol. 31, no. 262, 1901, pp. 83-89.
- Kriegbaum 1928:** Friedrich Kriegbaum, "Ein Verschollenes Brunnenwerk des Bartolomeo Ammanati", *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 3, no. 3, 1928, pp. 71-103.
- Kubler 1978:** George Kubler, "Drawings by G. A. Montorsoli in Madrid", in *Sheard–Paleotti 1978*, pp. 143-164.
- Kuntz 1999:** Margaret Kuntz, "Vincenzo Borghini and Giorgio Vasari: Two Drawings for the Cappella Paolina", *The Burlington Magazine*, vol. 141, no. 1159, 1999, pp. 592-597.
- Kurz 1937:** Otto Kurz, "Giorgio Vasari's 'Libro de' Disegni'", *Old Master Drawings*, vol. 12, 1937, pp. 1-6, 32-44.
- Kurz 1952:** Otto Kurz, "'Il Libro de' Disegni' di Giorgio Vasari", in *Vasari 1952*, pp. 225-228.
- Lamberini–Tamantini 2013:** Daniela Lamberini and Maura Tamantini, *Le acque del giardino di Boboli*, Livorno, 2013.
- La Monica-g 1987:** Giuseppe La Monica, *Pantheon Ambiguo*, Palermo, 1987.
- La Monica-m 2010:** Marcella La Monica, "La Fontana Pretoria di Palermo tra classicism e manierismo", in *Marchese 2010*, pp. 373-392.
- Langedijk 1971:** Karla Langedijk, "A New Cigoli: The State Portrait of Cosimo I de' Medici, and a Suggestion concerning the Cappella de' Principi", *The Burlington Magazine*, vol. 113, no. 823, 1971, pp. 575-579.
- Lanzarini 1998/1999:** Orietta Lanzarini, "Il codice cinquecentesco di Giovanni Vincenzo Casale e i suoi autori", *Annali di architettura*, no. 10/11, 1998/1999, pp. 183-202.
- Lapi Ballerini 1999:** Isabella Lapi Ballerini, "Niccolò Tribolo e la grotta degli animali a Castello", in *Lapi Ballerini–Medri 1999*, pp. 268-283.
- Lapi Ballerini–Medri 1999:** Isabella Lapi Ballerini and Litta Medri, eds., *Artifici d'acque e giardini: la cultura delle grotte e dei ninfei in Italia e in Europa (Atti del convegno internazionale)*, Firenze, 1999.
- Laschke 1993:** Birgit Laschke, *Fra Giovan Angelo da Montorsoli: Ein Florentiner Bildhauer des 16. Jahrhunderts*, Berlin, 1993.
- Laschke 1994:** Birgit Laschke, "Le 'invenzioni' dello scultore servita Giovan Angelo da Montorsoli: il confronto fra opere religiose e profane", *Arte cristiana*, vol. 82, 1994, pp. 411-420.
- Laschke 2000:** Birgit Laschke, "Un ritratto di Giambologna e la Fontana di Oceano nel Giardino di Boboli", in *Giambologna tra Firenze e l'Europa (Atti del convegno internazionale)*, Firenze, 2000.
- Lecchini Giovannoni 1991:** Simona Lecchini Giovannoni, *Alessandro Allori*, Torino, 1991.
- Lee–Helphand 2014:** Michael G. Lee and Kenneth I. Helphand, eds., *Technology and the Garden (Danmbarton Oaks Colloquium on the History of Landscape Architecture 35)*, Washington, 2014.
- Legrenzi 1910:** Ada Legrenzi, *Vincenzo Borghini: studio critico*, Udine, 1910.
- Lensi 1929:** Alfredo Lensi, *Palazzo Vecchio*, Milano, 1929.
- Lightbown 1989:** Ronald W. Lightbown, *Sandro Botticelli: Life and Work*, New York, 1989. [邦訳: ロナルド・ライトボーン『ボッティチェリ』森田義之、小林もり子共訳、西村書店、1989年]
- Lloyd 1968:** Christopher Lloyd, "Drawings Attributable to Niccolò Tribolo", *Master Drawings*, vol. 6, no. 3, 1968, pp. 243-245, 298-305.
- Loffredo 2011a:** Fernando Loffredo, "Pedro de Toledo, lo stemma di Castelcapuano e Francesco da Sangallo a Napoli: la produzione di emblemi monumentali e un confronto col portale di Castel Sant'Elmo di Tommaso Boscoli", in *Mangone 2011*, pp. 42-69.
- Loffredo 2011b:** Fernando Loffredo, "La villa di Pedro de Toledo a Pozzuoli e una provenienza per il "Fiume" di Pierino da Vinci al Louvre", *Rinascimento Meridionale*, vol. 2, 2011, pp. 93-113.
- Lorenzoni 1912:** Antonio Lorenzoni, *Carteggio artistico inedito*, Firenze 1912.
- MacDougall 1975:** Elisabeth B. MacDougall, "Sleeping Nymph: Origins of a Humanist Fountain Type", *The Art Bulletin*, vol. 57, no. 3, 1975, pp. 357-365.
- MacDougall–Miller 1978:** Elisabeth B. MacDougall and Naomi Miller, *Fons Sapientiae: Garden Fountains in Illustrated Books, Sixteenth-Eighteenth Centuries*, Washington, 1978.
- Madonna 1993:** Maria Luisa Madonna, ed., *Roma di Sisto V: le arti e la cultura*, Roma, 1993.
- Magnusson 2001:** Roberta J. Magnusson, *Water Technology in the Middle Ages: Cities, Monasteries, and Waterworks After the Roman Empire*, Baltimore, 2001.
- Mamone–Testaverde 2005:** Sara Mamone and Anna Maria Testaverde, "Vincenzo Borghini e gli esordi di una tradizione: le feste fiorentine del 1565 e i prodromi lionesi del 1548", in *Bertoli–Drusi 2005*, pp. 65-77.
- Manara 1959:** Carla Manara, *Montorsoli e la sua opera genovese*, Genova, 1959.
- Mangone 2011:** Fabio Mangone, *Castelcapuano: da reggia a tribunale; architettura e arte nei luoghi della giustizia*, Napoli, 2011.
- Marani 1982:** Pietro C. Marani, "A Reworking by Baldassare Peruzzi of Francesco di Giorgio's Plan of a Villa", *Journal of the Society of Architectural Historians*, vol. 41, no. 3, 1982, pp. 181-188.
- Marchese 2010:** Antonio Giuseppe Marchese, ed., *Manierismo siciliano: Antonio Ferraro da Giuliana e l'età di Filippo II di Spagna (Atti del convegno di studi di Giuliana)*, 2 vols., Palermo, 2010.
- Martin–Soefner 1965:** Kurt Martin and Halldor Soehner, eds., *Studien zur Geschichte der europäischen Plastik*, München, 1965.
- Massinelli 1997:** Anna Maria Massinelli, "La collezione medicea negli anni di Cosimo I e Francesco I", in *Acidini Luchinat 1997*, pp. 53-72.

[邦訳: アンナ・マリア・マッシネッリ「コジモ1世とフランチェスコ1世時代のメディチ・コレクション」松本典昭訳『阪南論集 人文・自然科学編』第45巻第1号、2009年、31-40頁]

- Mastorocco 1981:** Mila Mastorocco, *Le mutazioni di proteo: i giardini medicei del cinquecento*, Firenze, 1981.
- Mattioli 1970:** Raffaele Mattioli, ed., *Un augurio a Raffaele Mattioli*, Firenze, 1970.
- Medri 1995:** Litta Maria Medri, *Pontormo a Poggio a Caiano*, Firenze, 1995.
- Medri 2003a:** Litta Maria Medri, ed., *Il giardino di Boboli*, Cinisello Balsamo, 2003.
- Medri 2003b:** Litta Maria Medri, "Le grotte", in *Medri 2003a*, pp. 68-95.
- Meijer-Zangheri 2015:** Bert W. Meijer and Luigi Zangheri, eds., *Accademia delle arti del disegno, Firenze*, Firenze, 2015.
- Migliorato 2006:** Alessandra Migliorato, "Le metamorfosi di un monumento", *Karta*, vol. 1, no. 4, 2006, pp. 16-17.
- Migliorato 2007:** Alessandra Migliorato, "Montorsoli a Messina: la produzione scultorea di Giovanni Angelo Montorsoli a Messina", *Messenion d'oro*, n.s., vol. 12, 2007, pp. 17-23.
- Migliorato 2009:** Alessandra Migliorato, "Novità e riflessioni su alcuni monumenti messinesi del manierismo", *Karta*, vol. 4, no. 1, 2009, pp. 12-15.
- Migliorato 2010a:** Alessandra Migliorato, *Una maniera molto graziosa: ricerche sulla scultura del cinquecento nella Sicilia Orientale e in Calabria*, Messina, 2010.
- Migliorato 2010b:** Alessandra Migliorato, "Gli Apostoli del duomo di Messina: Giovanni Angelo Montorsoli", in *Andreani-Cannistrà 2010*, pp. 289-313.
- Migliorato 2014:** Alessandra Migliorato, *Nel segno di Michelangelo: la scultura di Giovan Angelo Montorsoli a Messina*, Palermo, 2014.
- Molmenti 1894:** Pompeo Molmenti, "La Libreria di Jacopo Sansovino", *Bullettino di Arti e Curiosità Veneziana*, anno 4, no. 1, 1894, pp. 3-6.
- Monbeig-Goguel 1988:** Catherine Monbeig-Goguel, "Giulio Clovio 'nouveau petit Michel-Ange': à propos des dessins du Louvre", *Revue de l'art*, vol. 80, 1988, pp. 37-47.
- Monbeig-Goguel 2005:** Catherine Monbeig-Goguel, "Workshop continuity through the generations: Bandinelli versus Francesco Salviati", *Master Drawings*, vol. 43, no. 3, 2005, pp. 316-325.
- Morandini 1965:** Francesca Morandini, "Palazzo Pitti, la sua costruzione e i successivi ingrandimenti Palazzo Pitti", *Commentari*, n.s., vol. 16, 1965, pp. 35-46.
- Morét 2003:** Stefan Morét, *Der italienische Figurenbrunnen des Cinquecento*, Oberhausen, 2003.
- Morisani 1941:** Ottavio Morisani, *Saggi sulla scultura napoletana del cinquecento*, Napoli, 1941.
- Möseneder 1979:** Karl Möseneder, *Montorsoli: Die Brunnen*, Mittenwald, 1979.
- Muccini 1990:** Ugo Muccini, *The Salone dei Cinquecento of Palazzo Vecchio*, Florence, 1990.
- Musolino-Giorgianni 2014:** Grazia Musolino and Giuseppe Giorgianni, *La notte di Orione*, Messina, 2014.
- Myssok 1999:** Johannes Myssok, *Bildhauerische Konzeption und Plastisches Modell in der Renaissance*, Münster, 1999.
- Nees 1978:** Lawrence Nees, "Le 'Quos Ego' de Marc-Antoine Raimondi: l'adaptation d'une source antique par Raphael", *Nouvelles de l'estampe*, no. 40/41, 1978, pp. 18-29.
- Negri arnoldi 1997:** Francesco Negri Arnoldi, *Scultura del Cinquecento in Italia meridionale*, Napoli, 1997.
- Nova-Schreurs 2003:** Alessandro Nova and Anna Schreurs, eds., *Benvenuto Cellini: Kunst und Kunsttheorie im 16. Jahrhundert*, Köln, 2003.
- Orfanello 1997:** Teresa Orfanello, "Don Luis de Toledo e il suo giardino", *MCM. La Storia delle Cose*, no. 35, 1997, pp. 66-71.
- Ostrow 2006:** Steven F. Ostrow, "The Discourse of Failure in Seventeenth-Century Rome: Prospero Bresciano's 'Moses'", *The Art Bulletin*, vol. 88, no. 2, 2006, pp. 267-291.
- Palazzo Panciatichi 2016:** Palazzo Panciatichi, ed., *Attualità dell'effimero urbano dai Medici alla città metropolitana: Firenze della magnificenza civile 1565-2016*, Firenze, 2016.
- Pampaloni-Rodolico 1973:** Guido Pampaloni and Niccolò Rodolico, *Firenze al tempo di Dante: documenti sull'urbanistica fiorentina, (Pubblicazioni degli archivi di Stato: Fonti e sussidi, 4)*, Roma, 1973.
- Pane 1975:** Giulio Pane, "Pietro di Toledo viceré urbanista", *Napoli Nobilissima*, vol. 14, fascicolo 3, 1975, pp. 81-95.
- Panofsky 1962:** Erwin Panofsky, *Studies in Iconology: Humanistic Themes in the Art of Renaissance*, New York, 1962. [邦訳: エルヴィン・パノフスキー『イコノロジー研究——ルネサンス美術における人文主義の緒テーマ』浅野徹、阿天坊耀、塚田孝雄、永澤峻、福部 信敏共訳、ちくま学芸文庫、2002年]
- Panofsky 1964:** Erwin Panofsky, *Tomb Sculpture: Four Lectures on its Changing Aspects from Ancient Egypt to Bernini*, New York, 1964. [邦訳: エルヴィン・パノフスキー『墓の彫刻——死に立ち向かった精神の様態』若桑みどり、森田義之、森雅彦共訳、哲学書房、1996年]
- Paolicchi 2005:** Costantino Paolicchi, *Michelangelo: sogni di marmo*, Pontedera, 2005.
- Pedone 1986:** Salvatore Pedone, *La fontana pretoria a Palermo*, Palermo, 1986.
- Perkins 1864:** Charles C. Perkins, *Tuscan Sculptors: Their Lives, Works, and Times with Illustrations from Original Drawings and Photographs*, 2 vols., London, 1864.
- Petrioli Tofani 2015:** Annamaria Petrioli Tofani, "Gli apparati per le nozze di Francesco dei Medici con Giovanna d'Austria (1565)", in *Meijer-Zangheri 2015*, pp. 477-498.
- Petrucchi 1999:** Francesca Petrucci, "L'ultimo progetto di Tribolo", *Artista*, 1999, pp. 186-195.
- Pezzana 1842:** Angelo Pezzana, *Di Enea Vico, parmigiano*, Parma, 1842.
- Pfleiderer Malačić 2000:** Inge Pfleiderer Malačić, *Vasari über Skulptur: Studien zur Florentiner Skulptur des Cinquecento*, Tübingen, 2000.
- Pieri 2001:** Elisabetta Pieri, ed., *Niccolò detto il Tribolo tra arte, architettura e paesaggio (atti del convegno di studi per il centenario della nascita)*, Poggio a Caiano, 2001.
- Pilliod 2001:** Elizabeth Pilliod, *Pontormo, Bronzino, Allori: A Genealogy of Florentine Art*, New Haven, 2001.
- Pillsbury 1967:** Edmund Pillsbury, "Drawings by Vasari and Vincenzo Borghini for the Apparato in Florence in 1565", *Master Drawings*, vol. 5, no. 3, 1967, pp. 281-283, 330-331.
- Pillsbury 1970:** Edmund Pillsbury, "The Temporary Façade on the Palazzo Ricasoli: Borghini, Vasari, and Bronzino", *Report and Studies in the History of Art*, 1969, 1970, pp. 75-84.
- Pillsbury 1973:** Edmund Pillsbury, "Vincenzo Borghini as a Draftsman", *Yale University Art Gallery Bulletin*, vol. 34, no. 2, 1973, pp. 7-11.

- Pirillo 2008:** Paolo Pirillo, ed., *Alle porte di Firenze: il territorio di Bagno a Ripoli in età medievale (Atti del convegno dello Spedale del Bigallo)*, Roma, 2008.
- Pirri 1943:** Pietro Pirri, "L'architetto Bartolomeo Ammannati e i Gesuiti", *Archivum Historicum Societatis Iesu*, vol. 12, 1943, pp. 5-57.
- Pizzorusso 2002:** Claudio Pizzorusso, "Galileo in giardino: qualche osservazione sugli arredi scultorei dei giardini fiorentini tra cinque e seicento", in *Exh.cat. Milano 2002*, pp. 123-131.
- Pizzorusso 2008:** Claudio Pizzorusso, *Giambologna e la scultura della maniera: Baccio Bandinelli, Niccolò Tribolo, Bartolomeo Ammannati, Benvenuto Cellini, Pierino da Vinci, Giovan Angelo Montorsoli, Stoldo Lorenzi, Vincenzo de' Rossi, Vincenzo Danti, Pietro Francavilla*, Milano, 2008.
- Poeschke–Weigel–Kusch-Arnhold 2008:** Joachim Poeschke, Thomas Weigel, and Britta Kusch-Arnhold, eds., *Praemium Virtutis III: Reiterstandbilder von der Antike bis zum Klassizismus*, Münster, 2008.
- Poggi 1906:** Giovanni Poggi, "Di due modelli del Tribolo dai fiumi di Michelangiolo per le tombe medicee", *Rivista d'Arte*, vol. 4, no. 5, 1906, p. 104.
- Poli–Piccini–Brunetti 1973:** Oreste Poli, Attilio Piccini, and Manlio Brunetti, eds., *Il recupero di un monumento a Firenze*, Firenze, 1973.
- Pope-Hennessy 1954:** John Pope-Hennessy, "Samson and a Philistine by Giovanni Bologna", *Museum Monograph (Victoria and Albert Museum)*, no. 8, London, 1954.
- Pope-Hennessy 1963:** John Pope-Hennessy, *Italian Renaissance and Baroque Sculpture*, London, 1963.
- Porro 2007:** Antonietta Porro, "Pier Vettori, oltre la filologia: il 'Viaggio di Annibale per la Toscana'", in *Carrara–Ginzburg 2007*, pp. 279-301.
- Pozzi 2005:** Mario Pozzi, "Borghini e la lingua volgare", in *Bertoli–Drusi 2005*, pp. 177-202.
- Pratesi 2003:** Giovanni Pratesi, ed., *Repertorio della scultura fiorentina del cinquecento*, 3 vols., Torino, 2003.
- Presciutti 2010:** Diana Bullen Presciutti, "Carità e potere: Representing the Medici Grand Dukes as 'Fathers of the Innocent'", *Renaissance Studies*, vol. 24, no. 2, 2010, pp. 234-259.
- Procacci 1977:** Ugo Procacci, ed. by Maria Grazia Ciardi Duprè Dal Poggetto and Paolo Dal Poggetto, *Scritti di storia dell'arte in onore di Ugo Procacci*, 2 vols., Milano, 1977.
- Raffini 1998:** Christine Raffini, *Marsilio Ficino, Pietro Bembo, Baldassare Castiglione: Philosophical, Aesthetic, and Political Approaches in Renaissance Platonism*, New York, 1998.
- Reiss 1993:** Sheryl E. Reiss, *Cardinal Giulio de' Medici as a Patron of Art, 1513-1523*, 1993, PhD. diss., Princeton Univ., 1992.
- Reiss 2001:** Sheryl E. Reiss, ed., *Beyond Isabella. Secular Women Patrons of Art in Renaissance Italy*, Kirkville, 2001.
- Richelson 1978:** Paul William Richelson, *Studies in the Personal Imagery of Cosimokde' Medici, Duke of Florence*, New York and London, 1978.
- Rigoni 1953:** Erice Rigoni, "Notizie sulla vita e la famiglia dello scultore Tiziano Aspetti detto Minio", *Arte Veneta*, vol. 7, 1953, pp. 119-122.
- Rinaldi 1991:** Alessandro Rinaldi, "'Quattro pitaffi senza le lettere': i primi anni del Giardino di Boboli e lo spartimento del Toribolo", in *Acidini Luchinat–Zorzi 1991*, vol. 1, pp. 19-30.
- Rinaldi 1997:** Alessandro Rinaldi, "Giardino e metamorfosi urbana a Firenze tra Medioevo e Rinascimento", in *Cinti–Ferrara 1997*, pp. 15-30.
- Rinaldi 2007:** Alessandro Rinaldi, "Dal 'casone' di Don Luigi di Toledo al 'Palazzo e Villa' dei Guadagni: vicende di una residenza suburbana tra cinquecento e seicento", *Opvs incertvm*, vol. 3, 2007, pp. 31-39.
- Roccasecca 2003:** Pietro Roccasecca, "Danti e 'Le due regole'", in *Frommel–Ricci–Tuttle 2003*, pp. 161-173.
- Rossi–Valeri–Bellucci 2008:** Sergio Rossi, Stefano Valeri, and Tiziana Bellucci, *Magia e medicina, espressioni artistiche dal XV al XVIII secolo*, Napoli, 2008.
- Rousseau 1983:** Claudia Rousseau, *Cosimo I de Medici and Astrology: The Symbolism of Prophecy*, 1983, PhD. diss., Columbia Univ., 1983.
- Rozzo–Gabriele 2006:** Ugo Rozzo and Mino Gabriele, eds., *Storia per parole e per immagini*, Udine, 2006.
- Rubin 1963:** Ida E. Rubin, ed., *The Renaissance and Mannerism (Studies in Western Art, vol. 2)*, Princeton, 1963.
- Rubinstein 1987:** Nicolai Rubinstein, "Classical Themes in the Decoration of the Palazzo Vecchio in Florence", *Journal of the Warburg and Courtauld Institutes*, vol. 50, 1987, pp. 29-43.
- Rubinstein 1995:** Nicolai Rubinstein, *The Palazzo Vecchio 1298-1532: Government, Architecture, and Imagery in the Civic Palace of the Florentine Republic*, Oxford, 1995.
- Rusconi 1940:** Arturo Jahn Rusconi, "La Prima Retrospectiva a Palazzo Strozzi: la mostra del '500 Toscano", *Illustrazione Toscana*, vol. 18, no. 8, 1940, pp. 31-36.
- Russo 1961:** Lia Russo, *la Fontana di Piazza Pretoria in Palermo*, Palermo, 1961.
- Russo 2001:** Luigi Russo, ed. by, *La nuova estetica italiana*, no. 9, Palermo, 2001.
- Sanpaolesi 1952:** Piero Sanpaolesi, "La Vita vasariana del Sansovino e l'Ammannati", in *Vasari 1952*, pp. 134-139.
- Santi 1989:** Francesco Santi, *Vincenzo Danti scultore (1530-1576)*, Bologna, 1989.
- Sapori 2004:** Giovanna Sapori, "Dal programma al dipinto. Annibal Caro, Taddeo Zuccari, Giorgio Vasari", in *Casare–D'Achille 2004*, pp. 199-220.
- Scalini 2001:** Mario Scalini, ed., *Giovanni delle Bande Nere*, Cinisello Balsamo, 2001.
- Schaefer 1976:** Scott J. Schaefer, *The Studiolo of Francesco I de' Medici in the Palazzo Vecchio in Florence*, 2 vols., 1976, PhD. diss., Bryn Mawr Coll., 1976.
- Schallert 1998:** Regine Schallert, *Studien zu Vincenzo de' Rossi: Die frühen und mittleren Werke (1536-1561)*, Hildesheim, 1998.
- Scorza 1981:** Rick A. Scorza, "Vincenzo Borghini and Invenzione: The Florentine Apparato of 1565", *Journal of the Warburg and Courtauld Institutes*, vol. 44, 1981, pp. 57-75.
- Scorza 1984a:** Rick A. Scorza, "A Life Study by Vincenzo de' Rossi", *Master Drawings*, vol. 22, no. 3, 1984, pp. 315-317, 375.
- Scorza 1984b:** Rick A. Scorza, "A 'Modello' by Stradanus for the 'Sala di Penelope' in the Palazzo Vecchio", *The Burlington Magazine*, vol. 126, no. 976, 1984, pp. 433-437.
- Scorza 1985:** Rick A. Scorza, "A New Drawing for the Florentine 'Apparato' of 1565: Borghini, Butteri and the 'Tuscan Poets'", *The Burlington Magazine*, vol. 127, no. 993, 1985, pp. 886-890.
- Scorza 1988:** Rick A. Scorza, "Imprese and Medals: Invenzioni all'antica by Vincenzo Borghini", *The Medal*, vol. 13, 1988, pp. 18-32.
- Scorza 1989:** Rick A. Scorza, "Vincenzo Borghini and the Imprese", *Journal of the Warburg and Courtauld Institutes*, vol. 52, 1989, pp.

- 85-110.
- Scorza 1991:** Rick A. Scorza, "A Florentine Sketchbook: Architecture, Apparati and the Accademia del Disegno", *Journal of the Warburg and Courtauld Institutes*, vol. 54, 1991, pp. 172-185.
- Scorza 1995a:** Rick A. Scorza, "Borghini and the Florentine Academies", in *Chambers 1995*, pp. 137-163.
- Scorza 1995b:** Rick A. Scorza, "Borghini, Butteri and Allori: A Further Drawing for the 1565 'Apparato'", *The Burlington Magazine*, vol. 137, no. 1104, 1995, pp. 172-175.
- Scorza 2003a:** Rick A. Scorza, "Vincenzo Borghini's Collection of Paintings, Drawings and Wax Models: New Evidence from Manuscript Sources", *Journal of the Warburg and Courtauld Institutes*, vol. 66, 2003, pp. 63-122.
- Scorza 2003b:** Rick A. Scorza, "Vasari, Borghini and Michelangelo", in *Ames-Lewis-Joannides 2003*, pp. 180-210.
- Scorza-r 2005:** Riccardo Scorza, "'Begli scudi': un nuovo compendio araldico di armi e cimieri del Borghini", in *Bertoli-Drusi 2005*, pp. 95-124.
- Seidel 1973:** Max Seidel, "A Sculpture by Nicola Pisano in the 'Studiolo' of Cosimo I de' Medici", *The Burlington Magazine*, vol. 115, no. 846, 1973, pp. 599-600, 602.
- Settle 1990:** Thomas B. Settle, "Egnazio Danti and Mathematical Education in Late Sixteenth-Century Florence", in *Henry-Schmitt 1990*, pp. 24-37.
- Seznec 1940 jp:** ジャン・セズネック『神々は死なず——ルネサンス芸術における異教神』高田勇訳、美術出版社、1977年 [Jean Seznec, *La survivance des dieux antiques: Essai sur le rôle de la tradition mythologique dans l'humanisme et dans l'art de la renaissance*, London, 1940] .
- Sheard-Paleotti 1978:** Wendy Stedman Sheard and John T. Paleotti, eds., *Collaboration in Italian Renaissance Art*, New Haven, 1978.
- Shearman 1967:** John Shearman, *Mannerism*, Middlesex, 1967.
- Shearman 1975:** John Shearman, "The Florentine Entrata of Leo X, 1515", *Journal of the Warburg and Courtauld Institutes*, vol. 38, 1975, pp. 136-154.
- Siekiera 2007:** Anna Siekiera, "Le chiose dantesche di Piero Vettori", in *Carrara-Ginzburg 2007*, pp. 303-315.
- Sinibaldi 1925:** Giulia Sinibaldi, "Una predella del Pontorno attribuita ad Andrea del Sarto nella Galleria di Dublino", *L'arte*, vol. 28, 1925, pp. 153-158.
- Sola 2010:** Valeria Sola, "La Tribuna dei Gagini nella Cattedrale di Palermo (1507-1574)", in *Marchese 2010*, vol. 1, pp. 181-202.
- Sorella 2005:** Antonio Sorella, "Borghini, Bembo e Varchi", in *Bertoli-Drusi 2005*, pp. 149-157.
- Spalanca 1998:** Carmelo Spalanca, "Dal Petrarchismo al Manierismo: Antonio Veneziano e i discorsi sopra le statue del Fonte Pretorio", in *Franceschetti 1988*, vol. 2, pp. 597-609.
- Spalla-Ansaldi-Borzani 2014:** Giovanni Spalla, Gianni Ansaldi, and Luca Borzani, *I marmi giustiziati: il ritorno a palazzo delle due statue colossali dei doria*, Genova, 2014.
- Spande 2010:** Helen Spande, "Vasari & The Medici: A Tapestry of Saturn & Philyra", *Apollo*, vol. 171, no. 574, 2010, pp. 86-91.
- Spini 1976:** Giorgio Spini, ed., *Architettura e politica da Cosimo I a Ferdinando I*, Firenze, 1976.
- Spini 1979:** Giorgio Spini, "The Medici Principality and the Organization of the States of Europe in the Sixteenth Century", *Journal of Italian History*, vol. 2, no. 3, 1979, pp. 420-447.
- Spini 1980:** Giorgio Spini, *Cosimo I de' Medici e l'indipendenza del principato mediceo*, Firenze, 1980.
- Spini 2003:** Giorgio Spini, "Politicità di Michelangelo", in *Studi Michelangioleschi 1966*, pp. 110-170. [邦訳: ジョルジョ・スピーニ『ミケランジェロと政治——メディチに抵抗した《市民=芸術家》』森田義之、松本典昭共訳、刀水書房、2003年]
- Starn-Partridge 1992:** Randolph Starn and Loren Partridge, *Arts of Power: Three Halls of State in Italy, 1300-1600*, Berkeley, 1992.
- Steinberg 1965:** Ronald Martin Steinberg, "The Iconography of the Teatro dell'Aqua at the Villa Aldobrandini", *The Art Bulletin*, vol. 47, 1965, pp. 453-463.
- Strong 1973:** Roy Strong, *Art and Power: Renaissance Festivals 1450-1650*, Suffolk, 1973. [邦訳: ロイ・ストロング『ルネサンスの祝祭——王権と芸術（上・下）』星和彦訳、平凡社、1987年]
- Strunck 1999:** Christina Strunck, "Pontorno und Pontano: Zu Paolo Giovios Programm für die beiden Lünettenfresken in Poggio a Caiano", *Marburger Jahrbuch für Kunstwissenschaft*, vol. 26, 1999, pp. 117-137.
- Strunck 2011:** Christina Strunck, *Medici women as cultural mediators, 1533-1743: Le donne di casa Medici e il loro ruolo di mediatrici culturali fra le corti d'Europa (atti del convegno internazionale)*, Cinisello Balsamo, 2011.
- Studi Michelangioleschi 1966:** Convegno di Studi Michelangioleschi, *Studi Michelangioleschi (atti del convegno)*, Roma, 1966.
- Summers 1969:** John David Summers, "The Sculptural Program of the Cappella di San Luca in the Santissima Annunziata", *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 14, no. 1, 1969, pp. 67-90.
- Summers 1977:** John David Summers, "The Tomb of Mario Nari for the Ss. Annunziata in Florence: The Sculptor Bartolomeo Ammannati until 1544", *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 21, no. 1, 1977, pp. 69-94.
- Summers 1979:** John David Summers, *The Sculpture of Vincenzo Danti: A Study in the Influence of Michelangelo and the Ideals of the Maniera*, 2 vols., New York, 1979, (Yale Univ., PhD. diss., 1969).
- Swift 1883:** Lewis Swift, "The New Comet in Pegasus", *Science*, vol. 1, no. 5, 1883, pp. 139-140.
- Sznura-Conti 1975:** Franek Sznura and Elio Conti, *L'espansione urbana di Firenze nel Dugento*, (Biblioteca di storia, 18), Firenze, 1975.
- Tarassi 1980:** Massimo Tarassi, ed., *La nascita della Toscana: dal convegno di studi per il IV centenario della morte di Cosimo I de' Medici*, Firenze, 1980.
- Taylor 1956:** Francis Henry Taylor, "Aganippe: The Fountain of the Muses", *The Metropolitan Museum of Art Bulletin*, n. s., vol. 14, no. 5, 1956, pp. 109-113.
- Tchikine 2010:** Anatole Tchikine, "Horticultural differences: The Florentine garden of Don Luis de Toledo and the nuns of San Domenico del Maglio", *Studies in the History of Gardens & Designed Landscapes*, vol. 30, no. 3, 2010, pp. 224-240.
- Tchikine 2014:** Anatole Tchikine, "L'anima del giardino: Water, Gardens, and Hydraulics in Sixteenth-Century Florence and Naples", in *Lee-Helphand 2014*, pp. 129-153.
- Testaverde Matteini 1983:** Anna Maria Testaverde Matteini, "Una fonte iconografica francese di don Vincenzo Borghini per gli apparati effimeri del 1565", *Il teatro dei Medici. Quaderni di Teatro*, vol. 2, no. 7, 1983, pp. 135-144.
- Testaverde Matteini 1988:** Anna Maria Testaverde Matteini, "La decorazione festiva e l'itinerario di "rifondazione" della città negli ingressi

- trionfali a Firenze tra XV e XVI secolo”, *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 32, 1988, pp. 323-352.
- Testaverde Matteini 1988:** Anna Maria Testaverde Matteini, “La decorazione festiva e l’itinerario di “rifondazione” della città negli ingressi trionfali a Firenze tra XV e XVI secolo (II)”, *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 34, 1990, pp. 165-198.
- Thiem 1960:** Gunther Thiem, “Vasaris Entwürfe für die Gemälde in der Sala Grande des Palazzo Vecchio zu Florenz”, *Zeitschrift für Kunstgeschichte*, vol. 23, no. 2, 1960, pp. 97-135.
- Thieme-Becker 1980:** Ulrich Thieme, Felix Becker, et. al., eds., *Allgemeines Lexikon der bildenden Künstler von der Antike bis zur Gegenwart*, Leipzig, 1980.
- Torella-Cicuzza-Gnoli 2001:** Raffaele Torella, Claudio Cicuzza, and Raniero Gnoli, eds., *Le parole e i marmi: studi in onore di Raniero Gnoli nel suo 70° compleanno*, 2 vols., Roma, 2001.
- Tosi 1908:** Carlo Odoardo Tosi, *L’illustratore fiorentino*, 1908.
- Trachtenberg 1988:** Marvin Trachtenberg, “What Brunelleschi Saw: Monument and site at the Palazzo Vecchio”, *Journal of the Society of Architectural Historians*, vol. 47, no. 1, 1988, pp. 14-44.
- Utz 1966a:** Hildegard Utz, “Vincenzo de’Rossi”, *Paragone*, vol. 17, no. 197, 1966, pp. 29-36.
- Utz 1966b:** Hildegard Utz, “Giovanni Fancelli detto Nanni di Stocco”, *Paragone*, vol. 17, no. 199, 1966, pp. 58-62.
- Utz 1971:** Hildegard Utz, “The “Labors of Hercules” and Other Works by Vincenzo de’Rossi”, *The Art Bulletin*, vol. 53, no. 3, 1971, pp. 346-366.
- Utz 1972:** Hildegard Utz, “A Note on the Chronology of Ammannati’s Fountain of Juno”, *The Burlington Magazine*, vol. 144, no. 831, 1972, pp. 392, 394-395.
- Utz 1975:** Hildegard Utz, “Drawings and a Letter by Vincenzo Danti”, *Master Drawings*, vol. 13, no. 1, 1975, pp. 8-12.
- Utz 1977:** Hildegard Utz, “Bartolomeo Ammannatis Brunnen der Juno: Geschichte, Rekonstruktion und Deutung”, in *Procacci 1977*, pp. 381-407.
- Valeri 1998:** Stefano Valeri, ed., *Scultori del cinquecento*, Roma, 1998.
- Valeri 2008:** Stefano Valeri, “Il ‘magico’ segreto di Felice Orsini nella Fontana Pretoria di Palermo”, in *Rossi-Valeri-Bellucci 2008*, pp. 99-120.
- Van Marle 1971:** Raimond van Marle, *Iconographie de l’art profane au Moyen-Age et à la Renaissance: et la décoration des demeures*, 2 vols., New York, 1971.
- Van Veen 1992:** Henk Th. van Veen, “Republicanism in the Visual Propaganda of Cosimo I de’ Medici”, *Journal of the Warburg and Courtauld Institutes*, vol. 55, 1992, pp. 200-209.
- Van Veen 1993:** Henk Th. van Veen, “‘Republicanism’, not ‘Triumphanism’: On the Political Message of Cosimo I’s Sala Grande”, *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 37, 1993, pp. 475-480.
- Van Veen 2006:** Henk Th. van Veen, *Cosimo I de’ Medici and His Self-Representation in Florentine Art and Culture*, New York, 2006.
- Van Veen 2016:** Henk Th. van Veen, *Transcript of the Lecture on 8<sup>th</sup> January 2016 over the Design of a Never Built Fountain by Baccio Bandinelli*, 2016, Groningen. (Van Veen 教授より提供)
- Vasari 1952:** Istituto Nazionale di Studi sul Rinascimento ed., *Studi vasariani (atti del convegno internazionale per il Quarto Centenario della Prima Edizione delle “Vite” del Vasari)*, Firenze, 1952.
- Vastro 1998:** Barbara Vastro, “Vincenzo de’ Rossi: uno scultore tra Roma e Firenze”, in *Valeri 1998*, pp. 110-128.
- Velli 2000:** Giuseppe Velli, ed. by Gennaro Barbarisi, *Studi vari di lingua e letteratura italiana in onore di Giuseppe Velli*, 2 vols., Bologna, 2000.
- Venditti 2006:** Mauro Venditti, “Una presenza vicereale a Pozzuoli: la dimora fortificata di Don Pedro de Toledo”, *Archivio storico per le province napoletane*, vol. 124, 2006, pp. 251-287.
- Venturi 1901-1940:** Adolfo Venturi, *Storia dell’Arte Italiana*, 25 vols., Milano, 1901-1940.
- Vezzosi 1989-1990:** Alessandro Vezzosi, ed., *I giardini della chimera: antico e futuro nel territorio mediceo di Castello*, 2 vols., Firenze, 1989-1990.
- Viatte-Bormand-Delieuvin 2011:** Françoise Viatte, Marc Bormand, and Vincent Delieuvin, eds., *Baccio Bandinelli, dessins, sculptures, peinture (Musée du Louvre, Cabinet des Dessins: Inventaire général des dessins italiens, no. 9)*, Paris and Milan, 2011.
- Vitzthum 1963:** Walter Vitzthum, “Ammannatis Boboli-Brunnen in Einer Kopie Giovanni Guerras”, *Albertina-Studien*, vol. 1, 1963, pp. 75-80.
- Vodos 1942:** Eduard Vodos, *Studien zum architektonischen Werk des Bartolomeo Ammannati*, Zürich, 1942.
- Vossilla 2014:** Francesco Vossilla, “L’Ercole e Caco di Baccio Bandinelli tra pace e guerra”, in *Exh.cat. Firenze 2014a*, pp. 156-167.
- Vries 1974:** Ad de Vries, *Dictionary of Symbols and Imagery*, Amsterdam, 1974. [邦訳: アト・ド・フリース 『イメージ・シンボル事典』 山下主一郎主幹、大修館書店、1984 年]
- Waldman 2004:** Louis Alexander Waldman, *Baccio Bandinelli and Art at the Medici Court: A Corpus of Early Modern Sources*, Philadelphia, 2004.
- Waldman 2008:** Louis Alexander Waldman, “A Drawing by Tribolo for Montorsoli’s Lost Hercules and Antaeus at Castello”, *Bulletin du Musée Hongrois des Beaux-Arts*, vol. 105, 2006, pp. 93-100, 259-263.
- Ward 1981:** Roger Ward, “Some Late Drawings by Baccio Bandinelli”, *Master Drawings*, vol. 19, no. 1, 1981, pp. 3-14, 61-77.
- Ward 1982:** Roger Ward, *Baccio Bandinelli as a Draughtsman*, 1982, PhD. diss., Univ. of London, 1982.
- Ward 1988:** Roger Ward, *Baccio Bandinelli 1493-1560: Drawings from British Collections Selected and Catalogued by Roger Ward*, Cambridge, 1988.
- Ward 2014:** Roger Ward, “I disegni di Bandinelli: alcune aggiunte al corpus”, in *Firenze 2014a*, pp. 332-347.
- Wasserman 1988:** Jack Wasserman, “Observations on Two Statues in the Museo dell’opera del Duomo and the Porta della Mandorla in Florence”, *Artibus et Historiae*, vol. 9, no. 17, 1988, pp. 149-165.
- Wazbinski 1987:** Zygmunt Wazbinski, *L’Accademia Medicea del Disegno a Firenze nel cinquecento*, 2 vols., Firenze, 1987.
- Weiss 1953:** Roberto Weiss, “The Castle of Gaillon in 1509-1510”, *Journal of the Warburg and Courtauld Institutes*, vol. 16, no. 1/2, 1953, pp. 1-12.
- Wengraf 2014:** Patricia Wengraf, *Renaissance and Baroque Bronzes from the Hill Collection*, London, 2014.
- White 1970:** John White, “The Reconstruction of Nicola Pisano’s Perugia Fountain”, *Journal of the Warburg and Courtauld Institutes*, vol. 33, 1970, pp. 70-83.

- Wilde 1954:** Johannes Wilde, *Michelangelo's Victory*, London, 1954.
- Wiles 1932:** Bertha Harris Wiles, "Tribolo in His Michelangelesque Vein", *The Art Bulletin*, vol. 14, no. 1, 1932, pp. 59-70.
- Wiles 1933:** Bertha Harris Wiles, *The Fountains of Florentine Sculptors and Their Followers From Donatello to Bernini*, Cambridge, 1933 (reissued, 1975, New York).
- Williams 1985:** Robert Williams, "Notes by Vincenzo Borghini on Works of Art in San Gimignano and Volterra. A Source for Vasari's 'Lives'", *The Burlington Magazine*, vol. 127, no. 982, 1985, pp. 17-21.
- Wilk 1986:** Sarah Blake Wilk, *Fifteenth-Century Central Italian Sculpture: An Annotated Bibliography*, Boston, 1986.
- Wind 2000:** Edgar Wind, *The Religious Symbolism of Michelangelo: The Sistine Ceiling*, Oxford, 2000.
- Windt 1958:** Hans van Der Windt, *Pagan Mysteries in Renaissance*, London, 1958. [邦訳: エドガー・ウィント『ルネサンスの異教秘儀』田中英道、加藤雅之、藤田博共訳、晶文社、1986年]
- Windt 2000:** Hans van Der Windt, "New Light on Alessandro Allori's Additions to the Frescoes at Poggio a Caiano", *The Burlington Magazine*, vol. 142, no. 1164, 2000, pp. 170-175.
- Winner 1970:** Matthias Winner, "Cosimo il Vecchio als Cicero: Humanistisches in Franciabigio Fresko zu Poggio a Caiano", *Zeitschrift für Kunstgeschichte*, vol. 33, no. 4, 1970, pp. 261-297.
- Winner 1972:** Matthias Winner, "Pontormo's Fresco in Poggio a Caiano", *Zeitschrift für Kunstgeschichte*, vol. 35, no. 3, 1972, pp. 153-197.
- Woodhouse 1967:** John Robert Woodhouse, "Vincenzo Borghini and the Continuity of the Tuscan Linguistic Tradition", *Italian Studies*, vol. 22, 1967, pp. 26-42.
- Woodhouse 1971:** John Robert Woodhouse, "Borghini's Theory of the Decay of Tuscan", *Studi secenteschi*, vol. 7, 1971, pp. 101-115.
- Wright-a 2005:** Alison Wright, *The Pollaiuolo Brothers: The Arts of Florence and Rome*, New Haven, 2005.
- Wright-d 1976:** David Roy Wright, *The Medici Villa at Olmo a Castello: Its History and Iconography*, PhD. diss., Princeton Univ., 1976.
- Wundram 1965:** Manfred Wundram, "Jacopo della Quercia und das Relief der Gürtelspende über der Porta della Mandorla", *Zeitschrift für Kunstgeschichte*, vol. 28, no. 1/2, 1965, pp. 121-129.
- Zangheri 1976:** Luigi Zangheri, "Le 'piante de condotti' dei giardini di Castello e la Petraia", *Bollettino degli ingegneri*, vol. 19, no. 2/3, 1976, pp. 19-26.
- Zangheri 1999:** Luigi Zangheri, "Il giardino dimenticato di don Luigi di Toledo", *Architettura & Arte*, no. 8, 1999, pp. 15-19.
- Zikos 2004:** Dimitrios Zikos, "Giambologna's Land, House, and Workshops in Florence", *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, vol. 46, 2004, pp. 357-408.
- Zikos 2011:** Dimitrios Zikos, "'...Che accozzamento è stato questo suo?': sul simbolismo delle statue di Ammannati per il Salone dei Cinquecento", in *Exh.cat. Firenze 2011*, pp. 156-181.
- 足達 2011:** 足達薫「ブロンツィーノ《キリストの哀悼》——「エレオノーラ・ディ・トレド礼拝堂」における絵画と彫刻の対話」『祭壇画の解体学——サッセッタからティントレットへ』ありな書房、2011年、181-228頁。
- 赤松 2005:** 赤松加寿江「15世紀フィレンツェにおけるシニョリーア広場の儀式空間としての機能——リンギエラとロッジア・デッラ・シニョリーアの役割について——」『日本建築学会計画系論文集』第590号、2005年、187-194頁。
- 赤松 2011:** 赤松加寿江「祝祭演出家ヴァザーリ」in 野口 2011, pp. 271-346.
- 稲川-桑木野-岡北 2014:** 稲川直樹、桑木野幸司、岡北一孝『プラマンテ：盛期ルネサンス建築の構築者』NTT出版、2014年。
- 岩谷 1995:** 岩谷洋子『バルトロメオ・アンマナーティ論考：その建築作品および理想的都市像の分析』博士論文、東京大学、1995年。
- 甲斐 1998:** 甲斐教行「近年の「マニエリスム」研究の動向——ポントルモとロッソ・フィオレンティーノを中心に」『日伊文化研究』第36号、1998年、114-126頁。
- 金山 2002:** 金山弘昌「ボーボリ庭園の「アンフィテアトロ」：17世紀後半の改築案」『日本橋学館大学紀要』第1号、2002年、47-63頁。
- 太田 2012:** 太田智子「ヴェッキオ宮殿、『公妃の間』四室の図像解釈——フィレンツェ公妃エレオノーラ・デ・トレドの活動とその表象」『美術史』第172冊、2012年、239-256頁。
- 小佐野 1992:** 小佐野重利『記憶の中の古代——ルネサンス美術に見られる古代の受容』中央公論美術出版、1992年。
- 北田 2003:** 北田葉子『近世フィレンツェの政治と文化——コジモ1世の文化政策（1537-60）』刀水書房、2003年。
- 桑木野 2013:** 桑木野幸司『叡智の建築家：記憶のロクスとしての16-17世紀の庭園、劇場、都市』中央公論美術出版、2013年。
- 遠山 2003:** 遠山公一「台座考——ルネサンスから現代へ、あるいは現代からルネサンスへ」『西洋美術研究』第9号、三元社、2003年、47-63頁。
- 友岡 2013:** 友岡真秀「フランチェスコ・カミッリアーニの初期活動とバッチオ・バンディネリ」『Aspects of Problems in Western Art History』第11号、2013年、17-27頁。
- 友岡 2014a:** 友岡真秀「バルトロメオ・アンマナーティ作《ユノの泉》と図像助言者コジモ・バルトリ」『美術史』第176冊、2014年、272-297頁。
- 友岡 2014b:** 友岡真秀「ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』第二版「アカデミア・デル・ディセーニョ会員伝」よりヴィンチェンツォ・デ・ロッシについての記述」『Aspects of Problems in Western Art History』第12号、2014年、113-117頁。
- 友岡 2016a:** 友岡真秀「ヴィンチェンツォ・デ・ロッシとポントルモ——フィレンツェ公爵コジモ1世のための「ヘラクレスの泉」初期構想——」『地中海学研究』第39号、2016年、20-39頁。
- 友岡 2016b:** 友岡真秀「ヴィンチェンツォ・デ・ロッシとバッチオ・バンディネリ——「ヘラクレスの泉」のための現存素描2点の再検討——」『Aspects of Problems in Western Art History』第14号、2016年、59-68頁。
- 友岡 2017:** 友岡真秀「コジモ1世統治下におけるカステッロのメディチ家別邸の庭園造営——《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》の導入をめぐる解釈——」『早稲田大学イタリア研究所研究紀要』第6号、2017年、45-78頁。



- 野口 2011: 野口昌夫編『ルネサンスの演出家 ヴァザーリ』白水社、2011 年。
- 深田 2017: 深田麻里亜『ヴィッラ・マダマのロジヤ装飾——メディチ家教皇の理想図像』中央公論美術出版、2017 年。
- 古川 2016: 古川萌「ジョルジョ・ヴァザーリと『画家の礼拝堂』——彫像のまなざしと死者の顕彰」『美術史』第 180 冊、2016 年、336-352 頁。
- 松本 1987: 松本典昭「モンテムルロの戦いについて」『文化学年報』第 36 号、1987 年、80-104 頁。
- 松本 1992: 松本典昭「パラッツォ・ヴェッキオの五百人広間の天井画を読む——プロパガンダとしてのマニエリスム」『日伊文化研究』第 30 号、1992 年、69-85 頁。
- 松本 1994: 松本典昭「16 世紀フィレンツェにおけるパトロン・画家・構図助言者——パラッツォ・ヴェッキオの [レオ 10 世の区画] の場合」『日伊文化研究』第 32 号、1994 年、26-35 頁。
- 松本 2006: 松本典昭『メディチ君主国と地中海』晃洋書房、2006 年。
- 松本 2015: 松本典昭『メディチ宮廷のプロパガンダ美術——パラッツォ・ヴェッキオを読み解く』ミネルヴァ書房、2015 年。
- 松本 2016: 松本典昭「マニエリスム期におけるメディチ家の宝物コレクション」『阪南論集 人文・自然科学編』第 51 巻第 2 号、2016 年、15-30 頁。
- 松本 2017: 松本典昭『メディチ家の至宝——驚異に工芸コレクション』勉誠出版、2017 年。
- 水之江 1991: 水之江有一『図像学事典』岩崎美術社、1991 年。
- 森 1984: 森雅彦「ドナテルロの失われた彫像について——「豊穡」に関する一考察」『美術史学』第 6 号、東北大学文学部美術学美術史研究室、1984 年、150-118 頁。
- 森 1999: 森雅彦「アカデミア・デル・ディセーニョの理念と現実——形成期の素描アカデミーをめぐる」『西洋美術研究』第 2 号、1999 年、8-25 頁。
- 森 2011: 森雅彦「ヴィンチェンツォ・ダンティあるいは彫刻家の生態誌：《ネプトゥヌスの噴水》から《虚偽に勝利する名誉》へ」『鹿島美術財団年報』第 29 号、2011 年、143-155 頁。
- 森田 1999: 森田義之『メディチ家』講談社、1999 年。
- 和田 2003: 和田咲子『フランチェスコ・デ・メディチの蒐集活動とフィレンツェ絵画における自然主義の発達：16 世紀コレクションニズムと世界システム』博士論文、千葉大学、2003 年。

## 展覧会カタログ

- Exh.cat. Firenze 1940: Giovanni Poggi, ed., *Mostra del Cinquecento Toscano in Palazzo Strozzi*, exh. cat. (Firenze, Palazzo Strozzi), Firenze, 1940.
- Exh.cat. Cambridge 1988: Roger B. Ward, ed., *Baccio Bandinelli, 1493-1560: Drawings from British Collections*, exh. cat. (Cambridge, Fitzwilliam Museum), Cambridge, 1988.
- Exh.cat. Osaka 1991: 『2300 年の歴史と美術——イタリア貨幣・メダル展』大阪市立美術館、1991 年。
- Exh.cat. Firenze 1992: Gabriele Morolli, Cristina Acidini Luchinat, eds., *L'architettura di Lorenzo il Magnifico*, exh. cat. (Firenze, Istituto degli Innocenti), Cinisello Balsamo, 1992.
- Exh.cat. Pietrasanta 1992: Roberto Paolo Ciardi, Severina Russo, et. al., eds., *Le vie del marmo: aspetti della produzione e della diffusione dei manufatti marmorei tra '400 e '500*, exh. cat. (Pietrasanta, Chiostro di S. Agostino), Firenze, 1992.
- Exh.cat. Tokyo 1993: 『天才芸術家たちの時代：ヴァチカンのルネサンス美術展』越川倫明、松浦弘明編、国立西洋美術館、1993 年。
- Exh.cat. Berlin 1995: Katrin Achilles-Syndram and Silke Klaas, eds., *Von allen Seiten schön: Bronzen der Renaissance und des Barock*, exh. cat. (Berlin, Altes Museum), Heidelberg, 1996.
- Exh.cat. Firenze 1997a: Alessandro Cecchi and Antonio Natali, eds., *L'officina della maniera: varietà e fierezza nell'arte fiorentina del cinquecento fra le due repubbliche 1494-1530*, exh. cat. (Firenze, Galleria degli Uffizi), Venezia, 1997.
- Exh.cat. Firenze 1997b: Maria Sframeli, Cristina Acidini Luchinat, Mina Gregori, Detlef Heikamp, and Antonio Paolucci, eds., *Magnificenza alla corte dei Medici: arte a Firenze alla fine del cinquecento: in onore del Kunsthistorisches Institut in Florenz (1897-1997)*, exh. cat. (Firenze, Museo degli argenti), Milano, 1997.
- Exh.cat. Trento 1999: Andrea Bacchi, Lia Camerlengo, and Manfred Leithe-Jasper, eds., *La bellissima maniera: Alessandro Vittoria e la scultura veneta del cinquecento*, exh. cat. (Trento, Museo Castello del Buonconsiglio), Trento, 1999.
- Exh.cat. Firenze 2001: Maria Grazia Vaccari, ed., *Pollaiuolo e Verrocchio?: due ritratti fiorentini del quattrocento*, exh. cat. (Firenze, Museo Nazionale di Bargello), Firenze, 2001.
- Exh.cat. Firenze 2002a: Gino Belloni, ed., *Vincenzo Borghini: filologia e invenzione nella Firenze di Cosimo I*, exh. cat. (Firenze, Biblioteca nazionale centrale di Firenze), Roma, 2002.
- Exh.cat. Firenze 2002b: Marco Chiarini, Alan P. Darr, and Larry J. Feinberg, eds., *The Medici, Michelangelo and the Art of Late Renaissance Florence*, exh. cat. (Florence, Palazzo Strozzi), New Haven, 2002.
- Exh.cat. Milano 2002: Marco Chiarini, Alan Phipps Darr, eds., *L'ombra del genio: Michelangelo e l'arte a Firenze, 1537-1631*, exh. cat. (Firenze, Palazzo Strozzi; Chicago, Art Institute of Chicago; Detroit, Detroit Institute of Arts), Milano, 2002.
- Exh.cat. Tokyo 2004: 『フィレンツェ——芸術都市の誕生』越川倫明編、東京都美術館、京都市美術館、2004 年。
- Exh.cat. Firenze 2006: Beatrice Paolozzi Strozzi and Dimitrios Zikos eds., *Giambologna: gli dei, gli eroi*, exh. Cat. (Firenze, Museo Nazionale del Bargello), Firenze, 2006.
- Exh.cat. Wien 2006: Wilfried Seipel, ed. *Giambologna: Triumph des Körpers*, exh. cat. (Wien, Kunsthistorisches Museum), Milano, 2006.
- Exh.cat. Firenze 2008: Charles Davis and Beatrice Paolozzi Strozzi, eds., *I grandi bronzi del Battistero: l'arte di Vincenzo Danti, discepolo di Michelangelo*, exh. cat. (Firenze, Museo Nazionale di Bargello), Firenze, 2008.
- Exh.cat. Roma 2008: Claudio Stinatti, Bernd Wolfgang Lindemann, and Roberto Contini, eds., *Sebastiano del Piombo 1485-1547*, exh. cat. (Roma, Museo Nazionale del Palazzo di Venezia; Berlin, Gemäldegalerie), Milan, 2008.

- Exh.cat. New York 2010:** Carmen C. Bambach, Janet Cox-Rearick, and George R. Goldner, eds., *The Drawings of Bronzino*, exh. cat. (New York, Metropolitan Museum of Art), New York, 2010.
- Exh.cat. Wien 2010:** Achim Gnann, ed., *Michelangelo. The Drawings of a Genius*, exh. cat. (Vienna, Albertina), Ostfildern, 2010.
- Exh.cat. Firenze 2011:** Beatrice Paolozzi Strozzi and Dimitrios Zikos, eds., *L'aqua, la pietra, il fuoco: Bartolomeo Ammannati scultore*, exh. cat. (Firenze, Museo Nazionale del Bargello), Firenze, 2011.
- Exh.cat. Firenze 2013:** Maria Monica Donato and Daniela Parenti, eds., *Dal giglio al David: arte civica a Firenze fra Medioevo e Rinascimento*, exh. cat. (Firenze, Galleria dell'Accademia), Firenze, 2013.
- Exh.cat. Boston 2014:** Michael Wayne Cole, ed., *Donatello, Michelangelo, Cellini: Sculptors' Drawings from Renaissance Italy*, exh.cat., (Boston, Isabella Stewart Gardner Museum), London, Holberton, 2014.
- Exh.cat. Firenze 2014a:** Detlef Heikamp ed., *Baccio Bandinelli: scultore e maestro (1493-1560)*, exh. cat. (Firenze, Museo Nazionale di Bargello), Firenze, 2014.
- Exh.cat. Firenze 2014b:** Carlo Falciani and Antonio Natali, eds., *Pontormo e Rosso Fiorentino : divergenti vie della "maniera"*, exh. cat. (Firenze, Palazzo Strozzi), Firenze, 2014.
- Exh.cat. Milano 2014:** Andrea Di Lorenzo and Aldo Galli, eds., *Antonio e Piero del Pollaiuolo: nell'argento e nell'oro, in pittura e nel bronzo*, exh. cat. (Milano, Museo Poldi Pezzoli), Milano, 2014.
- Exh.cat. Frankfurt Am Main 2016:** Bastian Eclercy and Hans Aurenhammer, eds., *Maniera: Pontormo, Bronzino and Medici Florence*, exh. cat. (Frankfurt am Main, Städel Museum), Munich, London, and New York, 2016.
- Exh.cat. London 2017:** Matthias Wivel, Paul Joannides, and Costanza Barbieri, eds., *Michelangelo & Sebastiano*, exh. cat. (London, National Gallery), London, 2017.
- Exh.cat. Firenze 2017:** Carlo Falciani and Antonio Natali, eds., *Il Cinquecento a Firenze: "Maniera moderna" e controriforma*, exh. cat. (Firenze, Palazzo Strozzi), Firenze, 2017.
- Exh. cat. New York 2017:** Carmen C. Bambach, ed., *Michelangelo: Divine Draftsman and Designer*, exh. cat. (New York, The Metropolitan Museum of Art), New Haven, 2017.

2017 年度 博士論文  
——資料・図版編——

コジモ 1 世時代のフィレンツェにおける噴水彫刻

東京藝術大学大学院美術研究科  
美術専攻芸術学研究領域  
No. 1311928

友 岡 真 秀

## 関連一次史料原文一覧

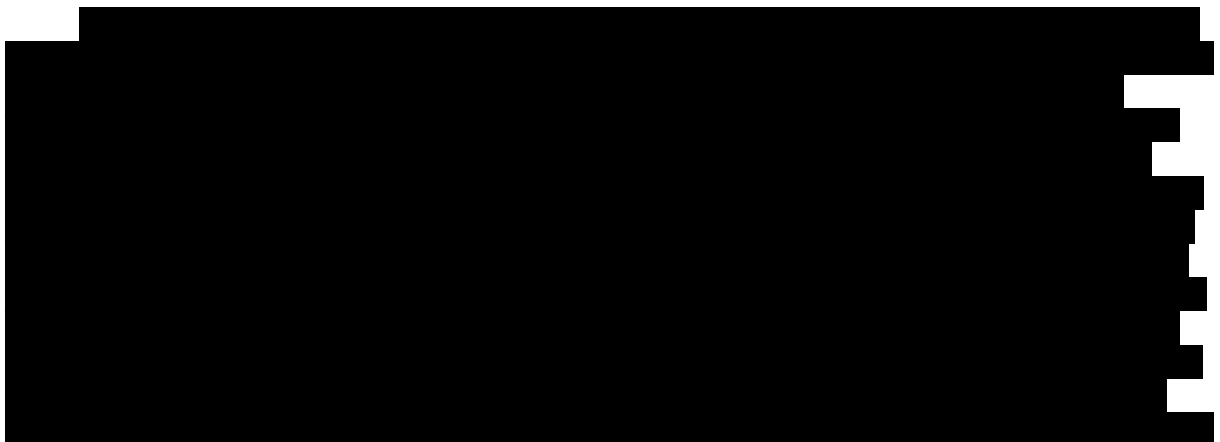
### Appendix I

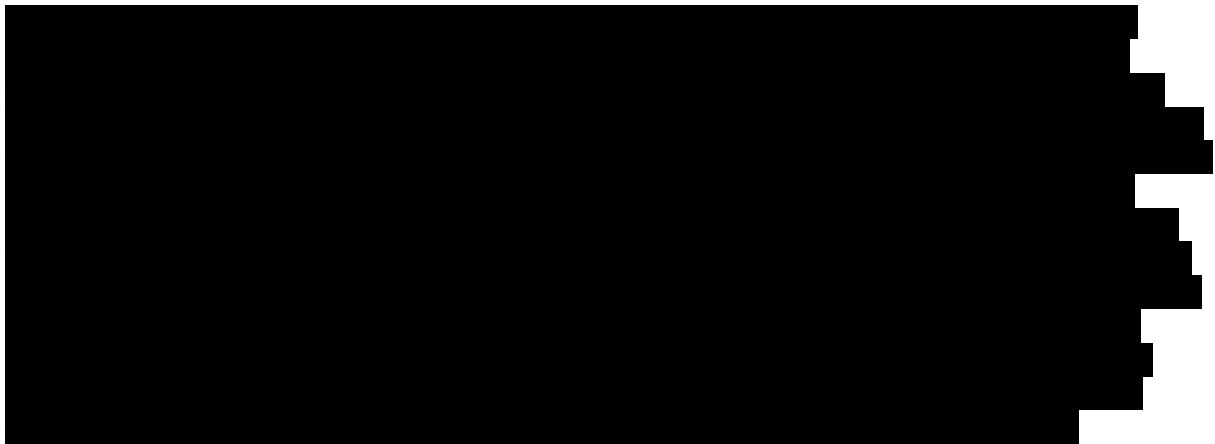
Cosimo Bartoli, *Ragionamenti accademici di Cosimo Bartoli: gentil' hvomo et accademico fiorentino, sopra alcuni lvoghi difficili di Dante*, Venezia, 1567, pp. 20-21.



### Appendix II

Agostino del Riccio, *Trattato di Agricoltura (miscellanea)*, Ms. Targioni Tozzetti, 56, Firenze, Biblioteca Nazionale Centrale di Firenze, vol. I, cc. 32 r-v





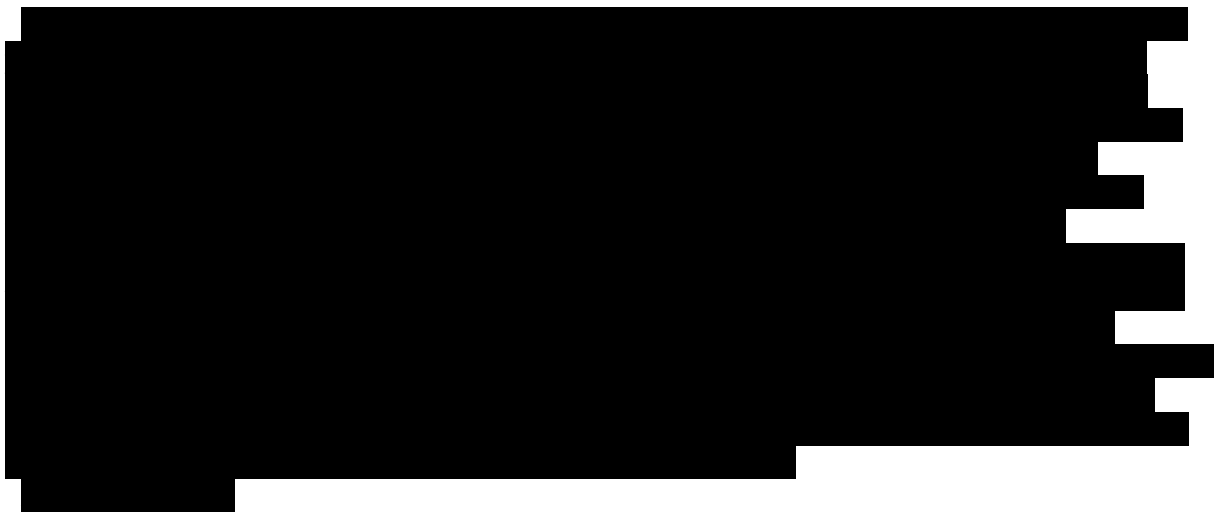
### **Appendix III**

1551 年 1 月 25 日

ルカ・マルティーニからバッチョ・バンディネッリ宛の書簡

BNCF, *Palatino Bandinelli* 6, fol. 162.

WALDMAN 2004, doc. 787.



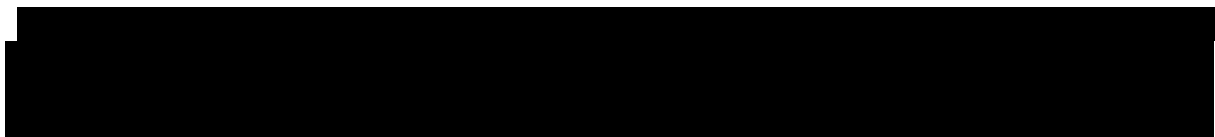
### **Appendix IV**

1551 年 2 月 10 日

ルカ・マルティーニからバッチョ・バンディネッリ宛の書簡

BNCF, *Palatino Bandinelli* 6, fol. 172.

WALDMAN 2004, doc. 792.





**Appendix V**

1551 年 2 月 11 日

バッチョ・バンディネッリからヤコポ・グイーディ宛の書簡

ASF, *Guidi 528/32, no. 1.*

WALDMAN 2004, doc. 793.



**Appendix VI**

1551 年 3 月 15 日

バッチョ・バンディネッリ(在フィレンツェ)からヤコポ・グイーディ宛の書簡

ASF, *Guidi 528/32, no. 4.*

WALDMAN 2004, doc. 800.

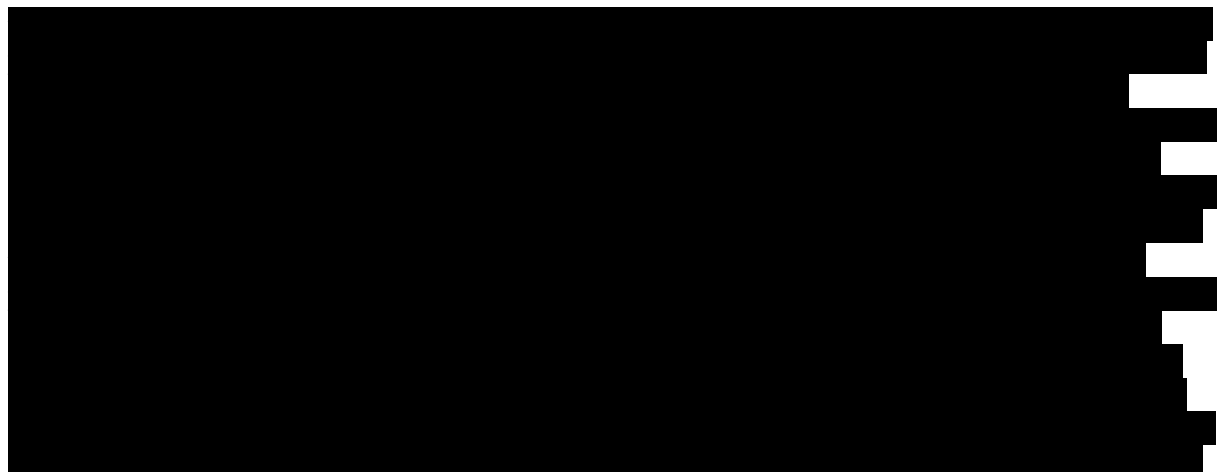


**Appendix VII**

1551 年 5 月 5 日

バルトロメオ・サーラ（在フィレンツェ）からエルコレ 2 世・デステ（在地不明）宛の書簡

Archivio di Stato di Modena, *Ambasciatori, Firenze*, fasc. 16, s.c. 18.





#### Appendix VIII

1551 年、おそらく 4-9 月

ボーボリ庭園の噴水のためにバッチョ・バンディネッリが発注した大理石ブロックと  
運搬費用の一覧表

ASF, *Miscellanea Medicea* 708, fols. 357-357v.

WALDMAN 2004, doc. 803.







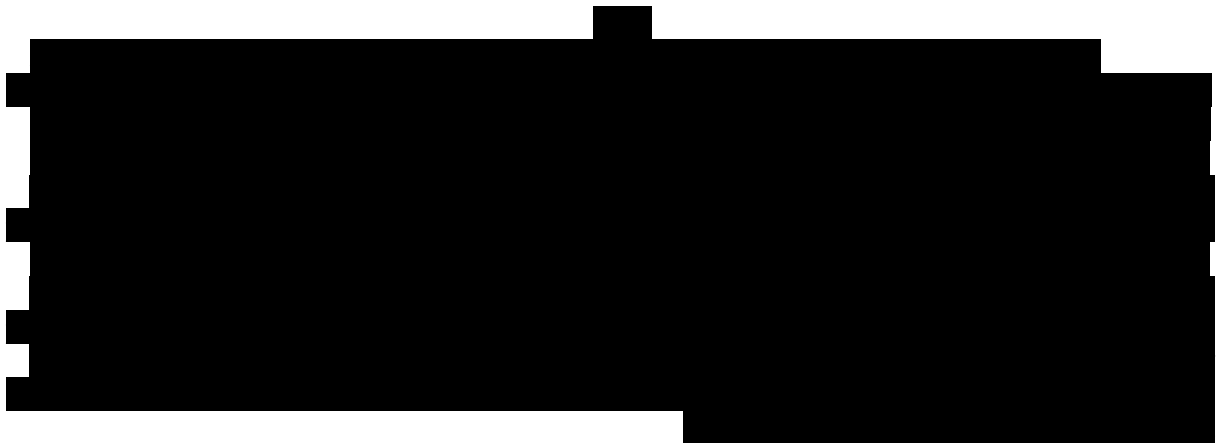
#### Appendix IX

1551 年 11 月 2 日-1554 年 1 月 18 日

ボーボリ庭園とその他の諸計画のために大聖堂造営局からバッチョ・バンディネッリに譲渡された大理石ブロックの一覧表

BNCF, *Palatino Bandinelli* 2/10, fol. 77.

WALDMAN 2004, doc. 837.



#### Appendix X

1551 年 11 月 12 日(?)

ボーボリ庭園の噴水に用いる大理石ブロックに関するバッチョ・バンディネッリの覚書

ASF, *Miscellanea Medicea* 93/3, no. 32-101.

WALDMAN 2004, doc. 842.





#### **Appendix XI**

1579 年 5 月 1 日

大公国秘書官タナイ・デ・メディチ（在フィレンツェ）から大公フランチェスコ 1 世（在地不明）宛の書簡

Arch. Med. Carteggio del Granduca Francesco filza 64.

GAYE 1839-1840, vol. 3, no. CCCLXXIII, pp. 423-433.



#### **Appendix XII**

Cosimo Bartoli, *L'architettura di Leon Battista Alberti: tradotta da lingua Fiorentina da Cosimo Bartoli Gentil'huomo e Accademico Fiorentino*, Cap. III., p. 365.



### **Appendix XIII**

**Domenico Mellini, *Descrizione Dell' Entrata Della serenissima Reina Giovanna d'Austria Et dell'Apparato, fatto in Firenze nella venuta, & per le felicissime nozze di S. Altezza Et del'Illustrissimo, & Exellentiss. Don Francesco De Medici, Prencipe di Fiorenza, & di Siena*, Firenze 1556, pp. 110-112.**



## 図版一覧

### 第 I 章

- fig. I.2.1 「フィレンツェ広域航空写真」
- fig. I.2.2 マルコ・ディ・バルトロメオ・ルスティチ《サント・セポルクロへの旅路の記録》(ルスティチ写本) c.2 recto (部分) 15 世紀中葉、フィレンツェ、大司教座神学校図書館
- fig. I.2.3 カステッロのメディチ家別邸 (現アカデミア・クルスカ)
- fig. I.2.4 ジュスト・ウーテンズ《カステッロのメディチ家別邸の景観》1599 年、キャンバスにテンペラ、フィレンツェ郷土史博物館 inv. 1890, no. 6316
- fig. I.2.5 《カステッロの大公の別邸への取水を示す水路図》プラハ、農林省古文書館 Fondo Lorena, Pietro Leopoldo, f. 57, c. 10
- fig. I.2.6 《カステッロの大公の別邸への取水を示す水路図》(fig. I.2.5 部分:庭園内の水路)
- fig. I.2.7 ジュスト・ウーテンズ《カステッロのメディチ家別邸の景観》(fig. I.2.4 部分)
- fig. I.2.8 トリーボロ、アンマンナーティ他《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》(レプリカにて庭園内に復元)大理石、ブロンズ、1538-1560 年、カステッロ、メディチ家別邸
- fig. I.2.9 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(レプリカにて庭園内に復元)大理石、ブロンズ、1538-1572 年、カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトラリア
- fig. I.2.10 ジョルジョ・ヴァザーリ《コジモ 1 世と宮廷芸術家》(部分:カステッロの模型を手にするトリーボロ) 1555-1565 年、板にテンペラ、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿、レオ 10 世の区画 (コジモ 1 世の間)
- fig. I.2.11 メディチ家別邸ラ・ペトラリア
- fig. I.2.12 ジュスト・ウーテンズ《メディチ家別邸ラ・ペトラリアの景観》1599 年、キャンバスにテンペラ、フィレンツェ郷土史博物館
- fig. I.2.13 ピエロ・デル・マッサイオ《フィオレンティナ》(部分:サン・ガッロ門) ヴァティカン、教皇庁図書館 Codice Vat. Lat., 5699
- fig. I.2.14 「サン・ガッロ門、リカーゾリの庭園、ルイスの庭園、センプリチ庭園の位置関係」
- ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》1584 年、フィレンツェ、ウフィツィ美術館版画素描室 inv. no. 21918 ST. SC.
- fig. I.2.15 ジュスト・ウーテンズ《ピッティ宮殿とボーポリ庭園、ベルヴェデーレ要塞を望む景観》1598-1599 年、油彩、カンヴァス、フィレンツェ郷土史博物館
- fig. I.2.16 ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》1584 年、フィレンツェ、ウフィツィ美術館版画素描室 inv. no. 21918 ST. SC.
- fig. I.2.17 ジョルジョ・ヴァザーリ、ジョヴァンニ・ストラダーノ《1529-1530 年の皇帝軍による包囲時のフィレンツェ、南からの眺望》(部分) 1561-1562 年、フレスコ画、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿内クレメンツ 7 世の間
- fig. I.2.18 「ジネヴラ水源とサン・レオナルド水源からボーポリ庭園への水路」ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》(fig. I.2.16 部分)
- fig. I.2.19 サン・レオナルド水源からの水路、1553 年以降建造
- fig. I.2.20 「ジネヴラ水源とサン・レオナルド水源からボーポリ庭園への水路」ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》(fig. I.2.16 部分)
- fig. I.2.21 ジョヴァンニ・ファンチネッリ《樽を空ける農夫》1553-1556 年、大理石、総高 181cm、フィレンツェ、ボーポリ庭園 inv. 232
- fig. I.2.22 「ジネヴラ水源とサン・レオナルド水源からボーポリ庭園、ヴェッキオ宮殿への水路」ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》(fig. I.2.16 部分)
- fig. I.2.23 ジョルジョ・ヴァザーリ、バルトロメオ・アンマンナーティ、フランチェスコ・デル・タッダ《海豚を抱くプットーの噴水》1555-1557 年、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿中庭
- fig. I.2.24 《海豚を抱くプットーの噴水》(fig. I.2.23 部分)
- fig. I.2.25 アンドレア・デル・ヴェロッキオ《海豚を抱くプットー》ブロンズ、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿

- fig. I.2.26 フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿五百人大広間南壁外観
- fig. I.2.27 バルトロメオ・アンマンナーティ《ユノの噴水》1555-1563 年（《ユノ》および 2 体の《孔雀》は模刻、オリジナルは別途展示。円環は後補）大理石、フィレンツェ、バルジェツコ国立美術館
- fig. I.2.28 「サント・スピリト聖堂とボーボリ庭園」ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》(fig. I.2.16 部分)
- fig. I.2.29 「サント・スピリト聖堂広場の噴水」ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》(fig. I.2.16 部分)

## 間南壁外観

- fig. I.2.30 「サンタ・クロチェ広場前の噴水」ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》(fig. I.2.16 部分)
- fig. I.2.31 バルトロメオ・アンマンナーティ他《ネプトゥヌスの噴水》1560-1575 年、大理石、ブロンズ、フィレンツェ、シニョリーア広場
- fig. I.2.32 「ジネヴラ水源とサン・レオナルド水源からボーボリ庭園への水路」ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》(fig. I.2.16 部分)

## 第II章

- fig. II.1.1 マルコ・ディ・バルトロメオ・ルスティチ《サント・セポルクロへの旅路の記録》(ルスティチ写本) c.2 recto (部分) 15 世紀中葉、フィレンツェ、大司教座神学校図書館
- fig. II.1.2 アントニオ・ダ・サンガッロ・イル・ジョーヴァネ《捨て子養育院の取水装置の仕組みを描いたスケッチ》1530 年代、フィレンツェ、ウフィツィ素描版画室 inv. 1488A recto
- fig. II.1.3 「サンタ・マリア・デル・カルミネ聖堂中庭の井戸」ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》(fig. I.2.16 部分)
- fig. II.1.4 「オニッサンティ広場の西側区画の公共井戸と私有の井戸」ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》(fig. I.2.16 部分)
- fig. II.1.5 「サンタ・フェリチタ聖堂前の井戸」ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》(fig. I.2.16 部分)
- fig. II.1.6 ジョルジョ・ヴァザーリ、ジョヴァンニ・ストラダーノ《メルカート・ヴェッキオのある広場の景観》(部分) 1561-1562 年、板にテンペラ、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿エレオノーラの区画（グアルドラダの間）
- fig. II.1.7 マルコ・ディ・バルトロメオ・ルスティチ《サント・セポルクロへの旅路の記録》(ルスティチ写本) c. 12 verso (部分) 15 世紀中葉、フィレンツェ、大司教座神学校図書館
- fig. II.1.8 マルコ・ディ・バルトロメオ・ルスティチ《サント・セポルクロへの旅路の記録》(ルスティチ写本) c. 14 verso (部分)、15 世紀中葉、フィレンツェ、大司教座神学校図書館
- fig. II.1.9 マルコ・ディ・バルトロメオ・ルスティチ《サント・セポルクロへの旅路の記録》(ルスティチ写本) c. 26 verso (部分) 15 世紀中葉、フィレンツェ、大司教座神学校図書館
- fig. II.1.10 フランチェスコ・ロッセリ《カテーナ（フィレンツェ）地図》(部分：オニッサンティの広場) 1470 年頃、版画、58.5 x 131.5 cm (6 葉にて構成)、ベルリン、新博物館銅版画室
- fig. II.2.1 《大噴水（フォンタナ・グランデ）》ヴィテルボ、大噴水広場
- fig. II.2.2 《大噴水（フォンタナ・グランデ）》(部分) ヴィテルボ、大噴水広場
- fig. II.2.3 《サンタ・マリア・イン・ポッジョ噴水》ヴィテルボ、サンタ・マリア・イン・ポッジョ聖堂広場
- fig. II.2.4 ピアノスカラーノ噴水》ヴィテルボ、ピアーノ噴水広場
- fig. II.2.5 《ピアノスカラーノ噴水》(部分) ヴィテルボ、ピアーノ噴水広場
- fig. II.2.6 《大噴水（フォンタナ・マッジョーレ）》ペルージャ、11 月 4 日広場
- fig. II.2.7 《大噴水（フォンタナ・マッジョーレ）》(部分) ペルージャ、11 月 4 日広場
- fig. II.2.8 アルノルフォ・ディ・カンビオ《渴きを

	訴える若者》1281 年、大理石、ペルー ジャ、ウンブリア国立美術館	fig. II.2.23	ヤコポ・ベッリーニ《洗礼者聖ヨハネ聖 堂の装飾》素描帖 R.F. 1484, 13 (fol. 16 recto) バリ、ルーヴル美術館素描版画室
fig. II.2.9	アルノルフォ・ディ・カンピオ《渴き を訴える女性》1281 年、大理石、ペルー ジャ、ウンブリア国立美術館	fig. II.3.1	モントルソリ《トリトーンの噴水》 1543-1547 年、大理石他、ジェノヴァ、 プリンチペ宮殿
fig. II.2.10	ヤコポ・デッラ・クエルチャ《フォン テ・ガイア》1408-1419 年 (ティート・ サッロッキによる複製、1858 年)、シ エナ、カンポ広場	fig. II.3.2	モントルソリ《トリトーンの噴水》(俯瞰 写真) 1543-1547 年、大理石、ジェノヴァ、 プリンチペ宮殿
fig. II.2.11	ヤコポ・デッラ・クエルチャ《フォン テ・ガイア》(部分) (ティート・サッ ロッキによる複製、1858 年)	fig. II.3.3	クリストーフオロ・デ・グラッシ《1481 年のジェノヴァの都市景観》(ファッソ ーロ部分：サン・ベネデット聖堂とサン ・トンマーズ聖堂を左右に構える 15 世紀のドーリア邸敷地) 1597 年、222 x 400 cm、カンヴァスにテンペラ、ジェノ ヴァ、ガラータ海洋博物館 inv. no. 3486
fig. II.2.12	作者不詳《ライオンの水場》フィレン ツェ、オルランディーニ宮殿	fig. II.3.4	作者不詳《スタビア、カステッラマーレ の海に面する古代ローマのヴィッラ》1 世紀、フレスコ壁画、ナポリ、国立考古 学博物館
fig. II.2.13	ジョヴァンニ・デッラ・ロッビア《聖 水盤》1499 年、テラコッタ、フィレン ツェ、サンタ・マリア・ノヴェッラ聖 堂聖具室	fig. II.3.5	ジェノヴァ、プリンチペ宮殿 (庭園南か らの眺望)
fig. II.2.14	マンテーニャ派《噴水の習作》フィレ ンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室	fig. II.3.6	ジェノヴァ、プリンチペ宮殿 (南ファサ ード西側)
fig. II.2.15	「噴水」木版画フランチェスコ・コロ ナ『ヒュプロネロトマキア・ポリフィ リ』(ヴェネツィア、1499 年) に収録	fig. II.3.7	ジェノヴァ、プリンチペ宮殿 (南ファサ ードから庭園を見下ろす眺望)
fig. II.2.16	ドナテッロ《魚を担ぐクピド》 1435-1440 年頃、ブロンズ、ロンドン、 ヴィクトリア・アンド・アルバート美 術館 inv. no. 475-1864	fig. II.3.8	タッデオ・カルローネ《ネプトゥヌスと してのアンドレア・ドーリアの大噴水》 1599 年、大理石、ジェノヴァ、プリンチ ペ宮殿南庭園
fig. II.2.17	アンドレア・デッラ・ロッビア《海豚 を担ぐクピド》テラコッタ、ニューヨ ーク、エドウィン C. ホイト・コレク ション	fig. II.3.9	アウレリオおよびフェリーチェ・カルヴ ィ《ジェノヴァの景観》(部分：モン トルソリによるストウッコのヘラクレス 像を配したドーリア邸の南庭園) 1584 年頃、フレスコ、ジェノヴァ、ドーリア・ スピノーラ宮殿上階ロッジャ
fig. II.2.18	アンドレア・ル・ヴェロッキオ《海豚 を抱えるクピド》ブロンズ、フィレン ツェ、ヴェッキオ宮殿	fig. II.3.10	モントルソリ《トリトーンと海の怪物》 (fig. II.3.2 部分：正面観)
fig. II.2.19	ドナテッロ《ユディットとホロフェル ネス》1457-1464 年、ブロンズ、フィ レンツェ、ヴェッキオ宮殿	fig. II.3.11	モントルソリ《トリトーンと海の怪物》 (fig. II.3.2 部分：左側面観)
fig. II.2.20	《メディチ家の噴水》大理石、カステッ ロ、メディチ家別邸グロッタ	fig. II.3.12	アントニオ・ロレンツィ他《動物たちの 噴水》カステッロ、メディチ家別邸、グ ロッタ正面ニッチ
fig. II.2.21	ピントウリッキオ《噴水のそばに居る スザンナと長老たち》1493-1495 年、 フレスコ、ヴァチカン、ボルジアの 間 (諸聖人の間)	fig. II.3.13	ブオンタレンティ、ピエロ・ディ・トン マーズ・マーティ他《グロッタ・グラン デ》(内観) 1583-1584 年、フィレンツェ、 ピッティ宮殿付属ボーポリ庭園
fig. II.2.22	アゴスティーノ・ディ・ドゥッチョ《噴 水の周りで踊りまわるプットーたち》 1455 年、ストウッコ、リミニ、マラテ スティアーノ聖堂		

- fig. II.3.14 モントルソリ《カンデラブロ噴水》  
1543-1547 年、大理石、ジェノヴァ、プ  
リンチベ宮殿
- fig. II.3.15 モントルソリ他《オリオンの噴水》  
1547-1553 年、メッシーナ、サンタ・  
マリア・ヌオーヴァ大聖堂広場
- fig. II.3.16 モントルソリ《カンデラブロ噴水》(fig.  
II.2.47: 水槽部分)
- fig. II.3.17 モントルソリ《カンデラブロ噴水》(fig.  
II.2.47: 水槽縁装飾部分)
- fig. II.3.18 モントルソリ《カンデラブロ噴水》(fig.  
II.2.47: トリトーン部分)
- fig. II.3.19 モントルソリ《カンデラブロ噴水》(fig.  
II.2.47: トリトーン部分)
- fig. II.3.20 モントルソリ《カンデラブロ噴水》(fig.  
II.2.47: プッターたち部分)
- fig. II.3.21 モントルソリ《カンデラブロ噴水》(fig.  
II.2.47: プッターたち部分)
- fig. II.3.22 トリーボロ、アンマンナーティ他《ヘ  
ラクレスとアンタイオスの大噴水》(レ  
プリカにて庭園内に復元) 大理石、ブ  
ロンズ、1538-1560 年、カステッロ、  
メディチ家別邸
- fig. II.3.23 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷  
宮の噴水》(レプリカにて庭園内に復元)  
大理石、ブロンズ、1538-1572 年、カ  
ステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトラ  
イア
- fig. II.3.24 モントルソリ他《オリオンの噴水》(fig.  
II.3.15)
- fig. II.3.25 モントルソリ他《オリオンの噴水》(俯  
瞰写真) 1547-1553 年、メッシーナ、  
サンタ・マリア・ヌオーヴァ大聖堂広  
場
- fig. II.3.26 「オリオンの噴水の平面図」 Hittorff-  
Zanth 1985 より転載
- fig. II.3.27 「アキスとポリュフェモス」モントルソ  
リ《オリオンの噴水》(fig. II.3.15: 水  
槽凸部浮彫装飾部分)
- fig. II.3.28 「イシスとオシリス」モントルソリ《オ  
リオンの噴水》(fig. II.3.15: 水槽凸部  
浮彫装飾部分)
- fig. II.3.29 「ナルキッソス」モントルソリ《オリオ  
ンの噴水》(fig. II.3.15: 水槽凸部浮彫  
装飾部分)
- fig. II.3.30 「ディアナとアクタイオン」モントルソ  
リ《オリオンの噴水》(fig. II.3.15: 水槽凸部浮彫装  
飾部分)
- fig. II.3.31 「ペガソス」モントルソリ《オリオンの  
噴水》(fig. II.3.15: 水槽凸部浮彫装飾  
部分)
- fig. II.3.32 「エウロペの略奪」モントルソリ《オリ  
オンの噴水》(fig. II.3.15: 水槽凸部浮  
彫装飾部分)
- fig. II.3.33 「ダイダロスとイカロス」モントルソリ  
《オリオンの噴水》(fig. II.3.15: 水槽  
凸部浮彫装飾部分)
- fig. II.3.34 「プリクソスとヘーレー」モントルソリ  
《オリオンの噴水》(fig. II.3.15: 水槽  
凸部浮彫装飾部分)
- fig. II.3.35 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig.  
II.3.15 部分: 《テヴェレ河》と水槽凹部  
装飾、小水盤)
- fig. II.3.36 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig.  
II.3.15: 《エプロ河》と水槽凹部装飾、  
小水盤)
- fig. II.3.37 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig.  
II.3.15 部分: 《カマロ河》と水槽凹部装  
飾、小水盤)
- fig. II.3.38 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig.  
II.3.15 部分: 《ナイル河》と水槽凹部装  
飾、小水盤)
- fig. II.3.39 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig.  
II.3.15 部分: 《テヴェレ河》の下部浮彫  
装飾〔左から《盲目のクピド》《海豚に  
股がるプッター》《双子を育てる雌狼》  
《海豚に股がるプッター》《アリオン》〕)
- fig. II.3.40 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig.  
II.3.15 部分: 《エプロ河》の下部浮彫装  
飾〔左から《ネプトゥヌス》《トロフィー  
を掲げるプッター》《エプロ河、ネプ  
トゥヌス、コルヌコピアを持つ女性像、  
カール 5 世の紋章(「カール 5 世の勝  
利」)》《トロフィーを掲げるプッター》  
《ブルートーン》〕)
- fig. II.3.41 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig.  
II.3.15 部分: 《カマロ河》の下部浮彫装  
飾〔左から《スキュラ》《海豚を伴うプ  
ッター》《女性擬人像メッシーナとカマ  
ロ河》《海豚を伴うプッター》《カリュ  
ブデイス》〕)

- fig. II.3.42 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig. II.3.15 部分:《ナイル河》の下部浮彫装飾〔左から《ガラテア》《プットー》《ナイル河》《プットー》《ウェヌスと松明持ち》〕)
- fig. II.3.43 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig. II.3.15 部分:《海馬》)
- fig. II.3.44 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig. II.3.15 部分:《海のグリフィン》)
- fig. II.3.45 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig. II.3.15 部分:上部構造)
- fig. II.3.46 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig. II.3.15 部分:《トリトーン》)
- fig. II.3.47 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig. II.3.15:上部構造《ネレイス》部分)
- fig. II.3.48 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig. II.3.15:上部構造《ネレイス》部分)
- fig. II.3.49 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig. II.3.15:上部構造《プットーたち》部分)
- fig. II.3.50 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig. II.3.15:上部構造《プットーたち》部分)
- fig. II.3.51 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig. II.3.15:上部構造部分)
- fig. II.3.52 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig. II.3.15:《オリオン》〔正面観〕)
- fig. II.3.53 モントルソリ《オリオンの噴水》(fig. II.3.15:《オリオン》〔背面観〕)
- fig. II.3.54 メッシーナ、ドガーナ門正面写真(20世紀の移設以前における《ネプトゥヌスの噴水》の設置状況)
- fig. II.3.55 モントルソリ他《ネプトゥヌスの噴水》(正面観:レプリカを含む) 1551以降-1557年、メッシーナ、イタリア統一広場
- fig. II.3.56 モントルソリ他《ネプトゥヌスの噴水》(背面観:レプリカを含む) 1551以降-1557年、メッシーナ、イタリア統一広場
- fig. II.3.57 モントルソリ他《ネプトゥヌスの噴水》(fig. II.3.55:中央3体部分)
- fig. II.3.58 モントルソリ《ネプトゥヌス》大理石、メッシーナ州立美術館
- fig. II.3.59 作者不詳《メッシーナのネプトゥヌスの噴水》年代不詳、ペン、インク、フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室 inv. 943E
- fig. II.3.60 モントルソリ《スキュラ》大理石、メッシーナ州立美術館
- fig. II.3.61 モントルソリ《カリュプデイス》大理石 (fig. II.3.55 部分)
- fig. II.3.62 モントルソリ《ネプトゥヌスの噴水》(fig. II.3.55:左手前角部分)
- fig. II.3.63 モントルソリ《ネプトゥヌスの噴水》(fig. II.3.55:水槽縁装飾と小水盤部分)
- fig. II.3.64 モントルソリ《ネプトゥヌスの噴水》(fig. II.3.55:ネプトゥヌスの台座部分)
- fig. II.3.65 モントルソリ《ネプトゥヌスの噴水》(fig. II.3.55:ネプトゥヌスの台座部分)
- fig. II.3.66 モントルソリ《ネプトゥヌスの噴水》(fig. II.3.56:ネプトゥヌスの台座部分)

### 第三章

- fig. III.1.1 ジュスト・ウーテンス《カステッロのメディチ家別邸の景観》1599年、キャンバスにテンペラ、フィレンツェ郷土史博物館 inv. 1890, no. 6316
- fig. III.1.2 ジュスト・ウーテンス《カステッロのメディチ家別邸の景観》(fig. III.1.1 部分)
- fig. III.1.3 トリーボロ、アンマンナーティ他《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》(レプリカにて庭園内に復元) 大理石、ブロンズ、1538-1560年カステッロ、メディチ家別邸
- fig. III.1.4 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(レプリカにて庭園内に復元) 大理石、ブロンズ、1538-1572年、カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトラリア
- fig. III.1.5 トリーボロ《フィエーゾレ》海綿石、1538-1550年、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館



fig. III.1.6	アンマンナーティ 《アペニン山脈》ブロンズ、1563-1565 年、カステッロ、メディチ家別邸	宮の噴水》(fig. III.1.4 部分：下部軸足装飾)
fig. III.1.7	カステッロ、メディチ家別邸（高台からの眺望）	fig. III.1.23 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(fig. III.1.4 部分：下部軸足装飾)
fig. III.1.8	モントルソリ 《トリトーンの噴水》1543-1547 年、大理石、ジェノヴァ、プリンチペ宮殿	fig. III.1.24 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(fig. III.1.4 部分：下部軸足装飾)
fig. III.1.9	ジュスト・ウーテンス 《カステッロのメディチ家別邸の景観》(fig. III.1.1 部分)	fig. III.1.25 ジョルジョ・ヴァザーリ 《サトゥルヌスに捧げる大地の果実》(FESTINA LENTE を表わす「帆と海亀」部分) 1555-1557 年、フレスコ、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿、四大元素の間
fig. III.1.10	トリーボロ、ヴァザーリ、アントニオ・ロレンツィ他、動物のグロッタ内観(パノラマ図)、多孔質石灰石、ブロンズ、大理石、カステッロ、メディチ家別邸	fig. III.1.26 バッティスタ・ボッティチーニ「コジモ 1 世の意匠」1555-1565 年、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿、五百人大広間天井
fig. III.1.11	トリーボロ 《動物のグロッタのための水盤》大理石、カステッロ、メディチ家別邸	fig. III.1.27 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(fig. III.1.4 部分：大水盤)
fig. III.1.12	トリーボロ 《動物のグロッタのための水盤》大理石、カステッロ、メディチ家別邸	fig. III.1.28 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(fig. III.1.4 部分：大水盤縁装飾)
fig. III.1.13	トリーボロ 《パンを配したグロッタの壁面構想》ロンドン、サー・ジョン・ソーンズ美術館	fig. III.1.29 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(fig. III.1.4 部分：上部軸足装飾)
fig. III.1.14	トリーボロ 《ネプトゥヌスを配したグロッタの壁面構想》ベルリン、国立版画素描館	fig. III.1.30 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(fig. III.1.4 部分：上部軸足装飾)
fig. III.1.15	ブロンズイーノ 《オルフェウスとしてのコジモ 1 世》1537-1539 年頃、板に油彩、93.7 x 76.4 cm、フィラデルフィア美術館 inv. no. 1950-86-1	fig. III.1.31 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(fig. III.1.4 部分：上部軸足装飾)
fig. III.1.16	ミケランジェロ 《夜》大理石、フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室	fig. III.1.32 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(fig. III.1.4 部分：上部軸足装飾)
fig. III.1.17	トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(fig. III.1.4)	fig. III.1.33 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(fig. III.1.4 部分：上部軸足装飾)
fig. III.1.18	「ガイヨン城の噴水」Androuet Du Cerceau 1576, vue 214, p. 261	fig. III.1.34 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(fig. III.1.4 部分：上部軸足装飾)
fig. III.1.19	「ガイヨン城の噴水」(fig. III.1.18 部分：下部軸足装飾)	fig. III.1.35 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(fig. III.1.4 部分：上部小水盤)
fig. III.1.20	トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(fig. III.1.4 部分：下部軸足装飾)	fig. III.1.36 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(fig. III.1.4 部分：上部小水盤)
fig. III.1.21	トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(fig. III.1.4 部分：下部軸足装飾)	fig. III.1.37 モントルソリに帰属《カステッロのメ
fig. III.1.22	トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷	

- ディチ家別邸のためにトリーボロが構想した迷宮の噴水の初期構想》ジョヴァンニ・ヴィンチェンツォ・カサーリの素描帖に収録マドリード、国立図書館 Taccuino, B 16-49, fol. 38 recto
- fig. III.1.38 ジャンボローニャ《フィオレンツァ》(正面観) 1560-1562 年、ブロンズ、125 cm、カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトラリア
- fig. III.1.39 ジャンボローニャ《フィオレンツァ》(背面観) 1560-1562 年、ブロンズ、125 cm、カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトラリア
- fig. III.1.40 ジャンボローニャ《フィオレンツァ》(fig. III.1.38 部分：台座装飾)
- fig. III.1.41 マルカントニオ・ライモンディ《ウエヌス・アナデュオメネ》1510-1527 年、大英博物館版画素描室
- fig. III.1.42 バルダッサレ・ペルツィ《ウエヌス・アナデュオメネ》1506-1510 年、フレスコ、ローマ、ファルネジーナ荘
- fig. III.1.43 ティツィアーノ《ウエヌス・アナデュオメネ》1520 年頃、板に油彩、75.8 x 57.6 cm、スコットランド、国立絵画館 inv. NG 2751
- fig. III.1.44 カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトラリア俯瞰写真
- fig. III.1.45 「ボーボリ庭園平面図」1709 年、フィレンツェ、国立中央図書館 Nuove acquisizioni, 7, 159.
- fig. III.1.46 ジュスト・ウーテンズ《カステッロのメディチ家別邸の景観》(fig. III.1.1 部分：「迷宮の森」)
- fig. III.1.47 ヴァザーリ《ポルトフェッライオの建都》1557 年頃、フレスコ、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿コジモ 1 世の間
- fig. III.1.48 ヴァザーリ《ポルトフェッライオの建都》(fig. III.1.47 部分：海馬に股がるネプトゥヌスと「安全」)
- fig. III.1.49 トリーボロ、アンマンナーティ他《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》(レプリカにて庭園内に復元) 大理石、ブロンズ、1538-1560 年カステッロ、メディチ家別邸 (fig. III.1.3)
- fig. III.1.50 ドメニコ・デ・ポーロ 《コジモ 1 世の肖像メダル》(裏面) ロンドン、サザビーズ (1974 年 5 月 27 日)
- fig. III.1.51 ドメニコ・デ・ポーロ 《アレッサンドロ・デ・メディチの肖像メダル》(裏面) ロンドン、大英博物館 inv. no. George III Tuscan M 196
- fig. III.1.52 ポントルモ《槍を持つ兵士の肖像》(部分) 1529-1532 年頃、板 (カンヴァスに移行) に油彩、92 x 72 cm、カリフォルニア、ポール・ゲッティ美術館
- fig. III.1.53 ドメニコ・デ・ポーロ 《コジモ 1 世のためのヘラクレスの印章》(部分) フィレンツェ、貴金属美術館 inv. Bargello (II) n. 30 (1917)
- fig. III.1.54 アントニオ・ポッライウオーロ《ヘラクレスとヒュドラ》1475 年頃、板にテンペラ、フィレンツェ、ウフィツィ美術館 inv. no. 1890nn.8268
- fig. III.1.55 アントニオ・ポッライウオーロ《ヘラクレスとアンタイオス》1475 年頃、板にテンペラ、フィレンツェ、ウフィツィ美術館 inv. no. 1890nn.1478
- fig. III.1.56 アントニオ・ポッライウオーロ《ヘラクレスとアンタイオス》ブロンズ、1475 年、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館
- fig. III.1.57 ミケランジェロ・ブオナローティ《闘う 2 人の裸体人物の習作》1505 年頃、ペンと褐色インク、ワシントン、ナショナル・ギャラリー inv. no. 1991.150.3
- fig. III.1.58 ミケランジェロ・ブオナローティ《闘う 2 人の人物の習作》(部分) 1524-1525 年、赤チョーク、オックスフォードアシュモレアン美術館 inv. no. 1844.63
- fig. III.1.59 ミケランジェロ・ブオナローティ《ヘラクレスとアンタイオスの習作》(部分) 1524-1525 年、赤チョーク、ロンドン、大英博物館 inv. no. 1859,0625.557
- fig. III.1.60 バッチョ・バンディネリ《ヘラクレスとカクス》大理石、1534 年、フィレンツェ、シニョリーア広場
- fig. III.1.61 バルトロメオ・アンマンナーティ《ヘラクレスとアンタイオス》ブロンズ、1559-1560 年、カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトラリア
- fig. III.1.62 バルトロメオ・アンマンナーティ《マリオ・ナーリ墓碑》(部分) 1540-42 年、大理石、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館
- fig. III.1.63 トリーボロ《河神》1536/38 年頃、テラコッタ、フィレンツェ、バルジェッロ

国立美術館

- fig. III.1.64 アンマンナーティ《メディチの精神》1556 年頃、蝋、個人蔵
- fig. III.1.65 トリーボロ《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》(部分) 1538 年以降、カステッロ、メディチ家別邸
- fig. III.2.1 ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》(部分:ピッティ宮殿とボーポリ庭園) 1584 年、フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室 inv. no. 21918 ST. SC.
- fig. III.2.2 ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》(fig. III.2.2 部分:ピッティ宮殿とボーポリ庭園)
- fig. III.2.3 ジャンボローニャ《オケアヌスの噴水》1567-1574 年、大理石、花崗岩、フィレンツェ、ピッティ宮殿付属ボーポリ庭園
- fig. III.2.4 フィレンツェ、ピッティ宮殿付属ボーポリ庭園イゾロット俯瞰写真
- fig. III.2.5 ジョルジョ・ヴァザーリ、ジョヴァンニ・ストラダーノ《シエナ戦争の勝利》(部分:サン・ピエル・ガットリーニ門とピッティ宮殿裏の眺望) 1563-1565 年、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿五百人大広間(天井画)
- fig. III.2.6 ジュスト・ウーテンス《ピッティ宮殿、ボーポリ庭園、ベルヴェデーレ要塞》1599 年、フィレンツェ、郷土史博物館
- fig. III.2.7 ジュスト・ウーテンス《ピッティ宮殿、ボーポリ庭園、ベルヴェデーレ要塞》(fig. III.2.6 部分)
- fig. III.2.8 ジュスト・ウーテンス《ピッティ宮殿、ボーポリ庭園、ベルヴェデーレ要塞》(fig. III.2.6 部分)
- fig. III.2.9 ピッティ宮殿付属ボーポリ庭園「アンフィテアトロ」全貌写真
- fig. III.2.10 ジュスト・ウーテンス《ピッティ宮殿、ボーポリ庭園、ベルヴェデーレ要塞》(fig. III.2.6 部分)
- fig. III.2.11 ストルド・ロレンツィ《ネプトゥヌス》1571 年(噴水としての完成は 1574 年)ブロンズ、総高 180cm、フィレンツェ、ボーポリ庭園
- fig. III.2.12 バッチョ・バンディネッリ、ジョヴァンニ・ファンチェッリ他《マダマの小洞窟》フィレンツェ、ボーポリ庭園
- fig. III.2.13 バッチョ・バンディネッリ、ジョヴァンニ・ファンチェッリ他《マダマの小洞窟》(fig. III.2.12 部分)
- fig. III.2.14 ジョヴァンニ・アントニオ・ドーシオに帰属《ベルヴェデーレの中庭の景観(南側から望む)》1558-1561 年、ペン、褐色インク、紙、330 x 220 mm、フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室
- fig. III.2.15 「ベルヴェデーレの中庭(第 1 テラス)の大噴水」俯瞰写真
- fig. III.2.16 ジョヴァンニ・バッティスタ・ファルダ《ベルヴェデーレの中庭(第 1 テラス)の噴水》1665-1691 年、エッチング、210 x 286 mm (Giovanni Giacomo de' Rossi, ed., *Le fontane di Roma nelle piazze e luoghi pubblici della città con li loro prospetti come sono al presente*, Roma, 1691, vol. 1, pl. 4) ロンドン、大英博物館 inv. no. 1928,0713.2
- fig. III.2.17 バッチョ・バンディネッリ《ボーポリ庭園の噴水に用いる大理石ブロックに関する覚書》1551 年 11 月 12 日 (?) Archivio di Stato di Firenze, Miscellanea Medicea 93/3, no. 32-101 ※本論文別冊 Appendix IX を参照。赤字のアラビア数字は筆者による。
- fig. III.2.18 大理石発注リスト 1 より石材 A
- fig. III.2.19 大理石発注リスト 1 より石材 B
- fig. III.2.20 大理石発注リスト 1 より石材 C
- fig. III.2.21 大理石発注リスト 1 より石材 D-a
- fig. III.2.22 大理石発注リスト 1 より石材 D-b
- fig. III.2.23 大理石発注リスト 1 より石材 E
- fig. III.2.24 大理石発注リスト 1 より石材 F
- fig. III.2.25 大理石発注リスト 1 より石材 G
- fig. III.2.26 大理石発注リスト 1 より石材 H
- fig. III.2.27 大理石発注リスト 1 より石材 I-a
- fig. III.2.28 大理石発注リスト 1 より石材 I-b
- fig. III.2.29 大理石発注リスト 2 より石材①
- fig. III.2.30 大理石発注リスト 2 より石材②
- fig. III.2.31 大理石発注リスト 2 より石材③
- fig. III.2.32 大理石発注リスト 2 より石材④

fig. III.2.33	大理石発注リスト 2 より石材⑤	(見取り図)
fig. III.2.34	大理石発注リスト 2 より石材⑥	fig. III.2.46 石材①③④⑥D-a で構成する外枠構造 (立面図)
fig. III.2.35	大理石発注リスト 2 より石材⑦	fig. III.2.47 石材①③④⑥D-a で構成する外枠構造 (平面図)
fig. III.2.36	ファン・フェーンによる再構成案 (噴水全体)	fig. III.2.48 石材 D-b で構成する内水槽 (見取り図)
fig. III.2.37	ファン・フェーンによる再構成案 (噴水の中央構造)	fig. III.2.49 石材 D-b で構成する内水槽 (立面図)
fig. III.2.38	ジャンボローニャ《オケアヌスの噴水のための構想》1571-1575 年頃、ペン、褐色インク、黒チョーク、尖筆、205 x 330 mm、オックスフォード、アシュモレアン美術館 inv. no. WA1954.29	fig. III.2.50 石材 D-b で構成する内水槽 (平面図)
fig. III.2.39	ボーボリ庭園のためのバンディネッリの噴水再構成案 1 (見取り図)	fig. III.2.51 石材 AC で構成する下部構造 (見取り図)
fig. III.2.40	ボーボリ庭園のためのバンディネッリの噴水再構成案 1 (立面図)	fig. III.2.52 石材 AC で構成する下部構造 (立面図)
fig. III.2.41	ボーボリ庭園のためのバンディネッリの噴水再構成案 1 (平面図)	fig. III.2.53 石材 AC で構成する下部構造 (平面図)
fig. III.2.42	ボーボリ庭園のためのバンディネッリの噴水再構成案 2 (見取り図)	fig. III.2.54 石材 EGH で構成する下部構造 (見取り図)
fig. III.2.43	ボーボリ庭園のためのバンディネッリの噴水再構成案 2 (立面図)	fig. III.2.55 石材 EGH で構成する下部構造 (立面図)
fig. III.2.44	ボーボリ庭園のためのバンディネッリの噴水再構成案 2 (平面図)	fig. III.2.56 石材 EGH で構成する下部構造 (平面図)
fig. III.2.45	石材①③④⑥D-a で構成する外枠構造	fig. III.2.57 「南部の取水経路」ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》(fig. I.2.16 部分)
		fig. III.2.58 ドメニコ・ポッジーニ《エレオノーラ・デ・トレドのメダル》(表・裏) 1555 年、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館

#### 第IV章

fig. IV.1.1	バルトロメオ・アンマンナーティ《ユノの噴水》(展示風景) フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館	fig. IV.1.5 アンマンナーティ《孔雀》大理石、66 x 115 x 30 cm、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 inv. Depositi, n. 150
fig. IV.1.2	バルトロメオ・アンマンナーティ《ユノの噴水》(《ユノ》および 2 体の《孔雀》は模刻、オリジナルは別途展示。円環は後補) 1555-1563 年、大理石、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館	fig. IV.1.6 アンマンナーティ《ケレース》大理石、230 cm、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 inv. Depositi, n. 132
fig. IV.1.3	アンマンナーティ《ユノ》大理石、180 cm、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 inv. Depositi, n. 135	fig. IV.1.7 アンマンナーティ《賢明》大理石、232 cm、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 inv. Depositi, n. 133
fig. IV.1.4	アンマンナーティ《孔雀》大理石、63 x 83 x 27 cm、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 inv. Depositi, n. 149	fig. IV.1.8 アンマンナーティ《フィレンツェ》大理石、240 cm、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 inv. Depositi, n. 140
		fig. IV.1.9 アンマンナーティ《アルノ河》大理石、230 cm、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 inv. Depositi, n. 141

fig. IV.1.10	アンマンナーティ 《パルナッソスの泉》大理石、213 cm、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 inv. Depositi, n. 139	聖具室
fig. IV.1.11	ジュスト・ウーテンス《ピッティ宮殿とボーボリ庭園、ベルヴェデーレ要塞を望む景観》(テラスの《ユノの噴水》と草地の《オケアヌスの噴水》部分) 1598-1599 年、油彩、カンヴァス、フィレンツェ、郷土史博物館	fig. IV.1.29 アンマンナーティ 《ユノの噴水》(fig. III.1.2 部分)
fig. IV.1.12	ジョヴァンニ・グエッラ《アンマンナーティによる噴水》1598 年頃、ウィーン、アルベルティーナ美術館	fig. IV.1.30 アンマンナーティ 《アルノ河》(fig. III.1.9)
fig. IV.1.13	パオロ・ジョーヴィオによる「メディチ家のインプレーザ」(Giovio 1556, p. 31)	fig. IV.1.31 ヴァザーリ 《アルベルティ『建築論』(1550 年版)のタイトルページ》フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室
fig. IV.1.14	マルコ・デッツィ・バルデスキによる《ユノの噴水》の再構成案 (Dezzi Bardeschi 1969)	fig. IV.1.32 アンマンナーティ 《アルノ河》(側面観: fig. III.1.9)
fig. IV.1.15	デトレフ・ハイkampによる《ユノの噴水》の再構成案 (Heikamp 1977)	fig. IV.1.33 アンマンナーティ《賢明》(fig. III.1.7)
fig. IV.1.16	アンマンナーティ《ユノ》(fig. III.1.3)	fig. IV.1.34 アンマンナーティ 《賢明》(側面観: fig. III.1.7)
fig. IV.1.17	アンマンナーティ《ユノ》(左側面観: fig. III.1.3)	fig. IV.1.35 「ティトゥス帝の銀貨意匠」ジャン・グロリエによるエラスムス『格言集』(ヴェネツィア、1508 年)への書き込み
fig. IV.1.18	「大気」の擬人像 (Ripa 1611, p. 218)	fig. IV.1.36 ジョルジョ・ヴァザーリ《サトゥルヌスに捧げる大地の果実》(部分: FESTINA LENTE を表わす「帆と海亀」) 1555-1557 年、フレスコ、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿、四大元素の間
fig. IV.1.19	アンマンナーティ 《ユノ》(タンバリン: fig. III.1.3 部分)	fig. IV.1.37 アンマンナーティ《フィレンツェ》(fig. III.1.8)
fig. IV.1.20	アンマンナーティ 《ユノ》(左手: fig. III.1.3 部分)	fig. IV.1.38 アンマンナーティ《フィレンツェ》(右腕部分: fig. III.1.8)
fig. IV.1.21	アンマンナーティ 《ケレース》(fig. III.1.6)	fig. IV.1.39 アンマンナーティ《フィレンツェ》(兜部分: fig. III.1.8)
fig. IV.1.22	アンマンナーティ 《ケレース》(左側面観: fig. III.1.6)	fig. IV.1.40 アンマンナーティ《フィレンツェ》(金羊毛皮騎士団の騎士勲章 部分: fig. III.1.8)
fig. IV.1.23	「大地」の擬人像 (Ripa 1611, p. 215)	fig. IV.1.41 アンマンナーティ 《パルナッソスの泉》(fig. III.1.10)
fig. IV.1.24	アンマンナーティ 《パルナッソスの泉》(fig. III.1.10)	fig. IV.1.42 アンマンナーティ 《パルナッソスの泉》(胸部: fig. III.1.10)
fig. IV.1.25	アンマンナーティ 《パルナッソスの泉》(左側面観: fig. III.1.10)	fig. IV.1.43 アンドレア・マンテーニャ《パルナッソス》1497 年、キャンバスにテンペラ、54.6 x 70.7 cm、パリ、ルーヴル美術館
fig. IV.1.26	「曙」の擬人像 (Ripa 1611, p. 109)	fig. IV.1.44 ラファエッロ 《パルナッソス》1510-1511 年、フレスコ、幅 670 cm、ヴァティカン、署名の間
fig. IV.1.27	ミケランジェロ《曙》フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室	fig. IV.1.45 フランチェスコ・カミッリアーニ《パルナッソス》1566 年、大理石、パレル
fig. IV.1.28	ミケランジェロ《黄昏と曙の擬人像を配するヌムール公ロレンツォ墓碑》フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新	

	モ、プレトリア広場		大広間
fig. IV.1.46	ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》「ルイス・デ・トレドの庭園とリカーゾリの庭園」(fig. I.2.16 部分)	fig. IV.2.5	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとエリュメントスの猪》大理石、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿大広間
fig. IV.1.47	フランチェスコ・カミッリアーニ他《プレトリアの泉》主要彫刻群のみ 1574 年移設、大理石、パレルモ、プレトリア広場	fig. IV.2.6	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとディオメデス王》大理石、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿大広間
fig. IV.1.48	ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》「ルイス・デ・トレドの庭園」(fig. I.2.16 部分)	fig. IV.2.7	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《天球を支えるヘラクレス》大理石、フィレンツェ、ポッジョ・インペリアーレ
fig. IV.1.49	フランチェスコ・カミッリアーニ《アルノ河》1555 年、大理石、パレルモ、プレトリア広場	fig. IV.2.8	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの 12 功業の噴水の構想》1562 年頃、433 x 253 mm、紙に尖筆、黒チョーク、ニューヨーク、クーパー・ヒューイット美術館 inv. 1942-36-1
fig. IV.1.50	アンマンナーティ《ユノの噴水》(fig. III.1.2 部分)	fig. IV.2.9	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの物語習作》1569 年以降、350 x 450 mm、紙にペン、褐色インク、パリ、ルーヴル美術館 inv. 1573
fig. IV.1.51	ミケランジェロ《黄昏と曙の擬人像を配するヌムール公ロレンツォ墓碑》フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室	fig. IV.2.10	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《テセウスとヘレネ》1558-1560 年、大理石、約 180cm、フィレンツェ、ボーボリ庭園内グロッタ・グランデ
fig. IV.1.52	「アカデミア・フィオレンティーナのインプレザ」Jacopo Rilli, <i>Notizie Letterarie, ed istoriche intorno agli uomini illustri dell'Accademia fiorentina</i> , Firenze, 1700 の扉絵より転載	fig. IV.2.11	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの 12 功業の噴水の構想》(水盤装飾: fig. III.2.8 部分)
fig. IV.1.53	バルトロメオ・アンマンナーティ《ユノの噴水》(fig. III.1.2)	fig. IV.2.12	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの 12 功業の噴水の構想》(「天球を支えるヘラクレス」: fig. III.2.8 部分)
fig. IV.1.54	アンマンナーティ《フィレンツェ》(fig. III.1.8)	fig. IV.2.13	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの 12 功業の噴水の構想》(水槽の浮彫装飾: fig. III.2.8 部分)
fig. IV.1.55	アンマンナーティ《フィレンツェ》(右腕部分: fig. III.1.8)	fig. IV.2.14	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの物語習作》(fig. III.2.9 部分)
fig. IV.1.56	アンマンナーティ《フィレンツェ》(左腕部分: fig. III.1.8)	fig. IV.2.15	ブロンズイーノ《背面観の裸体男性像》(《聖ラウレンティヌスの殉教》部分) 1565-1569 年、フレスコ、フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂
fig. IV.2.1	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとカクス》大理石、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿大広間	fig. IV.2.16	ブロンズイーノ《背面観の裸体男性像習作》1565-1569 年、裏打ちされた紙に黒チョーク、28.8 x 21.6 cm、パリ、ルーヴル美術館素描版画室 inv. 10900F
fig. IV.2.2	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとケンタウロス》大理石、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿大広間	fig. IV.2.17	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属《ヘラクレスとケルベロスの犬の泉の構想》所在不明 (1982 年 12 月までロンドン)
fig. IV.2.3	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとアンタイオス》大理石、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿大広間	fig. IV.2.18	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラ
fig. IV.2.4	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとアマゾン王ヒッポリュテ》大理石、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿		

	クレスとカクス》(fig. III.2.1)	fig. IV.2.35	ミケランジェロ《曙》1520-1534 年、大理石、フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室
fig. IV.2.19	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとケンタウロス》(fig. III.2.2)	fig. IV.2.36	ミケランジェロ《ダヴィデ=アポロン》1530/1531 年、大理石、146 cm、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館
fig. IV.2.20	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとアンタイオス》(fig. III.2.3)	fig. IV.2.37	ミケランジェロ《勝利》1534 年、大理石、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿五百人大広間
fig. IV.2.21	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとアマゾン王ヒッポリュテ》(fig. III.2.4)	fig. IV.2.38	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《バッコス》1565 年以降、大理石、フィレンツェ、ボーポリ庭園内カフェハウス
fig. IV.2.22	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとエリュメントスの猪》(fig. III.2.5)	fig. IV.2.39	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《死せるアドニス》1565-1570 年、大理石、68 x 166.5 x 65 cm、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 inv. Sculture, n. 6
fig. IV.2.23	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとディオメデス王》(fig. III.2.6)	fig. IV.2.40	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとカクス》(右側面観:fig. III.2.1)
fig. IV.2.24	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《天球を支えるヘラクレス》(fig. III.2.7)	fig. IV.2.41	ミケランジェロ《瀕死の奴隷》1513-1516 年、大理石、228 cm、パリ、ルーヴル美術館
fig. IV.2.25	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとカクス》(ヘラクレスの頭部:fig. III.2.1 部分)	fig. IV.2.42	ミケランジェロ《勝利》(右側面観:fig. III.2.37)
fig. IV.2.26	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとアンタイオス》(アンタイオスの頭部:fig. III.2.3 部分)	fig. IV.2.43	ミケランジェロ《ヘラクレスとカクスの習作》1528 年頃、粘土、41 cm、フィレンツェ、カーサ・ブオナローティ inv. 192
fig. IV.2.27	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとエリュメントスの猪》(ヘラクレスの頭部:fig. III.2.5 部分)	fig. IV.2.44	バルトロメオ・アンマンナーティ《ヘラクレスとアンタイオス》ブロンズ、1559-1560 年、カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトラリア (fig. III.1.61)
fig. III.2.28	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとアマゾン王ヒッポリュテ》(ヘラクレスの頭部:fig. III.2.4 部分)	fig. IV.2.45	アントニオ・ポッライウオーロ《ヘラクレスとアンタイオス》ブロンズ、1475 年、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 (fig. III.1.56)
fig. IV.2.29	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《クピドの矢を鍛造するウルカヌス》1572 年、ブロンズ、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿フランチェスコ 1 世の間	fig. IV.2.46	《ヘラクレスとアンタイオス》(1560 年以降補作修復) 大理石、1-3 世紀、フィレンツェ、ピッティ宮殿
fig. IV.2.30	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《テセウスとヘレネ》(正面観:fig. III.2.10)	fig. IV.2.47	アンティーコ (ピエル・ヤコポ・アラリー=ボナコルシ)《ヘラクレスとアンタイオス》ブロンズ、1460-1528 年頃、43.2 cm、ウィーン、美術史美術館
fig. IV.2.31	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《テセウスとヘレネ》(左側面観:fig. III.2.10)	fig. IV.2.48	《ヘラクレスとアンタイオス》大理石、1391-1405 年頃、フィレンツェ、大聖堂、ポルタ・デッラ・マンドルラ
fig. IV.2.32	ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ《テセウスとヘレネ》(テセウスの胸部銘文:fig. III.2.10 部分)	fig. IV.2.49	レオナルド・ベゾッツォ《ヘラクレスとアンタイオス》(部分) 写本挿絵、
fig. IV.2.33	ミケランジェロ《モーセ》1513-1515 年、大理石、235 cm、ローマ、サン・ピエトロ・イン・ヴィンコリ聖堂		
fig. IV.2.34	ミケランジェロ《ヌムール公ジュリアーノ》1520-1534 年、大理石、173 cm、フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室		

	1440 年頃、ミラノ、Coll. Crespi-Morbio		クレスの 12 功業の噴水の構想》(水槽の浮彫装飾：fig. III.2.8 部分)
fig. IV.2.50	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの 12 功業の噴水の構想》(「ヘラクレスとアンタイオス」：fig. III.2.8 部分)	fig. IV.2.64	バッチョ・バンディネリ《戦闘する裸体男性像習作》ニューヨーク、トビー・コレクション
fig. IV.2.51	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスとアンタイオス》(fig. III.2.3)	fig. IV.2.65	バッチョ・バンディネリ《2 人の裸体男性像習作》フィレンツェ、ウフィツィ美術館版画素描室 inv. 6896F recto
fig. IV.2.52	アントニオ・ポッライウオーロ《建造物の上で踊る裸体人物》フレスコ、1465 年頃、アルチェトリ、ヴィッラ・ラ・ガッリーナ	fig. IV.2.66	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの物語習作》(fig. III.2.9 部分)
fig. IV.2.53	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの 12 功業の噴水の構想》(fig. III.2.8)	fig. IV.2.67	バッチョ・バンディネリ《レダと白鳥》1512 年頃、板に油彩、パリ大学 inv. 44, monuments historiques, 24.12.1974
fig. IV.2.54	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの物語習作》(fig. III.2.9)	fig. IV.2.68	バッチョ・バンディネリ《レダと白鳥のための習作》1512 年頃、ペンと褐色インク、フィレンツェ、ウフィツィ美術館版画素描室 inv. 509F
fig. IV.2.55	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの 12 功業の噴水の構想》(「ヘラクレスとケルベロスの犬」：fig. III.2.8 部分)	fig. IV.2.69	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの物語習作》(fig. III.2.9 部分)
fig. IV.2.56	バッチョ・バンディネリ《戦闘場面の裸体群像習作》(部分) 1512 年頃、黒鉛筆、ロンドン、大英博物館 inv. 1895,0915.562	fig. IV.2.70	バッチョ・バンディネリ《人物群像と骸骨たち》ペンと褐色インク、ローマ、国立素描版画室 (ヴィッラ・ファルネジーナ) inv. FC 124258
fig. IV.2.57	バッチョ・バンディネリ《レダと白鳥》(部分) 1512 年頃、板に油彩、パリ大学 inv. 44, monuments historiques, 24.12.1974	fig. IV.2.71	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの 12 功業の噴水の構想》(「ヘラクレスとアンタイオス」：fig. III.2.8 部分)
fig. IV.2.58	バッチョ・バンディネリ《ノアの酩酊》(部分) 1530 年、大理石、60 x 130.5 cm、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 inv. 311 Sculpture	fig. IV.2.72	アントニオ・ポッライウオーロ《ヘラクレスとアンタイオス》(fig. III.1.56)
fig. IV.2.59	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの 12 功業の噴水の構想》(水槽の浮彫装飾：fig. III.2.8 部分)	fig. IV.2.73	バルトロメオ・アンマンナーティ《ヘラクレスとアンタイオス》(fig. III.1.61)
fig. IV.2.60	バッチョ・バンディネリ《ジョヴァンニ・デッレ・バンデ・ネーレ記念墓碑》大理石、フィレンツェ、サン・ロレンツォ広場	fig. III.2.74	作者不詳《1598 年 11 月 12 日にサン・ロレンツォ聖堂で執り行われたフェリペ 2 世の葬儀の様子 (内陣)》エングレーヴィング (第 2 ステート)、ウィーン、アルベルティーナ美術館
fig. IV.2.61	バッチョ・バンディネリ《戦闘する裸体の兵士たちの習作》ペンと褐色インク、オックスフォード、クライスト・チャーチ絵画館 inv. 0090	fig. IV.2.75	ポントルモ《イサクの犠牲のための準備素描》(部分) ベルガモ、アカデミア・カッラーラ inv. 2357
fig. IV.2.62	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの 12 功業の噴水の構想》(水槽の浮彫装飾：fig. III.2.8 部分)	fig. IV.2.76	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの 12 功業の噴水の構想》(「ヘラクレスとケンタウロス」：fig. III.2.8 部分)
fig. IV.2.63	ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラ	fig. IV.2.77	ポントルモ《カインとアベルのための準備素描》フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室 inv. 6739F recto



- fig. IV.2.78 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ 《ヘラクレスの 12 功業の噴水の構想》(「ヘラクレスとカクス」：fig. III.2.8 部分)
- fig. IV.2.79 ポントルモ 《キリストの栄光とエヴァの創造のための習作》(部分) フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室 inv. 6609F
- fig. IV.2.80 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ 《ヘラクレスの物語習作》(fig. III.2.9 部分)
- fig. IV.2.81 ポントルモ 《ピエタの習作》フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室 inv. 6689F recto
- fig. IV.2.82 ポントルモ 《大洪水の場面のための習作》フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室 inv. 6752F recto
- fig. IV.2.83 ポントルモ 《3 体の裸体人物像習作》フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室 inv. 6543F recto
- fig. IV.2.84 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ 《ヘラクレスの物語習作》(fig. III.2.9 部分)
- fig. IV.2.85 アレッサンドロ・アッローリに帰属《大洪水の場面の部分模写(ポントルモに基づく)》パリ、ルーヴル美術館 inv. 1026
- fig. IV.2.86 アレッサンドロ・アッローリに帰属《大洪水の場面の部分模写(ポントルモに基づく)》タキシード・パーク、ロバート・サイモン・コレクション
- fig. IV.2.87 ブロンズイーノ《青銅の蛇》(部分) 1542 年、フレスコ、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿内エレオノーラの礼拝堂
- fig. IV.2.88 ブロンズイーノ《キリストの復活》(部分) 1552 年、カンヴァスに油彩、フィレンツェ、サンティッシマ・アンヌンツィアータ聖堂グアダニー礼拝堂
- fig. IV.2.89 ミケランジェロ 《最後の審判》1536-1541 年、フレスコ、13.7m x 12.2m、ヴァチカン、システィーナ礼拝堂
- fig. IV.2.90 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属《ヘラクレスとケルベロスの犬の泉の構想》所在不明(1982 年 12 月までロンドン)
- fig. IV.2.91 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属《ヘラクレスとケルベロスの犬の泉の構想》(下部水槽：fig. III.2.102 部分)
- fig. IV.2.92 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属《ヘラクレスとケルベロスの犬の泉の構想》(中段軸足装飾：fig. III.2.102 部分)
- fig. IV.2.93 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属《ヘラクレスとケルベロスの犬の泉の構想》(「ヘラクレスとケルベロスの犬」：fig. III.2.102 部分)
- fig. IV.2.94 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属《ヘラクレスとケルベロスの犬の泉の構想》(山羊の頭部装飾：fig. III.2.102 部分)
- fig. IV.2.95 ミケランジェロ 《ヘラクレスの功業の習作》1530 年頃、赤チョーク、27.2 x 42.2 cm、ウィンザー城、王立コレクション inv. no. 12770
- fig. IV.2.96 ジョヴァンニ・アントニオ・ダ・ブレーシャ《ヘラクレスとネメアのライオン》1507 年以降、エングレーヴィング、28.2 x 25.3 cm、アムステルダム国立美術館 inv. RP-P-OB-1969
- fig. IV.2.97 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属《ヘラクレスとネメアのライオンの習作》ペンと薄い褐色インク、32.1 x 20.8 cm、ヴェネツィア、アカデミア美術館 inv. 187
- fig. IV.2.98 アレッサンドロ・アッローリ工房《ヘラクレスとネメアのライオン》1580-1581 年頃、フレスコ、フィレンツェ、ウフィツィ美術館 2 階東側回廊天井画(第 29 区画)
- fig. IV.2.99 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの 12 功業の噴水の構想》(fig. III.2.8)
- fig. IV.2.100 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ラオコーン》大理石、個人蔵
- fig. IV.2.101 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属《ヘラクレスとケルベロスの犬の泉の構想》(蛇の頭部：fig. III.2.102 部分)
- fig. IV.2.102 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ラオコーン》(蛇の頭部：fig. III.2.112 部分)
- fig. IV.2.103 バッチョ・バンディネッリ《ラオコーン》(部分：蛇の頭部) 1520-1524 年、大理石、186.6cm、フィレンツェ、ウフィツィ美術館
- fig. III.2.104 アゲサンドロス、アタノドロス、ポリュドロス《ラオコーン》(部分：蛇の頭部) 50 年頃、大理石、184 cm、ヴァチカン美術館

- fig. IV.3.1 フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿正面とシニョリーア広場
- fig. IV.3.2 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》1560-1575 年、大理石、ブロンズ、フィレンツェ、シニョリーア広場
- fig. IV.3.3 バッチョ・バンディネッリ《ネプトゥヌス》1550-1560 年、ブロンズ、49 cm、ニューヨーク、クラリーチェ・スミス、ロバート H. スミス・コレクション
- fig. IV.3.4 バッチョ・バンディネッリ《ネプトゥヌス》(fig. III.3.3 部分)
- fig. IV.3.5 バッチョ・バンディネッリに基づく《ネプトゥヌス》1573 年、ブロンズ、52 cm、ローマ、ガレリア・コロンナ inv. Fid. n. 97
- fig. IV.3.6 バッチョ・バンディネッリ《アンドレア・ドーリア記念碑》1536 年、大理石、カッラーラ、大聖堂広場
- fig. IV.3.7 バッチョ・バンディネッリに帰属《ネプトゥヌスの習作》紙に黒鉛筆、230 x 174 mm、パリ、ルーヴル美術館素描版画室 inv. 122 recto
- fig. IV.3.8 アンマンナーティに帰属《ネプトゥヌスの噴水のための計画案》1560 年頃、ペンと褐色インク、銀尖筆、赤色天然石(サンギース)、木炭、430 x 286 mm、パリ、ルーヴル美術館素描版画室 inv. 711 recto
- fig. IV.3.9 アンマンナーティに帰属《ネプトゥヌスの噴水のための計画案》1560 年頃、ロンドン、個人蔵(旧ドゥビーニ・コレクション)
- fig. IV.3.10 ミケランジェロ《勝利》(fig. III.2.37)
- fig. VI.3.11 アンマンナーティ《テヴェレ河》1550-1553 年、大理石、ローマ、ヴィッラ・ジュリア
- fig. IV.3.12 アンマンナーティ《アルノ河》1550-1553 年、大理石、ローマ、ヴィッラ・ジュリア
- fig. IV.3.13 アンマンナーティに帰属《ネプトゥヌス像のモデル》粘土、48 cm、ロンドン、ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館
- fig. IV.3.14 ジャンボローニャ《ネプトゥヌスの噴水のための準備モデル》ブロンズ、78.6 cm、ボローニャ、市立中世美術館 inv. 1503
- fig. IV.3.15 ジャンボローニャ《ネプトゥヌスの噴水》1563-1566 年ブロンズ、大理石、ボローニャ、マッジョーレ広場
- fig. IV.3.16 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(fig. III.3.2)
- fig. IV.3.17 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(山車：fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.18 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(ネプトゥヌス台座背面：fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.19 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(「ネプトゥヌス」：fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.20 アンマンナーティ《ネプトゥヌス》195 cm、パドヴァ、ストロツィ宮殿
- fig. IV.3.21 アンマンナーティ《ヘラクレス》7.13 m、パドヴァ、マントヴァ・ベナヴィデス邸
- fig. IV.3.22 作者不詳《休息するヘラクレス》1-2 世紀頃、大理石、マルタ島、ドムス・ロマーナ
- fig. IV.3.23 作者不詳《休息するヘラクレスの銀製手桶》7 世紀中頃、銀、ウィーン、美術史美術館 inv. ANSA VIIa 95
- fig. IV.3.24 ベルトルド・ディ・ジョヴァンニ《休息するヘラクレス》15 世紀後半、22.2 cm、ニューヨーク、フリック・コレクション inv. 1916.2.04
- fig. IV.3.25 ジョルジョ・ヴァザーリ《1515 年のレオ 10 世のフィレンツェ入市式》(部分)板に油彩、1555-1562 年、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿レオ 10 世の間
- fig. IV.3.26 ジュリオ・クローヴィオ《ベナヴィデス邸のヘラクレス》1544-1545 年、紙に黒石墨、538 x 415 mm、パリ、ルーヴル美術館素描版画室 inv. 48 recto
- fig. IV.3.27 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(「ネプトゥヌス」：fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.28 ミケランジェロ《ダヴィデ》1504 年、大理石、フィレンツェ、アカデミア美術館
- fig. IV.3.29 バンディネッリ《ヘラクレスとカクス》1534 年、大理石、フィレンツェ、シニョリーア広場

- fig. IV.3.30 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(fig. III.3.2)
- fig. IV.3.31 「アンマンナーティによる第一計画(縁の高い水槽を示す)」(Heikamp 2011, p. 237, fig. 57 より転載)
- fig. IV.3.32 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(横臥像の台座装飾: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.33 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(横臥像の台座装飾: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.34 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(《グラウコス》《サテュロス》《ファウヌス》) 正面観: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.35 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(《グラウコス》《サテュロス》《ファウヌス》左側面観: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.36 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(《ドーリス》《サテュロス》《ファウヌス》) 正面観: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.37 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(《テティス》《サテュロス》《ファウヌス》: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.38 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(《ポルクュース》《サテュロス》《ファウヌス》: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.39 プリマティッチョ《アポロン、アモル、キュパリッソス》サンギーヌ、白のハイライト、172 x 291 mm、パリ、ルーヴル美術館素描版画室 inv. 8541 recto
- fig. IV.3.40 プリマティッチョ《フローラの習作》紙に褐色および灰褐色インク、白のハイライト、ロンドン、大英博物館 inv. 1946,0713.489
- fig. IV.3.41 フォンテーヌブロー派の作家《アポロンとパン》(プリマティッチョに基づく) 紙に褐色インク、白のハイライト、382 x 227 mm、ロンドン、大英博物館 inv. SL,5236.44
- fig. IV.3.42 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(《ファウヌス》: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.43 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(《ファウヌス》: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.44 ミケランジェロ《トリトーンに姿を変えられた裸体男性像および3つの男性頭部の習作》1501年頃、紙にペン、2種のインク、235 x 185 mm、オックスフォード、アシュモレアン美術館 inv. Parker 292 recto
- fig. IV.3.45 ミケランジェロ《背を向けた男性裸体像》1504-1505年頃、紙にペン、褐色インク、灰色と褐色の水彩、白のハイライト、419 x 286 mm、ロンドン、大英博物館 inv. 1887,0502.116
- fig. IV.3.46 ミケランジェロ《青年裸体像》1508-1512年、フレスコ、ヴァチカン、システイーナ礼拝堂天井画
- fig. IV.3.47 ミケランジェロ《青年裸体像》1508-1512年、フレスコ、ヴァチカン、システイーナ礼拝堂天井画
- fig. IV.3.48 チェッリーニ《サテュロスあるいは競技者(正面観)》ニューヨーク、メトロポリタン美術館
- fig. IV.3.49 チェッリーニ《サテュロスあるいは競技者(側面観: fig. III.3.48)
- fig. IV.3.50 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(《ファウヌス》: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.51 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(《ファウヌス》: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.52 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(《ファウヌス》: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.53 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(《ファウヌス》: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.54 ミケランジェロ《ラザロの蘇生のための習作》1516年、紙に赤チョーク、250 x 118 mm、ロンドン、大英博物館 inv. 1860,0714.2
- fig. IV.3.55 ミケランジェロ《ラザロの蘇生のための習作》1516年、紙に赤チョーク、250 x 183 mm、ロンドン、大英博物館 inv. 1860,0714.1
- fig. IV.3.56 ミケランジェロ《ラザロの蘇生のための習作》1516-1518年、紙に赤チョーク、203 x 331 mm、バイヨンヌ、ボナ美術館 inv. 682
- fig. IV.3.57 ピエトロ・パオロ・ガレオッティ《ネプトゥヌスの噴水を伴うコジモ1世の

- メダル》1567年、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館
- fig. IV.3.58 アンマンナーティに帰属《ネプトゥヌスの噴水のための計画案》1560年頃、ペンと褐色インク、銀尖筆、赤色天然石(サンギース)、木炭、430 x 286 mm、パリ、ルーヴル美術館素描版画室 inv. 711 recto
- fig. IV.3.59 トリーボロ《ネプトゥヌスを配したグロッタの壁面構想》ベルリン、国立版画素描館 (fig. III.1.14)
- fig. IV.3.60 ミケランジェロ《勝利》(fig. III.2.37)
- fig. IV.3.61 フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿五百人大広間内観(右手の「シエナ戦争」を表す壁画の下・中央にミケランジェロ《勝利》が配されている)
- fig. IV.3.62 ヴァザーリほか《フィレンツェの創建》1563-1565年、板にテンペラ、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿五百人大広間天井画
- fig. IV.3.63 アンマンナーティに帰属《ネプトゥヌスの噴水のための計画案》(fig. III.3.58 部分)
- fig. IV.3.64 アンマンナーティに帰属《ネプトゥヌスの噴水のための計画案》1560年頃、ロンドン、個人蔵(旧ドゥビーニ・コレクション)
- fig. IV.3.65 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(《ネプトゥヌス》: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.66 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(《トリートンたち》: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.67 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(fig. III.3.2)
- fig. IV.3.68 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(《ネプトゥヌス》: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.69 ミケランジェロ《ダヴィデ》(fig. III.3.28)
- fig. IV.3.70 バンディネリ《ヘラクレスとカクス》(fig. III.3.29)
- fig. IV.3.71 ヴェッキオ宮殿正面の現在の配置(立面図: Heikamp 2011, p. 191 より部分転載)
- fig. IV.3.72 ヴェッキオ宮殿正面の現在の設置状況
- fig. IV.3.73 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(水槽縁装飾: fig. III.3.2 部分)
- fig. IV.3.74 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(《ポルキウス》《サテュロス》部分: fig. III.3.38)

## 第V章

- fig. V.1.1 トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》(レプリカにて庭園内に復元)大理石、ブロンズ、1538-1572年、カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトラリア (fig. I.2.9)
- fig. V.1.2 トリーボロ、アンマンナーティ他《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》(レプリカにて庭園内に復元)大理石、ブロンズ、1538-1560年、カステッロ、メディチ家別邸 (fig. I.2.8)
- fig. V.1.3 ジャンボローニャ《フィオレンツァ》(正面観)1560-1562年、ブロンズ、125 cm、カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトラリア (fig. III.1.38)
- fig. V.1.4 ジャンボローニャ《オケアヌスの噴水》1567-1574年、大理石、花崗岩、フィレンツェ、ピッティ宮殿付属ボーボリ庭園 (fig. III.2.3)
- fig. V.1.5 バルトロメオ・アンマンナーティ《ユノの噴水》1555-1563年(《ユノ》および2体の《孔雀》は模刻、オリジナルは別途展示。円環は後補)大理石、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 (fig. I.2.27)
- fig. V.1.6 アンマンナーティ《アルノ河》大理石、230 cm、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 inv. Depositi, n. 141 (fig. III.1.9)
- fig. V.1.7 アンマンナーティ《パルナッソスの泉》大理石、213 cm、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 inv. Depositi, n. 139 (fig. III.1.10)
- fig. V.1.8 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラク

- レスの 12 功業の噴水の構想》1562 年頃、433 x 253 mm、紙に尖筆、黒チョーク、ニューヨーク、クーパー・ヒューイット美術館 inv. 1942-36-1 (fig. III.2.8)
- fig. V.1.9 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属《ヘラクレスとケルペロスの犬の泉の構想》所在不明 (1982 年 12 月までロンドン) (fig. III.2.17)
- fig. V.1.10 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ《ヘラクレスの物語習作》1569 年以降、350 x 450 mm、紙にペン、褐色インク、パリ、ルーヴル美術館 inv. 1573 (fig. III.2.9)
- fig. V.1.11 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》1560-1575 年、大理石、ブロンズ、フィレンツェ、シニョリーア広場 (fig. III.3.2)
- fig. V.1.12 アンマンナーティに帰属《ネプトゥヌスの噴水のための計画案》1560 年頃、ペンと褐色インク、銀尖筆、赤色天然石 (サンギーヌ)、木炭、430 x 286 mm、パリ、ルーヴル美術館素描版画室 inv. 711 recto (fig. III.3.8)
- fig. V.1.13 アンマンナーティに帰属《ネプトゥヌスの噴水のための計画案》1560 年頃、ロンドン、個人蔵 (旧ドウビーニ・コレクション) (fig. III.3.9)
- fig. V.2.1 エネア・ヴィーコ《バンディネッリのアカデミー》1561-1562 年頃、エングレーヴィング、306 x 479 mm、ボストン市立美術館 inv. 1976.611
- fig. V.2.2 ミケランジェロ《ヌムール公ジュリアーノ墓碑》大理石、1520-1534 年、フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室
- fig. V.2.3 ミケランジェロ《ウルビーノ公ロレンツォ墓碑》大理石、1520-1534 年、フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室
- fig. V.2.4 ミケランジェロ《ロレンツォ・イル・マニフィコとジュリアーノ・デ・メデイチ複合墓碑》大理石、1520-1534 年、フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室
- fig. V.2.5 ジョヴァンニ・アンジェロ・モントルソリ《聖コスマス》1533-1537/1538 年、大理石、フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室
- fig. V.2.6 バンディネッリおよび工房《レオ 10 世墓碑》大理石、1536-1541 年、ローマ、サンタ・マリア・ソプラ・ミネルヴァ聖堂内陣
- fig. V.2.7 バンディネッリおよび工房《クレメンス 7 世墓碑》大理石、1536-1541 年、ローマ、サンタ・マリア・ソプラ・ミネルヴァ聖堂内陣
- fig. V.2.8 「画家の礼拝堂」(聖ルカ礼拝堂) 内観、1570-1575 年、フィレンツェ、サンティッシマ・アンヌンツィアータ聖堂
- fig. V.2.9 《マルクス・アウレリウス騎馬像》175 年頃、ブロンズ、4.24 m、ローマ、カピトリノー美術館
- fig. V.2.10 ドナテッロ《ガットメラータ騎馬像》1453 年、ブロンズ、パドヴァ、サント広場
- fig. V.2.11 ジャンボローニャ《コジモ 1 世騎馬像》1587-1594 年、ブロンズ、フィレンツェ、シニョリーア広場
- fig. V.2.12 ジャンボローニャ、ピエトロ・タッカ《フェルディナンド 1 世騎馬像》1602-1607 年、ブロンズ、フィレンツェ、サンティッシマ・アンヌンツィアータ聖堂広場
- fig. V.2.13 「カノプス」外観、118-138 年頃、ティヴォリ、ヴィッラ・アドリアーナ

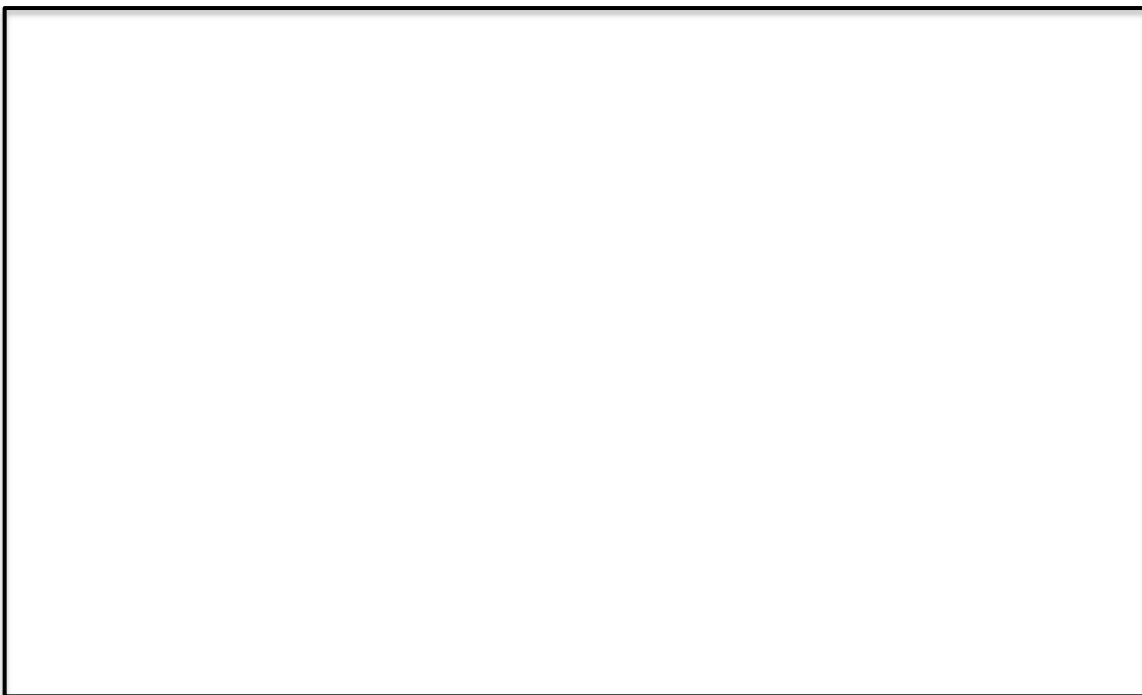


fig. I.2.1

「フィレンツェ広域航空写真」

Google Earthに図示

- ① アルチェトリを中心とする南の丘陵
- ② フィエーゾレとの境界の丘陵
- ③ モレッロ山の麓

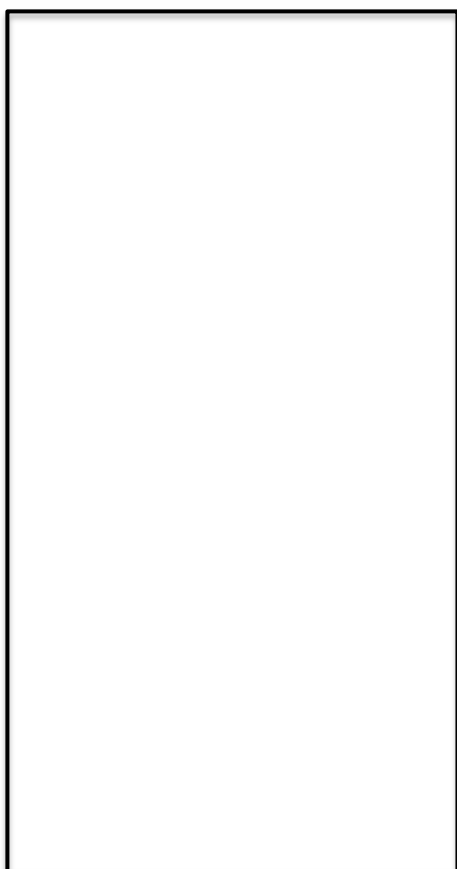


fig. I.2.2

マルコ・ディ・バルトロメオ・ルスティチ  
《サント・セポルクロへの旅路の記録》  
(ルスティチ写本) c.2 recto (部分) 15世紀中葉、  
フィレンツェ、大司教座神学校図書館

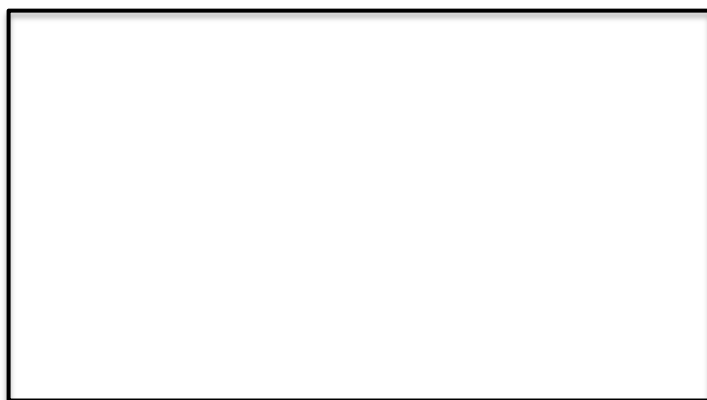


fig. I.2.3

カステッロのメディチ家別邸  
(現アカデミア・クルスカ)

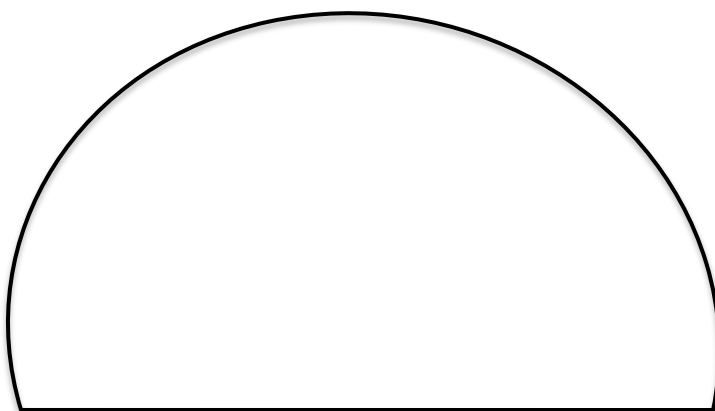


fig. I.2.4

ジュスト・ウーテンス《カステッロのメディチ家別邸の景観》  
1599年、キャンバスにテンペラ  
フィレンツェ郷土史博物館 inv. 1890, no. 6316

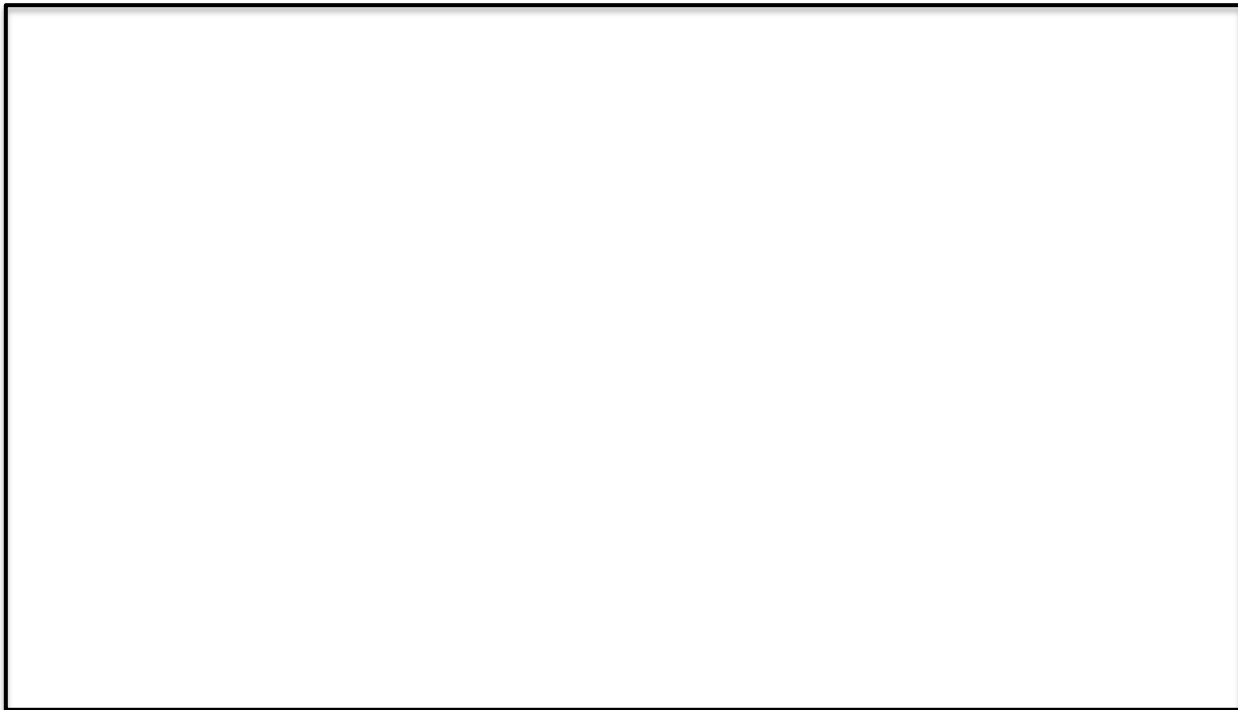


fig. I.2.5  
《カステッロの大公の別邸への取水を示す水路図》  
ブラハ、農林省古文書館 Fondo Lorena, Pietro Leopoldo, f. 57, c. 10

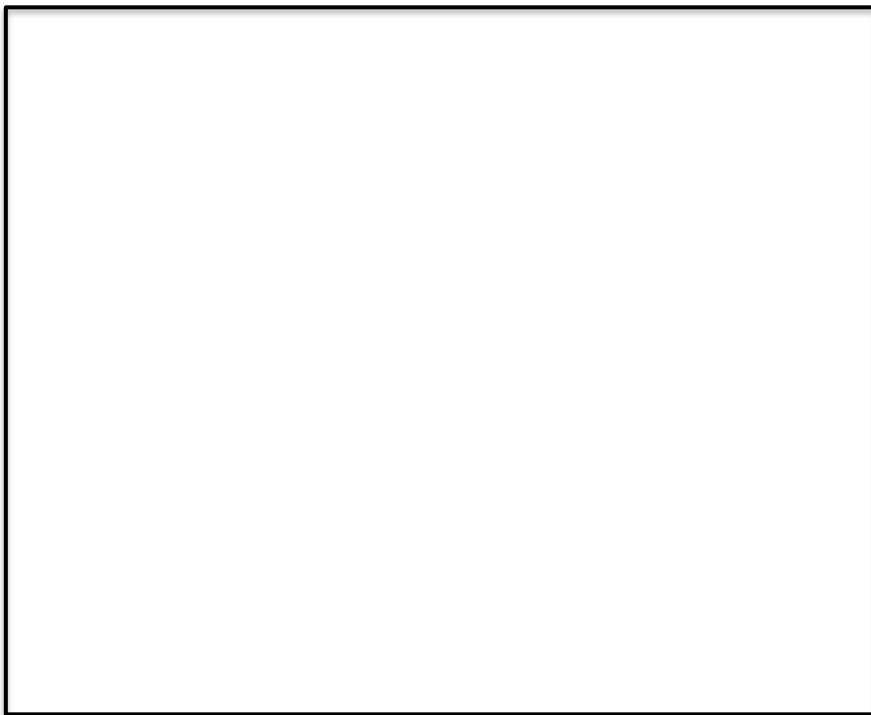


fig. I.2.6  
《カステッロの大公の別邸への取水を示す水路図》  
(fig. I.2.5部分：庭園内の水路)

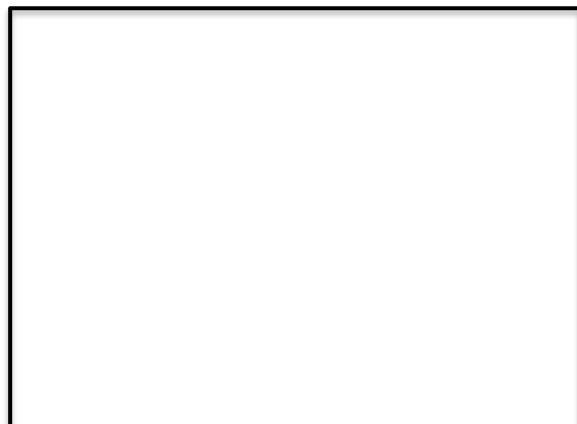


fig. I.2.7  
ジュスト・ウーテンス  
《カステッロのメディチ家別邸の景観》  
(fig. I.2.4部分)

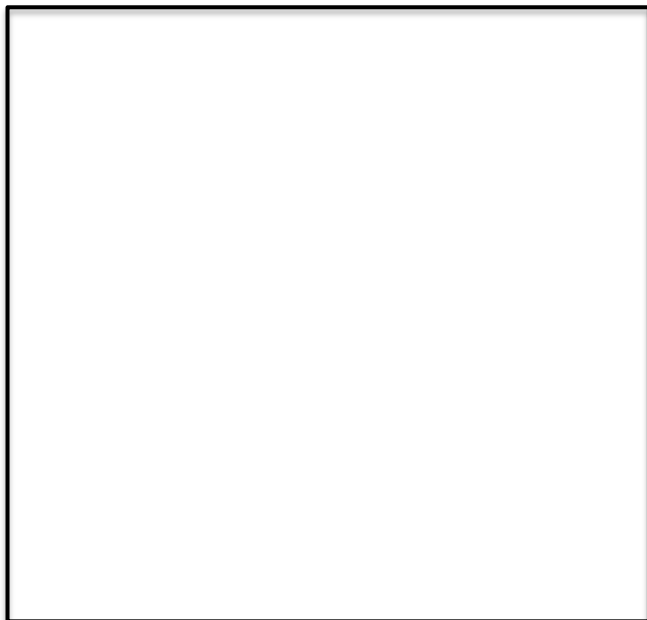


fig. I.2.8  
トリーボロ、アンマンナーティ他  
《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》（レプリカにて  
庭園内に復元）大理石、ブロンズ、1538-1560年、  
カステッロ、メディチ家別邸

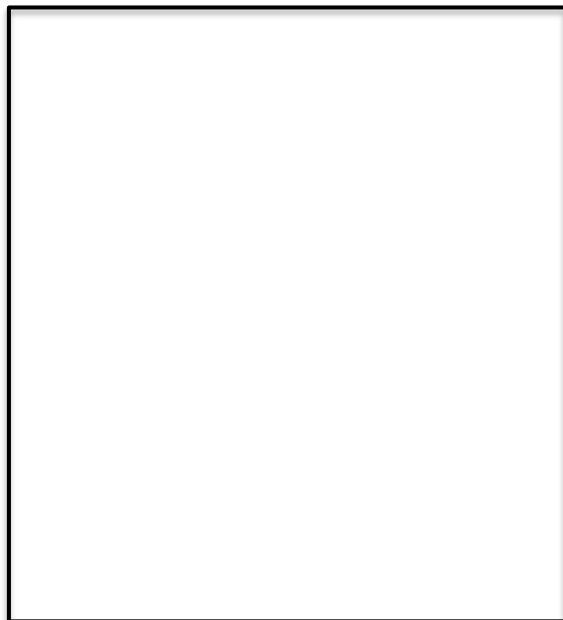


fig. I.2.9  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》（レプリカにて庭園内に復元）  
大理石、ブロンズ、1538-1572年、  
カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトラライア

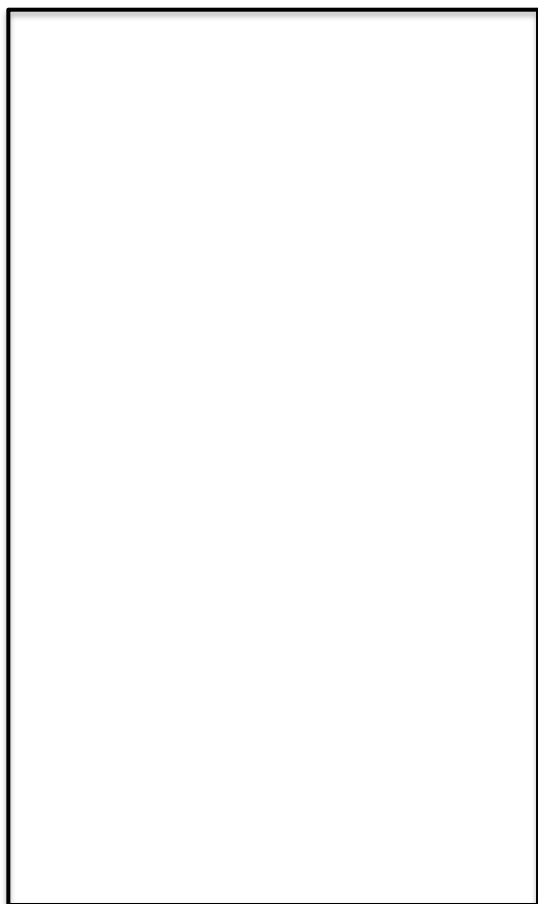


fig. I.2.10  
ジョルジョ・ヴァザーリ  
《コジモ1世と宮廷芸術家》（部分：カステッロの  
模型を手にするトリーボロ）1555-1565年、板にテ  
ンペラ、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿、レオ10世  
の区画（コジモ1世の間）

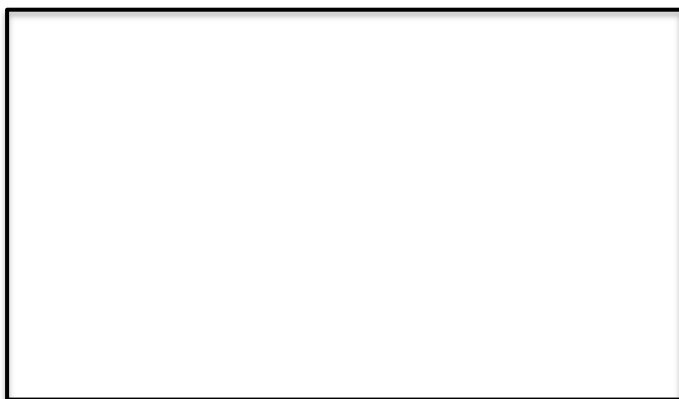


fig. I.2.11  
メディチ家別邸ラ・ペトラライア

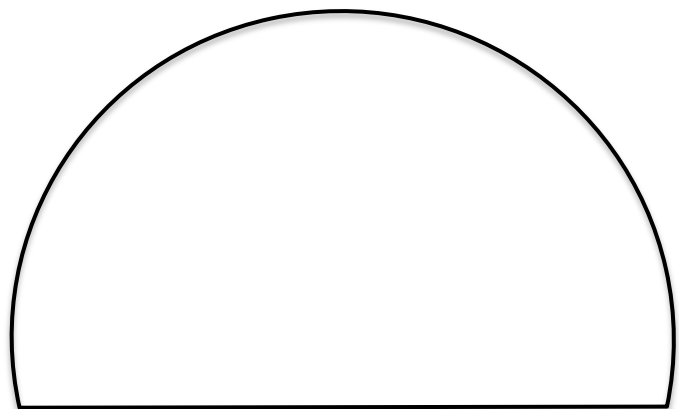


fig. I.2.12  
ジュスト・ウーテンス  
《メディチ家別邸ラ・ペトラライアの景観》1599年、  
キャンバスにテンペラ、フィレンツェ郷土史博物  
館



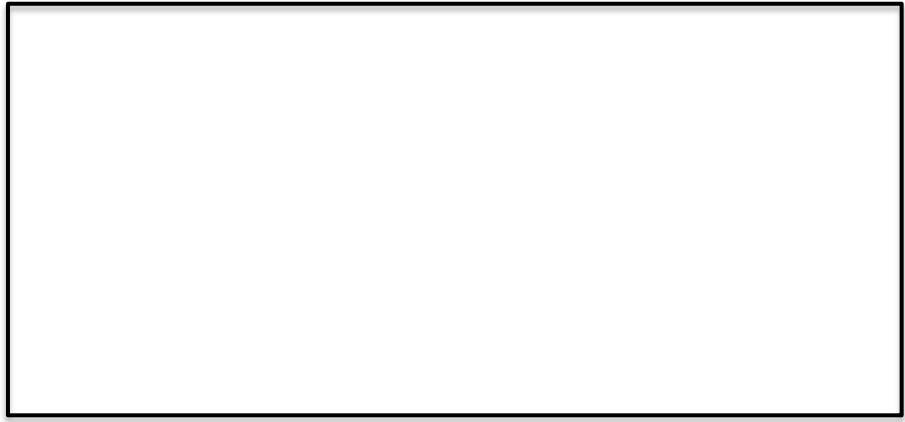


fig. I.2.13  
ピエロ・デル・マッサイオ 《フィオレンティア》  
(部分：サン・ガッロ門外のムニョーネ河の流れる地区)  
ヴァティカン、教皇庁図書館 Codice Vat. Lat., 5699

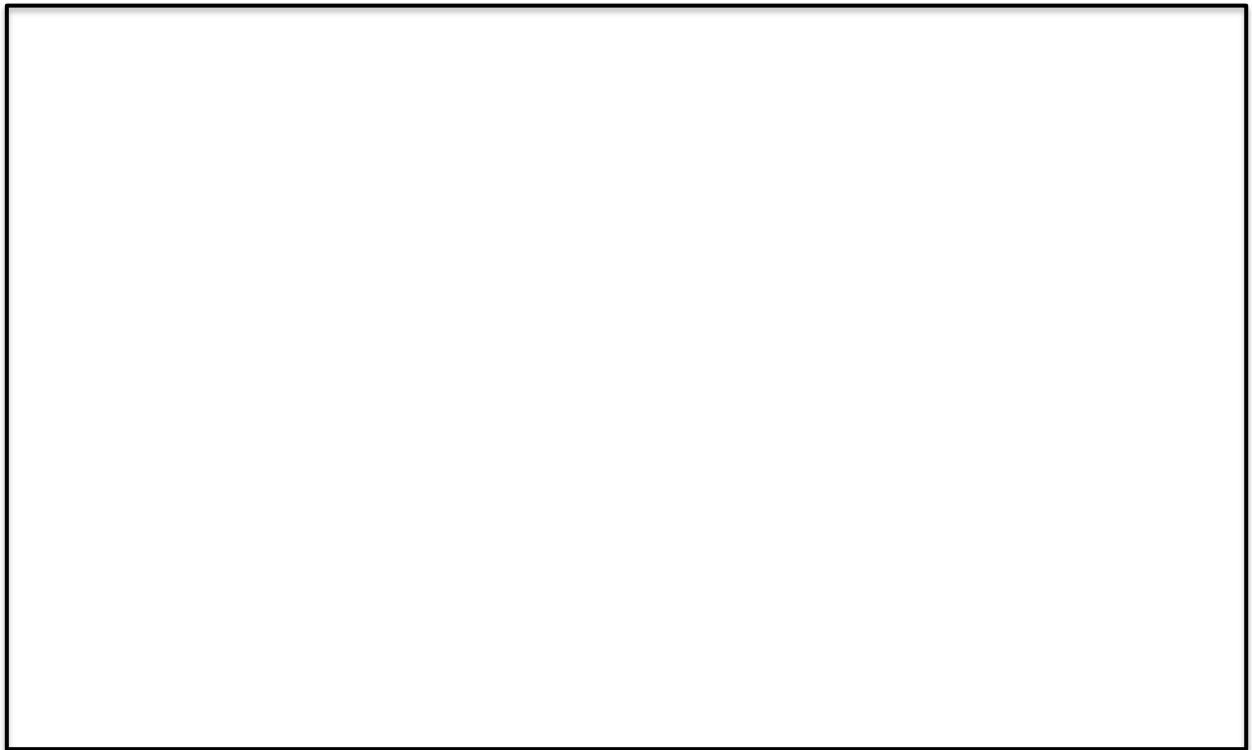


fig. I.2.14  
「サン・ガッロ門、リカーゾリの庭園、ルイスの庭園、センプリチ庭園の位置関係」  
ステファノ・ボンシニョーリ 《フィレンツェ地図》1584年、  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館版画素描室 inv. no. 21918 ST. SC.

図示

- ：リカーゾリの庭園
- ：ルイスの庭園
- ：センプリチ庭園
- ：サン・ガッロ門

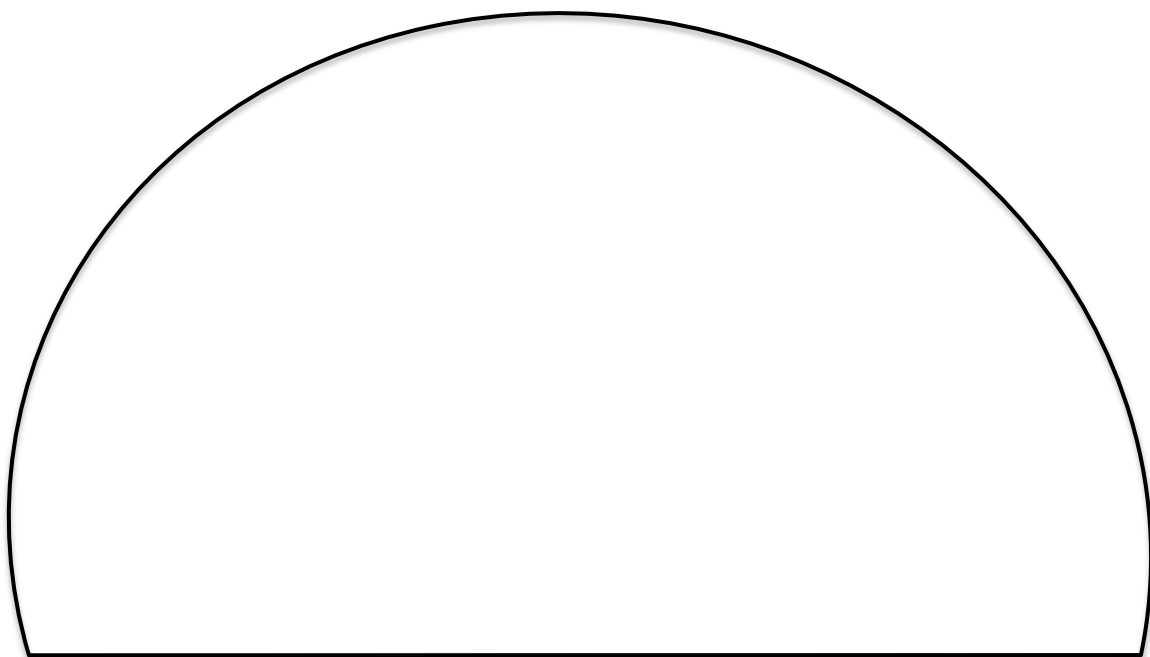


fig. I.2.15  
 ジュスト・ウーテンス  
 《ピッティ宮殿とボーポリ庭園、ベルヴェデーレ要塞を望む景観》1598-1599年、  
 油彩、カンヴァス、フィレンツェ郷土史博物館

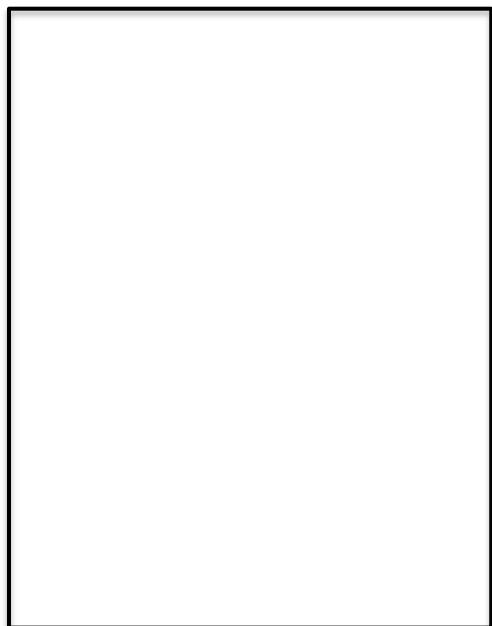


fig. I.2.16  
 ステファノ・ボンシニョーリ  
 《フィレンツェ地図》1584年、  
 フィレンツェ、ウフィツィ美術館版画素描室  
 inv. no. 21918 ST. SC.

図示

- : ジネヴラ水源
- : 現在のボーポリ庭園

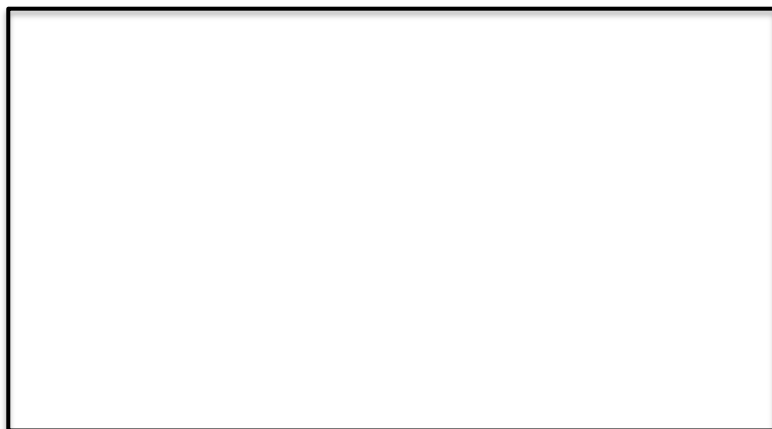


fig. I.2.17  
 ジョルジョ・ヴァザーリ、ジョヴァンニ・ストラダーノ  
 《1529-1530年の皇帝軍による包囲時のフィレンツェ、南からの眺望》（部分）1561-1562年、フレスコ画、  
 フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿内クレメンス7世の間

図示

- A: ピッティ宮殿
- B: バルドウッチョ宮殿（サン・レオナルド水源付近）

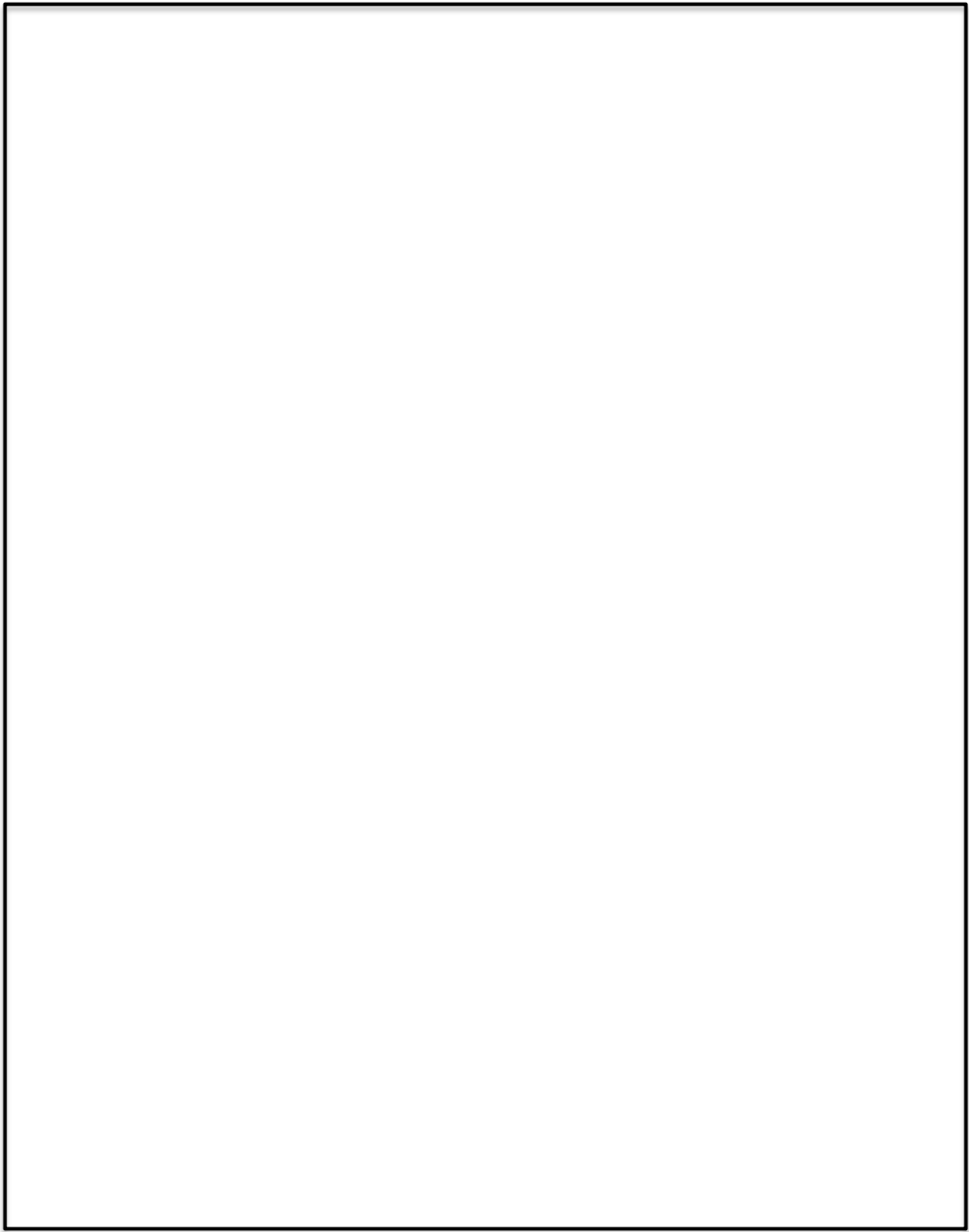


fig. I.2.18  
「ジネヴラ水源とサン・レオナルド水源からボーボリ庭園への水路」  
ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》（fig. I.2.16部分）

図示

- : ジネヴラ水源からの水路
- : サン・レオナルド水源からの水路
- : 貯水槽
- : マダマの小洞窟

LAMBERINI-TAMANTINI 2013、tav. 1に基づき、筆者作成

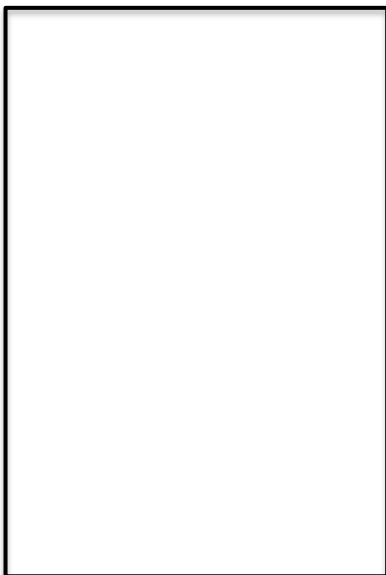


fig. I.2.19  
サン・レオナルド水源からの水路、  
1553年以降建造

fig. I.2.20  
「ジネヴラ水源とサン・レオナルド  
水源からボーポリ庭園への水路」  
ステファノ・ボンシニョーリ  
《フィレンツェ地図》  
(fig. I.2.16部分)

— : ジネヴラ水源からの水路  
— : サン・レオナルド水源からの  
水路  
■ : 貯水槽  
□ : マダマの小洞窟

LAMBERINI-TAMANTINI 2013、tav.  
1に  
基づき、筆者作成

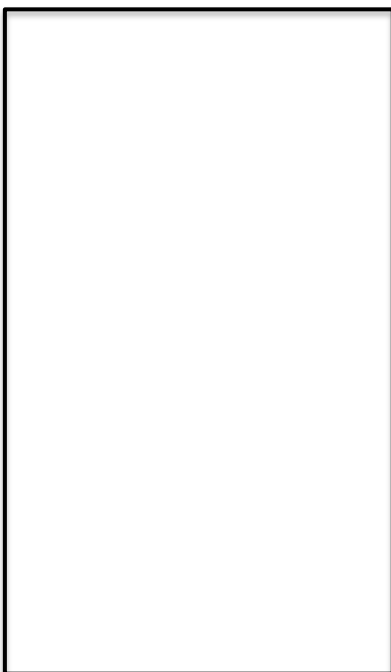
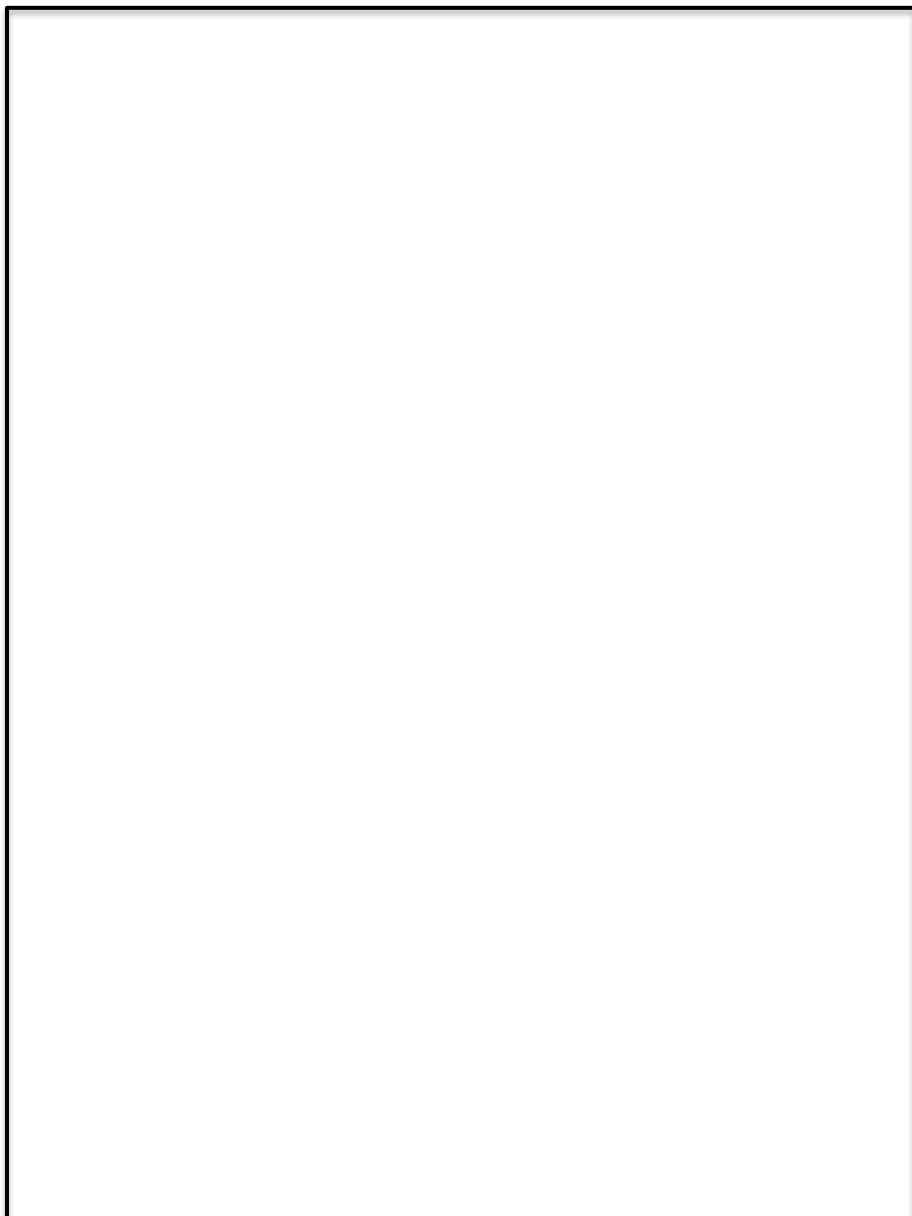


fig. I.2.21  
ジョヴァンニ・ファンチネッリ  
《樽を空ける農夫》  
1553-1556年、大理石、総高181cm、  
フィレンツェ、ボーポリ庭園 inv. 232

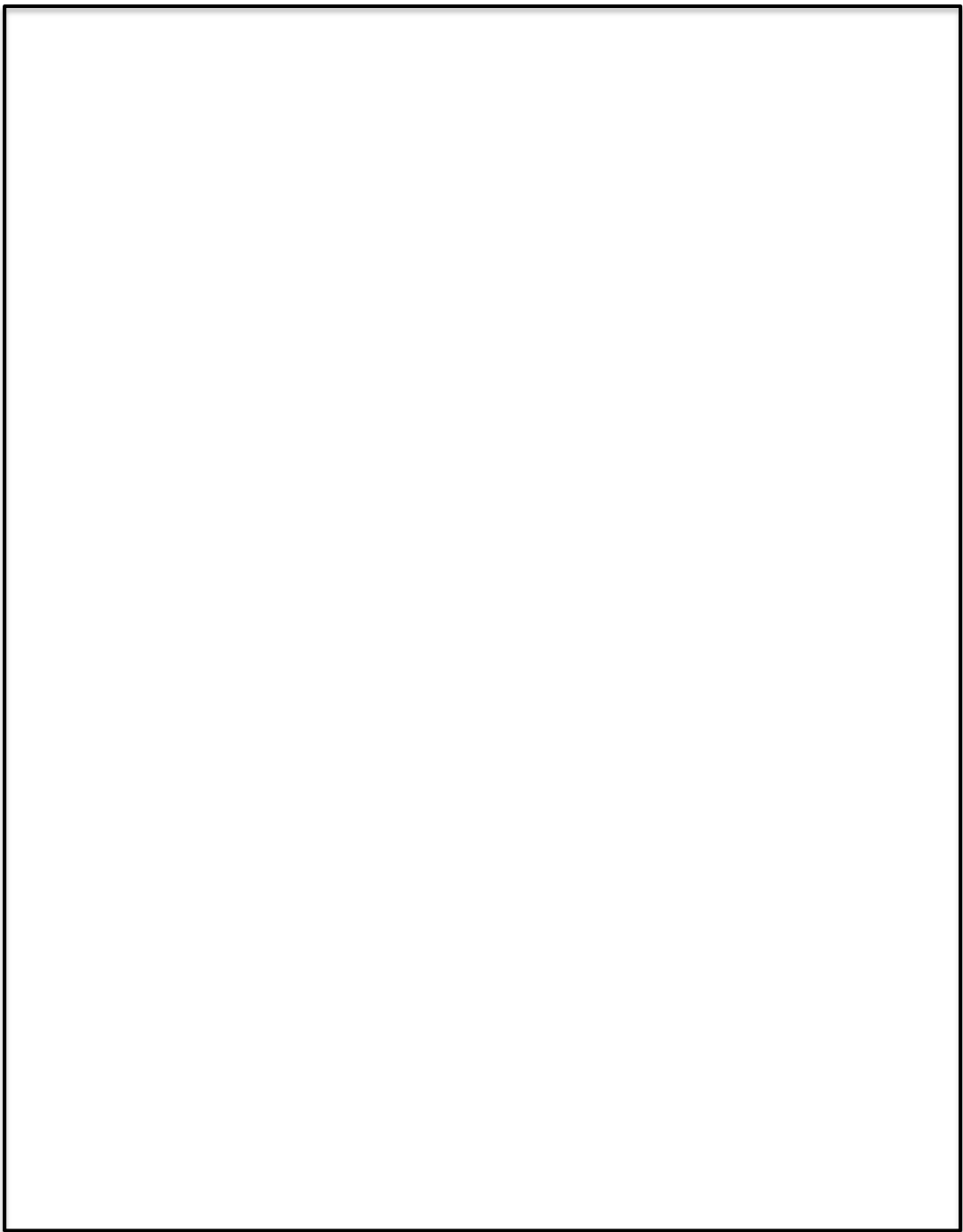


fig. I.2.22  
「ジネヴラ水源とサン・レオナルド水源からボーボリ庭園、ヴェッキオ宮殿への水路」  
ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》（fig. I.2.16部分）

図示

- : ジネヴラ水源からの水路
- : サン・レオナルド水源からの水路
- : 貯水槽
- : マダマの小洞窟
- : 大洞窟
- : 現在のボーボリ庭園
- : ヴェッキオ宮殿

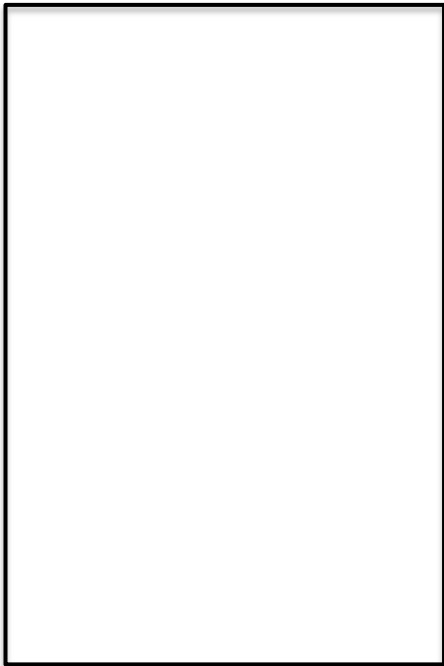


fig. I.2.23  
ジョルジョ・ヴァザーリ、バルトロメオ・アン  
マンナーティ、フランチェスコ・デル・タッダ  
《海豚を抱くプットーの噴水》1555-1557年、  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿中庭

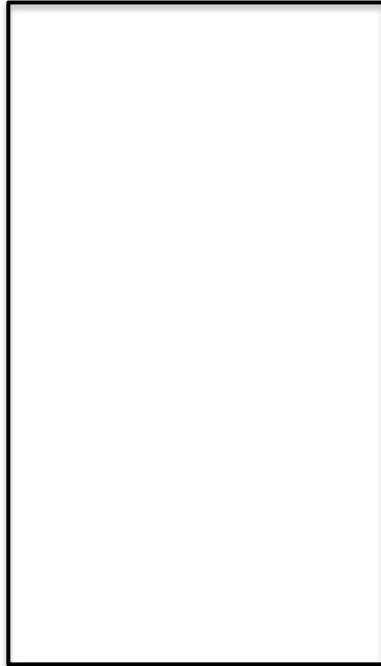


fig. I.2.24  
《海豚を抱くプットーの噴水》  
(fig. I.2.23部分)

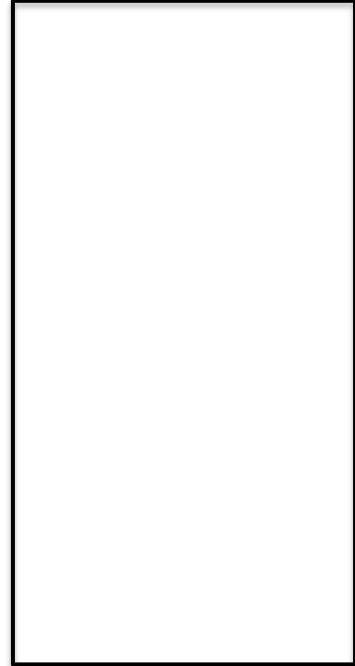


fig. I.2.25  
アンドレア・デル・ヴェロッキオ  
《海豚を抱くプットー》ブロンズ、  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿

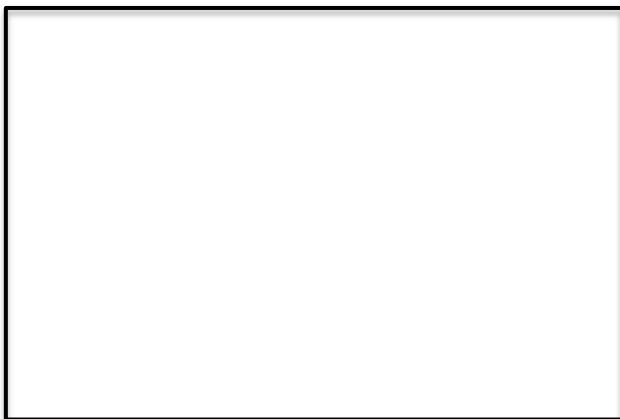


fig. I.2.26  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿五百人大広間南壁外観

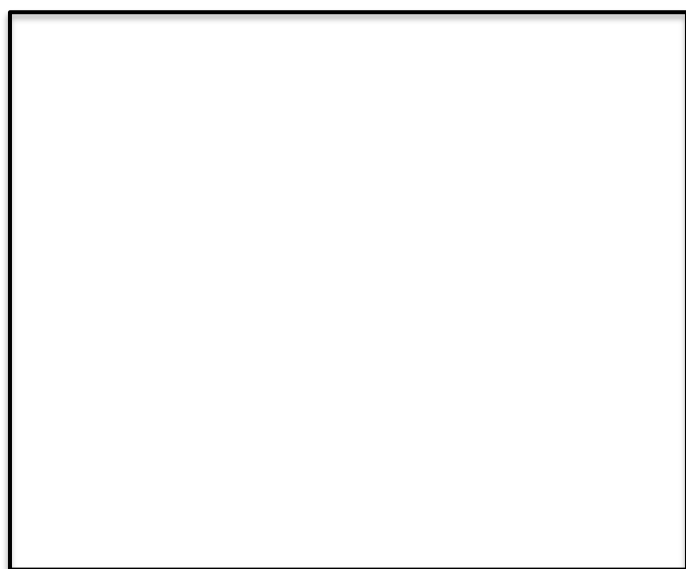


fig. I.2.27  
バルトロメオ・アンマンナーティ 《ユノの噴水》  
1555-1563年（《ユノ》および2体の《孔雀》は模刻、  
オリジナルは別途展示。円環は後補）大理石、  
フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館

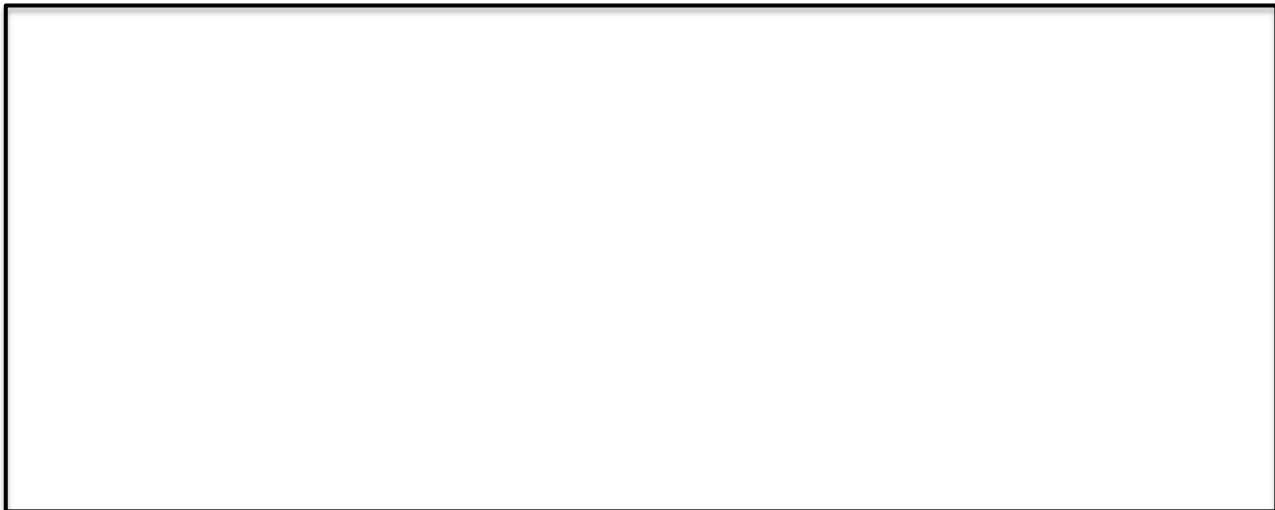


fig. I.2.28  
「サント・スピリト聖堂とボーボリ庭園」  
ステファノ・ボンシニョーリ 《フィレンツェ地図》 (fig. I.2.16部分)

図示  
○：サント・スピリト聖堂広場の噴水

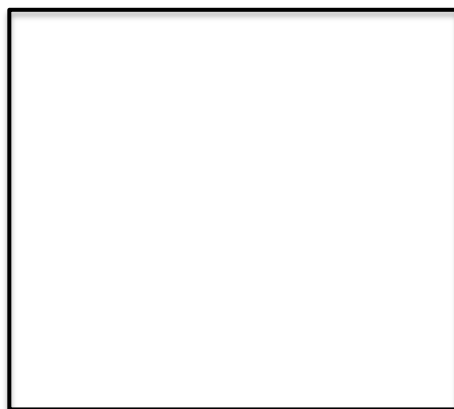


fig. I.2.29  
「サント・スピリト聖堂広場の噴水」  
ステファノ・ボンシニョーリ  
《フィレンツェ地図》 (fig. I.2.16部分)

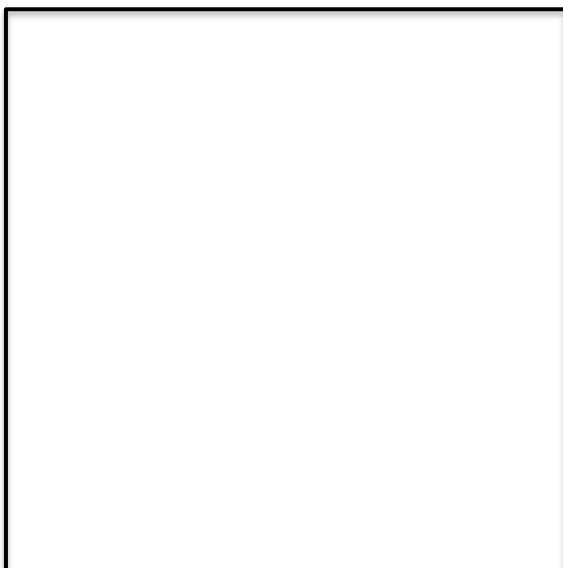


fig. I.2.30  
「サンタ・クローチェ広場前の噴水」  
ステファノ・ボンシニョーリ  
《フィレンツェ地図》 (fig. I.2.16部分)



fig. I.2.31  
バルトロメオ・アンマンナーティ他  
《ネプトゥヌスの噴水》 1560-1575年、大理石、ブロンズ、  
フィレンツェ、シニョリーア広場

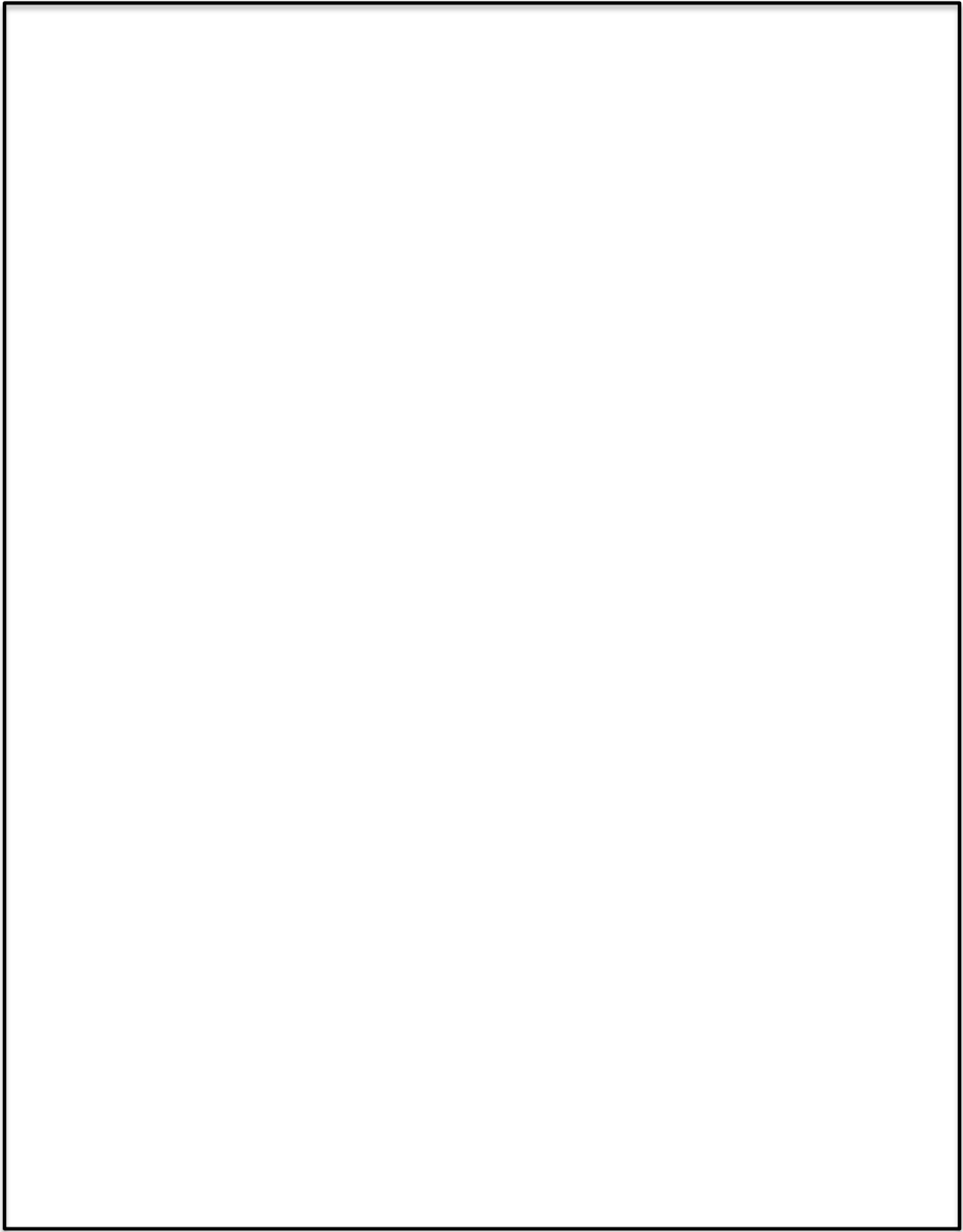


fig. I.2.32  
「ジネヴラ水源とサン・レオナルド水源からボーポリ庭園への水路」  
ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》（fig. I.2.16部分）

- 図示
- : ジネヴラ水源からシニョリーア広場への追加水路（1565年）
  - - - : ジネヴラ水源からの追加水路（1630年代）
  - : 貯水槽
  - : ヴェッキオ宮殿
  - : 《ネプトゥヌスの噴水》

LAMBERINI-TAMANTINI 2013、tav. 1に基づき、筆者作成



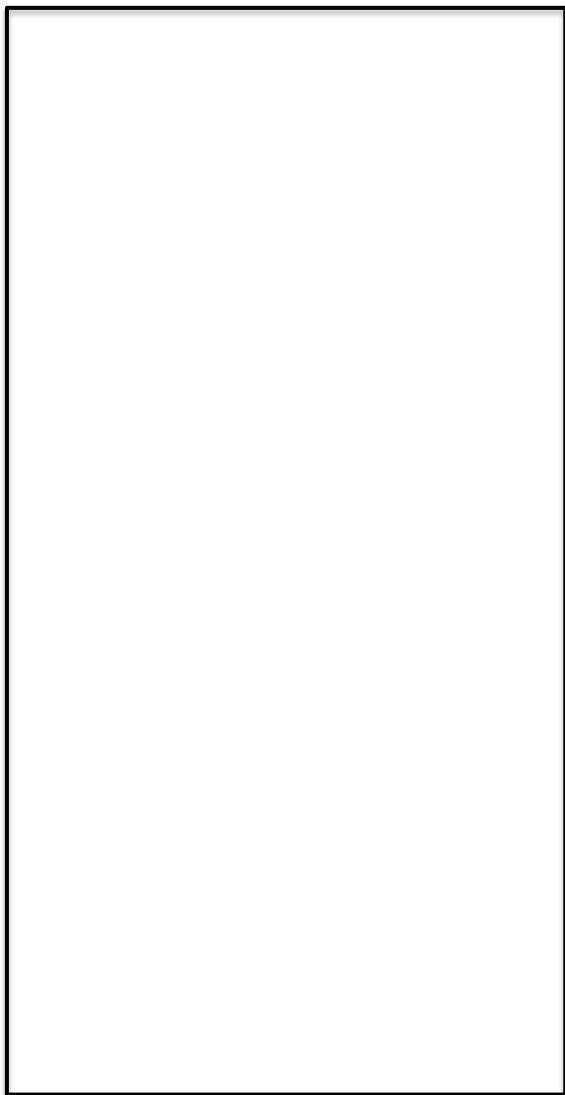


fig. II.1.1  
マルコ・ディ・バルトロメオ・ルスティチ  
《サント・セポルクロへの旅路の記録》  
(ルスティチ写本) c.2 recto (部分) 15世紀中葉、  
フィレンツェ、大司教座神学校図書館

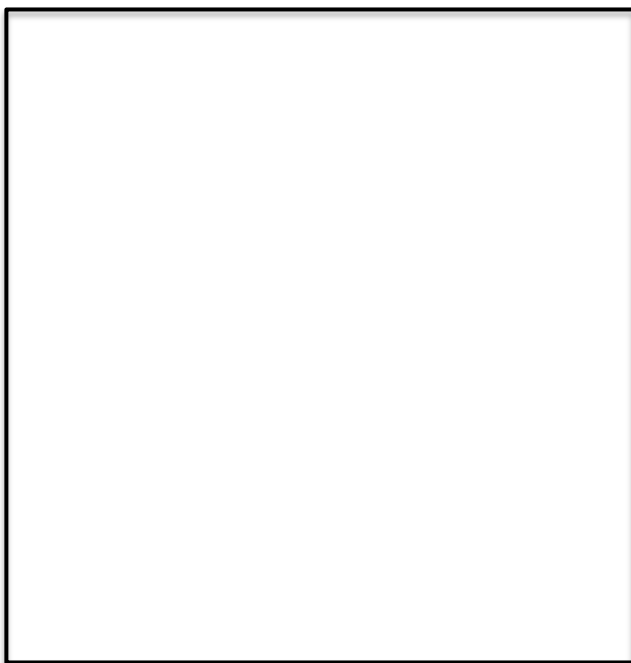


fig. II.1.2  
アントニオ・ダ・サンガッロ・イル・ジョーヴァネ  
《捨て子養育院の取水装置の仕組みを描いたスケッチ》  
1530年代、フィレンツェ、ウフィツィ素描版画室  
inv. 1488A recto

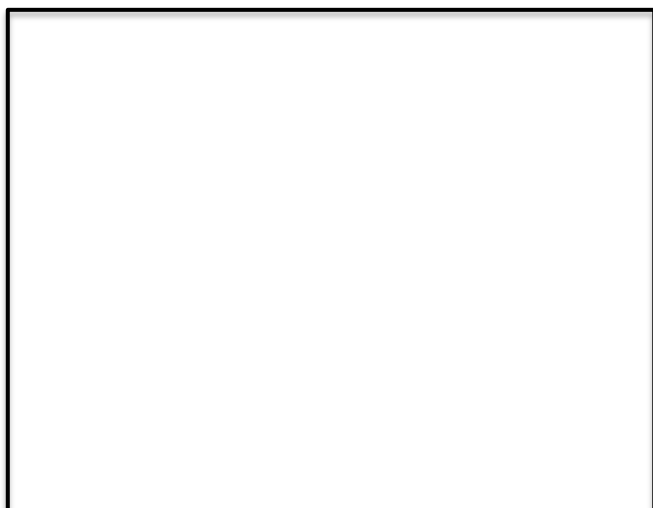


fig. II.1.3  
「サンタ・マリア・デル・カルミネ聖堂中庭の井戸」  
ステファノ・ボンシニョーリ 《フィレンツェ地図》  
(fig. I.2.16部分)

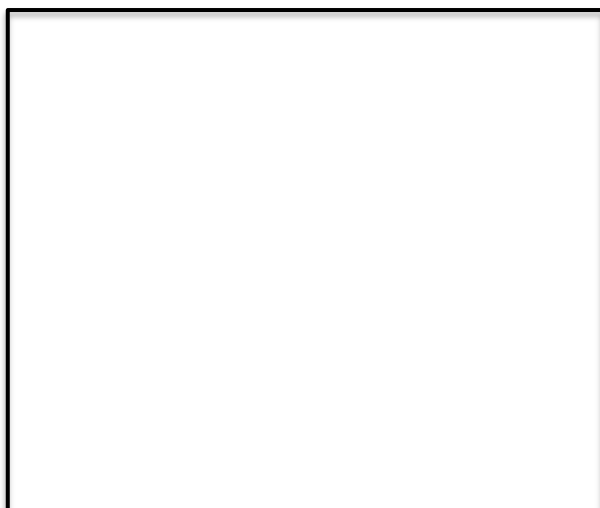


fig. II.1.4  
「オニッサンティ広場の西側区画の公共井戸と  
私有の井戸」  
ステファノ・ボンシニョーリ 《フィレンツェ地図》  
(fig. I.2.16部分)

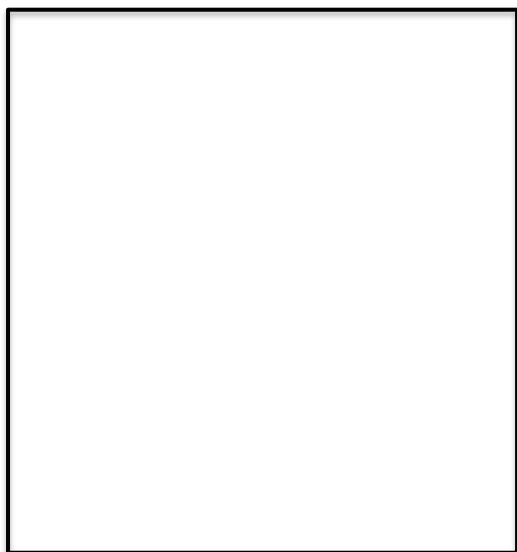


fig. II.1.5  
「サンタ・フェリチタ聖堂前の井戸」  
ステファノ・ボンシニョーリ  
《フィレンツェ地図》 (fig. I.2.16部分)

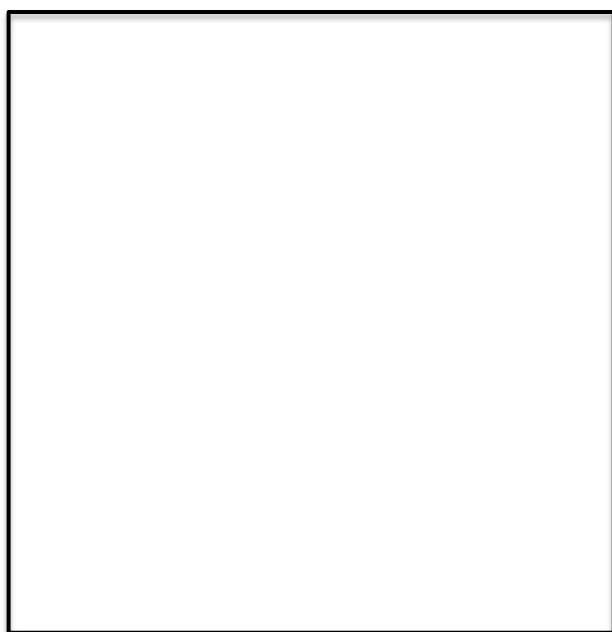


fig. II.1.6  
ジョルジョ・ヴァザーリ、ジョヴァンニ・ストラダーノ  
《メルカート・ヴェッキオのある広場の景観》(部分)  
1561-1562年、板にテンペラ、  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿エレオノーラの区画  
(グアルドラーダの間)

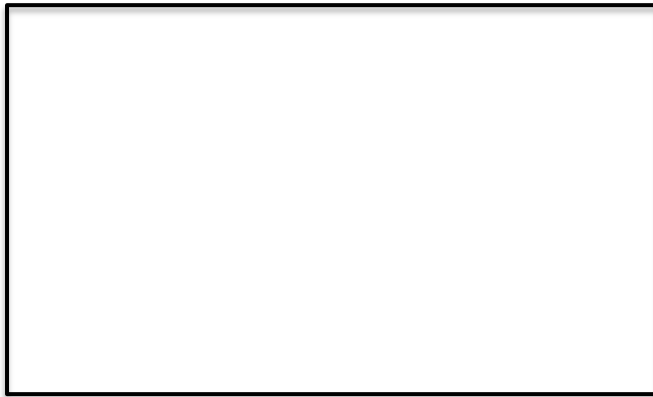


fig. II.1.7  
マルコ・ディ・バルトロメオ・ルスティチ  
《サント・セポルクロへの旅路の記録》  
(ルスティチ写本) c. 12 verso (部分)、15世紀中  
葉、フィレンツェ、大司教座神学校図書館

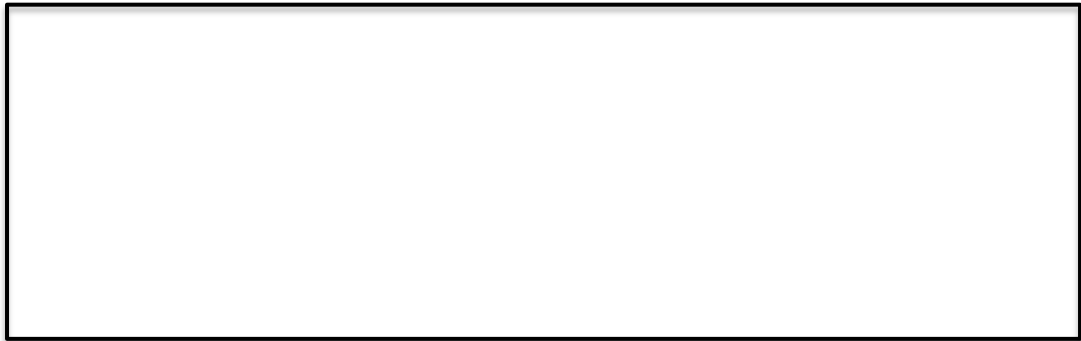


fig. II.1.8  
マルコ・ディ・バルトロメオ・ルスティチ 《サント・セポルクロへの旅路の記録》  
(ルスティチ写本) c. 14 verso (部分)、15世紀中葉、フィレンツェ、大司教座神学校図書館



fig. II.1.9  
マルコ・ディ・バルトロメオ・ルスティチ  
《サント・セポルクロへの旅路の記録》  
(ルスティチ写本) c. 26 verso (部分)、15世紀中葉、  
フィレンツェ、大司教座神学校図書館



fig. II.1.10  
フランチェスコ・ロッセッリ  
《カテーナ（フィレンツェ）地図》  
(部分：オニッサンティの広場)  
1470年頃、版画、58.5 x 131.5 cm  
(6葉にて構成)  
ベルリン、新博物館銅版画室



fig. II.2.1  
《大噴水（フォンタナ・グランデ）》  
ヴィテルボ、大噴水広場



fig. II.2.2  
《大噴水（フォンタナ・グランデ）》（部分）  
ヴィテルボ、大噴水広場

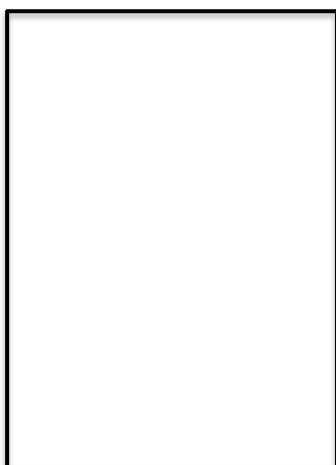


fig. II.2.3  
《サンタ・マリア・イン・  
ポッジョ噴水》ヴィテルボ、  
サンタ・マリア・イン・ポッ  
ジョ聖堂広場

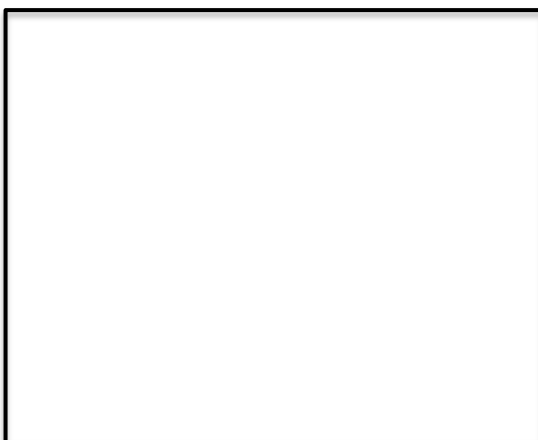


fig. II.2.4  
《ピアノスカラーノ噴水》  
ヴィテルボ、ピアーノ噴水広場



fig. II.2.5  
《ピアノスカラーノ噴水》（部分）  
ヴィテルボ、ピアーノ噴水広場



fig. II.2.6  
《大噴水（フォンタナ・マッジョーレ）》  
ペルージャ、11月4日広場



fig. II.2.7  
《大噴水（フォンタナ・マッジョーレ）》（部分）  
ペルージャ、11月4日広場



fig. II.2.8  
アルノルフォ・ディ・カンビオ  
《渴きを訴える若者》1281年、大理石、  
ペルージャ、ウンブリア国立美術館

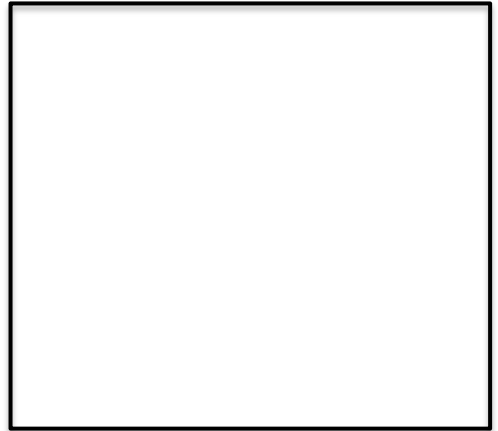


fig. II.2.9  
アルノルフォ・ディ・カンビオ  
《渴きを訴える女性》1281年、大理石、  
ペルージャ、ウンブリア国立美術館

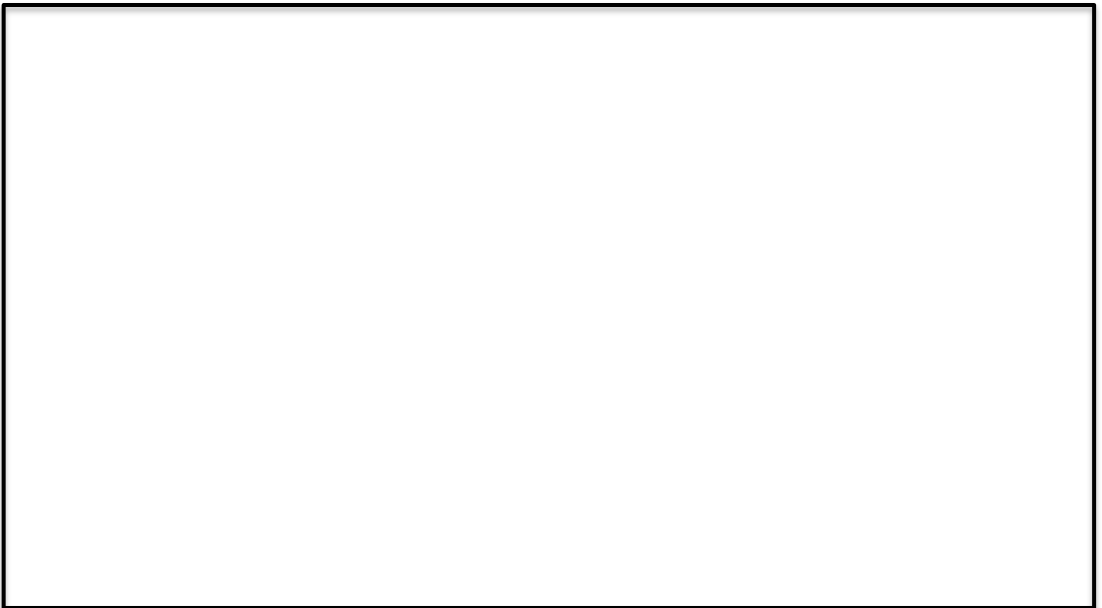


fig. II.2.10  
ヤコボ・デッラ・クエルチャ 《フォンテ・ガイア》  
1408-1419年（ティート・サッロッキによる複製、1858年）  
シエナ、カンポ広場



fig. II.2.11  
ヤコボ・デッラ・クエルチャ  
《フォンテ・ガイア》（部分）  
（ティート・サッロッキによる複製、1858年）

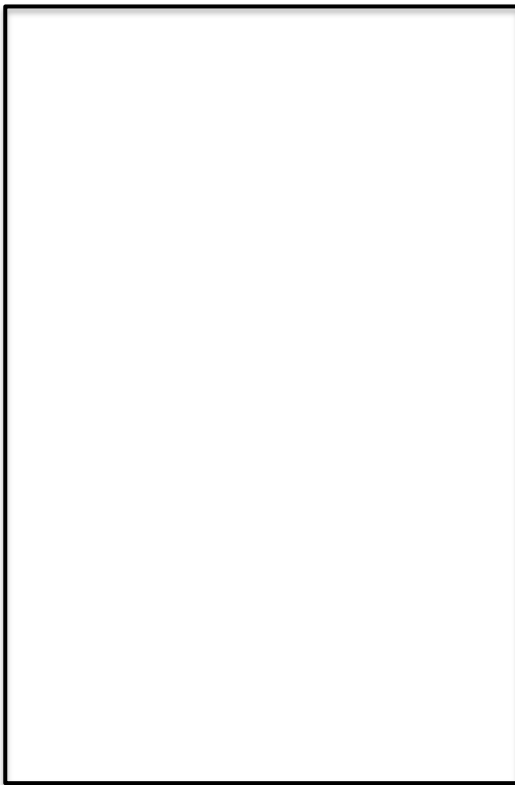


fig. II.2.12  
作者不詳《ライオンの水場》  
フィレンツェ、オルランディーニ宮殿

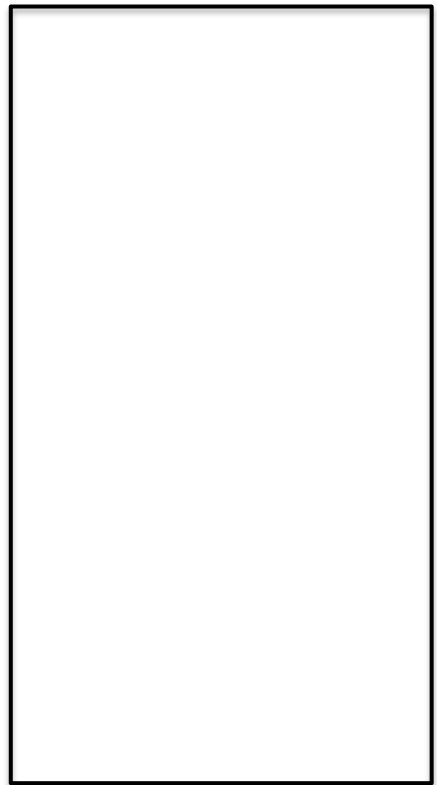


fig. II.2.13  
ジョヴァンニ・デッラ・ロッビア  
《聖水盤》1499年、テラコッタ、  
フィレンツェ、サンタ・マリア・ノヴェッラ聖堂  
聖具室

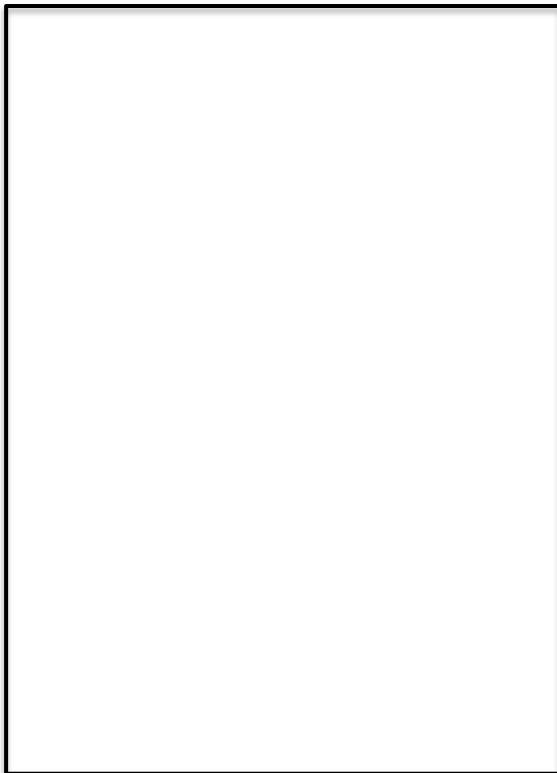


fig. II.2.14  
マンテーニャ派《噴水の習作》  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室

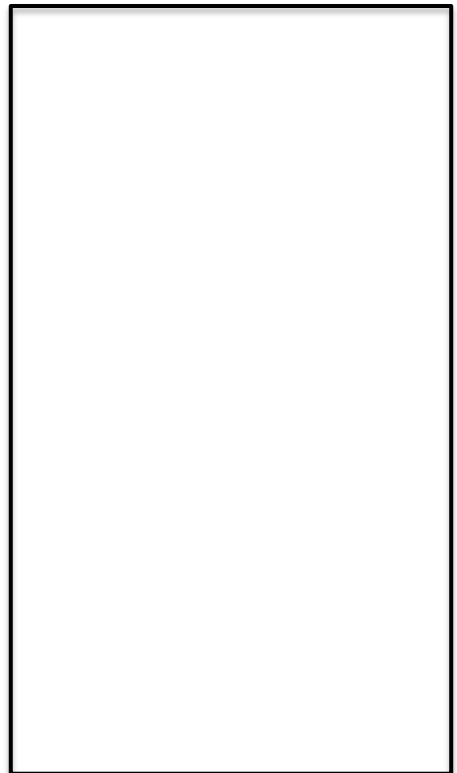


fig. II.2.15  
「噴水」木版画  
フランチェスコ・コロンナ『ヒュプロネロトマキ  
ア・ポリフィリ』（ヴェネツィア、1499年）に収録

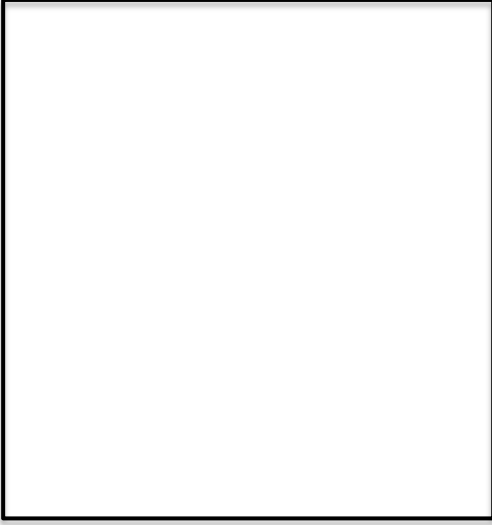


fig. II.2.16  
ドナテッロ 《魚を担ぐクピド》  
1435-1440年頃、ブロンズ、  
ロンドン、ヴィクトリア・アンド・  
アルバート美術館 inv. no. 475-1864

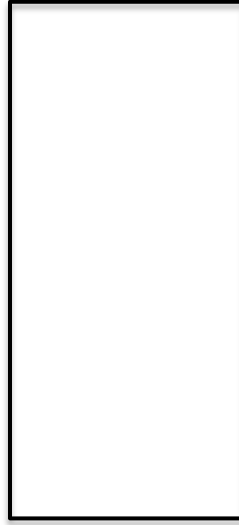


fig. II.2.17  
アンドレア・デッラ・ロッ  
ビア 《海豚を担ぐクピド》  
テラコッタ、  
ニューヨーク、エドウィン  
C. ホイト・コレクション

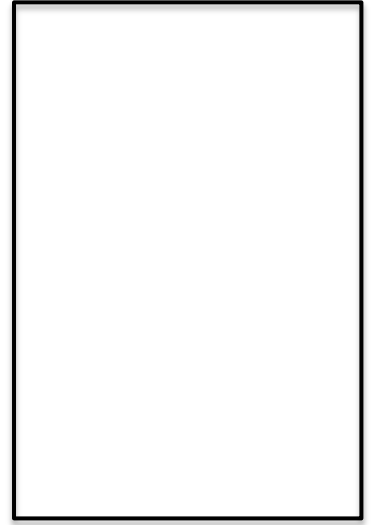


fig. II.2.18  
アンドレア・ル・ヴェロッキオ  
《海豚を抱えるクピド》ブロンズ、  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿

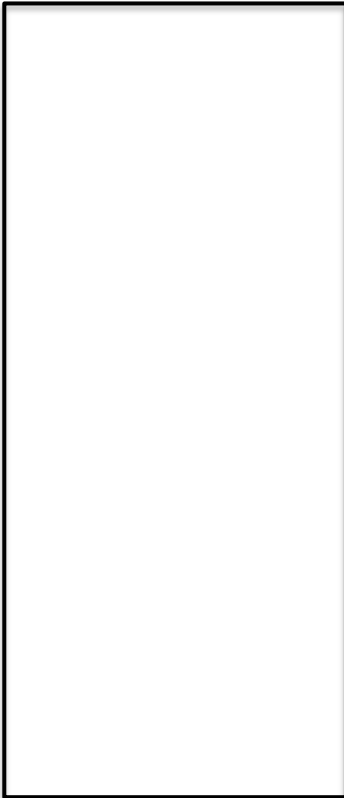


fig. II.2.19  
ドナテッロ 《ユディットとホロフェルネス》  
1457-1464年、ブロンズ、  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿

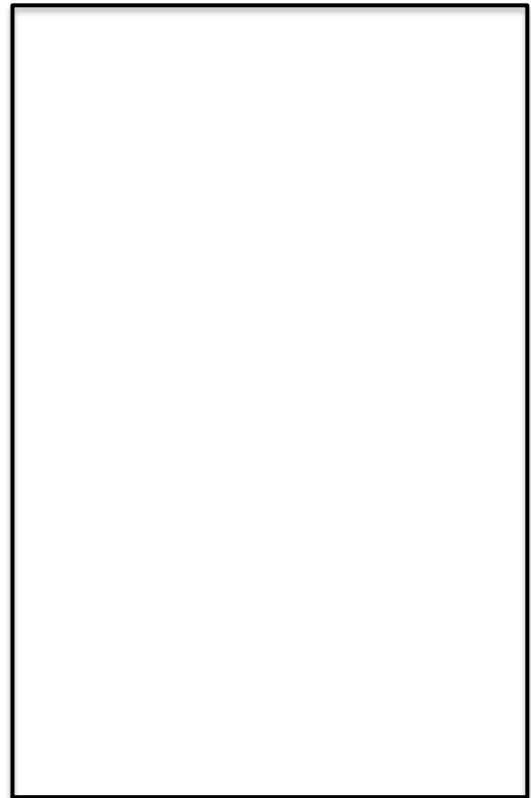


fig. II.2.20  
《メディチ家の噴水》大理石、  
カステッロ、メディチ家別邸グロッタ

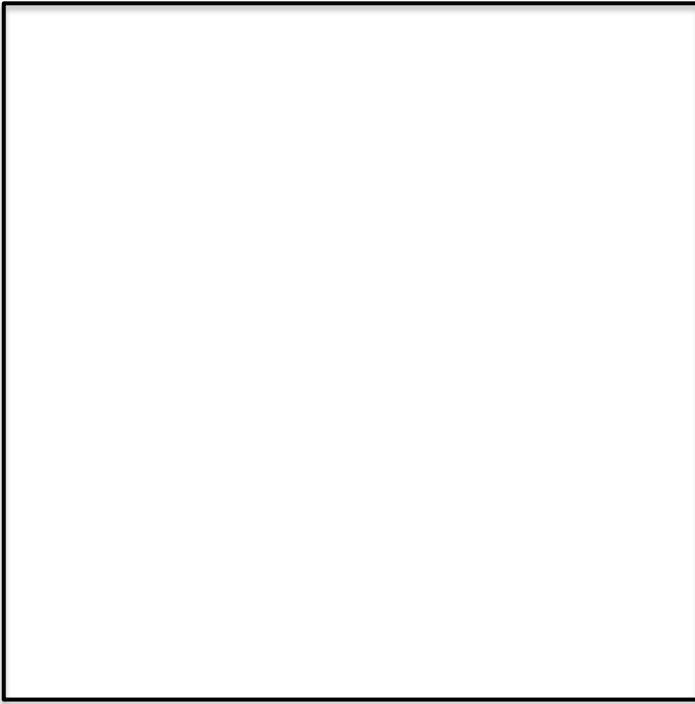


fig. II.2.21  
ピントゥリッキオ《噴水のそばに居るスザンナと長老たち》1493-1495年、フレスコ、  
ヴァティカン、ボルジアの間（諸聖人の間）

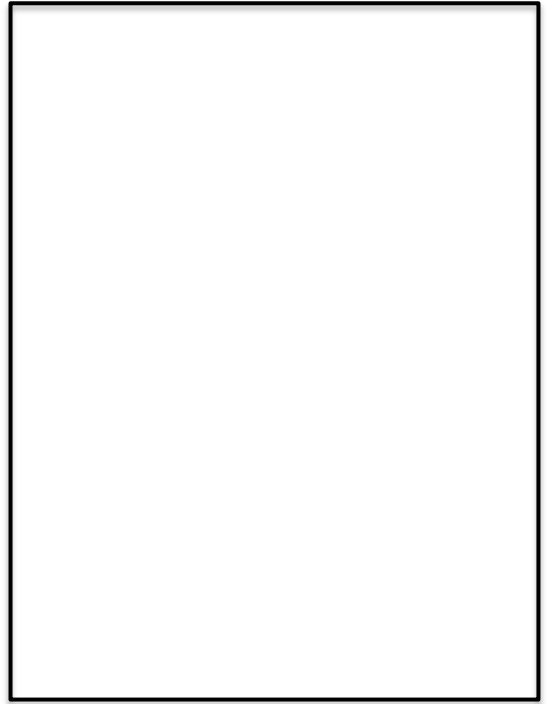


fig. II.2.22  
アゴスティーノ・ディ・ドゥッチョ  
《噴水の周りで踊りまわるプットーたち》  
1455年、ストウッコ、  
リミニ、マラテスティアーノ聖堂



fig. II.2.23  
ヤコボ・ベッリーニ《洗礼者聖ヨハネ聖堂の装飾》  
素描帖 R.F. 1484, 13 (fol. 16 recto)  
パリ、ルーヴル美術館素描版画室



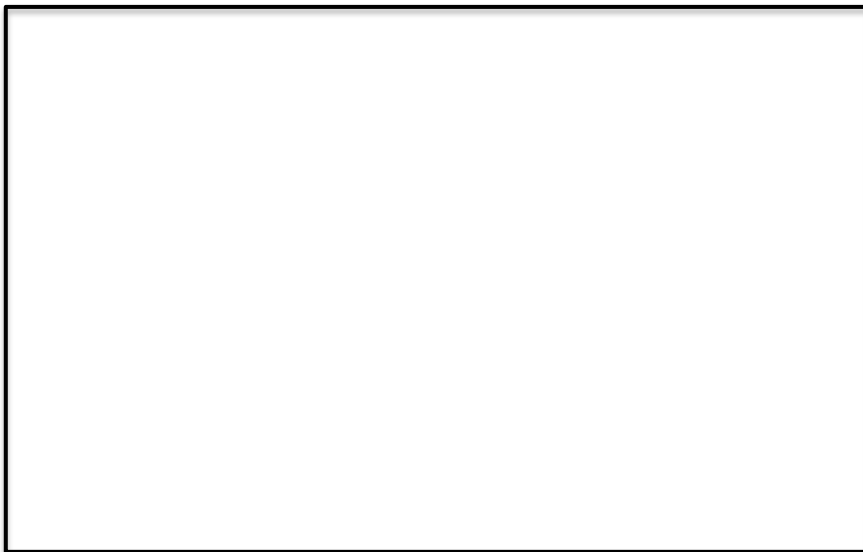


fig. II.3.1  
モントルソリ  
《トリトーンの噴水》  
1543-1547年、大理石他、  
ジェノヴァ、プリンチペ宮殿

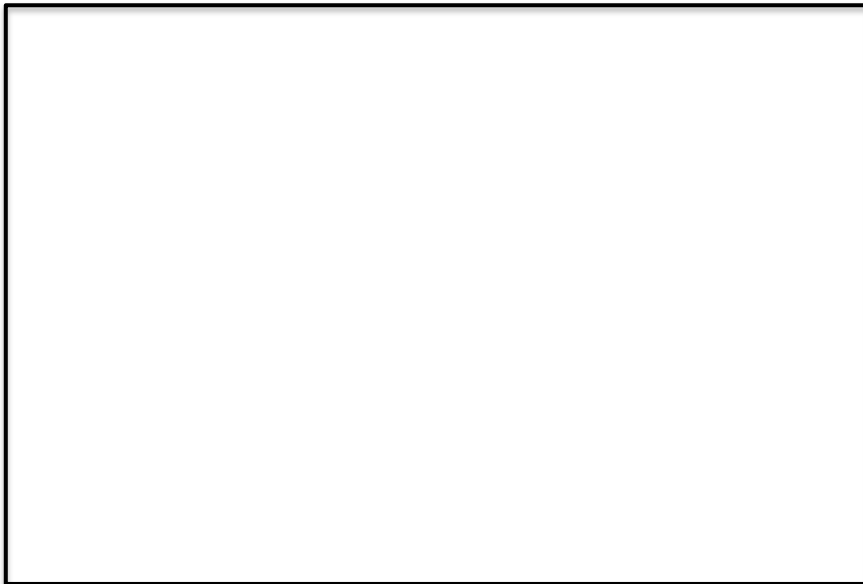


fig. II.3.2  
モントルソリ  
《トリトーンの噴水》（俯瞰写真）  
1543-1547年、大理石、  
ジェノヴァ、プリンチペ宮殿

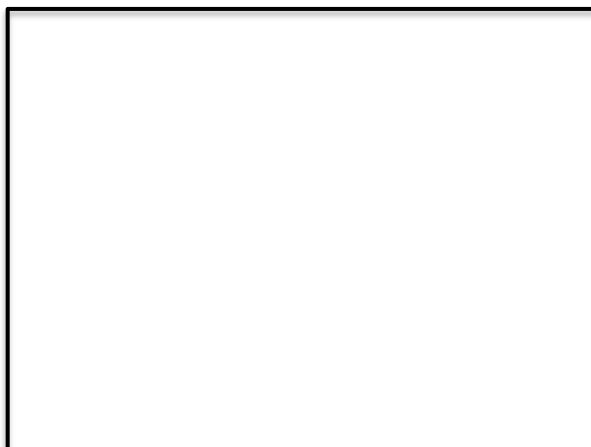


fig. II.3.3  
クリストーフォロ・デ・グラッシ  
《1481年のジェノヴァの都市景観》  
（ファッソーロ部分：サン・ベネデット聖堂と  
サン・トンマーゾ聖堂を左右に構える15世紀の  
ドーリア邸敷地）  
1597年、222 x 400 cm、カンヴァスにテンペラ、  
ジェノヴァ、ガラータ海洋博物館 inv. no. 3486



fig. II.3.4  
作者不詳《スタビア、カステッラマーレの海に面する古代  
ローマのヴィッラ》1世紀、フレスコ壁画、  
ナポリ、国立考古学博物館



fig. II.3.5  
ジェノヴァ、プリンチペ宮殿（庭園南からの眺望）



fig. II.3.6  
ジェノヴァ、プリンチペ宮殿（南ファサード西側）

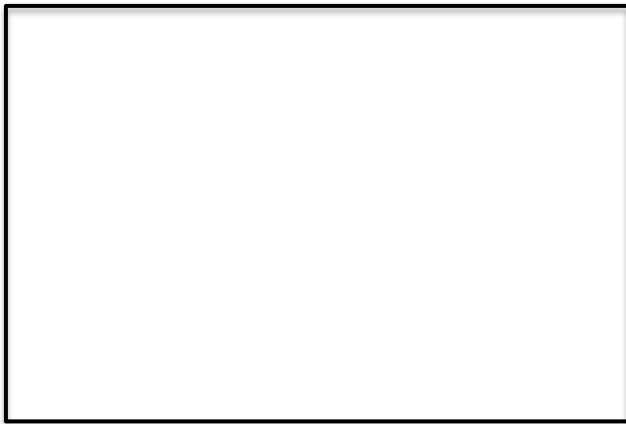


fig. II.3.7  
ジェノヴァ、プリンチペ宮殿（南ファサードから  
庭園を見下ろす眺望）

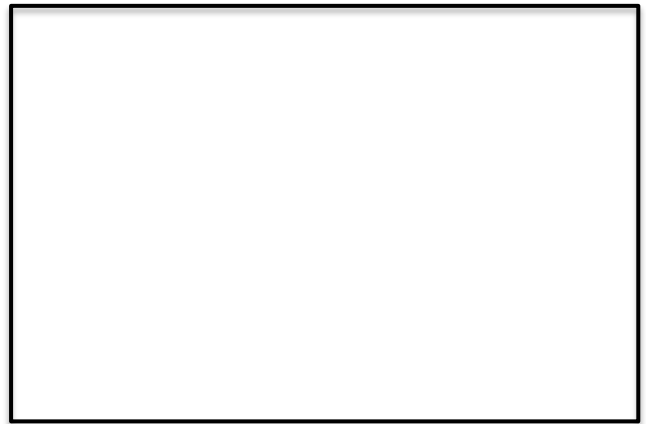


fig. II.3.8  
タッデオ・カルローネ  
《ネプトゥヌスとしてのアンドレア・ドーリアの大噴水》  
1599年、大理石、ジェノヴァ、プリンチペ宮殿南庭園

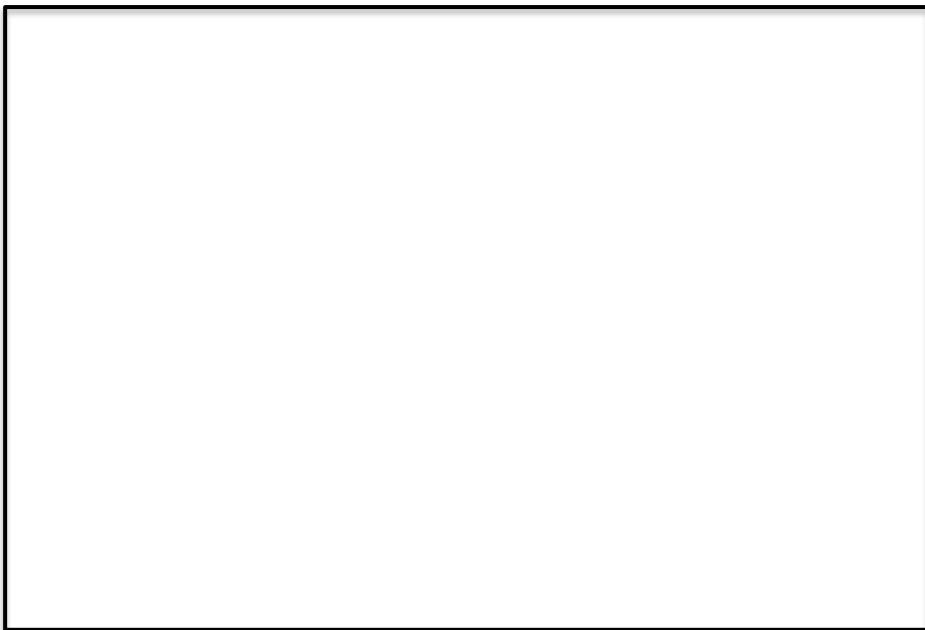


fig. II.3.9  
アウレリオおよびフェリーチェ・カルヴィ 《ジェノヴァの景観》  
（部分：モントルソリによるストウッコのヘラクレス像を配したドーリア邸の南庭園）  
1584年頃、フレスコ、ジェノヴァ、ドーリア・スピノーラ宮殿上階ロτζジャ

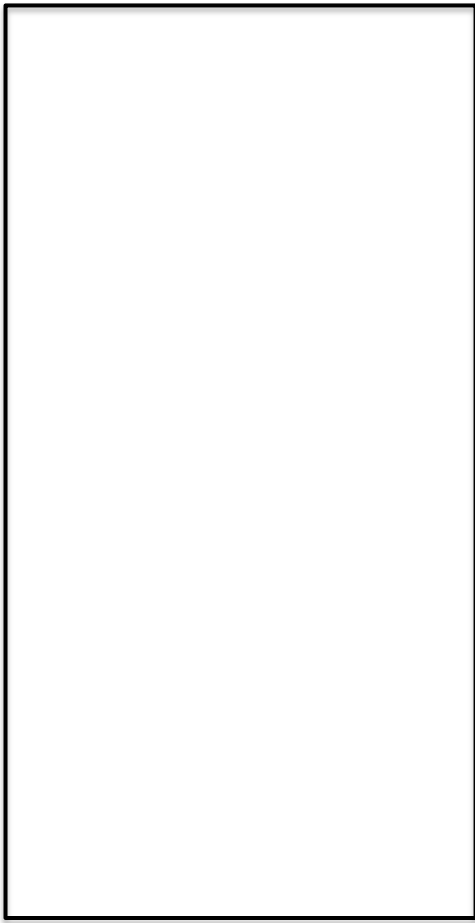


fig. II.3.10  
モントルソリ 《トリトーンと海の怪物》  
(fig. II.3.2部分：正面観)

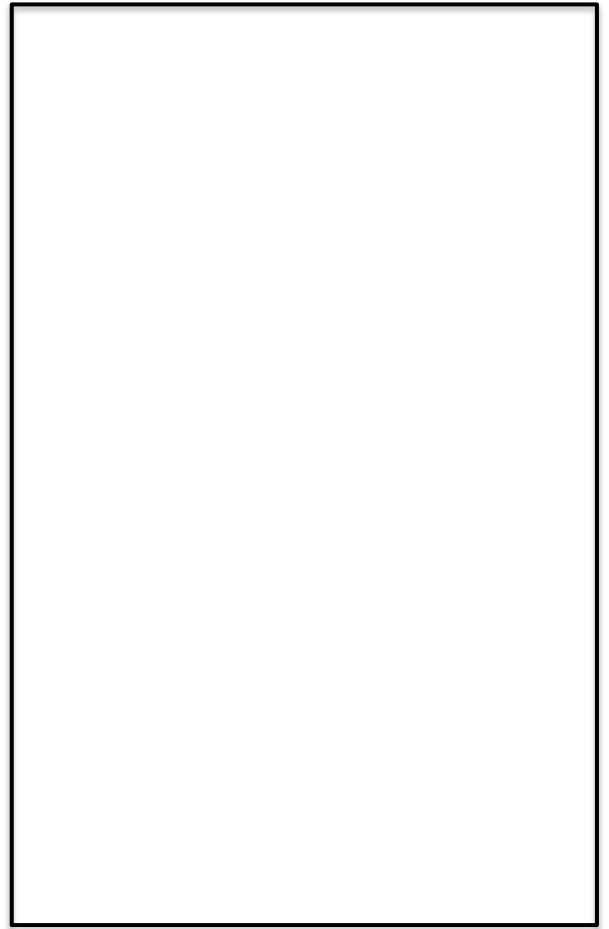


fig. II.3.11  
モントルソリ 《トリトーンと海の怪物》  
(fig. II.3.2部分：左側面観)

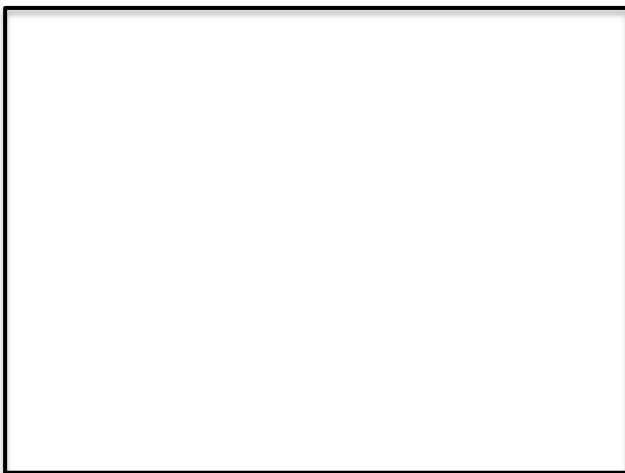


fig. II.3.12  
アントニオ・ロレンツィ他 《動物たちの噴水》  
カステッロ、メディチ家別邸、グロッタ正面ニッチ

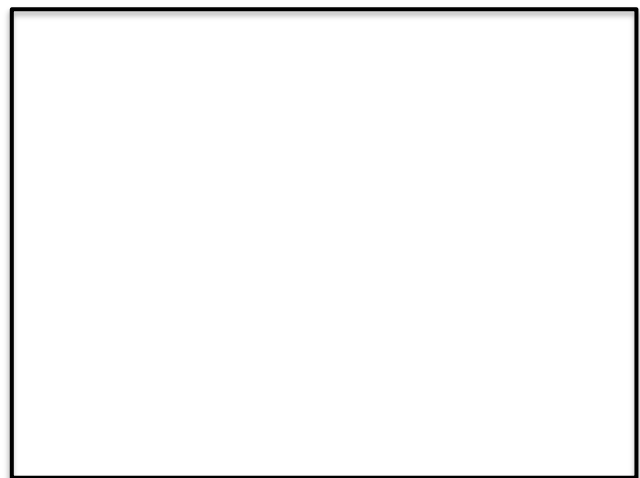


fig. II.3.13  
ブオンタレンティ、ピエロ・ディ・トンマーゾ・マーティ他  
《グロッタ・グランデ》（内観）1583-1584年、  
フィレンツェ、ピッティ宮殿附属ボーボリ庭園

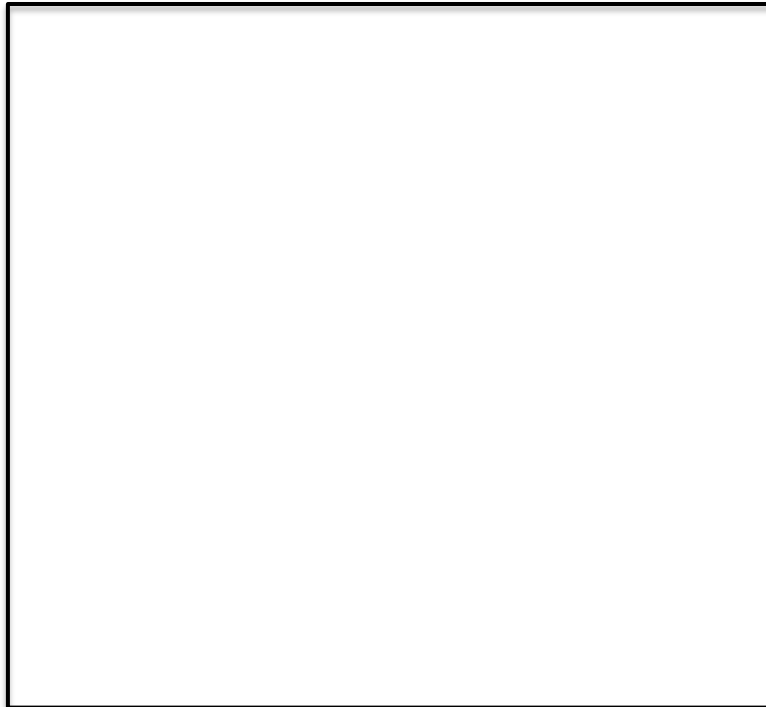


fig. II.3.14  
モントルソリ 《カンデラブロ噴水》 1543-1547年、大理石、  
ジェノヴァ、プリンチペ宮殿



fig. II.3.15  
モントルソリ他 《オリオンの噴水》 1547-1553年、  
メッシーナ、サンタ・マリア・ヌオーヴァ大聖堂広場



fig. II.3.16  
モントルソリ 《カンデラブロ噴水》  
(fig. II.2.47：水槽部分)



fig. II.3.17  
モントルソリ 《カンデラブロ噴水》  
(fig. II.2.47：水槽縁装飾部分)

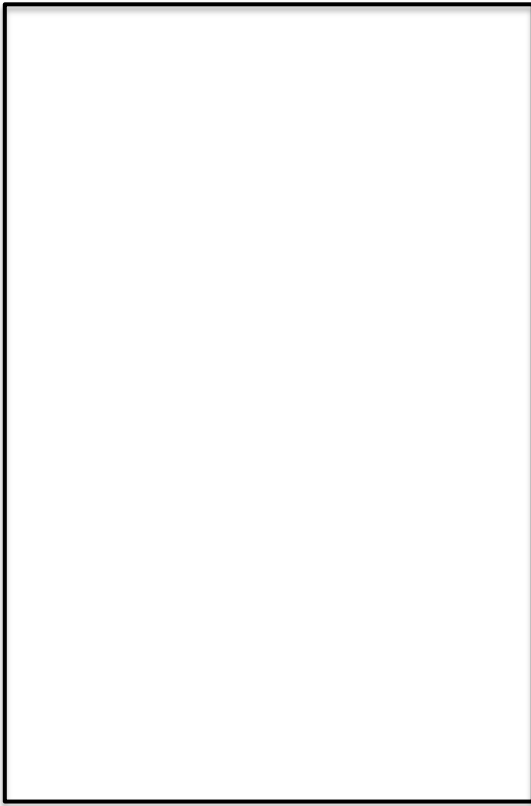


fig. II.3.18  
モントルソリ 《カンデラブロ噴水》  
(fig. II.2.47：トリトーン部分)

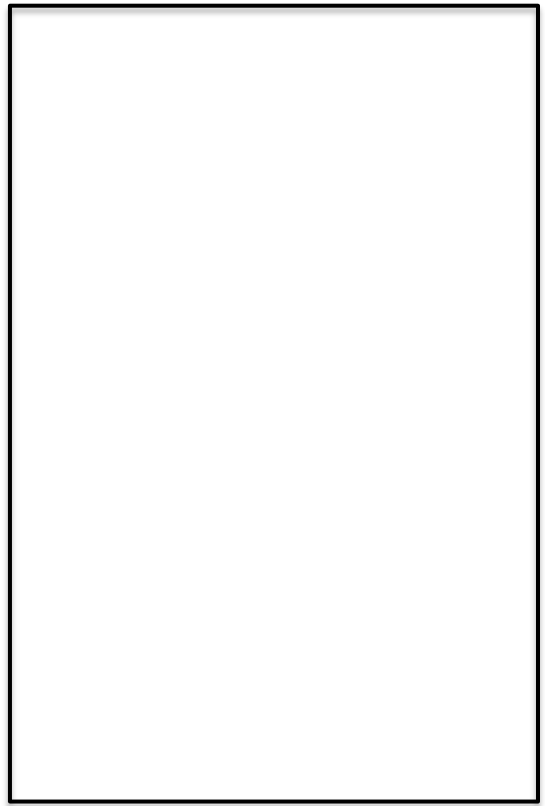


fig. II.3.19  
モントルソリ 《カンデラブロ噴水》  
(fig. II.2.47：トリトーン部分)

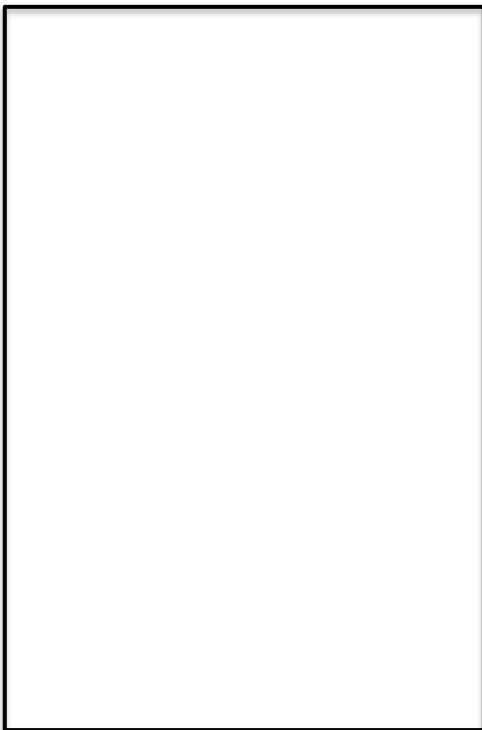


fig. II.3.20  
モントルソリ 《カンデラブロ噴水》  
(fig. II.2.47：プッターたち部分)

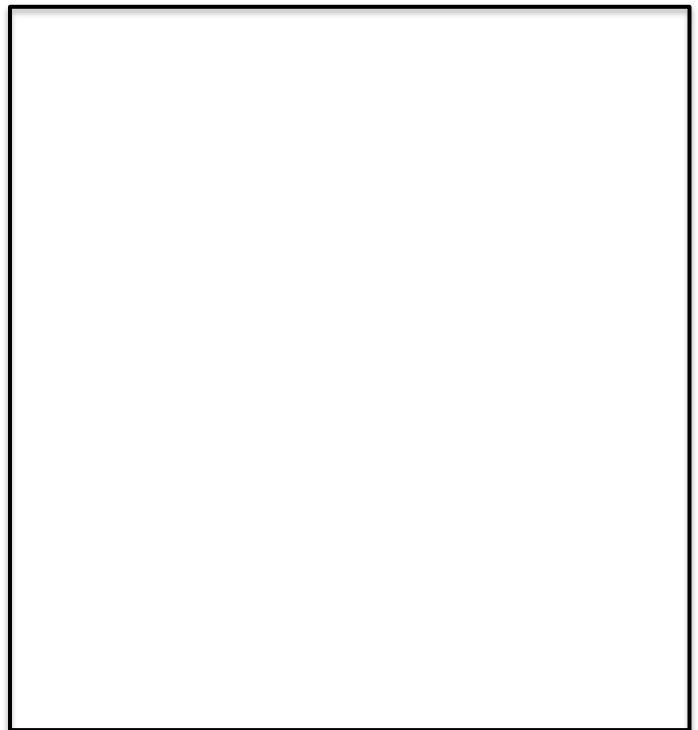


fig. II.3.21  
モントルソリ 《カンデラブロ噴水》  
(fig. II.2.47：プッターたち部分)



fig. II.3.22

トリーボロ、アンマンナーティ他《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》  
(レプリカにて庭園内に復元) 大理石、ブロンズ、1538-1560年、  
カステッロ、メディチ家別邸

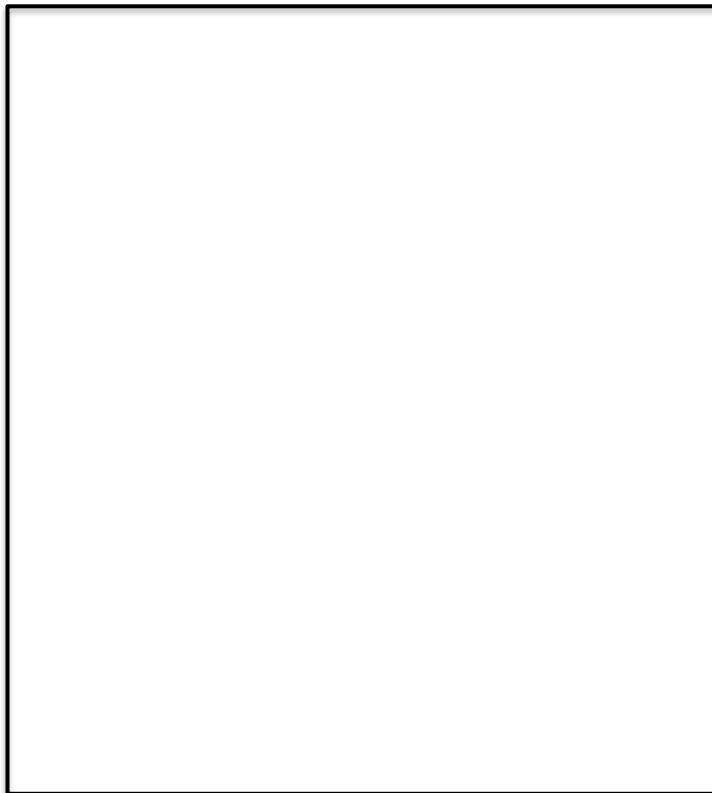


fig. II.3.23

トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》  
(レプリカにて庭園内に復元) 大理石、ブロンズ、1538-1572年、  
カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトライア



fig. II.3.24 モントルソリ他《オリオンの噴水》（fig. II.3.15）

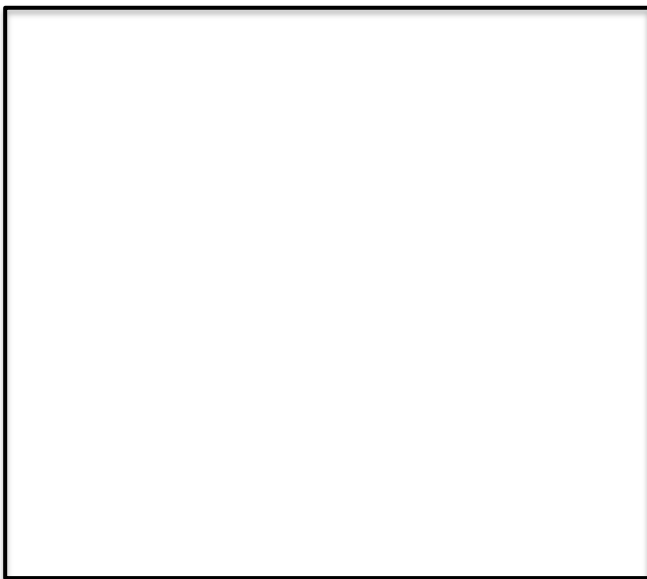


fig. II.3.25  
モントルソリ他《オリオンの噴水》（俯瞰写真）  
1547-1553年、メッシーナ、サンタ・マリア・ヌ  
オーヴァ大聖堂広場

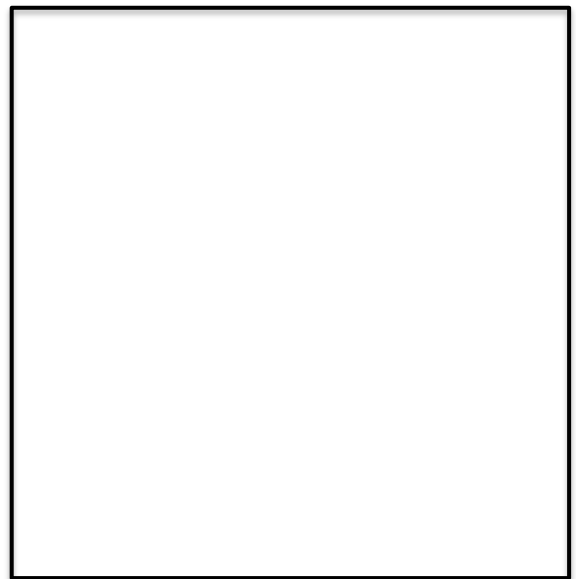


fig. II.3.26  
「オリオンの噴水の平面図」  
Hittorff-Zanth 1985 より転載



fig. II.3.27 「アキスとポリュフェモス」

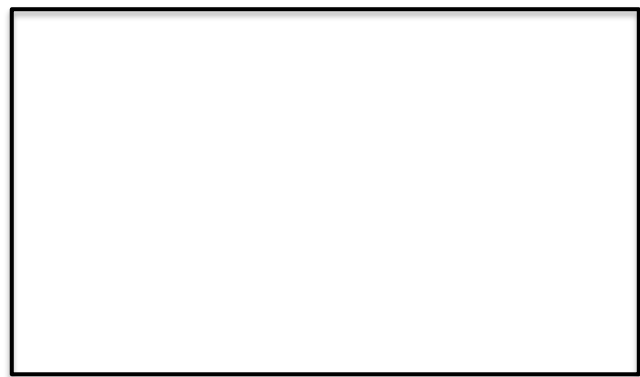


fig. II.3.28 「イシスとオシリス」



fig. II.3.29 「ナルキッソス」



fig. II.3.30 「ディアナとアクタイオン」

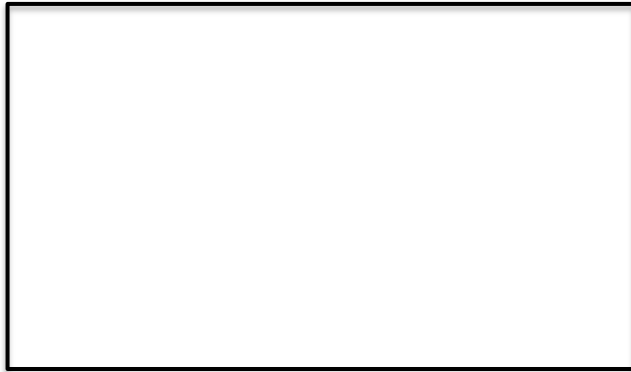


fig. II.3.31 「ペガソス」

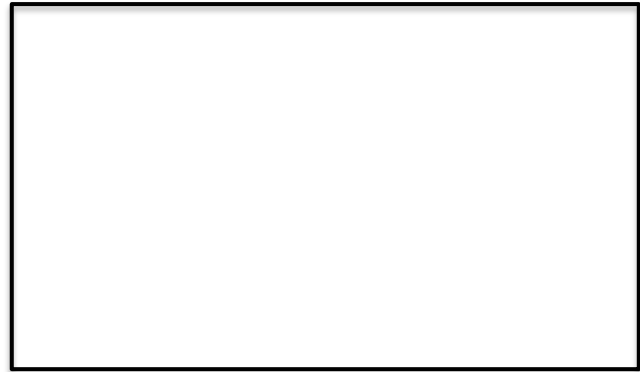


fig. II.3.32 「エウロペの略奪」

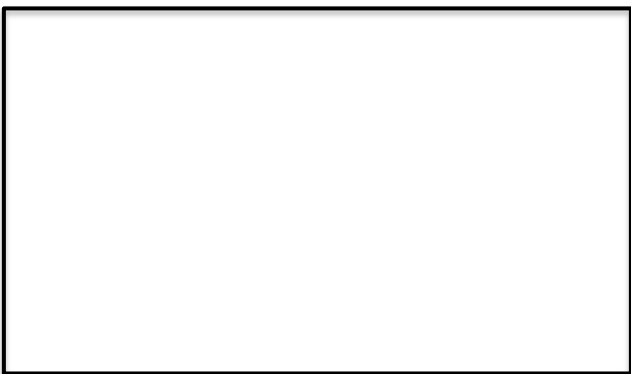


fig. II.3.33 「ダイダロスとイカロス」



fig. II.3.34 「プリクソスとヘーレー」



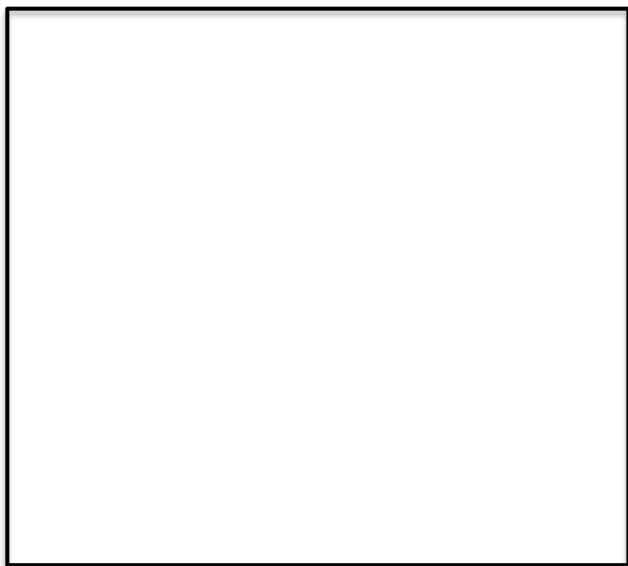


fig. II.3.35  
《テヴェレ河》と水槽凹部装飾、小水盤

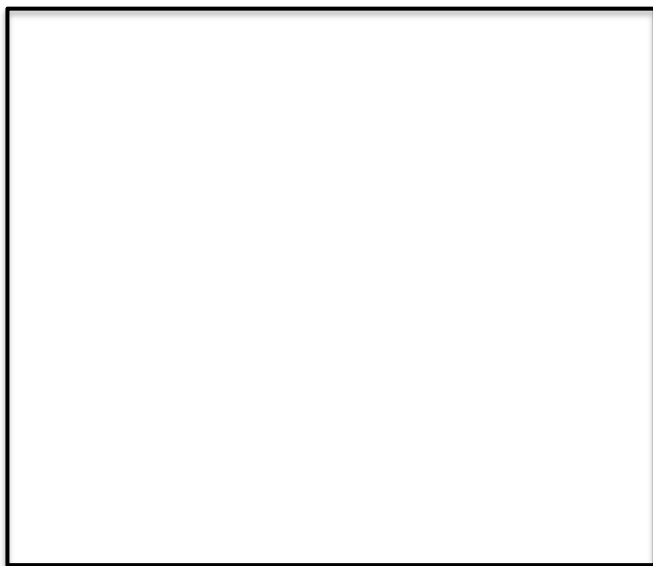


fig. II.3.36  
《エブロ河》と水槽凹部装飾、小水盤

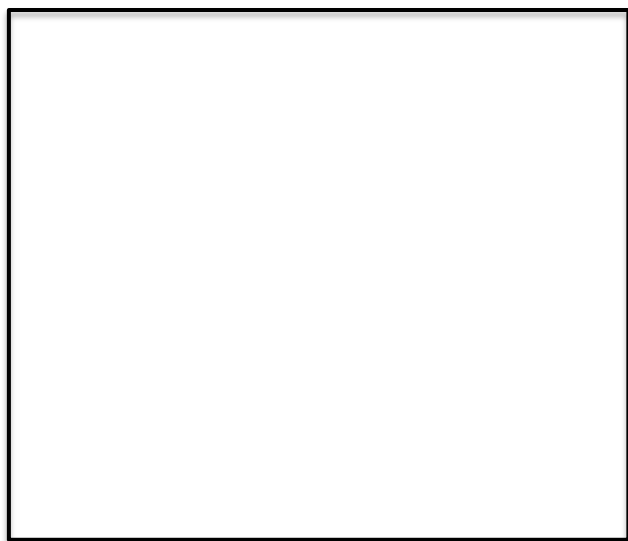


fig. II.3.37  
《カマロ河》と水槽凹部装飾、小水盤

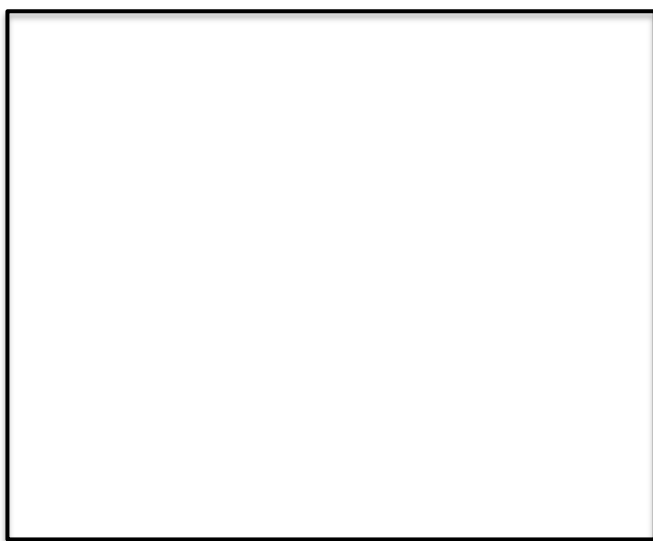


fig. II.3.38  
《ナイル河》と水槽凹部装飾、小水盤

すべてモントルソリ 《オリオンの噴水》（fig. II.3.15：水槽装飾部分）

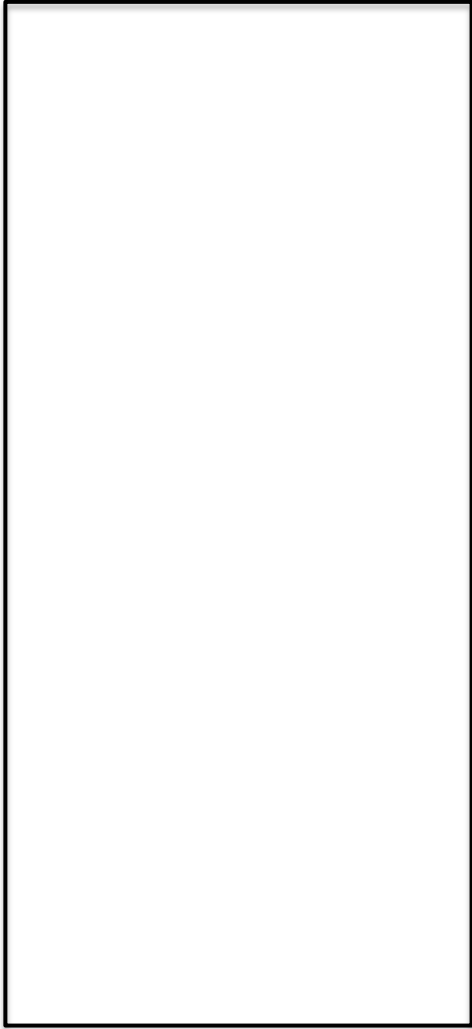


fig. II.3.39  
《デヴェレ河》の下部浮彫装飾（左から《盲目のクピド》  
《海豚に股がるプットー》《双子を育てる雌狼》《海豚に股がるプットー》《アリオン》）

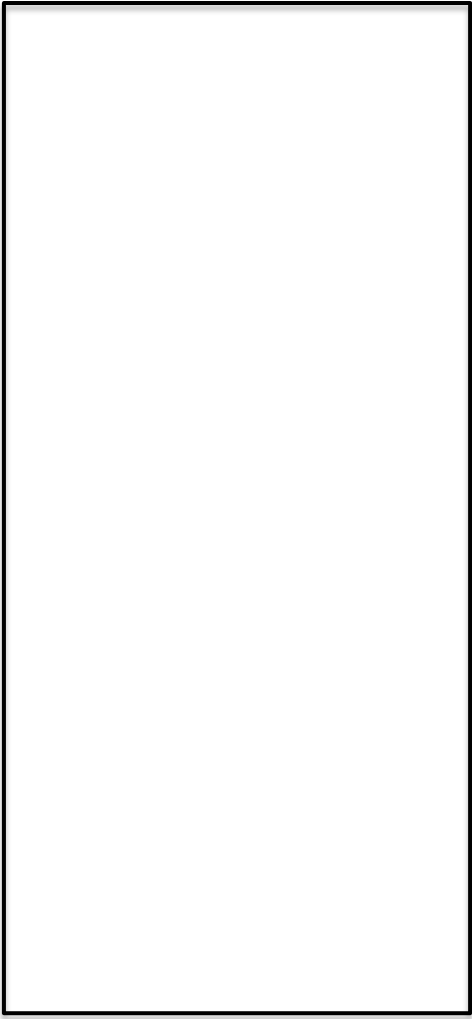


fig. II.3.41  
《カマロ河》の下部浮彫装飾（左から《スキュラ》《海豚を伴うプットー》《女性擬人像  
メッシーナとカマロ河》《海豚を伴うプットー》《カリュブデイス》）

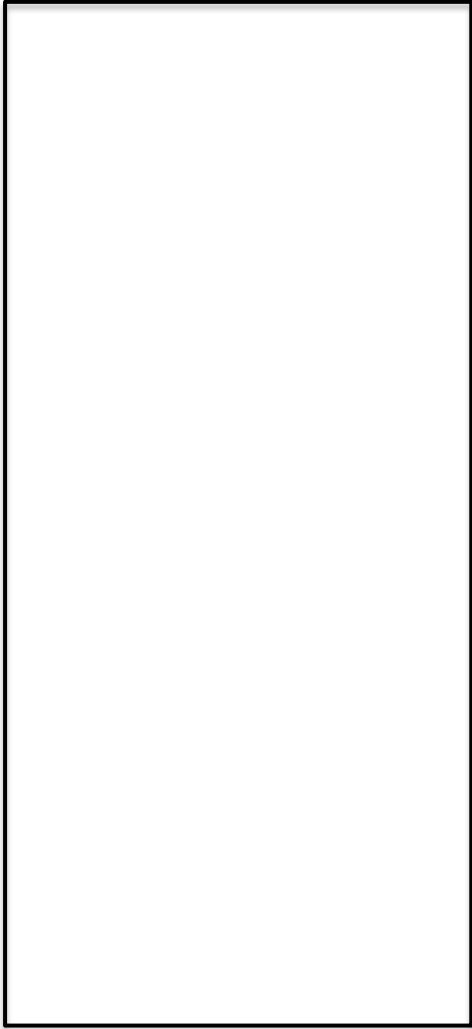


fig. II.3.40  
《エプロ河》の下部浮彫装飾（左から《ネプトウヌス》《トロフィーを掲げるプッ  
トー》《エプロ河、ネプトウヌス、コルヌコピアを持つ女性像、カール5世の紋章  
（「カール5世の勝利」）》《トロフィーを掲げるプットー》《プルートーン》）

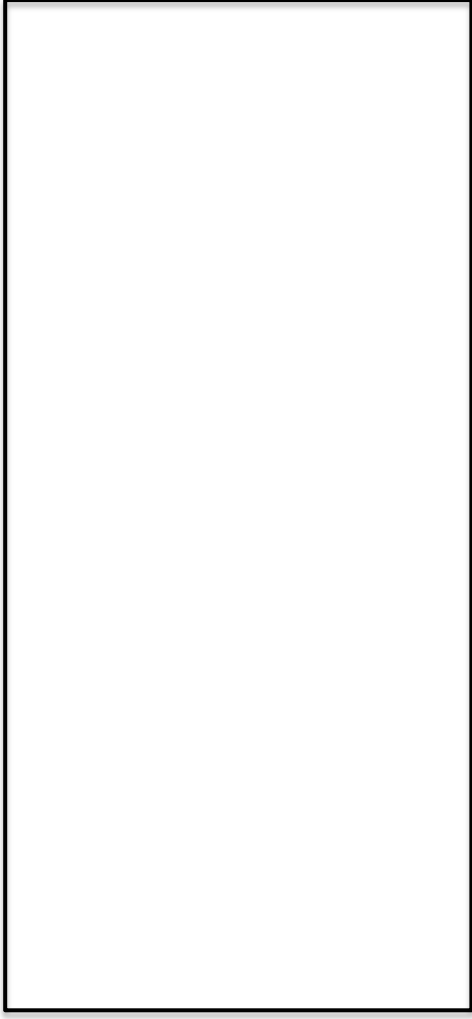


fig. II.3.42  
《ナイル河》の下部浮彫装飾（左から《ガラテア》《プットー》  
《ナイル河》《プットー》《ウェヌスと松明持ち》）

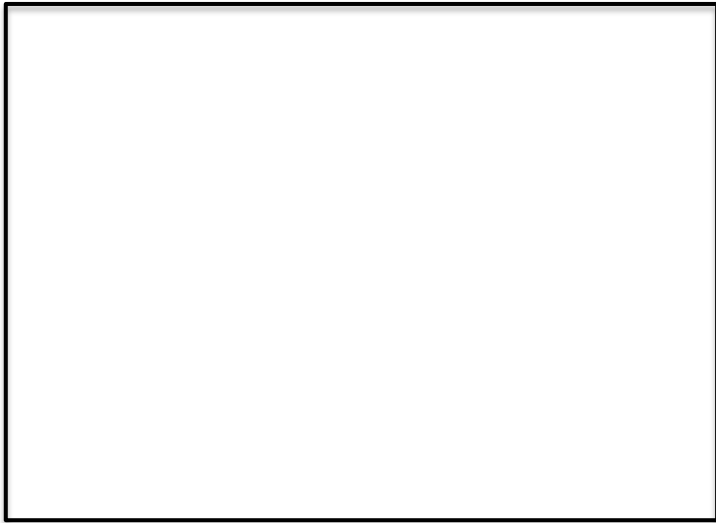


fig. II.3.43  
モントルソリ 《オリオンの噴水》  
(fig. II.3.15部分：《海馬》)

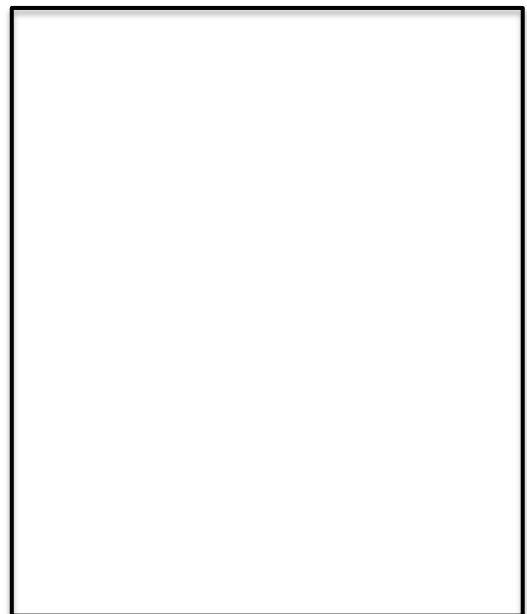


fig. II.3.44  
モントルソリ 《オリオンの噴水》  
(fig.II.3.15部分：《海のグリフィン》)

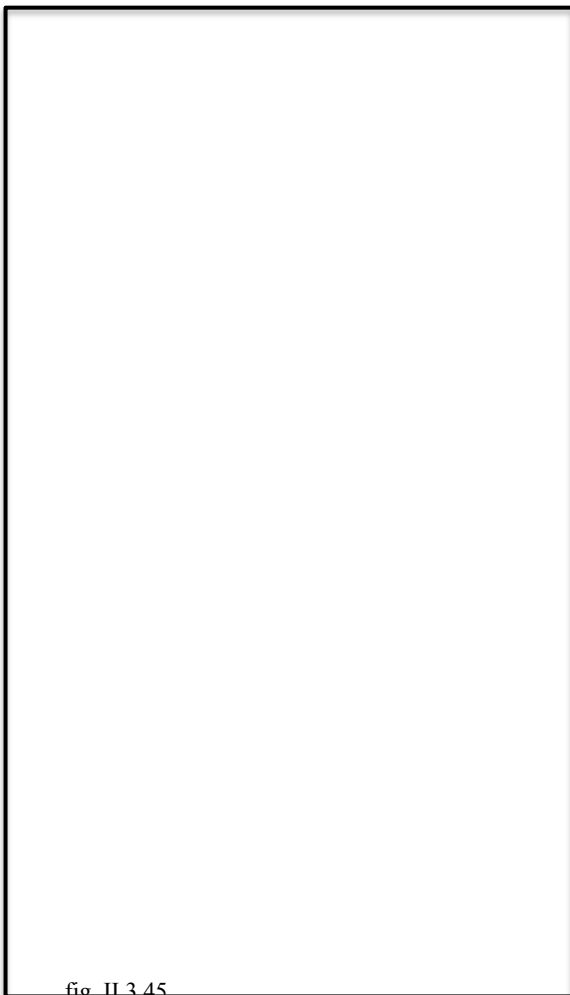


fig. II.3.45  
モントルソリ 《オリオンの噴水》  
(fig. II.3.15部分：上部構造)

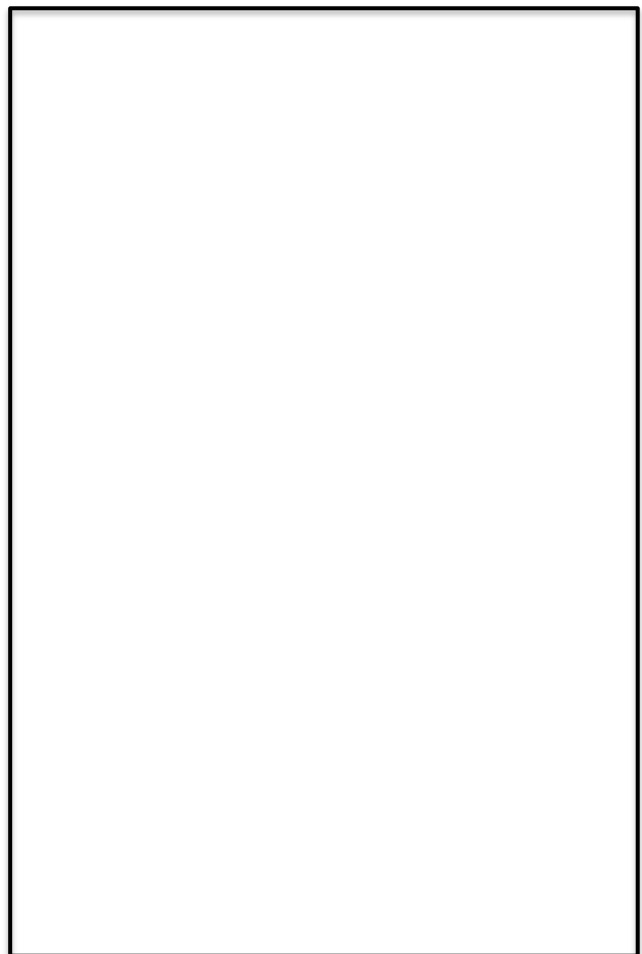


fig. II.3.46  
モントルソリ 《オリオンの噴水》  
(fig. II.3.15部分：《トリトーン》)

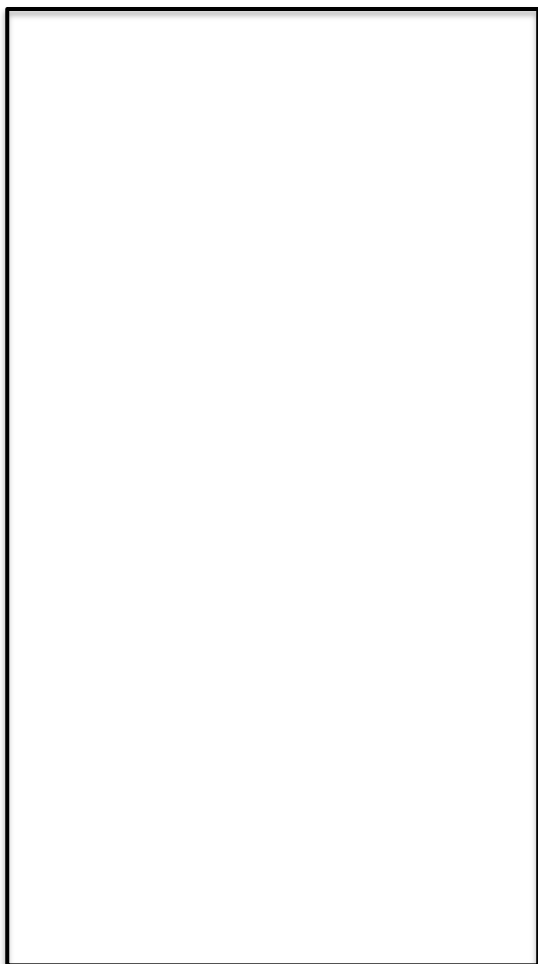


fig. II.3.47  
モントルソリ 《オリオンの噴水》  
(fig. II.3.15：上部構造《ネレイス》部分)

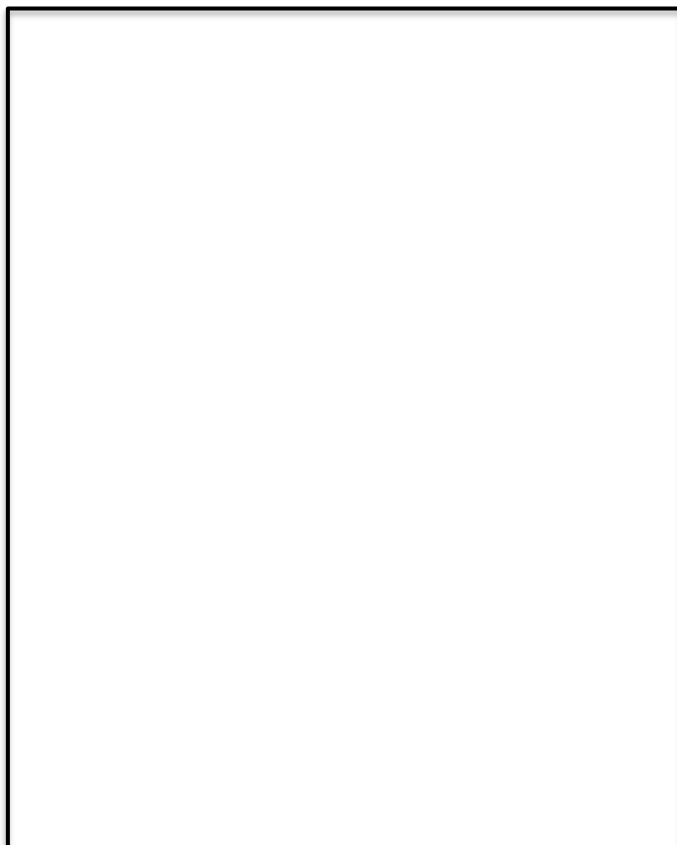


fig. II.3.48  
モントルソリ 《オリオンの噴水》  
(fig. II.3.15：上部構造《ネレイス》部分)

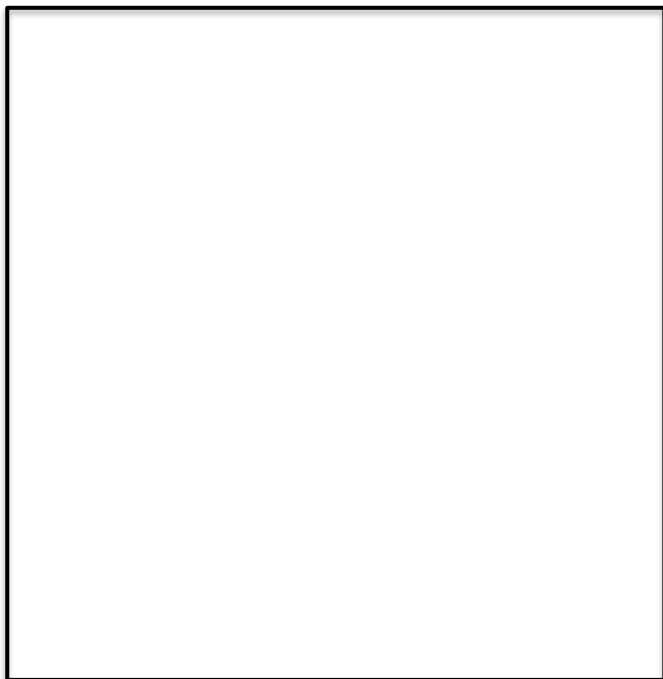


fig. II.3.49  
モントルソリ 《オリオンの噴水》  
(fig. II.3.15：上部構造《プットーたち》部分)

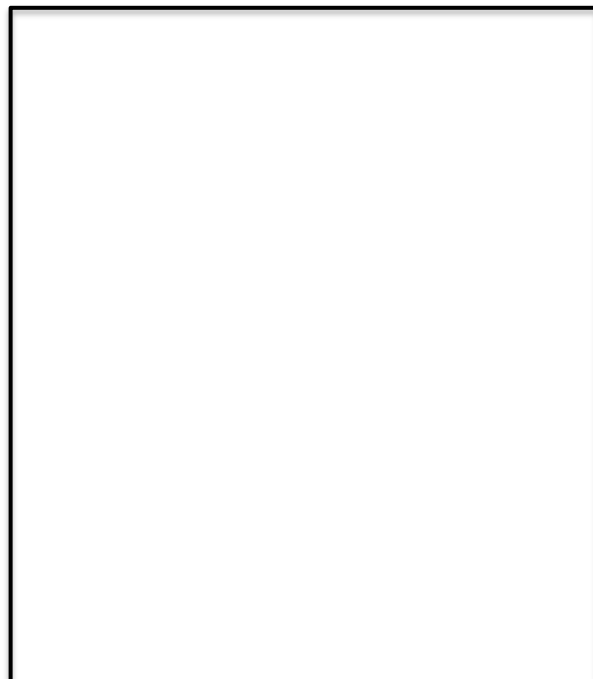


fig. II.3.50  
モントルソリ 《オリオンの噴水》  
(fig. II.3.15：上部構造《プットーたち》部分)

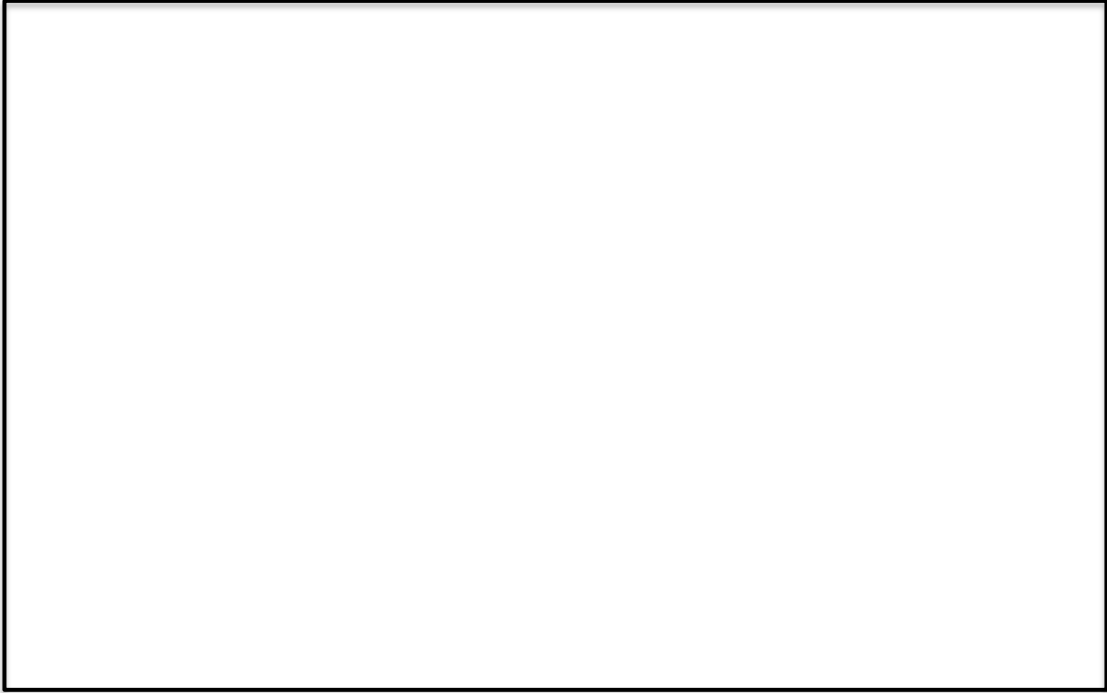


fig. II.3.51  
モントルソリ 《オリオンの噴水》  
(fig. II.3.15 : 上部構造部分)



fig. II.3.52  
モントルソリ 《オリオンの噴水》  
(fig. II.3.15 : 《オリオン》〔正面観〕)



fig. II.3.53  
モントルソリ 《オリオンの噴水》  
(fig. II.3.15 : 《オリオン》〔背面観〕)



fig. II.3.54  
メッシーナ、ドガーナ門正面写真  
(20世紀の移設以前における《ネプトゥヌスの噴水》  
の設置状況)

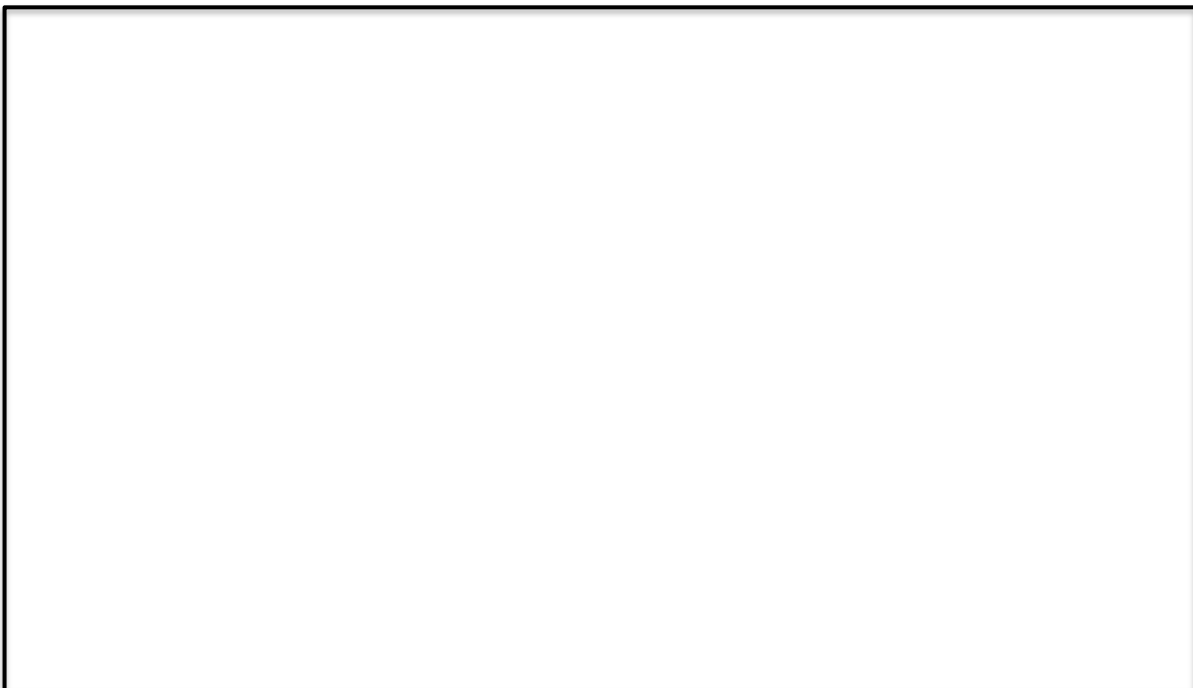


fig. II.3.55  
モントルソリ他《ネプトゥヌスの噴水》（正面観：レプリカを含む）1551以降-1557年、  
メッシーナ、イタリア統一広場

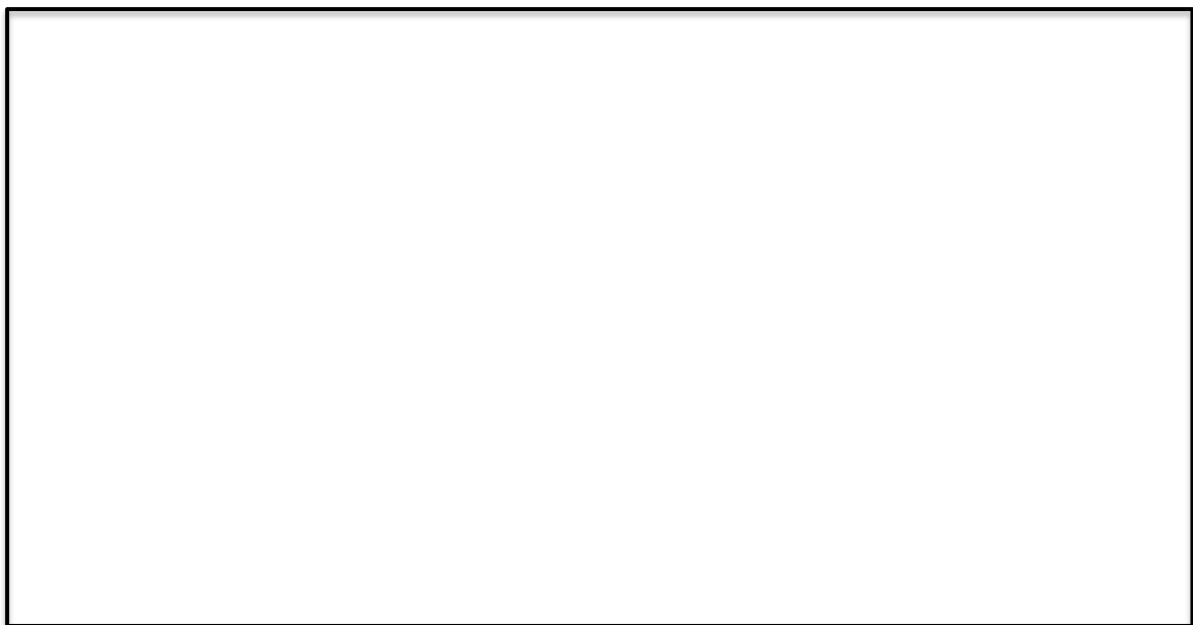


fig. II.3.56  
モントルソリ他《ネプトゥヌスの噴水》（背面観：レプリカを含む）1551以降-1557年、  
メッシーナ、イタリア統一広場

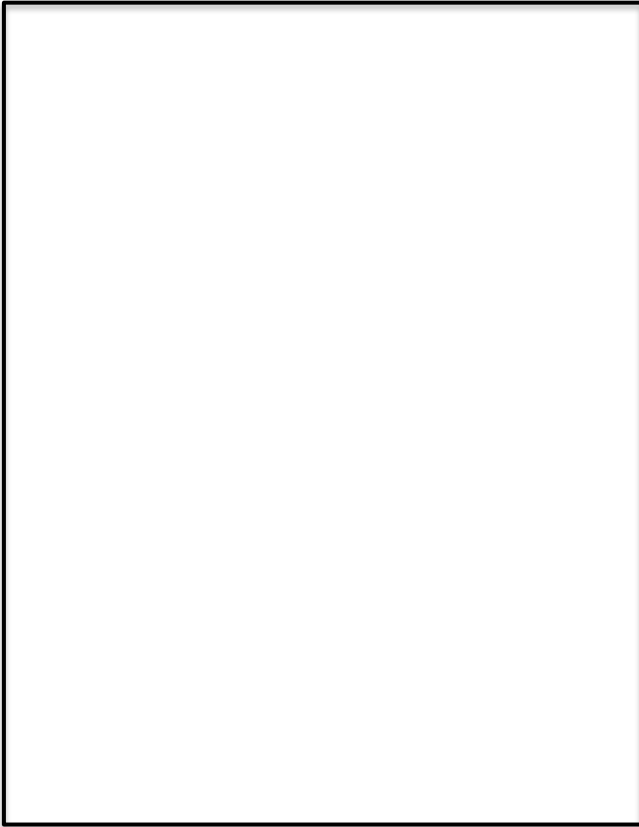


fig. II.3.57  
モントルソリ他《ネプトゥヌスの噴水》  
(fig. II.3.55：中央3体部分)

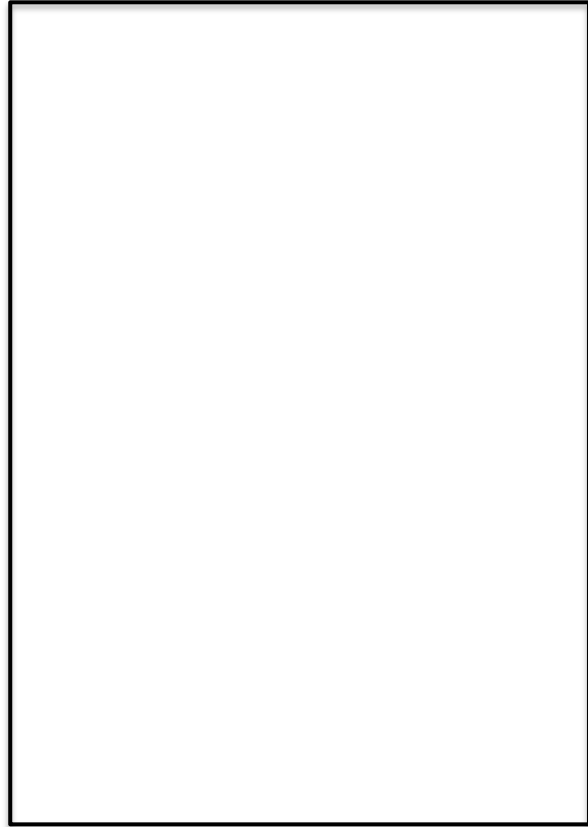


fig. II.3.58  
モントルソリ《ネプトゥヌス》大理石、  
メッシーナ州立美術館

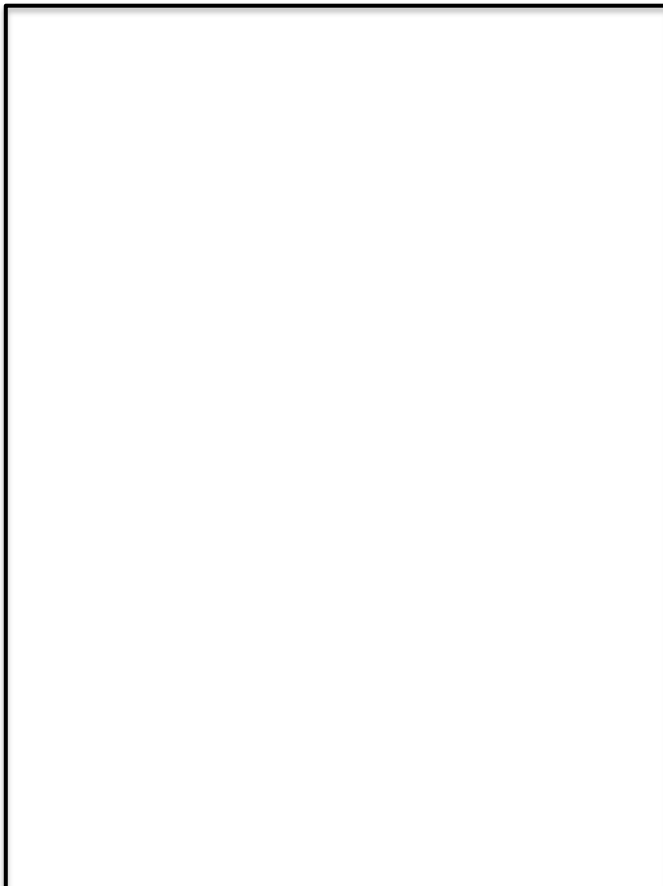


fig. II.3.59  
作者不詳《メッシーナのネプトゥヌスの噴水》年代不詳、ペン、インク、  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館  
素描版画室 inv. 943E

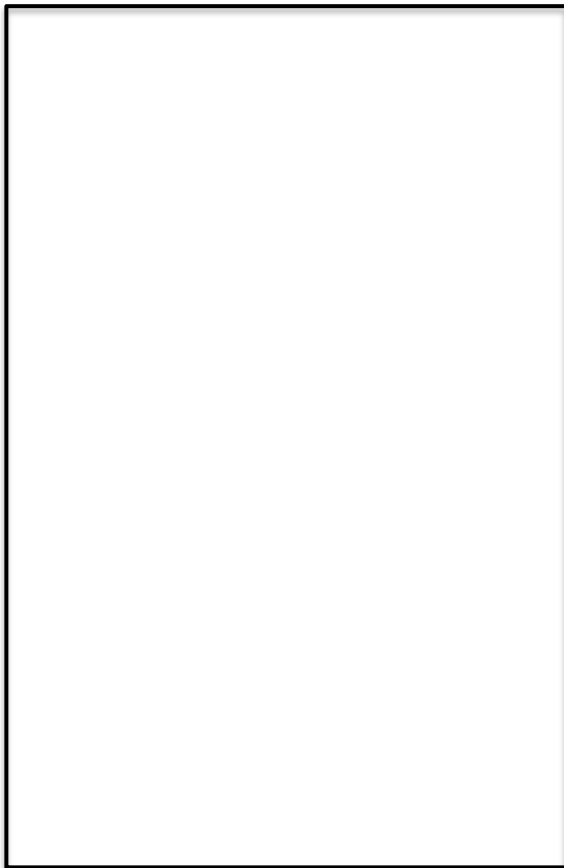


fig. II.3.60  
モントルソリ 《スキュラ》大理石  
メッシーナ州立美術館

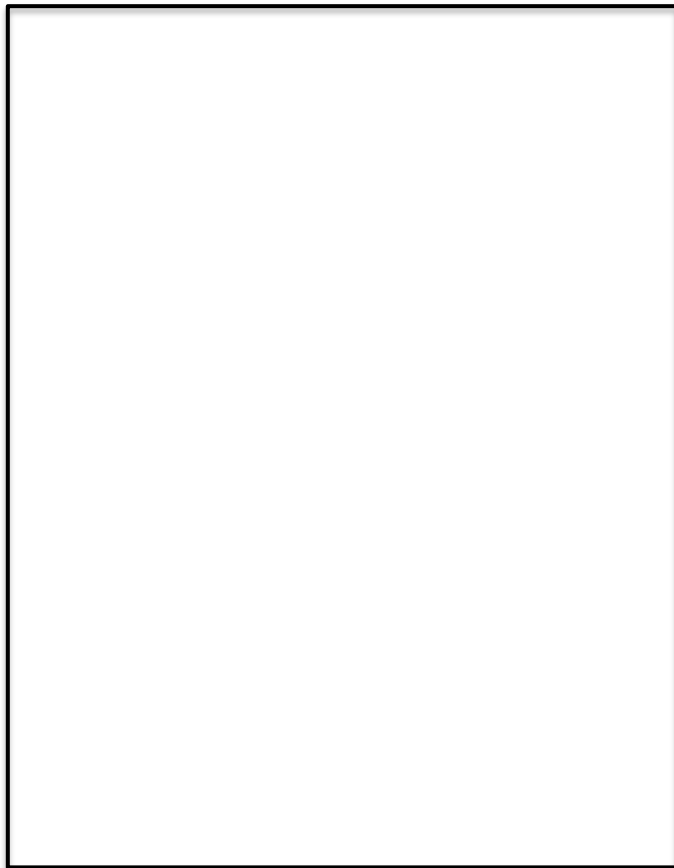


fig. II.3.61  
モントルソリ 《カリュブデイス》大理石  
(fig. II.3.55部分)

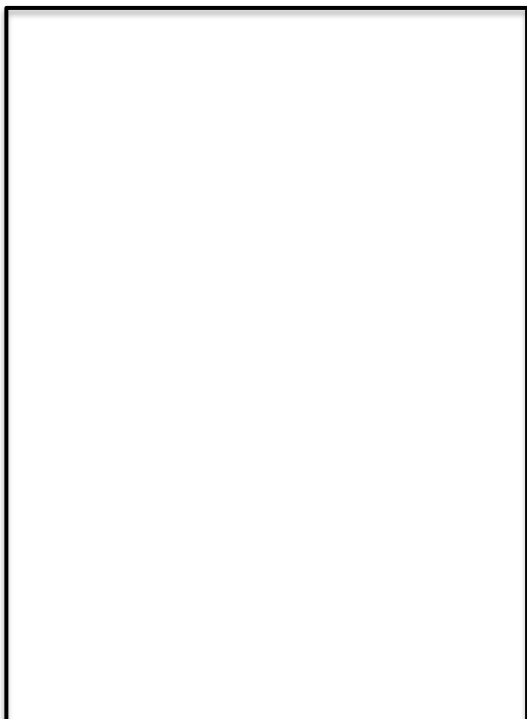


fig. II.3.62  
モントルソリ 《ネプトゥヌスの噴水》  
(fig. II.3.55：左手前角部分)

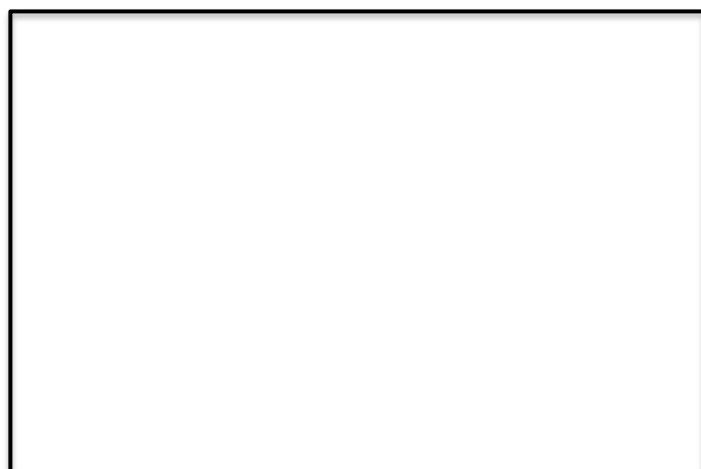


fig. II.3.63  
モントルソリ 《ネプトゥヌスの噴水》  
(fig. II.3.55：水槽縁装飾と小水盤部分)



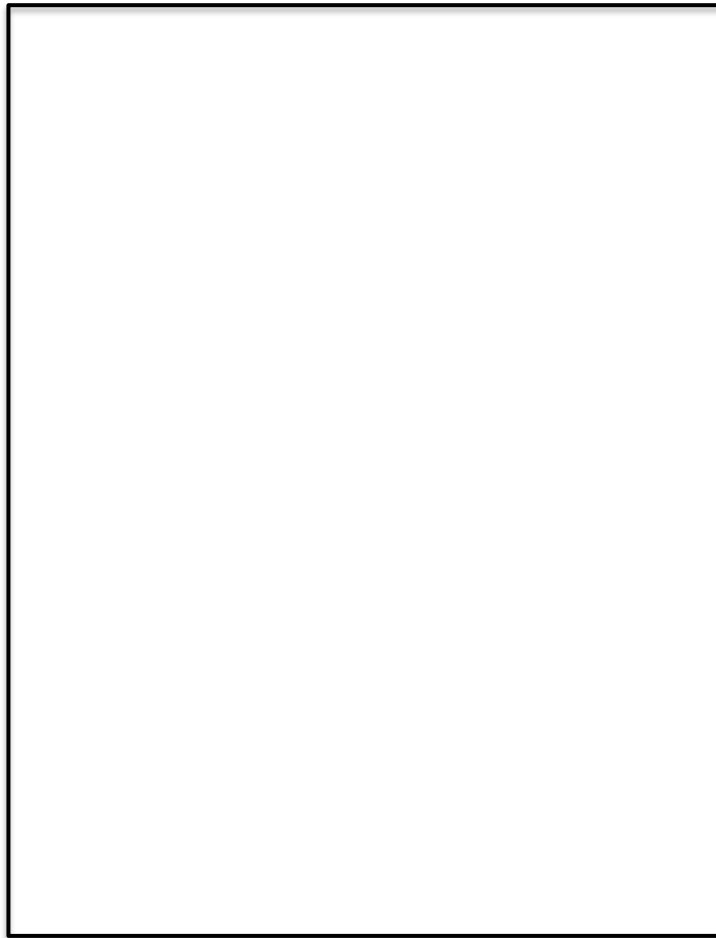


fig. II.3.64  
モントルソリ 《ネプトゥヌスの噴水》  
(fig. II.3.55：ネプトゥヌスの台座部分)

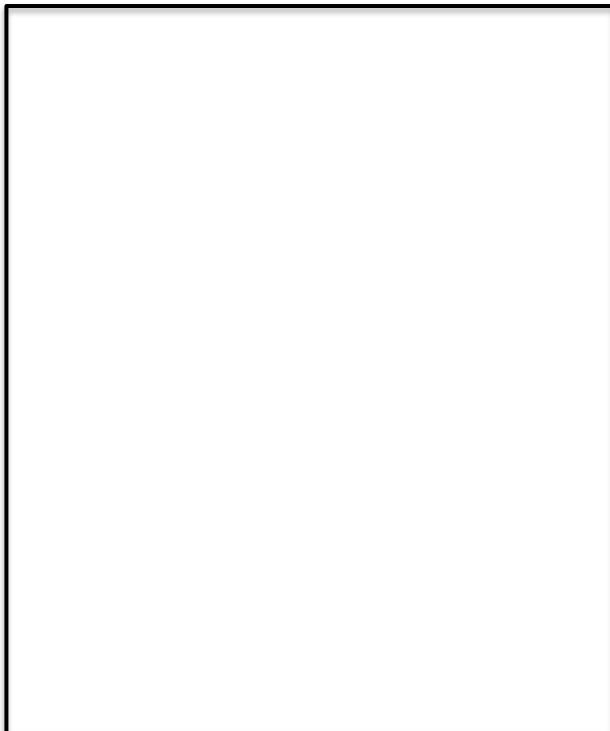


fig. II.3.65  
モントルソリ 《ネプトゥヌスの噴水》  
(fig. II.3.55：ネプトゥヌスの台座部分)

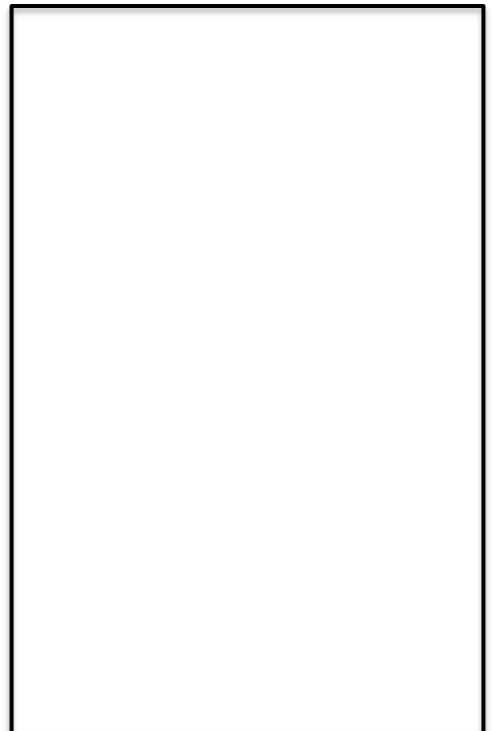


fig. II.3.66  
モントルソリ 《ネプトゥヌスの噴水》  
(fig. II.3.56：ネプトゥヌスの台座部分)

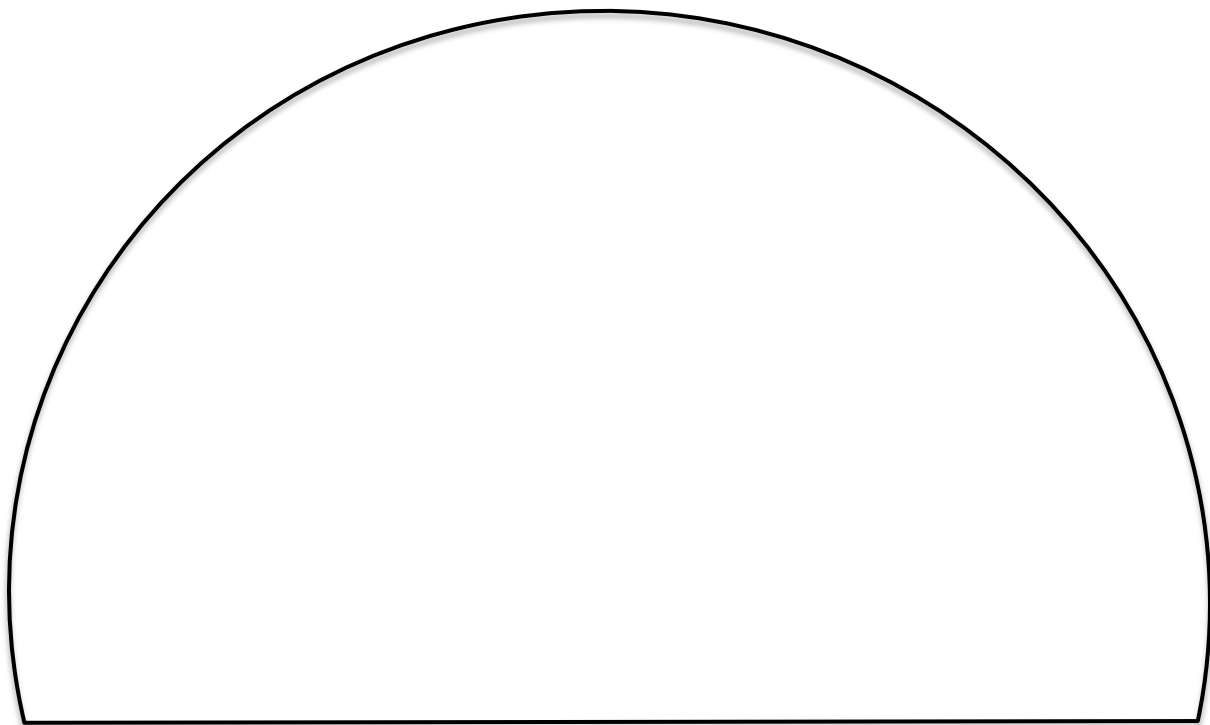


fig. III.1.1  
ジュスト・ウーテンス 《カステッロのメディチ家別邸の景観》  
1599年、キャンバスにテンペラ  
フィレンツェ郷土史博物館 inv. 1890, no. 6316

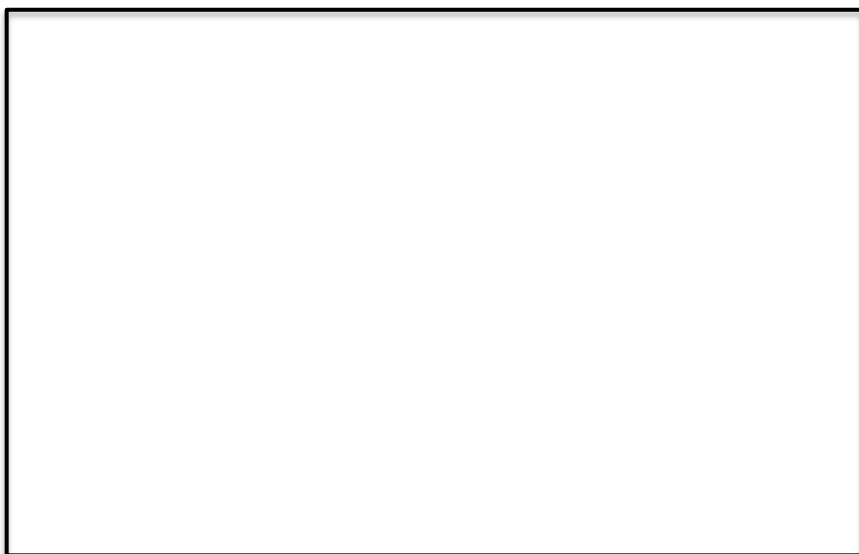


fig. III.1.2  
ジュスト・ウーテンス 《カステッロのメディチ家別邸の景観》  
(fig. III.1.1部分)

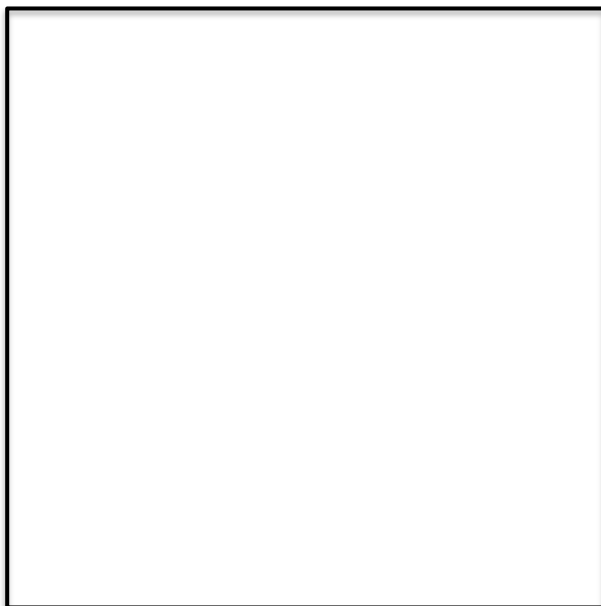


fig. III.1.3  
トリーボロ、アンマンナーティ他  
《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》  
(レプリカにて庭園内に復元)  
大理石、ブロンズ、1538-1560年  
カステッロ、メディチ家別邸

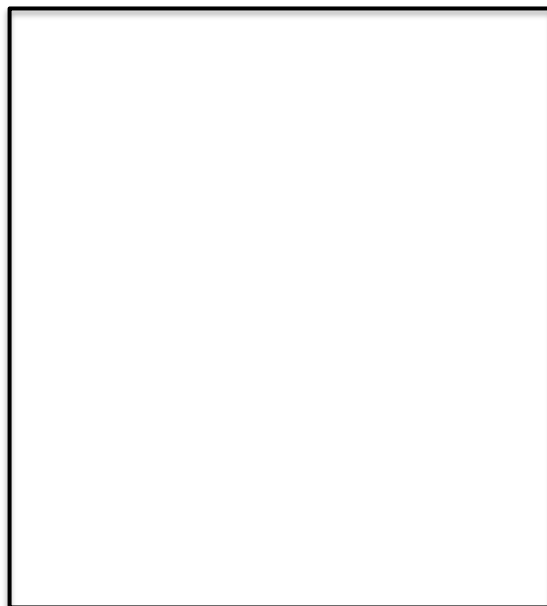


fig. III.1.4  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》(レプリカにて庭園内に復元)  
大理石、ブロンズ、1538-1572年、  
カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトラライア

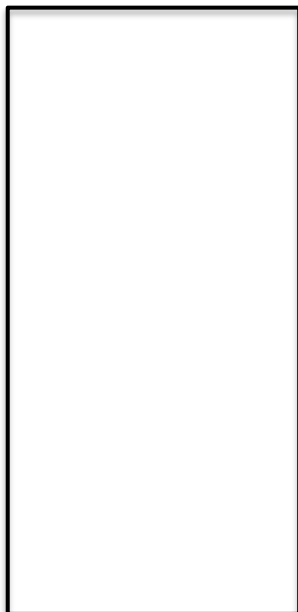


fig. III.1.5  
トリーボロ《フィエーゾレ》  
海綿石、1538-1550年  
フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館

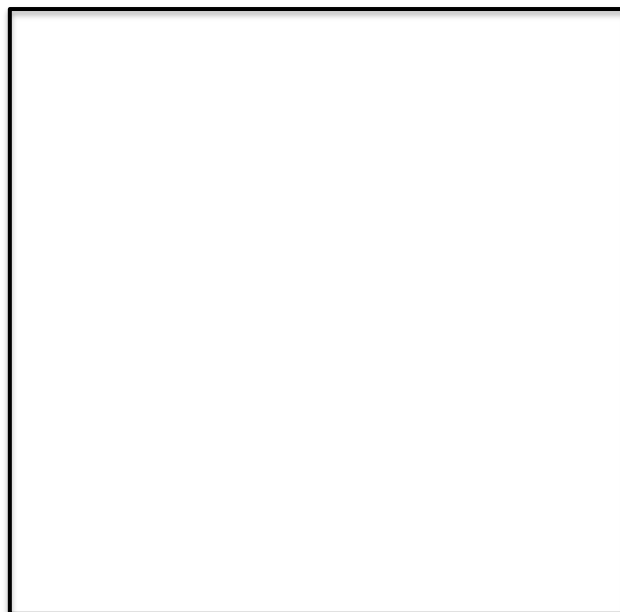


fig. III.1.6  
アンマンナーティ《アペニン山脈》  
ブロンズ、1563-1565年  
カステッロ、メディチ家別邸



fig. III.1.7  
カステッロ、メディチ家別邸  
(高台からの眺望)



fig. III.1.8  
モントルソリ 《トリトーンの噴水》  
1543-1547年、大理石  
ジェノヴァ、プリンチペ宮殿



fig. III.1.9  
ジュスト・ウーテンス  
《カステッロのメディチ家別邸の景観》  
(fig. III.1.1部分)



fig. III.1.10  
トリーボロ、ヴァザーリ、アントニオ・ロレンツィ他  
動物のグロッタ内観（パノラマ図）、多孔質石灰石、ブロンズ、大理石、  
カステッロ、メディチ家別邸



fig. III.1.11  
トリーボロ 《動物のグロッタのための水盤》大理石  
カステッロ、メディチ家別邸

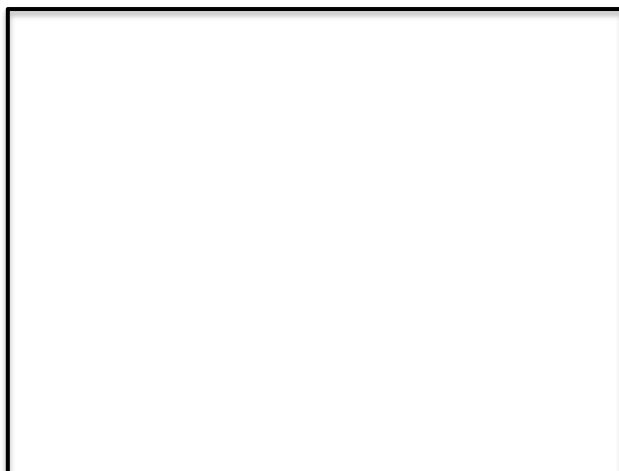


fig. III.1.12  
トリーボロ 《動物のグロッタのための水盤》大理石  
カステッロ、メディチ家別邸

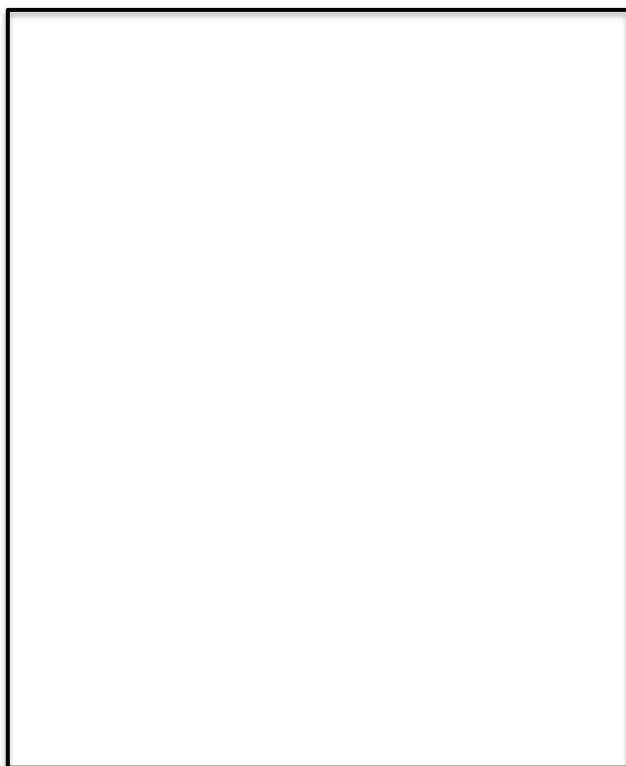


fig. III.1.13  
トリーボロ  
《パンを配したグロッタの壁面構想》  
ロンドン、サー・ジョン・ソーンズ美術館

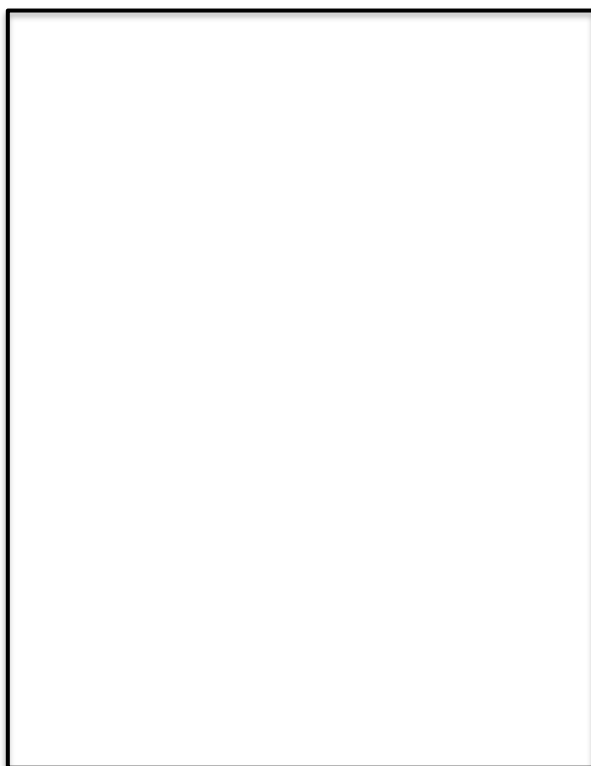


fig. III.1.14  
トリーボロ  
《ネプトゥヌスを配したグロッタの壁面構想》  
ベルリン、国立版画素描館

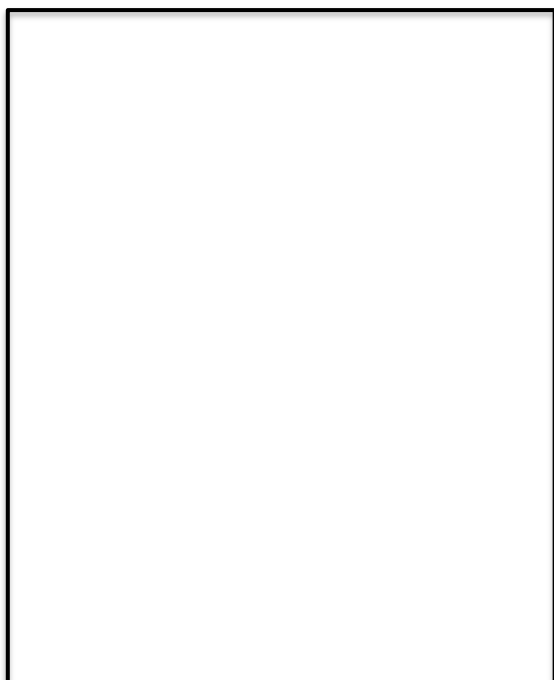


fig. III.1.15  
ブロンズイーノ 《オルフェウスとしてのコジモ1世》  
1537-1539年頃、板に油彩、93.7 x 76.4 cm  
フィラデルフィア美術館 inv. no. 1950-86-1



fig. III.1.16  
ミケランジェロ 《夜》大理石  
フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室

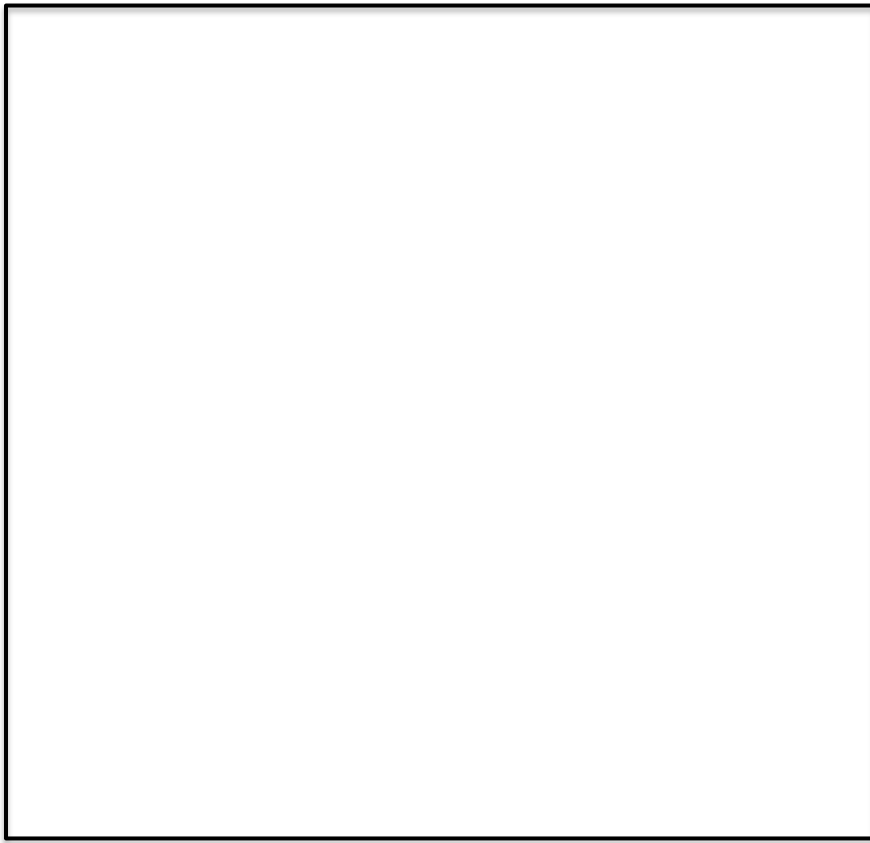


fig. III.1.17  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》 (fig. III.1.4)

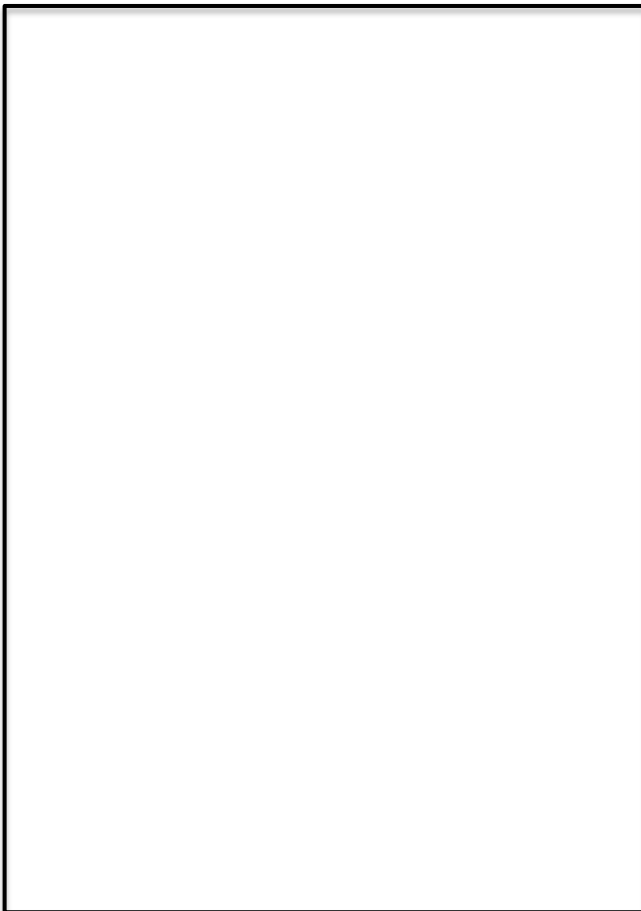


fig. III.1.18  
「ガイヨン城の噴水」  
Androuet Du Cerceau 1576, vue 214, p. 261

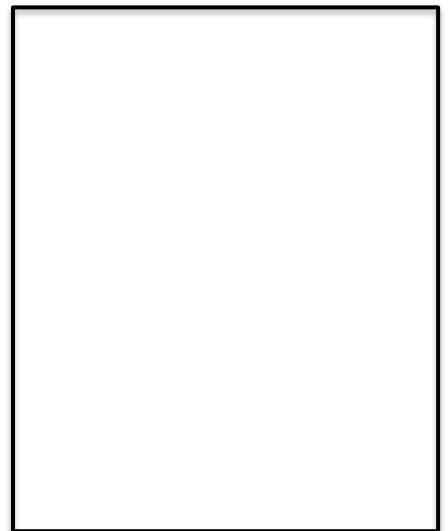


fig. III.1.19  
「ガイヨン城の噴水」  
(fig. III.1.18部分：下部軸足装飾)

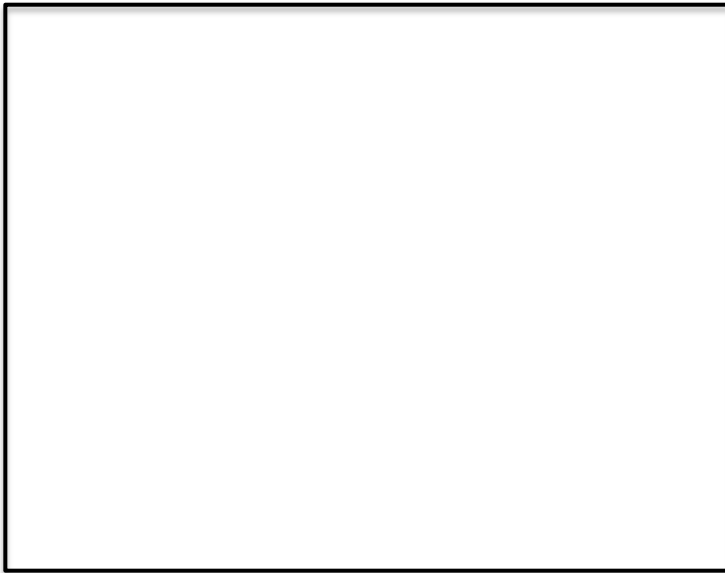


fig. III.1.20  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》  
(fig. III.1.4部分：下部軸足装飾)

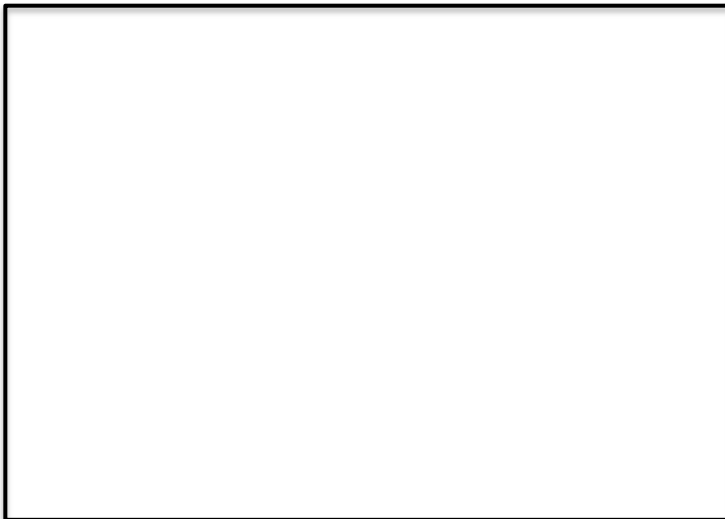


fig. III.1.21  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》  
(fig. III.1.4部分：下部軸足装飾)

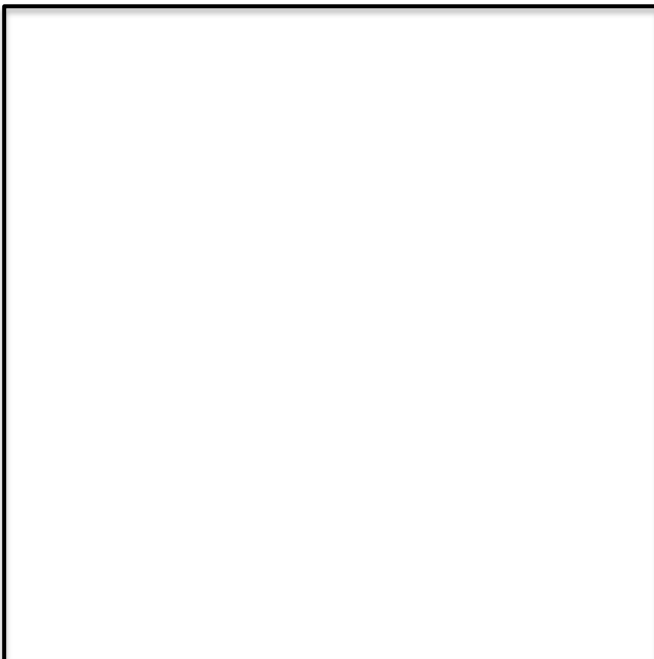


fig. III.1.22  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》  
(fig. III.1.4部分：下部軸足装飾)

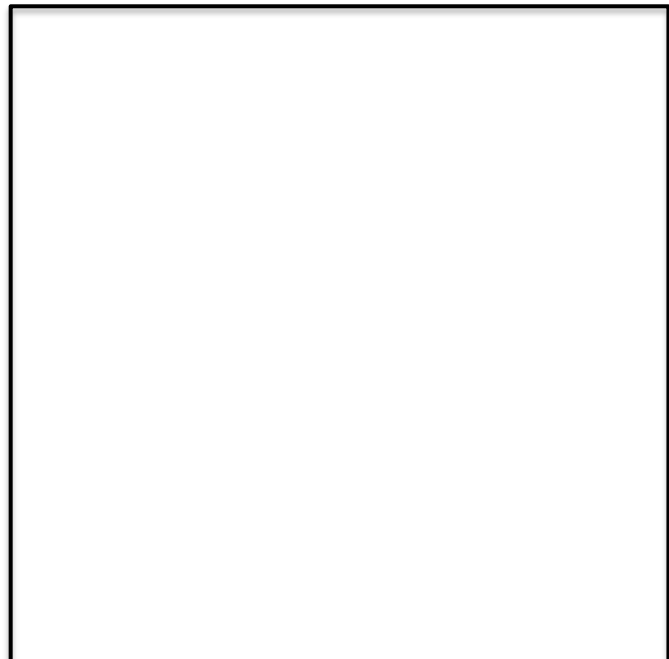


fig. III.1.23  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》  
(fig. III.1.4部分：下部軸足装飾)

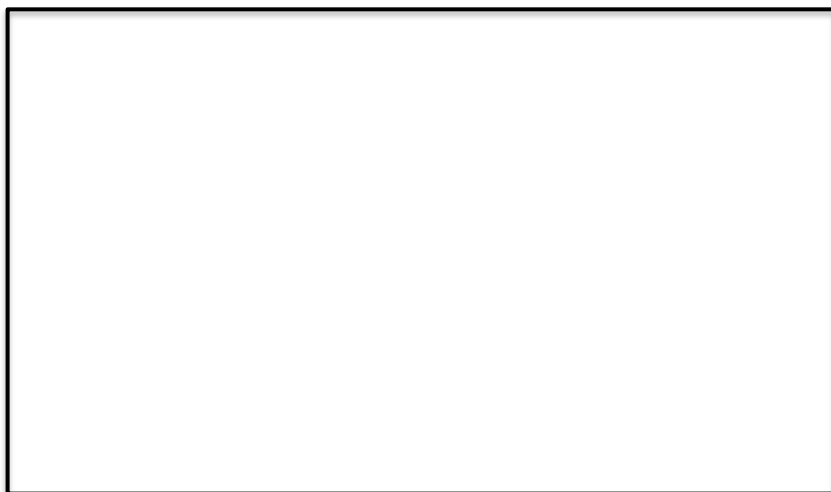


fig. III.1.24  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》  
(fig. III.1.4部分：下部軸足装飾)

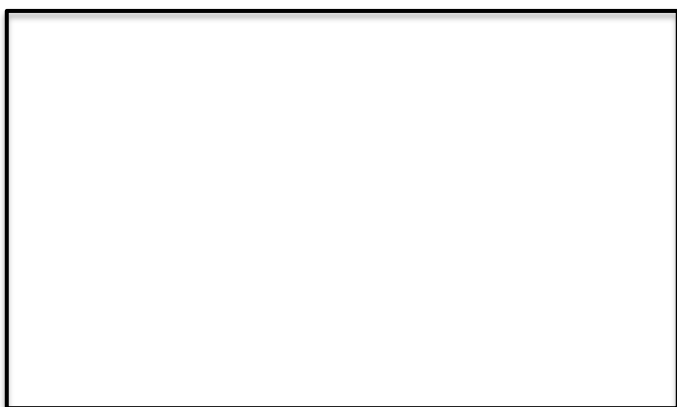


fig. III.1.25  
ジョルジョ・ヴァザーリ  
《サトゥルヌスに捧げる大地の果实》  
(FESTINA LENTEを表わす「帆と海亀」部分)  
1555-1557年、フレスコ  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿、四大元素の間

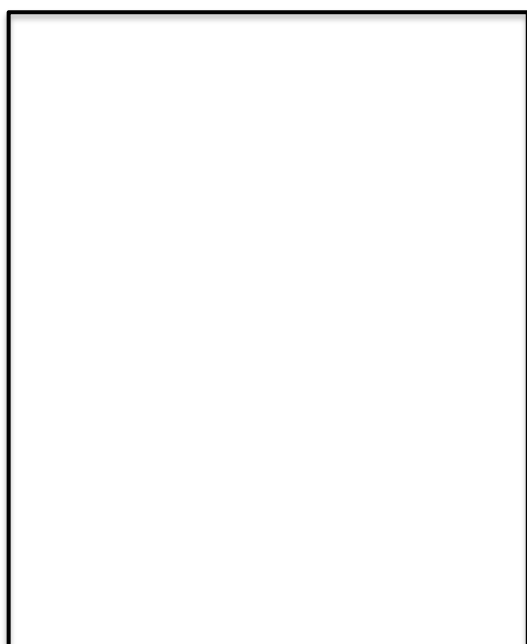


fig. III.1.26  
パッテイスタ・ボッティチャーニ  
「コジモ1世の意匠」1555-1565年  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿、  
五百人大広間天井



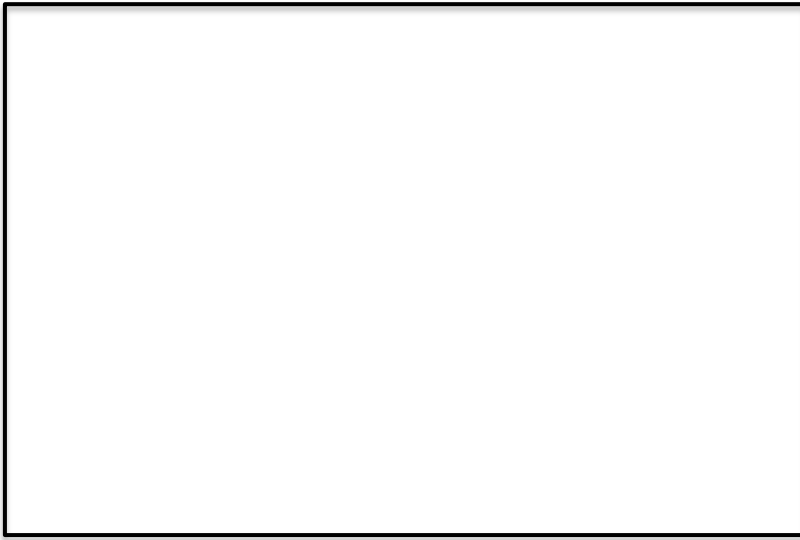


fig. III.1.27  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》  
(fig. III.1.4部分：大水盤)



fig. III.1.28  
トリーボロ、ジャンボローニャ他《迷宮の噴水》 (fig. III.1.4部分：大水盤縁装飾)

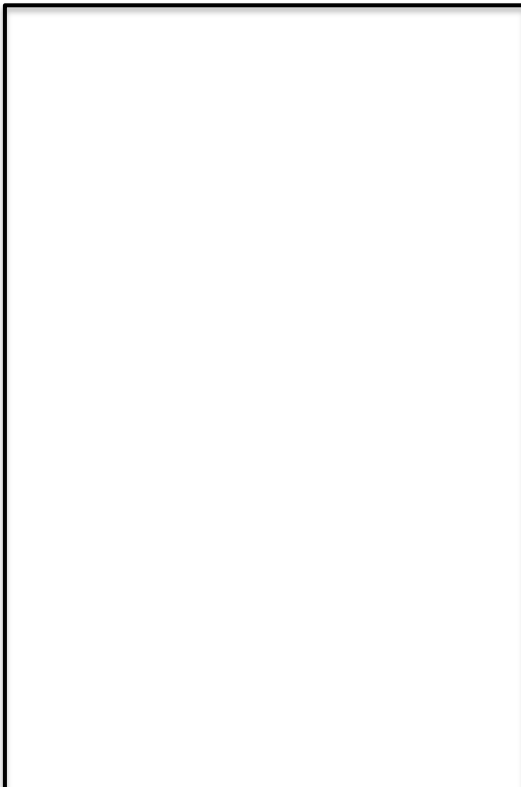


fig. III.1.29  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》  
(fig. III.1.4部分：上部軸足装飾)

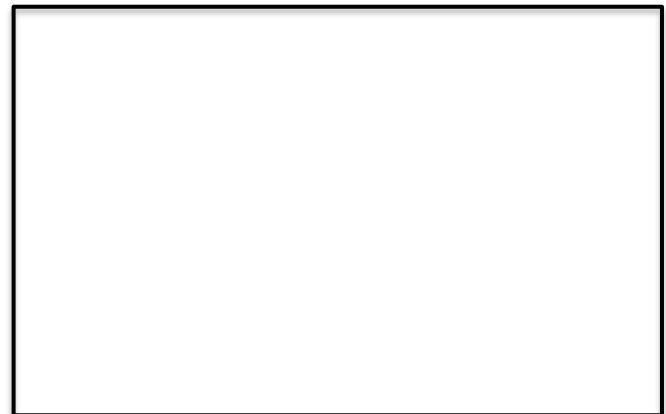


fig. III.1.30  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》  
(fig. III.1.4部分：上部軸足装飾)

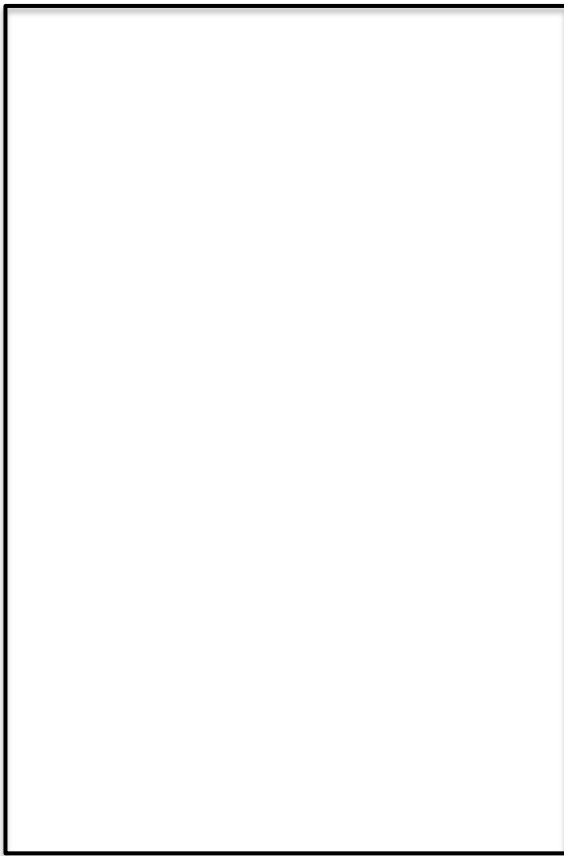


fig. III.1.31  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》  
(fig. III.1.4部分：上部軸足装飾)

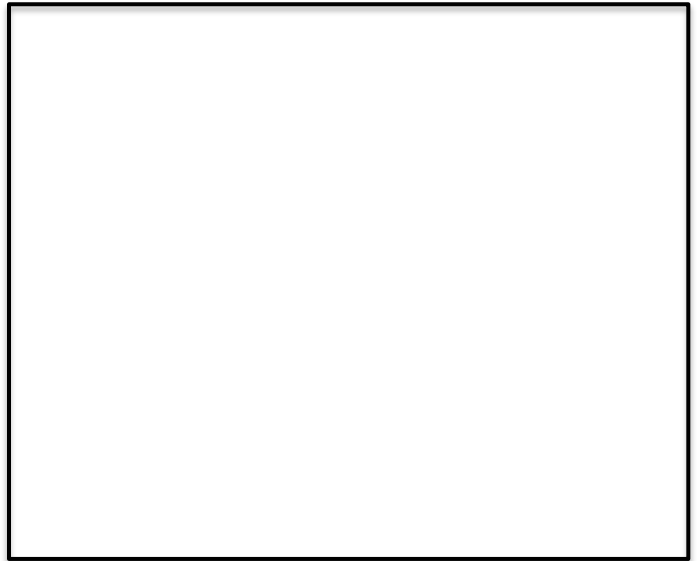


fig. III.1.32  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》  
(fig. III.1.4部分：上部軸足装飾)

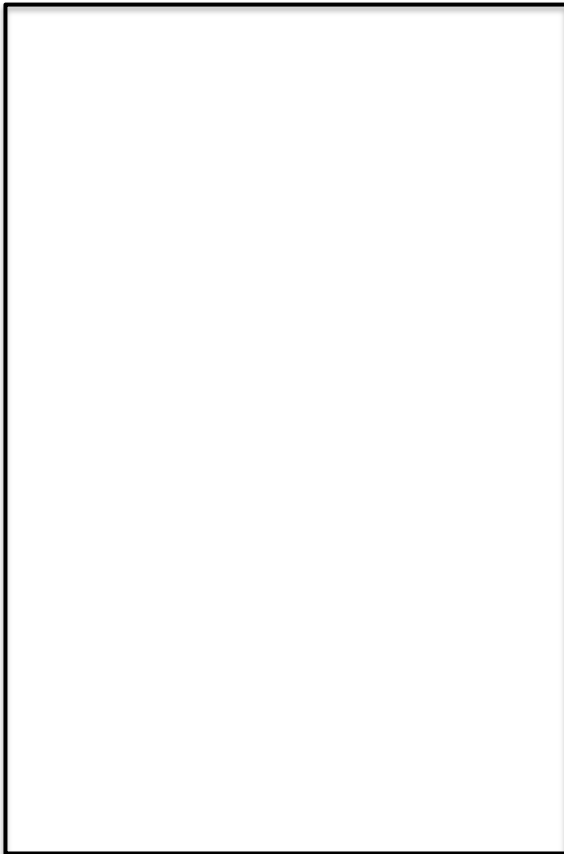


fig. III.1.33  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》  
(fig. III.1.4部分：上部軸足装飾)

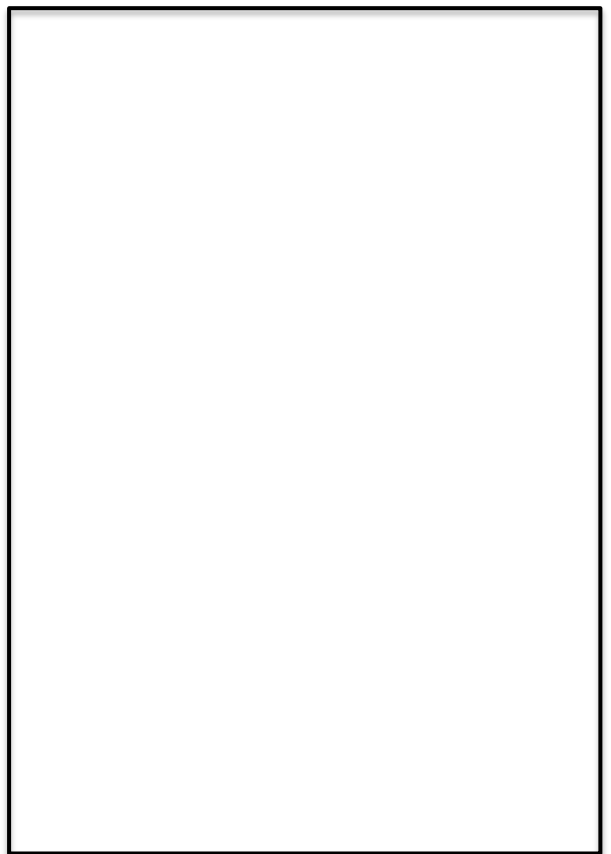


fig. III.1.34  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》  
(fig. III.1.4部分：上部軸足装飾)

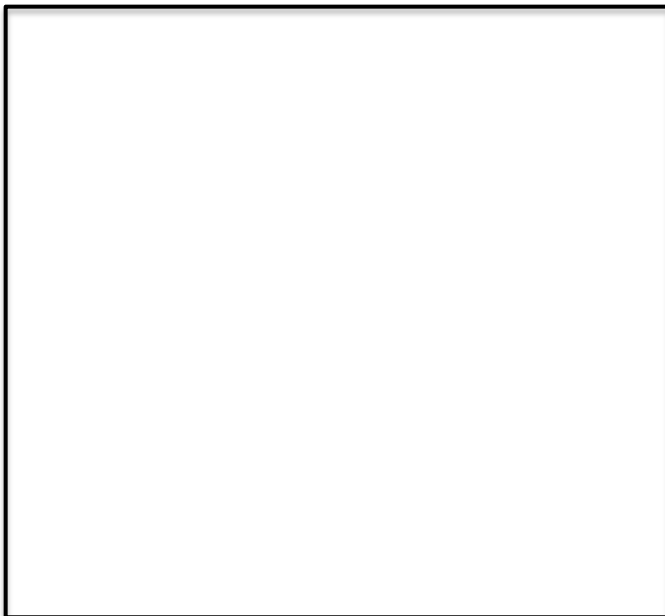


fig. III.1.35  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》  
(fig. III.1.4部分：上部小水盤)

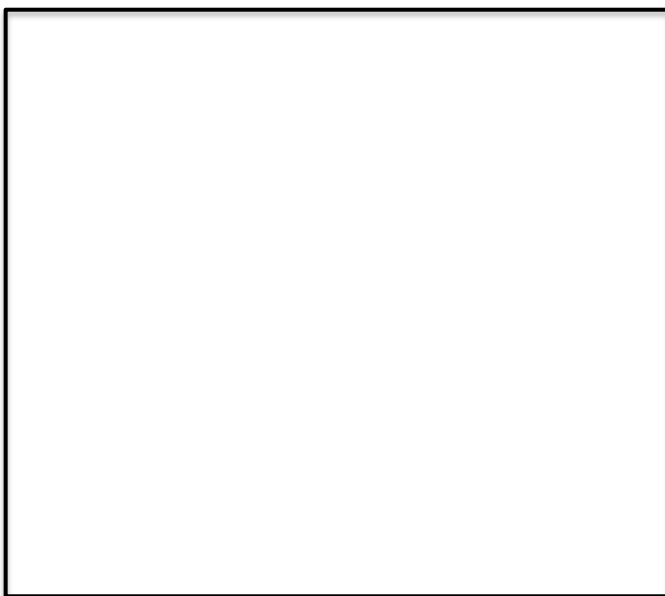


fig. III.1.36  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》  
(fig. III.1.4部分：上部小水盤)

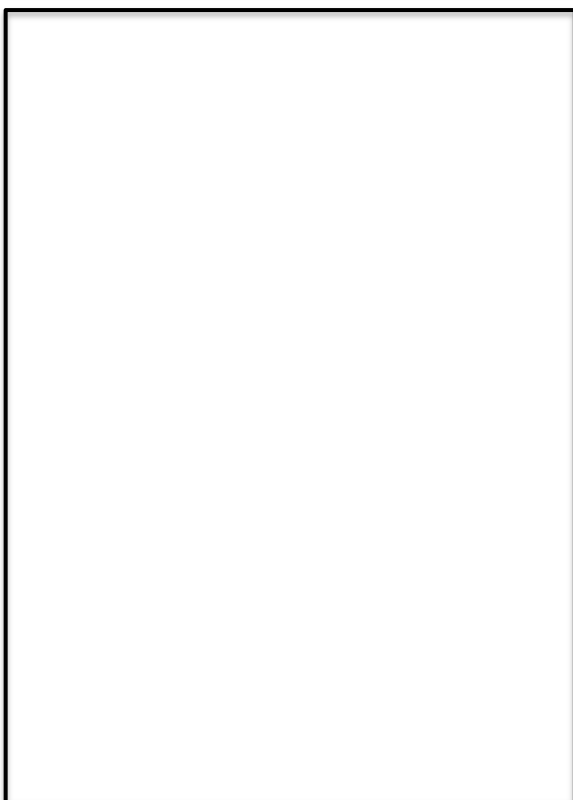


fig. III.1.37  
モントルソリに帰属  
《カステッロのメディチ家別邸のために  
トリーボロが構想した迷宮の噴水の初期構想》  
ジョヴァンニ・ヴィンチェンツォ・カサーリの  
素描帖に収録  
マドリッド、国立図書館  
Taccuino, B 16-49, fol. 38 recto

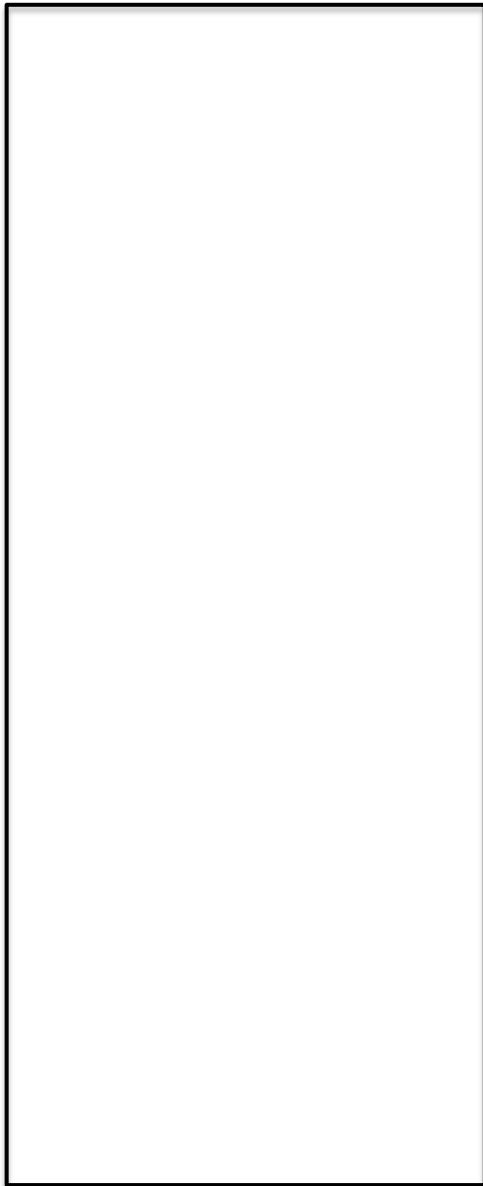


fig. III.1.38  
ジャンボローニャ 《フィオレンツァ》  
（正面観）1560-1562年、ブロンズ、125 cm、  
カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトラリア

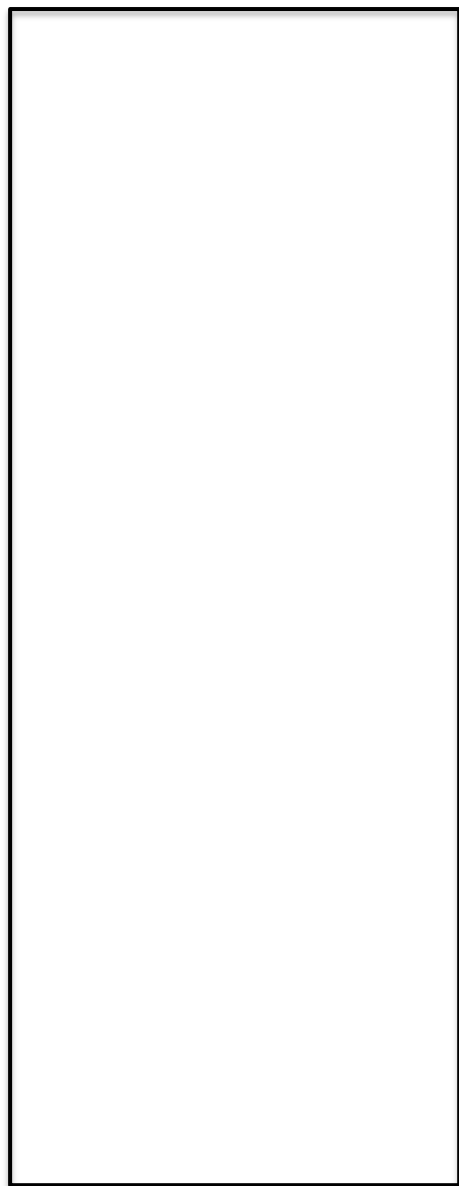


fig. III.1.39  
ジャンボローニャ 《フィオレンツァ》  
（背面観）1560-1562年、ブロンズ、125 cm、  
カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトラリア

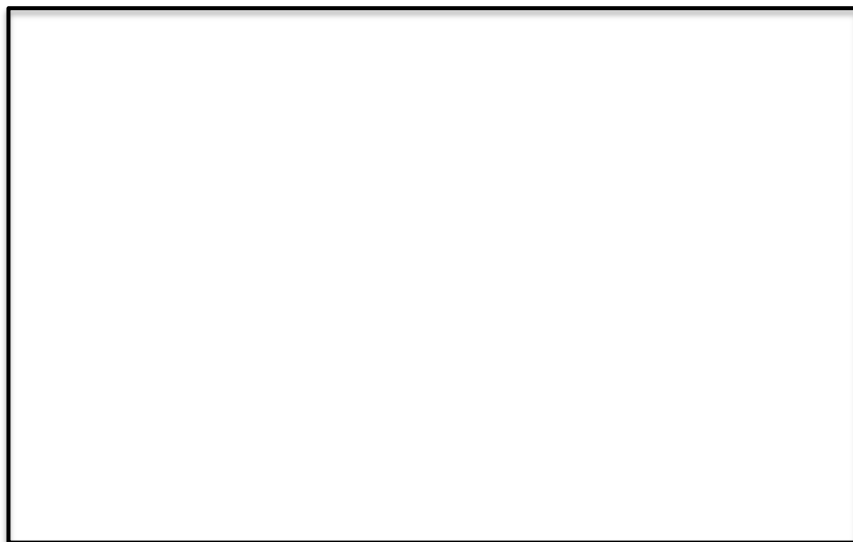


fig. III.1.40  
ジャンボローニャ 《フィオレンツァ》  
（fig. III.1.38部分：台座装飾）

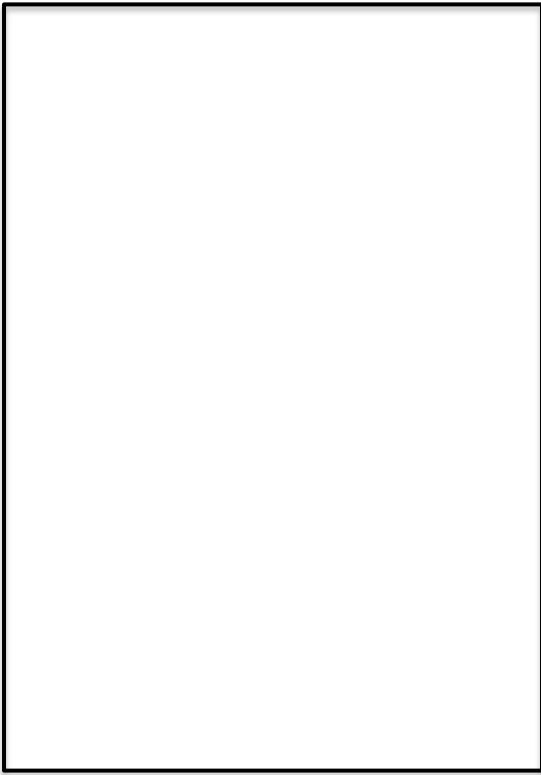


fig. III.1.41  
マルカントニオ・ライモンディ  
《ウェヌス・アナデュオメネ》1510-1527年  
大英博物館版画素描室

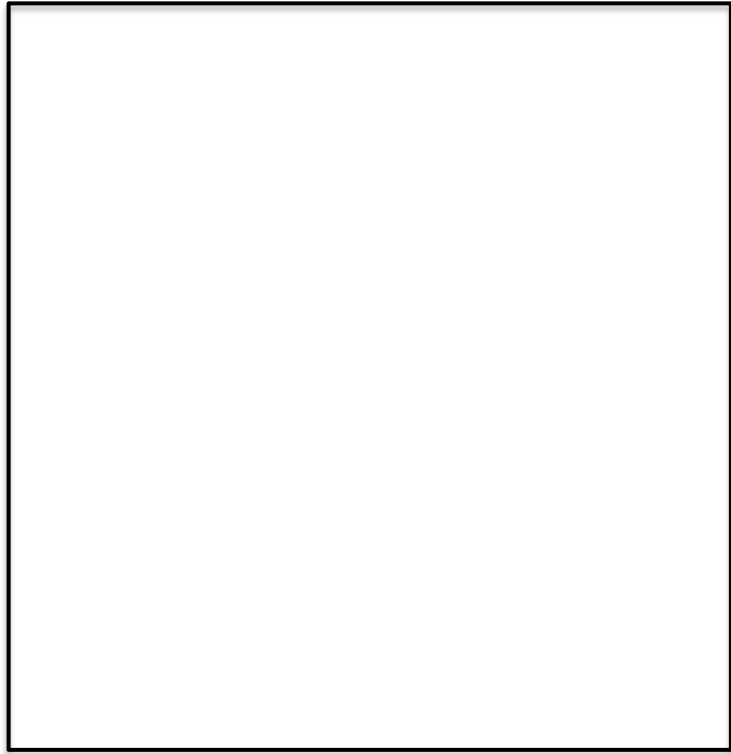


fig. III.1.42  
バルダッサレ・ペルッツィ  
《ウェヌス・アナデュオメネ》1506-1510年  
フレスコ、ローマ、ファルネジーナ荘

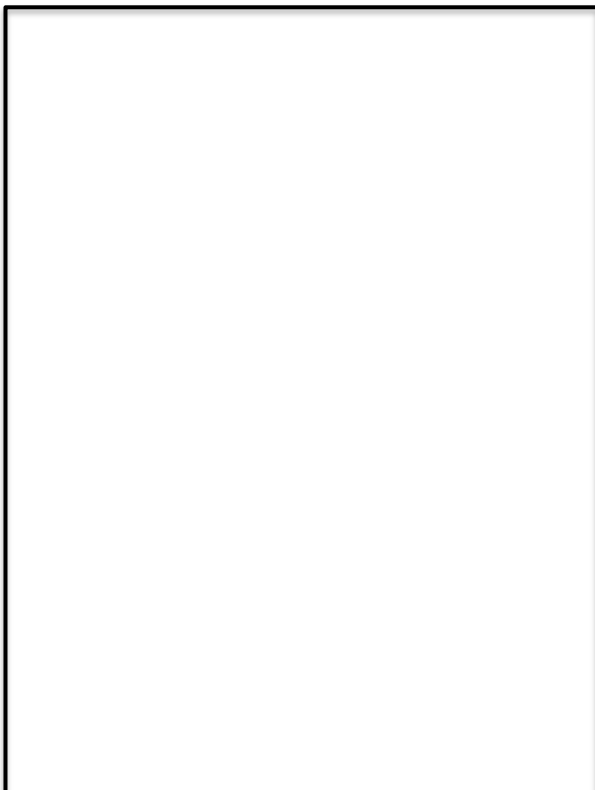


fig. III.1.43  
ティツィアーノ《ウェヌス・アナデュオメ  
ネ》1520年頃、板に油彩、75.8 x 57.6 cm  
スコットランド、国立絵画館 inv. NG 2751



fig. III.1.44  
カステッロ、メディチ家別邸  
ラ・ペトラリア俯瞰写真

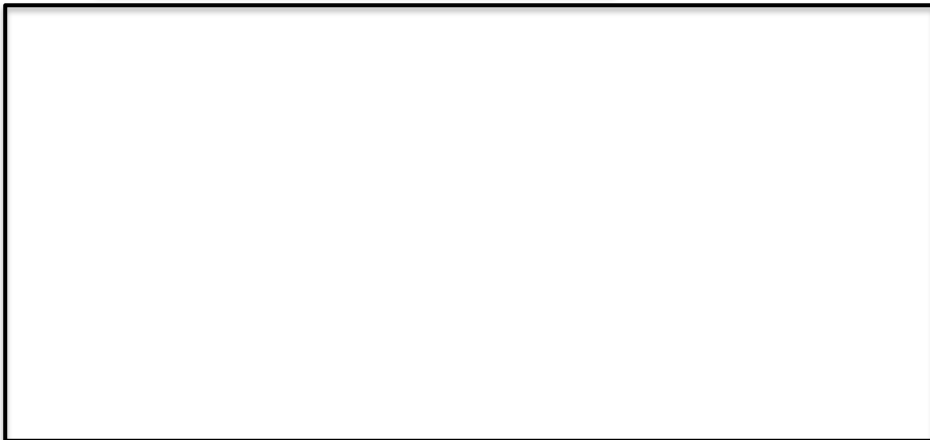


fig. III.1.45  
「ボーボリ庭園平面図」1709年  
フィレンツェ、国立中央図書館 Nuove acquisizioni, 7, 159.

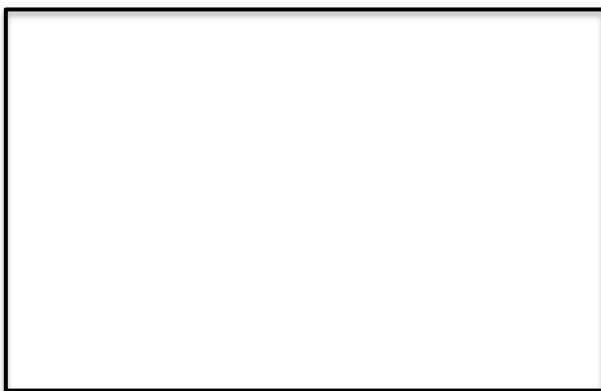


fig. III.1.46  
ジュスト・ウーテンス  
《カステッロのメディチ家別邸の景観》  
(fig. III.1.1部分：「迷宮の森」)

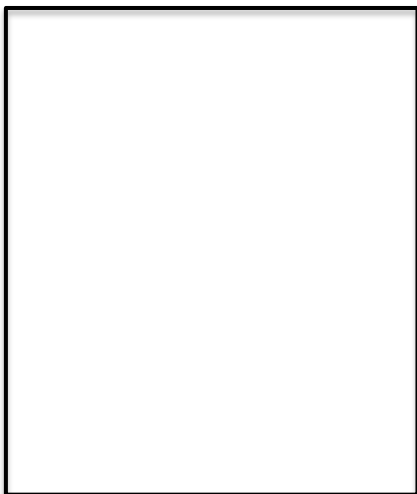


fig. III.1.47  
ヴァザーリ《ポルトフェッライオの建都》  
1557年頃、フレスコ  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿コジモ1世の間

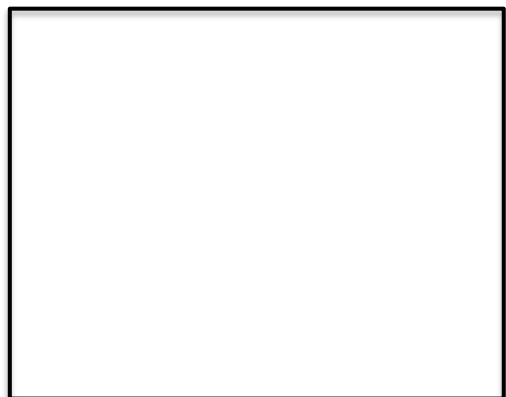


fig. III.1.48  
ヴァザーリ《ポルトフェッライオの建都》  
(fig. III.1.47部分：海馬に股がるネプトゥヌスと「安全」)

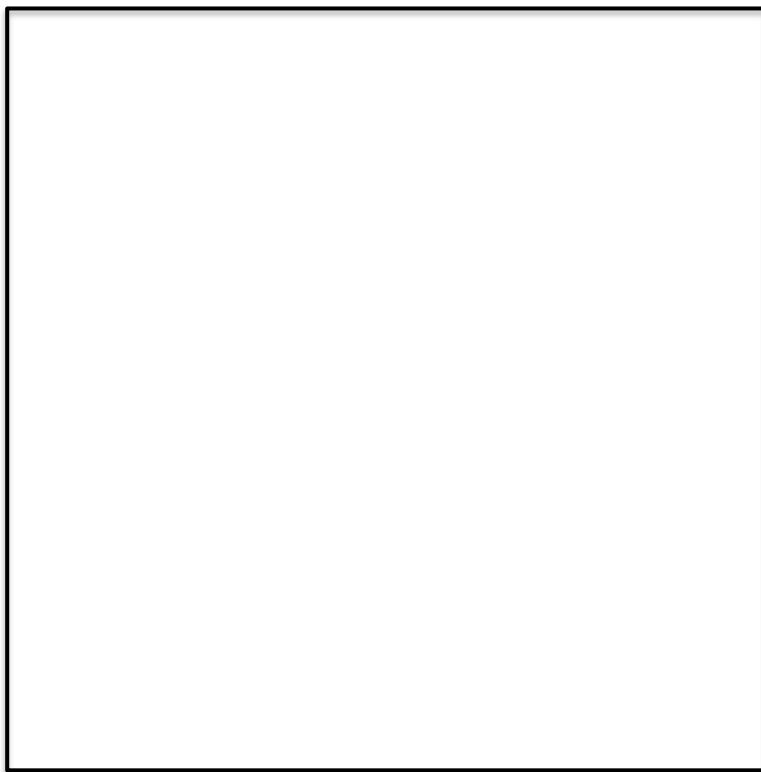


fig. III.1.49  
トリーボロ、アンマンナーティ他  
《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》  
(レプリカにて庭園内に復元)  
大理石、ブロンズ、1538-1560年  
カステッロ、メディチ家別邸 (fig. III.1.3)

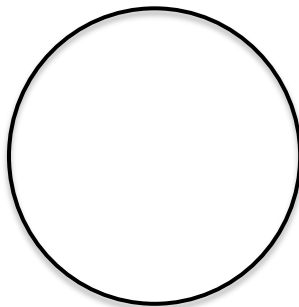


fig. III.1.50  
ドメニコ・デ・ポーロ  
《コジモ1世の肖像メダル》(裏面)  
ロンドン、サザビーズ (1974年5月27日)

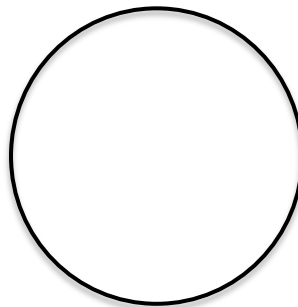


fig. III.1.51  
ドメニコ・デ・ポーロ  
《アレッサンドロ・デ・メディチの肖像メダル》(裏面)  
ロンドン、大英博物館 inv. no. George III Tuscan M 196

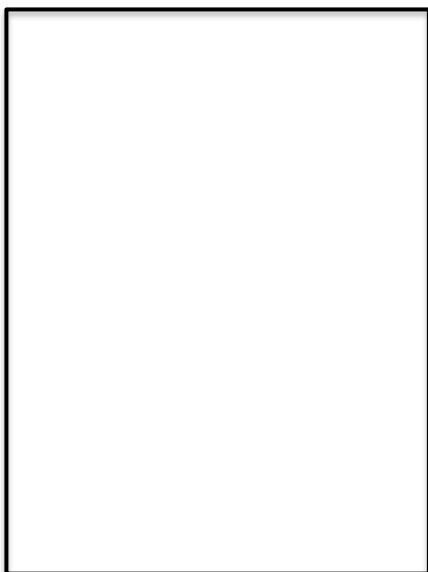


fig. III.1.52  
ポントルモ《槍を持つ兵士の肖像》(部分)  
1529-1532年頃、板(カンヴァスに移行)に  
油彩、92 x 72 cm  
カリフォルニア、ポール・ゲッティ美術館

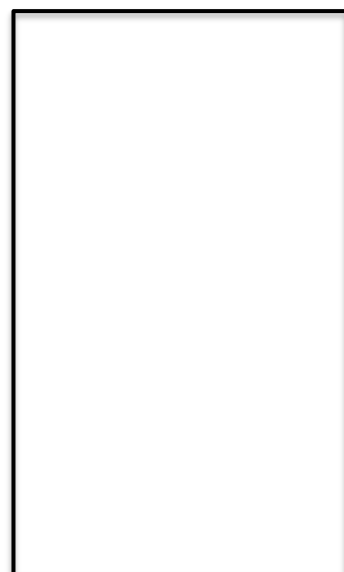


fig. III.1.53  
ドメニコ・デ・ポーロ  
《コジモ1世のためのヘラクレスの印章》(部分)  
フィレンツェ、貴金属美術館 inv. Bargello (II) n. 30 (1917)

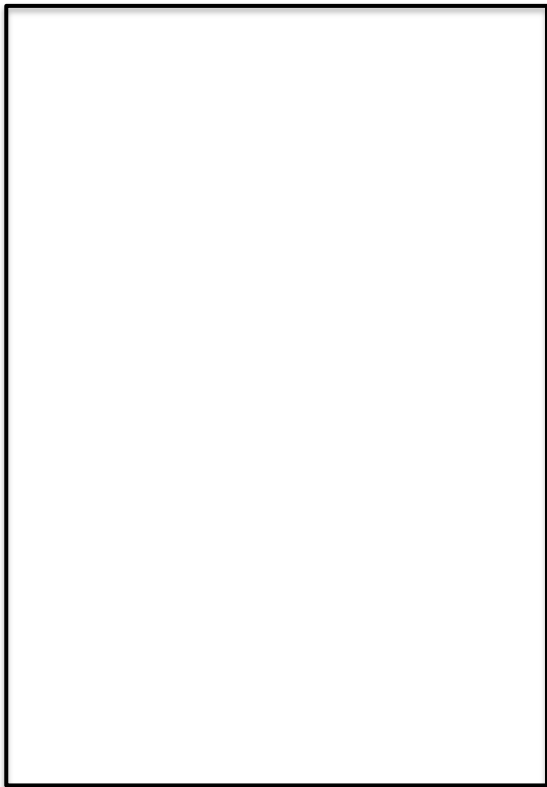


fig. III.1.54  
アントニオ・ポッライウオーロ  
《ヘラクレスとヒュドラ》1475年頃、板にテンペラ  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館 inv. no. 1890nn.8268

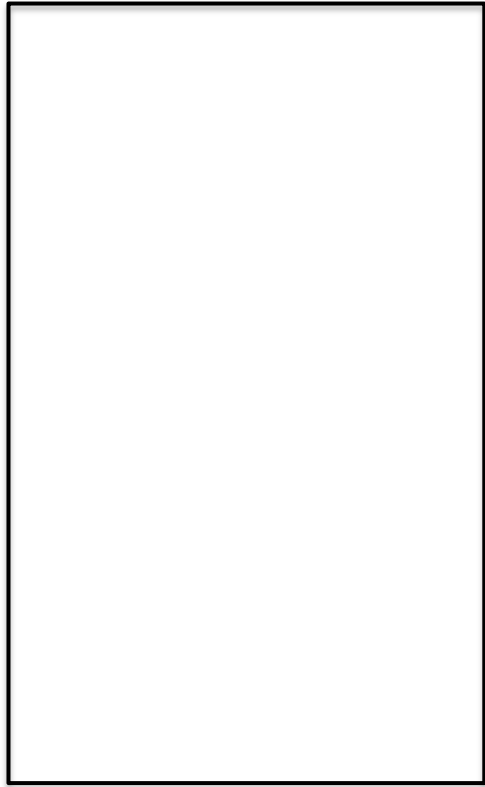


fig. III.1.55  
アントニオ・ポッライウオーロ  
《ヘラクレスとアンタイオス》1475年頃、板にテンペラ  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館 inv. no. 1890nn.1478

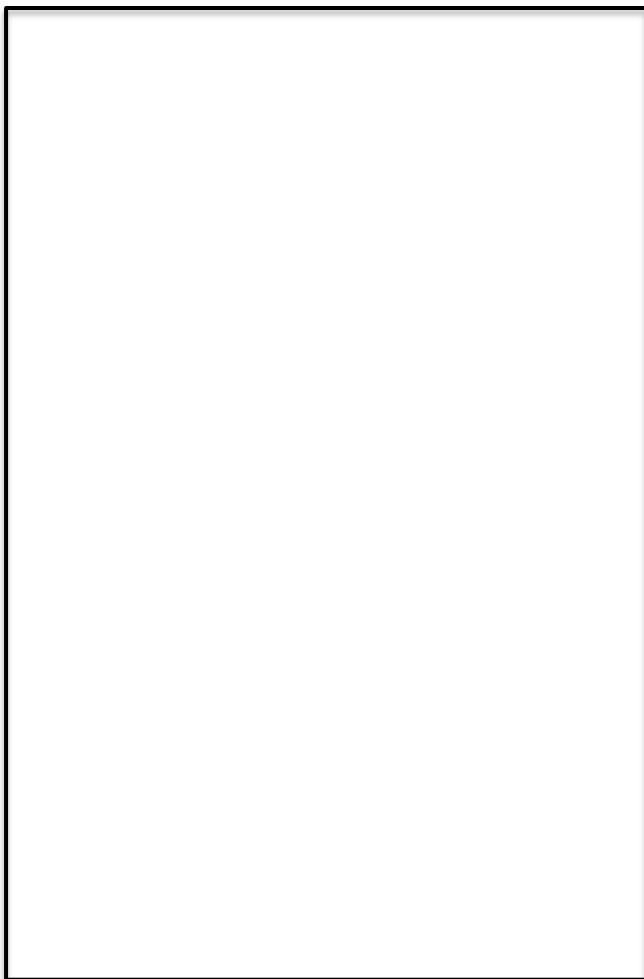


fig. III.1.56  
アントニオ・ポッライウオーロ  
《ヘラクレスとアンタイオス》ブロンズ、1475年  
フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館



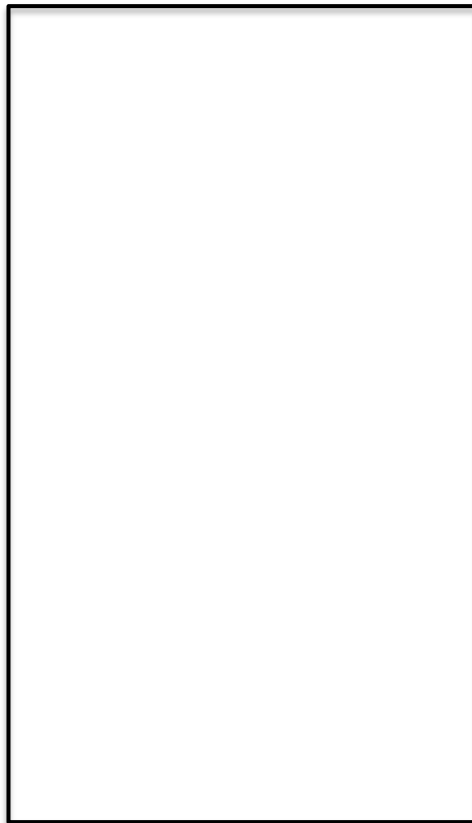


fig. III.1.57  
ミケランジェロ・ブオナローティ  
《闘う2人の裸体人物の習作》  
1505年頃、ペンと褐色インク  
ワシントン、ナショナル・ギャラリー  
inv. no. 1991.150.3

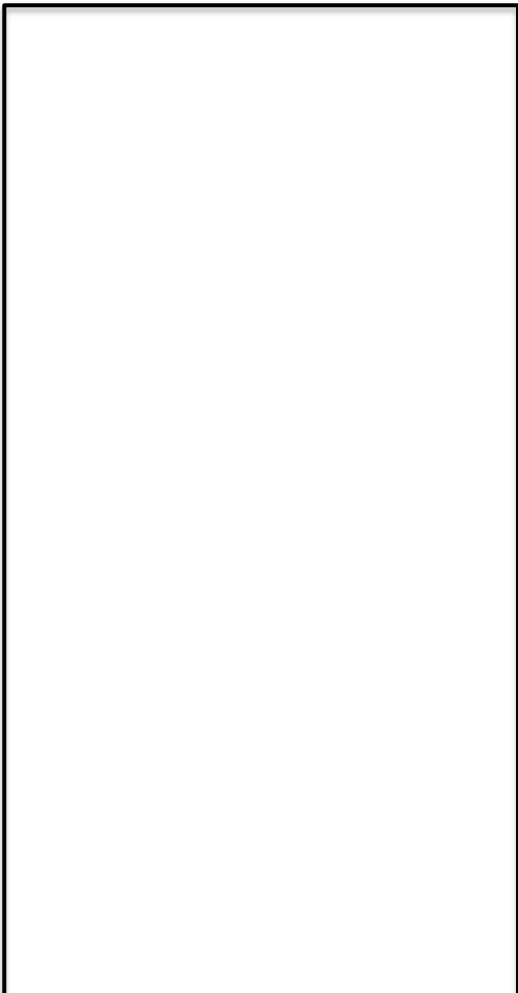


fig. III.1.58  
ミケランジェロ・ブオナローティ  
《闘う2人の人物の習作》（部分）  
1524-1525年、赤チョーク  
オックスフォードアシュモレアン美術館  
inv. no. 1844.63

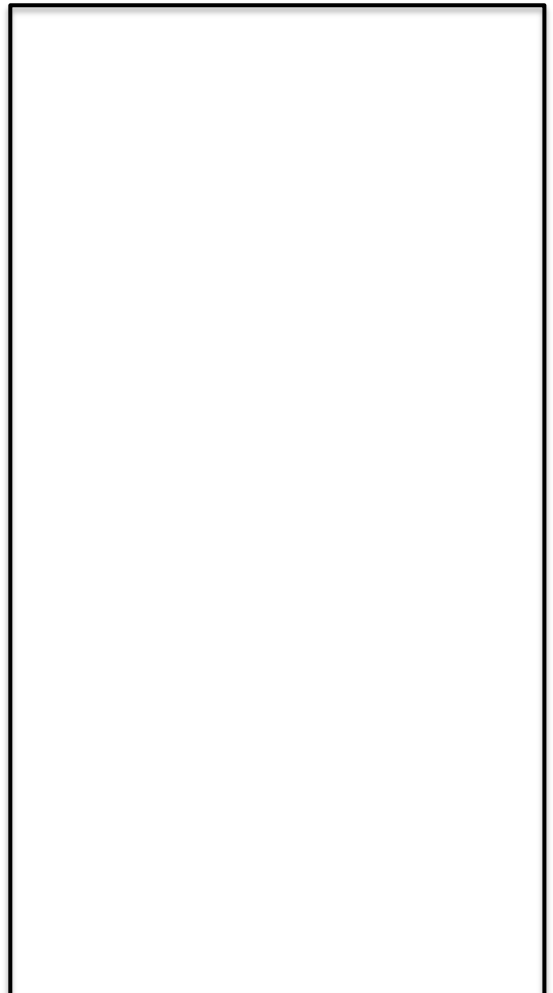


fig. III.1.59  
ミケランジェロ・ブオナローティ  
《ヘラクレスとアンタイオスの習作》（部分）  
1524-1525年、赤チョーク  
ロンドン、大英博物館 inv. no. 1859,0625.557

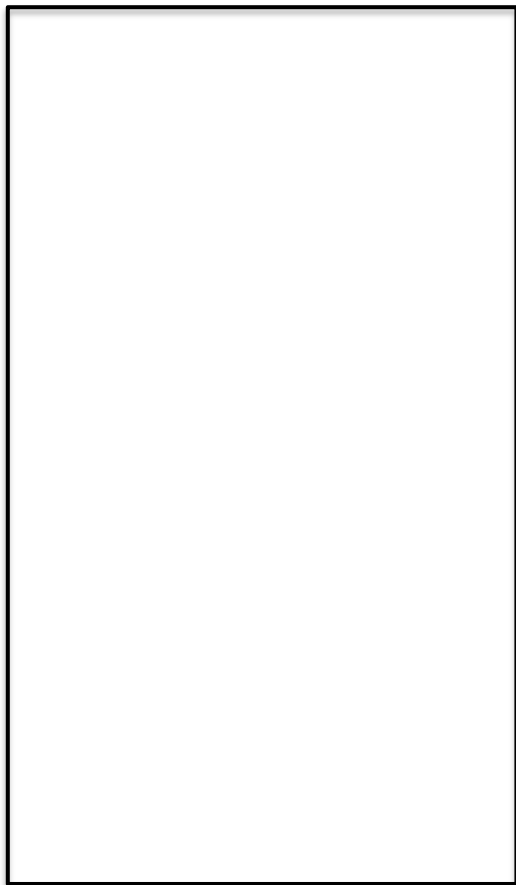


fig. III.1.60  
バッチョ・バンディネッリ  
《ヘラクレスとカクス》大理石、1534年  
フィレンツェ、シニョリーア広場

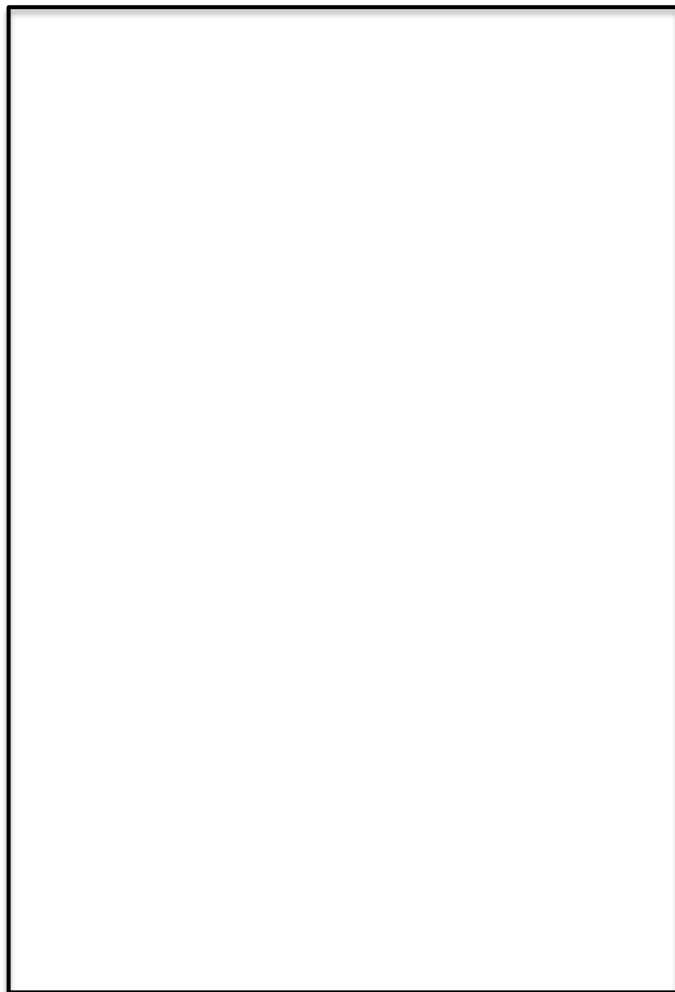


fig. III.1.61  
バルトロメオ・アンマンナーティ  
《ヘラクレスとアンタイオス》ブロンズ、1559-1560年  
カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトライア

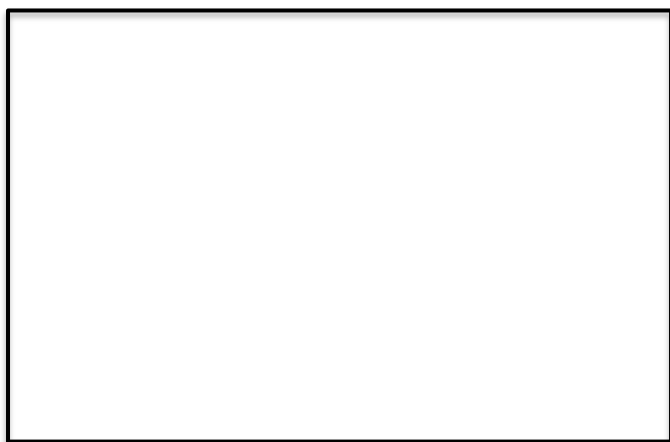


fig. III.1.62  
バルトロメオ・アンマンナーティ  
《マリオ・ナーリ墓碑》（部分）1540-42年、大理石  
フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館

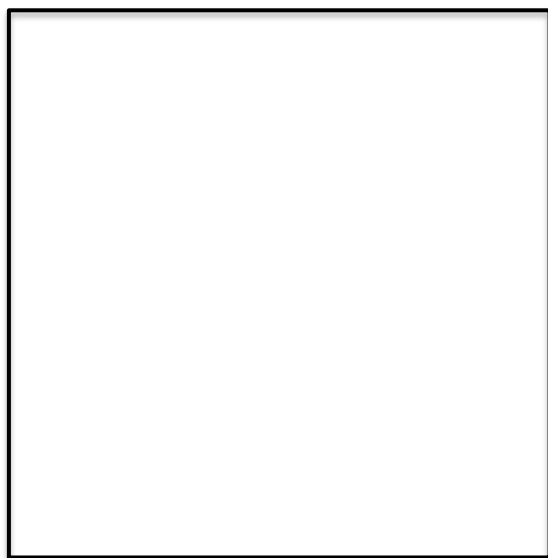


fig. III.1.63  
トリートロ《河神》1536/38年頃、テラコッタ  
フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館

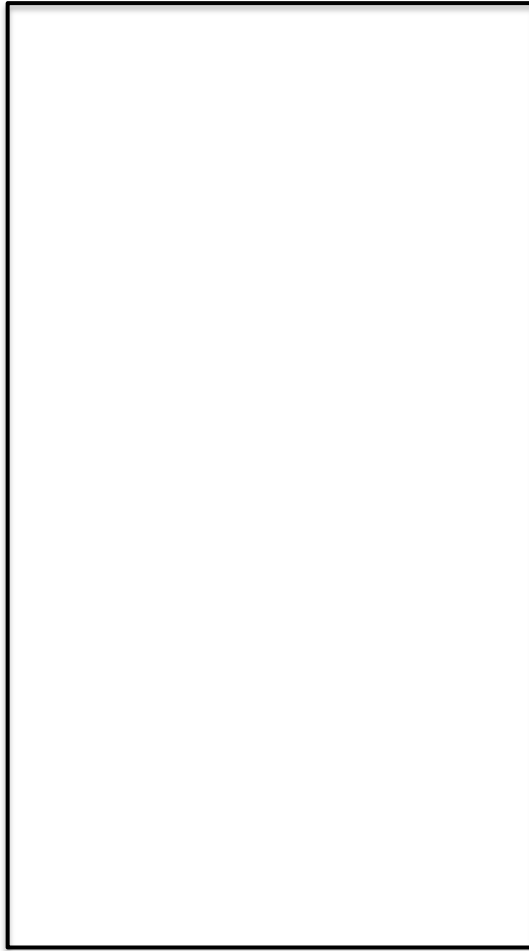


fig. III.1.64  
アンマンナーティ  
《メディチの精神》  
1556年頃、蝋  
個人蔵

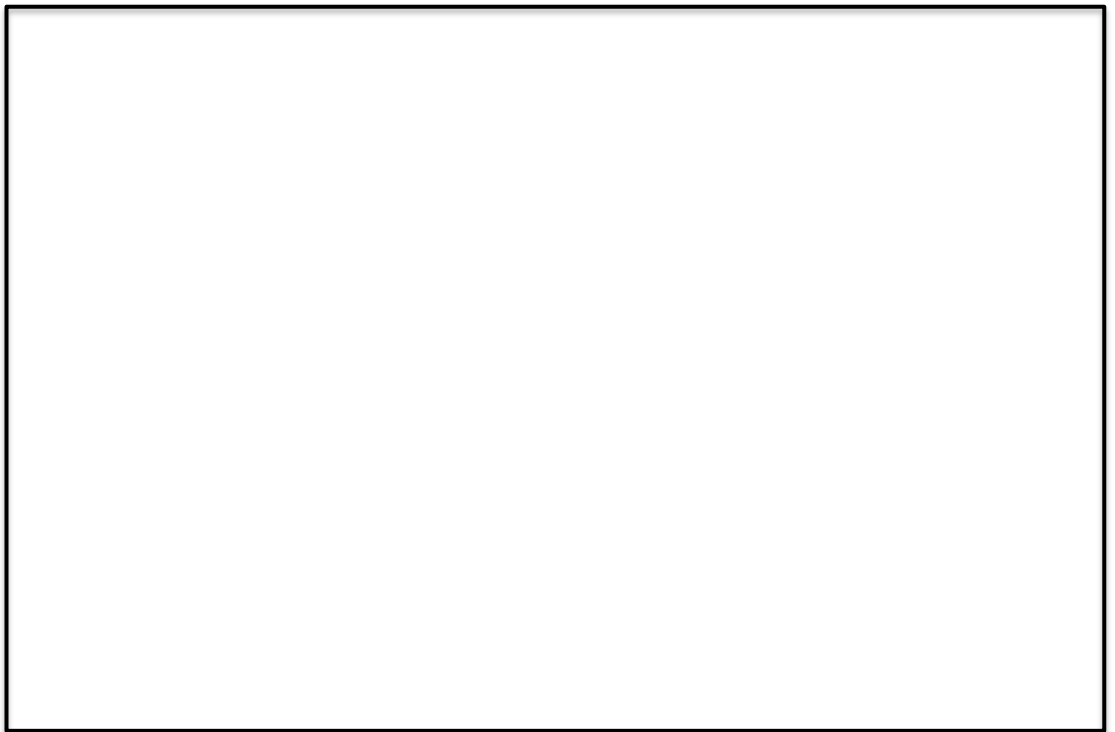


fig. III.1.65  
トリーボロ 《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》（部分）1538年以降  
カステッロ、メディチ家別邸

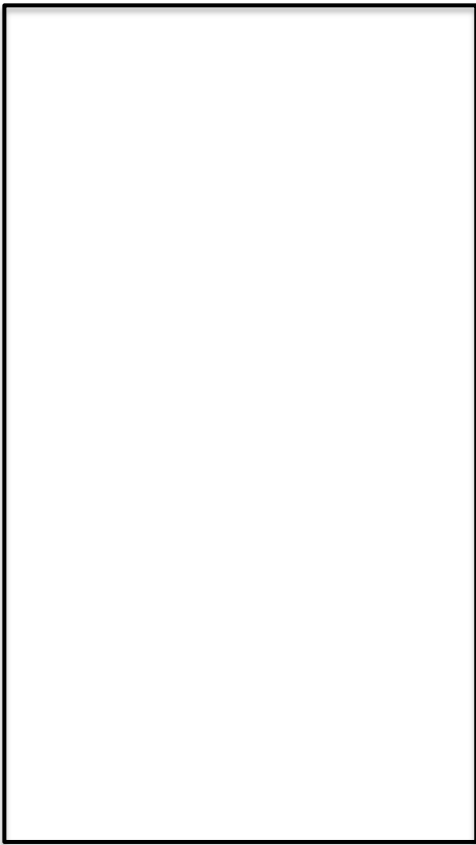


fig. III.2.1 (左図)  
ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》  
(部分：ピッティ宮殿とボーボリ庭園) 1584年  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室 inv. no. 21918 ST. SC.

fig. III.2.2 (上図)  
ステファノ・ボンシニョーリ《フィレンツェ地図》  
(fig. III.2.2部分：ピッティ宮殿とボーボリ庭園)

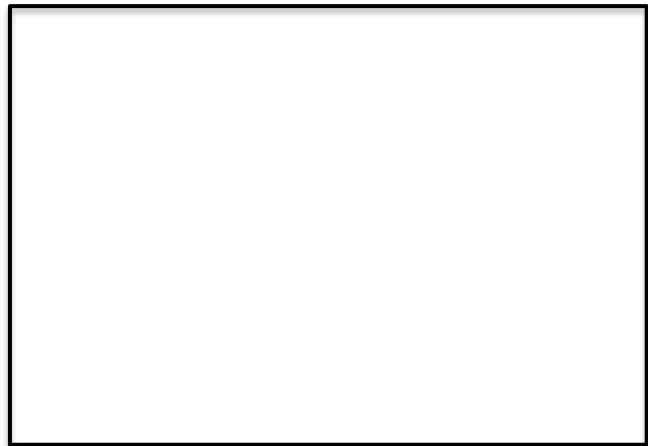
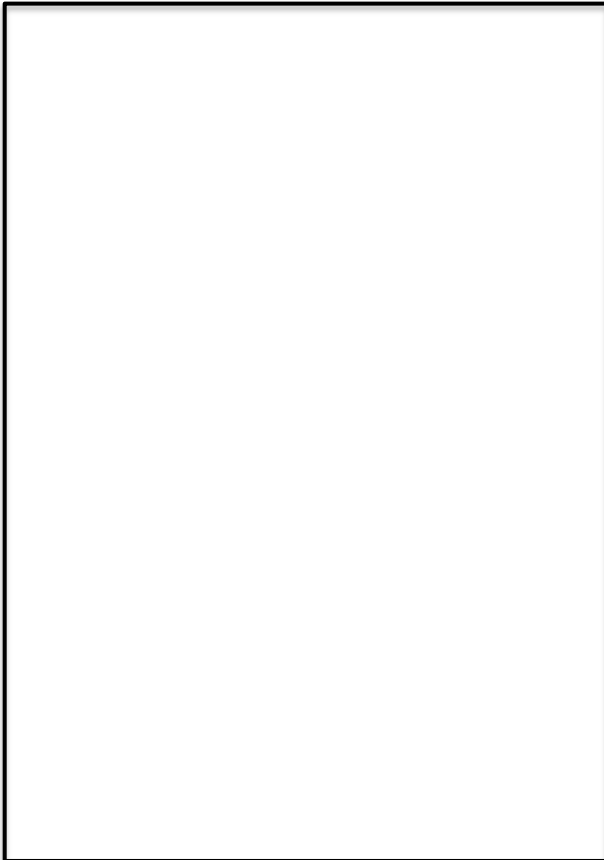


fig. III.2.4  
フィレンツェ、ピッティ宮殿附属ボーボリ庭園イゾ  
ロット俯瞰写真

fig. III.2.3  
ジャンボローニャ《オケアヌスの噴水》  
1567-1574年、大理石、花崗岩  
フィレンツェ、ピッティ宮殿附属ボーボリ庭園

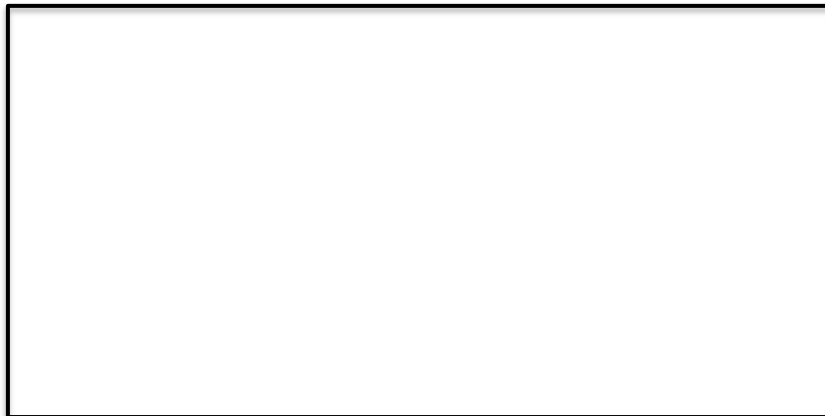


fig. III.2.5

ジョルジョ・ヴァザーリ、ジョヴァンニ・ストラダーノ《シエナ戦争の勝利》  
(部分：サン・ピエル・ガットリーニ門とピッティ宮殿裏の眺望) 1563-1565年  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿五百人大広間 (天井画)

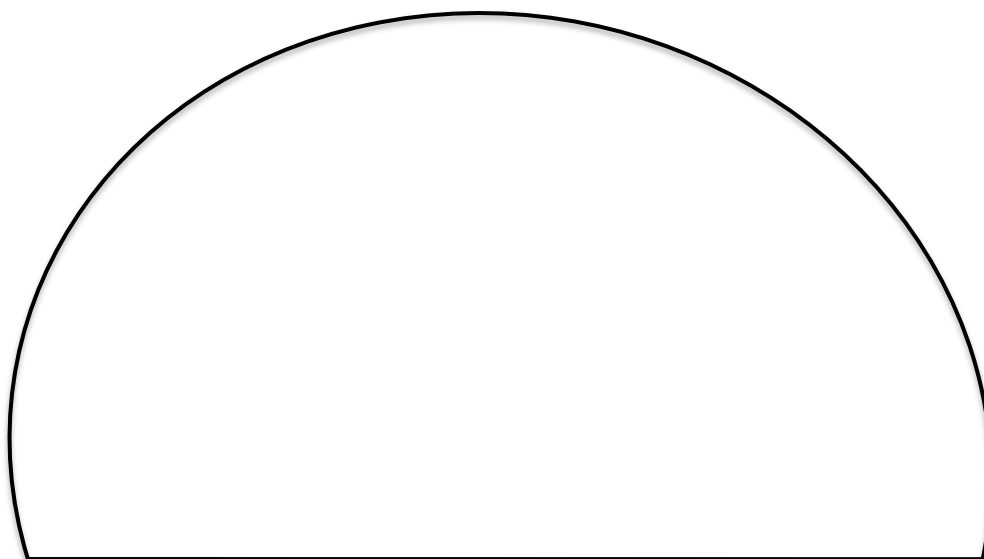


fig. III.2.6

ジュスト・ウーテンス《ピッティ宮殿、ボーボリ庭園、ベルヴェデーレ要塞》1599年  
フィレンツェ、郷土史博物館

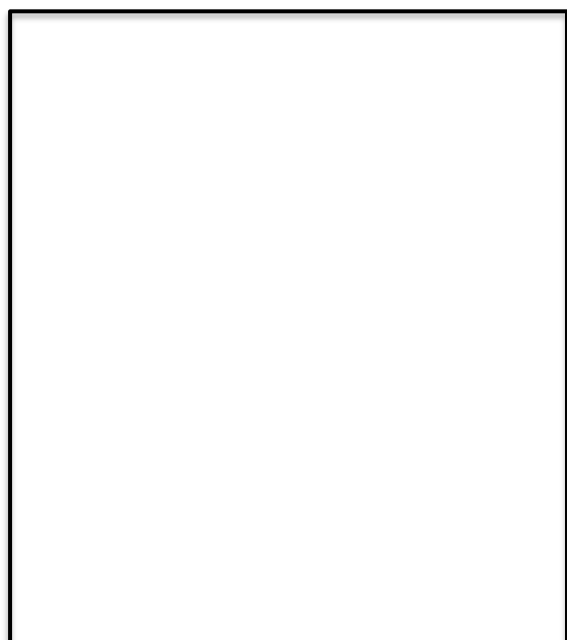


fig. III.2.7

ジュスト・ウーテンス  
《ピッティ宮殿、ボーボリ庭園、ベルヴェデーレ要塞》  
(fig. III.2.6部分)

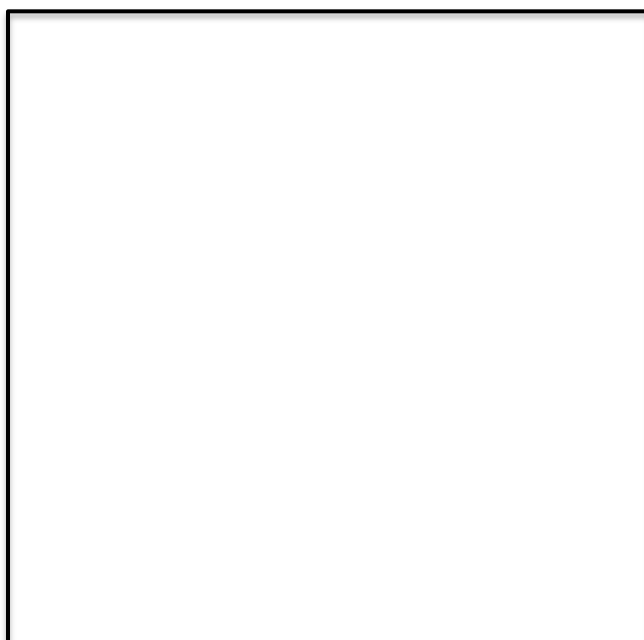


fig. III.2.8

ジュスト・ウーテンス  
《ピッティ宮殿、ボーボリ庭園、ベルヴェデーレ要塞》  
(fig. III.2.6部分)



fig. III.2.9  
ピッティ宮殿附属ボーポリ庭園  
「アンフィテアトロ」全貌写真

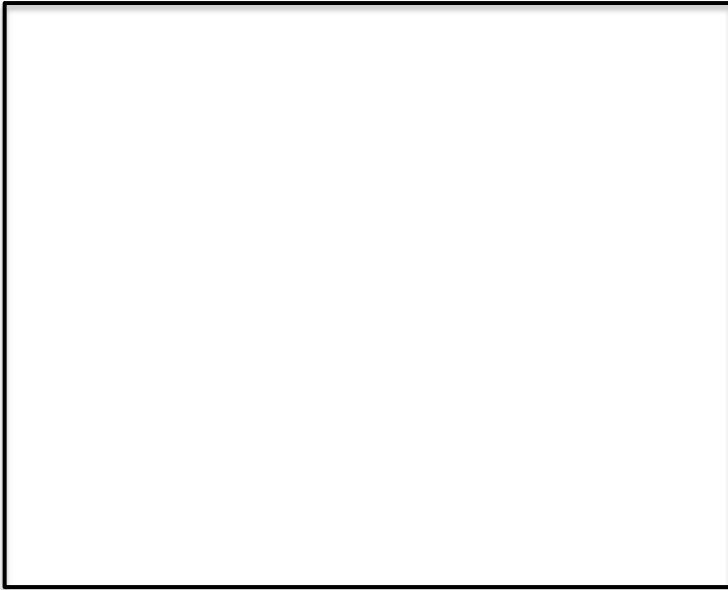


fig. III.2.10  
ジュスト・ウーテンス  
《ピッティ宮殿、ボーポリ庭園、ベルヴェデーレ要塞》  
(fig. III.2.6部分)

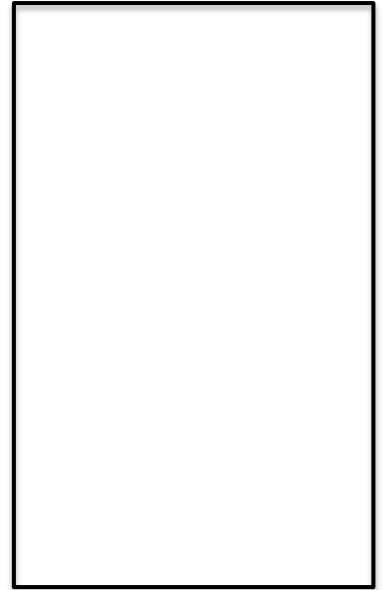


fig. III.2.11  
ストルド・ロレンツィ《ネプトゥヌス》  
1571年（噴水としての完成は1574年）  
ブロンズ、総高180cm  
フィレンツェ、ボーポリ庭園

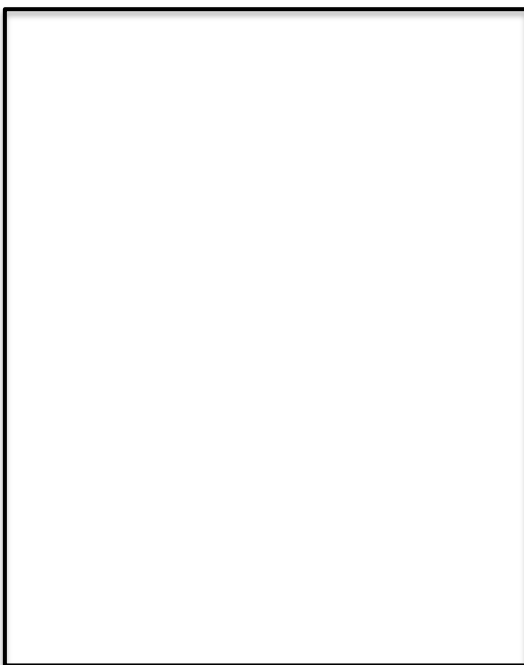


fig. III.2.12  
バッチョ・バンディネッリ、ジョヴァンニ・ファン  
チェッリ他《マダマの小洞窟》  
フィレンツェ、ボーポリ庭園

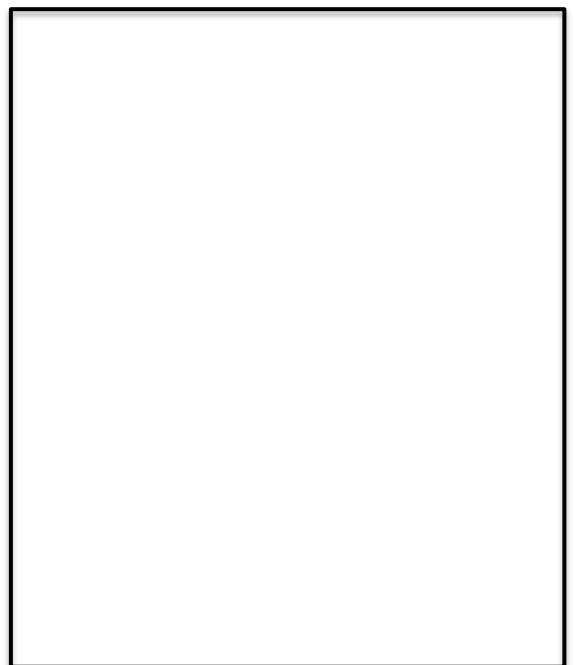


fig. III.2.13  
バッチョ・バンディネッリ、ジョヴァンニ・ファン  
チェッリ他《マダマの小洞窟》(fig. III.2.12部分)

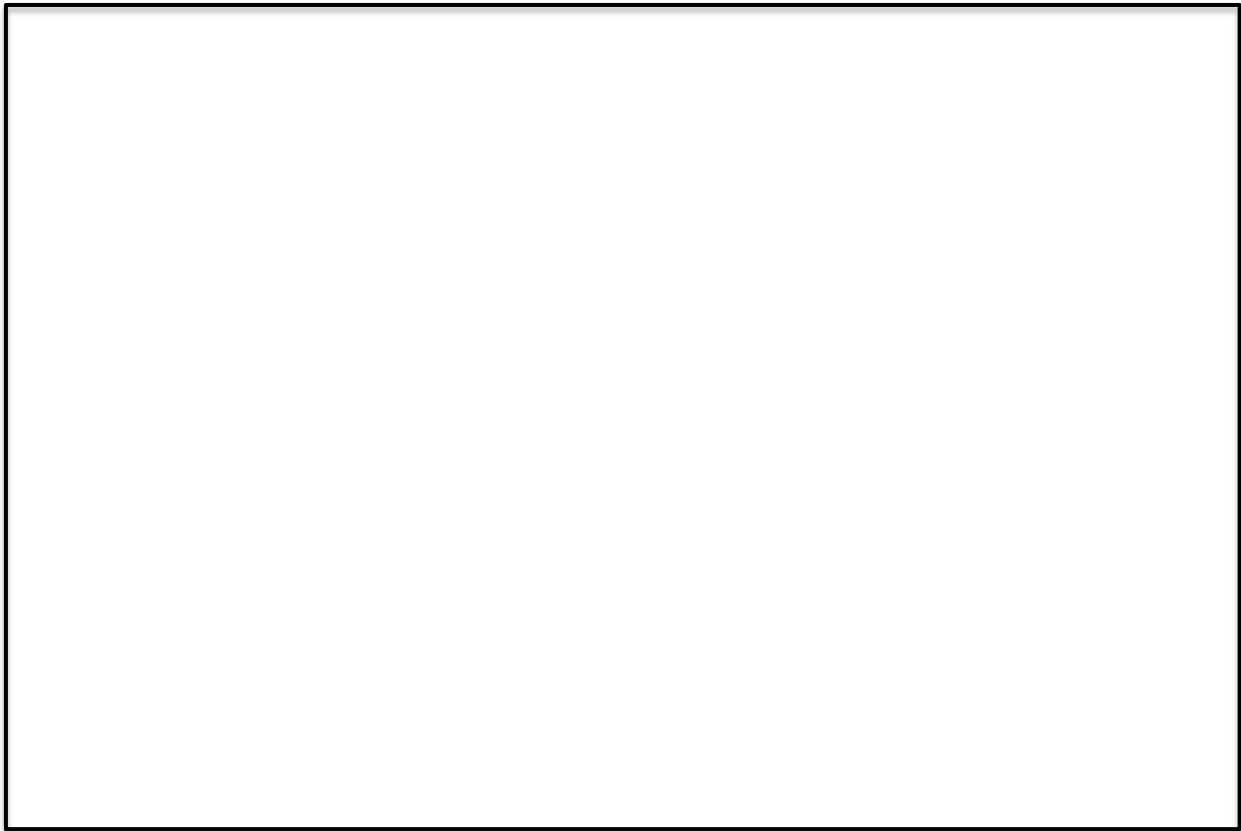


fig. III.2.14  
ジョヴァンニ・アントニオ・ドーシオに帰属  
《ベルヴェデーレの中庭の景観（南側から望む）》  
1558-1561年、ペン、褐色インク、紙、330 x 220 mm  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室

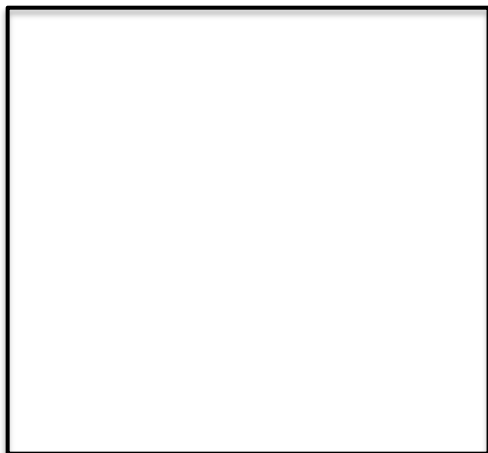


fig. III.2.15  
「ベルヴェデーレの中庭（第1テラス）  
の大噴水」俯瞰写真

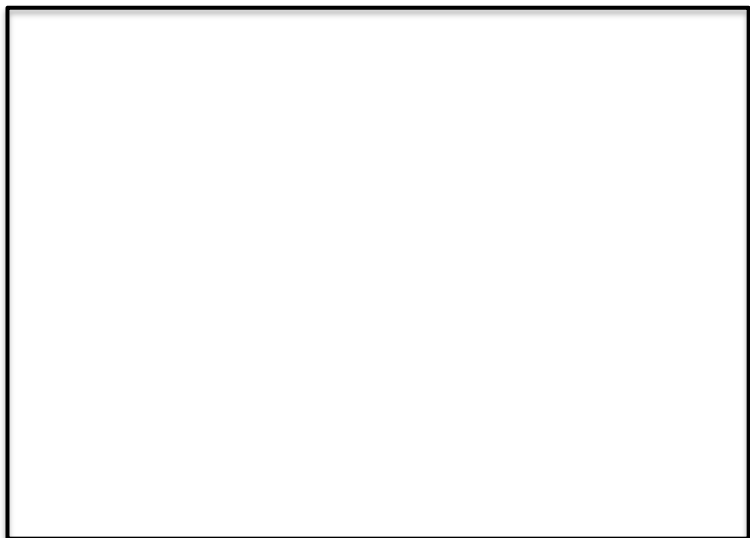


fig. III.2.16  
ジョヴァンニ・バッティスタ・ファルダ  
《ベルヴェデーレの中庭（第1テラス）の噴水》  
1665-1691年、エッチング、210 x 286 mm  
(Giovanni Giacomo de' Rossi, ed., *Le fontane di Roma nelle  
piazze e luoghi pubblici della città con li loro prospetti come  
sono al presente*, Roma, 1691, vol. 1, pl. 4)  
ロンドン、大英博物館 inv. no. 1928,0713.2

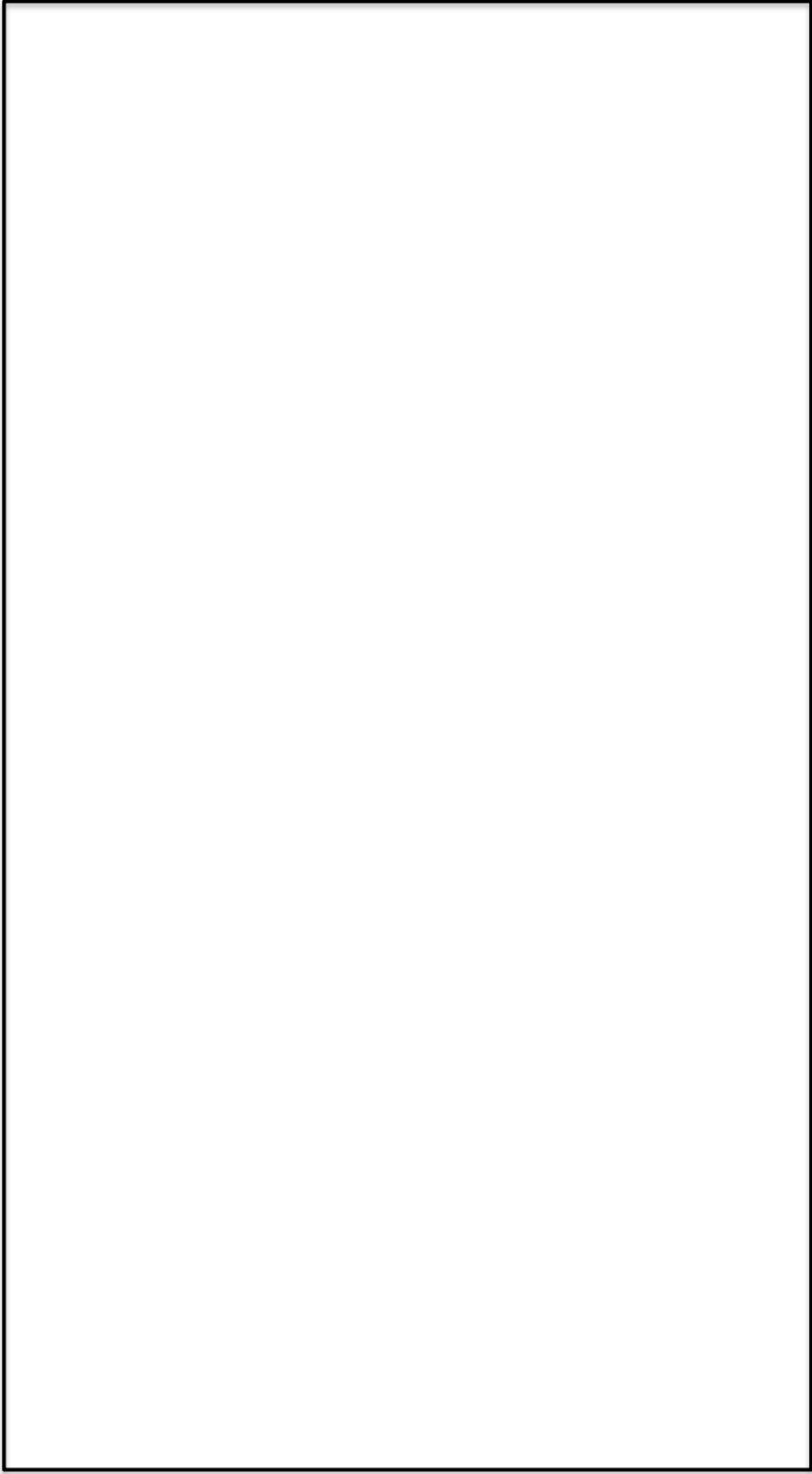


fig. III.2.17  
パッチョ・バンデイナーリ《ボーボリ庭園の噴水に用いる大理石ブロックに関する覚書》1551年11月12日 (?)  
Archivio di Stato di Firenze, Miscellanea Medicea 93/3, no. 32-101 ※本論文別冊 Appendix Xを参照。  
赤字のアラビア数字は筆者による。



リスト1に記載の石材一覧（単位はブラッチャ表記）  
作図：秋田亮平

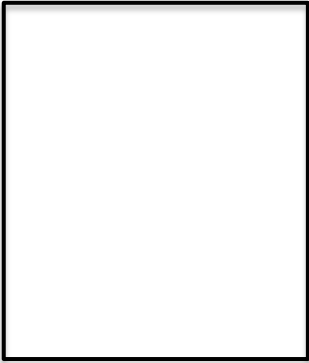


fig. III.2.18  
大理石発注リスト1より石材A



fig. III.2.19  
大理石発注リスト1より石材B



fig. III.2.20  
大理石発注リスト1より石材C



fig. III.2.21  
大理石発注リスト1より石材D-a



fig. III.2.22  
大理石発注リスト1より石材D-b

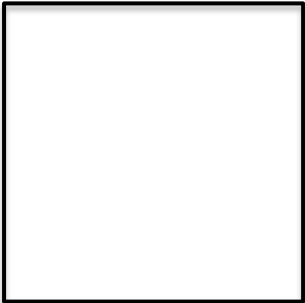


fig. III.2.23  
大理石発注リスト1より石材E



fig. III.2.24  
大理石発注リスト1より石材F



fig. III.2.25  
大理石発注リスト1より石材G

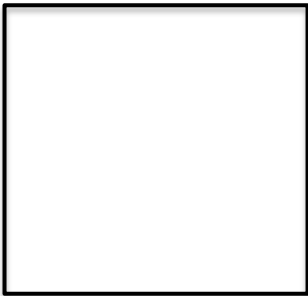


fig. III.2.26  
大理石発注リスト1より石材H

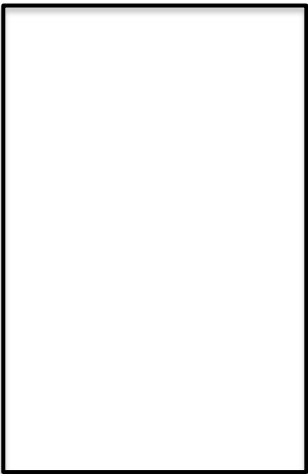


fig. III.2.27  
大理石発注リスト1より石材I-a

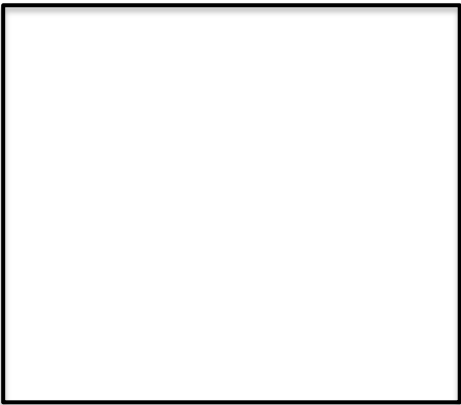


fig. III.2.28  
大理石発注リスト1より石材I-b



fig. III.2.29  
大理石発注リスト2より石材①



fig. III.2.30  
大理石発注リスト2より石材②

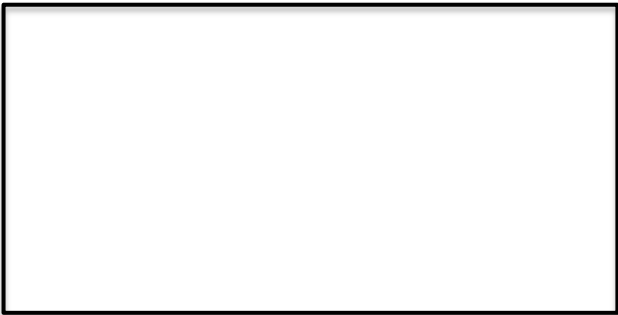


fig. III.2.31  
大理石発注リスト2より石材③



fig. III.2.32  
大理石発注リスト2より石材④



fig. III.2.33  
大理石発注リスト2より石材⑤

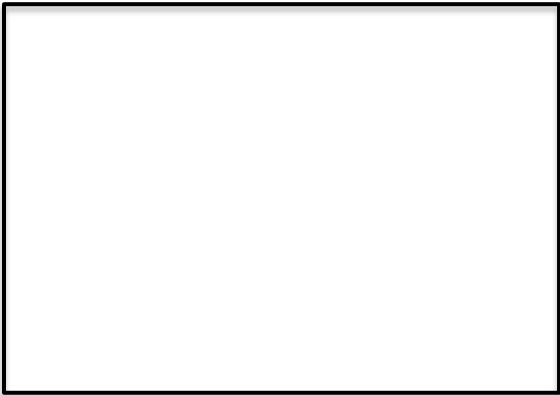


fig. III.2.34  
大理石発注リスト2より石材⑥

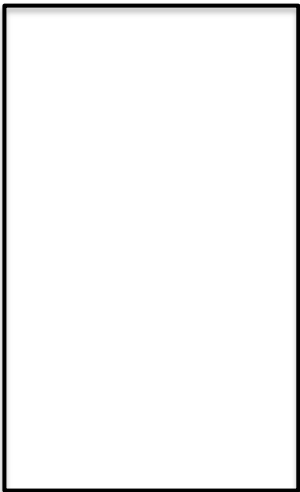


fig. III.2.35  
大理石発注リスト2より石材⑦

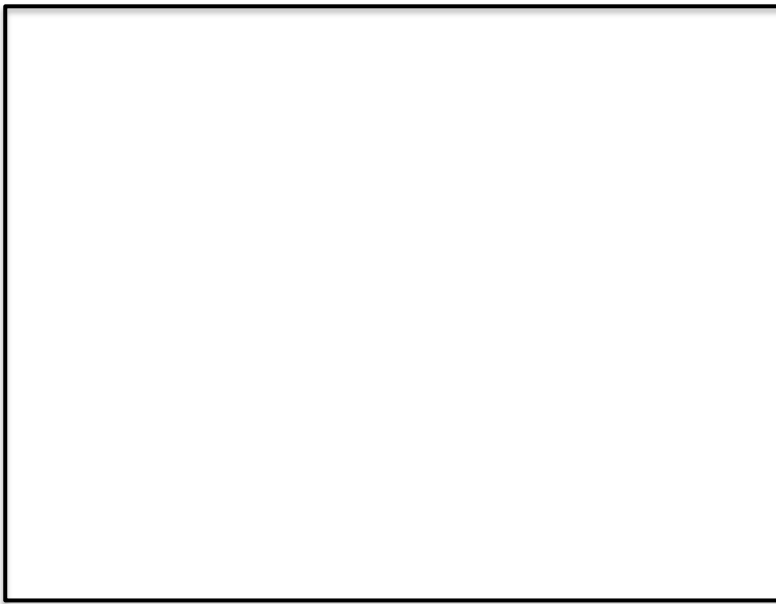


fig. III.2.36  
ファン・フェーンによる再構成  
案（噴水全体）

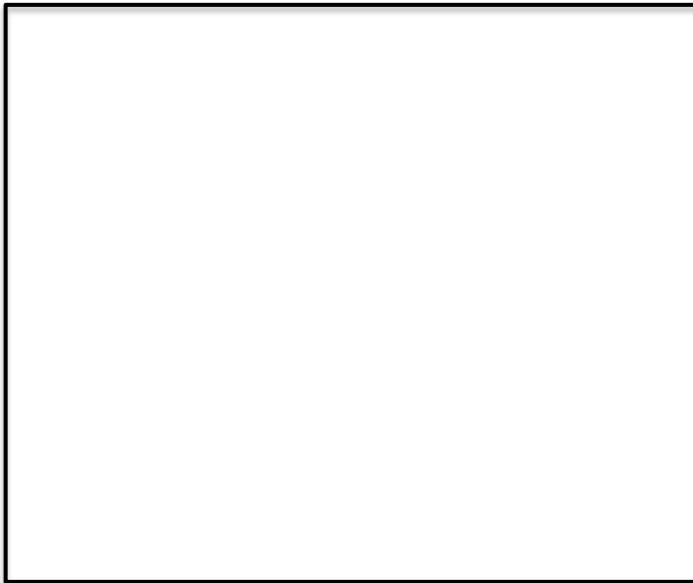


fig. III.2.37  
ファン・フェーンによる再構成案  
（噴水の中央構造）

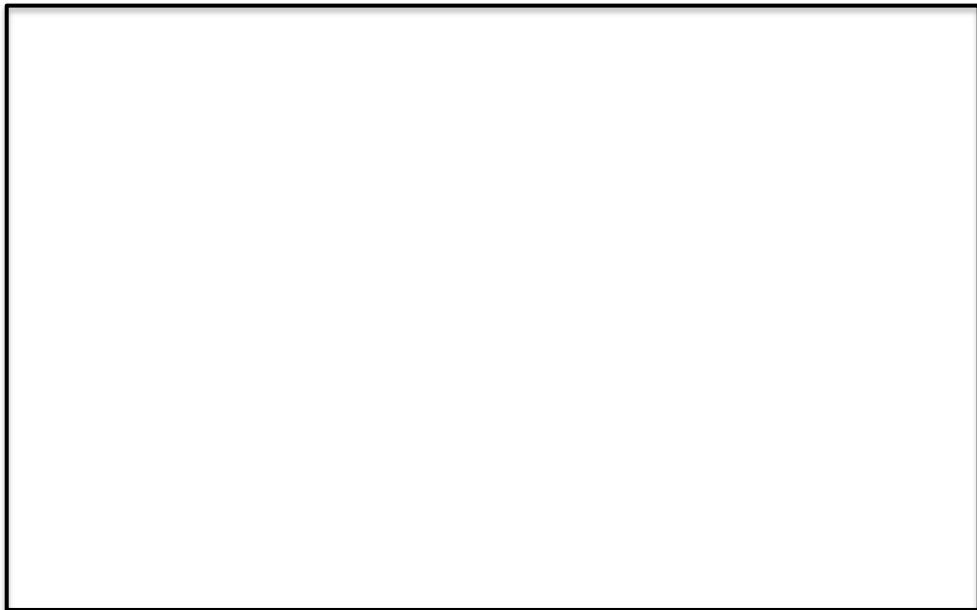


fig. III.2.38  
ジャンボローニャ《オケアヌスの噴水のための構想》  
1571-1575年頃、ペン、褐色インク、黒チョーク、尖筆、205 x 330 mm  
オックスフォード、アシュモレアン美術館 inv. no. WA1954.29

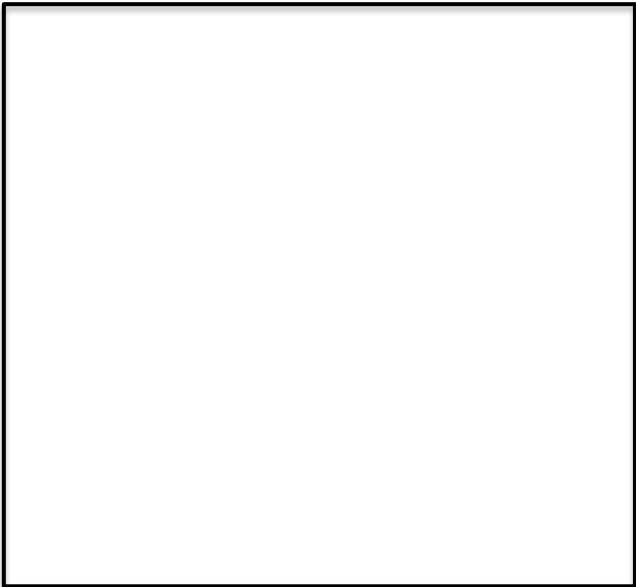


fig. III.2.39  
ボーボリ庭園のためのバンディネッリの噴水再構成案1（見取り図）

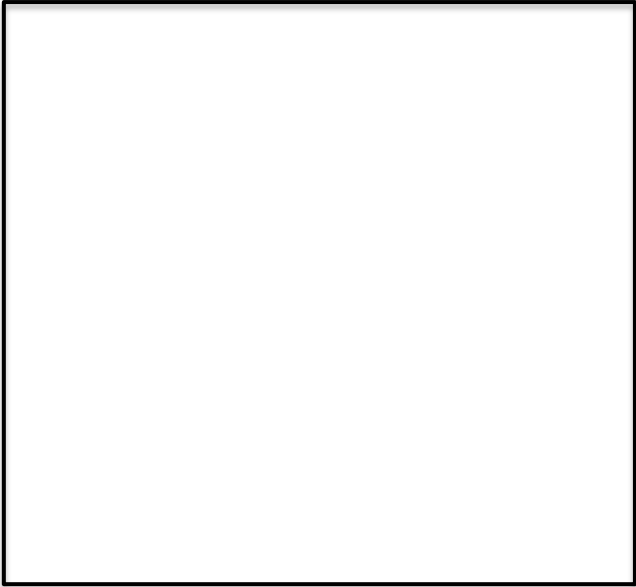


fig. III.2.40  
ボーボリ庭園のためのバンディネッリの噴水再構成案1（立面図）

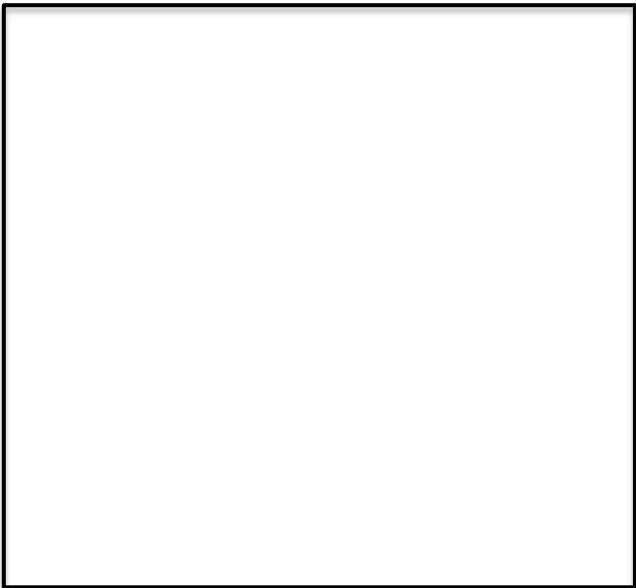


fig. III.2.41  
ボーボリ庭園のためのバンディネッリの噴水再構成案1（平面図）

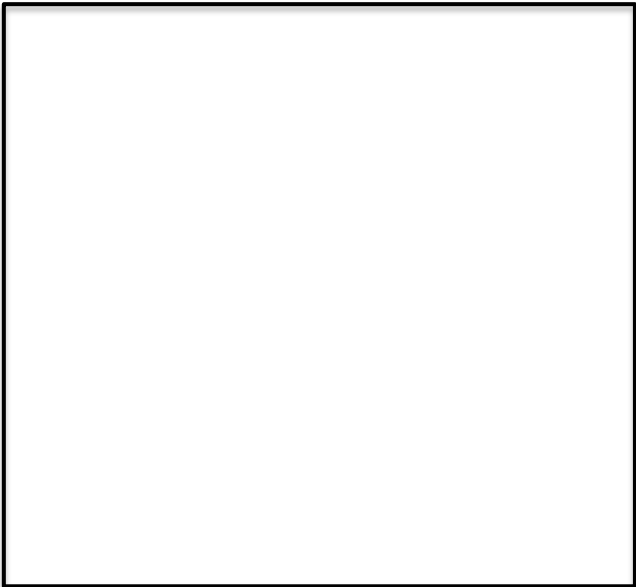


fig. III.2.42  
ボーボリ庭園のためのバンディネッリの噴水再構成案2（見取り図）

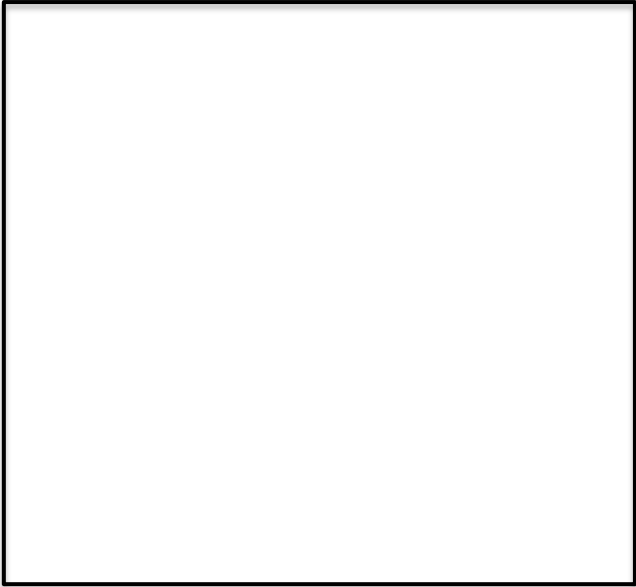


fig. III.2.43  
ボーボリ庭園のためのバンディネッリの噴水再構成案2（立面図）

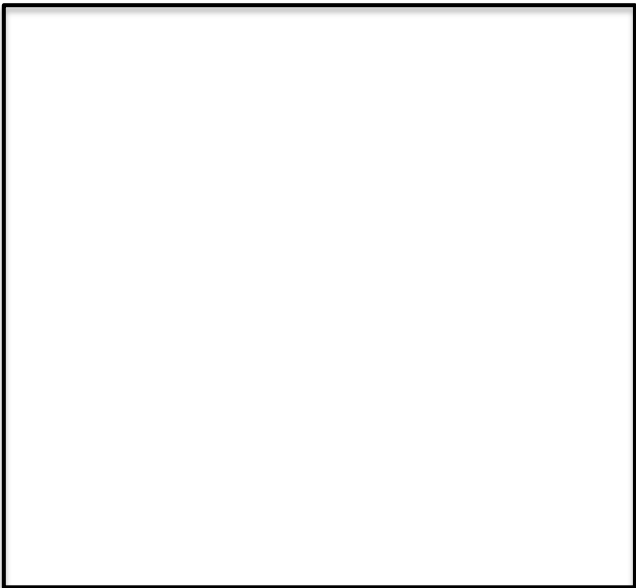


fig. III.2.44  
ボーボリ庭園のためのバンディネッリの噴水再構成案2（平面図）

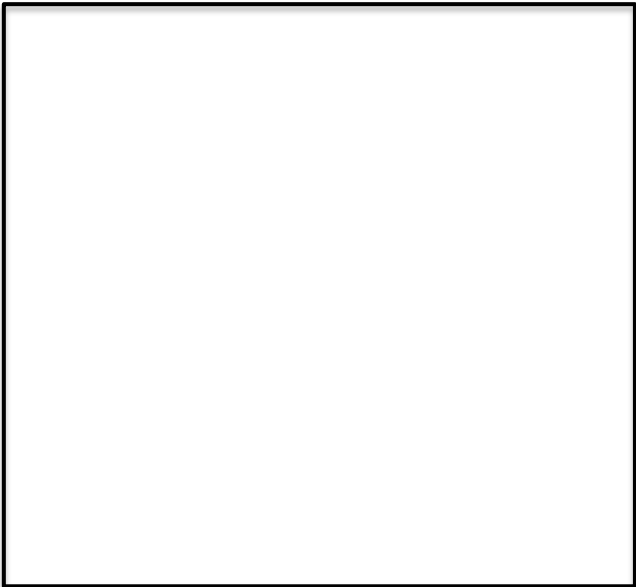


fig. III.2.45  
石材①③④⑥D-aで構成する外枠構造  
（見取り図）

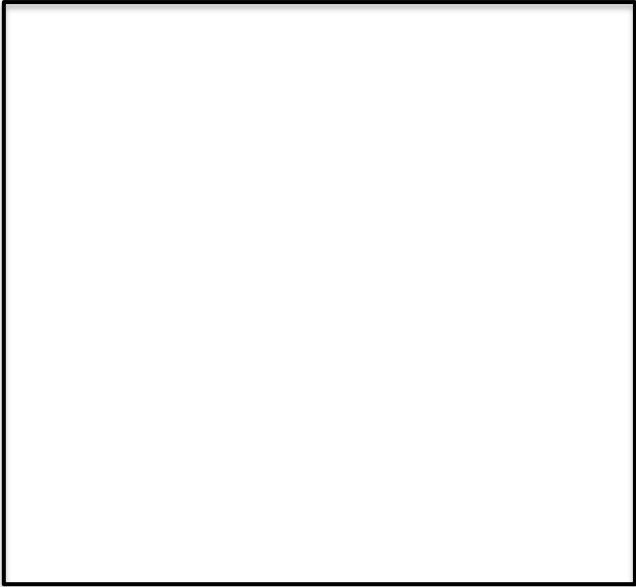


fig. III.2.46  
石材①③④⑥D-aで構成する外枠構造  
（立面図）

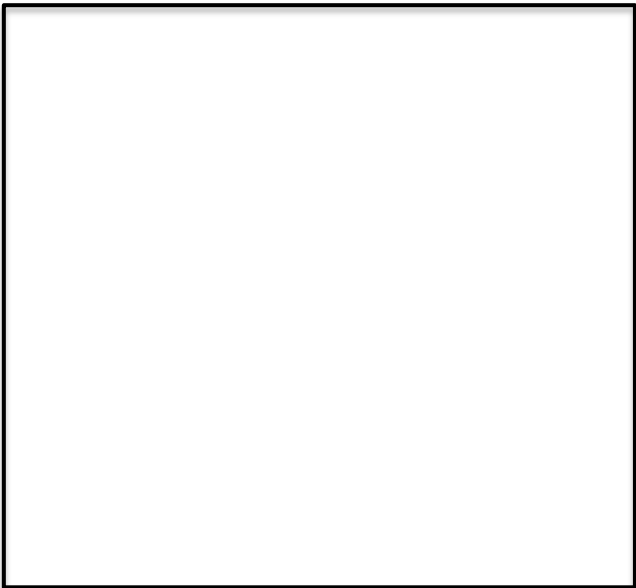


fig. III.2.47  
石材①③④⑥D-aで構成する外枠構造  
（平面図）

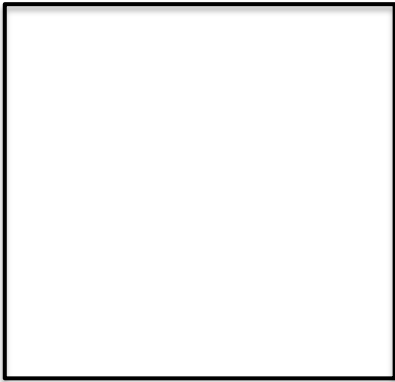


fig. III.2.48  
石材D-bで構成する内水槽（見取り図）



fig. III.2.49  
石材D-bで構成する内水槽  
（立面図）

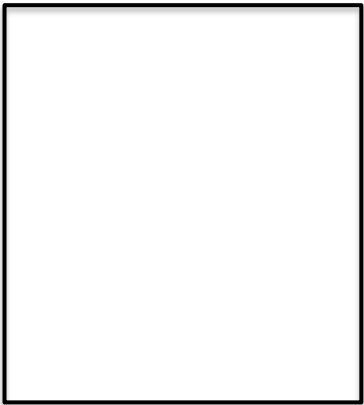


fig. III.2.50  
石材D-bで構成する内水槽  
（平面図）

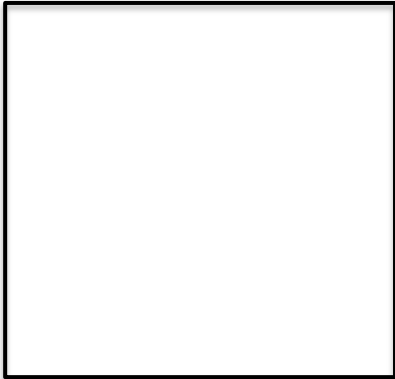


fig. III.2.51  
石材ACで構成する下部構造  
（見取り図）

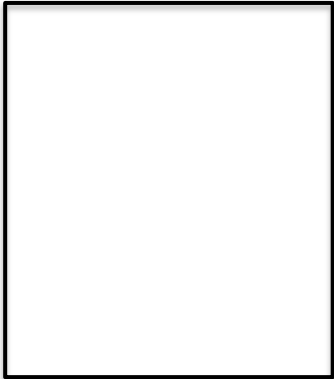


fig. III.2.52  
石材ACで構成する下部構造  
（立面図）

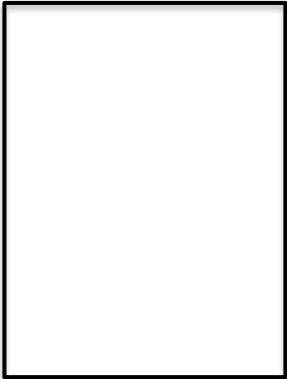


fig. III.2.53  
石材ACで構成する下部構造  
（平面図）

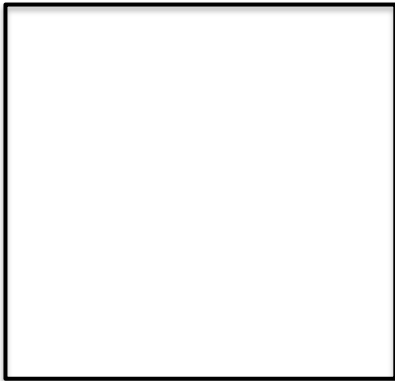


fig. III.2.54  
石材EGHで構成する下部構造  
（見取り図）



fig. III.2.55  
石材EGHで構成する下部構造  
（立面図）

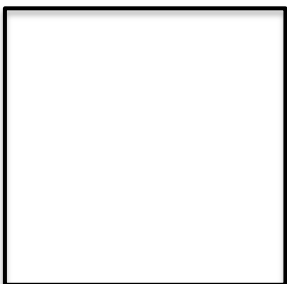


fig. III.2.56  
石材EGHで構成する下部構造  
（平面図）

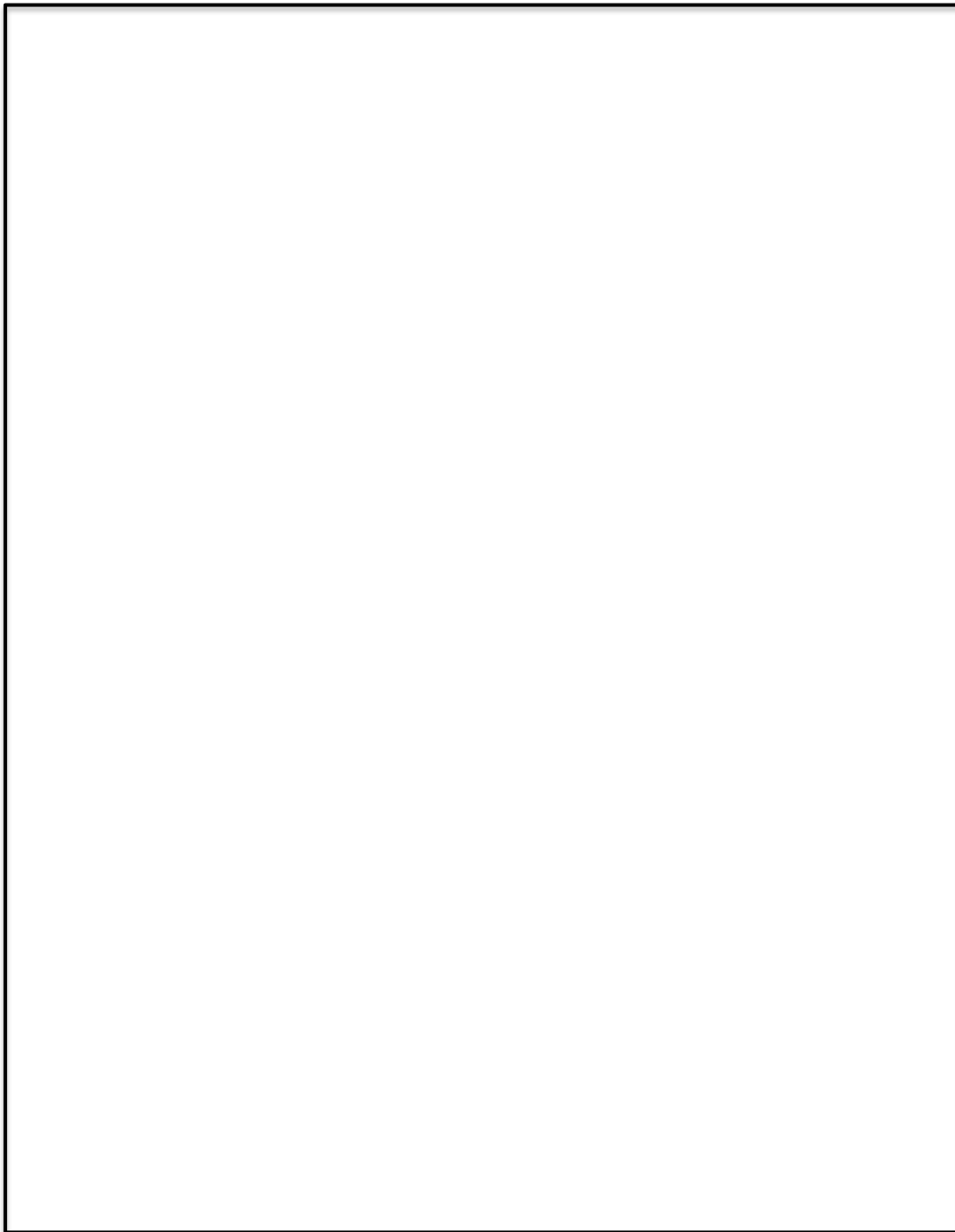


fig. III.2.57  
「南部の取水経路」  
ステファノ・ボンシニョーリ 《フィレンツェ地図》  
(fig. I.2.16部分)

図示  
— : ジネヴラ水源からの水路  
— : サン・レオナルド水源からの水路  
■ : 貯水槽  
■ : マダマの小洞窟  
■ : 大洞窟  
● : 噴水

LAMBERINI-TAMANTINI 2013、tav. 1に基づき、  
筆者作成

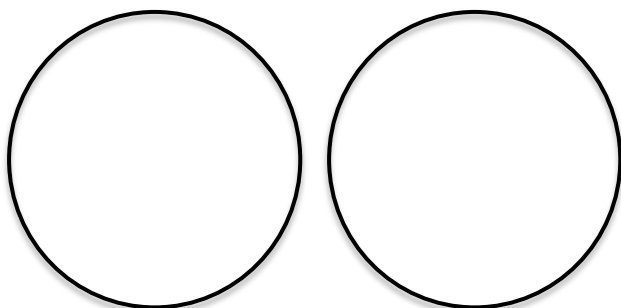


fig. III.2.58  
ドメニコ・ポッジーニ  
《エレオノーラ・デ・トレドのメダル》  
(表・裏) 1555年  
フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館



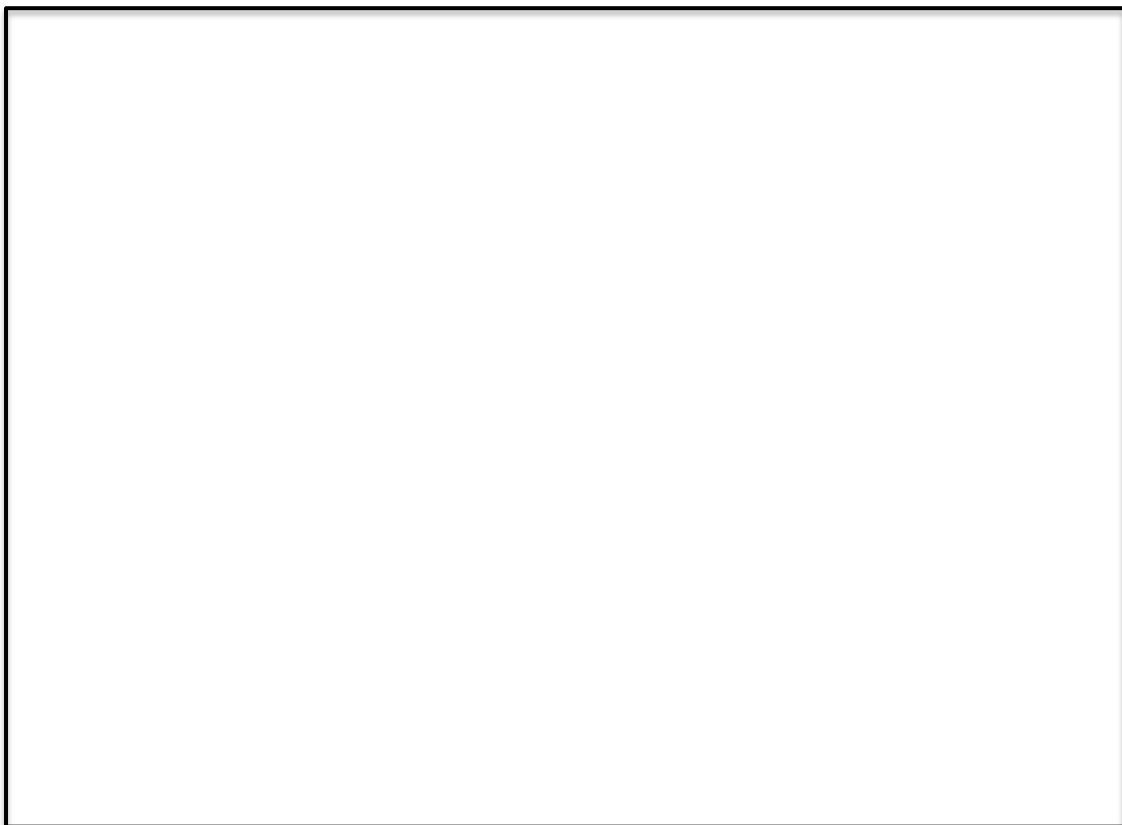


fig. IV.1.1  
バルトロメオ・アンマンナーティ《ユノの噴水》（展示風景）フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館



fig. IV.1.2  
バルトロメオ・アンマンナーティ《ユノの噴水》  
（《ユノ》および2体の《孔雀》は模刻、オリジナルは別途展示。円環は後補）  
1555-1563年、大理石  
フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館

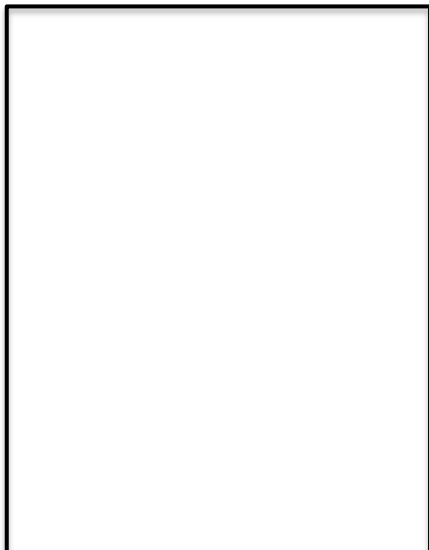
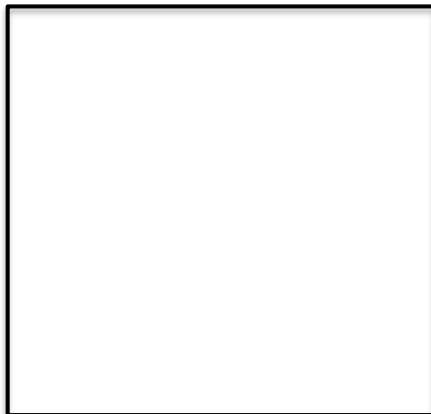


fig. IV.1.3  
アンマンナーティ 《ユノ》  
大理石、180 cm、フィレンツェ、バル  
ジェッロ国立美術館 inv. Depositi, n. 135



figs. IV.1.4, IV.1.5  
アンマンナーティ 《孔雀》  
大理石、63 x 83 x 27 cm  
フィレンツェ、バルジェッロ  
国立美術館  
inv. Depositi, nos. 149, 150

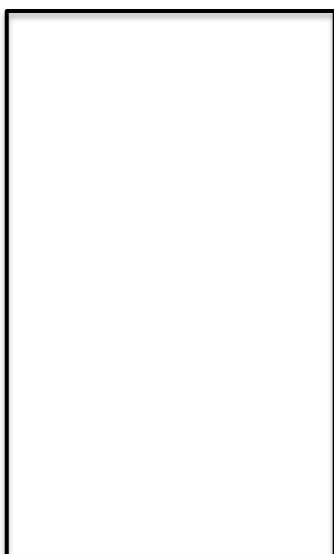
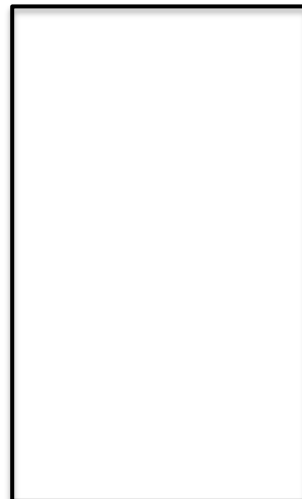


fig. IV.1.6  
アンマンナーティ 《ケレース》  
大理石、230 cm、フィレンツェ、  
バルジェッロ国立美術館  
inv. Depositi, n. 132

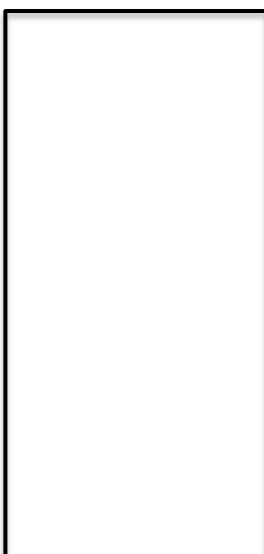


fig. IV.1.7  
アンマンナーティ 《賢明》  
大理石、232 cm、フィレンツェ、  
バルジェッロ国立美術館 inv.  
Depositi, n. 133

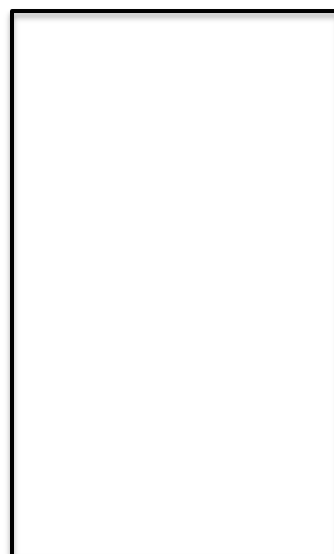


fig. IV.1.8  
アンマンナーティ 《フィレンツェ》  
大理石、240 cm、フィレンツェ、バル  
ジェッロ国立美術館 inv. Depositi, n. 140

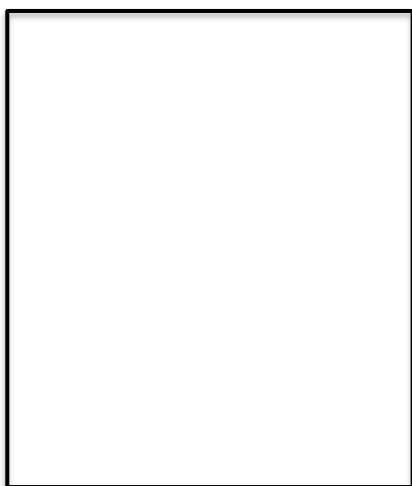


fig. IV.1.9 アンマンナーティ 《アルノ河》  
大理石、230 cm、フィレンツェ、バルジェッ  
ロ国立美術館 inv. Depositi, n. 141



fig. IV.1.10 アンマンナーティ 《パルナッソスの泉》  
大理石、213 cm、フィレンツェ、バルジェッロ国立  
美術館 inv. Depositi, n. 139

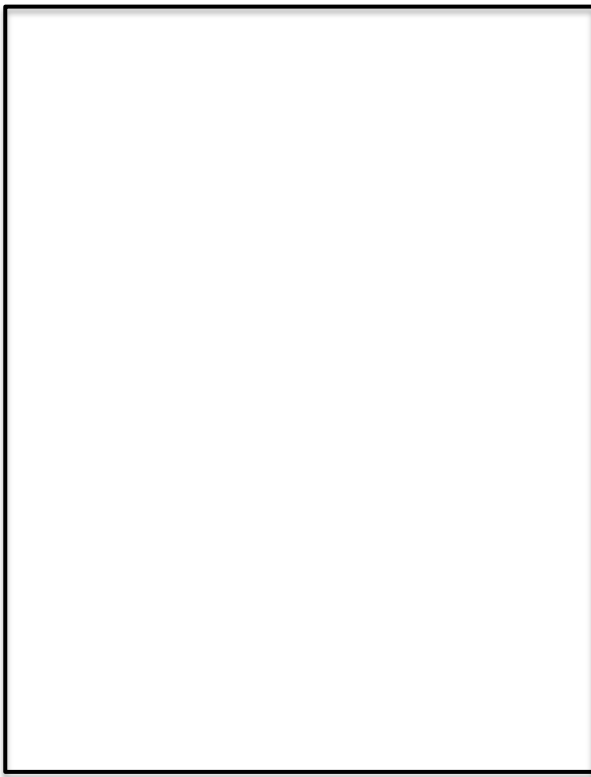


fig. IV.1.11  
ジュスト・ウーテンス 《ピッティ宮殿とボーボリ庭園、  
ベルヴェデーレ要塞を望む景観》  
（テラスの《ユノの噴水》と草地の《オケアヌス  
の噴水》部分）1598-1599年、油彩、カンヴァス  
フィレンツェ、郷土史博物館

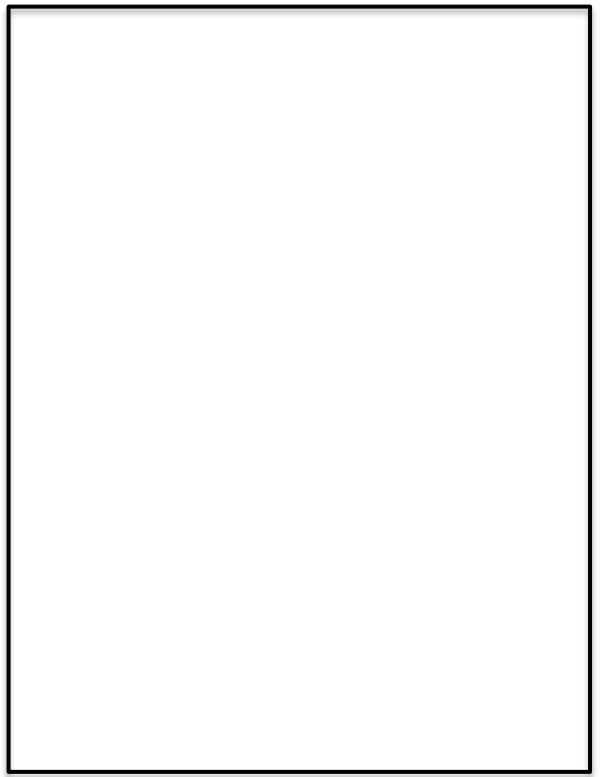


fig. IV.1.12  
ジョヴァンニ・グエッラ  
《アンマンナーティによる噴水》1598年頃  
ウィーン、アルベルティーナ美術館

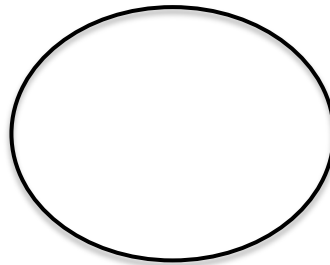


fig. IV.1.13  
パオロ・ジョーヴィオによる  
「メディチ家のインプレーザ」  
（Giovio 1556, p. 31）

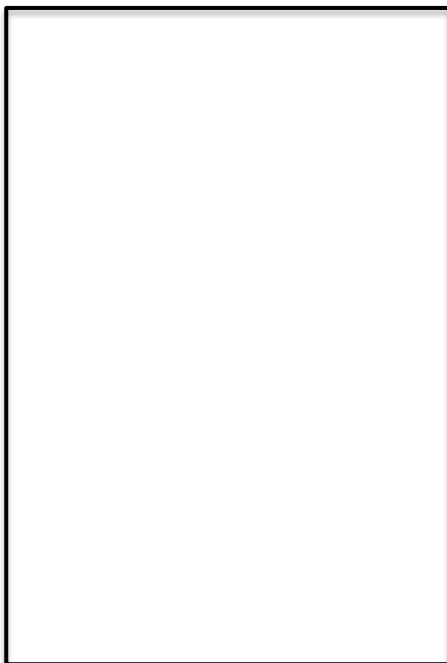


fig. IV.1.14  
マルコ・デッツィ・バルデスキによる  
《ユノの噴水》の再構成案（Dezzi Bardeschi 1969）

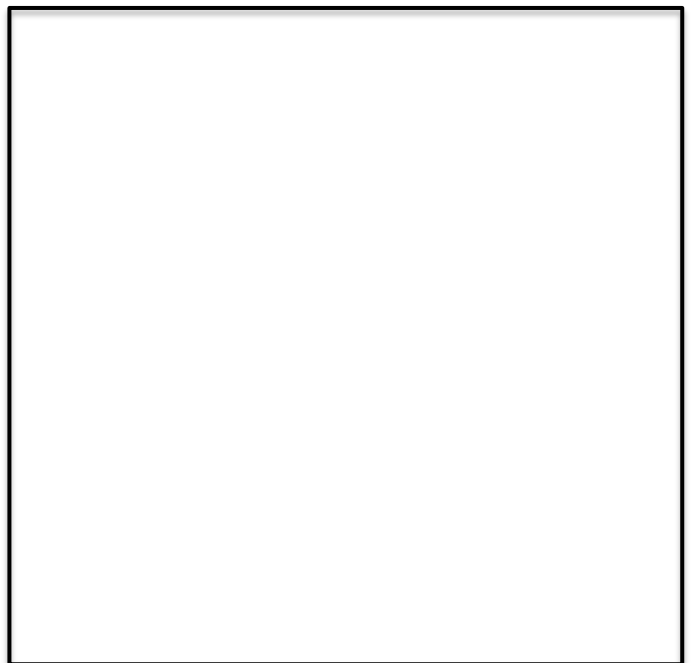


fig. IV.1.15  
デトレフ・ハイカンブによる《ユノの噴水》の再構成案  
（Heikamp 1977）

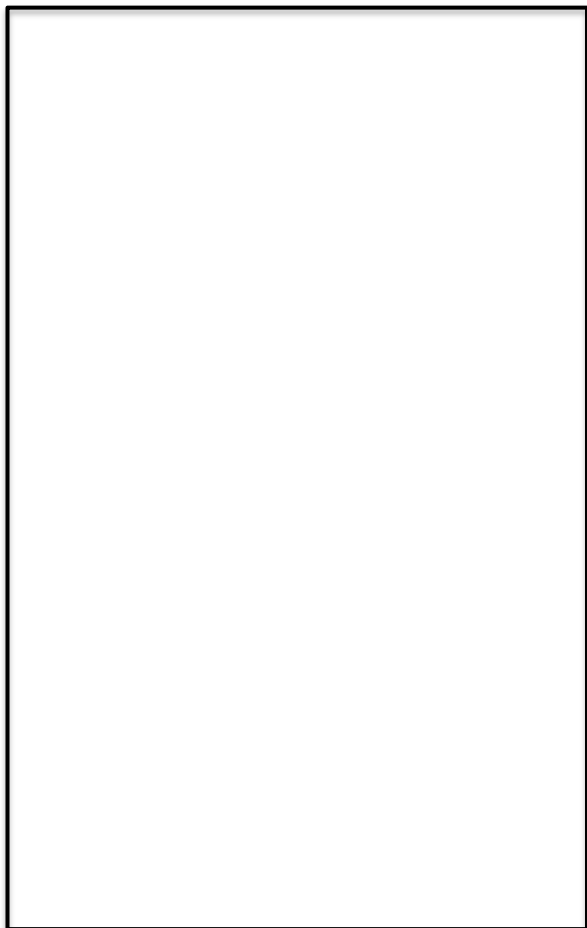


fig. IV.1.16 アンマンナーティ 《ユノ》  
(fig. III.1.3)

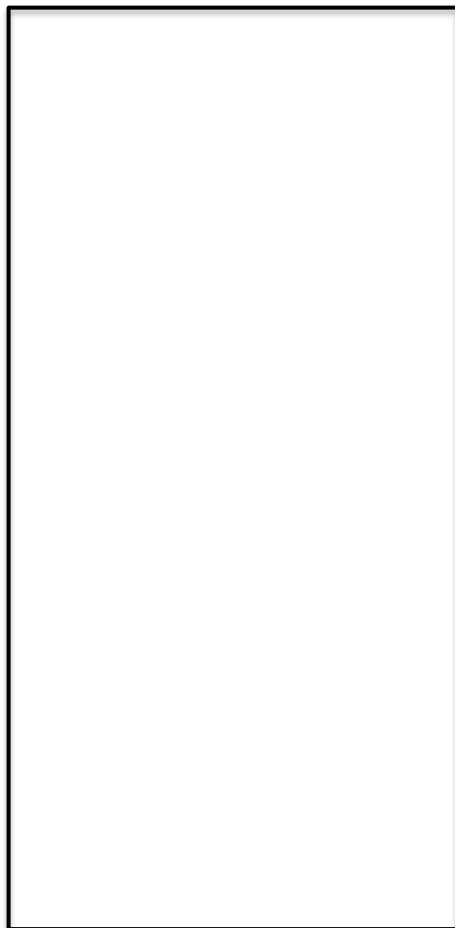


fig. IV.1.17 アンマンナーティ 《ユノ》  
(左側面観：fig. III.1.3)

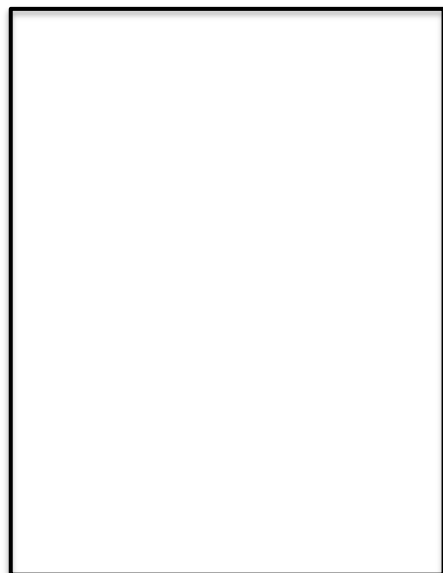


fig. IV.1.18  
「大気」の擬人像  
(Ripa 1611, p. 218)

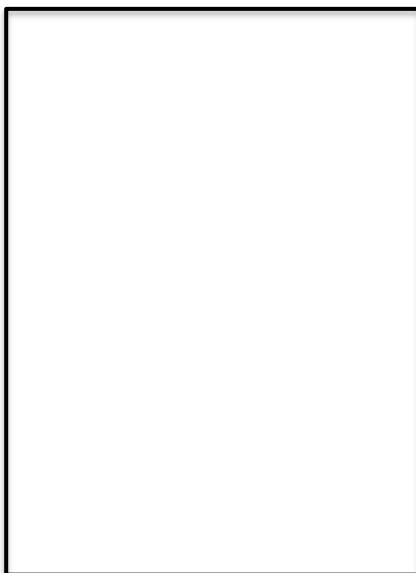


fig. IV.1.19  
アンマンナーティ 《ユノ》  
(タンバリン：fig. III.1.3部分)

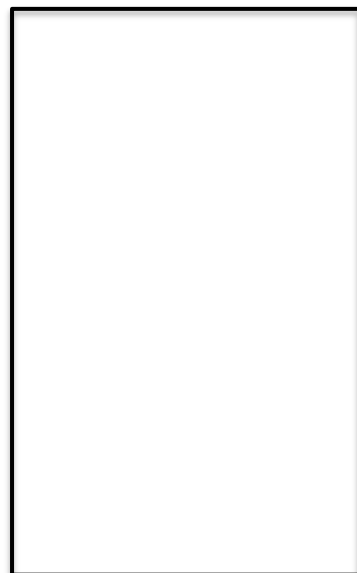


fig. IV.1.20  
アンマンナーティ 《ユノ》  
(左手：fig. III.1.3部分)

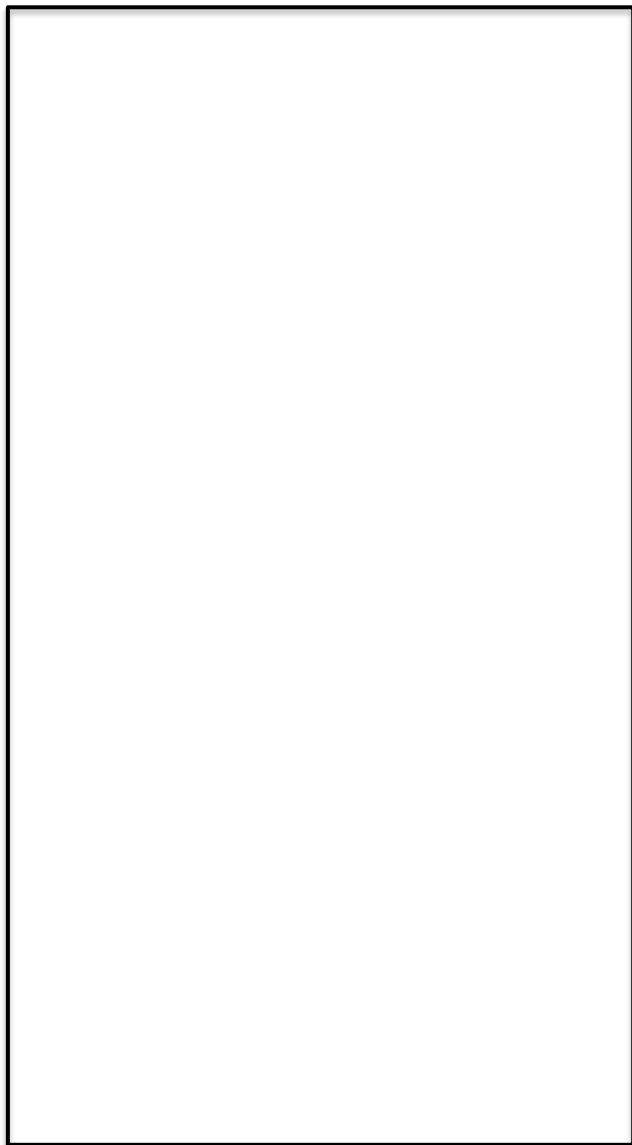


fig. IV.1.21  
アンマンナーティ 《ケレース》  
(fig. III.1.6)

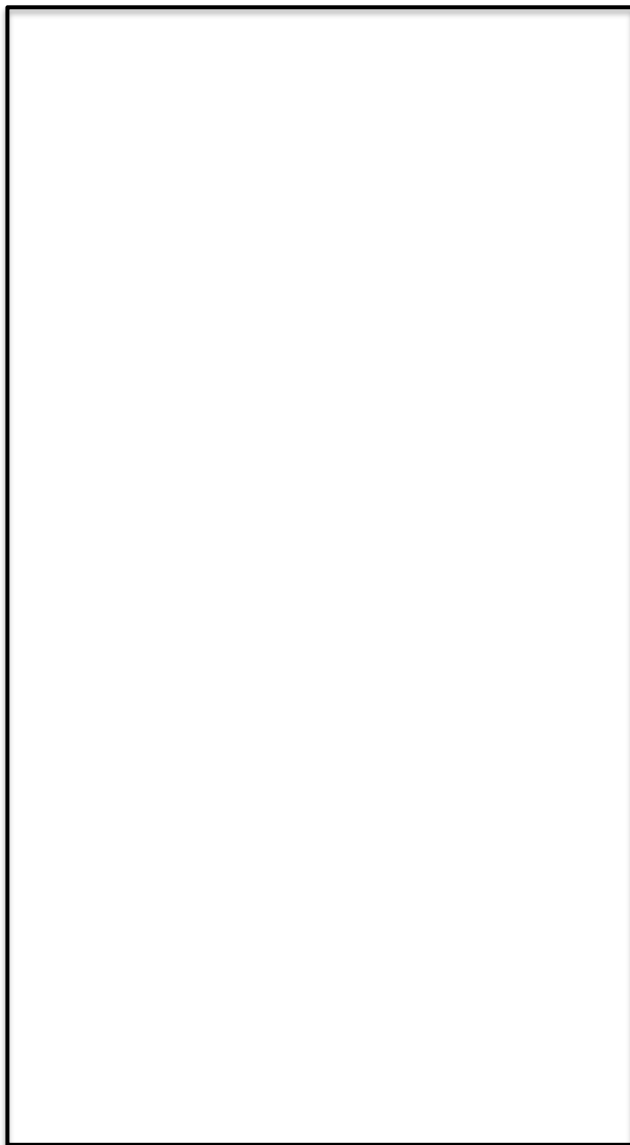


fig. IV.1.22  
アンマンナーティ 《ケレース》  
(左側面観：fig. III.1.6)

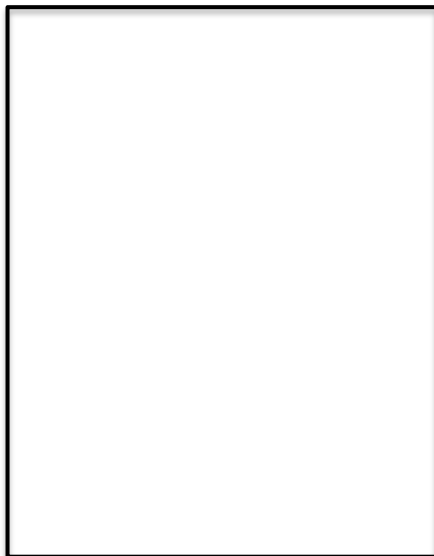


fig. IV.1.23  
「大地」の擬人像 (Ripa 1611, p. 215)

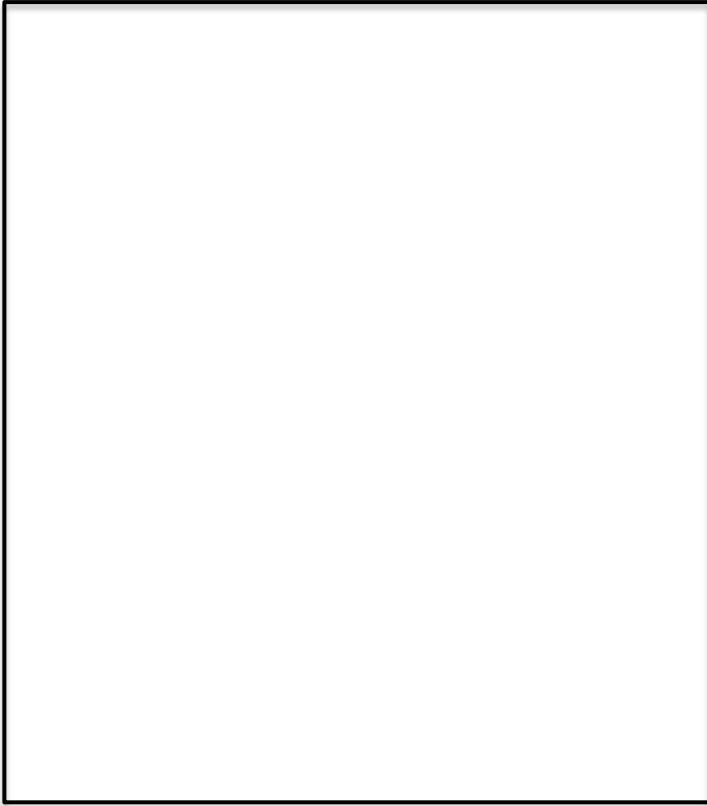


fig. IV.1.24  
アンマンナーティ 《パルナッソスの泉》  
(fig. III.1.10)

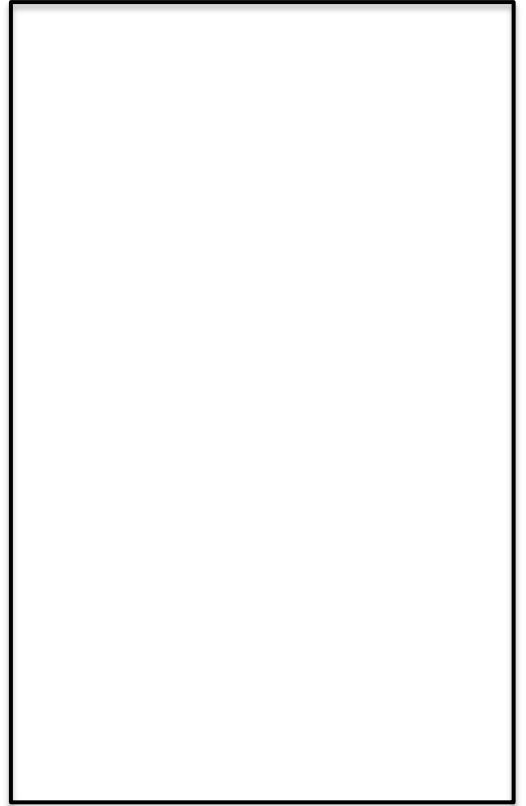


fig. IV.1.25  
アンマンナーティ 《パルナッソスの泉》  
(左側面観：fig. III.1.10)

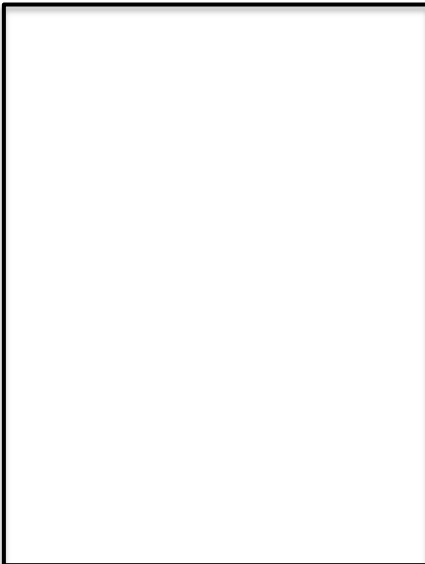


fig. IV.1.26  
「曙」の擬人像 (Ripa 1611, p. 109)

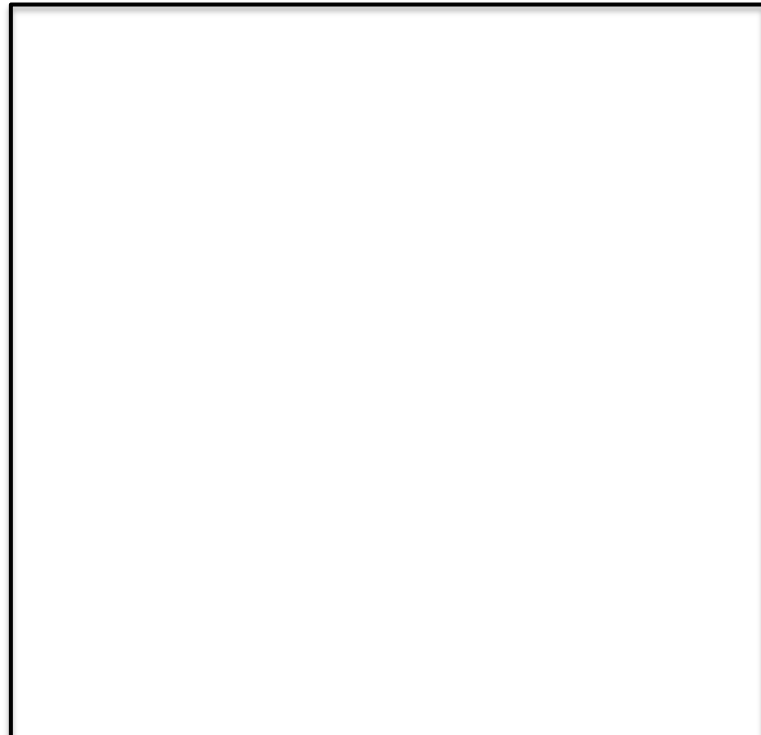


fig. IV.1.27  
ミケランジェロ 《曙》  
フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室

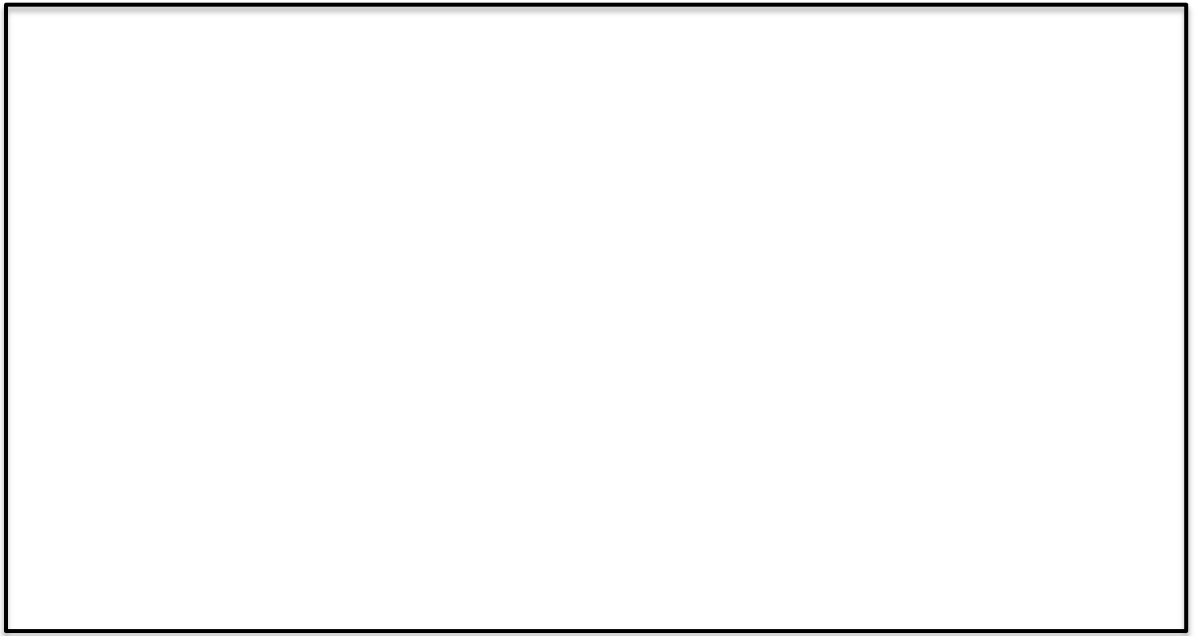


fig. IV.1.28  
ミケランジェロ 《黄昏と曙の擬人像を配するヌムール公ロレンツォ墓碑》  
フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室

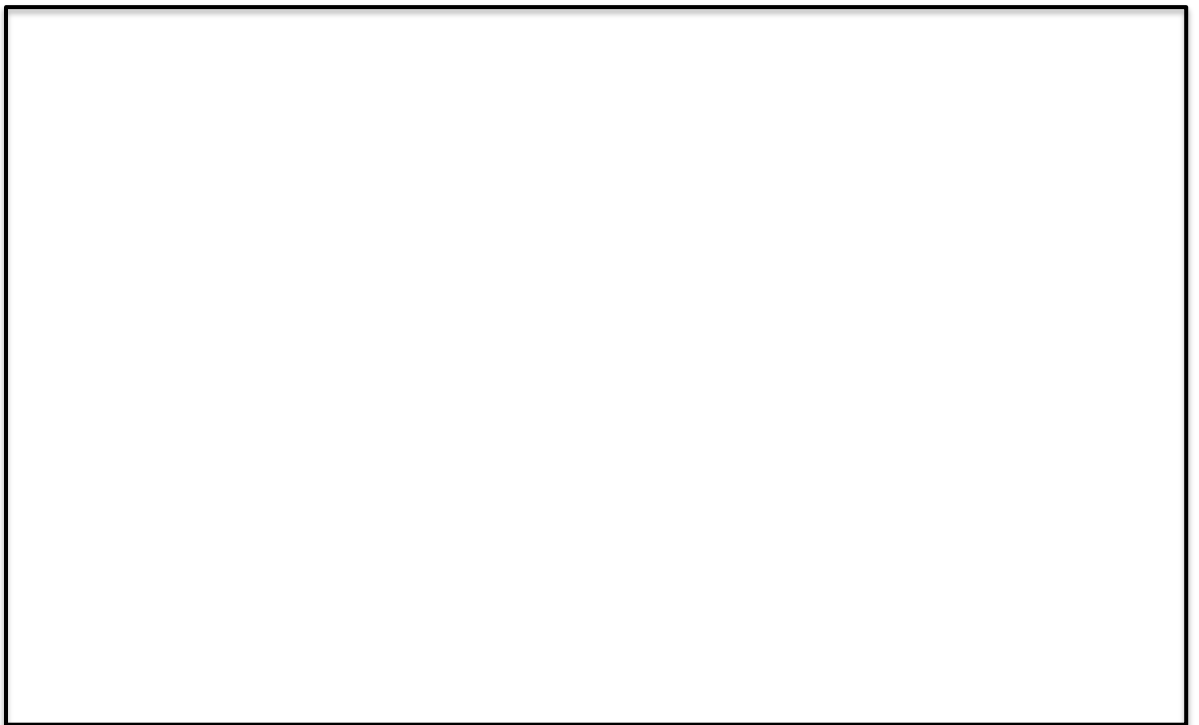


fig. IV.1.29  
アンマンナーティ 《ユノの噴水》 (fig. III.1.2部分)

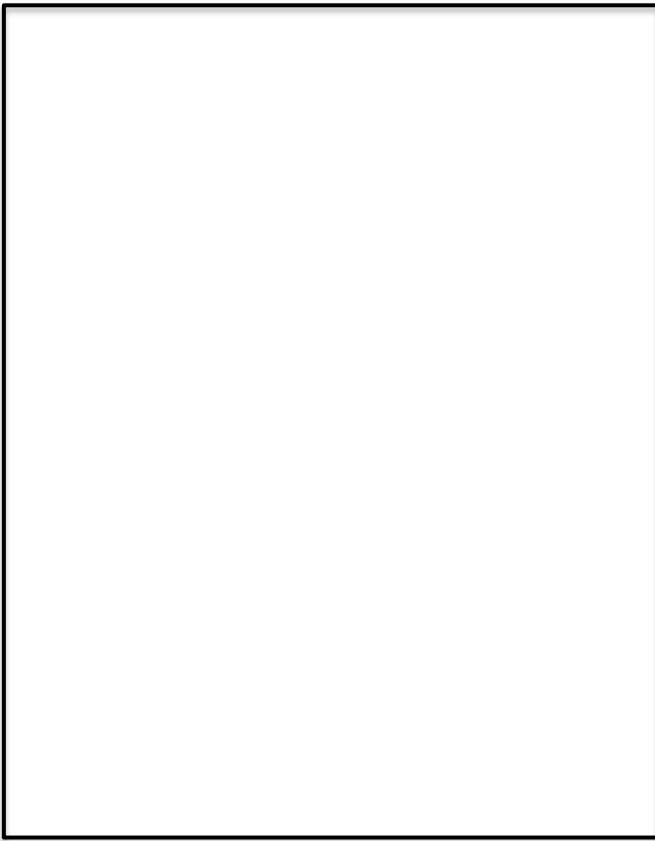


fig. IV.1.30  
アンマンナーティ 《アルノ河》 (fig. III.1.9)

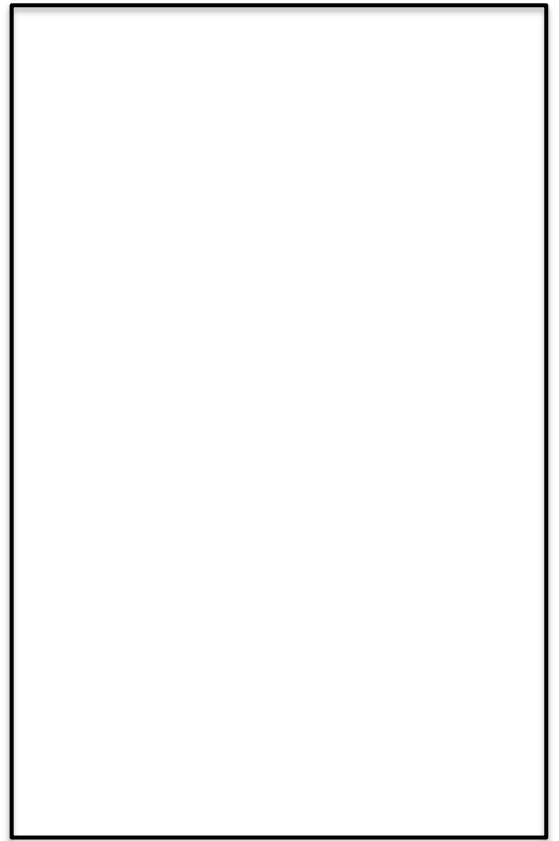


fig. IV.1.31  
ヴァザーリ 《アルベルティ『建築論』 (1550年版)  
のタイトルページ》  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室

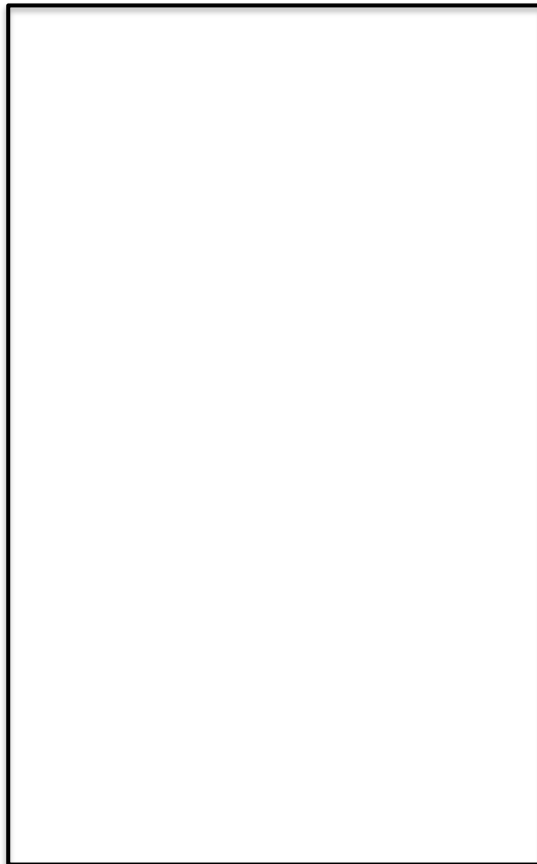


fig. IV.1.32  
アンマンナーティ 《アルノ河》 (側面観：fig. III.1.9)



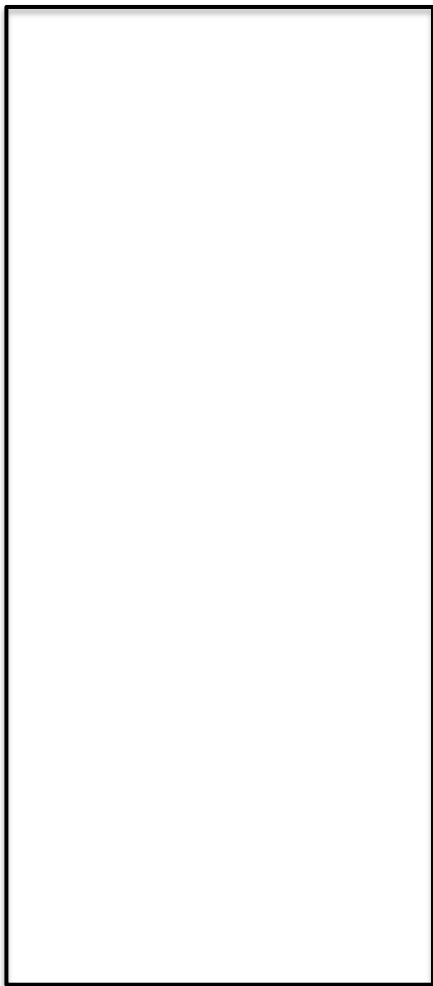


fig. IV.1.33  
アンマンナーティ 《賢明》 (fig. III.1.7)

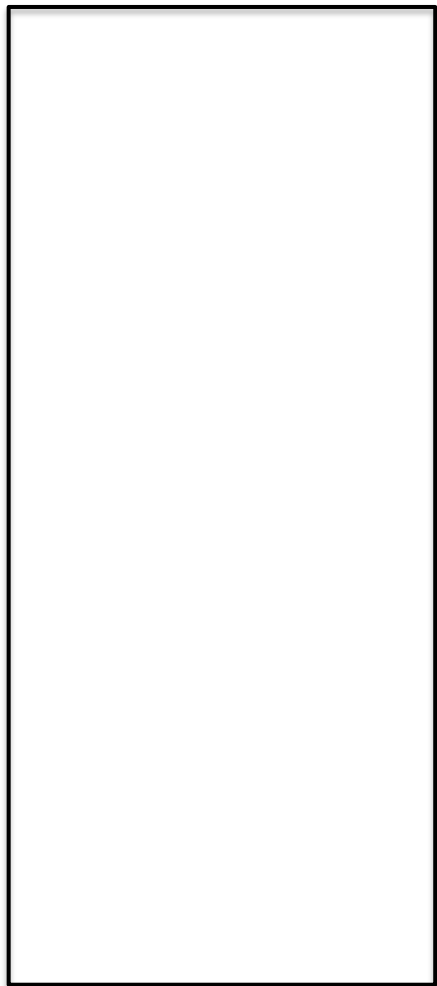


fig. IV.1.34  
アンマンナーティ 《賢明》 (側面観：fig. III.1.7)

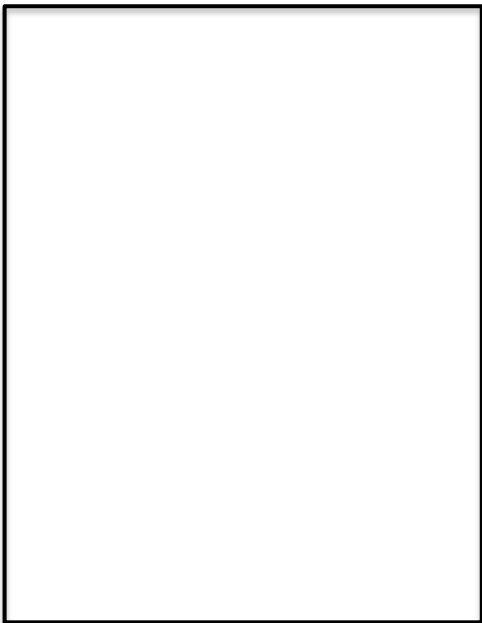


fig. IV.1.35  
「ティトゥス帝の銀貨意匠」  
ジャン・グロリエによるエラスムス『格言集』  
(ヴェネツィア、1508年) への書き込み

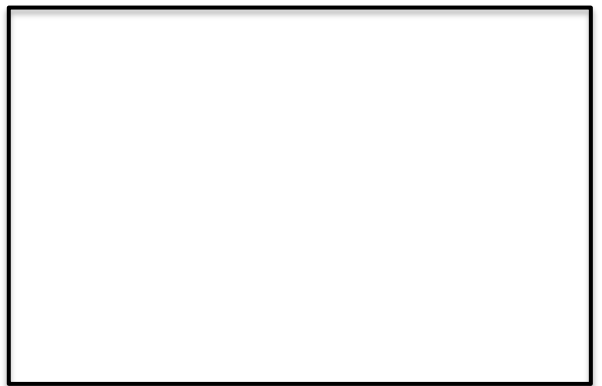


fig. IV.1.36 ジョルジョ・ヴァザーリ  
《サトゥルヌスに捧げる大地の果実》  
(部分：FESTINA LENTEを表わす「帆と海亀」)  
1555-1557年、フレスコ  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿、四大元素の間

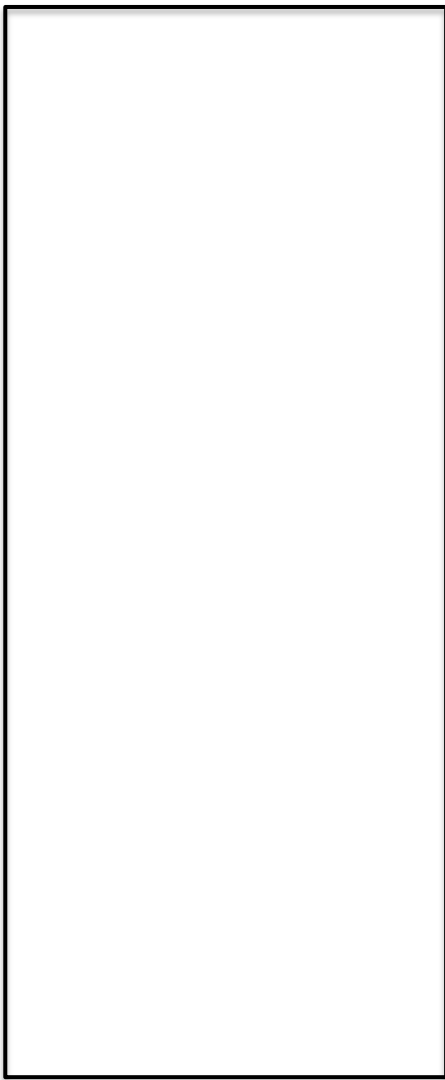


fig. IV.1.37  
アンマンナーティ 《フィレンツェ》  
(fig. III.1.8)

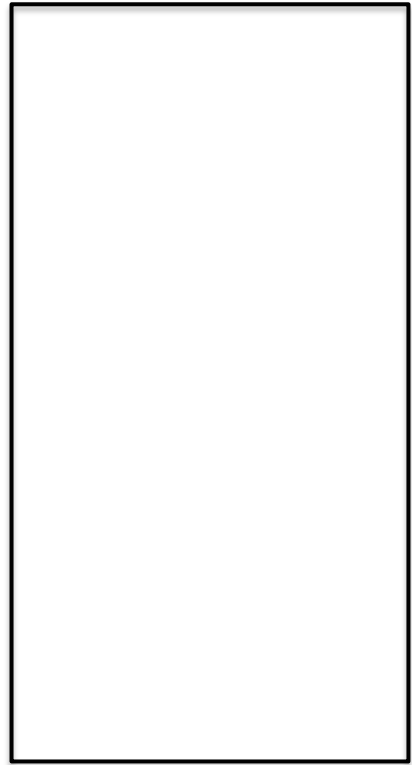


fig. IV.1.38  
アンマンナーティ 《フィレンツェ》  
(右腕部分：fig. III.1.8)

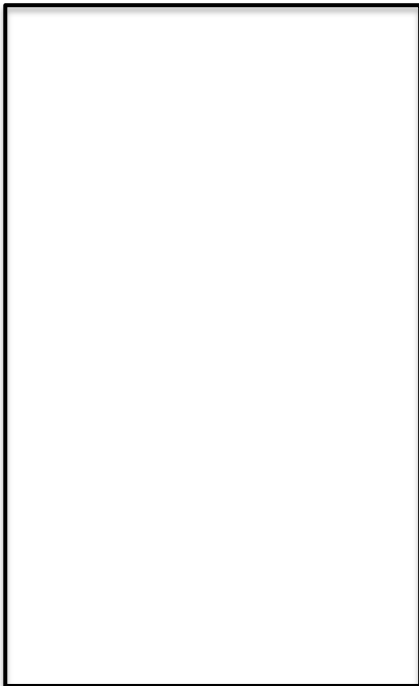


fig. IV.1.39  
アンマンナーティ 《フィレンツェ》  
(兜部分：fig. III.1.8)

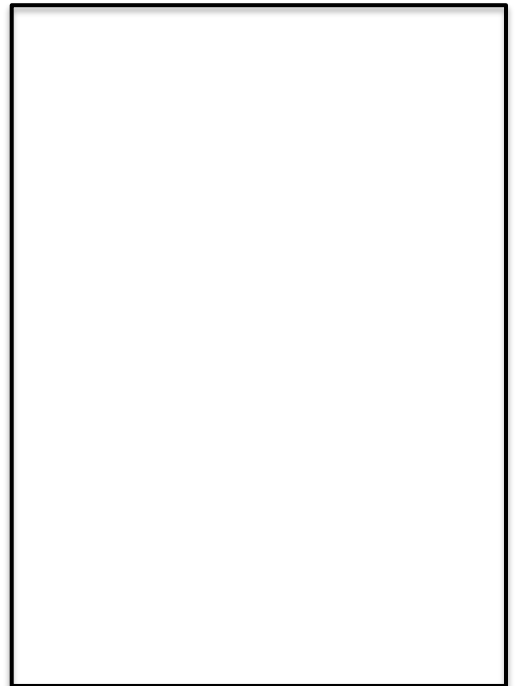


fig. IV.1.40  
アンマンナーティ 《フィレンツェ》  
(金羊毛皮騎士団の騎士勲章 部分：fig. III.1.8)

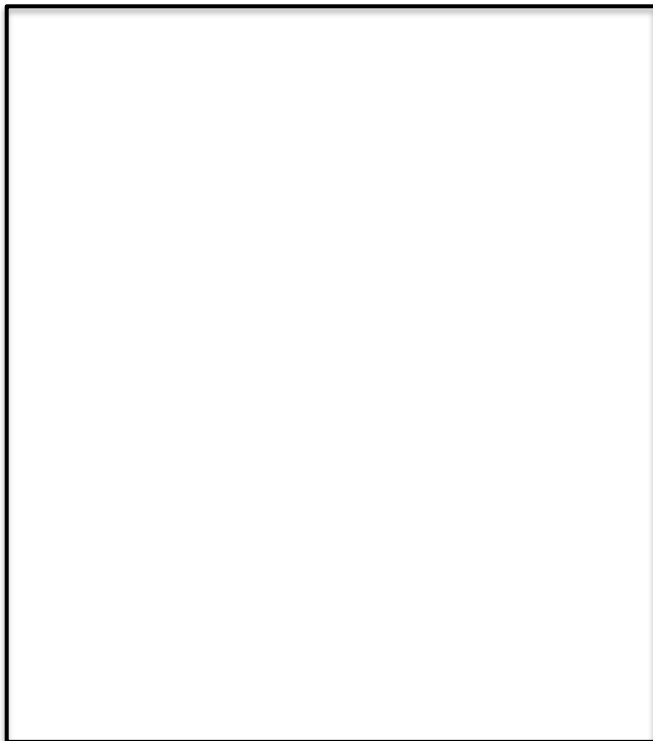


fig. IV.1.41  
アンマンナーティ 《パルナッソスの泉》  
(fig. III.1.10)



fig. IV.1.42  
アンマンナーティ 《パルナッソスの泉》  
(胸部：fig. III.1.10)



fig. IV.1.43  
アンドレア・マンテーニャ 《パルナッソス》  
1497年、キャンバスにテンペラ、54.6 x 70.7 cm  
パリ、ルーヴル美術館



fig. IV.1.44  
ラファエッロ 《パルナッソス》  
1510-1511年、フレスコ、幅670 cm  
ヴァティカン、署名の間

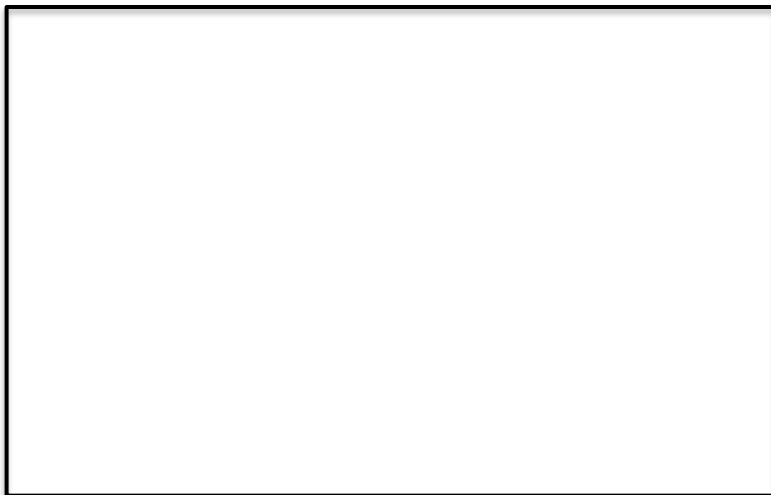


fig. IV.1.45  
フランチェスコ・カミッリアーニ  
《パルナッソス》 1566年、大理石  
パレルモ、プレトーリア広場

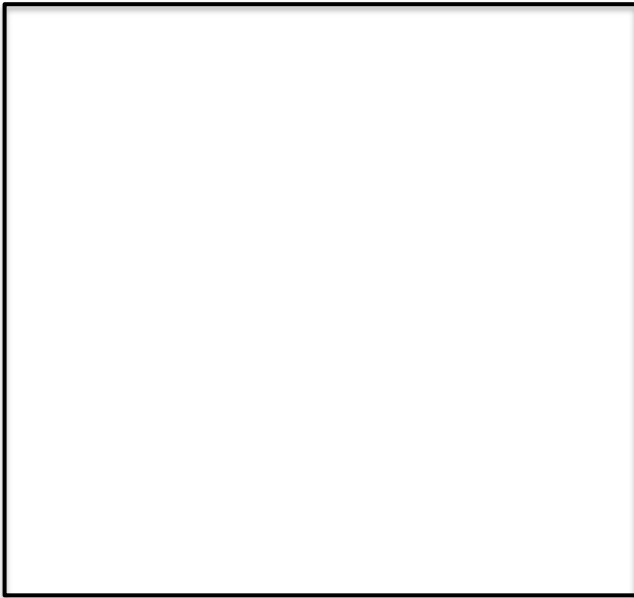


fig. IV.1.46  
ステファノ・ボンシニョーリ 《フィレンツェ地図》  
「ルイス・デ・トレドの庭園とリカーゾリの庭園」  
(fig. I.2.16部分)

図示  
二重線による大きな敷地：ルイス・デ・トレドの庭園  
実線による小さな敷地：リカーゾリの庭園

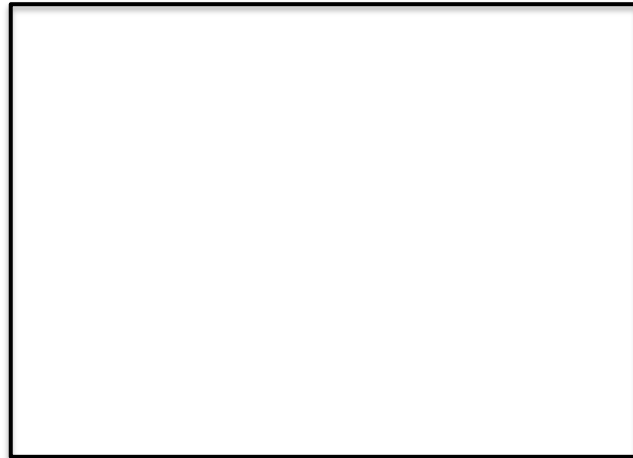


fig. IV.1.47  
フランチェスコ・カミッリアーニ他  
《プレトリアの泉》  
主要彫刻群のみ1574年移設、大理石  
パレルモ、プレトリア広場

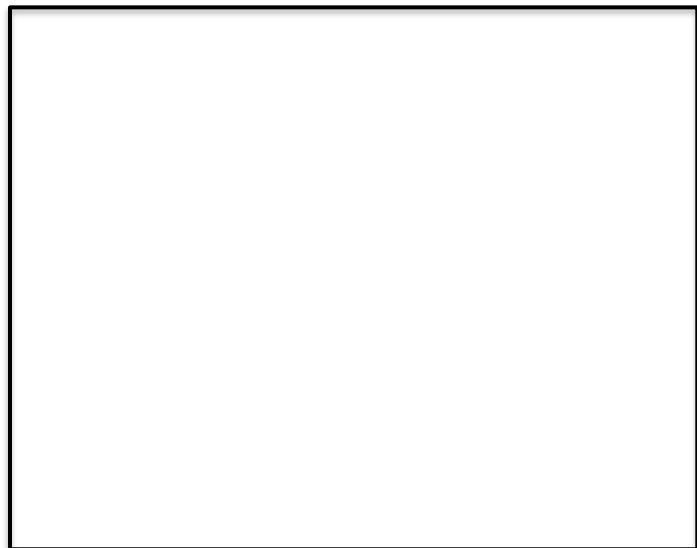


fig. IV.1.48  
ステファノ・ボンシニョーリ  
《フィレンツェ地図》  
「ルイス・デ・トレドの庭園」  
(fig. I.2.16部分)



fig. IV.1.49  
フランチェスコ・カミッリアーニ  
《アルノ河》1555年、大理石  
パレルモ、プレトリア広場

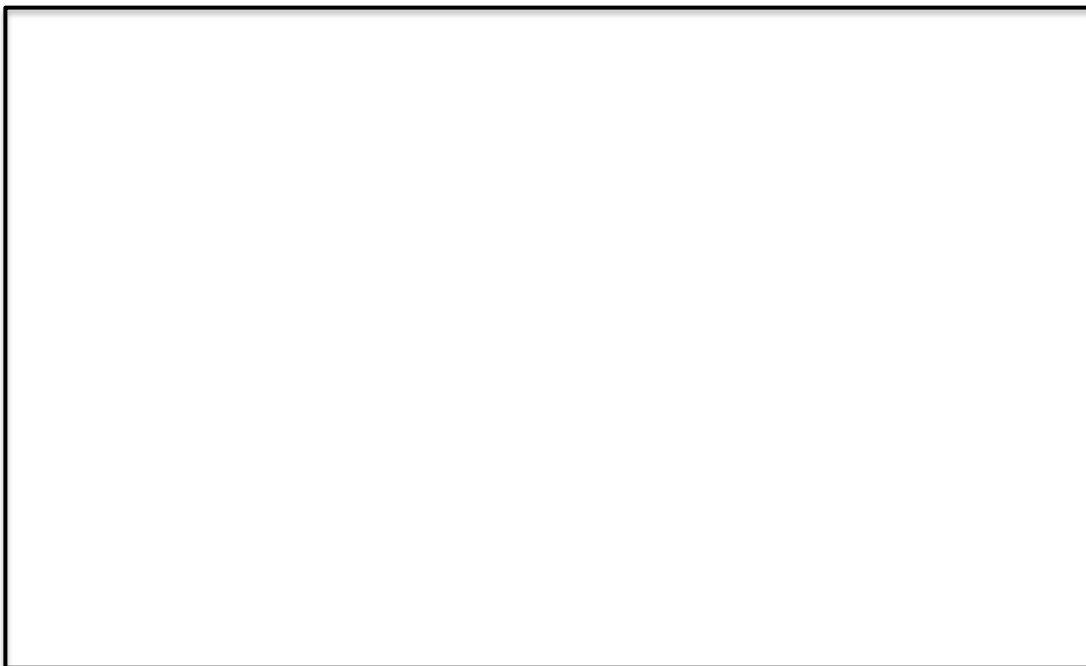


fig. IV.1.50  
アンマンナーティ 《ユノの噴水》（fig. III.1.2部分）

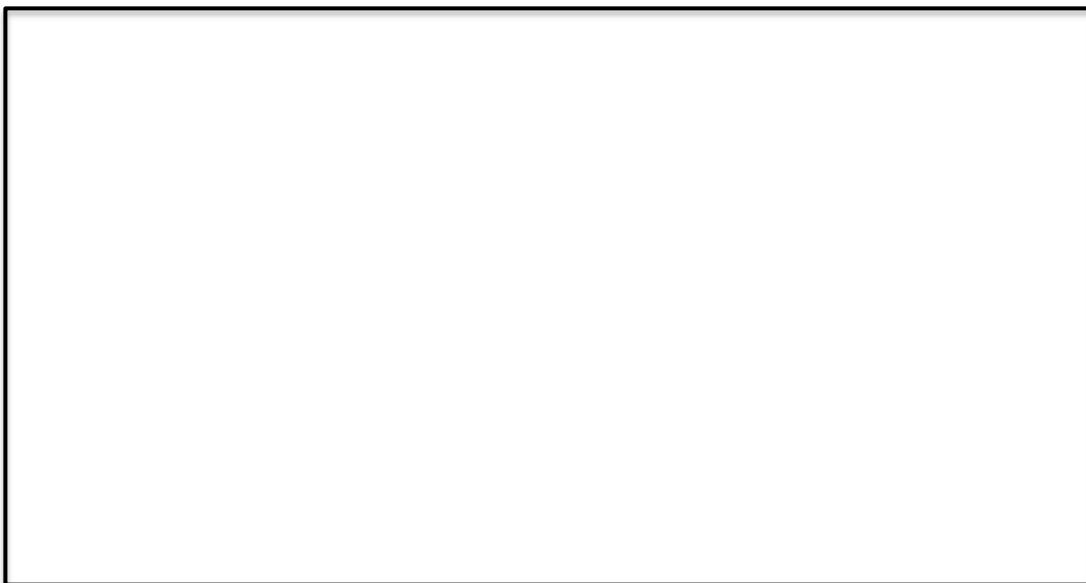


fig. IV.1.51  
ミケランジェロ 《黄昏と曙の擬人像を配するヌムール公ロレンツォ墓碑》  
フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室



fig. IV.1.52  
「アカデミア・フィオレンティーナのインプレーザ」  
Jacopo Rilli, *Noticie Letterarie, ed istoriche intorno agli uomini illustri dell'Accademia fiorentina*, Firenze, 1700の扉絵より転載



fig. IV.1.53  
バルトロメオ・アンマンナーティ 《ユノの噴水》 (fig. III.1.2)

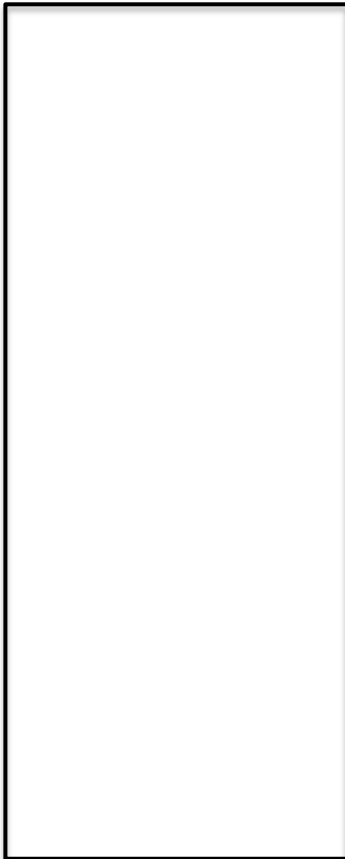


fig. IV.1.54  
アンマンナーティ 《フィレンツェ》  
(fig. III.1.8)

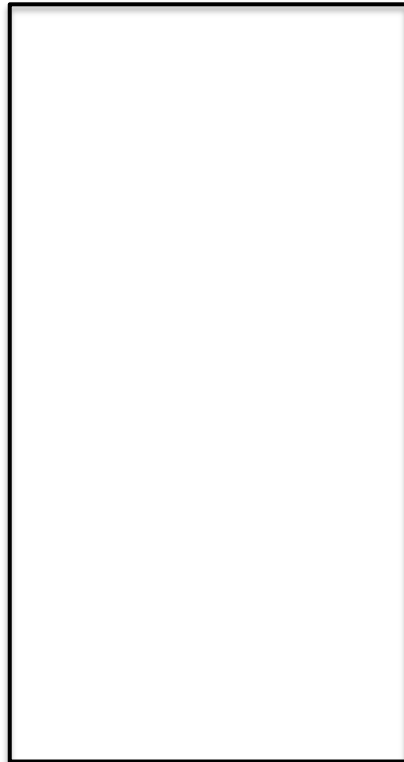


fig. IV.1.55  
アンマンナーティ  
《フィレンツェ》  
(右腕部分：fig. III.1.8)

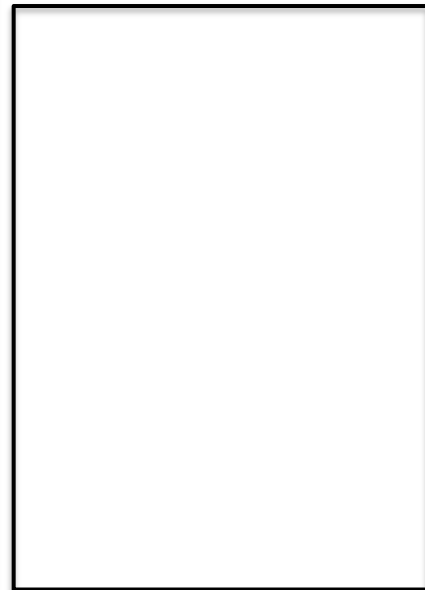


fig. IV.1.56  
アンマンナーティ  
《フィレンツェ》  
(左腕部分：fig. III.1.8)

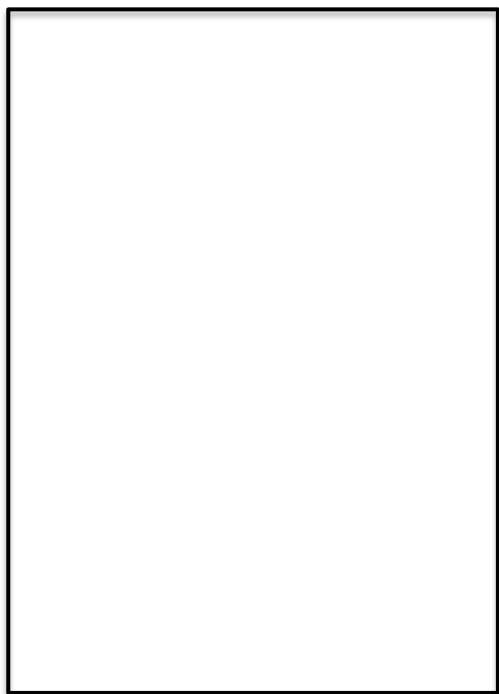


fig. IV.2.1  
《ヘラクレスとカクス》

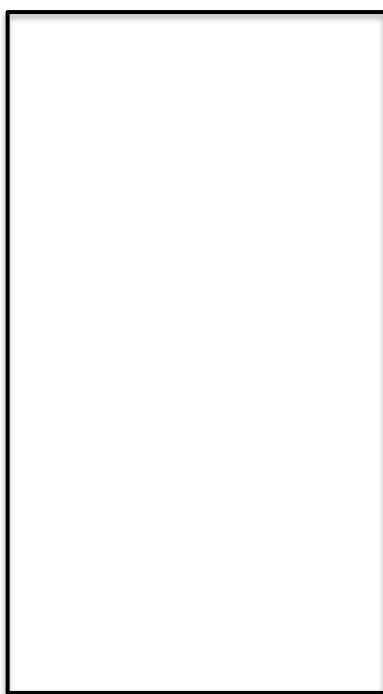


fig. IV.2.2  
《ヘラクレスとケンタウロ  
ス》

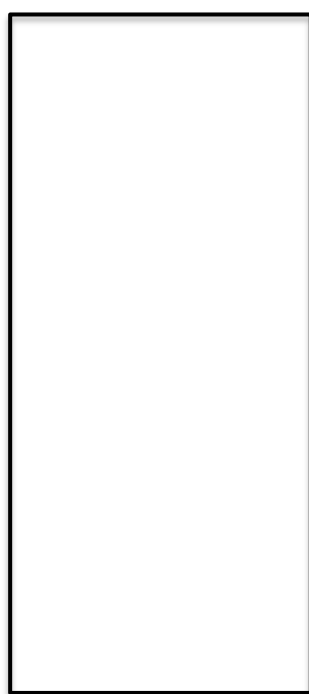


fig. IV.2.3  
《ヘラクレスとアンタイオス》

ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ、大理石、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿大広間

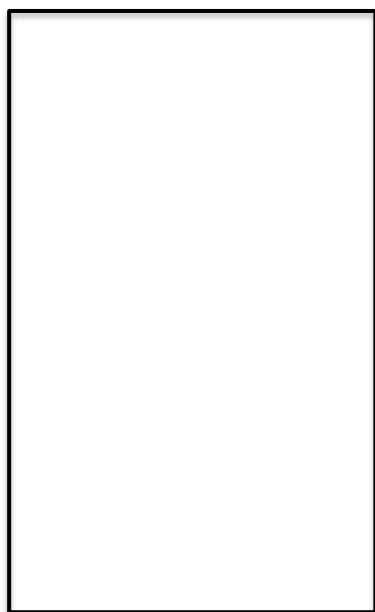


fig. IV.2.4  
《ヘラクレスとアマゾン王  
ヒッポリュテ》

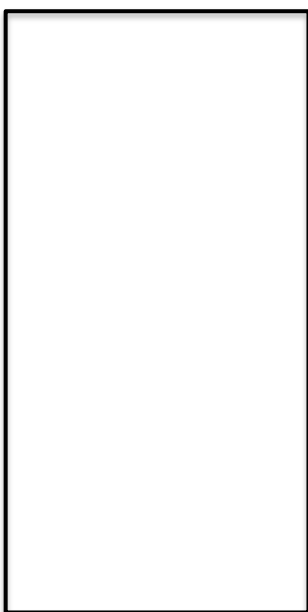


fig. IV.2.5  
《ヘラクレスとエリュメン  
トスの猪》



fig. IV.2.6  
《ヘラクレスとディオ  
メデス王》

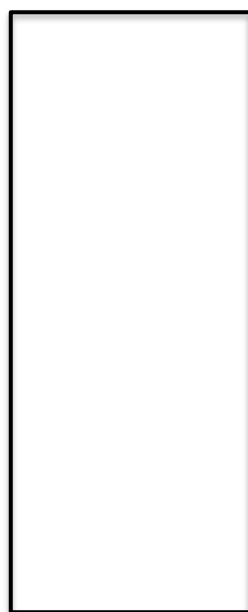


fig. IV.2.7  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《天球を支えるヘラクレス》  
大理石、フィレンツェ、  
ポッジョ・インペリアーレ

ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ、大理石、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿大広間

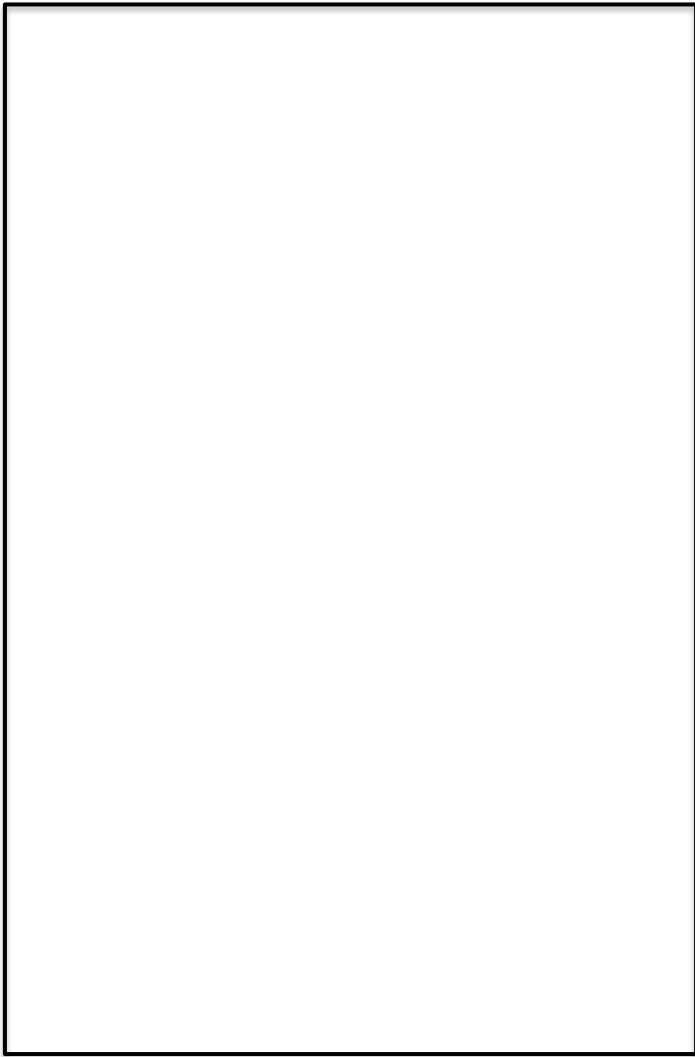


fig. IV.2.8  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》  
1562年頃、433 x 253 mm  
紙に尖筆、黒チョーク  
ニューヨーク、クーパー・ヒューイット  
美術館 inv. 1942-36-1

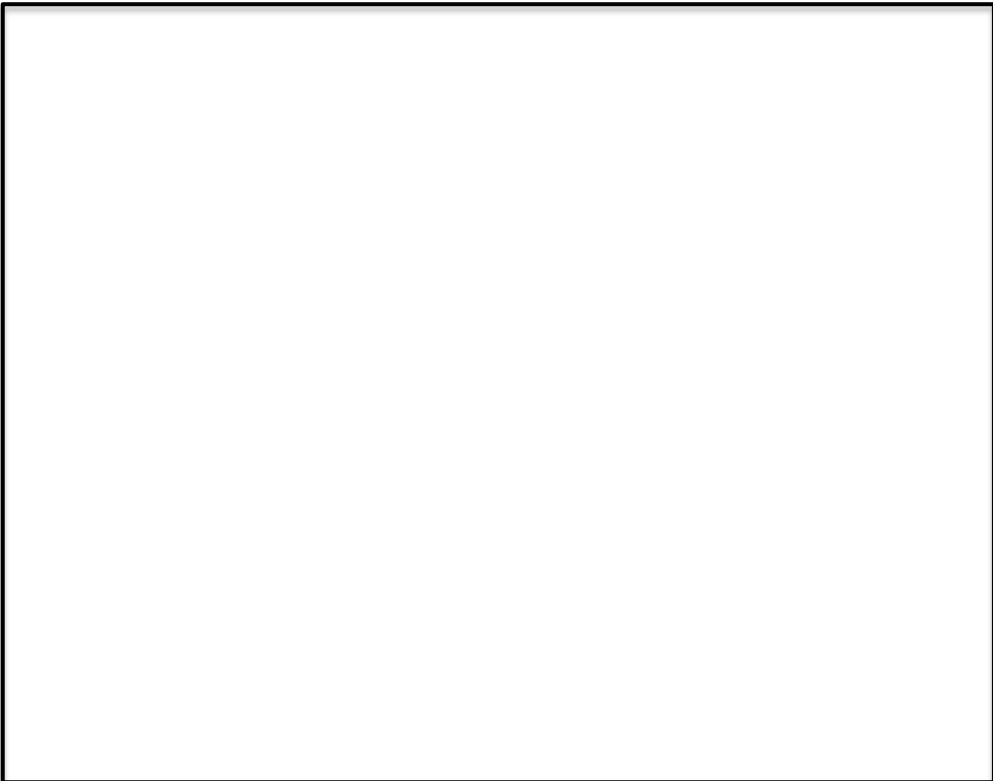


fig. IV.2.9  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ 《ヘラクレスの物語習作》  
1569年以降、350 x 450 mm、紙にペン、褐色インク  
パリ、ルーヴル美術館 inv. 1573



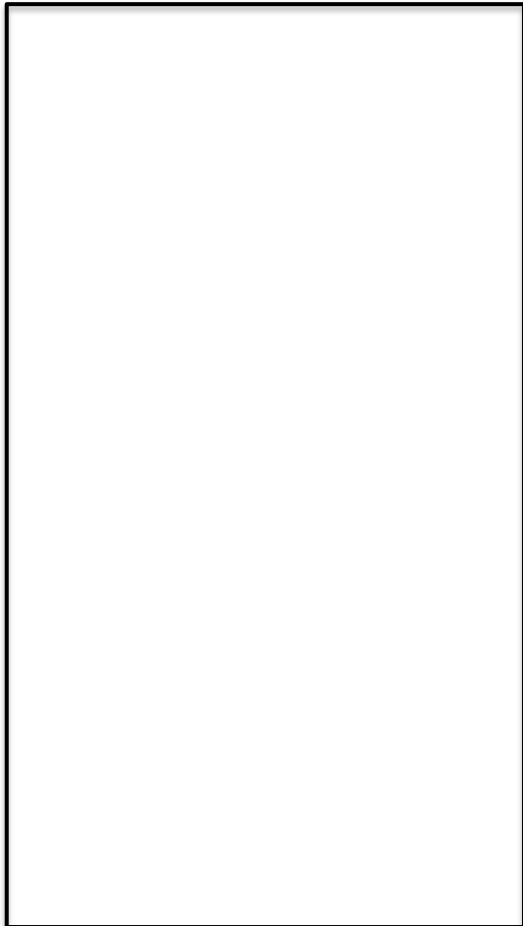


fig. IV.2.10  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《テセウスとヘレネ》  
1558-1560年、大理石、約180cm  
フィレンツェ、ボーボリ庭園内グロッタ・グランデ

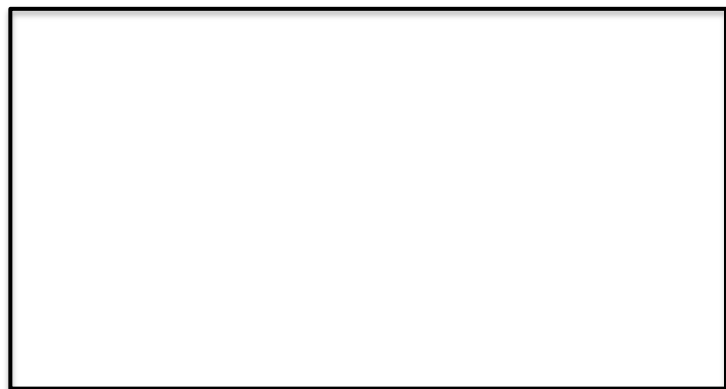


fig. IV.2.11  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》  
(水盤装飾：fig. III.2.8部分)

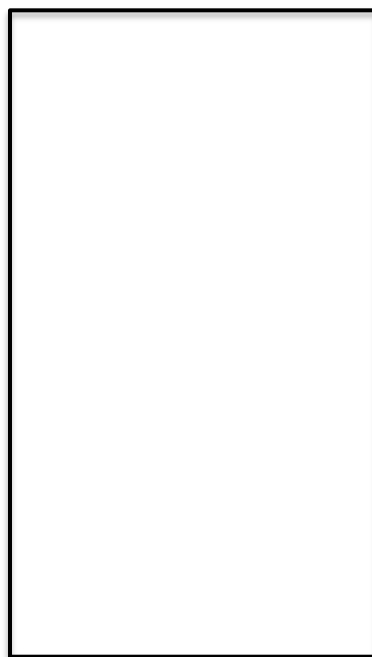


fig. IV.2.12  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》  
(「天球を支えるヘラクレス」：fig. III.2.8部分)



fig. IV.2.13  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ 《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》  
(水槽の浮彫装飾：fig. III.2.8部分)

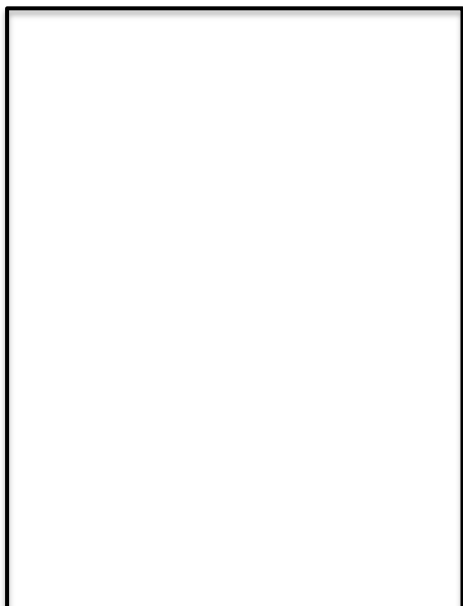


fig. IV.2.14  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの物語習作》  
(fig. III.2.9部分)

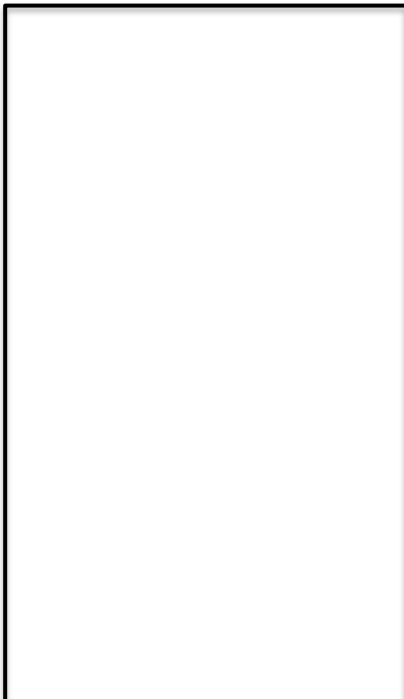


fig. IV.2.15  
ブロンズイーノ 《背面観の裸体男性像》  
(《聖ラウレンティヌスの殉教》部分)  
1565-1569年、フレスコ  
フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂

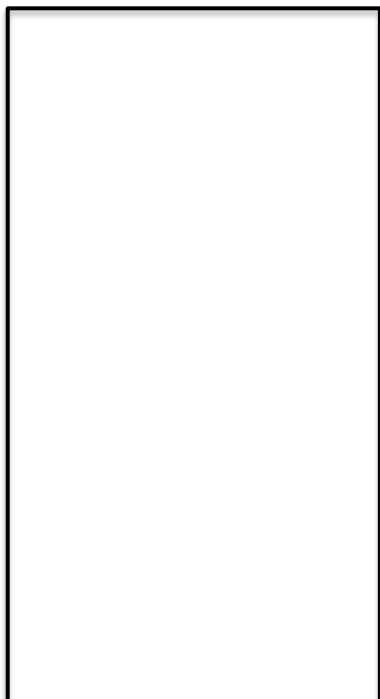


fig. IV.2.16  
ブロンズイーノ  
《背面観の裸体男性像習作》  
1565-1569年、裏打ちされた紙に  
黒チョーク、28.8 x 21.6 cm  
パリ、ルーヴル美術館素描版画室  
inv. 10900F

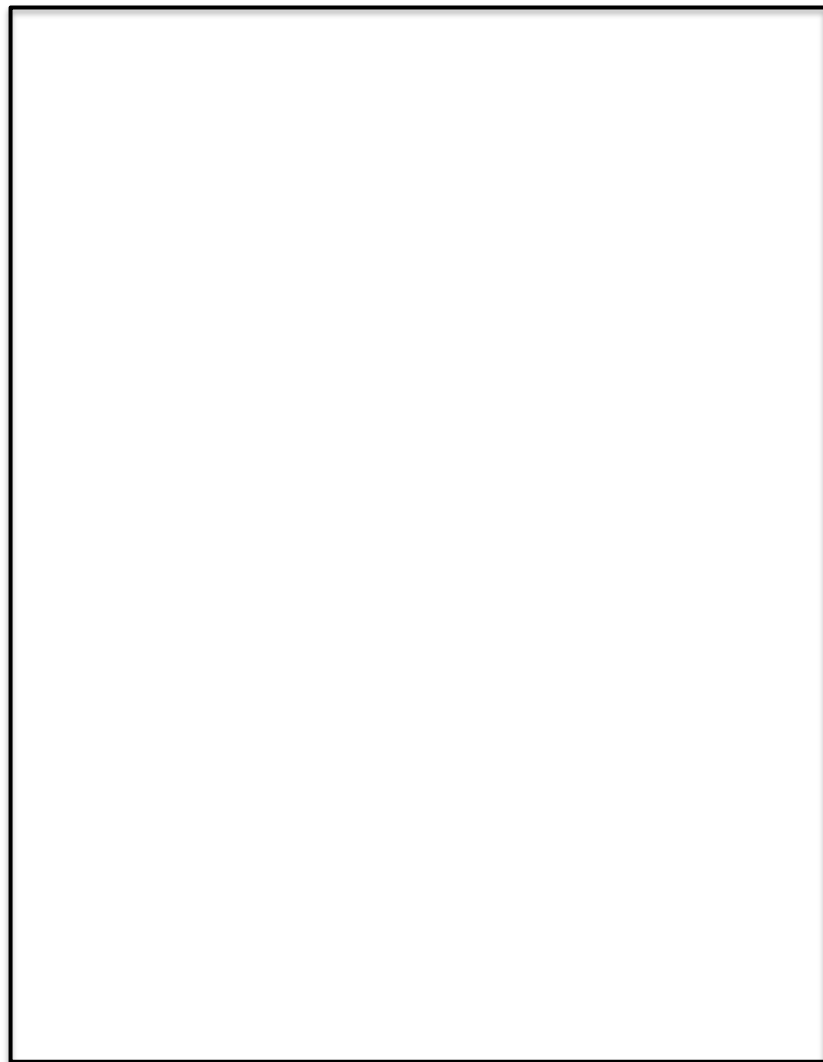


fig. IV.2.17  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属  
《ヘラクレスとケルベロスの犬の泉の構  
想》所在不明 (1982年12月までロンドン)

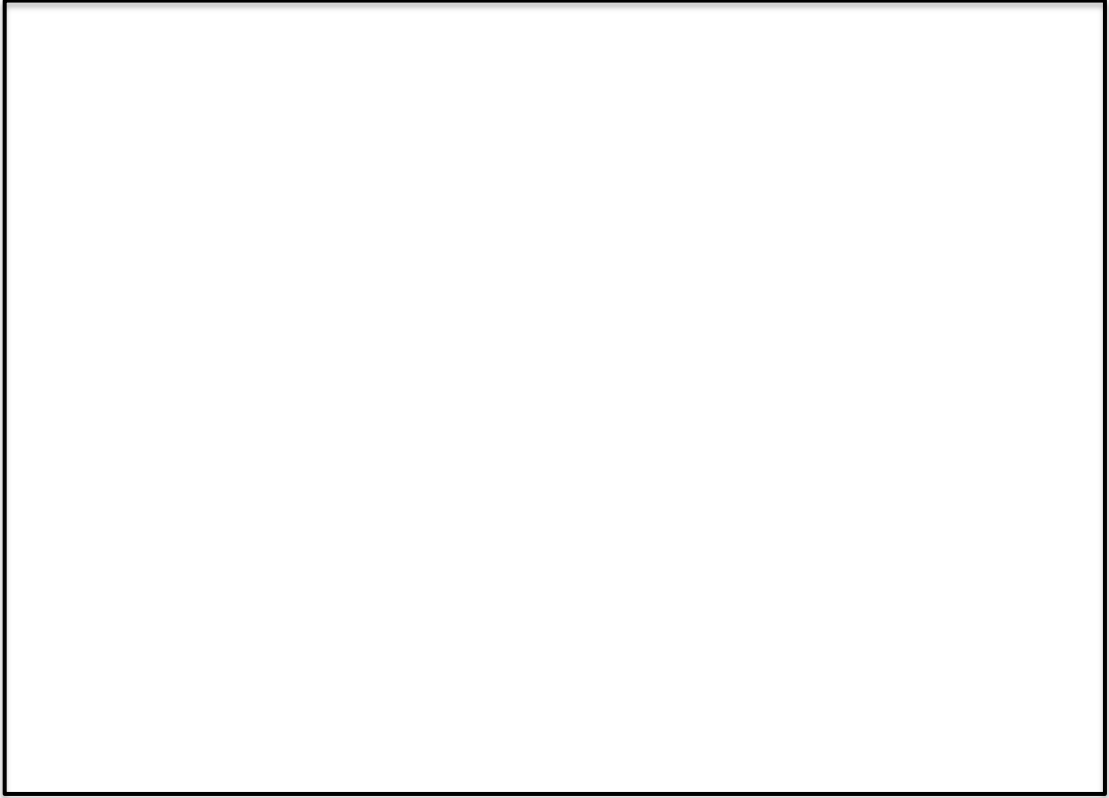


fig. IV.2.18  
《ヘラクレスとカクス》 (fig. III.2.1)



fig. IV.2.19  
《ヘラクレスとケンタウロ  
ス》

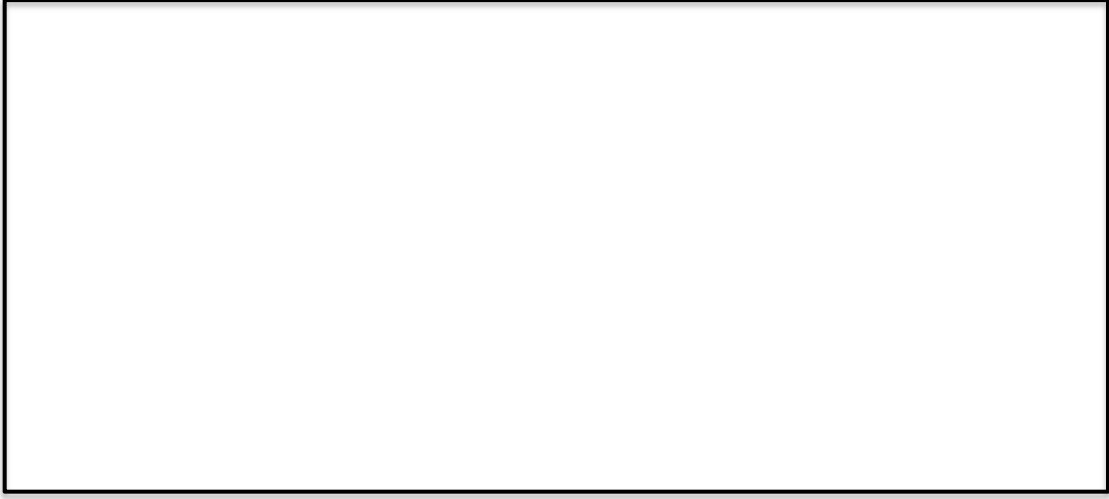


fig. IV.2.20  
《ヘラクレスとアンタイオス》

ヴァインチェンツォ・デ・ロッシ、大理石、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿大広間

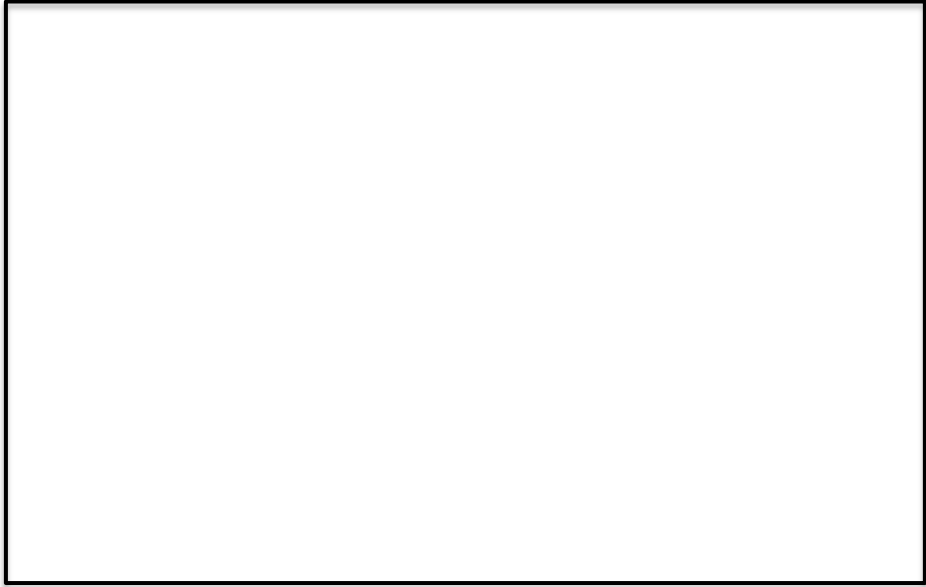


fig. IV.2.21  
《ヘラクレスとアマゾン王ヒッポリュテ》

ヴァインチェンツォ・デ・ロッシ



fig. IV.2.22  
《ヘラクレスとエリュメントスの猪》

ヴァインチェンツォ・デ・ロッシ、大理石、フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿大広間



fig. IV.2.23  
《ヘラクレスとデイオメデス王》



fig. IV.2.24  
ヴァインチェンツォ・デ・ロッシ  
《天球を支えるヘラクレス》  
(fig. III.2.7)

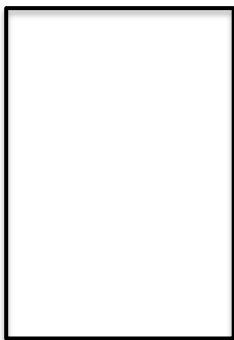


fig. IV.2.25  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスとカクス》  
(ヘラクレスの頭部：fig. III.2.1部分)

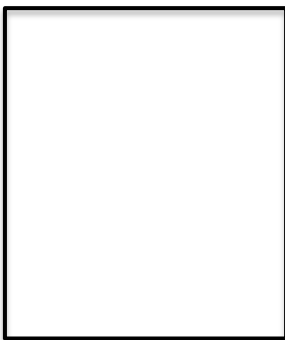


fig. IV.2.26  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスとアンタイオス》  
(アンタイオスの頭部：fig. III.2.3部分)



fig. IV.2.29  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《クピドの矢を鍛造するウルカヌス》  
1572年、ブロンズ  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿  
フランチェスコ1世の間

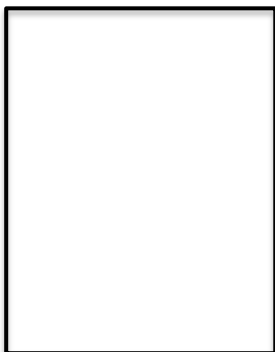


fig. IV.2.27  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスとエリュメントスの猪》  
(ヘラクレスの頭部：fig. III.2.5部分)

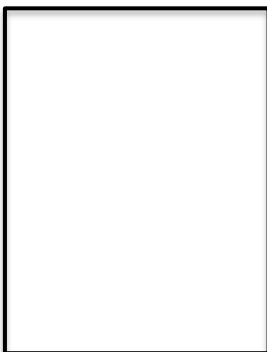


fig. IV.2.28  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスとアマゾン王ヒッポ  
リュテ》 (ヘラクレスの頭部：fig. III.2.4部分)

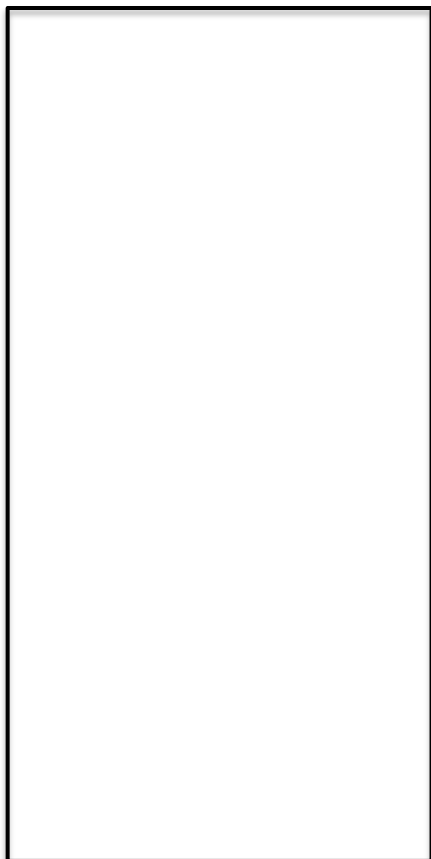


fig. IV.2.30, fig. IV.2.31  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ 《テセウスとヘレネ》  
(正面観、左側面観：fig. III.2.10)

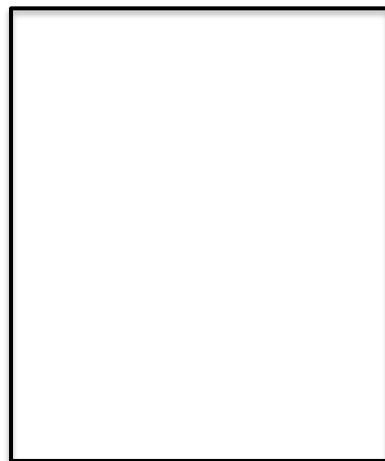
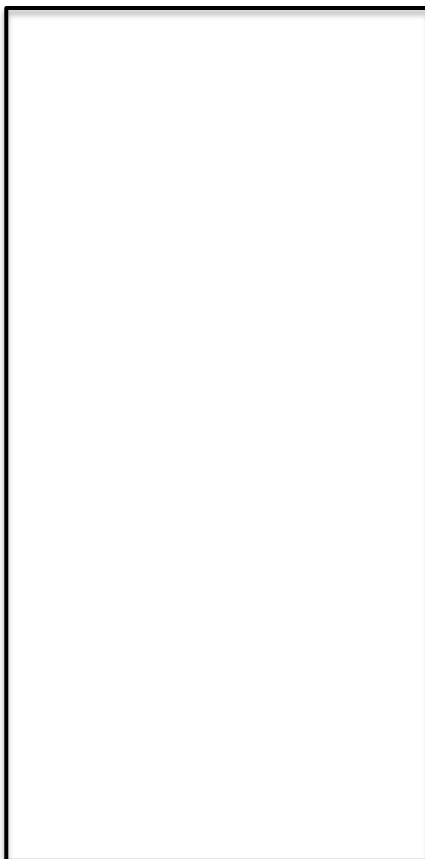


fig. IV.2.32  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《テセウスとヘレネ》  
(テセウスの胸部銘文：fig. III.  
2.10部分)

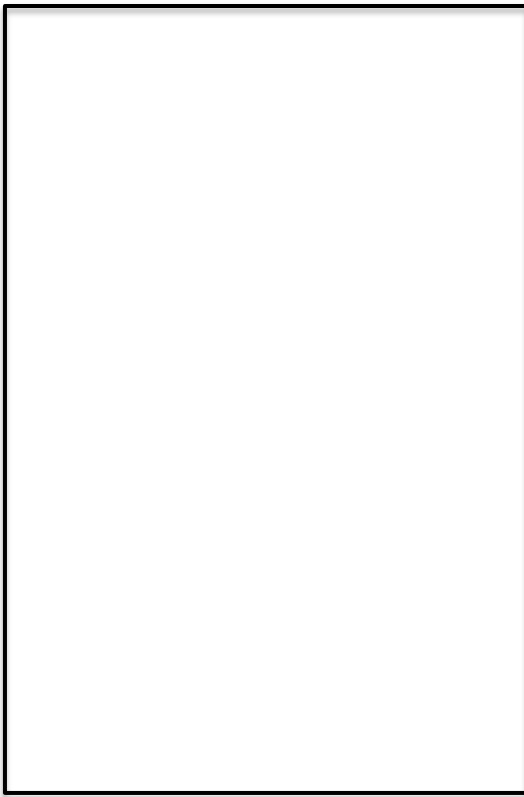


fig. IV.2.33  
ミケランジェロ 《モーセ》  
1513-1515年、大理石、235 cm  
ローマ、サン・ピエトロ・イン・ヴィンコリ聖堂

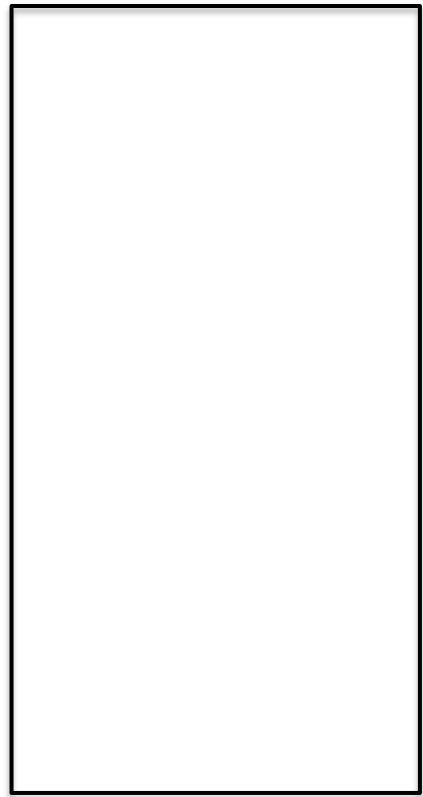


fig. IV.2.34  
ミケランジェロ 《ヌムール公ジュリアーノ》  
1520-1534年、大理石、173 cm  
フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室

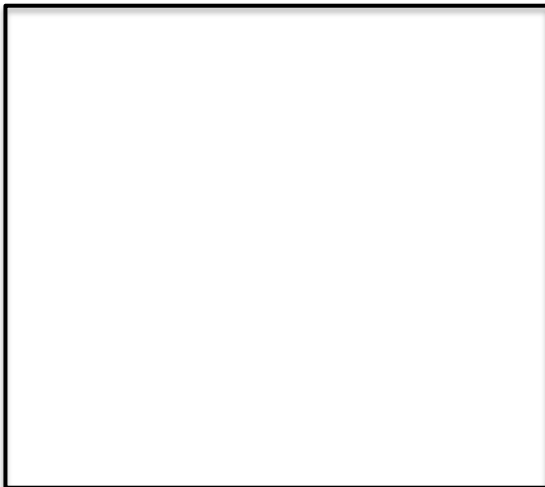


fig. IV.2.35  
ミケランジェロ 《曙》  
1520-1534年、大理石  
フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室

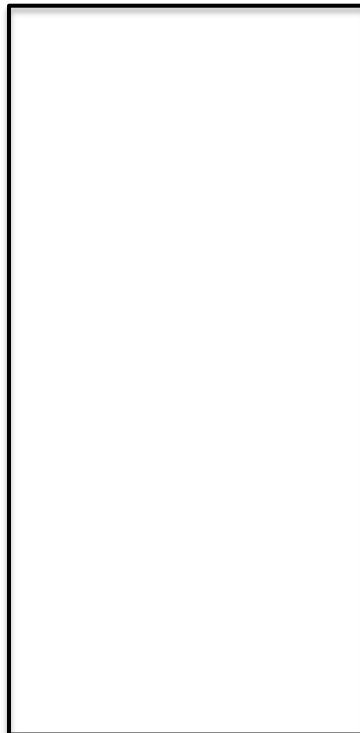


fig. IV.2.36  
ミケランジェロ  
《ダヴィデ=アポロン》  
1530/1531年、大理石、146 cm  
フィレンツェ、バルジェッロ  
国立美術館

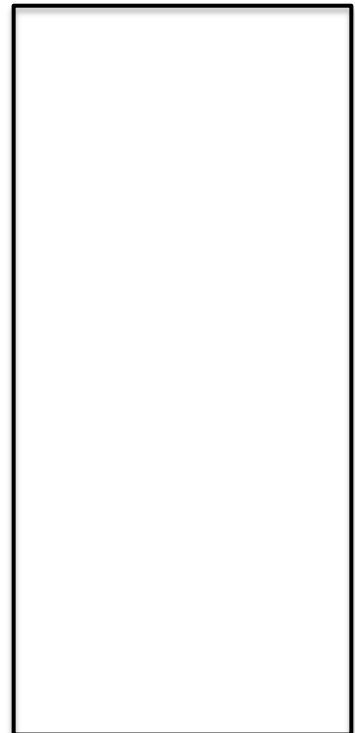


fig. IV.2.37  
ミケランジェロ 《勝利》  
1534年、大理石  
フィレンツェ、ヴェッキオ  
宮殿五百人大広間

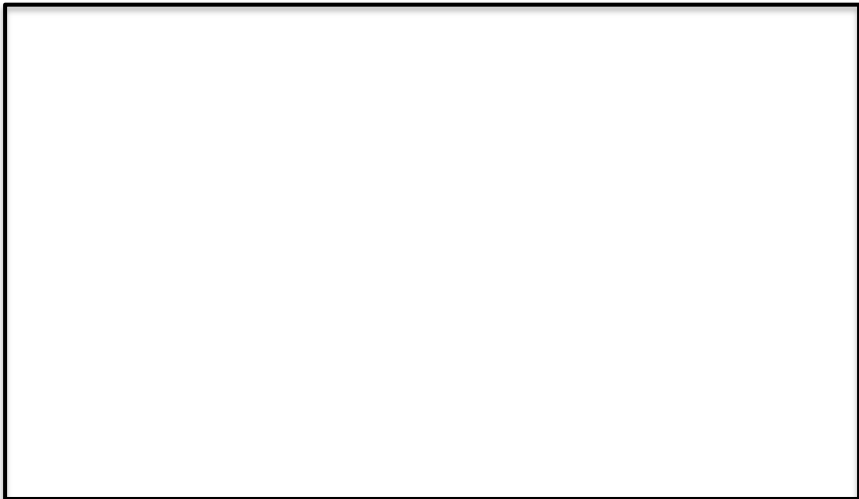
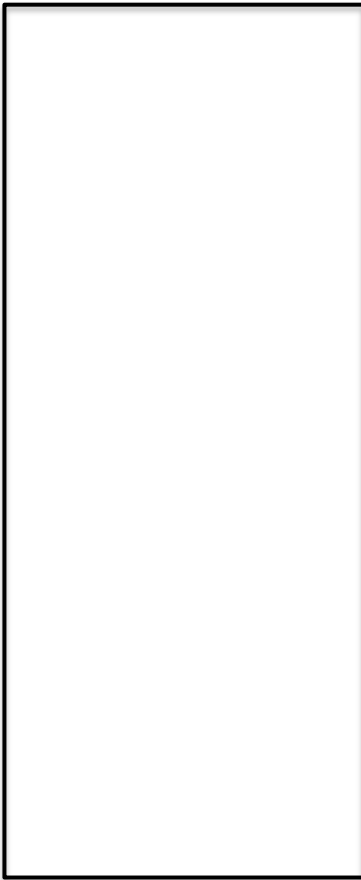


fig. IV.2.39  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ 《死せるアドニス》  
1565-1570年、大理石、68 x 166.5 x 65 cm  
フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 inv. Sculture, n. 6

fig. IV.2.38  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ 《バッコス》  
1565年以降、大理石  
フィレンツェ、ボーボリ庭園内カフェハウス

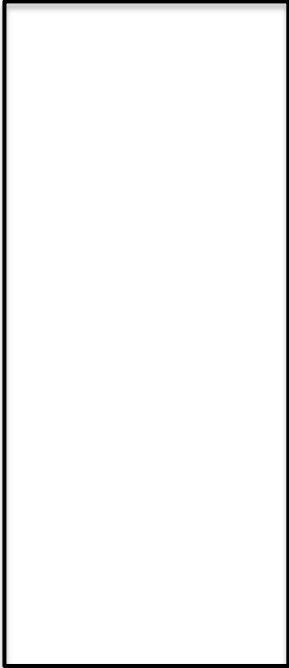


fig. IV.2.40  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスとカクス》  
(右側面観：fig. III.2.1)

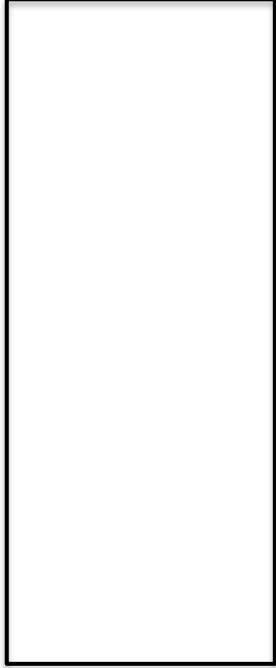


fig. IV.2.41  
ミケランジェロ  
《瀕死の奴隷》1513-1516年  
大理石、228 cm  
パリ、ルーヴル美術館

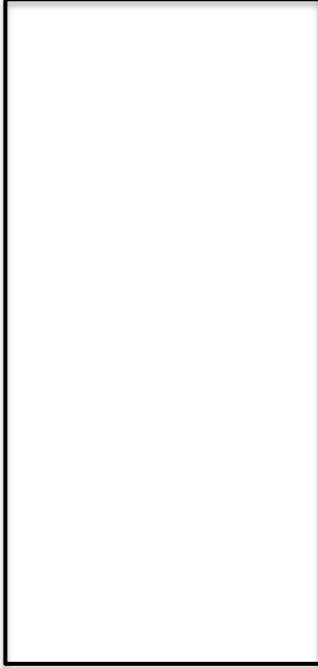


fig. IV.2.42  
ミケランジェロ 《勝利》  
(右側面観：fig. III.2.37)

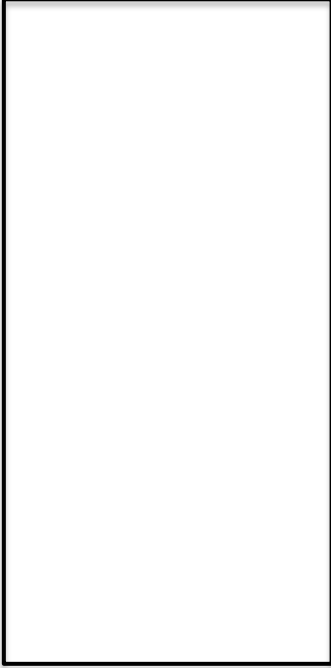


fig. IV.2.43  
ミケランジェロ  
《ヘラクレスとカクスの習作》  
1528年頃、粘土、41 cm  
フィレンツェ、カーサ・ブオナ  
ローティ inv. 192

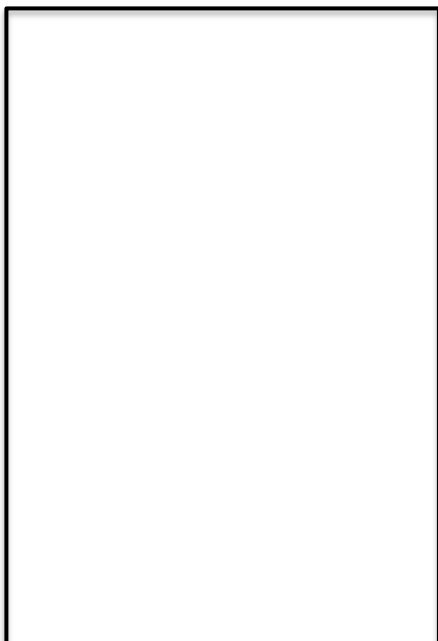


fig. IV.2.44  
バルトロメオ・アンマンナーティ  
《ヘラクレスとアンタイオス》  
ブロンズ、1559-1560年  
カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトライア  
(fig. III.1.61)

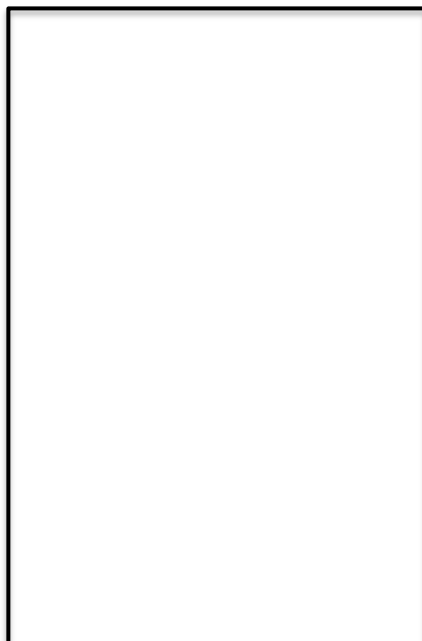


fig. IV.2.45  
アントニオ・ポッライウオーロ  
《ヘラクレスとアンタイオス》ブロンズ、1475年  
フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 (fig. III.1.56)

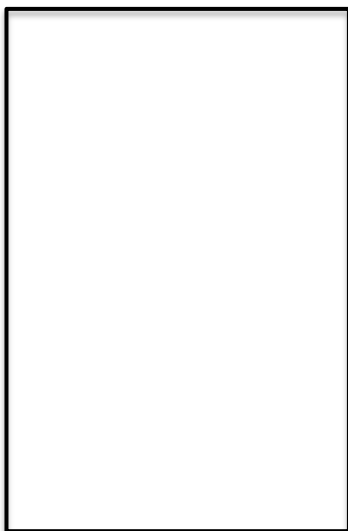


fig. IV.2.46  
《ヘラクレスとアンタイオス》(1560年以降補作修復)  
大理石、1-3世紀、フィレンツェ、ピッティ宮殿

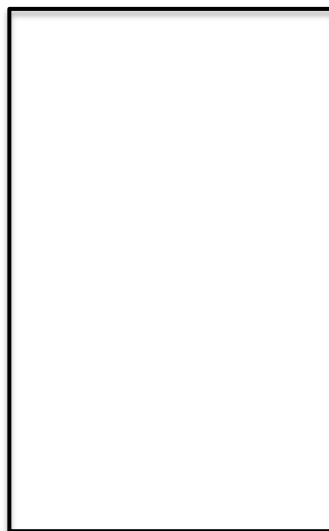


fig. IV.2.47  
アンティーコ (ピエル・ヤコポ・アラーリ=ボナコルシ)  
《ヘラクレスとアンタイオス》ブロンズ、1460-1528年頃  
43.2 cm、ウィーン、美術史美術館



fig. IV.2.48  
《ヘラクレスとアンタイオス》大理石、1391-1405年頃、  
フィレンツェ、大聖堂、ポルタ・デッラ・マンドルラ

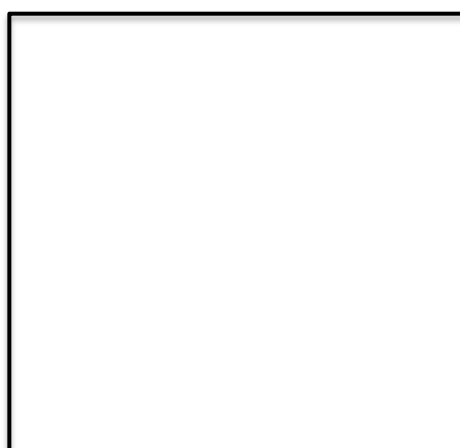


fig. IV.2.49  
レオナルド・ベヅツォ 《ヘラクレスとアンタイオス》  
(部分) 写本挿絵、1440年頃、ミラノ、Coll. Crespi-Morbio



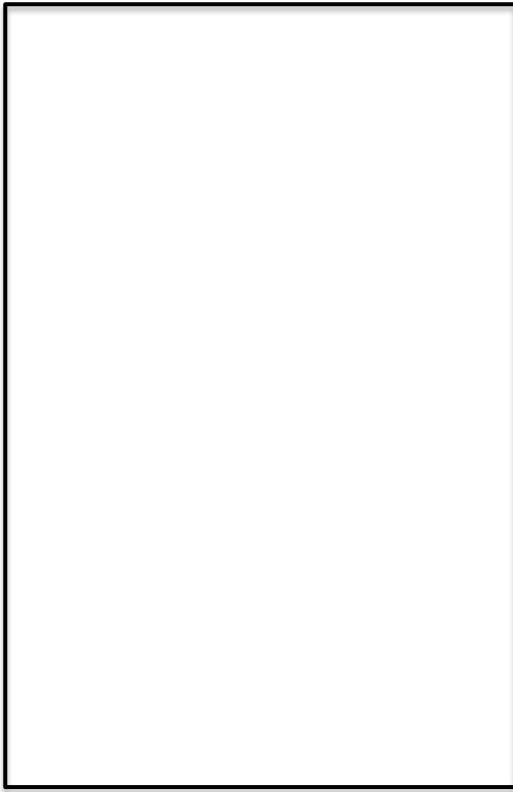


fig. IV.2.50  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》  
(「ヘラクレスとアンタイオス」：fig. III.2.8部  
分)

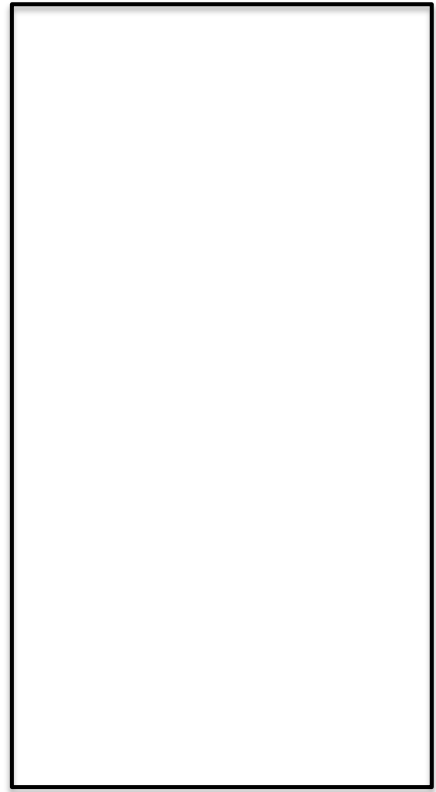


fig. IV.2.51  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスとアンタイオス》 (fig. III.2.3)

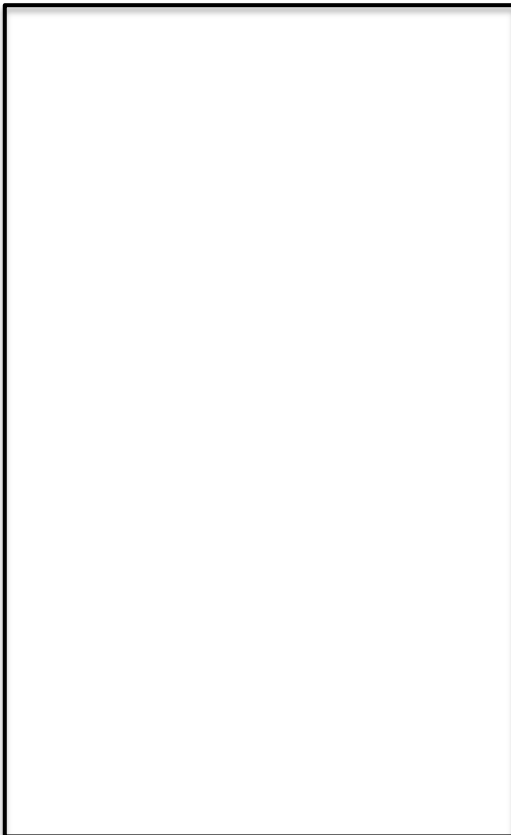


fig. IV.2.52  
アントニオ・ポッライウオーロ  
《建造物の上で踊る裸体人物》  
フレスコ、1465年頃  
アルチェトリ、ヴィッラ・ラ・ガッリーナ

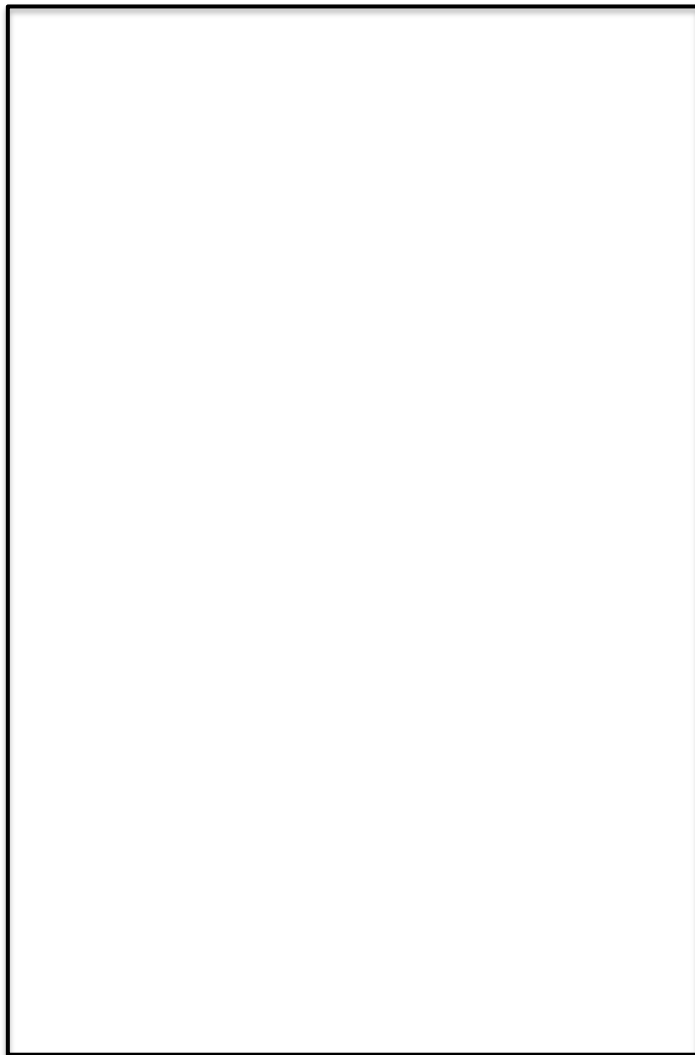


fig. IV.2.53  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》  
(fig. III.2.8)



fig. IV.2.54  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ 《ヘラクレスの物語習作》 (fig. III.2.9)

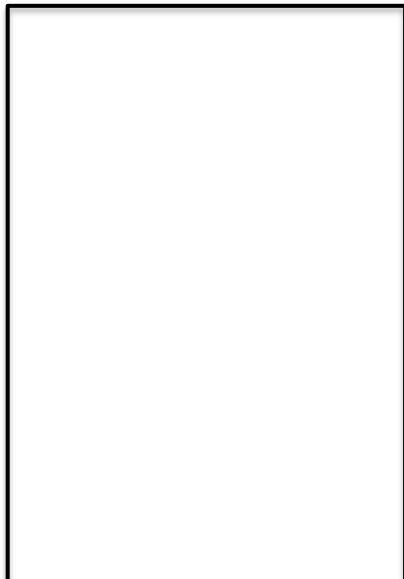


fig. IV.2.55  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》  
（「ヘラクレスとケルベロスの犬」：  
fig. III.2.8部分）

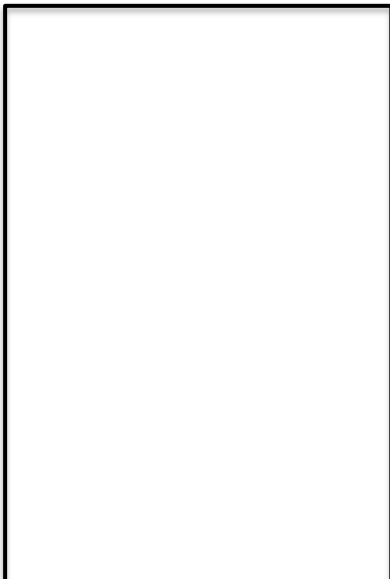


fig. IV.2.56  
バッチョ・バンディネッリ  
《戦闘場面の裸体群像習作》  
（部分）1512年頃、黒鉛筆  
ロンドン、大英博物館  
inv. 1895,0915.562

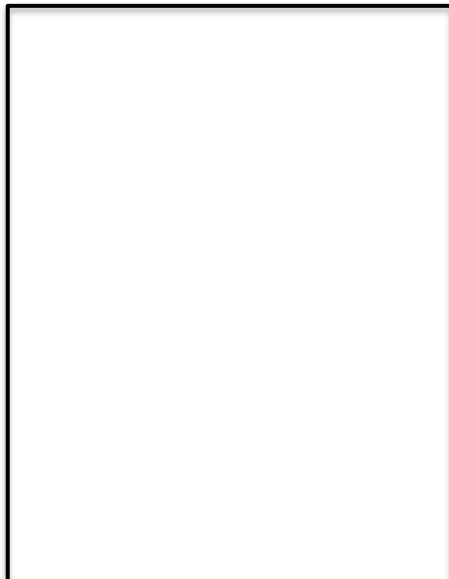


fig. IV.2.57  
バッチョ・バンディネッリ 《レダと白鳥》  
（部分）1512年頃、板に油彩  
パリ大学 inv. 44, monuments historiques,  
24.12.1974

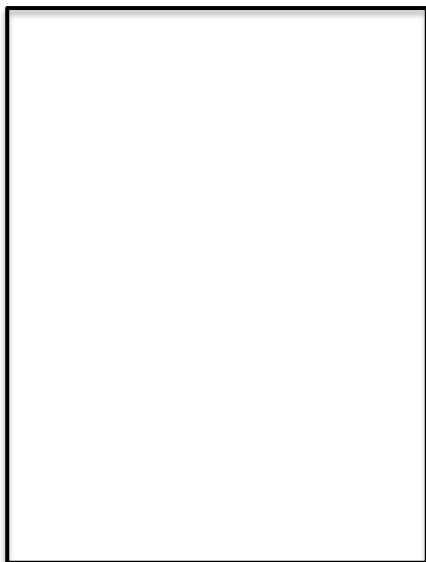


fig. IV.2.58  
バッチョ・バンディネッリ  
《ノアの醗酏》（部分）1530年、大理石、60 x 130.5 cm  
フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館 inv. 311 Sculture



fig. IV.2.59  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ 《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》  
（水槽の浮彫装飾：fig. III.2.8部分）

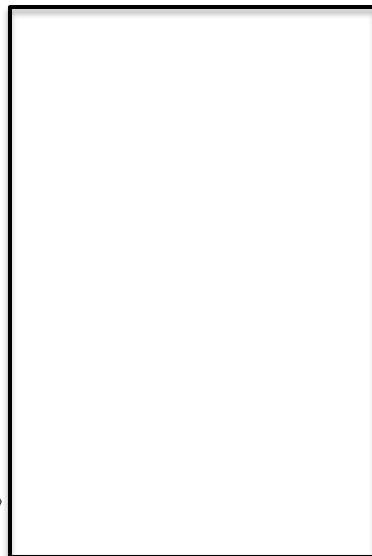


fig. IV.2.60  
バッチョ・バンディネッリ  
《ジョヴァンニ・デッレ・バンデ・ネーレ記念墓碑》  
大理石、フィレンツェ、サン・ロレンツォ広場

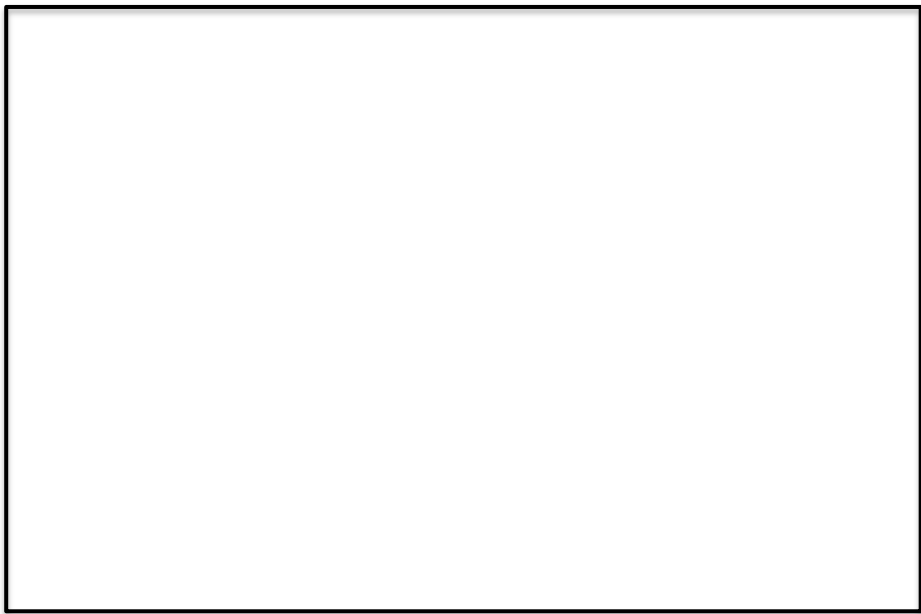


fig. IV.2.61

バッチョ・バンディネッリ 《戦闘する裸体の兵士たちの習作》

ペンと褐色インク、オックスフォード、クライスト・チャーチ絵画館 inv. 0090

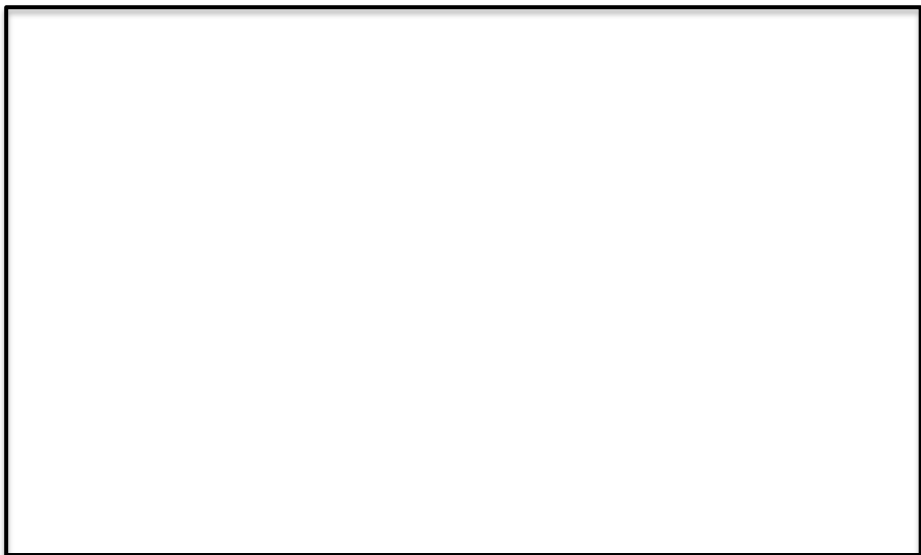


fig. IV.2.62

ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ 《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》

(水槽の浮彫装飾：fig. III.2.8部分)

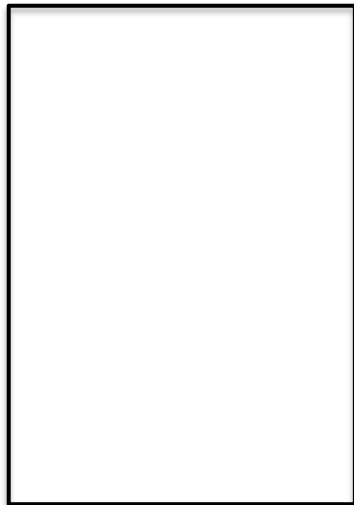


fig. IV.2.63

ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》  
(水槽の浮彫装飾：fig. III.2.8部分)



fig. IV.2.64

バッチョ・バンディネッリ  
《戦闘する裸体男性像習作》  
ニューヨーク、トビー・コレクション

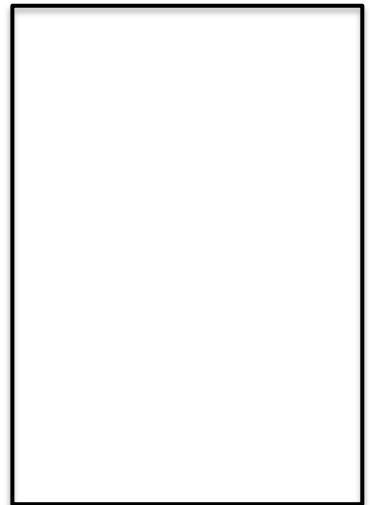


fig. IV.2.65

バッチョ・バンディネッリ  
《2人の裸体男性像習作》  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館  
版画素描室 inv. 6896F recto

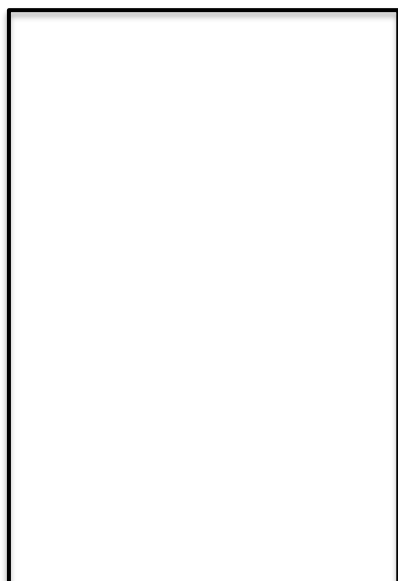


fig. IV.2.66  
ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの物語習作》  
(fig. III.2.9部分)

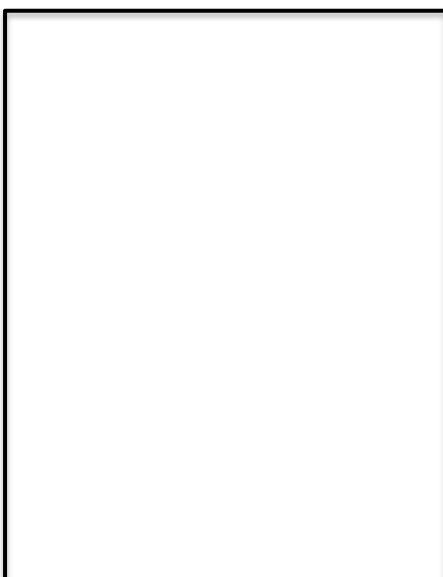


fig. IV.2.67  
バッチョ・バンディネッリ  
《レダと白鳥》1512年頃、板に油彩  
パリ大学 inv. 44, monuments historiques,  
24.12.1974



fig. IV.2.68  
バッチョ・バンディネッリ  
《レダと白鳥のための習作》  
1512年頃、ペンと褐色インク  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館  
版画素描室 inv. 509F

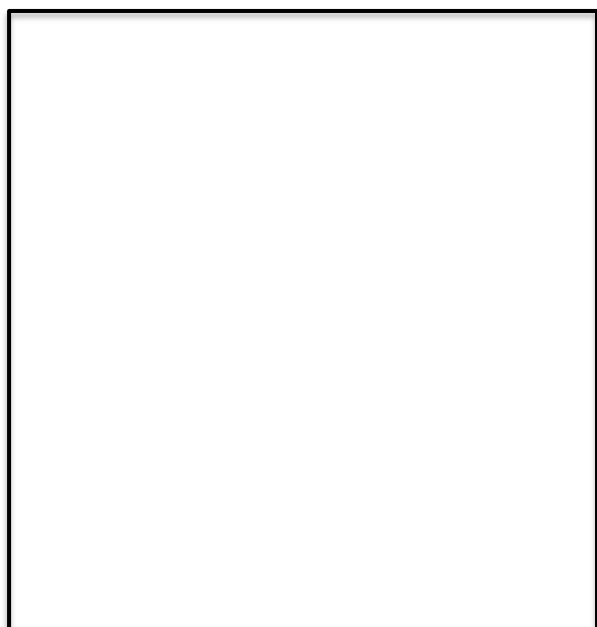


fig. IV.2.69  
ヴァンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの物語習作》 (fig. III.2.9部分)

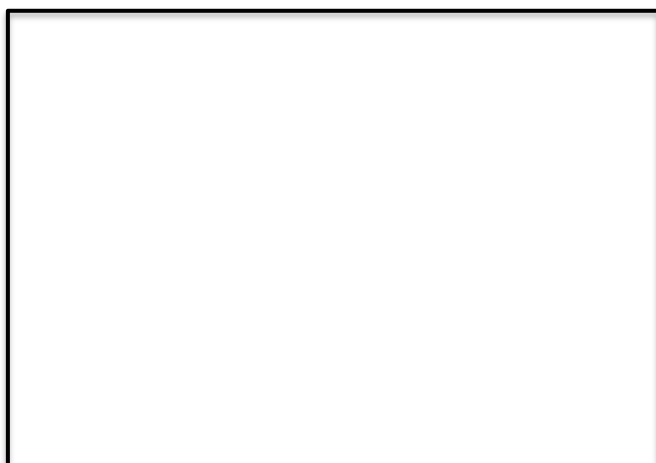


fig. IV.2.70  
バッチョ・バンディネッリ 《人物群像と骸骨たち》  
ペンと褐色インク、ローマ、国立素描版画室  
(ヴィッラ・ファルネジーナ) inv. FC 124258

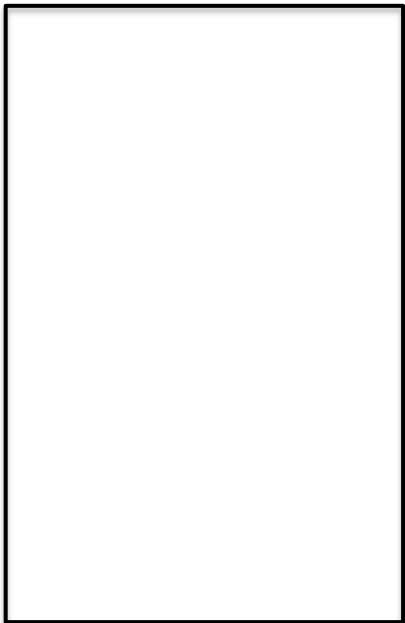


fig. IV.2.71  
ヴァインチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの12功業の噴水の  
構想》（「ヘラクレスとアン  
タイオス」：fig. III.2.8部分）

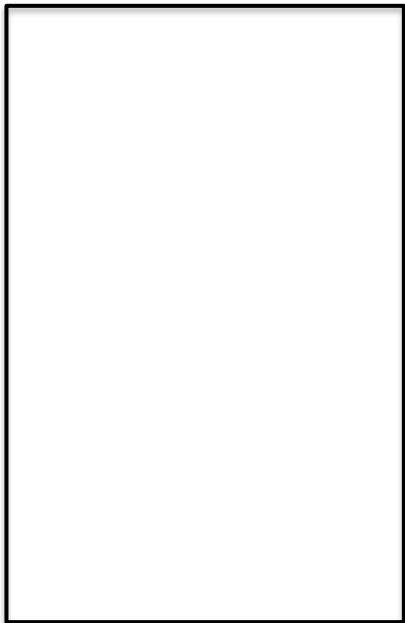


fig. IV.2.72  
アントニオ・ポッライウオーロ  
《ヘラクレスとアンタイオス》  
（fig. III.1.56）

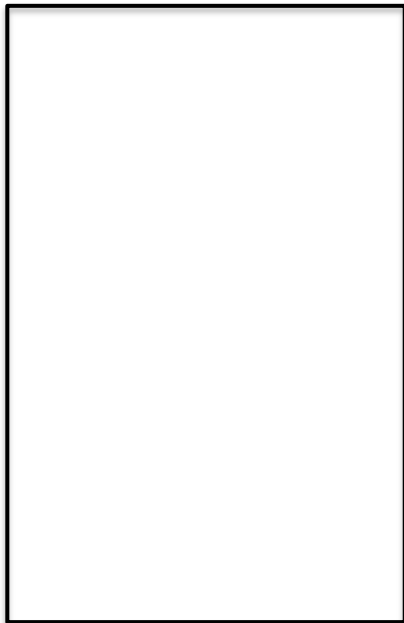


fig. IV.2.73  
バルトロメオ・アンマンナーティ  
《ヘラクレスとアンタイオス》  
（fig. III.1.61）

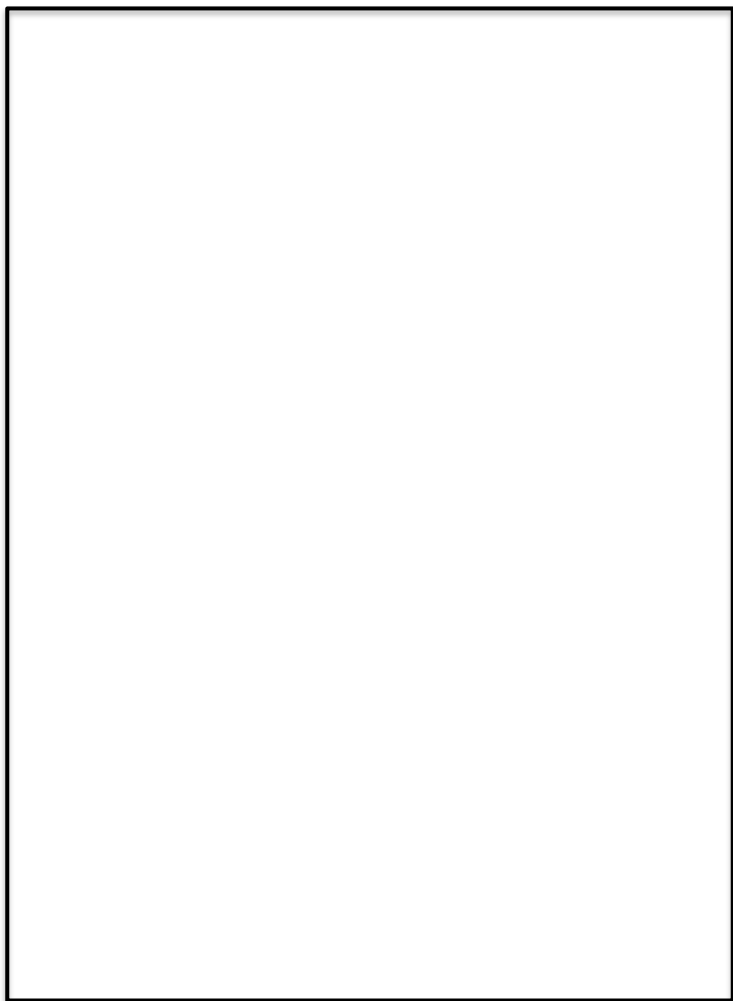


fig. III.2.74  
作者不詳《1598年11月12日にサン・ロレンツォ聖堂で  
執り行われたフェリペ2世の葬儀の様子（内陣）》  
エングレーヴィング（第2ステート）  
ウィーン、アルベルティーナ美術館

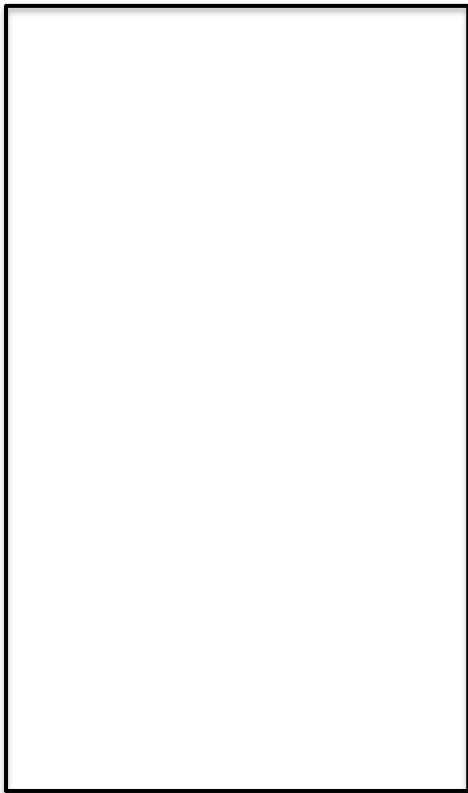


fig. IV.2.75  
ボントルモ 《イサクの犠牲のための準備素描》  
（部分）ベルガモ、アカデミア・カッラーラ  
inv. 2357

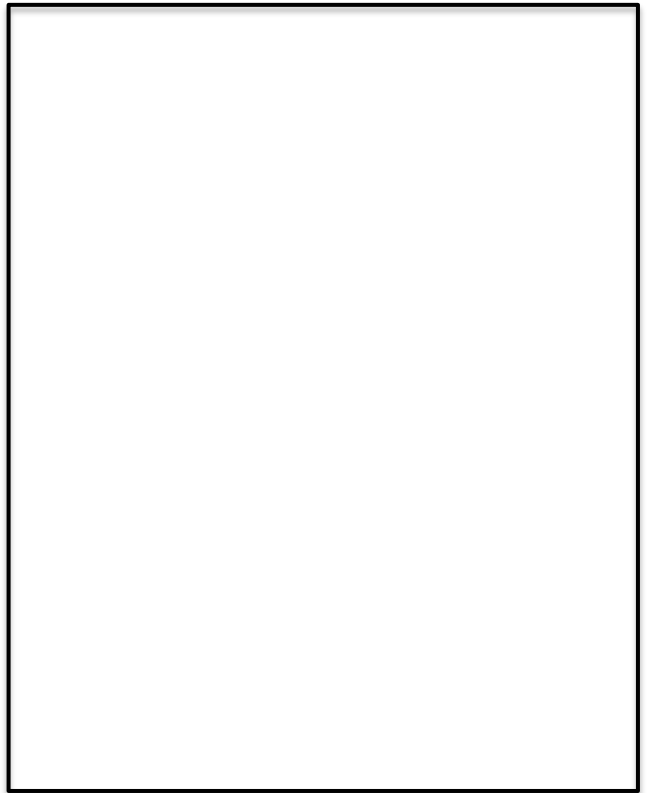


fig. IV.2.76  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》  
（「ヘラクレスとケンタウロス」：fig. III.2.8部分）

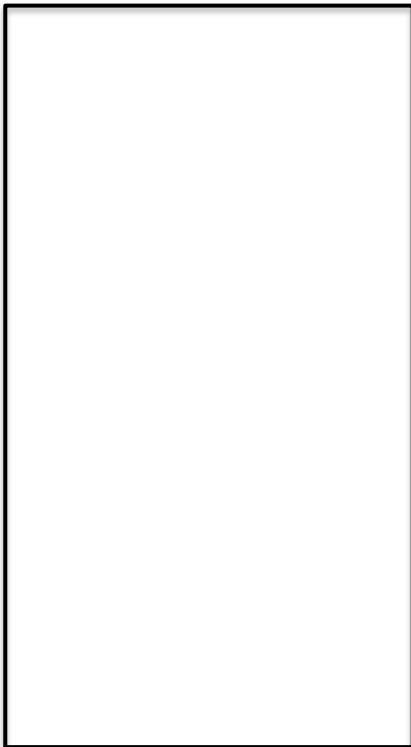


fig. IV.2.77  
ボントルモ  
《カインとアベルのための準備素描》  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描  
版画室 inv. 6739F recto



fig. IV.2.78  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》  
（「ヘラクレスとカクス」：fig. III.2.8部分）

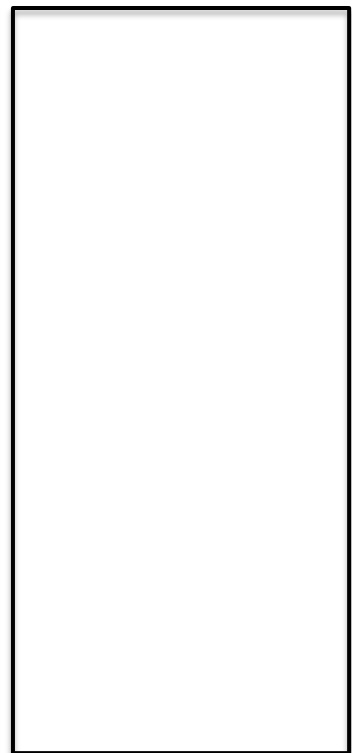


fig. IV.2.79  
ボントルモ  
《キリストの栄光とエヴァの  
創造のための習作》（部分）  
フィレンツェ、ウフィツィ美術  
館素描版画室 inv. 6609F

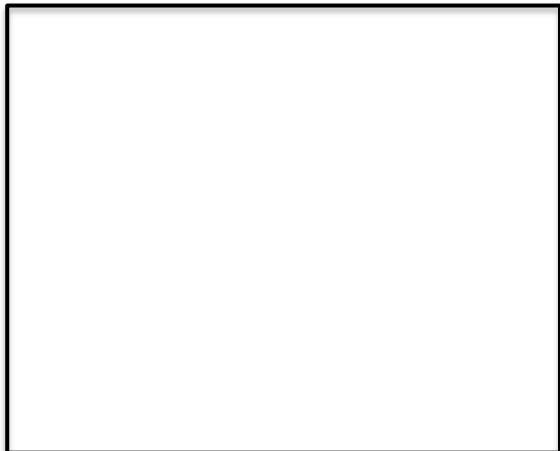


fig. IV.2.80  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの物語習作》（fig. III.2.9部分）

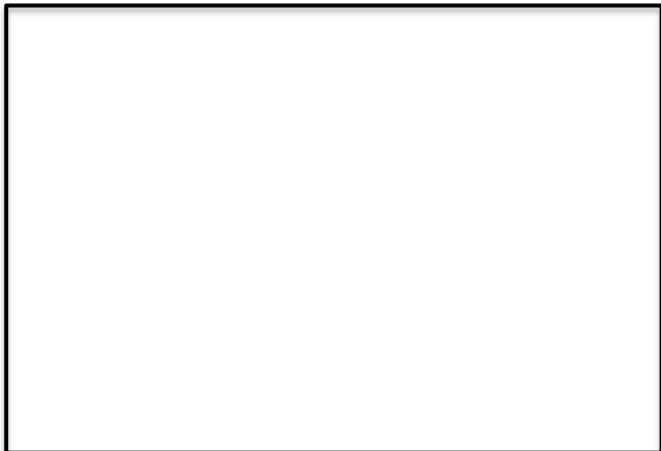


fig. IV.2.81  
ポントルモ 《ピエタの習作》  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室 inv. 6689F recto

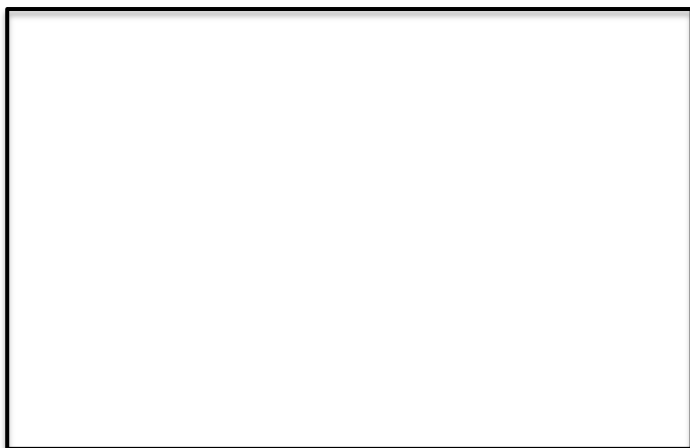


fig. IV.2.82  
ポントルモ 《大洪水の場面のための習作》  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室  
inv. 6752F recto

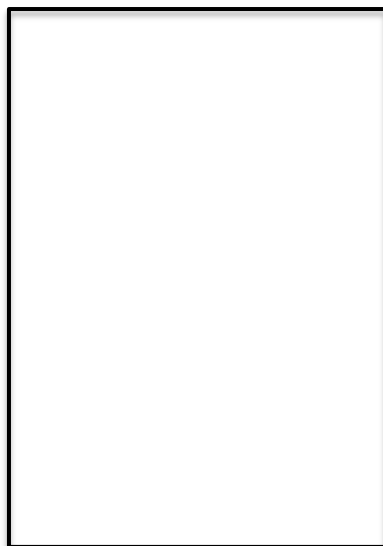


fig. IV.2.83  
ポントルモ 《3体の裸体人物像習作》  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室 inv. 6543F recto



fig. IV.2.84  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの物語習作》  
（fig. III.2.9部分）

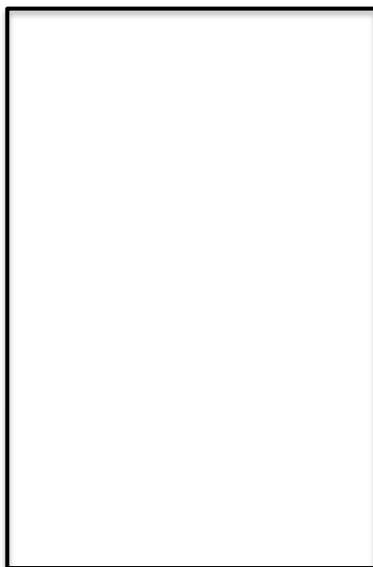


fig. IV.2.85  
アレッサンドロ・アッローリに帰属  
《大洪水の場面の部分模写  
（ポントルモに基づく）》  
パリ、ルーヴル美術館 inv. 1026

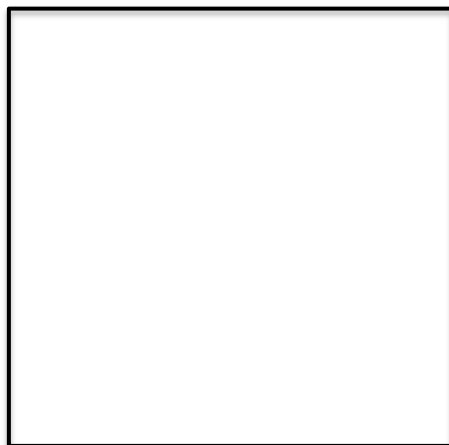


fig. IV.2.86  
アレッサンドロ・アッローリに帰属  
《大洪水の場面の部分模写  
（ポントルモに基づく）》  
タキシード・パーク、ロバート・サイ  
モン・コレクション





fig. IV.2.87  
ブロンズイーノ《青銅の蛇》（部分）1542年、フレスコ  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿内エレオノーラの礼拝堂

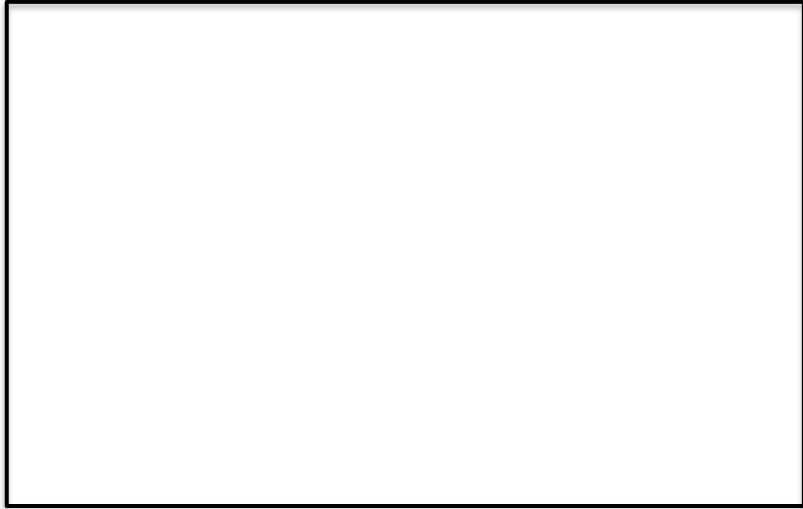


fig. IV.2.88  
ブロンズイーノ《キリストの復活》（部分）1552年、カンヴァスに油彩  
フィレンツェ、サンティッシマ・アンヌンツィアータ聖堂グアダニー礼拝堂

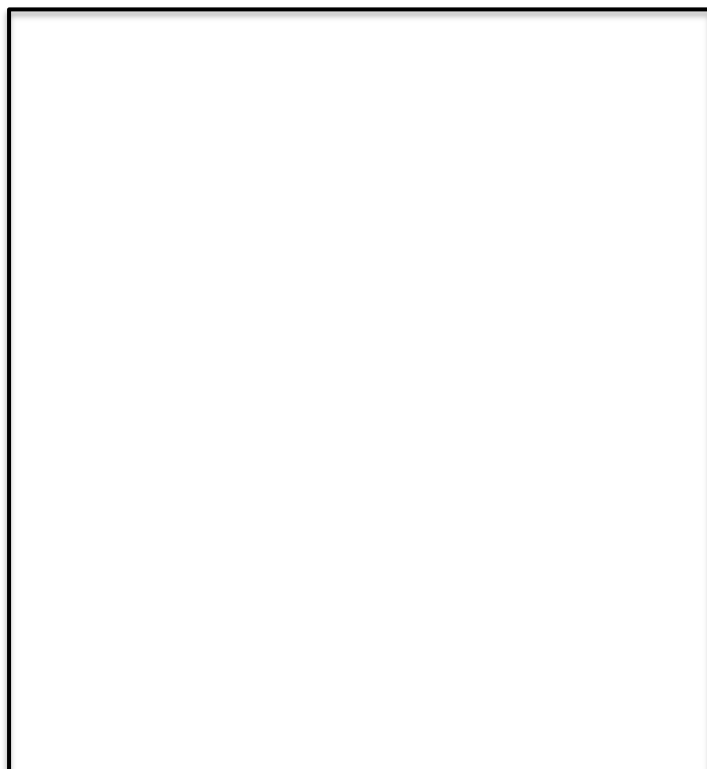


fig. IV.2.89  
ミケランジェロ《最後の審判》1536-1541年、フレスコ、13.7m x 12.2m  
ヴァティカン、システリーナ礼拝堂

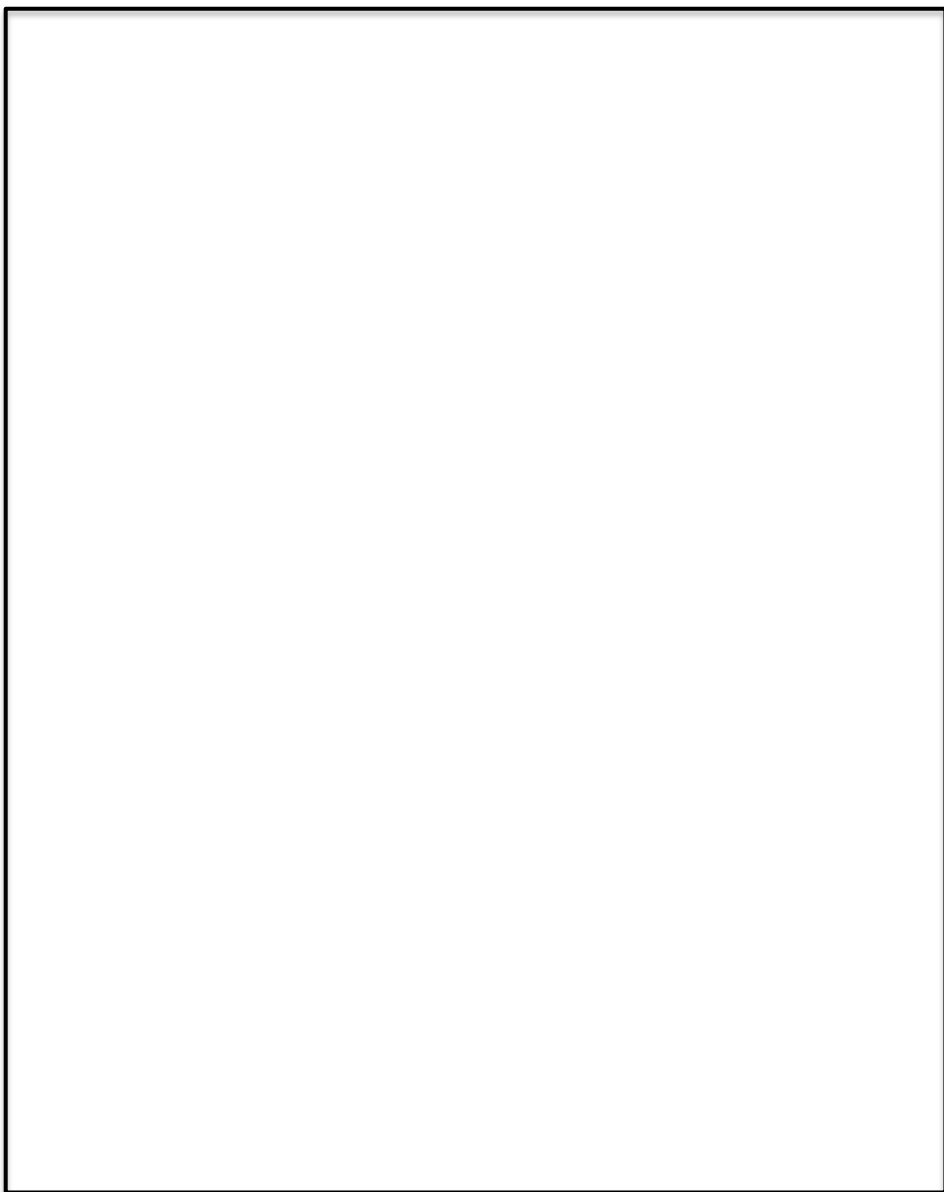


fig. IV.2.90  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属 《ヘラクレスとケルベロスの犬の泉の構想》  
所在不明（1982年12月までロンドン）

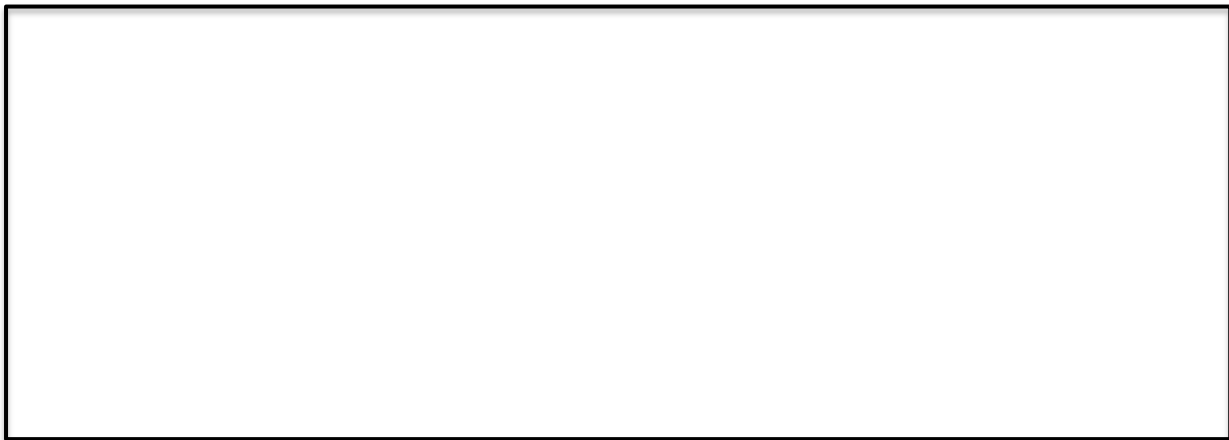


fig. IV.2.91 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属 《ヘラクレスとケルベロスの犬の泉の構想》  
（下部水槽：fig. III.2.102部分）

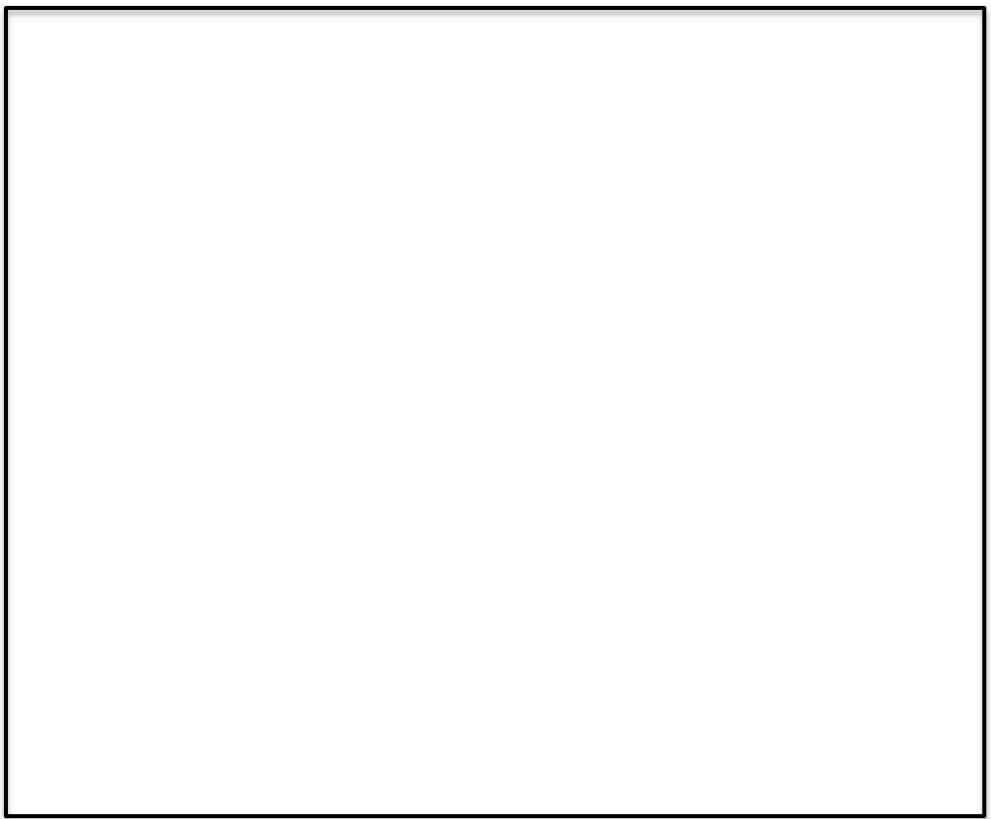


fig. IV.2.92  
 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属 《ヘラクレスとケルベロスの犬の泉の構想》  
 (中段軸足装飾：fig. III.2.102部分)

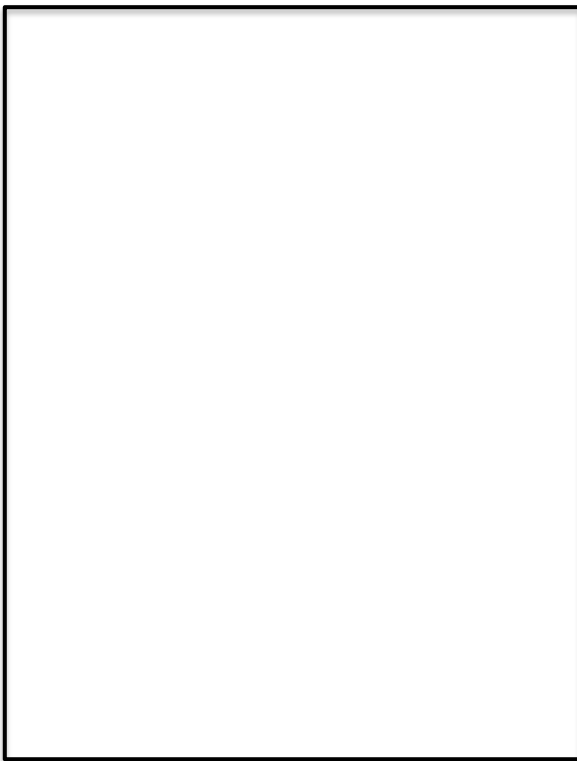


fig. IV.2.93  
 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属  
 《ヘラクレスとケルベロスの犬の泉の構想》  
 (「ヘラクレスとケルベロスの犬」：fig. III.2.102部分)

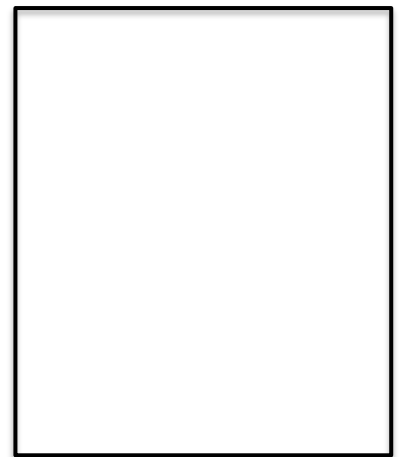


fig. IV.2.94  
 ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属  
 《ヘラクレスとケルベロスの犬の泉の構想》 (山羊の頭部装飾：fig. III.2.102部分)

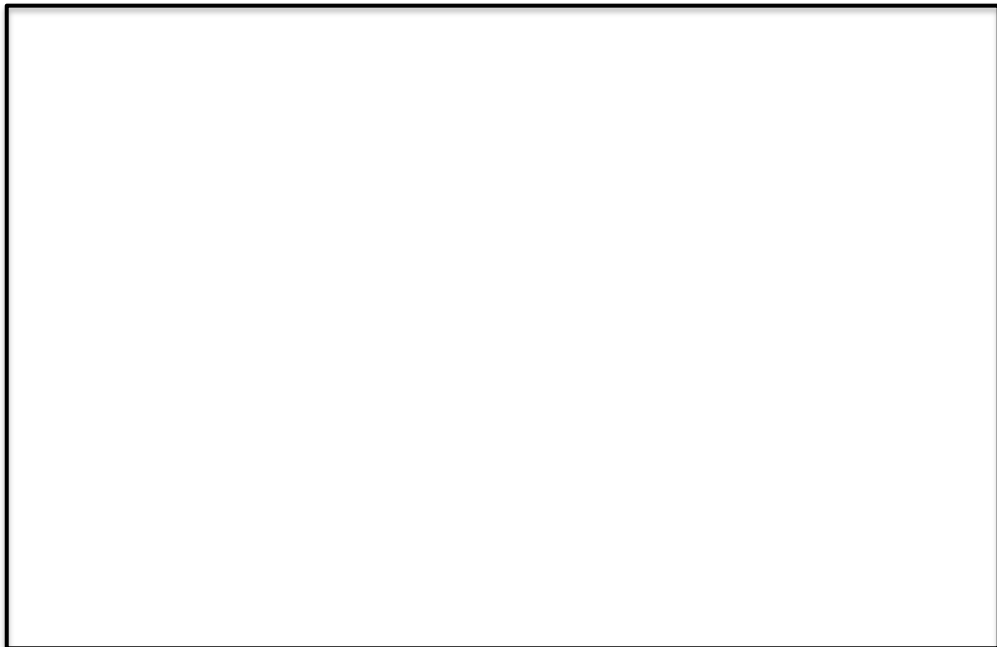


fig. IV.2.95

ミケランジェロ 《ヘラクレスの功業の習作》 1530年頃、赤チヨーク、27.2 x 42.2 cm  
ウィンザー城、王立コレクション inv. no. 12770

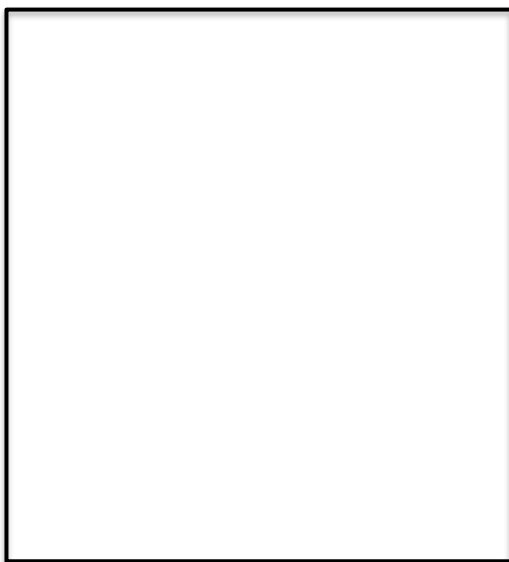


fig. IV.2.96

ジョヴァンニ・アントニオ・ダ・ブレーシャ  
《ヘラクレスとネメアのライオン》  
1507年以降、エングレーヴィング、28.2 x 25.3 cm  
アムステルダム国立美術館 inv. RP-P-OB-1969

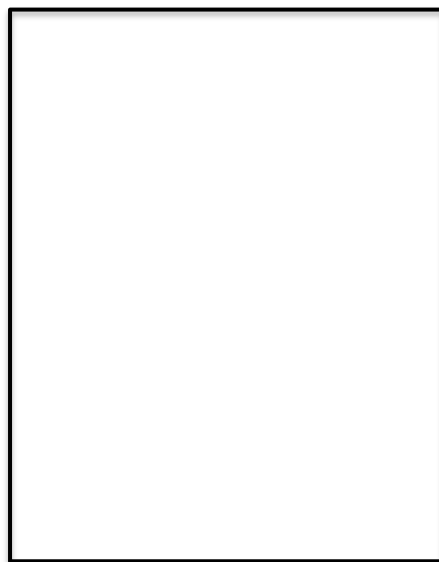


fig. IV.2.97

ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属  
《ヘラクレスとネメアのライオンの習作》  
ペンと薄い褐色インク、32.1 x 20.8 cm  
ヴェネツィア、アカデミア美術館 inv. 187

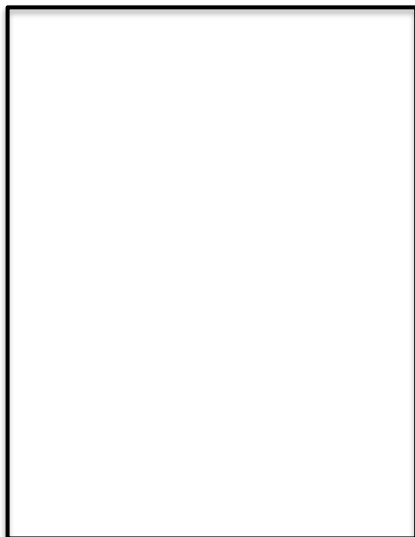


fig. IV.2.98

アレッサンドロ・アッローリ工房  
《ヘラクレスとネメアのライオン》  
1580-1581年頃、フレスコ  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館2階東側回廊  
天井画（第29区画）

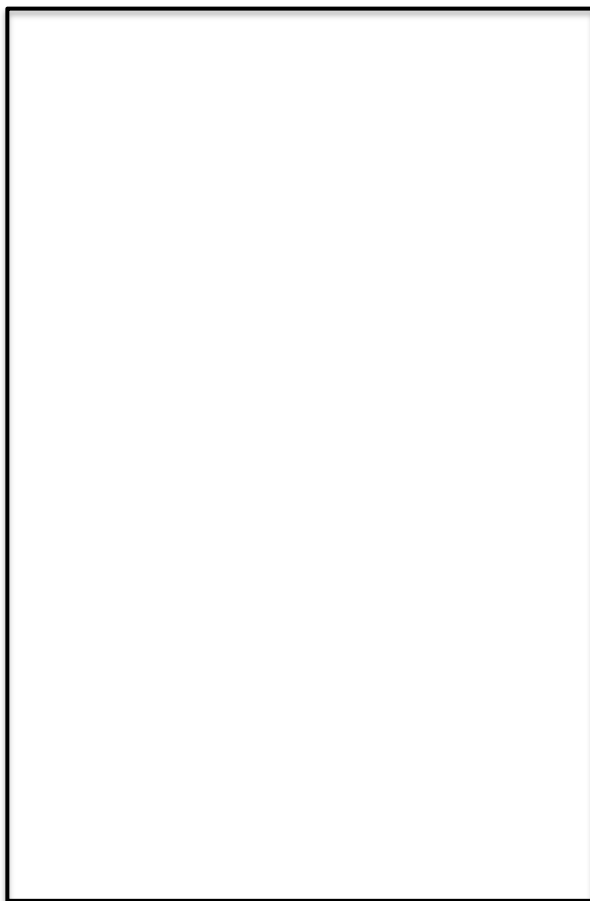


fig. IV.2.99  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》 (fig. III.2.8)

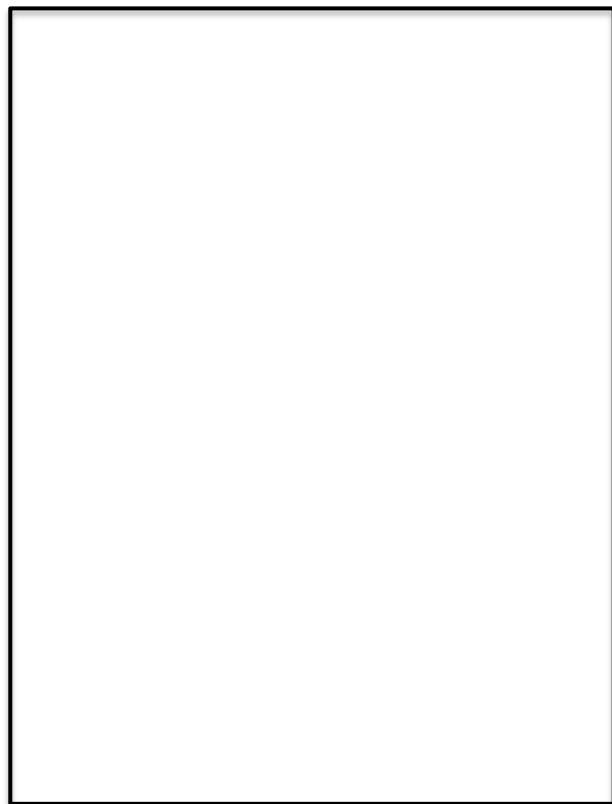


fig. IV.2.100  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ラオコーン》大理石、個人蔵

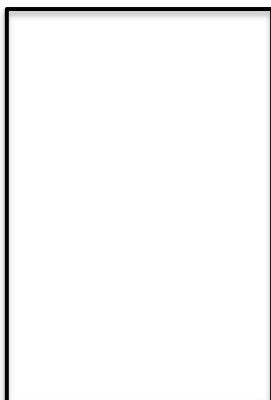


fig. IV.2.101  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属  
《ヘラクレスとケルベロスの犬の泉の構  
想》 (蛇の頭部：fig. III.2.102部分)

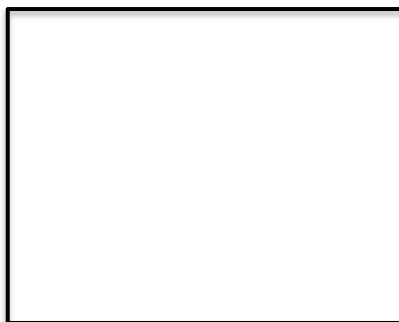


fig. IV.2.102  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ 《ラオコーン》  
(蛇の頭部：fig. III.2.112 部分)



fig. IV.2.103  
バッチョ・バンディネッリ  
《ラオコーン》 (部分：蛇の頭部)  
1520-1524年、大理石、186.6cm  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館



fig. III.2.104  
アゲサンドロス、アタノドロス、ポリュ  
ドロス《ラオコーン》 (部分：蛇の頭部)  
50年頃、大理石、184 cm  
ヴァティカン美術館

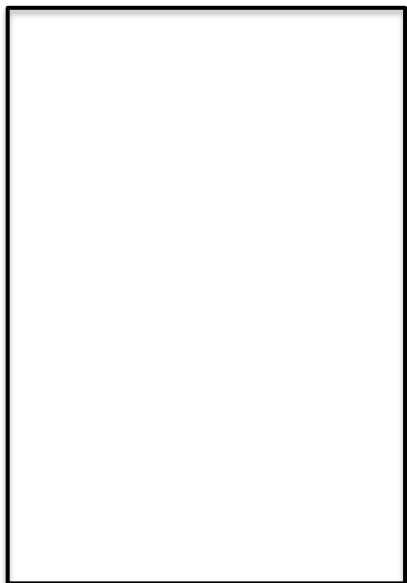


fig. IV.3.1  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿正面と  
シニョリーア広場



fig. IV.3.2 アンマンナーティほか  
《ネプトゥヌスの噴水》1560-1575年、大理石、ブロンズ  
フィレンツェ、シニョリーア広場

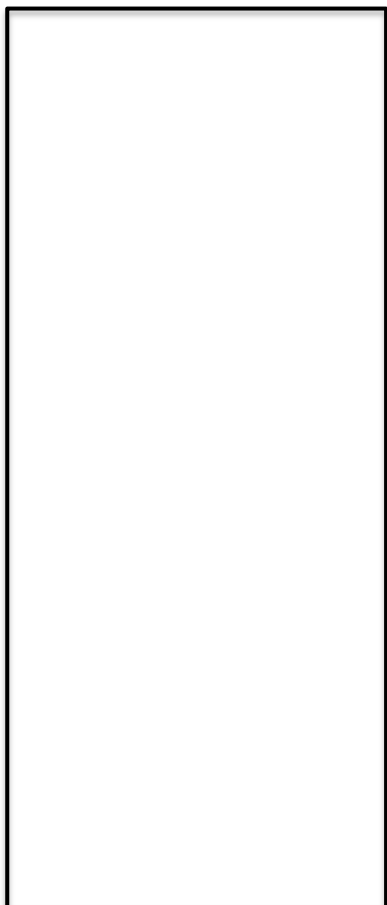


fig. IV.3.3  
バッチョ・バンディネッリ 《ネプトゥヌス》  
1550-1560年、ブロンズ、49 cm  
ニューヨーク、クラリーチェ・スミス、  
ロバート H. スミス・コレクション

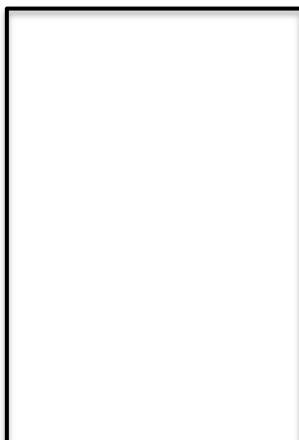


fig. IV.3.4  
バッチョ・バンディネッリ  
《ネプトゥヌス》  
(fig. III.3.3部分)



fig. IV.3.5  
バッチョ・バンディネッリに基づく  
《ネプトゥヌス》  
1573年、ブロンズ、52 cm  
ローマ、ガレリア・コロンナ inv. Fid. n. 97

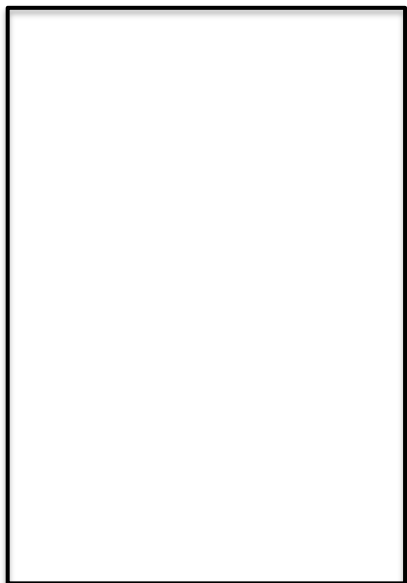


fig. IV.3.6  
バッチョ・バンディネッリ  
《アンドレア・ドーリア記念碑》  
1536年、大理石  
カッラーラ、大聖堂広場

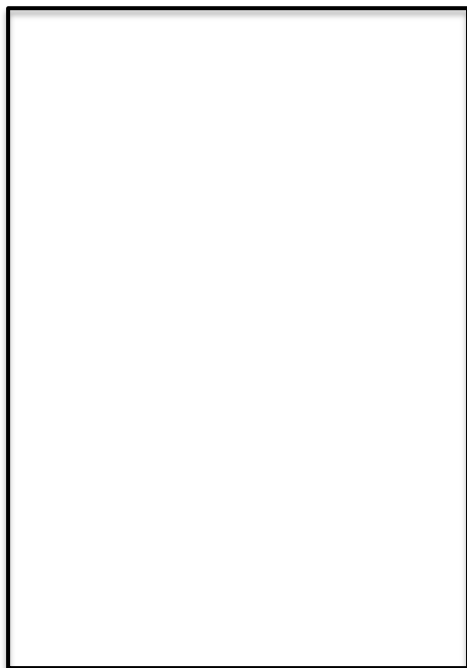


fig. IV.3.7  
バッチョ・バンディネッリに帰属  
《ネプトゥヌスの習作》  
紙に黒鉛筆、230 x 174 mm  
パリ、ルーヴル美術館素描版画室 inv. 122 recto

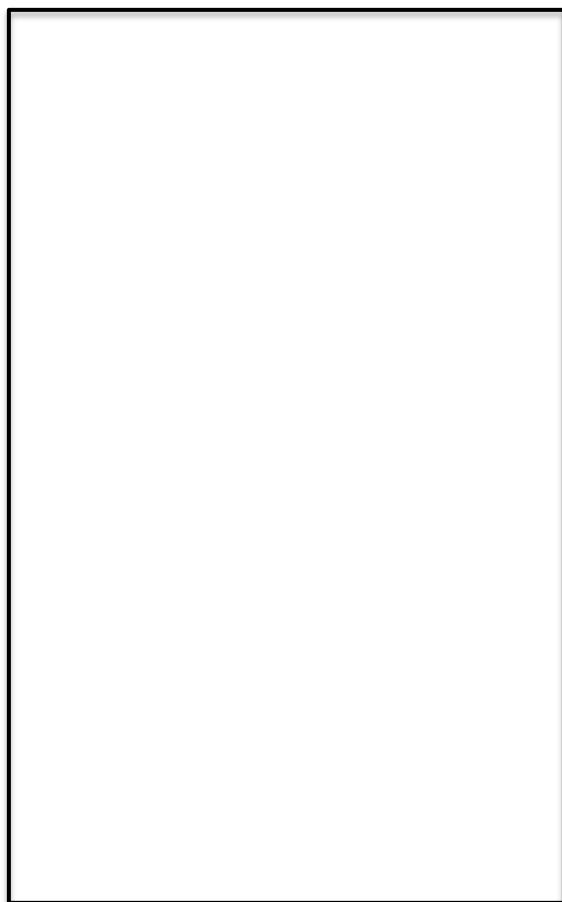


fig. IV.3.8  
アンマンナーティに帰属  
《ネプトゥヌスの噴水のための計画案》  
1560年頃、ペンと褐色インク、銀尖筆、赤色天然石  
(サンギーヌ)、木炭、430 x 286 mm  
パリ、ルーヴル美術館素描版画室 inv. 711 recto

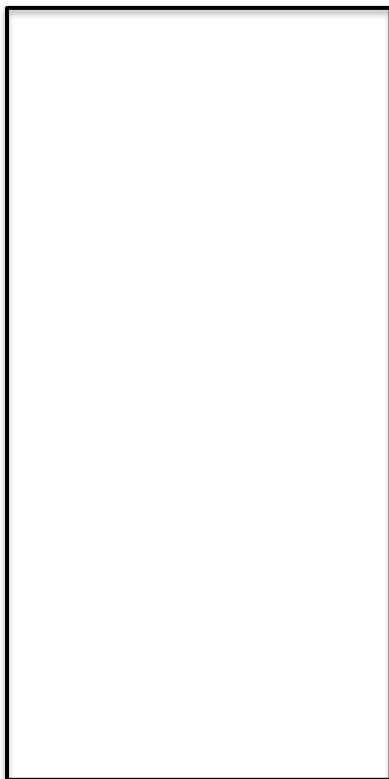


fig. IV.3.9  
アンマンナーティに帰属  
《ネプトゥヌスの噴水のための計画案》  
1560年頃、ロンドン、個人蔵  
(旧ドゥビーニ・コレクション)

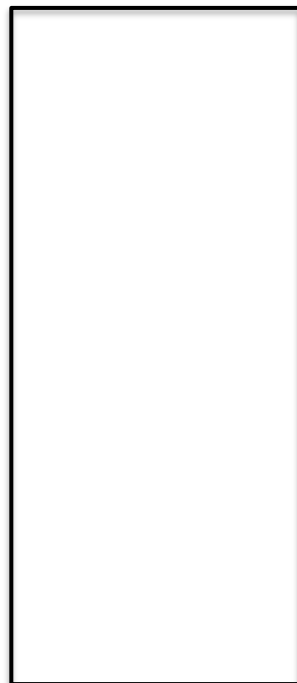


fig. IV.3.10  
ミケランジェロ 《勝利》  
(fig. III.2.37)

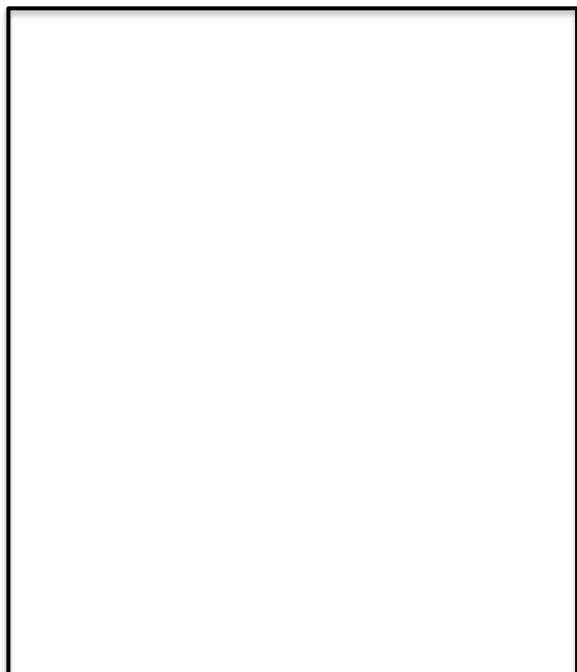


fig. VI.3.11  
アンマンナーティ 《テヴェレ河》 1550-1553年  
大理石、ローマ、ヴィッラ・ジュリア

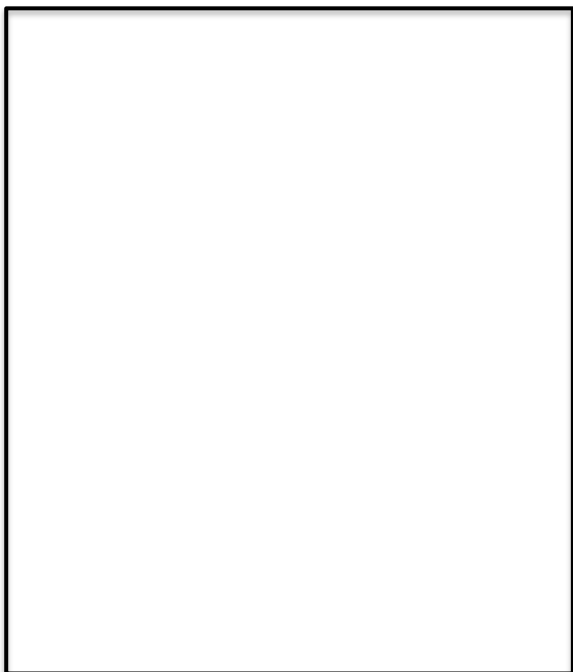


fig. IV.3.12  
アンマンナーティ 《アルノ河》 1550-1553年  
大理石、ローマ、ヴィッラ・ジュリア

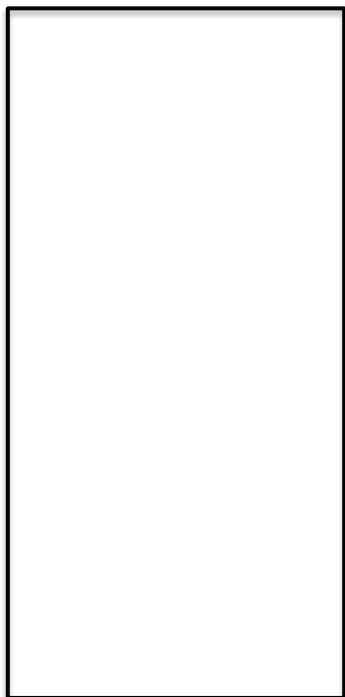


fig. IV.3.13  
アンマンナーティに帰属  
《ネプトゥヌス像のモデル》  
粘土、48 cm  
ロンドン、ヴィクトリア・  
アンド・アルバート美術館

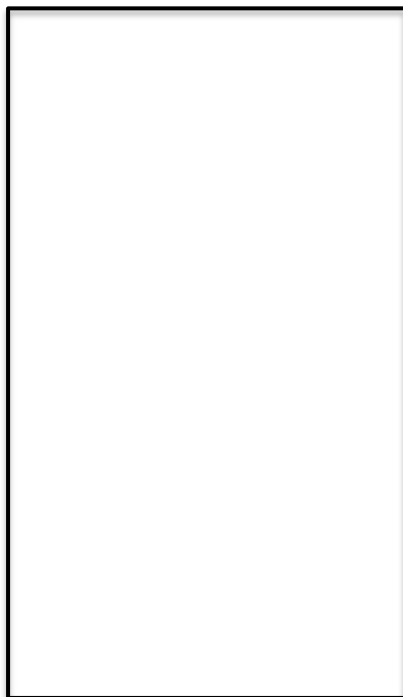


fig. IV.3.14  
ジャンボローニャ  
《ネプトゥヌスの噴水のための準備モデル》  
ブロンズ、78.6 cm  
ボローニャ、市立中世美術館 inv. 1503

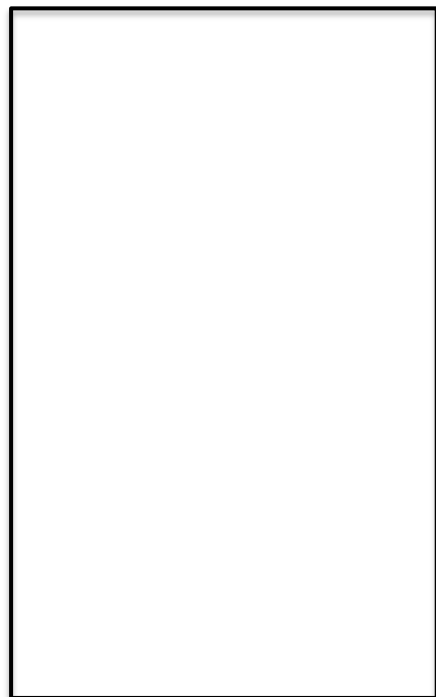


fig. IV.3.15  
ジャンボローニャ  
《ネプトゥヌスの噴水》  
1563-1566年ブロンズ、大理石  
ボローニャ、マッジョーレ広場



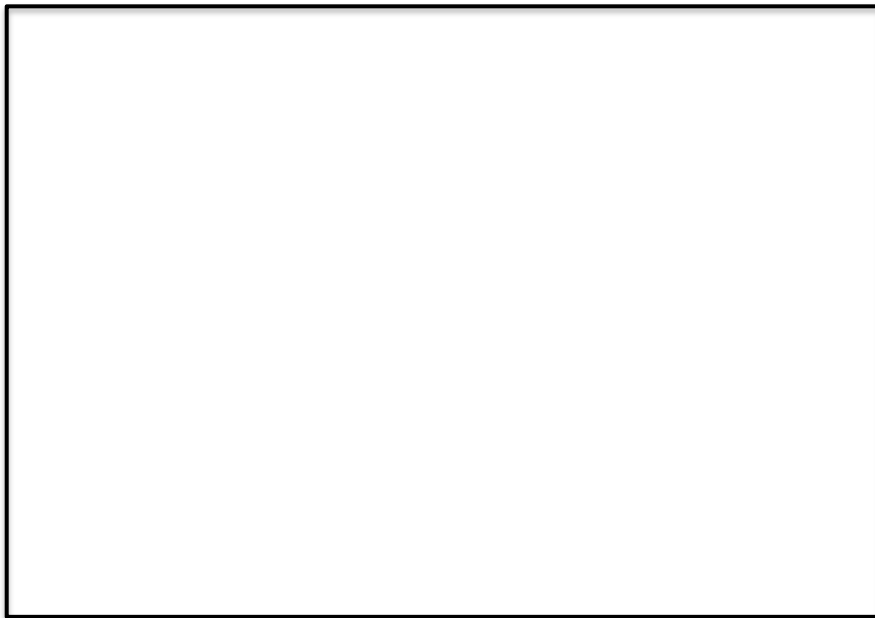


fig. IV.3.16  
アンマンナーティほか  
《ネプトゥヌスの噴水》  
(fig. III.3.2)

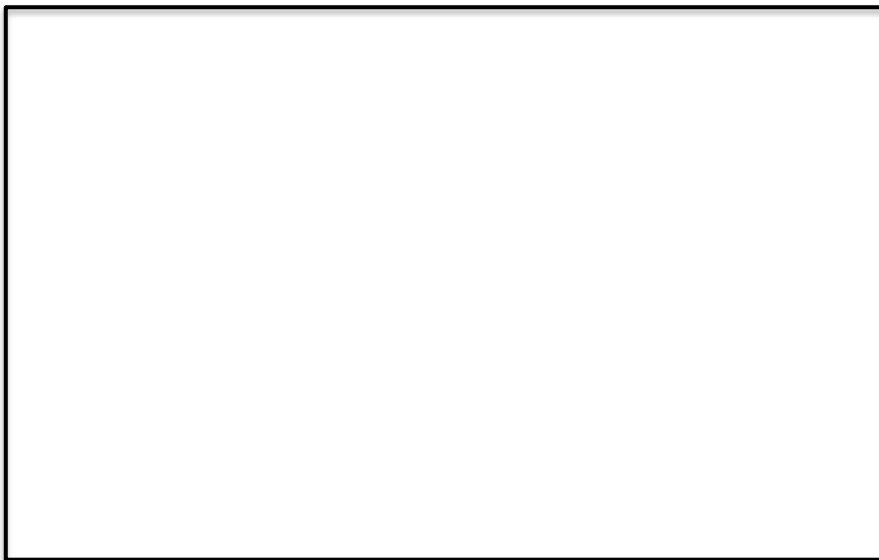


fig. IV.3.17  
アンマンナーティほか  
《ネプトゥヌスの噴水》  
(山車：fig. III.3.2部分)



fig. IV.3.18  
アンマンナーティほか  
《ネプトゥヌスの噴水》  
(ネプトゥヌス台座背面：  
fig. III.3.2部分)

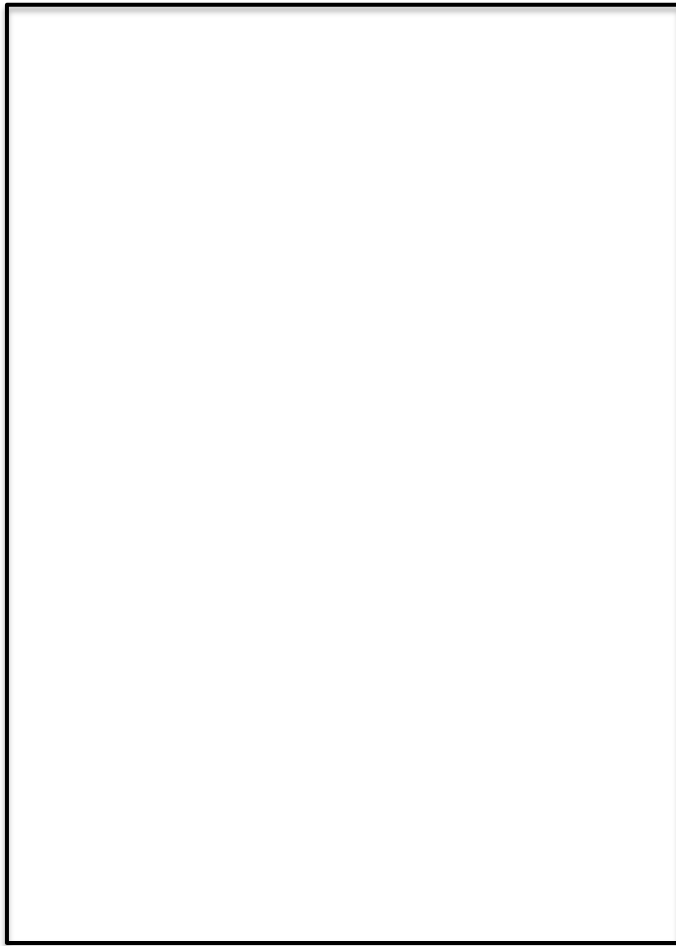


fig. IV.3.19  
アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》  
(「ネプトゥヌス」：fig. III.3.2部分)

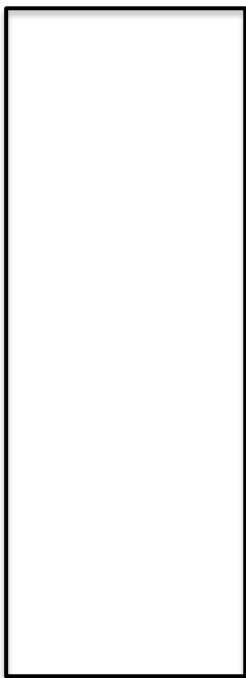


fig. IV.3.24  
ベルトルド・ディ・ジョ  
ヴァンニ  
《休息するヘラクレス》  
15世紀後半、22.2 cm  
ニューヨーク、フリック・  
コレクション inv. 1916.2.04

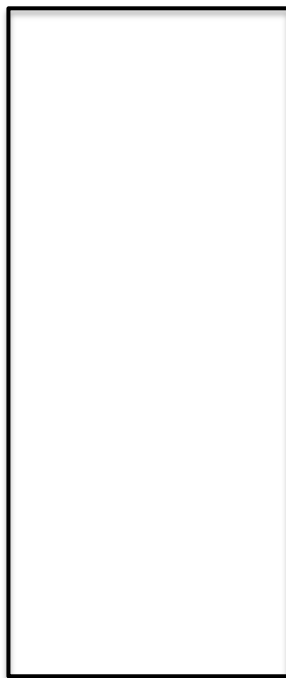


fig. IV.3.25  
ジョルジョ・ヴァザーリ  
《1515年のレオ10世の  
フィレンツェ入市式》(部分)  
板に油彩、1555-1562年  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿  
レオ10世の間

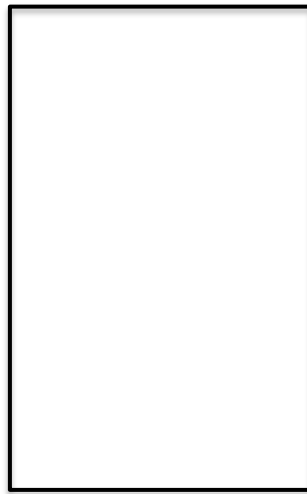


fig. IV.3.20  
アンマンナーティ  
《ネプトゥヌス》195 cm  
パドヴァ、ストロツィ宮  
殿



fig. IV.3.22  
作者不詳《休息するヘラクレス》  
1-2世紀頃、大理石  
マルタ島、ドムス・ロマーナ

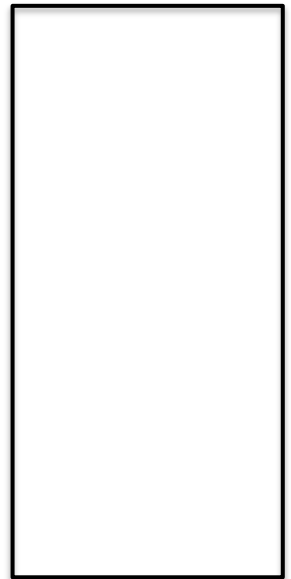


fig. IV.3.21  
アンマンナーティ  
《ヘラクレス》7.13 m  
パドヴァ、マント  
ヴァ・ベナヴィデス邸

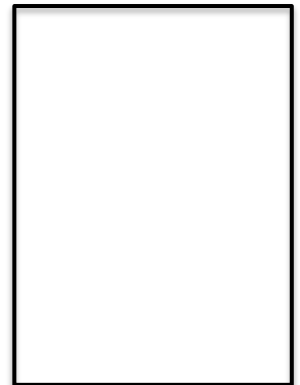


fig. IV.3.23  
作者不詳  
《休息するヘラクレスの  
銀製手桶》7世紀中頃、銀  
ウィーン、美術史美術館  
inv. ANSA Villa 95

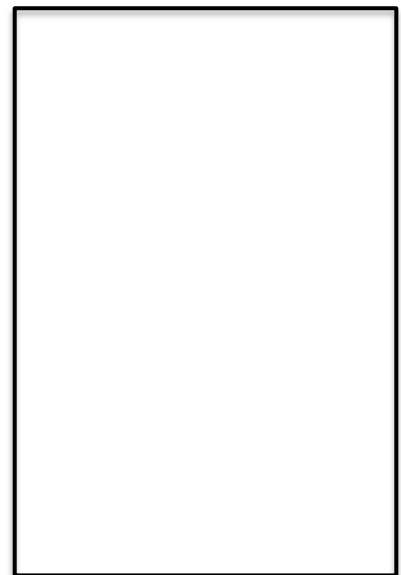


fig. IV.3.26  
ジュリオ・クローヴィオ《ベナヴィデス邸のヘラクレス》  
1544-1545年、紙に黒石墨、538 x 415 mm  
パリ、ルーヴル美術館素描版画室 inv. 48 recto

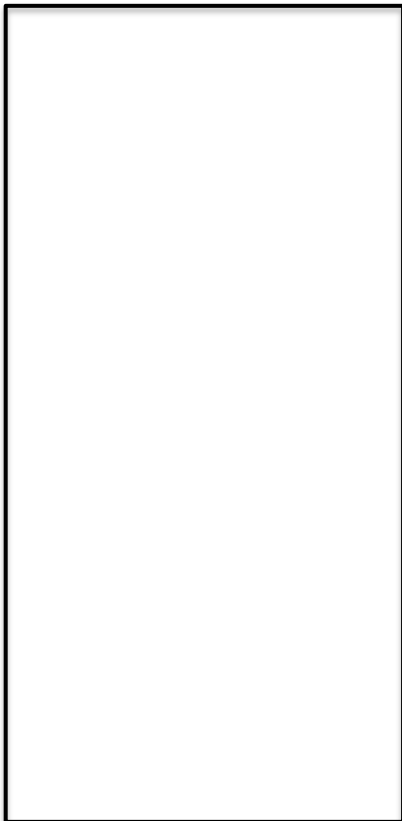


fig. IV.3.27  
アンマンナーティほか  
《ネプトゥヌスの噴水》  
（「ネプトゥヌス」：fig. III.3.2部分）

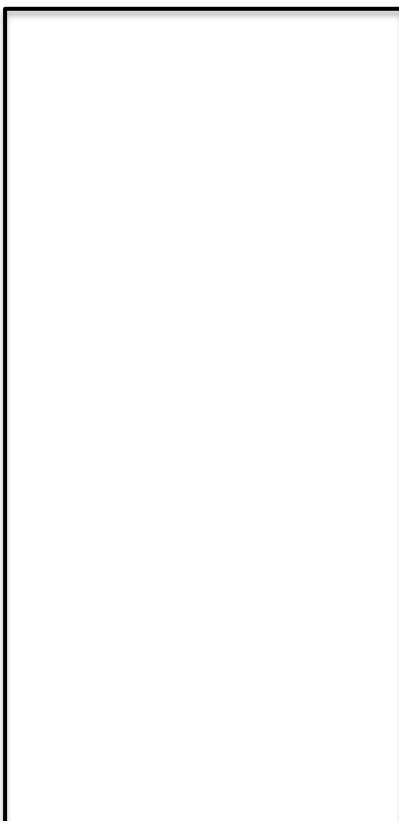


fig. IV.3.28  
ミケランジェロ 《ダヴィデ》  
1504年、大理石  
フィレンツェ、アカデミア美術館

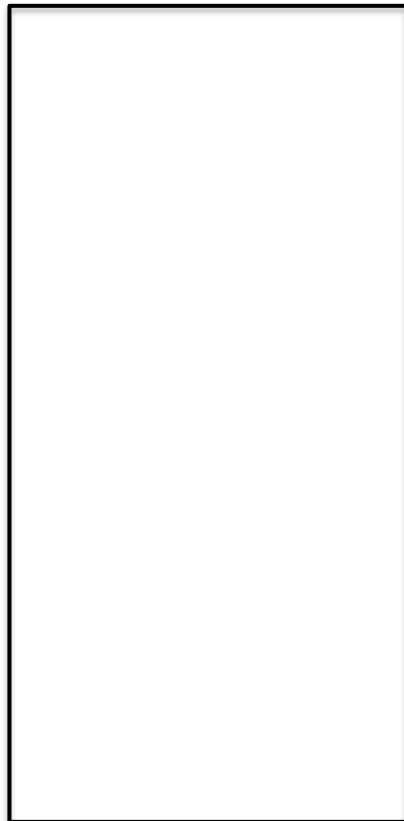


fig. IV.3.29  
バンディネッリ 《ヘラクレスとカク  
ス》 1534年、大理石  
フィレンツェ、シニョリーア広場

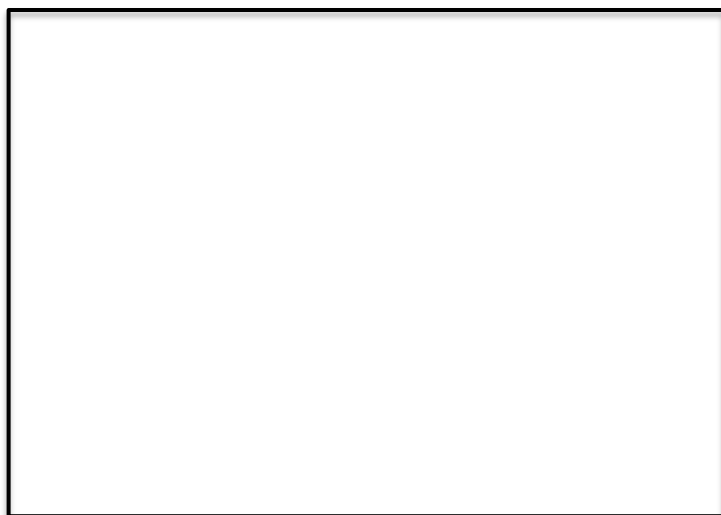


fig. IV.3.30  
アンマンナーティほか  
《ネプトゥヌスの噴水》（fig. III.3.2）



fig. IV.3.31  
「アンマンナーティによる第一計画  
（縁の高い水槽を示す）」  
（Heikamp 2011, p. 237, fig. 57より転載）

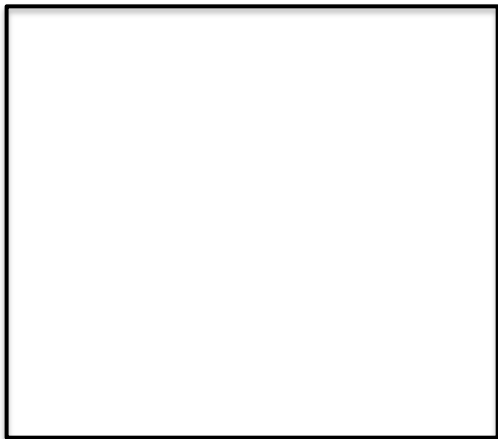


fig. IV.3.32  
アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》  
(横臥像の台座装飾：fig. III.3.2部分)

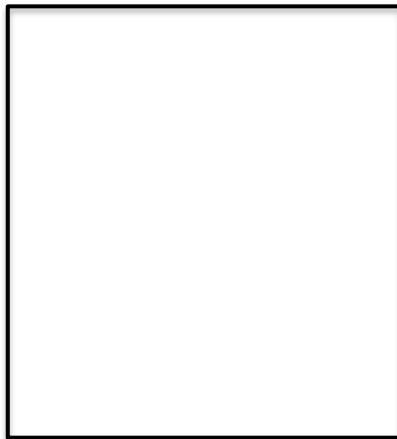


fig. IV.3.33  
アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》  
(横臥像の台座装飾：fig. III.3.2部分)

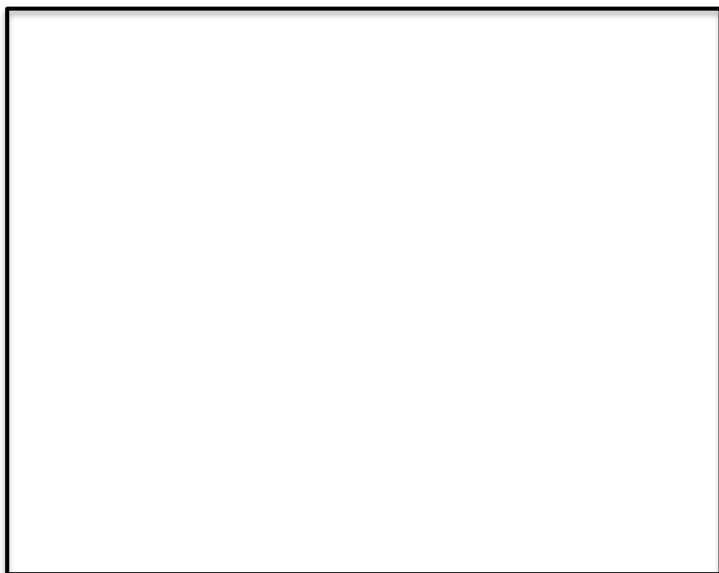


fig. IV.3.34  
アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》  
(《グラウコス》《サテュロス》《ファウヌス》  
正面観：fig. III.3.2部分)

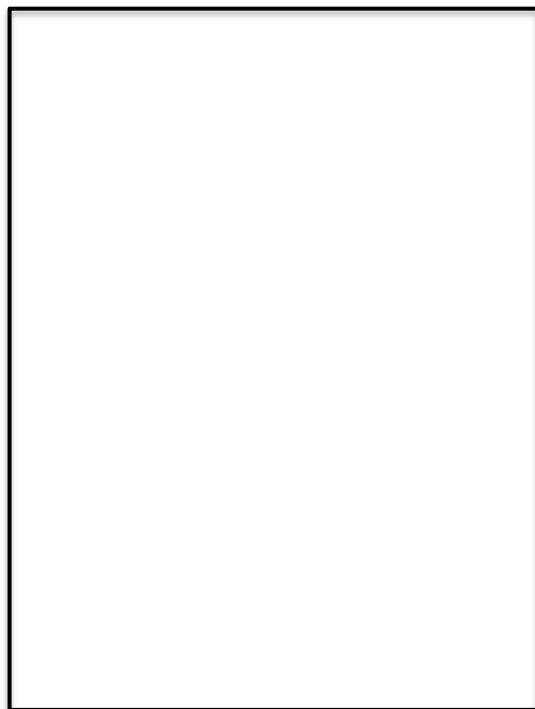


fig. IV.3.35  
アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》  
(《グラウコス》《サテュロス》《ファウヌス》  
左側面観：fig. III.3.2部分)



fig. IV.3.36  
アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》  
(《ドーリス》《サテュロス》《ファウヌス》  
正面観：fig. III.3.2部分)

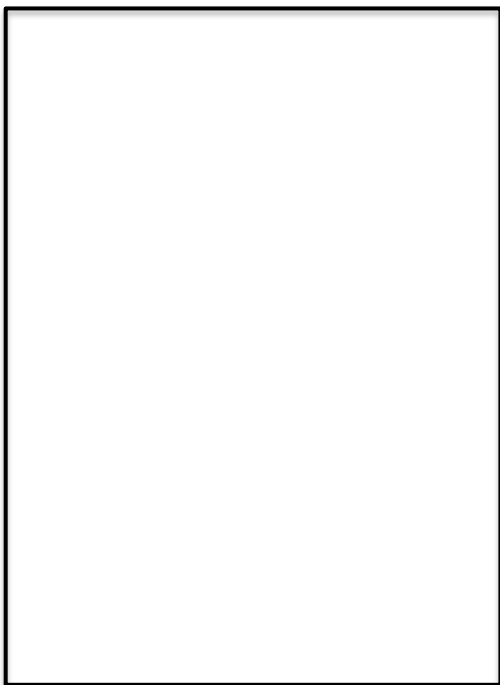


fig. IV.3.37  
アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》  
(《テティス》《サテュロス》《ファウヌス》：  
fig. III.3.2部分)



fig. IV.3.38  
アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》  
(《ポルクュース》《サテュロス》《ファウヌス》：  
fig. III.3.2部分)

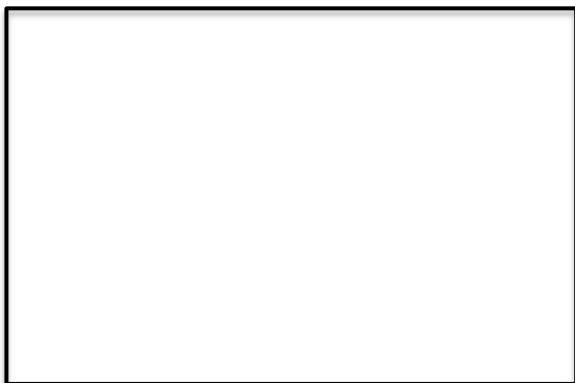


fig. IV.3.39  
プリマティッチョ  
《アポロン、アモル、キュパリッソス》  
サンギーヌ、白のハイライト、172 x 291 mm  
パリ、ルーヴル美術館素描版画室 inv. 8541 recto



fig. IV.3.40  
プリマティッチョ  
《フローラの習作》  
紙に褐色および灰褐色インク、  
白のハイライト  
ロンドン、大英博物館  
inv. 1946,0713.489

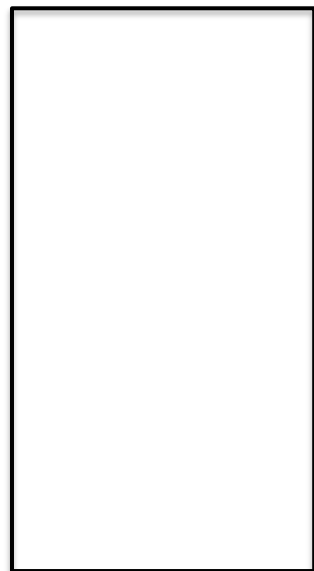


fig. IV.3.41  
フォンテーヌブロー派の作家  
《アポロンとパン》  
(プリマティッチョに基づく)  
紙に褐色インク、白のハイライト、  
382 x 227 mm  
ロンドン、大英博物館  
inv. SL,5236.44

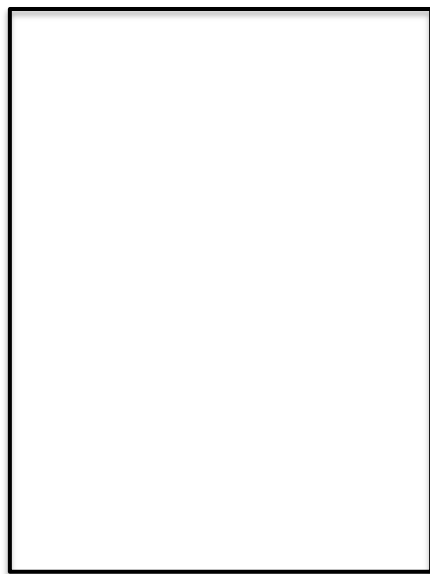
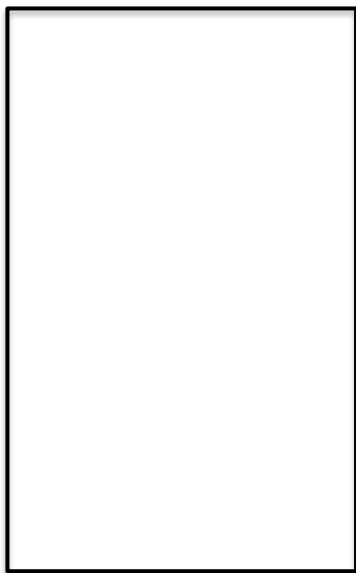
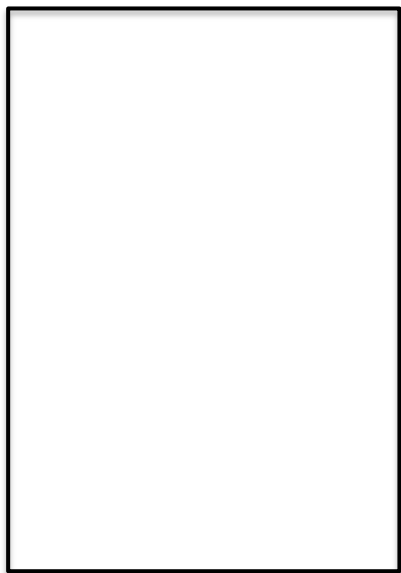


fig. IV.3.42, fig. IV.3.43  
アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》  
(《ファウヌス》：fig. III.3.2部分)

fig. IV.3.44  
ミケランジェロ  
《トリトーンに姿を変えられた  
裸体男性像および3つの男性頭部の習作》  
1501年頃、紙にペン、2種のインク、  
235 x 185 mm、オックスフォード、  
アシュモレアン美術館 inv. Parker 292 recto

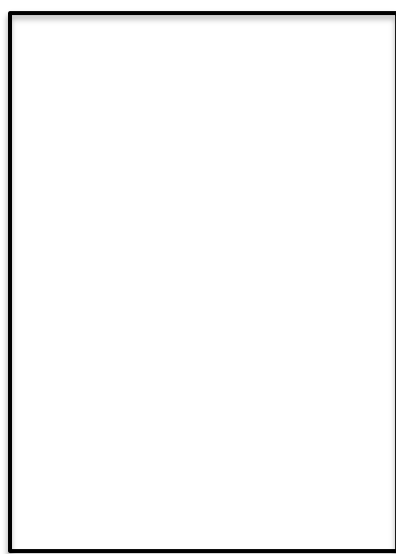
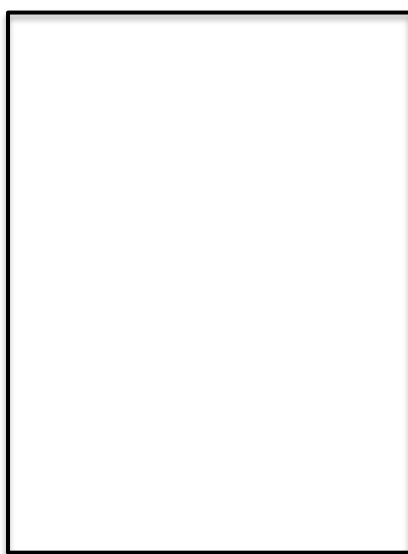
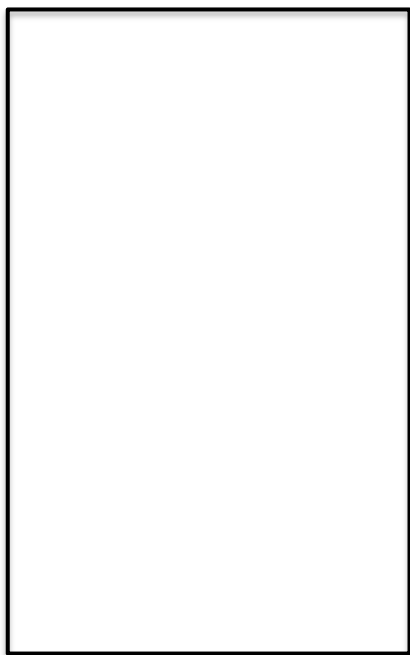


fig. IV.3.45  
ミケランジェロ《背を向けた男性裸体像》  
1504-1505年頃、紙にペン、褐色インク、  
灰色と褐色の水彩、白のハイライト、  
419 x 286 mm、ロンドン、大英博物館  
inv. 1887,0502.116

fig. IV.3.46, fig. IV.3.47  
ミケランジェロ《青年裸体像》  
1508-1512年、フレスコ  
ヴァティカン、システィーナ礼拝堂天井画

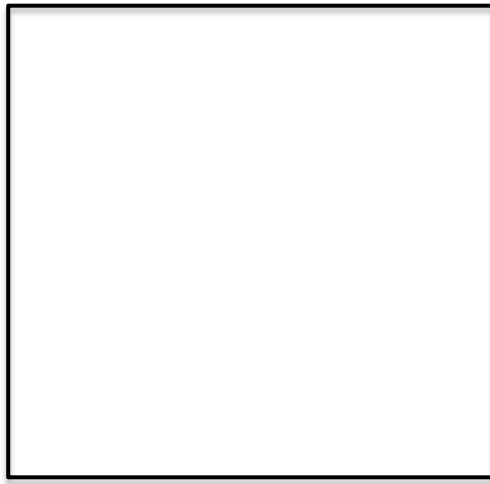
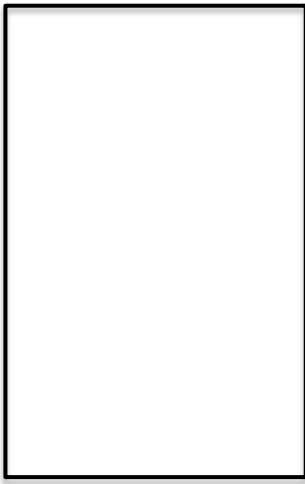


fig. IV.3.48, fig. IV.3.49

チェッリーニ

《サテュロスあるいは競技者》

(正面観・側面観)

ニューヨーク、メトロポリタン美術館

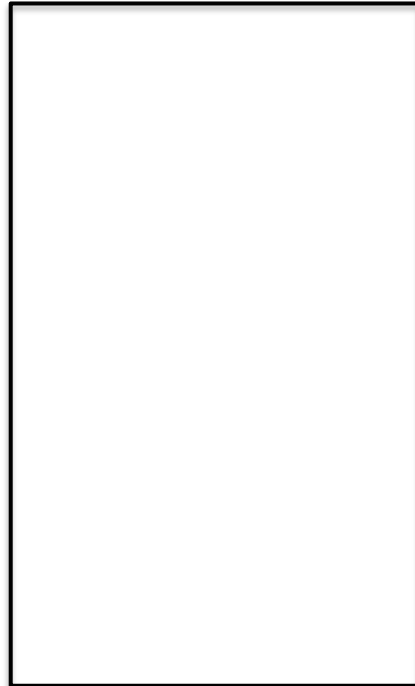
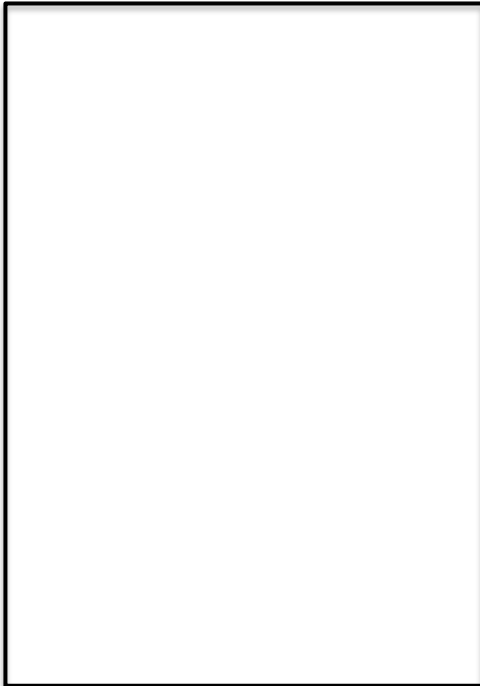


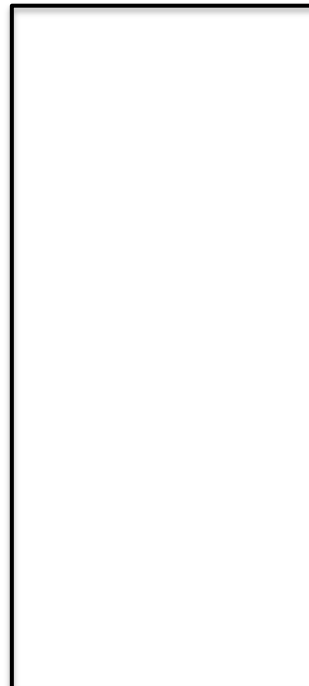
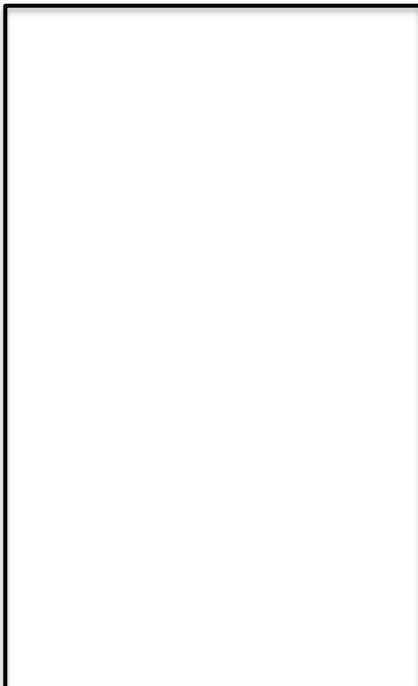
fig. IV.3.50, fig. IV.3.51,

fig. IV.3.52, fig. IV.3.53

アンマンナーティほか

《ネプトゥヌスの噴水》

(《ファウヌス》：fig. III.3.2部分)



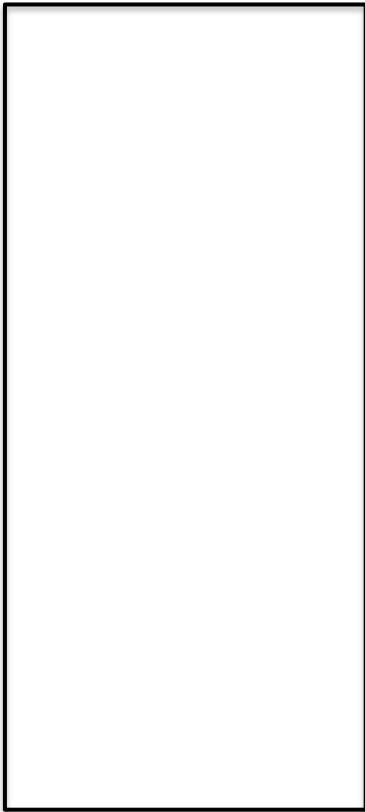


fig. IV.3.54  
ミケランジェロ 《ラザロの蘇生のための習作》  
1516年、紙に赤チョーク、250 x 118 mm  
ロンドン、大英博物館 inv. 1860,0714.2

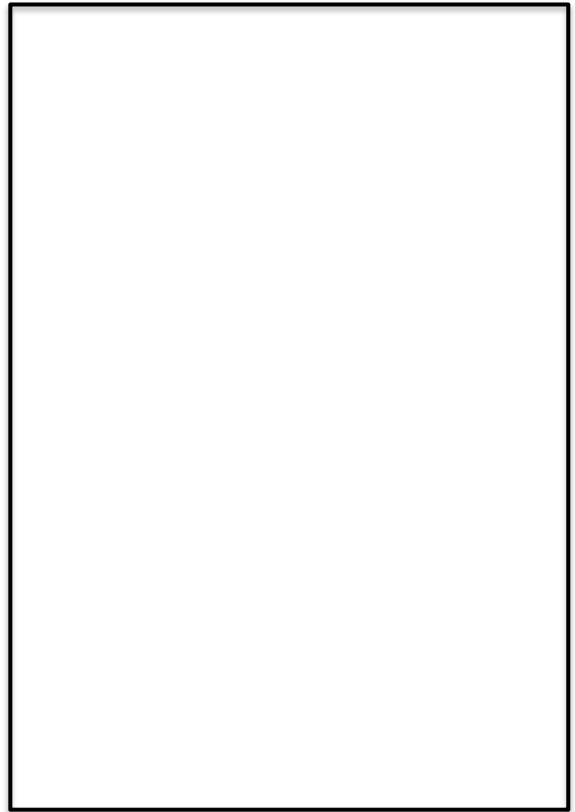


fig. IV.3.55  
ミケランジェロ 《ラザロの蘇生のための習作》  
1516年、紙に赤チョーク、250 x 183 mm  
ロンドン、大英博物館 inv. 1860,0714.1



fig. IV.3.56 ミケランジェロ 《ラザロの蘇生のための習作》  
1516-1518年、紙に赤チョーク、203 x 331 mm  
バイヨンヌ、ボナ美術館 inv. 682



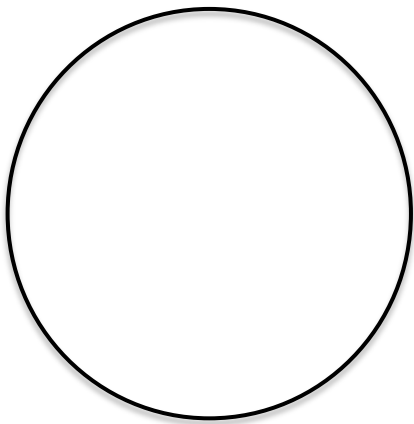


fig. IV.3.57  
 ピエトロ・パオロ・ガレオッティ  
 《ネプトゥヌスの噴水を伴うコジモ1世のメダル》  
 1567年、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館

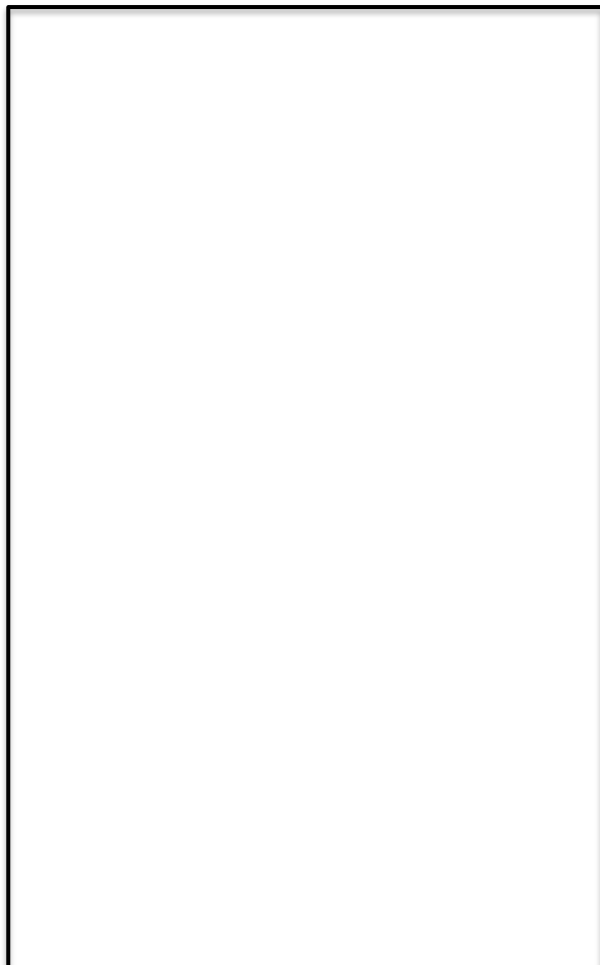


fig. IV.3.58  
 アンマンナーティに帰属  
 《ネプトゥヌスの噴水のための計画案》1560年頃  
 ペンと褐色インク、銀尖筆、赤色天然石（サンギーヌ）、  
 木炭、430 x 286 mm  
 パリ、ルーヴル美術館素描版画室 inv. 711 recto

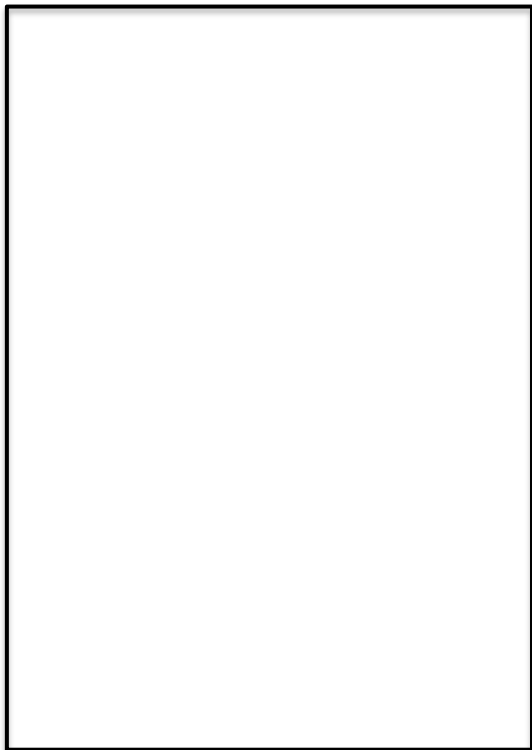


fig. IV.3.59  
 トリーボロ  
 《ネプトゥヌスを配したグロッタの壁面構想》  
 ベルリン、国立版画素描館（fig. III.1.14）

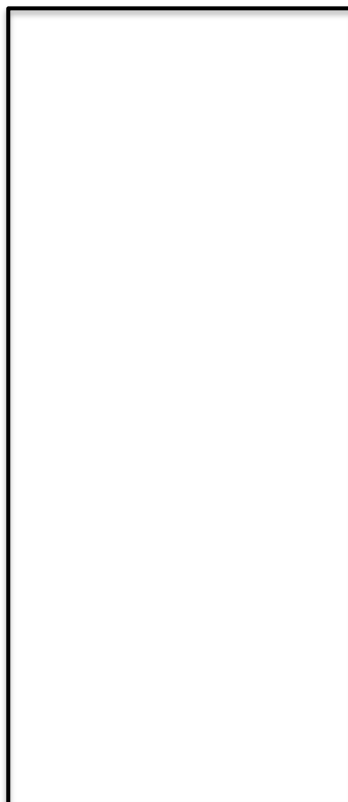


fig. IV.3.60  
 ミケランジェロ  
 《勝利》  
 （fig. III.2.37）



fig. IV.3.61  
フィレンツェ、ヴェッキオ宮殿五百人大広間内観  
（右手の「シエナ戦争」を表す壁画の下・中央にミケランジェロ《勝利》が配されている）

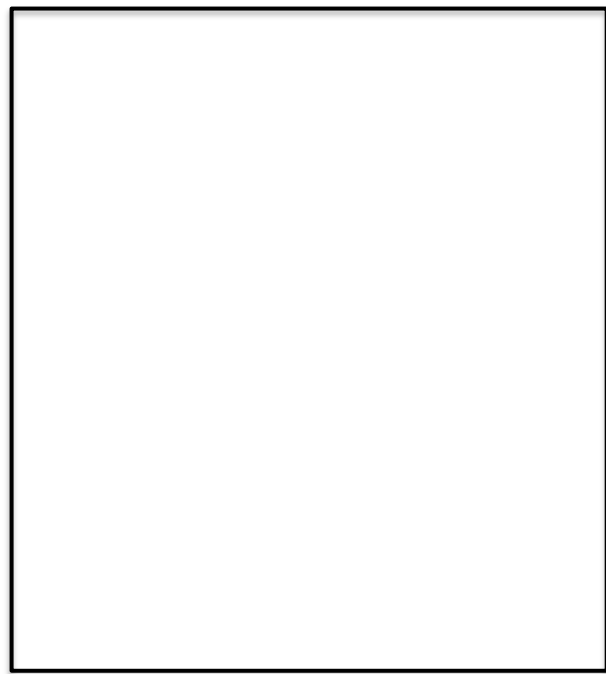


fig. IV.3.62  
ヴァザーリほか《フィレンツェの創建》  
1563-1565年、板にテンペラ、フィレンツェ  
ヴェッキオ宮殿五百人大広間天井画

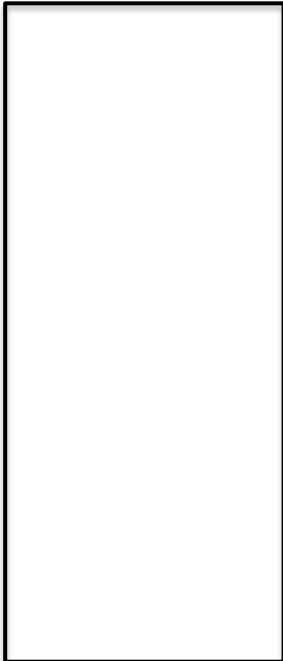


fig. IV.3.63  
アンマンナーティに帰属  
《ネプトゥヌスの噴水の  
ための計画案》  
（fig. III.3.58部分）

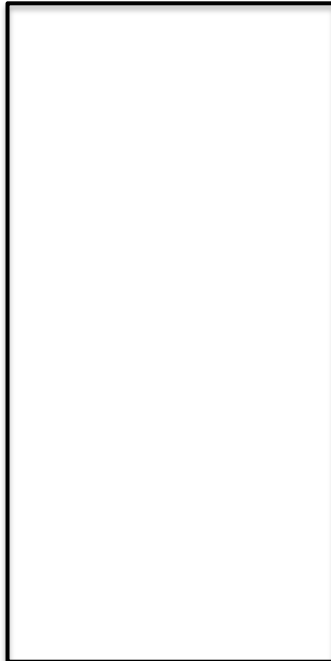


fig. IV.3.64  
アンマンナーティに帰属  
《ネプトゥヌスの噴水のための計画案》  
1560年頃、ロンドン、個人蔵  
（旧ドゥビーニ・コレクション）

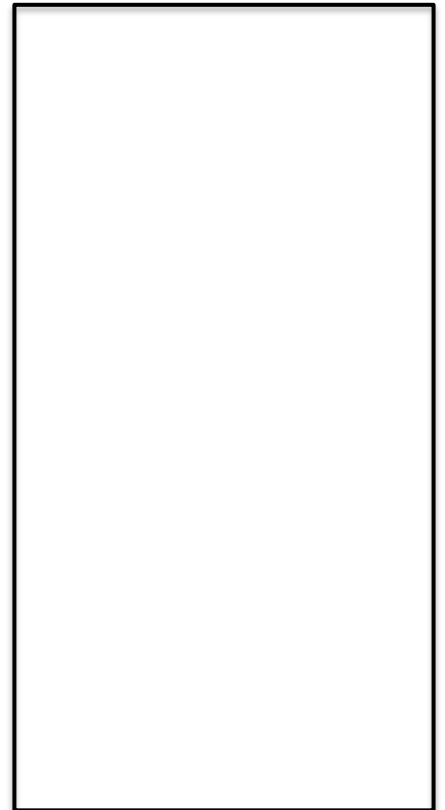


fig. IV.3.65  
アンマンナーティほか  
《ネプトゥヌスの噴水》  
（《ネプトゥヌス》：fig. III.3.2部分）



fig. IV.3.66  
アンマンナーティほか  
《ネプトゥヌスの噴水》  
（《トリトーンたち》：  
fig. III.3.2部分）

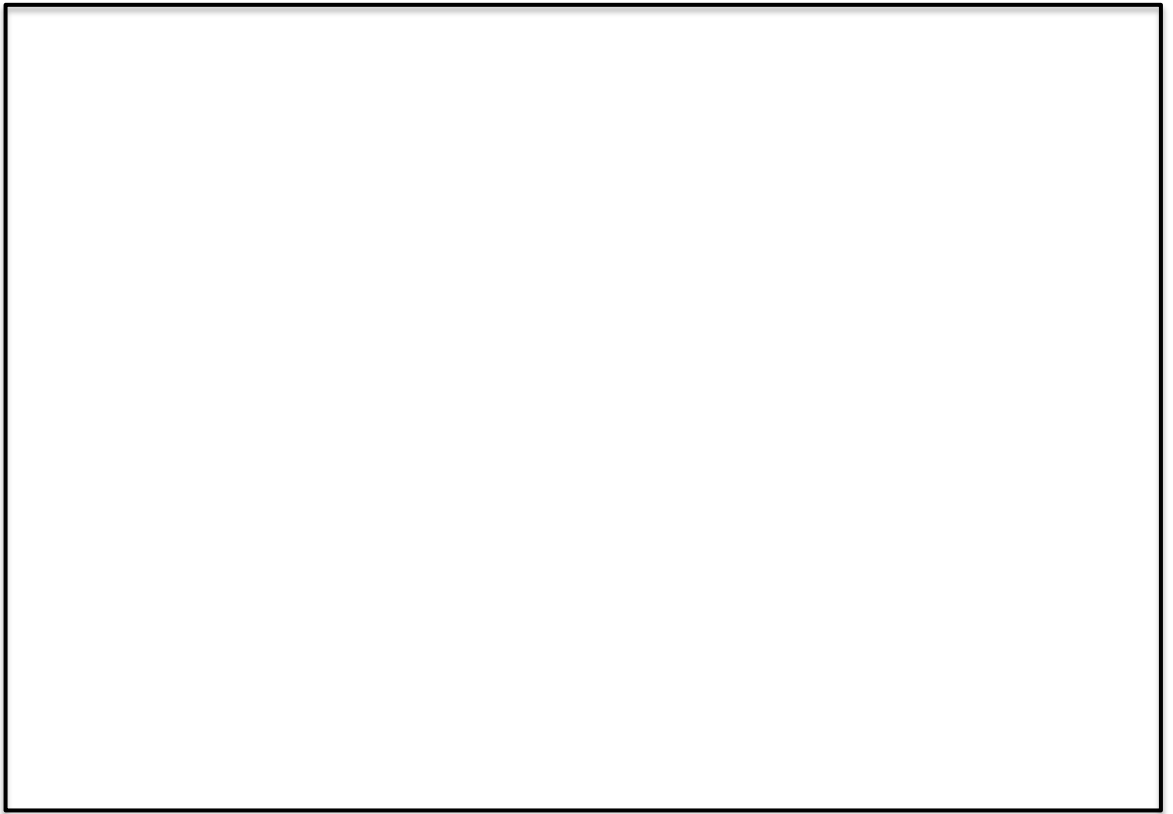


fig. IV.3.67 アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》(fig. III.3.2)

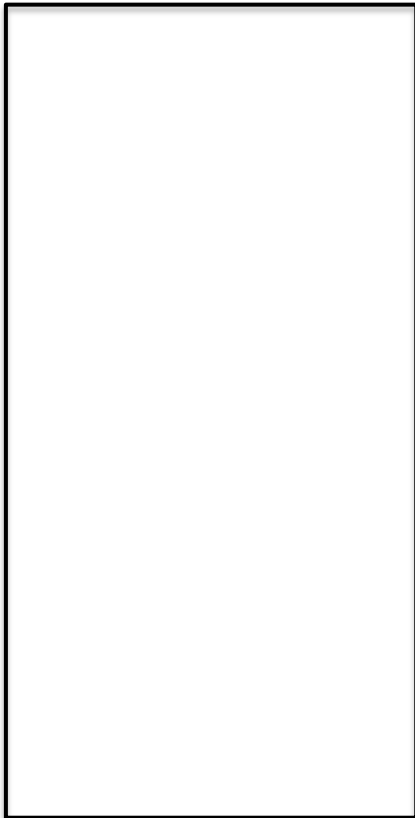


fig. IV.3.68  
アンマンナーティほか  
《ネプトゥヌスの噴水》  
(《ネプトゥヌス》：  
fig. III.3.2部分)

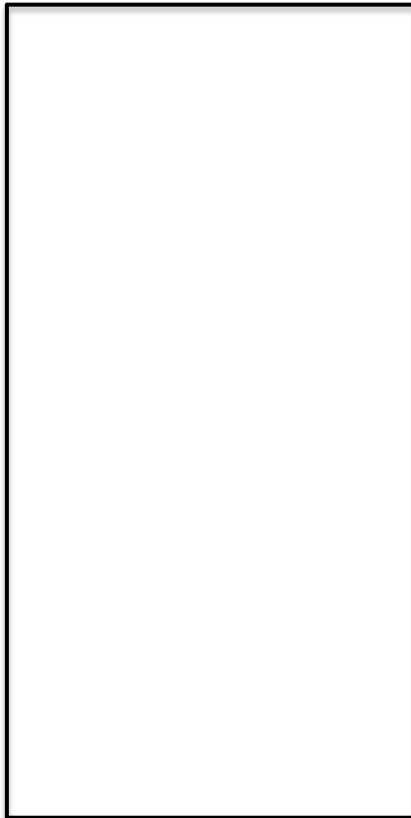


fig. IV.3.69  
ミケランジェロ《ダヴィデ》  
(fig. III.3.28)

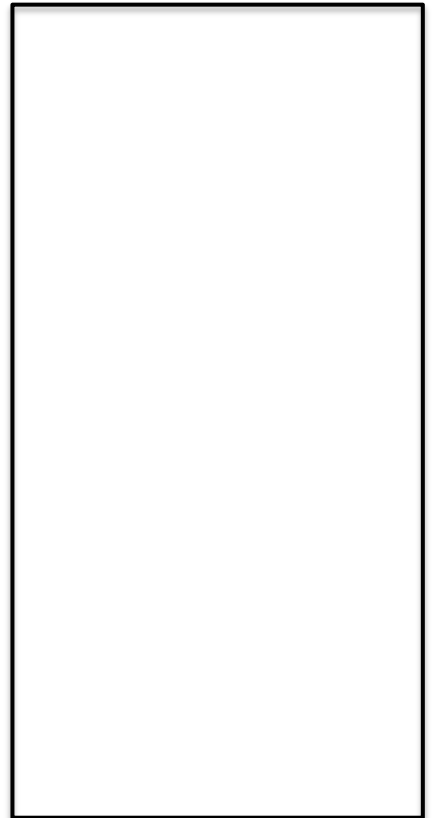


fig. IV.3.70  
バンディネッリ《ヘラクレスとカク  
ス》(fig. III.3.29)

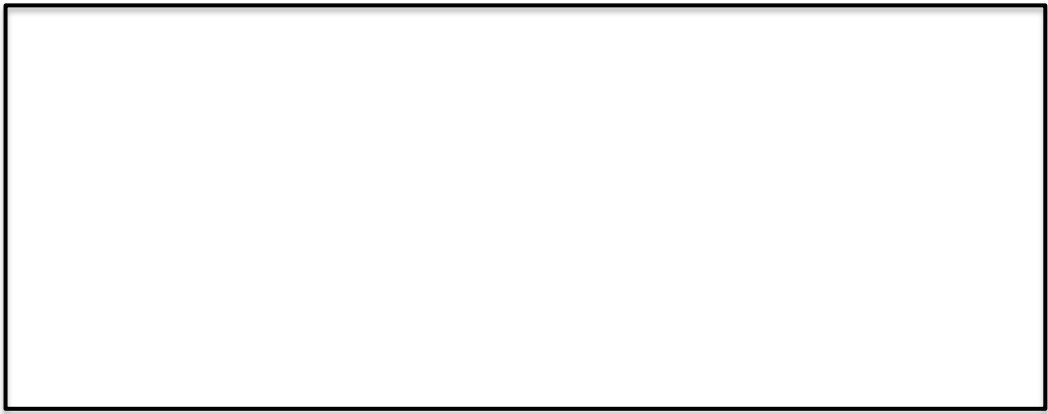


fig. IV.3.71  
ヴェッキオ宮殿正面の現在の配置（立面図：Heikamp 2011, p. 191より部分転載）

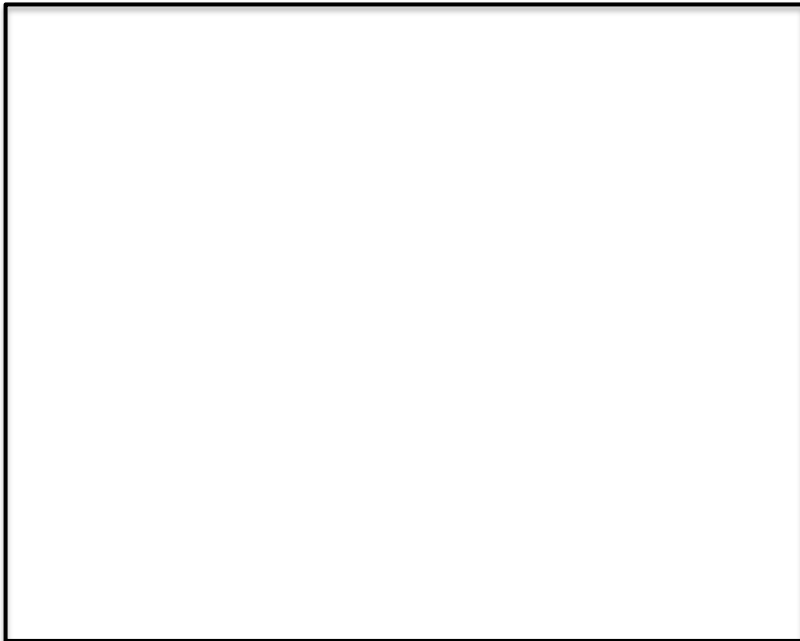


fig. IV.3.72  
ヴェッキオ宮殿正面の現在の  
設置状況

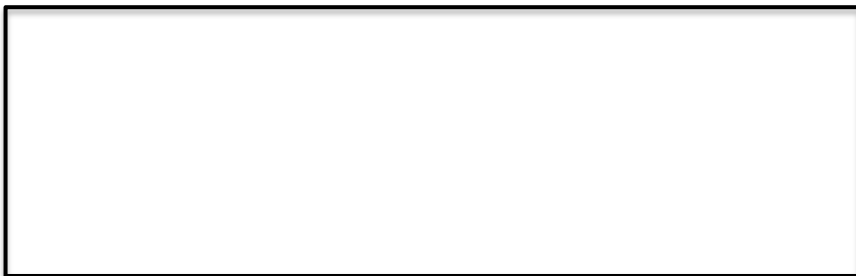


fig. IV.3.73  
アンマンナーティほか  
《ネプトゥヌスの噴水》  
（水槽縁装飾：fig. III.3.2部分）

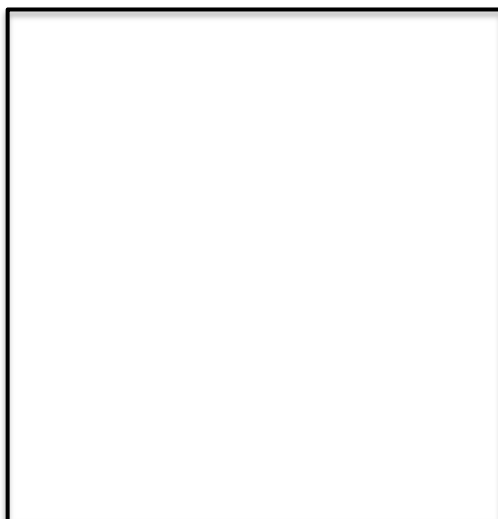


fig. IV.3.74  
アンマンナーティほか  
《ネプトゥヌスの噴水》  
（《ポルキウス》《サテュロス》  
部分：fig. III.3.38）

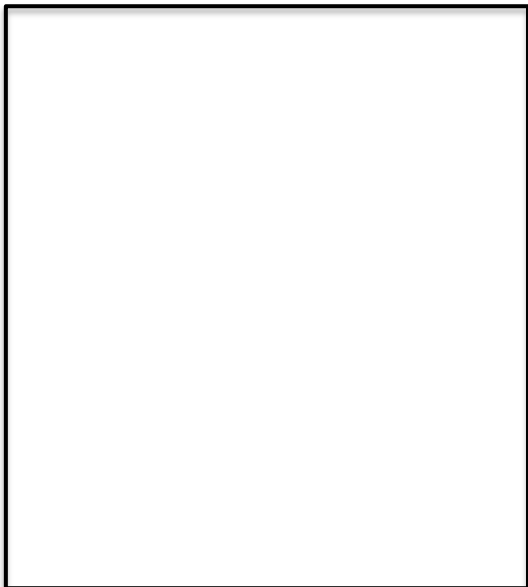


fig. V.1.1  
トリーボロ、ジャンボローニャ他  
《迷宮の噴水》（レプリカにて庭園内に復元）  
大理石、ブロンズ、1538-1572年  
カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトライア  
(fig. I.2.9)

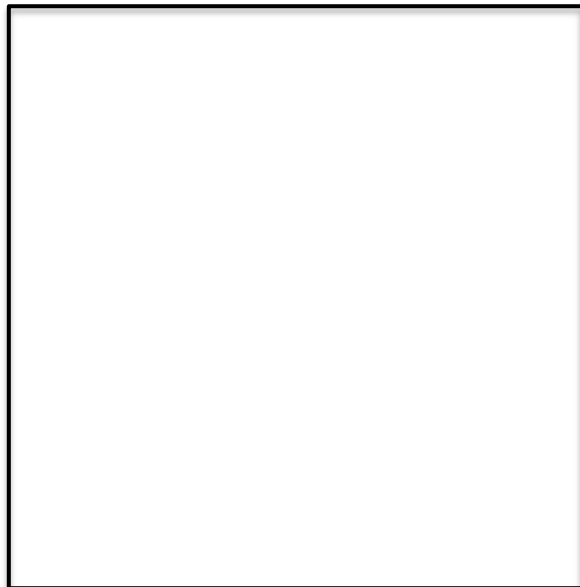


fig. V.1.2  
トリーボロ、アンマンナーティ他  
《ヘラクレスとアンタイオスの大噴水》  
（レプリカにて庭園内に復元）大理石、ブロンズ  
1538-1560年、カステッロ、メディチ家別邸 (fig. I.2.8)

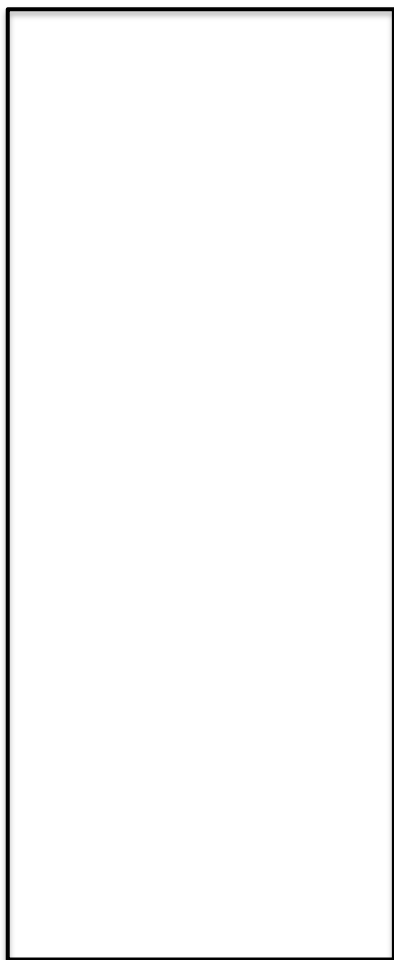


fig. V.1.3  
ジャンボローニャ《フィオレンツァ》  
（正面観）1560-1562年、ブロンズ、125 cm  
カステッロ、メディチ家別邸ラ・ペトライア  
(fig. III.1.38)

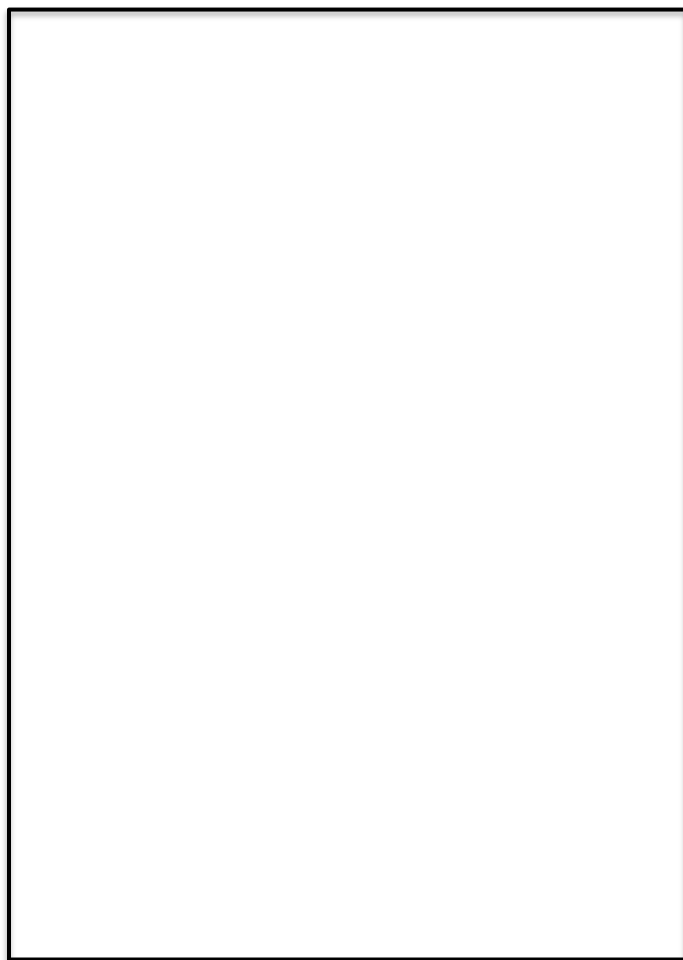


fig. V.1.4  
ジャンボローニャ  
《オケアヌスの噴水》1567-1574年、大理石、花崗岩、  
フィレンツェ、ピッティ宮殿附属ボーボリ庭園 (fig. III.2.3)

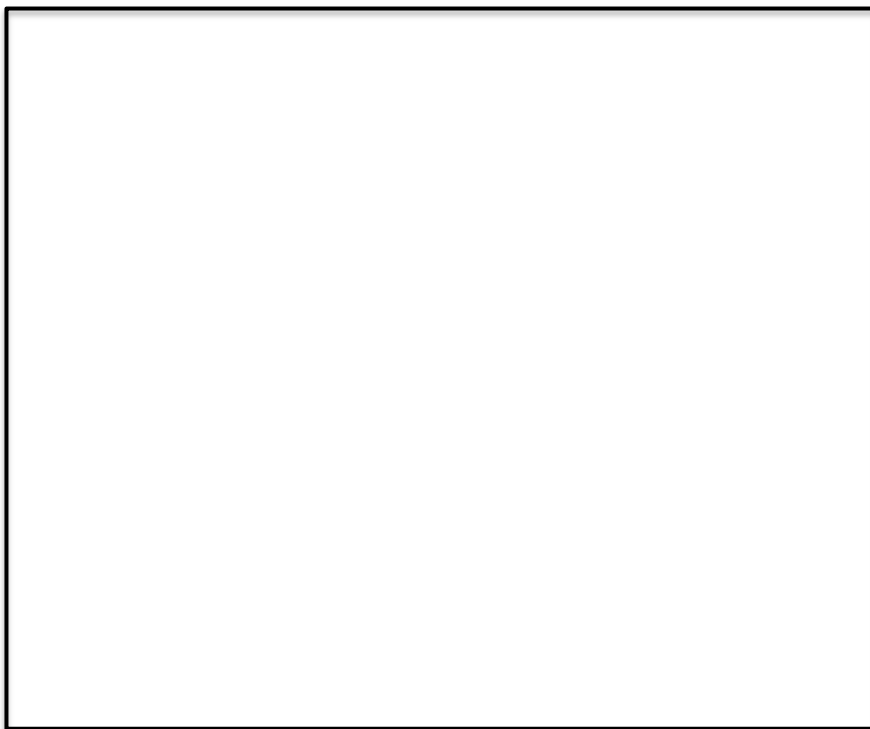


fig. V.1.5

バルトロメオ・アンマンナーティ 《ユノの噴水》

1555-1563年（《ユノ》および2体の《孔雀》は模刻、オリジナルは別途展示。円環は後補）  
大理石、フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館（fig. I.2.27）

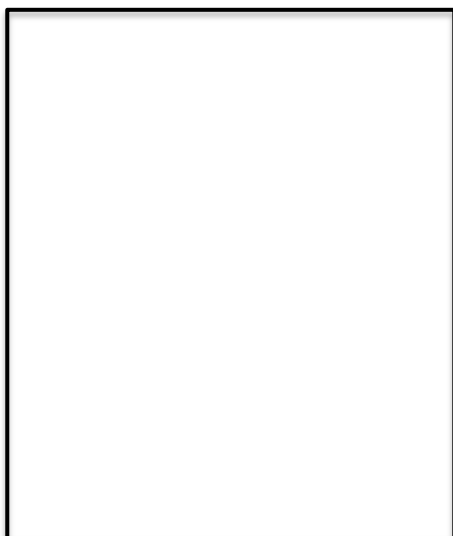


fig. V.1.6

アンマンナーティ 《アルノ河》

大理石、230 cm、フィレンツェ、バルジェッロ  
国立美術館 inv. Depositi, n. 141（fig. III.1.9）

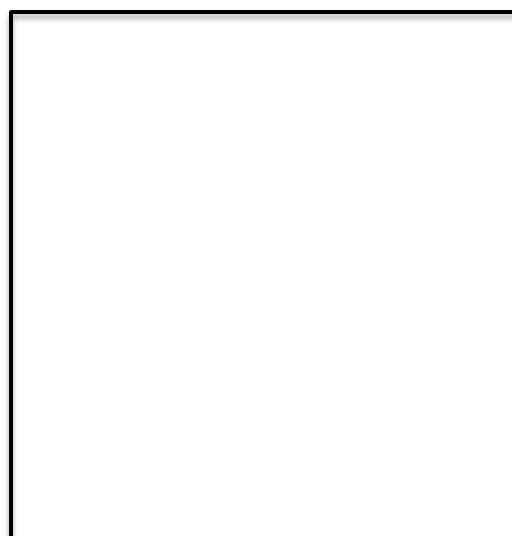


fig. V.1.7

アンマンナーティ 《パルナッソスの泉》

大理石、213 cm、フィレンツェ、バルジェッロ  
国立美術館 inv. Depositi, n. 139（fig. III.1.10）

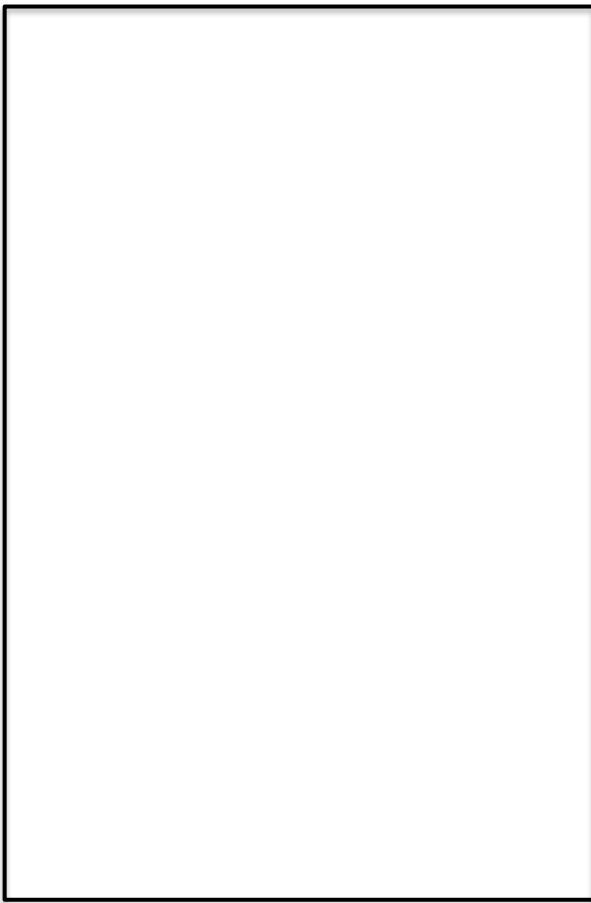


fig. V.1.8  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ  
《ヘラクレスの12功業の噴水の構想》  
1562年頃、433 x 253 mm、紙に尖筆、黒チョーク、  
ニューヨーク、クーパー・ヒューイット美術館  
inv. 1942-36-1 (fig. III.2.8)

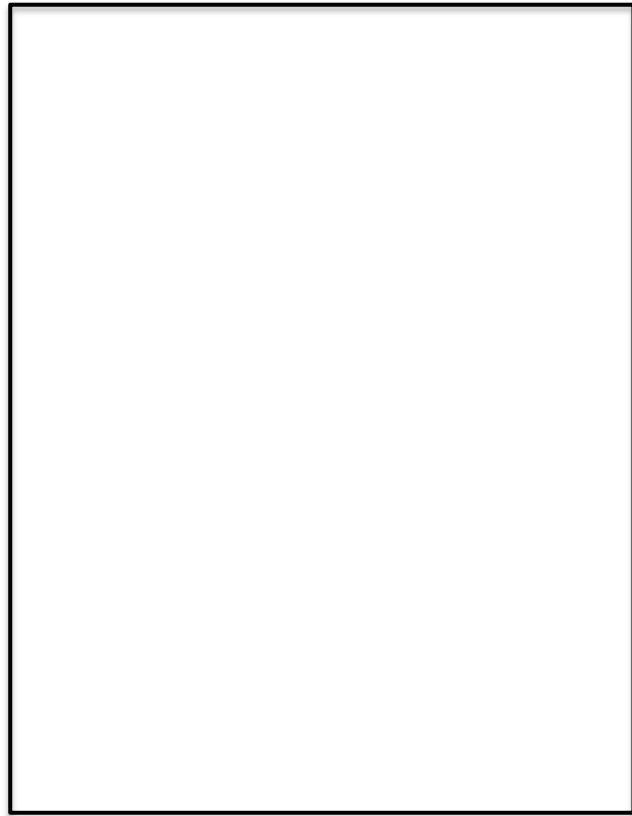


fig. V.1.9  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシに帰属  
《ヘラクレスとケルベロスの犬の泉の構想》  
所在不明（1982年12月までロンドン） (fig. III.2.17)

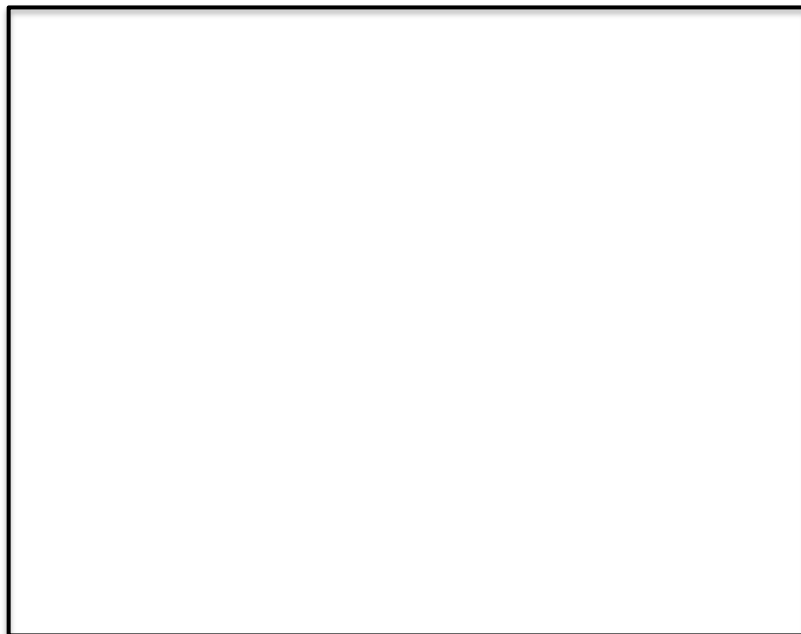


fig. V.1.10  
ヴィンチェンツォ・デ・ロッシ 《ヘラクレスの物語習作》  
1569年以降、350 x 450 mm、紙にペン、褐色インク、  
パリ、ルーヴル美術館 inv. 1573 (fig. III.2.9)

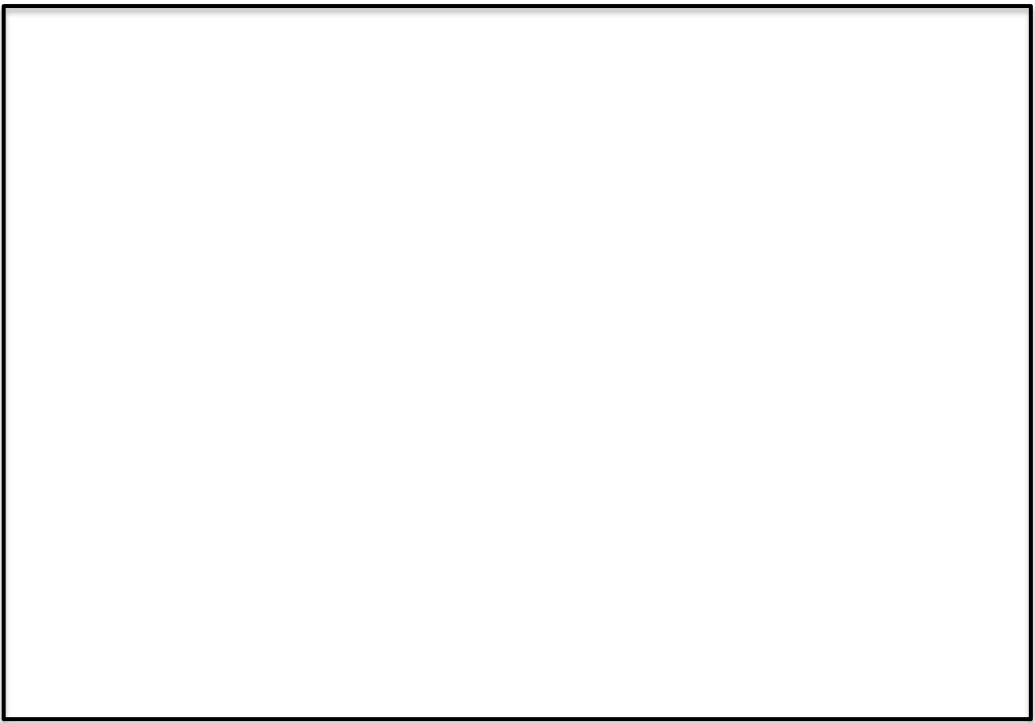


fig. V.1.11  
アンマンナーティほか《ネプトゥヌスの噴水》1560-1575年、大理石、ブロンズ  
フィレンツェ、シニョリーア広場 (fig. III.3.2)

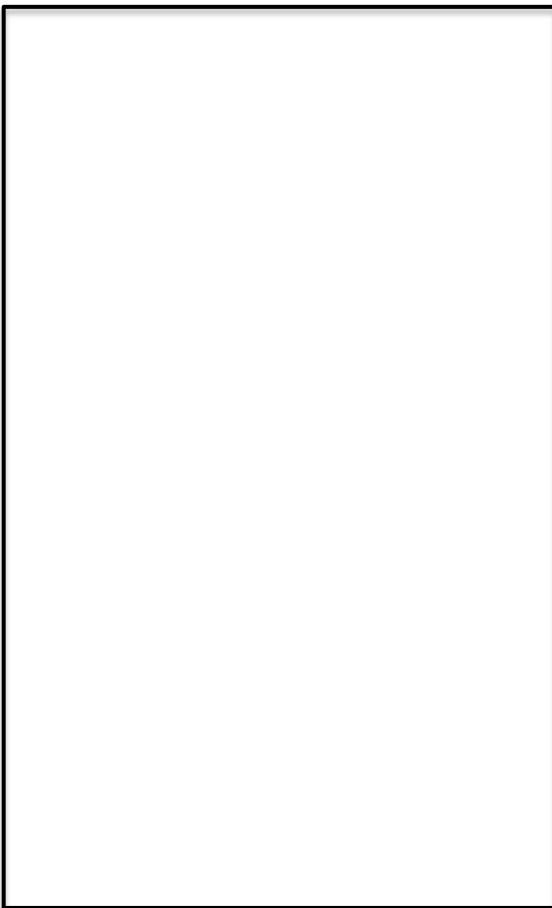


fig. V.1.12 アンマンナーティに帰属  
《ネプトゥヌスの噴水のための計画案》  
1560年頃、ペンと褐色インク、銀尖筆、  
赤色天然石（サンギーヌ）、木炭、430 x 286 mm  
パリ、ルーヴル美術館素描版画室  
inv. 711 recto (fig. III.3.8)

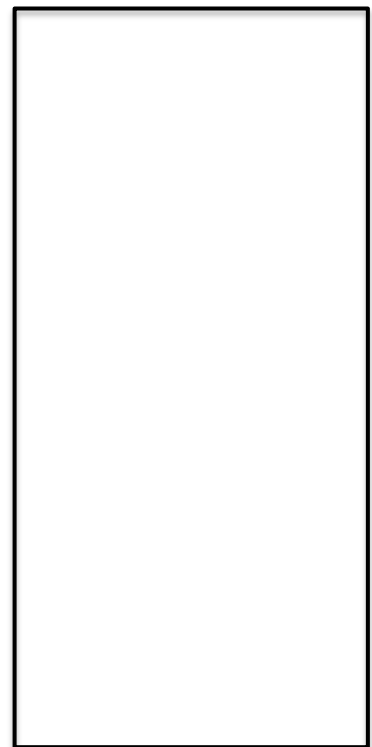


fig. V.1.13  
アンマンナーティに帰属  
《ネプトゥヌスの噴水のための計画案》  
1560年頃、ロンドン、個人蔵  
(旧ドゥビーニ・コレクション) (fig. III.3.9)



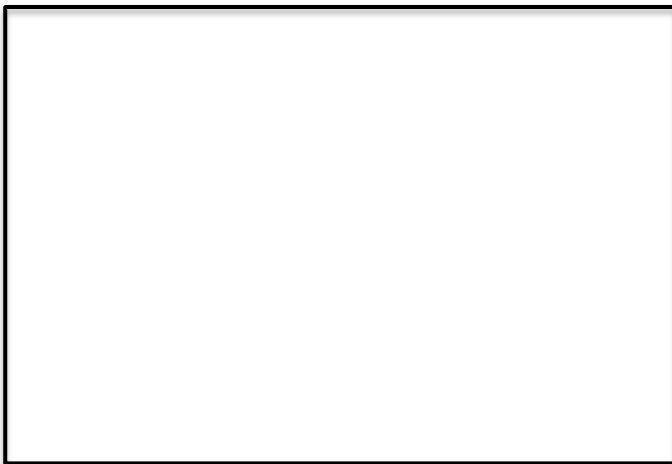


fig. V.2.1  
エネア・ヴィーコ  
《バンディネッリのアカデミー》  
1561-1562年頃、エングレーヴィング、  
306 x 479 mm、  
ボストン市立美術館 inv. 1976.611

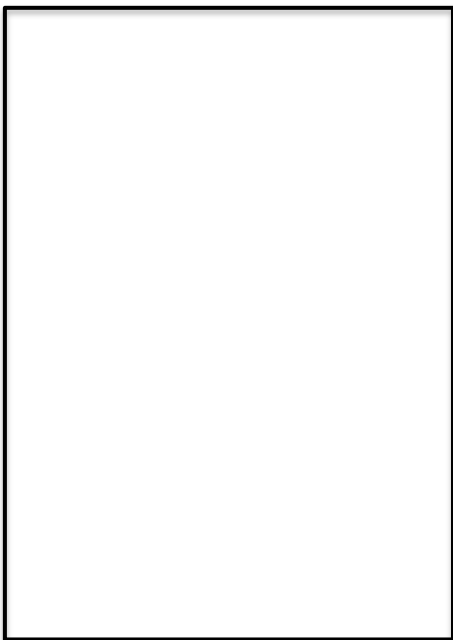


fig. V.2.2  
ミケランジェロ 《ヌムール公ジュリアーノ墓碑》  
大理石、1520-1534年  
フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室

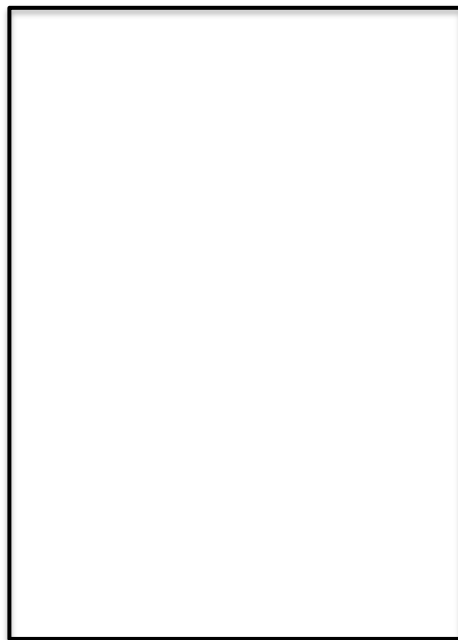


fig. V.2.3  
ミケランジェロ 《ウルビーノ公ロレンツォ墓碑》  
大理石、1520-1534年  
フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室

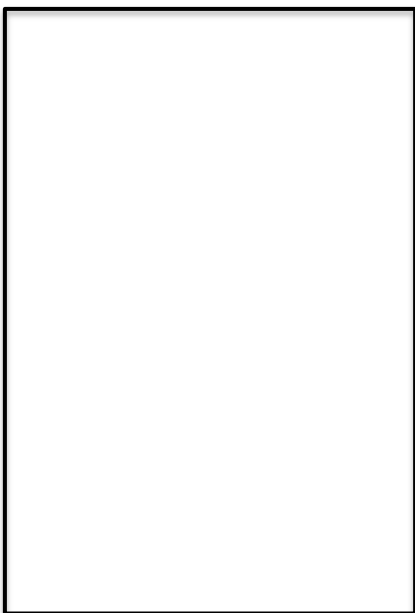


fig. V.2.4  
ミケランジェロ 《ロレンツォ・イル・マニ  
フィコとジュリアーノ・デ・メディチ複合墓碑》  
大理石、1520-1534年  
フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室



fig. V.2.5  
ジョヴァンニ・アンジェロ・モントルソリ  
《聖コスマス》 1533-1537/1538年、大理石  
フィレンツェ、サン・ロレンツォ聖堂新聖具室

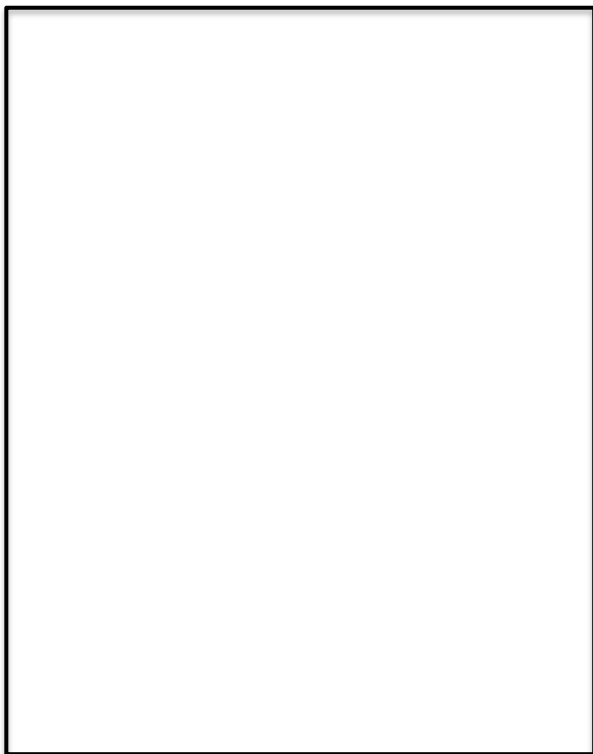


fig. V.2.6  
バンディネッリおよび工房《レオ10世墓碑》  
大理石、1536-1541年、ローマ、サンタ・マリア・  
ソプラ・ミネルヴァ聖堂内陣

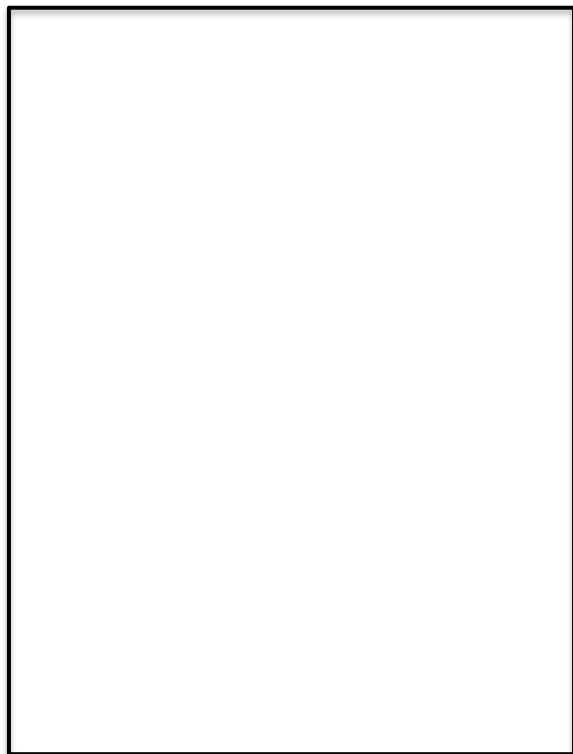


fig. V.2.7  
バンディネッリおよび工房《クレメンス7世墓碑》  
大理石、1536-1541年、ローマ、サンタ・マリア・  
ソプラ・ミネルヴァ聖堂内陣

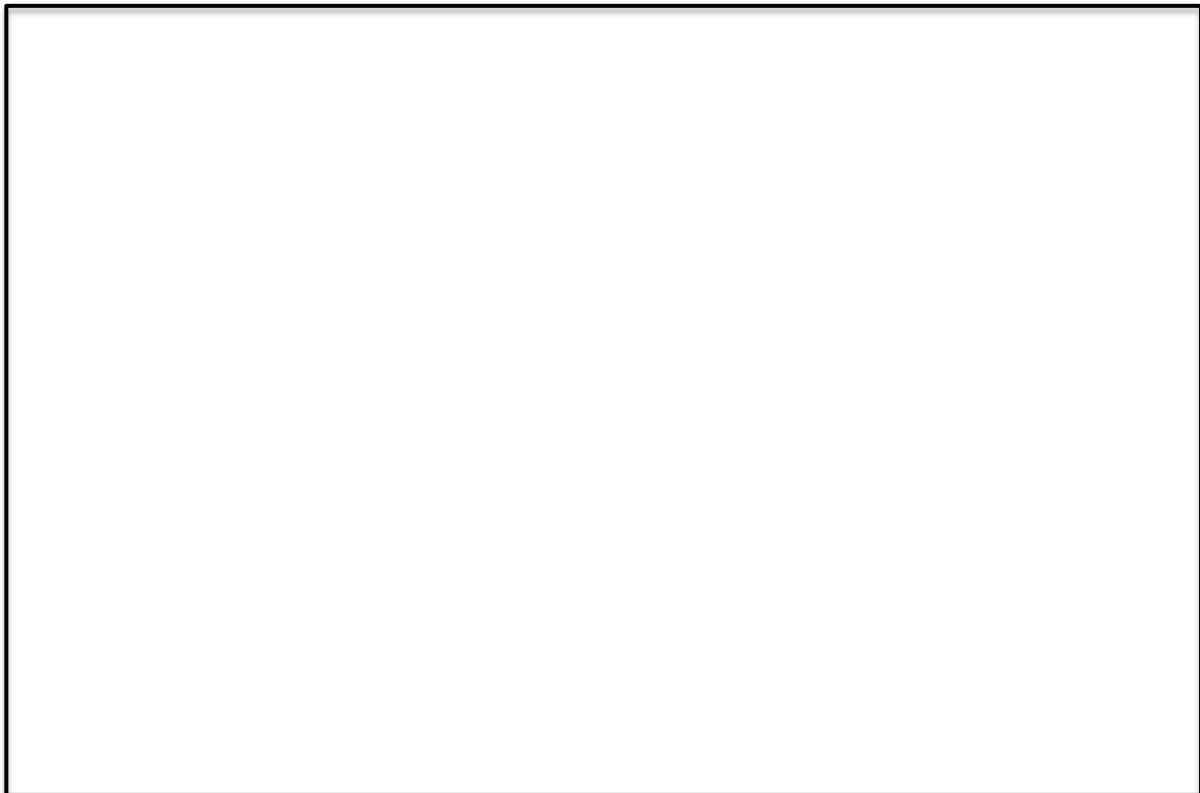


fig. V.2.8  
「画家の礼拝堂」（聖ルカ礼拝堂）内観、1570-1575年  
フィレンツェ、サンティッシマ・アンヌンツィアータ聖堂

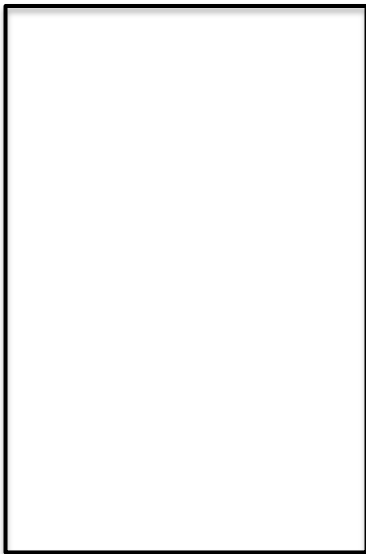


fig. V.2.9  
《マルクス・アウレリウス騎馬像》  
175年頃、ブロンズ、4.24 m、  
ローマ、カピトリーノ美術館



fig. V.2.10  
ドナテッロ《ガットメラータ騎馬像》  
1453年、ブロンズ、パドヴァ、サント広場

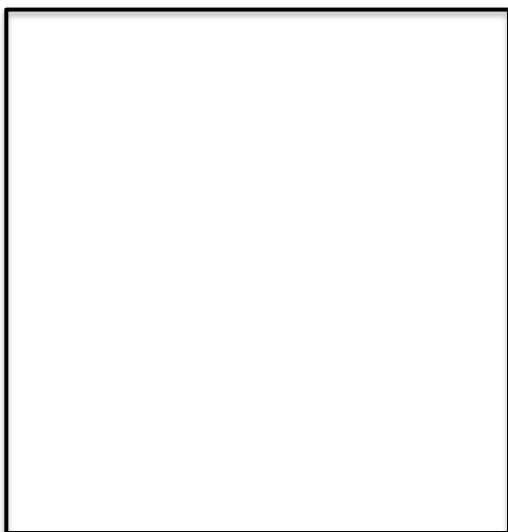


fig. V.2.11  
ジャンボローニャ《コジモ1世騎馬像》  
1587-1594年、ブロンズ、  
フィレンツェ、シニョリーア広場

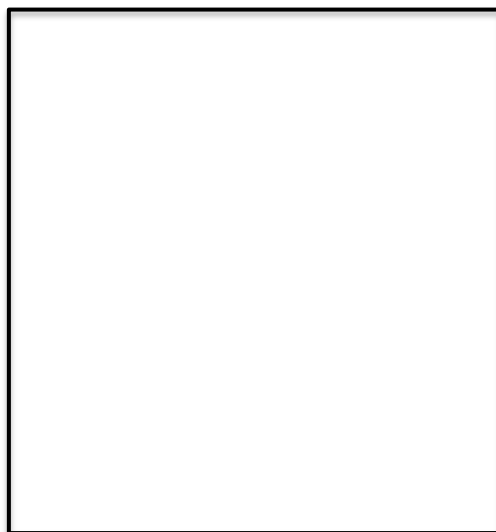


fig. V.2.12  
ジャンボローニャ、ピエトロ・タッカ  
《フェルディナンド1世騎馬像》1602-1607年、  
ブロンズ、フィレンツェ、サンティッシマ・  
アンヌンツィアータ聖堂広場

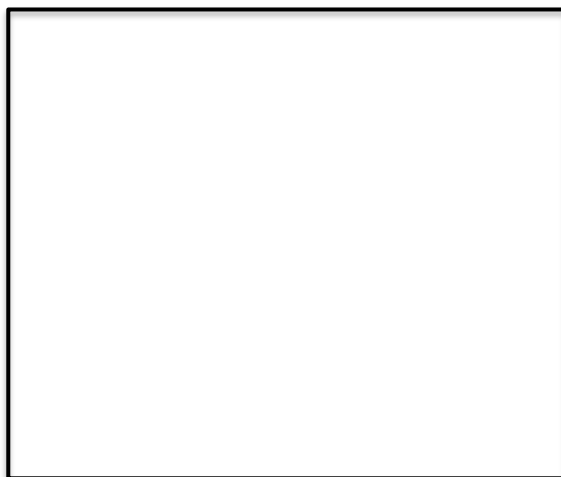


fig. V.2.13 「カノプス」外観、118-138年頃、  
ティヴォリ、ヴィッラ・アドリアーナ



fig. 1  
フランチェスコ・カミッリアーニ  
《プレトリアの噴水（ルイス・デ・  
トレドのフィレンツェの庭園装飾を  
部分的に移設、再構成）》1574年移設  
パレルモ、プレトリア広場



fig. 2  
レオナルド・ダ・ヴィンチ  
《ネプトゥヌスと海馬》  
1504年以前、紙に黒チョーク、251 x 392 mm  
ウィンザー城王室図書館 inv. RL 12570



fig. 3  
バッチョ・バンディネッリ 《ネプトゥヌス》  
1554-60年頃、紙に黒鉛筆、23 x 17.4 cm  
パリ、ルーヴル美術館 inv. 122 recto

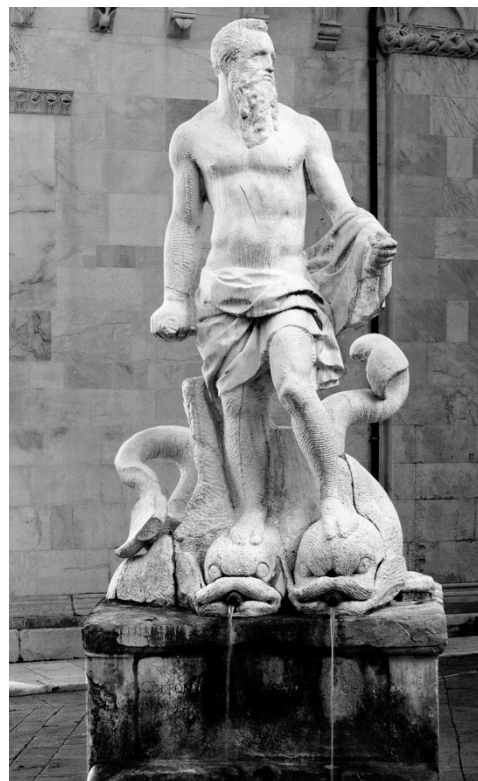


fig. 4  
バッチョ・バンディネッリ  
《ネプトゥヌスとしてのアンドレア・ドーリア》  
1538年頃、大理石、カッラーラ、大聖堂広場



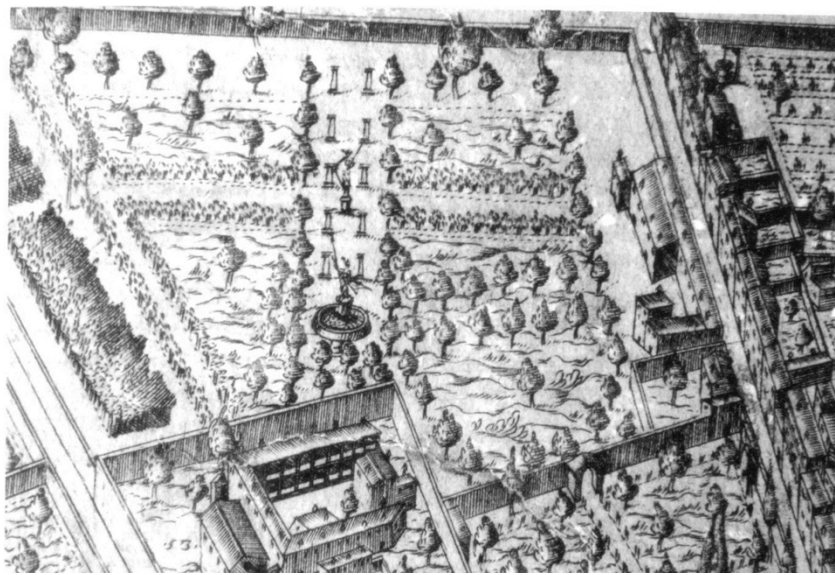


fig. 5  
ステファノ・ボンシニョーリ  
《フィレンツェ地図》  
(ルイス・デ・トレドの庭園部分)  
1584年、フィレンツェ、ウフィツィ  
美術館版画素描室 inv. 21918 ST. SC.

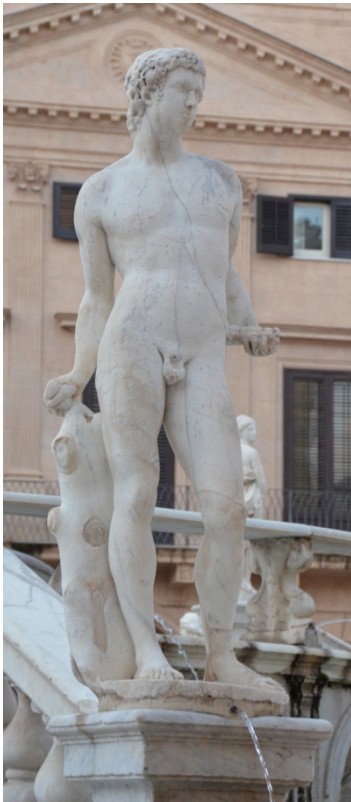


fig. 6  
フランチェスコ・カミッリアーニ  
《アポロン》大理石  
パレルモ、プレトーリア広場



fig. 7  
フランチェスコ・カミッリアーニ  
《オルフェウス》大理石  
パレルモ、プレトーリア広場

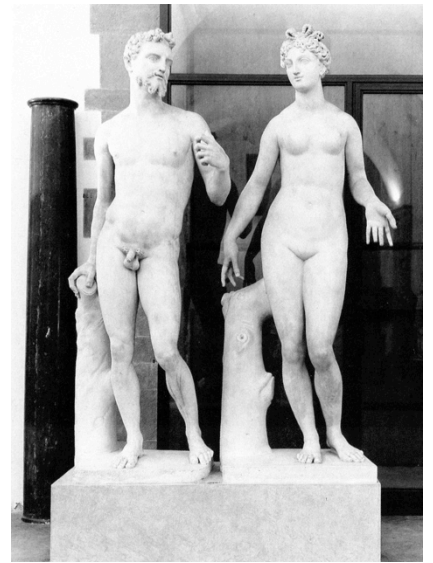


fig. 8  
バッチョ・バンディネッリ  
《アダムとエヴァ》1552年、大理石  
フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館

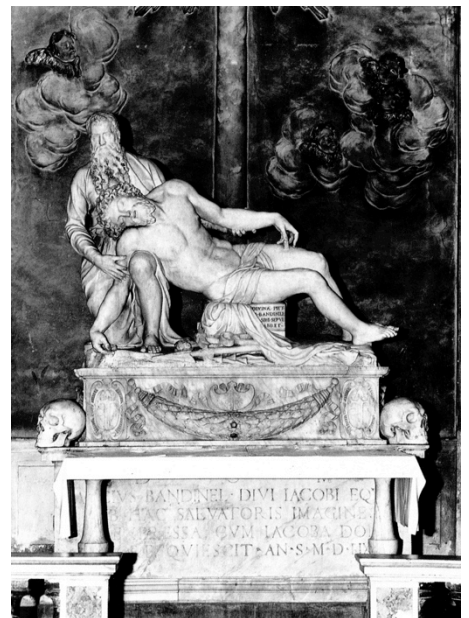


fig. 9  
バッチョ・バンディネッリ 《ピエタ》  
1554年、大理石  
フィレンツェ、バルジェッロ国立美術館





fig. 10  
 バッチョ・バンディネッリ  
 《ヘラクレスとカクス》大理石、1534年  
 フィレンツェ、シニョリーア広場



fig. 11  
 フランチェスコ・カミッリアーニ  
 《トリトーン》大理石  
 パレルモ、プレトーリア広場



fig. 12  
 ミケランジェロ・ブオナローティ  
 《ダヴィデ》1501-04年、大理石  
 フィレンツェ、アカデミア美術館



【左】 fig. 13  
 バッチョ・バンディネッリ  
 《ライオンの頭部》  
 (fig. 10の台座部分) 1534年、大理石  
 フィレンツェ、シニョリーア広場



【右】 fig. 14  
 フランチェスコ・カミッリアーニ  
 《ライオンの頭部》  
 (fig. 10の下層部分) 大理石  
 パレルモ、プレトーリア広場

【左】 fig. 15  
 バッチョ・バンディネッリ  
 《オオカミの頭部》  
 (fig. 10の台座部分) 1534年、大理石  
 フィレンツェ、シニョリーア広場

【右】 fig. 16  
 フランチェスコ・カミッリアーニ  
 《の頭部》  
 (fig. 1の下層部分) 大理石  
 パレルモ、プレトーリア広場

